# 福岡県の中近世城館跡Ⅱ

## ―筑前地域編２―

福岡県文化財調査報告書　第 250 集



2015

福岡県教育委員会

# 福岡県の中近世城館跡Ⅱ

## ―筑前地域編２―

福岡県文化財調査報告書　第 250 集

# 序

今から 500 年ほど前、中世から近世初期にかけて、全国各地に数多くの城館が築かれました。福岡県も同様に、著名な山城から無名の小砦に至るまで非常に多くの城館が造られ、その数は現在知られているもので 1,000 箇所を超えています。

本県ではこれまで、埋蔵文化財包蔵地の詳細分布調査や各自治体史誌の編纂事業等をとおして、これら中近世城館遺跡の把握や周知を進めてまいりました。また、任意団体や個々の研究者によって踏査や縄張り図の作成等が行われ、個々の存在と歴史的重要性が次第に明らかになってきました。

一方、遺跡の詳細を未だ把握できていない中近世城館遺跡も多く存在しており、近年の開発事業等によりやむを得ず記録保存の対象となった事例も少なくありません。

こうした現状に対し、本県教育委員会では、県内に所在する全ての中近世城館遺跡を対象に総合的な緊急分布調査に取り組むこととし、平成 24 年度から調査に着手しました。本調査は遺跡の位置や時代、歴史的背景を可能な限り把握するとともに成果の体系的な整理と評価を行い、遺跡の周知化と保存活用に向けた理解を促進することを目的としています。

この度、旧筑前国北部の調査成果を取りまとめることができました。今後も県内各域について報告書を取りまとめ、刊行していく予定です。

本調査の実施並びに本書の刊行に当たり、調査指導委員会の委員の皆様、関係市町村をはじめ、多くの方々に多大なる御協力を得ましたことに心より感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月 31 日

福岡県教育委員会教育長

城戸　秀明

# 例　言

1　本書は、福岡県教育委員会が国庫補助を受けて実施した福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査事業の報告書第２集であり、福岡県文化財調査報告書第 250 集にあたる。

2　本事業は、県内に所在する中世・近世の城館跡および関連遺跡を対象とした悉皆分布調査事業であり、平成 24 年度より開始し、28 年度（予定）まで調査を実施し報告書を刊行する計画である。

3　本書では、平成 24 年度から 26 年度にかけて実施した筑前地域の北部（旧郡の鞍手郡（宮若市・直方市・鞍手郡鞍手町・小竹町・北九州市八幡西区（一部））・遠賀郡（北九州市八幡西区（一部）・八幡東区・戸畑区・若松区・中間市・遠賀郡遠賀町・芦屋町・水巻町・岡垣町）・宗像郡（宗像市・福津市）・糟屋郡（古賀市・糟屋郡新宮町・粕屋町・久山町・篠栗町・須恵町・宇美町・志免町・福岡市東区）・席田郡（福岡市博多区（一部））・那珂郡（福岡市博多区（一部）・中央区・城南区（一部）・南区・春日市・筑紫郡那珂川町）・早良郡（福岡市城南区（一部）・早良郡・西区（一部））・怡土郡（福岡市西区（一部）・糸島市（一部））・志摩郡（福岡市西区（一部）・糸島市（一部））の旧９郡、10 市 14 町に所在する約 350 箇所の中世・近世の城館跡、城館伝承地、城館関連遺跡を報告対象とした。

4　調査については福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査指導委員会の指導と承認のもとに実施した。

5　本書に掲載した縄張り図および遺構実測図は、事務局で作成したもの以外は全て出典を明示し、縄張り図については作成者もしくは作成機関名を明示した。

　事務局にて作成した縄張り図の作成および製図は岡寺　良（九州歴史資料館）が担当した。

6　本書に掲載した写真は明示したもの以外は事務局にて撮影したものであり、岡寺が担当した。

7　本書の執筆分担は以下のとおりである。

Ⅰ　今井涼子
（福岡県教育庁文化財保護課）
Ⅱ　岡寺
Ⅲ　岡寺
Ⅳ　岡寺
Ⅴ　岡寺
Ⅵ　酒井芳司（九州歴史資料館）
一瀬　智
（福岡県立アジア文化交流センター）
伊津見孝明
Ⅶ　岡寺

8　本書の編集は岡寺が担当した。



# 目　次


頁

Ⅰ　はじめに …… 1

1　調査に至る経過 …… 1

2　調査の経過 …… 1

3　調査の組織 …… 2

Ⅱ　調査の方法 …… 4

1　調査の進め方と方法 …… 4

2　鞍手郡城館史料『筑前要領大友家戦史』について …… 6

Ⅲ　対象地域城館一覧 …… 10

Ⅳ　対象地域城館分布図 …… 50

Ⅴ　個別城館報告 …… 95

1　中世城館 …… 96

①鞍手郡 …… 96

②遠賀郡 …… 125

③宗像郡 …… 146

④糟屋郡 …… 163

⑤席田郡 …… 182

⑥那珂郡 …… 183

⑦早良郡 …… 195

⑧怡土郡 …… 205

⑨志摩郡 …… 213

2　近世城館 …… 220

3　城館等伝承地 …… 236

4　城館関連遺跡 …… 237

Ⅵ　城館関連文献史料一覧 …… 274

Ⅶ　城館関連地名一覧 …… 300

索　引 …… 311

抄録

# 挿 図 目 次


頁

第１図　『鞍手郡誌』掲載『筑前要領大友家戦史』文中の城館一覧の掲載部分 …… 7
第２図　『筑前要領抜』表紙（直方市立図書館蔵） …… 7
第３図　『筑前要領抜』掲載の城館一覧（直方市立図書館蔵・上は読み下し文）…… 8
第４図　『天文十一年壬寅三月　大友宗麟若宮地方攻略』（直方市立図書館蔵）
（右：表紙・左：巻末（年紀記載部分）） …… 9
第５図　熊ヶ峯城畝状空堀群 …… 96
第６図　熊ヶ峯城縄張り図（事務局作成） …… 96
第７図　草場城（湯原所在）縄張り図（藤野正人作成・提供） …… 97
第８図　草場城（湯原所在）遠景 …… 98
第９図　地蔵山城遠景 …… 98
第 10 図　地蔵山城縄張り図（事務局作成） …… 98
第 11 図　篠城（城内最高所の曲輪） …… 99
第 12 図　草場城（乙野所在）横堀（横堀部分に水が溜っている） …… 99
第 13 図　篠城・（乙野）草場城縄張り図（事務局作成） …… 100
第 14 図　立林城縄張り図（事務局作成） …… 101
第 15 図　稲光城縄張り図（事務局作成） …… 102
第 16 図　稲光城遠景 …… 102
第 17 図　稲光城堀切 …… 102
第 18 図　黒丸城縄張り図（事務局作成） …… 103
第 19 図　黒丸城遠景 …… 103
第 20 図　黒丸城堀切（南側部分・左上が主郭） …… 103
第 21 図　平山城曲輪群Ⅰの堀切 …… 104
第 22 図　平山城曲輪群Ⅲの帯曲輪 …… 104
第 23 図　平山城縄張り図（事務局作成） …… 105
第 24 図　丸尾城から眺める若宮盆地 …… 106
第 25 図　丸尾城南側堀切 …… 106
第 26 図　丸尾城測量図（文献 65） …… 106
第 27 図　宮永城遠景 …… 107
第 28 図　宮永城縄張り図（文献 210・藤野正人作成） …… 107
第 29 図　黒巣城堀切 …… 108
第 30 図　黒巣城縄張り図（事務局作成） …… 108
第 31 図　高丸城（堀切から続く帯曲輪） …… 108
第 32 図　高丸城縄張り図（事務局作成） …… 109
第 33 図　岡田城遠景 …… 109
第 34 図　岡田城縄張り図（事務局作成） …… 109
第 35 図　尾園本城縄張り図（事務局作成） …… 110
第 36 図　山下城堀切 …… 111

第 37 図　山下城縄張り図（事務局作成）……111
第 38 図　茶臼山城縄張り図（事務局作成）……111
第 39 図　茶臼山城遠景 ……112
第 40 図　茶臼山城堀切Ａ ……112
第 41 図　鬢鏡山城縄張り図（事務局作成）……112
第 42 図　鬢鏡山城（左）・金生城（右）遠景 ……113
第 43 図　金生城縄張り図（藤野正人氏作成・提供）……113
第 44 図　龍ヶ岳城・祇園岳城遠景 ……114
第 45 図　龍ヶ岳城縄張り図（文献 196・片山安夫作成）……114
第 46 図　祇園岳城縄張り図（中村修身作成・提供）……115
第 47 図　祇園岳城堀切・畝状空堀群 ……115
第 48 図　鷹取城遠景（雲取山山頂から）……116
第 49 図　鷹取城縄張り図（文献 180・木島孝之作成）……116
第 50 図　鷹取城測量図（文献 62・1/3,500）……117
第 51 図　鞍手郡頓野村鷹取山古城図（部分・国立公文書館蔵）……117
第 52 図　鷹取城主郭部測量図（文献 62 掲載図を一部改変して事務局作成）……118
第 53 図　鷹取城出土鬼板瓦（文献 60）……118
第 54 図　鷹取城発掘調査状況写真（直方市教育委員会提供）
（１：西口城門、２：南口城門、３・４：礎石建物）……118
第 55 図　雲取山城（山頂部）縄張り図（事務局作成）……119
第 56 図　雲取山城・山ノ田城遠景 ……119
第 57 図　雲取山城（標高 444m 地点）堀切 ……119
第 58 図　雲取山城（標高 444m 地点）縄張り図（事務局作成）……120
第 59 図　山ノ田城堀切 ……120
第 60 図　山ノ田城縄張り図（事務局作成）……121
第 61 図　髻砦縄張り図（事務局作成）……121
第 62 図　音丸城縄張り図（文献 57 掲載図面と現地調査を元に事務局作成）……122
第 63 図　音丸城横堀（現存）……122
第 64 図　音丸城横堀（1976 年調査）（文献 57 から転載）……122
第 65 図　剣岳城縄張り図（文献 209・岡寺　良作成）……123
第 66 図　城腰山城遠景 ……124
第 67 図　城腰山城縄張り図（事務局作成）……124
第 68 図　園田浦城遠景（昭和 42 年頃・文献 67 から転載）……125
第 69 図　破壊前の園田浦城縄張り図（文献 31・中村修身作成）……125
第 70 図　園田浦城測量図
（文献 70 掲載図に文献 67 掲載図面と事務局作成図面を合成して事務局作成）……126
第 71 図　園田浦城北郭全景（平成８年）（北九州市教育委員会提供）……127
第 72 図　園田浦城北郭堀切（平成８年）（北九州市教育委員会提供）……127
第 73 図　園田浦城本郭検出の整地層（平成８年）（北九州市教育委員会提供）……127
第 74 図　園田浦城本郭からみた帆柱山城・花尾城（右端の森が南郭の丘陵）……127

第 75 図　浅川城遠景（手前は遠賀川）……128
第 76 図　浅川城縄張り図（北九州市立自然史・歴史博物館作成・提供）……128
第 77 図　畑城位置図（1/25,000「徳力」を一部改変）
（大正 11 年陸地測量部作成・福岡県立図書館提供）……129
第 78 図　畑城・伝二ノ丸地点縄張り図（事務局作成）……129
第 79 図　竹尾城縄張り図（文献 11・村上勝郎・田中賢二作成）……130
第 80 図　市瀬城縄張り図（北九州市自然史・歴史博物館作成・提供）……130
第 81 図　別当山城測量図（文献 68）……131
第 82 図　帆柱山城石垣……131
第 83 図　帆柱山城堀切……131
第 84 図　帆柱山城縄張り図（文献 11・村上勝郎作成）……132
第 85 図　花尾城縄張り図（文献 178・八巻孝夫作成）……133
第 86 図　遠賀郡藤田村花尾山古城図（部分・国立公文書館蔵）……133
第 87 図　花尾城曲輪Ⅰの石垣……134
第 88 図　花尾城曲輪Ⅴの石垣……134
第 89 図　花尾城曲輪Ⅱ北側斜面の石垣遺構（上：「井戸」部分・下：登り石垣部分）……134
第 90 図　茶臼山城南西側にある御大典記念碑（左）と土塁状遺構（右）……135
第 91 図　茶臼山城縄張り図（文献 10・廣崎篤夫作成）……135
第 92 図　花房山城測量図（文献 11・中村修身作成）……136
第 93 図　楽丸城縄張り図（北九州市立自然史・歴史博物館作成・提供）……136
第 94 図　小敷城測量図（文献 71）……137
第 95 図　小敷城遠景（発掘調査時・北九州市教育委員会提供）……137
第 96 図　小敷城堀切（発掘調査時・北九州市教育委員会提供）……137
第 97 図　古賀城遠景……138
第 98 図　古賀城縄張り図（事務局作成）……138
第 99 図　古賀城石垣（後世に積まれたもの）……138
第 100 図　古賀城石垣（南側斜面）（城郭に伴うものか）……138
第 101 図　猫城遠景……139
第 102 図　猫城縄張り図（事務局作成）……139
第 103 図　城之越城遠景……140
第 104 図　城之越城位置図（1/25,000「折尾」を一部改変）
（昭和 11 年陸地測量部作成・福岡県立図書館提供）……140
第 105 図　城之越城縄張り図（事務局作成）……140
第 106 図　山鹿城遠景（2014 年撮影）……141
第 107 図　大正～昭和初期の山鹿城（絵葉書・個人蔵）……141
第 108 図　遠賀郡山鹿古城図（国立公文書館蔵）……141
第 109 図　山鹿城縄張り図（事務局作成）……142
第 110 図　岡ノ城縄張り図（事務局作成）……143
第 111 図　岡ノ城から東を望む（手前に汐入川、奥に花尾城・帆柱山城などがみえる）…143

第 112 図　麻生隆守墓 …… 143
第 113 図　龍昌寺山城縄張り図（藤野正人作成・提供）…… 144
第 114 図　熊山城縄張り図（文献 212・藤野正人作成）…… 144
第 115 図　熊山城遠景 …… 145
第 116 図　雨乞山城縄張り図（文献 207・藤野正人作成）…… 145
第 117 図　白山城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）…… 146
第 118 図　城ノ腰城縄張り図（文献 207・藤野正人作成）…… 147
第 119 図　勝島城縄張り図（藤野正人・事務局作成）…… 147
第 120 図　勝島遠景（最高所が城跡）…… 148
第 121 図　島内最高所の平坦地形（勝島城跡）…… 148
第 122 図　草崎城遠景（勝島から）…… 148
第 123 図　草崎城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）…… 148
第 124 図　大島城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）…… 149
第 125 図　草場城縄張り図（文献 210・藤野正人作成）…… 150
第 126 図　上山堡縄張り図（藤野正人作成・提供）…… 150
第 127 図　蔦岳城及び周辺城館位置図
（国土地理院発行 1/25,000 地形図「筑前東郷」を一部改変して作成）…… 151
第 128 図　蔦岳城石垣（曲輪 A 南斜面）…… 151
第 129 図　蔦岳城堀切 …… 151
第 130 図　蔦岳城からの眺め（白山城・玄界灘方面）…… 151
第 131 図　蔦岳城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）…… 152
第 132 図　三郎丸土塁の横堀 …… 153
第 133 図　三郎丸土塁縄張り図（文献 207・藤野正人作成）…… 153
第 134 図　茶臼山城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）…… 153
第 135 図　名残城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）…… 154
第 136 図　大障子城縄張り図（事務局作成）…… 154
第 137 図　大障子城遠景（最高所のやや右）…… 155
第 138 図　片脇城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）…… 155
第 139 図　勝浦岳城遠景（左の頂部が名児山、右が勝浦岳）…… 156
第 140 図　勝浦岳城縄張り図（事務局作成）…… 156
第 141 図　大穂城縄張り図（藤野正人作成・提供）…… 157
第 142 図　大穂城主郭 …… 157
第 143 図　許斐岳城遠景（左奥は立花山）…… 157
第 144 図　許斐岳城縄張り図
（文献 11・藤野正人作成。網掛け部は堀切（堀切すべては網掛けせず））…… 158
第 145 図　許斐岳城堀切 …… 159
第 146 図　金魚池 …… 159
第 147 図　許斐城縄張り図（北東麓部分・文献 207・藤野正人作成）…… 159
第 148 図　高宮城遠景 …… 160

第 149 図　高宮城縄張り図（事務局作成）……160
第 150 図　冠山城縄張り図（藤野正人作成・提供）……161
第 151 図　宮地岳城縄張り図（事務局作成）……161
第 152 図　亀山城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）……162
第 153 図　亀山城周辺地割図（事務局作成）……162
第 154 図　飯盛城縄張り図 ( 文献 11・藤野正人作成 ) ……162
第 155 図　鶇岳城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）……163
第 156 図　小松ヶ岡砦縄張り図（文献 190・中西義昌作成）……163
第 157 図　臼ヶ岳城縄張り図（文献 181・中西義昌作成）……164
第 158 図　米多比城縄張り図（文献 190・中西義昌作成図を一部改変して事務局作成）…165
第 159 図　「糟屋郡史」編纂資料「附．城砦古戦場一束」中の四万城の記載
（左：修正稿（四方城山）・右：決定稿（四万城山））……166
第 160 図　四万城縄張り図（事務局作成）……166
第 161 図　古子城縄張り図（文献 181・中西義昌作成）……167
第 162 図　佐谷城縄張り図（事務局作成）……167
第 163 図　佐谷城遠景（中央。左は若杉山）……168
第 164 図　佐谷城堀切 ……168
第 165 図　高鳥居城遠景（左の頂部。右は若杉山）……168
第 166 図　高鳥居城縄張り図（文献 191・中西義昌作成）……169
第 167 図　草葉城遠景（粕屋町教育委員会提供）……169
第 168 図　草葉城縄張り図（文献 80・西垣彰博作成）……169
第 169 図　飯盛山城遠景（粕屋町教育委員会提供）……170
第 170 図　飯盛山城縄張り図（文献 80・西垣彰博作成）……170
第 171 図　丸山城遠景（粕屋町教育委員会提供）……170
第 172 図　丸山城堀切断面（粕屋町教育委員会提供）……171
第 173 図　丸山城測量図（文献 80）……171
第 174 図　下山田城縄張り図（藤野正人作成・提供）……171
第 175 図　立花山城および周辺城館位置図
（国土地理院 1/25,000「福岡」・「古賀」を一部改変して事務局作成）……172
第 176 図　立花山城遠景（久山町遠見岳から）……172
第 177 図　筑前国裏粕屋郡立花山古城之図（部分・国立公文書館蔵）……173
第 178 図　立花山城 A 地点の堀切 ……173
第 179 図　立花山城（立花山地区）縄張り図（文献 195・木島孝之作成図に井楼山
南斜面部分（藤野正人作成・提供図）を合成して事務局作成）……174
第 180 図　立花山城イバノヲ・大タヲの石垣 ……175
第 181 図　立花山城イバノヲの石垣隅角部 ……175
第 182 図　立花山城立花口側の井戸 ……175
第 183 図　立花山城小つぶら通路遺構の石垣 ……175
第 184 図　立花山城曲輪 D の枡形虎口 ……175

第 185 図　三日月山地区縄張り図（文献 213・藤野正人作成）…… 176
第 186 図　三日月山遠景（城ノ越山側から）…… 177
第 187 図　城ノ越山遠景（三日月山山頂から）…… 177
第 188 図　城ノ越山地区縄張り図（全体）（文献 213・藤野正人作成）…… 177
第 189 図　城ノ越山地区（A 地区部分）（文献 213・藤野正人作成）…… 178
第 190 図　城ノ越山地区縄張り図（B 地区）（文献 213・藤野正人作成）…… 179
第 191 図　城ノ越地区の城館遺構（左：a3 地点の切岸（岩盤削り出しの様子がわかる））
（右：b4 地点の土塁囲みの曲輪）…… 179
第 192 図　御飯ノ山城（香椎 B 遺跡）遠景（左：南から（奥に立花山）・右：北から）
（福岡市埋蔵文化財センター提供）…… 180
第 193 図　御飯ノ山城（香椎 B 遺跡）測量図（文献 76）…… 181
第 194 図　稲居塚城・金居塚城縄張り図（文献 204・山崎龍雄作成）…… 182
第 195 図　那珂郡三宅邨古野城之図（部分・国立公文書館蔵）…… 183
第 196 図　古野城の位置比較（左：那珂郡三宅邨古野城之図（江戸後期）・右：国土地理
院作成 1/25,000「福岡南部」（昭和 35 年）を一部改変して事務局作成）…… 183
第 197 図　新城山城縄張り図（岡寺　良作成）…… 184
第 198 図　新城山城遠景 …… 184
第 199 図　新城山城堀切 …… 184
第 200 図　老林城縄張り図（事務局作成）…… 185
第 201 図　老林城遠景 …… 186
第 202 図　老林城主郭切岸 …… 186
第 203 図　龍神山城遠景 …… 186
第 204 図　龍神山城曲輪切岸 …… 186
第 205 図　龍神山城からみた福岡平野 …… 186
第 206 図　龍神山城曲輪ピット群（那珂川町教育委員会提供）…… 187
第 207 図　龍神山城堀切土層（那珂川町教育委員会提供）…… 187
第 208 図　龍神山（岩門）城縄張り図（文献 201、那珂川町教育委員会作成測量図・
中西義昌作成図・岡寺　良作成図を合成して岡寺作成）…… 187
第 209 図　猫嶺城縄張り図（文献 190・中西義昌作成）…… 188
第 210 図　鷲ヶ岳から眺めた福岡平野 …… 188
第 211 図　鷲ヶ岳城縄張り図（文献 206・中西義昌作成図・村上勝郎・田中賢二作成図
を合成して村上・田中作成）…… 189
第 212 図　鷲ヶ岳城堀切 …… 189
第 213 図　鷲ヶ岳城曲輪群Ⅰの石垣 …… 190
第 214 図　鷲ヶ岳城曲輪群Ⅲの石垣 …… 190
第 215 図　一ノ岳城と亀ノ尾城 …… 190
第 216 図　一ノ岳城堀切 …… 190
第 217 図　一ノ岳城縄張り図（文献 201・岡寺　良作成）…… 191
第 218 図　一ノ岳城石垣 j …… 192
第 219 図　一ノ岳城石垣 k …… 192

第 220 図　亀ノ尾城遠景 …… 192
第 221 図　亀ノ尾城堀切 …… 192
第 222 図　亀ノ尾城縄張り図（文献 201・下高大輔・岡寺　良作成）…… 193
第 223 図　七曲城石垣 …… 194
第 224 図　七曲城縄張り図（事務局作成） …… 194
第 225 図　小田部城位置図（国土地理院作成 1/25,000 地形図「福岡西南部」
（昭和 35 年）を一部改変して事務局作成）…… 195
第 226 図　有田村ノ内小田部氏宅址図
（「早良郡廻村覚帳（下）」『筑前町村書上帳 早良郡四』・福岡県立図書館蔵）…. 195
第 227 図　菟道岳城主郭の土塁 …… 196
第 228 図　菟道岳城切岸と曲輪面 …… 196
第 229 図　菟道岳城縄張り図（山崎龍雄作成・提供）…… 196
第 230 図　安楽平城・周辺城館遠景（脇山側から） …… 196
第 231 図　安楽平城及び周辺城館群位置図
（国土地理院 1/25,000 地形図「福岡西南部」を一部改変して事務局作成）…. 197
第 232 図　安楽平城から望む早良平野 …… 197
第 233 図　安楽平城堀切 …… 197
第 234 図　安楽平城石垣 …… 197
第 235 図　安楽平城縄張り図（中西義昌作成・提供）…… 198
第 236 図　油山山頂所在の城館群（山崎龍雄作成・提供図を一部改変して事務局作成）…. 199
第 237 図　曲渕城縄張り図（文献 190・中西義昌作成）…… 200
第 238 図　金山城遠景（上：早良区脇山から・下：西から）…… 200
第 239 図　金山城縄張り図（文献 54・宮武正登作成）…… 201
第 240 図　金山城堀切 …… 201
第 241 図　金山山頂の立石状自然石 …… 201
第 242 図　池田城遠景 …… 201
第 243 図　大教坊墓石 …… 201
第 244 図　池田城縄張り図（事務局作成） …… 202
第 245 図　都地城縄張り図（文献 11・山崎龍雄作成）…… 202
第 246 図　都地城遠景（左：南から、右：西から・福岡市埋蔵文化財センター提供）…… 203
第 247 図　都地城跡発掘調査図（左：平面図・右：土塁土層図・文献 146）…… 203
第 248 図　飯盛城縄張り図（文献 197・中西義昌作成）…… 204
第 249 図　城ヶ崎城縄張り図（山崎龍雄作成・提供）…… 204
第 250 図　城ノ崎城図
（「早良郡廻村覚帳（上）」『筑前町村書上帳 早良郡四』・福岡県立図書館蔵）… 204
第 251 図　高祖城遠景 …… 205
第 252 図　高祖城および周辺城館位置図
（国土地理院 1/25,000 地形図「福岡西南部」を一部改変して事務局作成）…. 205
第 253 図　高祖城測量図（文献 156・山崎龍雄・瓜生秀文ほか作成）…… 206

第 254 図　高祖城上の城の石垣遺構（糸島市教育委員会提供）…… 206
第 255 図　高祖城堀切 …… 206
第 256 図　高祖城Ⅴ地区の土塁ライン …… 206
第 257 図　草野陣地区の城館縄張り図（山崎龍雄作成・提供）…… 207
第 258 図　高来寺地区の城館縄張り図（文献 190・中西義昌作成）…… 207
第 259 図　有田城縄張り図（文献 197・中西義昌作成）…… 208
第 260 図　旗振嶺城縄張り図（文献 197・中西義昌作成）…… 208
第 261 図　旗振嶺城南側にある堀切状の谷 …… 208
第 262 図　訂正怡土郡図（部分・国立公文書館蔵）（上が南。一部改変して事務局作成）… 208
第 263 図　加布里城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）…… 209
第 264 図　宝珠岳城縄張り図（文献 197・中西義昌作成）…… 209
第 265 図　小倉山城縄張り図（文献 197・中西義昌作成）…… 210
第 266 図　二丈岳城からの眺め（糸島半島）…… 210
第 267 図　二丈岳城堀切 …… 210
第 268 図　二丈岳城縄張り図（文献 197・中西義昌作成）…… 211
第 269 図　二丈岳城石塁 …… 211
第 270 図　吉井岳城・城山山頂の堀切 …… 212
第 271 図　吉井岳城縄張り図（文献 205・山崎龍雄作成）…… 212
第 272 図　訂正志摩郡図（部分・国立公文書館蔵） …… 213
第 273 図　青木城縄張り図（文献 190・中西義昌作成）…… 213
第 274 図　臼杵氏端城遠景（右手前・左奥は柑子岳）…… 213
第 275 図　臼杵氏端城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）…… 214
第 276 図　柑子岳城から見た眺望（長浜海岸・能古島・博多湾）…… 214
第 277 図　柑子岳城堀切 …… 214
第 278 図　柑子岳城縄張り図（文献 181・中西義昌作成図を一部改変して事務局作成）… 215
第 279 図　水崎山（水崎城）遠景 …… 216
第 280 図　水崎山山頂周辺の平坦面（城郭遺構かは不明）…… 216
第 281 図　大神城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）…… 216
第 282 図　岩松城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）…… 217
第 283 図　松隈城縄張り図（文献 190・中西義昌作成）…… 217
第 284 図　波多江館縄張り図（文献 190・中西義昌作成）…… 218
第 285 図　波多江館遠景 …… 218
第 286 図　波多江館堀・土塁 …… 218
第 287 図　親山城縄張り図（文献 190・中西義昌作成）…… 219
第 288 図　犬鳴別館遠景（昭和 62 年調査時） …… 220
第 289 図　犬鳴別館石垣（下段） …… 220
第 290 図　犬鳴別館裏門の石垣 …… 220
第 291 図　犬鳴別館測量図（文献 63）…… 221
第 292 図　犬鳴御別館絵図（宮若市教育委員会蔵・宮若市指定文化財）…… 222

第 293 図　犬鳴御別館絵図（藩主館部分・宮若市教育委員会蔵）…… 223
第 294 図　大音屋敷（上：石垣全景・下：枡形虎口）…… 223
第 295 図　直方惣郭図（個人蔵）…… 224
第 296 図　直方惣郭図（部分・個人蔵）（御殿の右上の鉤形の堀の下が旧藩主館跡地）…… 225
第 297 図　直方御殿御絵図（個人蔵）…… 226
第 298 図　遠賀郡黒崎古城図（部分・国立公文書館蔵）…… 227
第 299 図　黒崎城石垣 …… 228
第 300 図　黒崎城南斜面にある矢穴痕跡の残る玄武岩 …… 228
第 301 図　黒崎城本丸跡の花崗岩石材 …… 228
第 302 図　黒崎城北側の護岸の石垣表記（陸地測量部作成 1/25,000 地形図「八幡市」
（大正 11 年）を一部改変して事務局作成）（福岡県立図書館提供）…… 228
第 303 図　中島（若松城）の位（陸地測量部作成 1/25,000 地形図「八幡市」
（大正 11 年））（福岡県立図書館提供）…… 229
第 304 図　元禄十二年若松附近古絵図（写）
（部分・北九州市自然史・歴史博物館所蔵・提供）…… 229
第 305 図　名島城跡地形図（文献 79・昭和初期）…… 230
第 306 図　表粕屋郡名嶋古城之図（小早川期・国立公文書館蔵）…… 230
第 307 図　名島城本丸枡形虎口の石垣（福岡市埋蔵文化財センター提供）…… 231
第 308 図　発掘調査で確認された名島城本丸石垣（文献 82）…… 231
第 309 図　崇福寺唐門（重要文化財）…… 231
第 310 図　名嶋御館之図（九州大学附属図書館蔵）…… 231
第 311 図　福岡城堀石垣（腰巻石垣）…… 232
第 312 図　福博惣絵図（部分・福岡市博物館蔵、一部改変して事務局作成）…… 232
第 313 図　福岡城本丸・二ノ丸所在の門・櫓位置図
（文献 193 掲載図を一部改変して事務局作成）…… 233
第 314 図　福岡城二ノ丸表御門 …… 233
第 315 図　福岡城二ノ丸裏御門 …… 233
第 316 図　福岡城三ノ丸土塁 …… 233
第 317 図　福岡城大天守台 …… 233
第 318 図　福岡城多聞櫓 …… 234
第 319 図　福岡城祈念櫓 …… 234
第 320 図　福岡城旧本丸表御門櫓 …… 234
第 321 図　福岡城下之橋御門と伝潮見櫓 …… 234
第 322 図　福岡城下之橋御門調査状況（福岡市埋蔵文化財センター提供）…… 234
第 323 図　福岡城祈念櫓調査状況（福岡市埋蔵文化財センター提供）…… 234
第 324 図　福岡城上之橋御門調査状況（福岡市埋蔵文化財センター提供）…… 234
第 325 図　肥前慶長国絵図に描かれた石崎古城（部分・佐賀県立名護屋城博物館蔵）…… 235
第 326 図　石崎城遠景 …… 235
第 327 図　香雫井原屋敷地割図（事務局作成）…… 236

第 328 図　光福寺城館跡測量図（文献 175）…… 237
第 329 図　上頓野宮ノ前遺跡調査区位置図（文献 64）…… 237
第 330 図　上頓野宮ノ前遺跡第 3 区遺構平面図（文献 64）…… 238
第 331 図　本城南遺跡 C 地区遺構平面図（文献 69）…… 238
第 332 図　本城南遺跡 C 地区調査状況（北九州市教育委員会提供）…… 239
第 333 図　上西郷ニホンスギ遺跡（奥左隅に亀山城）（福津市教育委員会提供）…… 239
第 334 図　上西郷ニホンスギ遺跡全景（上が北・福津市教育委員会提供）…… 239
第 335 図　上西郷タナカ遺跡全景（上が北・福津市教育委員会提供）…… 240
第 336 図　香椎 A 遺跡第 4 次調査 I 区遺構平面図（文献 81）…… 241
第 337 図　香椎 B 遺跡生水・寺熊調査区遺構配置図（文献 76）…… 242
第 338 図　香椎 B 遺跡第 8 次調査 3 区遺構平面図（文献 83）…… 243
第 339 図　席田青木遺跡・中山遺跡遺構配置図（文献 204・山崎龍雄作成）…… 243
第 340 図　麦野 A 遺跡遺構配置図全景（文献 134）…… 244
第 341 図　諸岡 B 遺跡調査区位置図（文献 121）…… 244
第 342 図　諸岡 B 遺跡 9 次調査（G 区）遺構平面図（文献 121）…… 245
第 343 図　諸岡館跡全体復元図（文献 122）…… 245
第 344 図　諸岡館跡土塁遺構（福岡市埋蔵文化財センター提供）…… 246
第 345 図　諸岡館跡遺構平面図（文献 122）…… 246
第 346 図　大橋 E 遺跡遺構平面図（文献 129）…… 246
第 347 図　中白水遺跡平地城館遺構配置図（文献 46）…… 247
第 348 図　中白水遺跡 12 次調査全景（春日市教育委員会提供）…… 247
第 349 図　中白水遺跡 12 次調査遺構平面図（文献 130）…… 247
第 350 図　井出ノ原遺跡全景（文献 119）…… 248
第 351 図　大塚遺跡全景（那珂川町教育委員会提供）…… 249
第 352 図　大塚遺跡遺構配置図（文献 133）…… 249
第 353 図　安徳台遺跡地下式横穴（文献 131）…… 250
第 354 図　安徳台遺跡遺構配置図
（文献 131 掲載図を一部改変して事務局作成。アミカケ部が居館推定域）…… 250
第 355 図　平蔵遺跡 3 次調査遺構配置図（文献 125）…… 251
第 356 図　五ヶ山網取遺跡遺構配置図（文献 135）…… 252
第 357 図　柏原 K 遺跡中世遺構配置図（文献 138）…… 253
第 358 図　樋井川 A 遺跡中世遺構配置図（文献 141）…… 253
第 359 図　広瀬遺跡 1 次調査中世遺構配置図（文献 143）…… 254
第 360 図　志水 A 遺跡 C 区遺構配置図（文献 140）…… 254
第 361 図　志水 A 遺跡 C 区全景（福岡市埋蔵文化財センター提供）…… 254
第 362 図　清末遺跡中世後期遺構配置図（文献 139）…… 255
第 363 図　有田・小田部遺跡群中世遺構配置図（文献 186・右は復元図）…… 255
第 364 図　有田・小田部遺跡群中世城館関連遺構配置図（文献 186）
（左：小田部 3 丁目地点・右：小田部 5 丁目地点）…… 256

第 365 図　原遺跡遺構配置図（文献 145）…… 256
第 366 図　浦江遺跡 5 次調査 13 区遺構配置図
（文献 144 掲載図を一部改変して事務局作成）…… 257
第 367 図　下山門乙女田遺跡中世遺構配置図（文献 142）…… 257
第 368 図　元寇防塁の位置を描いた「石塁遺址図」（『伏敵編』（明治 24 年）より転載）…… 258
第 369 図　各地区の防塁遺構断面図（文献 114）…… 259
第 370 図　元寇防塁（指定地）の現状
（1 ：今津地区・ 2 ：生の松原地区・ 3 ：西新地区・ 4 ：姪浜地区）…… 259
第 371 図　元寇防塁 8 次調査で見つかった石積み遺構
（福岡市埋蔵文化財センター提供）…… 260
第 372 図　元寇防塁 8 次調査防塁遺構復元 …… 260
第 373 図　蔵持境遺跡遺構平面図（文献 154）…… 261
第 374 図　蔵持古屋敷遺跡復元想定図（文献 154） …… 262
第 375 図　蔵持古屋敷遺跡遺構配置図（文献 149） …… 262
第 376 図　東五反田遺跡全景（糸島市教育委員会提供）…… 263
第 377 図　東下田遺跡（糸島市教育委員会提供）…… 263
第 378 図　東高田遺跡第 3 地点全景（糸島市教育委員会提供）…… 264
第 379 図　東高田遺跡第 3 地点遺構配置図（文献 148）…… 264
第 380 図　熊野神社東遺跡遺構配置図（文献 157）…… 265
第 381 図　石崎曲り田遺跡 3 次調査Ⅳ区上層遺構平面図（文献 153）…… 266
第 382 図　木舟・三本松遺跡 3 次調査遺構配置図（文献 152）…… 267
第 383 図　木舟の森遺跡遺構平面図（文献 150）…… 268
第 384 図　大塚遺跡遺構配置図（文献 164）…… 269
第 385 図　青木遺跡調査地位置図（文献 162）…… 270
第 386 図　青木遺跡 2 次調査区中世遺構配置図（文献 161）…… 270
第 387 図　青木遺跡 4 次調査遺構配置図（文献 162）…… 270
第 388 図　池田井田遺跡遺構配置図（文献 166）…… 271
第 389 図　潤古屋敷遺跡遺構配置図（文献 167･168 掲載図を一部改変して事務局作成）… 272
第 390 図　波多江遺跡遺構配置図（アミカケ部は中世後半期・文献 158）…… 272
第 391 図　木藤丸遺跡遺構配置図（文献 165）…… 273

# 表　目　次

頁

第 1 表　福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査指導委員会委員名簿 ……　2
第 2 表　福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査指導委員会の経過（平成 24 ～ 25 年度）…　2

# Ⅰ　はじめに

## 1　調査に至る経過

古代の防衛施設である大野城跡、基肄城跡、水城跡が存する本県では、九州歴史資料館を中心に継続的な古代山城の調査研究が行われてきた。また、８か所の神籠石系山城が知られており、いずれも国の史跡に指定され、調査研究ならびに保護、活用が図られているところである。

しかしながら、中世以降近世初期までの間に築造された、山城を中心とする数多くの城館・城郭遺跡については、これまで県および市町村が実施した遺跡詳細分布調査や重要遺構確認調査、県史・市町村史編纂事業を通じて把握に努めてきたが、総合的な調査を行うには至っていなかった。任意団体や個々の研究者によって地道に続けられた調査研究成果の蓄積は著しく、本県における中近世城館研究の進展はこれに負うところが大きいが、悉皆的な調査が実施されていないため、位置が特定されていない、あるいは詳細が十分に把握されていない城館・城郭遺跡は依然として多く、適切な保護措置を講じるにあたり情報が不足している状況である。また、遺跡の公開活用を図る上でも県内の城館遺跡相互の比較検討は必要であり、本県にとって中近世城館遺跡の総合調査の実施は課題となっていた。

近年の山間部における開発の増加や山城に対する興味関心の高まり、保存活用の要望の増加から総合調査の実施は急務となり、いよいよ総合的な分布調査に取り組むこととなった。本調査は県内の中近世城館遺跡を対象に、遺跡の位置や範囲、時代、歴史的背景等の基本的情報を可能な限り把握し、成果の体系的な整理と評価を行うものである。また、遺跡の周知化と保存活用に向けた理解の促進をも目的としている。

## 2　調査の経過

福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査事業は、国庫補助を受けて平成 24 年度から 5 か年の計画で実施している。平成 25 年 2 月に第 1 回福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査指導委員会（以下指導委員会）を開催し、調査の方針と手法について指導を受けた。委員は第 1 表のとおりである。本調査は、県内市町村を旧国に基づいて地域分けし、筑前地域、豊前地域、筑後地域の順に調査を進め、随時報告書をまとめることとなった。

第 1 表　福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査指導委員会委員名簿（敬称略）

| 委員氏名 | 職名 | 備考 |
|---|---|---|
| 西谷　正 | 九州歴史資料館名誉館長<br>九州大学名誉教授 | 委員長、考古学 |
| 服部英雄 | 九州大学教授 | 副委員長、中世史 |
| 中井　均 | 滋賀県立大学教授 | 城郭研究 |

平成 25 年度は筑前地域の報告書刊行と豊前地域の調査を実施する予定となっていたが、筑前地域に所在する中近世城館遺跡の数は非常に多く、また、関連資料等も膨大な量にのぼるため、報告書を２分冊とし、調査事業を１年延長することとなった。指導委員会は２回開催し、調査および報告書作成作業の進捗状況の報告、併せて、旧筑前国の三日月山の城館群、黒崎城跡、花尾城跡の現

地視察と検討を行った。また、筑前地域の南半部にあたる旧御笠郡・夜須郡・上座郡・下座郡・穂波郡・嘉麻郡の６郡の調査成果を「福岡県の中近世城館跡Ⅰ－筑前地域編１－」にまとめた。

平成 26 年度は筑前地域北半部の重点調査と報告書の刊行、豊前地域の調査を実施した。５月に開催した第４回指導委員会では、旧筑前国立花山城跡の南側に位置する城ノ越山に点在する城ノ越城館群の現地視察と検討、報告書作成作業の進捗状況および豊前地域の調査状況の報告を行った。

平成 27 年３月には第５回指導委員会を開催し、旧豊前国長野城跡周辺に展開する城館群を現地視察し、検討を行った。また、報告書作成作業の進捗状況の報告ならびに豊前地域の調査状況の報告を行い、指導、助言を得た。

第２表　福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査指導委員会の経過（平成 26 年度）

| | 開催日時 | 会　場 | 審議内容等 |
|---|---|---|---|
| 第４回 | 平成 26 年５月 30 日 | 久山町役場 | ・城ノ越城館群現地視察<br>・城ノ越城館群の検討<br>・筑前北部地域の調査について<br>・豊前地域の調査について |
| 第５回 | 平成 27 年３月４日 | 北九州市埋蔵文化財センター | ・長野城周辺城館群現地視察<br>・長野城周辺城館群の検討<br>・筑前北部地域の調査について<br>・豊前地域の調査について |

## ３　調査の組織

本事業は、福岡県教育庁総務部文化財保護課と九州歴史資料館とで協力して取り組んでいる。

**福岡県教育庁総務部文化財保護課（調整・調査・報告）**

| | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|---|---|---|---|
| **総括** | | | |
| 教育長 | 杉光　誠 | 杉光　誠 | 城戸秀明 |
| 教育次長 | 荒巻俊彦 | 城戸秀明 | 西牟田龍治 |
| 総務部長 | 西牟田龍治 | 西牟田龍治 | 川添弘人 |
| 文化財保護課長 | 伊﨑俊秋 | 伊﨑俊秋 | 赤司善彦 |
| 課長補佐 | 桂木俊樹 | 髙田政司 | 岩崎千鶴子 |
| **庶務** | | | |
| 管理係長 | 石橋伸二 | 石橋伸二 | 石橋伸二 |
| 事務主査 | 伊藤幸子 | 綾香博充 | |
| | 綾香博充 | | |
| 主任主事 | 加藤教子 | 加藤教子 | 加藤教子 |
| **調査・報告** | | | |
| 企画係長 | 吉田東明 | 吉田東明 | 吉田東明 |
| 技術主査 | 岸本　圭 | 今井涼子 | 今井涼子 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 今井涼子 | | 大庭孝夫 |
| | 宮地聡一郎 | | |
| 主任技師 | | 大庭孝夫 | 坂元雄紀 |
| | | 坂元雄紀 | |

**九州歴史資料館（調査・報告）**

| | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|---|---|---|---|
| **総括** | | | |
| 館長 | 西谷　正 | 荒巻俊彦 | 杉光　誠 |
| 副館長 | 篠田隆行 | 篠田隆行 | 伊﨑俊秋 |
| 参事補佐 | 小池史哲 | | |
| **庶務** | | | |
| 総務室長 | 圓城寺紀子 | 圓城寺紀子 | 塩塚孝憲 |
| 総務班長 | 長野良博 | 長野良博 | 山﨑　彰 |
| **調査・報告** | | | |
| 学芸調査室長 | 小田和利 | 小田和利 | 小田和利 |
| 学芸普及班長（平成 25 年度から学芸研究班） | 松川博一 | 松川博一 | 松川博一 |
| 技術主査 | | 岡寺　良 | 酒井芳司 |
| | | | 岡寺　良 |
| 主任技師 | 岡寺　良 | 一瀬　智 | |
| | 一瀬　智 | | |

**調査協力（本書報告対象地域のみ（50 音順・敬称略））**

＜公的機関＞芦屋町教育委員会、伊都国歴史博物館、糸島市教育委員会、宇美町教育委員会、岡垣町教育委員会、遠賀町教育委員会、春日市教育委員会、粕屋町教育委員会、北九州市市民文化スポーツ局文化振興課、北九州市立自然史・歴史博物館、九州大学附属図書館、鞍手町教育委員会、古賀市教育委員会、小竹町教育委員会、国立公文書館、佐賀県教育庁、佐賀県立名護屋城博物館、篠栗町教育委員会、志免町教育委員会、新宮町教育委員会、須恵町教育委員会、那珂川町教育委員会、中間市教育委員会、直方市教育委員会、直方市立図書館、久山町教育委員会、福岡市経済観光文化局文化財部、福岡市史編さん室、福岡市博物館、福岡市埋蔵文化財センター、福岡県立図書館、福岡県立美術館、福津市教育委員会、水巻町教育委員会、宮若市教育委員会、宗像市市民協働・環境部。
＜研究団体・個人＞牛嶋英俊、小方良臣、片山安夫、木島孝之、庄野直彦、田中賢二、中西義昌、中村修身、廣崎篤夫、藤野正人、宮崎博司、村上勝郎、八巻孝夫、山崎龍雄、北部九州中近世城郭研究会（代表：中村修身）。

# Ⅱ　調査の方法

## 1　調査の進め方と方法

前章でも述べたとおり、本県における中近世城館の調査研究成果の蓄積は著しく、既往の調査情報が比較的多くそろっているのが実情である。よって、既往情報の整理と蓄積を主眼に置き、以下のとおりの手順で調査を進めている。

**＜手順１＞既存資料の把握**

上記の状況を勘案し、対象地域における城館の全体概要を知るために、過去の調査資料等を把握するところから始めることとした。福岡県内における城館調査は、既に江戸時代の地誌類編纂にまでさかのぼることができるが、それらも含め、以下の 12 文献を「基本参考文献」とし、そのほか各自治体史や報告書等を参考にしながら、城館の情報を収集した。12 の基本参考文献は以下のとおりであり、その概要については、前冊『福岡県の中近世城館跡Ⅰ―筑前地域編１―』に掲載しているため、そちらを参照されたい。

①『筑前国続風土記』（貝原益軒著・1629 年）
②『筑前国続風土記附録』（加藤一純・鷹取周成著・1798 年）
③『筑前国続風土記拾遺』（青柳種信著・文政～天保年間（未完））
④『福岡県地理全誌』（臼井浅夫ほか著・1875 ～ 1880 年）
⑤『旧城跡等ノ取調』（福岡県社第 1956 号　大正５年 10 月２日施行）
⑥『研究旅行用　面白い種々な見方の福岡縣史、史蹟名勝口碑傳説所在地』（和田宗八・1936 年）
⑦『日本城郭全集』14 佐賀・長崎・福岡（人物往来社（鳥羽正雄他編・1967 年））
⑧『探訪日本の城』10 西海道（小学館・1977 年）
⑨『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』XXIX 付録　福岡県中世山城跡
（福岡県教育委員会（副島邦弘・近沢康治編）・1979 年）
⑩『日本城郭大系』第 18 巻福岡・熊本・鹿児島（新人物往来社（磯村幸男編・1979 年）
⑪『福岡県の城』（廣崎篤夫・1995 年）/『福岡県古城探訪』（廣崎篤夫・1997 年）
⑫『福岡県の城郭』（福岡県の城郭刊行会・2009 年）

この他、国人領主筑紫氏の城館の一覧を示した『筑紫氏城数之覚』（筑紫家文書・福岡市博物館蔵）や秋月氏の城館の一覧を示した『天正十五年四月生駒雅楽頭宛城数覚書』（原文書不詳・三浦末雄 1946『物語秋月史』所収）などの記載城館も参考としている。

なお、筑前地域のうち本書掲載の鞍手郡については、江戸時代の地誌類にほとんど掲載されていない小規模城館が多い。それらの小規模城館の初出については、『筑前要領大友家戦史』という文献が初出となっている。これについては、本章第２節において述べておくこととする。

**＜手順２＞既存情報の整理**

上記の資料をはじめとする把握された既存情報を元に、城館一覧表を作成するとともに、位置が判明しているものについては国土地理院発行 1/25,000 地形図により位置図を作成した。それらの内容や詳細についてはⅢ・Ⅳを参照願いたい。

それらの情報をこの段階において、該当市町村教育委員会および調査指導委員に情報照会を行ったうえで、追補訂正を行った。

**＜手順３＞一次調査**

上記、既存情報の整理を行った情報をもとに、一次調査として以下の調査を行った。

**①現地遺構の確認調査**

位置が把握できたものについて、現地にて遺構の有無や状況について確認した。既に縄張り図等のデータがあるものについては、それらの図面と現地の状況との照合も行っている。

**②文書調査**

既に翻刻されている古文書について、対象地区の城館にかかわる記載を抽出する作業を行った。詳細についてはⅥを参照願いたい。

**③絵図調査**

古城跡を描いた古絵図資料として、文化～天保年間に秋月藩士の大蔵種周・土井正就によって描かれた『古戦古城之図』（国立公文書館蔵）などに記載された城館絵図の調査も行い、現地調査のためのデータの参考とした。

**④地名調査**

城館にかかわる地名を抽出する作業で、「明治十五年字小名調」（『福岡縣史資料第七輯』1937年福岡県編集・発行）を元に、城館関連地名について抽出を行い、現状で把握できている城館との照合を行った。また、上記文献には記載されていないが、現在残されている小字名なども城館に直接関わると思われるものについても抽出を行った。詳細についてはⅦを参照願いたい。

**＜手順４＞二次調査（追加調査）**

一次調査において、得られた情報をさらに補完するため、追加調査として二次調査を行った。調査内容については以下のとおりである。

**①現地調査**

一次調査において現地を確認した結果、城館遺構が確認され、なおかつ既往の図面がないものについて、縄張り調査を行い、図面を作成した。また、平地に立地し、現地形からでは城館の範囲の特定が困難なものについては市町村が所蔵する地籍図を利用して城館の範囲を特定・推定した。作業の行程上、現地調査については一次調査と二次調査を連続して行わざるを得ない状況であり、いくつかについては事実上、一連の調査として行ったものもある。

なお、図面の作成方法･表記･遺構名称等については、『発掘調査のてびき　各種遺跡編』（2014年・文化庁編）に準じた。

**②地名調査**

一次調査において確認された城館関連地名について、特定の城館と関連性が窺われるものについては、現在の場所との照合を行った。照合方法は、現在の小字との照合によるものであり、市町村教育委員会および地元博物館等に照会することで行った。そのため、既に今となっては所在不明となってしまったものも多かった。

最終的に、調査対象については「中近世城館」･「城館関連遺跡」･「城館等伝承地」の三分類を行い、それぞれ報告することとした。それらの分類基準は以下のとおりである。

**①中近世城館**

中近世城館一般をさす。位置や来歴が明確なもののみならず、それらが不明の場合であっても、基本文献に城として記載されているものについてはここに含めた。

なお、報告においては中世城館と近世城館は区別し、中世から近世まで連続しているものについては中世城館に含め、近世以降に築城されたことが明らかなものについて、近世城館とした。

**②城館関連遺跡**

城館等の伝承や来歴はないが、発掘調査において中世（概ね 12 ～ 16 世紀代）の溝や堀状遺構で囲まれた集落、屋敷地などの遺跡を指す。中世の屋敷地と思われる遺跡であっても、溝や堀で囲まれることがなく、防御されたものではないものについては除外した。

**③城館等伝承地**

城館伝承の内、主として特定の武将などの居館として伝承のあるもので、現在、場所や城館遺構が全く不明となっているもの、城館以外のもの（岩など）に城館伝承が付されているものを指す。確実に遺構等が見られるものについては「中近世城館」として扱っている（「波多江館」など）。

本書では、上記の調査を経た筑前地域の一部（旧鞍手郡・遠賀郡・宗像郡・糟屋郡・席田郡・那珂郡・早良郡・怡土郡・志摩郡）について報告を行うものである。

## 2　鞍手郡城館史料『筑前要領大友家戦史』について

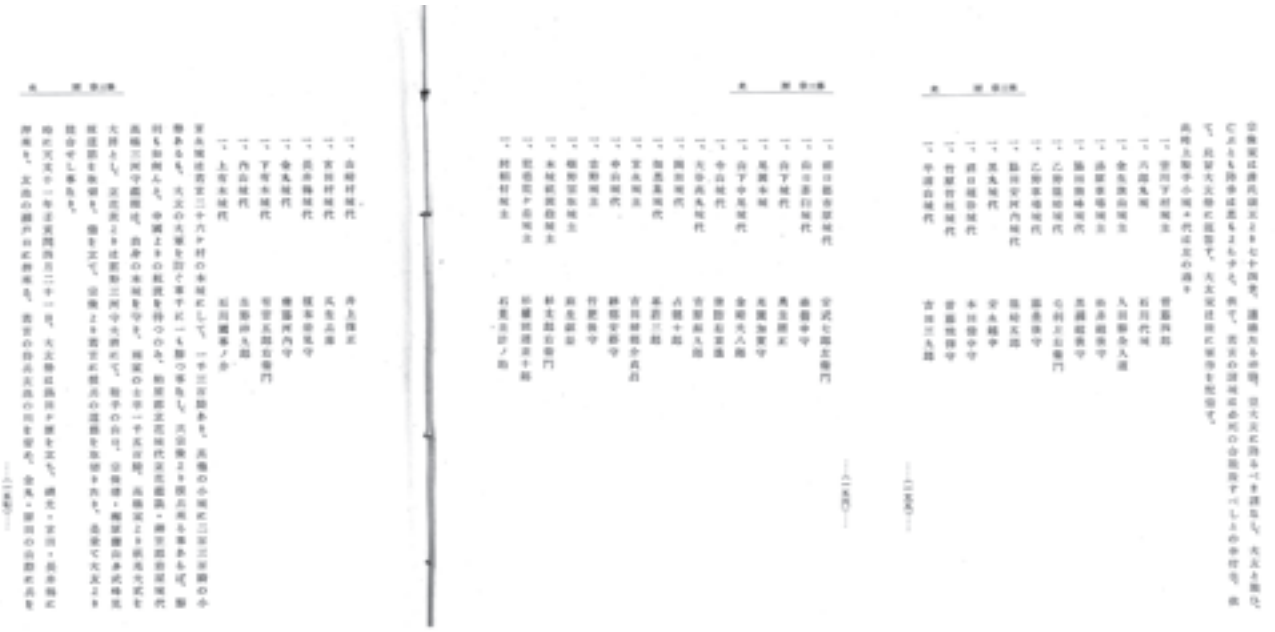
筑前地域のうち本書掲載の鞍手郡については、江戸時代の地誌類にほとんど掲載されていない小規模城館が多い。それらの小規模城館の初出については、『筑前要領大友家戦史』という文献がほとんどである。にもかかわらず、この史料の原典については長らく不明であった。しかし、今回の調査において、原典あるいはそれに近いと思われる史料を発見、調査する機会を得たため、ここに紹介することとしたい。

### （1）『筑前要領大友家戦史』について

鞍手郡、特に上鞍手（旧若宮町域）の城館の多くは、上記のとおり江戸時代の地誌類にはほとんど掲載されていない。当該地域の城館の集成において参考とされたのが、昭和９年（1934）に刊行された『鞍手郡誌』に翻刻が載せられていた『筑前要領大友家戦史』である。そこには、天文 11 年（1542）の大友氏と宗像氏との争い「小金原合戦」の様相と共に、旧若宮町域の城館 35 箇所とその城主・城代が羅列されており（第１図）、その一覧が以後の城館集成の基本文献となっていたが、その出典は不明であった。例えば、昭和 52 年に刊行された宮若市山口所在の茶臼山城跡の発掘調査報告書『九州縦貫自動車道関係発掘調査報告書 XVI』（福岡県教育委員会発行）でも、この文献は注目されており、第Ⅰ章第２節（３）には「『筑前要領大友家戦史』に見える大友宗麟の鞍手の攻略」としてその概要が記されているが、「「筑前要領大友家戦史」が、いつ、いかなる人によって書かれたものかさだかではない」とし、その註には「鞍手郡委員会編「鞍手郡誌」には、この文献の解題が示めされていないので九州歴史資料館倉住靖彦氏を通じて九州大学文学部国史科助手森茂暁氏の手をわずらわしたが判明していない。」とあり、その時点以来、長らく出典は不明となっていた。

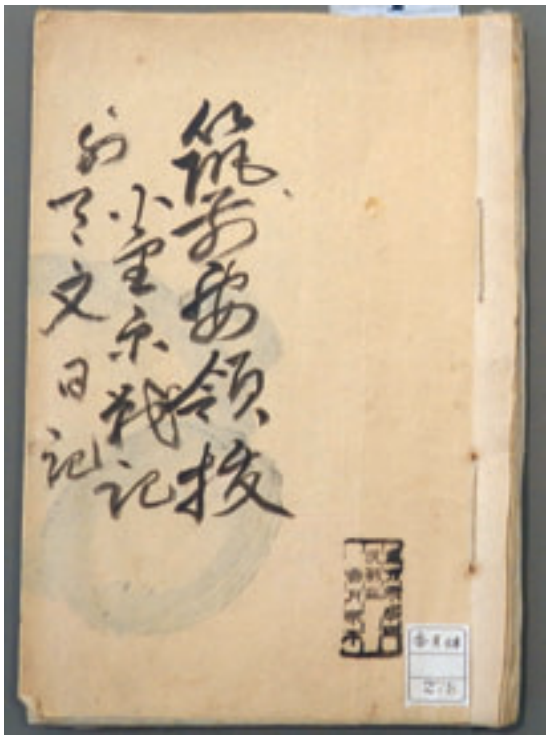
### （2）香月文書「筑前要領」について

今回の調査事業において、若宮地域の城館を解明する上で、『鞍手郡誌』記載の「筑前要領大友家



第１図　『鞍手郡誌』掲載『筑前要領大友家戦史』文中の城館一覧の掲載部分

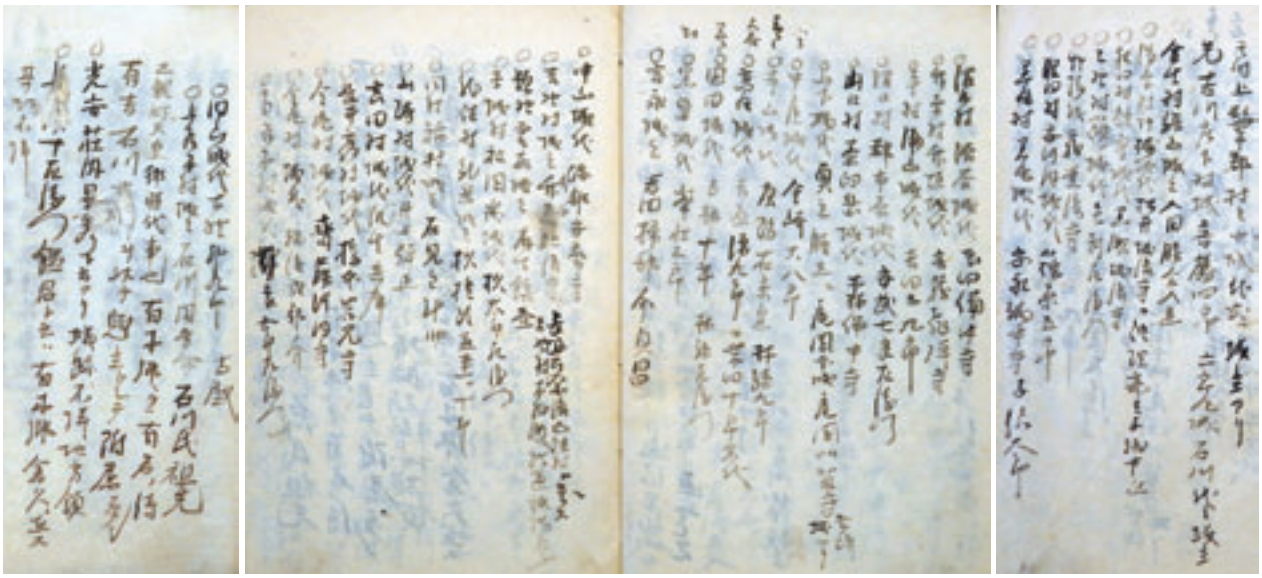
戦史」の出典を調べる必要性があると認識し、その探索を行った。そこで筑豊地域の歴史に詳しい牛嶋英俊氏（福岡県文化財保護指導委員）に尋ねたところ、直方市立図書館に所蔵されている直方市史編纂資料の中に『鞍手郡誌』を編纂した人物の一人、香月楽平の旧蔵資料「香月文書」があり、その中に類似する名称、内容の文献があることを御教示いただいた。そこで牛嶋氏立会いの下、原資料を確認するにいたった。その資料が「筑前要領抜　外小金原戦記　天文日記」（香月文書 278・第２図）である。墨書きの書冊綴本で、全文を読み下してはいないが、『鞍手郡誌』掲載の文章と同じ書き出しで始まっており、内容もかなり重複する部分が多いが、『香月文書』「筑前要領抜」の方が内容量が多く、おそらくこの文書を鞍手郡誌編纂の際に抜き書きしたものと思われる。



第２図　『筑前要領抜』表紙（直方市立図書館蔵）

なお、城館の一覧部分の読み下しを次頁に掲げ、写真も掲載する（第３図）。鞍手郡誌掲載の内容と大半は同じであるが、原本では「○○村△△城」となっているところを鞍手郡誌では「○○△△城」と略して書いていたり、写し間違いなどもあって、今回の調査によってより正

于時上鞍手郡村々小城代或ハ城主アリ、
先吉川庄下村城音藤四郎　六郎丸城石川代々城主
金生村旗山城主　入田勝全入道
○湯原村艸場城代　松井越後守、同修理亮主子越中丞
○脇田村熊峯城代　黒瀬越後守
○乙野村篠ノ城代　毛利左衛門
○艸場城　藤豊後守
○脇田村安河内城代　篠原五郎
○黒丸村黒丸城代　安永越中守子釈太郎
○沼口村堀谷城代　本田備中守
○竹原村竹垣城代　音藤飛騨守
○平村浦山城代　吉田三九郎
○沼口村都市原城代　安武七良左衛門
○山口村茶臼岳城代　森備中守
○山下城代　奥主膳正
○尾園本城　尾園加賀守（三ヶ所城アリ）
○中尾城代　金崎大八郎
山下
同郷也○寺山城代　唐防右京進
○高丸城代　吉原源九郎、同栄田十郎宮代
大谷
同郷也○岡田城代　占部十郎　林弥左衛門
畑
○黒巣城代　峯荘三郎
○宮永城代　吉田掃部介貞昌
○中山城主　跡部安芸守
○吉野村城主竹■（武カ）〔抹消〕肥後守（長政公入国後、五徳村同行入吉野村、木次領治運船路過不、）
○頓野雲取城主　麻生鎮益
○本城村祇園嶽城代　杉太郎左衛門
○龍徳村龍岳城主　杉権頭並連、同十郎
○同村稲村城主　石見主計助
○山崎村城代　井上弾正
○宮田村城代　瓜生兵庫
○長井鶴村城代　榎本岩見守
○金丸村城代　斉藤河内守
○金丸村城代　越後式部介
○下有木村城代　■（有カ）〔抹消〕吉五郎右衛門
○内山城代　古野神九郎　古殿
○上有木村城主　石川図書介　石川氏祖先
正親町天皇御時代事也、有木郷ニテハ有名ノ侍
有吉、石川、□□ヲ以テ附属多シ、
○光安荘内景□ト云アリ、城跡不詳、地方領、
○□□十左衛門鑑昌ト云ハ有木郷倉久ニ在ス、
其地不詳、



第３図　『筑前要領抜』掲載の城館一覧（直方市立図書館蔵・上は読み下し文）

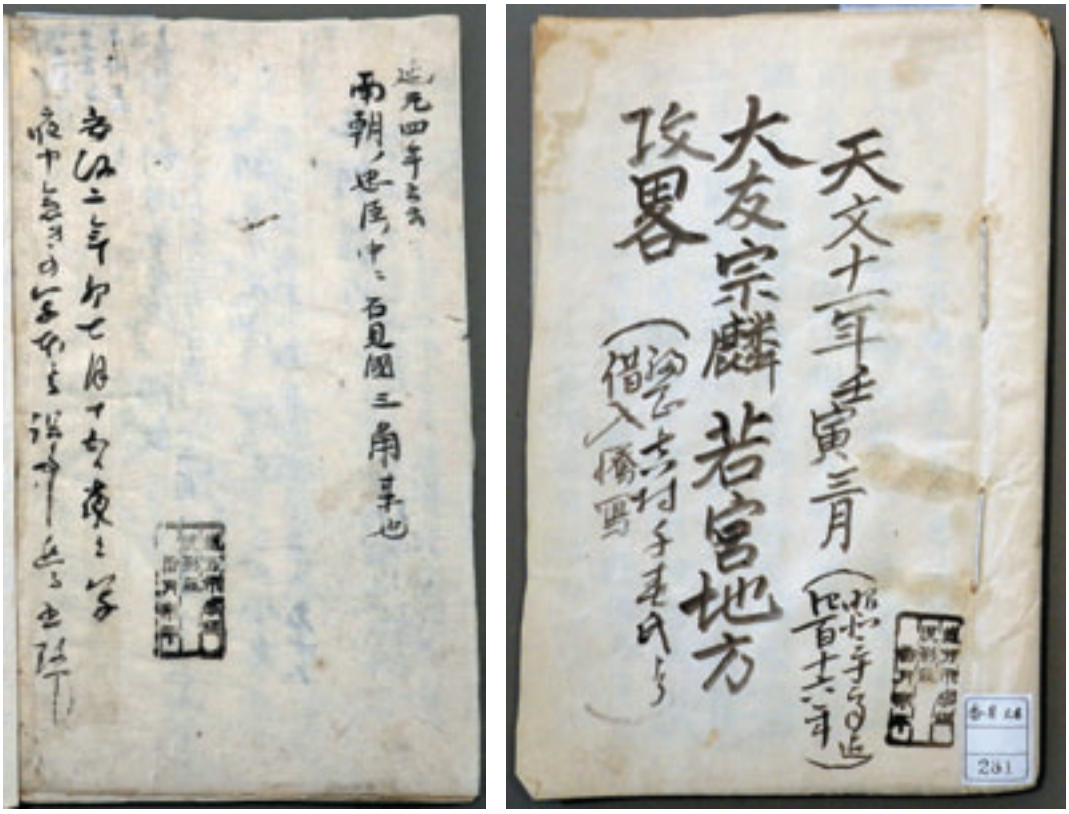
確な名称を捉えることができた。

また、この香月文書「筑前要領抜」の成立年代であるが、筆跡などから近代以降に写されたものである可能性が高い。しかし、香月文書 281 に「天文十一年壬寅三月　大友宗麟若宮地方攻略」という文献がある（第４図）。その内容は、書き出しが「筑前要領抜」と同様であるものの、全て同一というわけではないが、重複する部分が多く、少なくとも何らかの関係がある文書である。また表紙に「吉村与平氏より借入謄写」とあり、香月氏が近代以降に写したものとみられるが、巻末に「安政二年卯七月十五日夜々写　夜中急ぎの写本にて誤多し近日書改了」とあり（第４図左）、原本から安政２年（1855）に写された内容であることが分かる。よって、少なくとも幕末までには「筑前要

領抜」も成立していたとみられる。

（3）小結

以上、若宮地域の城館の初出文献である「筑前要領大友家戦史」について、その出典の探索結果を述べてきたが、少なくとも幕末以前にまで遡る記載内容を持っており、近世の地誌類と同様の史料的価値をもつものであると言えよう。今回は時間的な制約もあって、城館の一覧の確認と概略を調べるにとどまった。将来的には全文読み下したうえで、その内容の精査を行うことにより、より詳細な情報が得られよう。




第4図　『天文十一年壬寅三月　大友宗麟若宮地方攻略』（直方市立図書館蔵）
（右：表紙・左：巻末（年紀記載部分））

# Ⅲ　対象地域城館一覧

本章では、本書における対象地域内すべての城館および関連遺跡についての一覧を示す。一覧表の各項目の詳細は以下のとおりである。

＜一覧表の項目解説＞

「地域」…県内の旧国名（筑前・筑後・豊前）の別を示す。

「No.」…遺跡の分類ごとに通しで番号を付した。番号の振り方は以下のとおり。

- 「中世城館」…１・２・３・・・
- 「近世城館」…Ｋ１・Ｋ２・Ｋ３・・・
- 「城館等伝承地」…Ｄ１・Ｄ２・Ｄ３・・・
- 「城館関連遺跡」…Ｒ１・Ｒ２・Ｒ３・・・
- 「所在不明」…Ｆ１・Ｆ２・Ｆ３・・・

「名称・別称」…城館の名称が複数あるものについては、なるべく基本参考文献の初出名を名称として採用し、他の名称については別称とした。ただし、今日一般的に通用した名称が上記基準でない場合は、一般名称の方を採用した（波多江館など）。
よみがなについては、なるべく確実に把握することに務めたが、読み方を確定できなかったものについては（）を付して記している。

「旧郡名」…旧郡名の別を指す。「遠賀郡」については中世～近世にかけ、「御牧郡」とも称されるが、本書では「遠賀郡」で統一した。

「所在地」…大字までの表記とした。

「関連地名」…地名調査の結果、城館に直接関連すると思われる地名を記した。

「史料」…文書調査の結果、一次史料に記載のあるものには、「一次」欄に、参考史料に記載のあるものには「参考」欄に○を付した。

「地誌類・参考文献」…本一覧表を作成するにあたって基本参考文献とした文献に記載のあるものにはそれぞれ○を付し、「その他文献」欄にはそれ以外の文献番号（番号は参考文献一覧（44 ～ 49 ページに記載）の番号に同じ）を付した。番号がゴチックとなっているものについては、縄張り図または測量図が掲載されている文献を指す。文献の略号内容は以下のとおり。

- 「本編」…『筑前国続風土記』（貝原益軒著・1629年）
- 「附録」…『筑前国続風土記附録』（加藤一純・鷹取周成著・1798年）
- 「拾遺」…『筑前国続風土記拾遺』（青柳種信著・文政～天保年間（未完））
- 「全誌」…『福岡県地理全誌』（臼井浅夫ほか著・1875～1880年）
- 「種々」…『研究旅行用 面白い種々な見方の福岡縣史、史蹟名勝口碑傳説所在地』（金文堂（和田宗八・1936年））
- 「全集」…『日本城郭全集』14佐 賀・長崎・福岡（人物往来社（鳥羽正雄他編・1967年））
- 「探訪」…『探訪日本の城』10西海道（小学館（西谷正ほか・1977年））
- 「教委」…『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』XXIX 付録　福岡県中世山城跡（福岡県教育委員会（副島邦弘・近沢康治編）・1979年）
- 「大系」…『日本城郭大系』第18巻福岡・熊本・鹿児島（新人物往来社（磯村幸男編・1979年）

・「廣崎」…『福岡県の城』（廣崎篤夫・1995年）/『福岡県古城探訪』（廣崎篤夫・1997年）

・「城郭」…『福岡県の城郭』（福岡県の城刊行会・2009年）

「種類」…以下の基準により分類して表記した。

・「山城」（比高約30m以上の丘陵・山稜上に立地する城館）

・「丘城」（比高約30m未満の丘陵上に立地する城館）

・「平地城館」（平地に立地する城館）

「所在」…城館の所在や遺構の状況や範囲は判別できるか否か等で以下のとおり分類・表記した。

◎…所在・残存遺構・範囲が明確に把握できるもの。

●…所在は把握できるが、残存遺構や範囲は把握できない（もしくは未踏査）もの。

○…小字の範囲程度の所在のみが把握できるもの

△…大字の範囲程度の所在のみが把握できるもの

なお、旧郡の範囲までしか把握できないものについては「所在不明」とした。

「図幅名」……Ⅳに掲載した位置図の図幅名を示した。図幅名は国土地理院1/25,000地形図を採用し、地図の西側と東側とで、それぞれ（西）・（東）を付した。

「調査データ」…今回の調査事業も含め、「縄張り調査」・「測量調査」・「発掘調査」がなされているものについて、それぞれ○を付した。

「包蔵地番号」…周知の包蔵地となっているものについては、包蔵地番号を県および市町村の番号をそれぞれ付した。それぞれの包蔵地を示した分布地図については、参考文献一覧を参照願いたい。

「概要」……Ⅴの個別報告に記載のあるものについては、記載ページを付し、記載のないものについては、城館の概要について記した。

＜中世城館＞

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | |
| 筑前 | 137 | 熊ヶ峯城 | くまがみね | 熊ヶ城 | 鞍手郡 | 宮若市犬鳴 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | **○** | **○** | 13,14,**20**,**192** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 138 | 安河内城 | やすこうち | 脇田安河内城 | 鞍手郡 | 宮若市脇田 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | 13,14,20,192 | 山城か | ○ |
| 筑前 | 139 | 古賀城 | こが | 鴨か浦城 | 鞍手郡 | 宮若市脇田 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | 20,192 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 140 | 草場城 | くさば | 福山城・湯原草場城 | 鞍手郡 | 宮若市湯原 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | **○** | **○** | 13,14,**20**,**192** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 141 | 地蔵山城 | じぞうやま | 大村氏宅 | 鞍手郡 | 宮若市湯原 | 大城・大城前 | | | | | | ○ | | | | | | | **○** | ○ | 14 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 142 | 下村城 | しもむら | 吉川下城 | 鞍手郡 | 宮若市下 | 堀ノ内 | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,**20**,**192** | 丘城 | ● |
| 筑前 | 143 | 天神山城 | てんじんやま | | 鞍手郡 | 宮若市下 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | 丘城か | △ |
| 筑前 | 144 | 篠城 | しのん | 篠崎城 | 鞍手郡 | 宮若市乙野 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | **○** | ○ | 13,14,**20**,**192** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 145 | 草場城 | くさば | 乙野草場城 | 鞍手郡 | 宮若市乙野 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | 13,14,**20**,**192** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 146 | 岳宮城 | たけみや | | 鞍手郡 | 宮若市乙野 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | 山城 | △ |
| 筑前 | 147 | 清水城 | しみずが | | 鞍手郡 | 宮若市乙野 | | | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,20,192 | 山城 | △ |
| 筑前 | 148 | 立林城 | たてばやし | | 鞍手郡 | 宮若市黒丸 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 149 | 稲光城 | いなみつ | 城山城・稲次城・小伏城 | 鞍手郡 | 宮若市稲光・小伏 | 古城原、古城 | | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,**20**,**192** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 150 | 亭鋒山城 | （ていほうざん） | | 鞍手郡 | 宮若市稲光 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | 不明 | △ |
| 筑前 | 151 | 黒丸城 | くろまる | 古賀宗城 | 鞍手郡 | 宮若市黒丸 | 城ノ脇 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | **○** | **○** | 13,14,**20**,**192** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 152 | 平山城 | ひらやま | 六社八幡城 | 鞍手郡 | 宮若市黒丸 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | **20,192** | 山城丘城 | ◎ |
| 筑前 | 153 | 丸尾城 | まるお | 黒丸丸尾城 | 鞍手郡 | 宮若市黒丸・山口 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | 20, **65,192** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 154 | 宮永城 | みやなが | 雁城山城・繁木城 | 鞍手郡 | 宮若市宮永・山口 | 城山・陣屋谷 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | **○** | **○** | 13,14,**20**,**192,210** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 155 | 黒巣城 | くろす | 畑黒巣城・黒烏城 | 鞍手郡 | 宮若市山口 | | | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | ○ | 13,20,192 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 156 | 高丸城 | たかまる | 鷹丸城・大谷城・大谷高丸城 | 鞍手郡 | 宮若市山口 | | | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,20,192 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 157 | 岡田城 | おかだ | | 鞍手郡 | 宮若市山口 | | | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,20,**192** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 158 | 尾園本城 | おぞのほん | 尾園城・宮山城 | 鞍手郡 | 宮若市山口 | | | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,**20**, 55, **192** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 159 | 山下城 | やまじた | | 鞍手郡 | 宮若市山口 | | | | | | | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,20,192 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 160 | 茶臼山城 | ちゃうすやま | 茶臼岳城・茶臼城 | 鞍手郡 | 宮若市山口 | | | | | | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | **○** | ○ | 13,14,20,55,192 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 161 | 中尾城 | なかお | 山下中尾城 | 鞍手郡 | 宮若市山口 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | 13,20,192 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 162 | 寺山城 | てらやま | | 鞍手郡 | 宮若市山口 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | 13,20,192 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 163 | 片山砦 | かたやま | | 鞍手郡 | 宮若市山口 | | | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,20,192 | 丘城か | ○ |
| 筑前 | 164 | 天ノ坊城 | てんのぼう | | 鞍手郡 | 宮若市山口・稲光・平 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | 14 | 不明 | △ |
| 筑前 | 165 | 浦山城 | うらやま | 平浦山城 | 鞍手郡 | 宮若市平 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,20,192 | 不明 | △ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 脇田(西) | ○ | | | 440267 | | 本文96ページ参照。 |
| 脇田(東) | | | | 440266 | | 『筑前要領』(香月文書)には「脇田村安河内城代　篠原五郎」と城代名が書かれ、当地域の小規模城館の一つとする。小字「安河内」の地内に位置すると思われるが、城郭遺構は見つかっておらず、また県の分布地図の所在地も踏査の結果、自然地形であり、現在のところ、字「安河内」地内の詳細な場所までは不明である。 |
| 脇田(東) | | | | 440298 | | 『拾遺』に「古賀古城(鴨か浦の城)」として、文亀年間の宗像氏家臣の占部氏、大永・天文年間の大内氏家臣の大村日向守重継などの城主名が挙がっている。城があったという天満宮跡地とされる場所は、丘陵全体が後世の開墾により造成されてしまっており、現在は城郭遺構を確認できない。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440268 | | 本文97ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440299 | | 本文98ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440269 | | 『筑前要領』(香月文書)には「吉川庄下村城　音藤四郎」と記載される。地元では「下村城」と伝え、須賀神社南側の丘陵上にあったとする。現地には尾根上に7基ほどの群集墳や平坦面を確認することができるが、明瞭な城郭遺構を確認することはできない。 |
| 脇田(東) | | | | | | 『全誌』には「村の西南一町にあり。山上平地。東西十六間南北八間許。城主を藤田助四郎と云う」と記載される。また下村城と同一の可能性もあるが、確証はない。天神山の所在も不明であるため詳細は不明である。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440265 | | 本文99ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440264 | | 本文99ページ参照。 |
| 脇田(東) | | | | | | 『拾遺』「篠古城址」の記載に、「又(乙野)村南に岳宮とて小山有。城址なりといえども不詳」とある。乙野地内の南側にあるものとみられるが所在不明である。『若宮町史』ではこの城の記載を清水城と推測するが、場所が異なるようである。 |
| 脇田(東) | | | | 440297 | | 『全誌』には「清水城址」として「(乙野)村ノ西二十五町ニアリ。城主清水氏ノ由井伝ふ。山上に三畝許の平地あり」と記載する。乙野の草場城の城主と同じであるが、場所が異なるようである。所在は不明であり、県の分布図に所在が記載されるが、そこは自然地形であり、『全誌』の記載とも異なる場所である。 |
| 脇田(東) | ○ | | | | | 本文101ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440275 | | 本文101ページ参照。 |
| 脇田(東) | | | | | | 『全誌』に「亭鋒山城址」として記載。「村の東北二町にあり。平地二畝許あり。字を白土と云。城主を須川右京と云。」としているが、現在、稲光地内に「白土」の字はなく、所在不明である。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440263 | | 本文102ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | | | 本文104ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | ○ | ○ | | | 本文106ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440262 | | 本文107ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | | | 本文108ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440296 | | 本文108ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | | | 本文109ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440256 | | 本文110ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440295 | | 本文110ページ参照。 |
| 脇田(東) | ○ | | | 440257 | | 本文111ページ参照。 |
| 脇田(東) | | | | | | 『筑前要領』(香月文書)には「山下〇中尾城代　金崎大八郎」とあり、字山下の地内に所在が推定されるが、現在中尾という地名や伝承もなく、所在は不明。ただし、山下城としている城郭がこれにあたる可能性も考えられる。 |
| 脇田(東) | | | | | | 『筑前要領』(香月文書)には中尾城につづいて、「同郷也〇寺山城代　唐防右京進」とあり、字山下の地内に所在が推定されるが、現在寺山という地名や伝承もなく、所在は不明。ただし、山下城としている城郭がこれにあたる可能性も考えられる。 |
| 筑前東郷(東) | | | | | | 『全誌』には「(山口)村の東二町柱松にあり。廣三十間四面。宗像氏砦の由、言伝ふ」とある。小字に「片山」があり、地内の丘陵上にあったとみられるが、現地に城郭遺構は見られず詳細は不明。 |
| 脇田(東) | | | | 440261 | | 文献14の「城趾(とりで)古戦場分布図」での掲載を初出とする。県の分布地図(文献218)では、天の坊山山頂が城地とするが、城主など城に関する情報は他になく、所在はおろか、城の根拠は不明確である。なお、『全誌』では「天王峯(てんのうぼう)」の山岳名があり、これが訛じて「天の坊」となったとみられる。 |
| 脇田(東) | | | | 440274 | | 『筑前要領』(香月文書)には「平村浦山城代　吉田三九郎」とあり、大字平の地内に所在したとみられるが、関連する城館遺構は見つかっておらず、詳細不明。県の分布地図(文献218)には一覧表記載と番号付与はなされているが、地図上には見当たらない。『種々』には平に「浦山城(吉田氏)」、芹田に「平浦山城(吉田氏)」と2つの城が掲載されているが、共にこの城を指しているものとみられる(『教委』でも同様の記載がなされている)。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | 166 | 堀谷城 | ほりたに | 沼口堀谷城 | 鞍手郡 | 宮若市沼口 | 堀ノ内 | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,20,192 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 167 | 都市原城 | とちばる | | 鞍手郡 | 宮若市沼口 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,20,192 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 168 | 竹垣城 | たけがき | 竹原竹垣城 | 鞍手郡 | 宮若市竹原 | | | | | | | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,20,192 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 169 | 上有木城 | かみあるき | | 鞍手郡 | 宮若市上有木 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 170 | 六郎丸城 | ろくろうまる | 榎城 | 鞍手郡 | 宮若市上有木 | 六郎丸 | | | | | | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,18 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 171 | 城崎砦 | じょうざき | 岩永左衛門城 | 鞍手郡 | 宮若市上有木・四郎丸 | 城先（四郎丸） | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | 18 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 172 | 下有木城 | しもあるき | 坂元城・坂本城 | 鞍手郡 | 宮若市下有木・上有木 | 城崎 | | | | | | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,18,192 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 173 | 山崎城 | やまざき | | 鞍手郡 | 宮若市倉久 | | | | | | | | | | | | | | | | 14 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 174 | 四郎丸城 | しろうまる | | 鞍手郡 | 宮若市四郎丸 | 四郎丸 | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | 丘城か | △ |
| 筑前 | 175 | 内山城 | うちやま | 古野城 | 鞍手郡 | 宮若市倉久 | 古殿・古殿の前 | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,18 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 176 | 金丸城 | かなまる | | 鞍手郡 | 宮若市金丸 | 金丸 | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,20,192 | 丘城 | △ |
| 筑前 | 177 | 友池城 | ともいけ | | 鞍手郡 | 宮若市原田 | | | | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 192 | 丘城 | ○ |
| 筑前 | 178 | 鬢鏡山城 | びんかがみやま | 勝山城 | 鞍手郡 | 宮若市金生 | | | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | ○ | 192 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 179 | 金生城 | かのう | 旗山城・白旗城 | 鞍手郡 | 宮若市金生 | 城の内・古城 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | 13,192 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 180 | 長井鶴城 | ながいづる | | 鞍手郡 | 宮若市長井鶴 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14 | 山城 | △ |
| 筑前 | 181 | 宮田城 | みやた | | 鞍手郡 | 宮若市宮田 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13 | 丘城 | △ |
| 筑前 | 182 | 龍ヶ岳城 | りゅう(たつ)がだけ | 龍徳城・粥田城・鶴岳城 | 鞍手郡 | 宮若市龍徳 | 城ヶ谷・町屋敷、辻屋敷、門ノ内・小路・表口・裏口 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,18 **196** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 183 | 祇園岳城 | ぎおんだけ | | 鞍手郡 | 宮若市本城 | 城・城上 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,18, **178** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 184 | 塔ノ峯城 | とうのみね | | 鞍手郡 | 宮若市龍徳・鶴田 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 18 | 山城 | ● |
| 筑前 | 185 | 稲付城 | いなつき | 稲築城・稲村城・龍ヶ岳砦 | 鞍手郡 | 宮若市龍徳 | 稲築 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,18 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 186 | 高取城 | たかとり | | 鞍手郡 | 宮若市龍徳・鶴田 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 18 | 山城 | ● |
| 筑前 | 187 | 草場城 | くさば | 勝野山城・目尾崎城 | 鞍手郡 | 鞍手郡小竹町勝野・新多 | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 14,19 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 188 | 山崎城 | やまさき | 新山崎城 | 鞍手郡 | 鞍手郡小竹町新山崎 | 城尾 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | 13,14,19 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 189 | 権現山城 | ごんげんやま | 権現堂城・吉野城 | 鞍手郡 | 鞍手郡小竹町御徳 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,19 | 山城 | ● |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 脇田(東) | | | | 440259 | | 『筑前要領』(香月文書)には「沼口村堀谷城代　本田備中守」とある。県の分布地図(文献218)では、大字山口との境界にある標高122mの独立丘陵上と推測しているが、当該地は自然地形で城郭遺構は存在しない。またその近辺には字「堀ノ内」が残り、城との関連が推測されるが、関連遺構は見つかっていないため、所在不明と言わざるを得ない。『若宮町史』には既に消滅したとも書かれている。また、文献14の「城趾(とりで)古戦場分布図」には城名の記載はないものの、堀谷城推定地の場所に●が付されており、堀谷城を示しているものと思われる。 |
| 脇田(東) | | | | 440258 | | 『筑前要領』(香月文書)には「沼口村都市原城代　安武七良(郎)左衛門」とある。県の分布地図(文献218)には現在の若宮I.C.付近に推定されているが、詳細は不明。現在、小字に「都市原」(現在、日本陶器の工場地)が残っており、その近辺に所在が推測される。 |
| 脇田(東) | | | | 440260 | | 『筑前要領』(香月文書)には「竹原村竹垣城代　音藤飛騨守」とある。県の分布地図(文献218)では大字平との境に近い丘陵上としているが、現地には城郭遺構はない。また、竹垣の地名や伝承も見られない。竹原地内に存在したと推測されるが、詳細は不明。 |
| 中間(西) | | | | (410074) | | 『筑前要領』(香月文書)には「上有木城代　石川図書介　石川氏祖先」とある。文献14の「城趾(とりで)古戦場分布図」には靡山の北東側にある標高95mの半独立丘陵上に位置が落されているが、現地は自然地形であり、城郭遺構はない。同じく上有木地内の六郎丸城の城主が、上有木城と同じ石川氏とあることから、同一の城を指している可能性も考えられる。 |
| 中間(西) | | | | 410074 | | 『筑前要領』(香月文書)には「六郎丸城　石川代々城主」とある。字六郎丸の地内には、石川氏が代々居住した伝承地があり、現在も石川姓が居住する。低丘陵上に位置し、城というよりは館に近い印象を受けるが、現地は宅地と畑地で地表観察では城郭遺構を窺うことはできない。 |
| 中間(西) | | | | 410013 | | 『附録』・『拾遺』には四郎丸村岩永、同所の上有木村城崎という場所に、高く平たい地に砦の跡があり、岩永左衛門が守っていたとする。靡山の東、有吉病院の北、標高107mの独立丘陵頂部が城地とされているが、自然地形であり、城郭遺構は見られない。 |
| 筑前東郷(東) | | | | | | 『筑前要領』(香月文書)には「下有木村城代　有吉五郎右衛門」とある。また、『全誌』には「坂本城址」として「村の西五町城崎山にあり。城主有吉彦三郎と云」とされる。下有木地内には、「坂元」や「城崎」の小字が残り、その近辺に城地が想定されているが、明確な城郭遺構が存在する所もなく、詳細は不明である。 |
| 筑前東郷(東)/中間(西) | | | | | | 文献14の「城趾(とりで)古戦場分布図」での掲載を唯一の出典とする。山崎集落の背後の尾根上を城地としている。それと思われる尾根上を踏査したが、城郭遺構が見られる場所はなく、詳細は不明である。 |
| 筑前東郷(東)/中間(西)/直方(西) | | | | | | 『種々』に「四郎丸城址」としての掲載を初出とする。城名および四郎丸地内にあること以外は全く情報がなく、詳細は不明である。四郎丸に所在することを考えれば城崎砦との重複の可能性もある。 |
| 中間(西) | | | | 410011 | | 『筑前要領』(香月文書)には「内山城代　古野神九郎　古殿」とある。『宮田町誌』には小字「内山」地内の「大門」の地名の場所に城跡、「古戸野(古殿)」の地名の場所に城主・古野神九郎の墓があるとするが、内山地内の明確な城館遺構は、文献14が示す場所も含めて確認できず、詳細は不明である。 |
| 直方(西) | | | | 440272 | | 『筑前要領』(香月文書)には「○金丸城代　齋藤河内守　○金丸城代　越後式部介」とあり、金丸地内には城館が2か所存在した可能性を示している。しかし、金丸地内には城館遺構は確認できず詳細は不明である。 |
| 直方(西) | | | | 440271 | | 『全誌』には「(原田)村の東北七町にあり。山上平地一反許。村山市之進と云者居れりと云。小寺氏共云」とある。友池の天満宮の裏の丘陵頂部に推定されているが、現地は自然地形の頂部の周囲を平坦面が巡っているが、竹林等による後世の造成とみられ、城郭遺構と認定できず、詳細は不明である。 |
| 直方(西) | ○ | | | | | 本文112ページ参照。 |
| 直方(西) | ○ | | | 440270 | | 本文113ページ参照。 |
| 直方(西) | | | | | | 『筑前要領』(香月文書)には「長井鶴村城代　榎本岩(ママ)見守」とある。長井鶴地内には城館遺構は確認されておらず、詳細は不明である。 |
| 直方(西) | | | | | | 『筑前要領』(香月文書)には「宮田村城代　瓜生兵庫」とある。宮田地内には城館遺構は確認されておらず、詳細は不明である。 |
| 直方(西)/(東) | ○ | | | 410368<br>410369 | | 本文114ページ参照。 |
| 直方(西) | ○ | | | 410356 | | 本文115ページ参照。 |
| 直方(東) | | | | 410377 | | 文献18によれば、光明寺の裏手にある俗称光明寺山山頂に位置するとされるが、現地には自然の平坦地形が見られるのみで城郭遺構は見られず、詳細は不明である。 |
| 直方(東) | | | | 410370 | | 『附録』には龍ヶ岳砦跡とし、『拾遺』には里民によれば内藤掃部、鶴田村西念寺縁起(『全誌』に概要が記載)によれば香井十郎並緑(緒)の居城とする。一方、『筑前要領』(香月文書)には「稲村城主　石見主計助」とある。龍ヶ城から犬鳴川を挟んで東側の稲築山という小丘陵上にあったとするが、採石により消滅しており、詳細は不明である。 |
| 直方(東) | | | | 410376 | | 文献18によれば、鶴田丘陵(龍徳と鶴田の境界)の東端にある高取山山頂にあったとするが、現地は自然の平坦地形が見られるばかりで、城郭遺構は見られず、詳細は不明である。 |
| 直方(東) | | | | 420022 | | 城主等は知られておらず、地誌類では草場古城、『種々』には勝野山城、文献14掲載の「城趾(とりで)古戦場分布図」には目尾崎城として表記される。勝野と新多の境にあたる小丘陵の頂部に位置し、平坦面も見られるが、丘陵全体が後世の耕作等による改変を大きく受けており、城郭遺構が残存しているか否かは不明である。 |
| 直方(東) | | | | 420010 | | 『本編』には井上某が城主であるとし、『拾遺』には里人は中尾山というとする。『筑前要領』(香月文書)には「山崎村城代　井上弾正」とある。遠賀川に面した低丘陵上が城地とされ、現地には切通し状の掘り窪みもみられるが、周囲は自然地形であり、城郭遺構と断定することができず、詳細は不明である。 |
| 直方(東) | | | | 420014 | | 『筑前要領』(香月文書)には「吉野村城主　武谷肥後守」とあるが、『本編』には「城主不知。麻生氏なりにしや」とする。御徳の南、権現山(標高約150m)にあったが、昭和40年代に造成工事が行われた。『福岡県の城』には昭和45年頃にはかろうじて堀切一本が残っていたとあるが、現在は城郭遺構は全て消滅した。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | 190 | 杣城城 | (そましろ) | 仙城城 | 鞍手郡 | 直方市下境 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | 不明 | △ |
| 筑前 | 191 | 鷹取城 | たかとり | 高取(山)城・鷹取山城・高鳥居城・ | 鞍手郡/豊前国田川郡 | 直方市永満寺・頓野・田川郡福智町上野 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 13～15, **58～62, 178,180,193** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 192 | 雲取山城 | くもとりやま | 雲取城 | 鞍手郡 | 直方市上頓野・頓野 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,15 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 193 | 山ノ田城 | やまのた | | 鞍手郡 | 直方市上頓野 | | | | | | | | | | | | | | | | 227 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 194 | 髻砦 | もとどり | 元取城 | 鞍手郡 | 直方市上頓野 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | 13,15 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 195 | 白山城 | はくさん | | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町八尋・宮若市倉久・四郎丸 | | | | | | | | | ○ | | | | | | ○ | 14,192 | 山城 | |
| 筑前 | 196 | 音丸城 | おとまる | 音丸山城 | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町新北 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 16,**57** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 197 | 剣岳城 | つるぎだけ | 尾山城・中山城・剣(山)城 | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町中山・新北 | 城ヶ崎 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,16, **187,209** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 198 | 城腰山城 | じょうのこしやま | 腰(越)山城・新町城 | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町新延 | 城ヶ谷 | | | | ○ | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 13,14,16 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 199 | 古野城 | ふるの | 春日城 | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町木月 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 16 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 200 | 今許斐城 | いまこのみ | 今許斐砦 | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町上木月 | 門前 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 平城か | ● |
| 筑前 | 201 | 金剛城 | こんごう | | 鞍手郡 | 北九州市八幡西区金剛 | 丸の内・門前・アラ堀・馬場尻 | | | | | | | | ○ | | | | | ○ | | 『木屋瀬町誌』174 | 館か | △ |
| 筑前 | 202 | 楠橋城 | くすばし | 城ノ辻砦 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区楠橋 | 城ノ辻・大門・堀 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | 26 | 館か | △ |
| 筑前 | 203 | 茶臼山城 | ちゃうすやま | 香月氏宅・古川館・古川氏宅 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区楠橋 | 殿屋敷・則末屋敷・末兼屋敷 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | 26 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 204 | 香月館 | かつき | 香月七郎則宗宅・香月氏宅・香月城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区上香月・白岩町 | 殿屋敷・上殿 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | ○ | | 26 | 館 | ● |
| 筑前 | 205 | 園田浦城 | そのだうら | 園田城・永犬丸城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区北筑2丁目 | 馬責場・園田 | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 26,**31,67,70,** 174 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 206 | 本城城 | ほんじょう | 蛭子谷城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区本城蛭ヶ谷 | 城山 | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 26,31, 172,174 | 丘城 | ○ |
| 筑前 | 207 | 浅川城 | あさかわ | 陣山城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区浅川 | 陳山 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 31,172,**198** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 208 | 畑城 | はた | 畑山城・白木城・麻生城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区畑 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 26,31, 172,174 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 209 | 馬乗城 | うまのり | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区上上津役3丁目 | 城ノ腰 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | ○ | ○ | 26,31, 172 | 丘城か | ○ |
| 筑前 | 210 | 竹尾城 | たけのお | 上津役城・竹尾山城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区上上津役・市瀬 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 26,31, **172**,174 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 211 | 市瀬城 | いちのせ | 一瀬城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区市瀬 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 26,31, 172,174 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 212 | 別当山城 | べっとうやま | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区別当町 | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | 31,**68**, 172 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 213 | 帆柱山城 | ほばしらやま | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区市瀬・熊手 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 21,26,**31**, 171,172, 174,**178** | 山城 | ◎ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 直方（東） | | | | | | 『種々』に「杣城城址」としての掲載を初出とするが、『教委』掲載の際に「仙城城」と誤記されたとみられ、それ以降の文献では後者の記載となる。また、杣城城自身も直方市中泉所在の杣島館（筑前D24）の事を指している可能性もあるが、詳細については全く不明で、検討を大いに要する。 |
| 金田（西） | ○ | ○ | ○ | 050113 | 103<br>（直方市） | 本文116ページ参照。 |
| 徳力（西） | ○ | | | 050112 | 28 | 本文119ページ参照。 |
| 徳力（西） | ○ | | | | 29 | 本文120ページ参照。 |
| 徳力（西） | ○ | | | | 18 | 本文121ページ参照。 |
| 中間（西） | | | | 430001 | | 文献14を初出とする。鞍手町八尋から宮若市四郎丸へ抜ける白山峠付近に所在する。文献192では峠の北側稜線上の標高163mの頂部に城地を推定するが、後世の改変地形があるのみで、城郭遺構は確認できない。峠の傍の南稜線上には白山神社跡があり、城郭遺構は確認できないが、その周辺が推定地とみられる。ただし、初出文献において城館との根拠が示されていないため、城館としての存在自身、検討を要する。 |
| 中間（西） | ○ | ○ | ○ | 430057 | | 文献122ページ参照。 |
| 中間（西） | ○ | ○ | ○ | 430066 | | 文献123ページ参照。 |
| 中間（西） | | | | 430011 | | 文献124ページ参照。 |
| 中間（西） | | | | | | 文献16には文政3年『書上帳』を引用し、「古野山の内、相庭モットウの城跡と申所御座候、追手、搦手の門跡杯（など）申し伝え候所も御座候」との記載が見られる。古月小学校の敷地がその跡地とされるが、現在は城郭遺構を確認することができない。 |
| 中間（東） | | | | | | 『拾遺』「今許斐古戦場」には「（上木月）村中貴舟社地を今許斐城といふ。遠賀郡猫城の砦有しと云。」とし、天正8年に毛利鎮実・立花道雪の大友方が宗像方の猫城を攻めた際に今許斐にて合戦があったとする。上木月の貴船神社の場所に推定されるが、城郭遺構は見られない。『全誌』には集落内に門前という地名があり、猫城の大手の門にあたるという。 |
| 徳力（西） | | | | | | 『木屋瀬町誌』（1959年・木屋瀬公民館編・木屋瀬町誌編纂委員会発行）には金剛城として、「今尚其跡に丸の内、門前、アラ堀、馬場尻等の地名を残している」とし、応仁年間に落城したのではないかと伝える。大字金剛に門前、大字野面に馬場尻の地名が残るため、金剛から野面あたりの平地に位置するものと思われるが、詳細な場所は不明である。文献174及び『福岡県の城』には「金剛山城」として金剛山山頂に立地する香月氏の出城とするが、誤認とみられる。 |
| 中間（東） | | | | | | 『附録』には「村の西に城の辻といふ所あり。砦の跡なるべし」とし、『拾遺』には「楠橘村古城」として「城ノ辻と云。村南也。城主不詳。村内に大門、堀なと云字あり。」とある。文献25には真楽寺の周辺に大門、堀の字があるとし、その周辺に所在が想定されるが、明確な城館遺構はなく、詳細は不明である。 |
| 中間（東） | | | | | | 『附録』には「黒川茶臼山」として「村の北八町はかりにあり。古城地といふ。城主しれす。平地三四反許あり。濠の跡残れり。」とある。『拾遺』には「村の西八丁斗に在」とし、古川館をこの城とし香月氏家臣の古川弾正左衛門則茂入道順乗の館とする。聖光上人が誕生した専福寺の旧地が茶臼山にあたるとしているが、茶臼山の場所がわからず、詳細は不明である。 |
| 中間（東） | | | | | | 『本編』には香月村内に香月七郎則宗か屋敷があるとし、殿屋鋪のホノケが残るとする。文献26には上殿という所にあるとする。現在、聖福寺の裏側の低丘陵上が字「上殿」であり、そこには延命地蔵堂がある。地蔵堂の傍らには館跡にあったと伝わる一石五輪塔などの石塔類が残されており、その周囲に城地が想定されるが、現状では明確な城郭遺構は残されていない。 |
| 折尾（東） | ○ | ○ | ○ | | 017154 | 本文125ページ参照。 |
| 折尾（東） | | | | | 017081 | 洞海湾を望む蛭子谷の城山と呼ばれる丘陵上に位置していたが、霊園造成により消滅した。「本城」の地名は、源範頼が陣を置いたことに由来するとされ、『拾遺』「本城村古城」には「参河守範頼陣せられし處、近古に麻生重実居城すと云」とある。文献31によると、霊園造成の際には12世紀代の陶磁器類が出土したという。 |
| 折尾（東） | ○ | | | | | 本文128ページ参照。 |
| 徳力（西） | | | | | 017070 | 本文129ページ参照。 |
| 徳力（西）／八幡（西） | | | | | | 『附録』『拾遺』には竹尾城の項目に併せて記載される。『拾遺』には「町上津役の東北、官道に近き所に在。城主知らず」とある。大原団地造成により一部損壊したが、1970年までは堀切の一部が残っていたが、消滅してしまったという（文献172など）。地誌類には城腰という場所にあったとするため、現在、上上津役3丁目に残る小字の場所付近に所在したと見られる。 |
| 徳力（西）／八幡（西） | ○ | | | | 017101 | 本文130ページ参照。 |
| 徳力（西）／八幡（西） | ○ | | | | | 本文130ページ参照。 |
| 八幡（西） | | ○ | ○ | | 017076 | 本文131ページ参照。 |
| 八幡（西） | ○ | | | | 017068 | 本文131ページ参照。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | 214 | 鷹見岳城 | たかみだけ | 高見城・権現山城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区市瀬・八幡東区前田 | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | 31,171,172 | 山城 | ● |
| 筑前 | 215 | 花尾城 | はなお | 花尾山城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区鳴水・熊手・八幡東区前田 | 城ノ尾・北城ノ腰・東城ノ腰・城山・西城ノ腰・南城ノ腰 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | **○** | **○** | 26,**31**,171,172,174,177,**178**,**187** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 216 | 多良倉岳城 | たらくらだけ | | 遠賀郡 | 北九州市八幡東区尾倉 | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | 31,171,172 | 山城 | ● |
| 筑前 | 217 | 尾倉城 | おぐら | 大門城・上ノ山城・小倉陣 | 遠賀郡 | 北九州市八幡東区春の町3丁目 | 城山 | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | ○ | ○ | 21,26,31,172 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 218 | 茶臼山城 | ちゃうすやま | 大蔵城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡東区尾倉 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | **○** | **○** | 21,22,26,31,172 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 219 | 篠谷城 | (ささたに) | 笹原城・篠山城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡東区大蔵1丁目・高見1丁目 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 21,26,31,172 | 山城 | ● |
| 筑前 | 220 | 戸畑城 | とばた | 古宅址 | 遠賀郡 | 北九州市戸畑区(旧戸畑村) | 蔵屋敷・殿小路・蔵藪・堀 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | ○ | ○ | 23,26,31 | 平地城館か | △ |
| 筑前 | 221 | 天賀城 | あまが | | 遠賀郡 | 北九州市戸畑区菅原1～4丁目 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 31,174 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 222 | 浜田城 | はまだ | | 遠賀郡 | 北九州市若松区白山1丁目 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 24,26,31, | 丘城か平地館 | ● |
| 筑前 | 223 | 高塔峰砦 | たかとうみね | 高塔山城 | 遠賀郡 | 北九州市若松区修多羅 | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 22,24,26,31,174 | 山城 | ● |
| 筑前 | 224 | 花房山城 | はなぶさやま | 花房城 | 遠賀郡 | 北九州市若松区畠田・二島 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | **○** | 22,24,26,31,**174**,**187** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 225 | 城ノ崎砦 | じょうのさき | | 遠賀郡 | 北九州市若松区頓田 | 城ノ崎 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | 丘城か | ● |
| 筑前 | 226 | 楽丸城 | らくまる | 安屋城 | 遠賀郡 | 北九州市若松区安屋 | 城ヶ山 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ | ○ | 24,26,31 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 227 | 小敷城 | こしき | | 遠賀郡 | 北九州市若松区小敷 | 城ノ下 | | | | | | | | | | | | | | | **71** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 228 | 古賀城 | こが | | 遠賀郡 | 遠賀郡水巻町古賀 | 古城・立屋敷・内屋敷・城ノ腰・堀ノ上・古屋敷・城山 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 25,27,170,173 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 229 | 猫城 | ねこ | 月瀬城 | 遠賀郡 | 中間市上底井野 | 猫城山・城ノ下 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 25,**174** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 230 | 城之越城 | じょうのこし | 戸切城 | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町尾崎 | 上ノ越 | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | | 山城 | ◎ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 八幡(西) | | | | | 6010 | 吉川家文書等に応安5年(1372)2月の「筑前国多良倉・鷹見嶽両城合戦」における軍忠状が見られるように一次史料では確認でき、今川了俊が攻城したことがわかるが、地誌類等に鷹見岳城に関する記載はなく、鷹見宮の上宮と六坊跡の記載が見られるのみである。権現山山頂(標高617m)に城地が推定されているが、現在は通信用アンテナが建設されており、建設の際には遺物も出土したというが、山頂の往時の様子を窺うことはできない。ただし、戦国時代末期の城郭としての使用は文献からは確認できないため、明確な城館遺構自体が存在したか否かは検討を要する。 |
| 八幡(西) | ○ | | ○ | | 017069・7069 | 本文132ページ参照。 |
| 八幡(西) | | | | | | 吉川家文書等に応安5年(1372)2月の「筑前国多良倉・鷹見嶽両城合戦」における軍忠状が見られるように一次史料では確認でき、今川了俊が攻城したことがわかるが、地誌類等に多良倉岳城に関する記載はない。皿倉山山頂(標高622m)に城地が推定されているが、現在は通信用アンテナが建設されており、建設の際には遺物も出土したというが、山頂の往時の様子を窺うことはできない。ただし、戦国時代末期の城郭としての使用は文献からは確認できなため、明確な城館遺構自体が存在したか否かは検討を要する。 |
| 八幡(西) | | | | | | 『附録』には「尾倉村古城」として「(尾倉)村の西南にあり。麻生鎮里といへる者、小早川隆景卿の与力となり、此城を守れり。」とあり、『拾遺』には「城山と云。」とある。一次史料では『正任記』に文明10年(1478)10月3日に麻生小倉陣より注進状が来たとある。現在、春の町3丁目には大正時代に開かれた浄土宗華頂寺があり、『福岡県の城』によると、華頂寺の境内が城地で、かつては土塁と2か所の堀切があったが、寺院建設の際に消滅したとある。 |
| 八幡(西) | ○ | | | | | 本文135ページ参照。 |
| 八幡(東) | | | | | | 『本編』『附録』では「篠谷古城」とし、『拾遺』以降は「笹原古城」として掲載される。枝光村と大蔵村との境にあり、麻生氏の端城かとする。文献31では「篠山城」として一覧表に記している。現在大蔵1丁目の大蔵中学校用地と隣接する高見1丁目の高見神社の裏山周辺が城地として推定されているが、学校建設に伴う開発により詳細は不明である。皿倉山から北西側へ茶臼山城を経由して派生する低丘陵上にあたり、また近世長崎街道を見下ろす交通の要衝に位置していたとみられる。 |
| 八幡(東) | | | | | | 『本編』『附録』には中島城(若松城・筑前K11)の端城とある。『全誌』には中島城が永承年間の竹内治部の城とあることから、その時代の城郭とみられる。『附録』には「くらやしき」という所に二反ほどの平地があるとし畑となっているとしている。『拾遺』には戸畑村の本村の中にあり、四方に堀切の跡もあるとする。一方で『全誌』では「古宅址」として、竹内治部の家臣の屋敷があったとする。端城が屋敷へと伝承が変わってしまった結果であろうか。文献26には「今の劇場の裏」に堀切があったとするも、現在、場所等も含め、詳細は不明である。 |
| 八幡(東) | | | | | | 文献174には「麻生氏の出城で、天賀二郎三郎永行の居城であったとし、現在の菅原公園から大谷住宅一帯に城地で、菅原公園の一角に永行の墓と伝わる石塔を記載するが、遺構は現存しないとしている。ただ『北九州の城』よりも遡る典拠は、天賀城自体はもとより天賀氏についても見当たらず、詳細は全く不明である。 |
| 八幡(西) | | | | | | 『本編』には麻生氏の城とあるのみで、詳しい記載は見られない。『元禄十二年筑前国絵図』の写しに「濱田古城」との記載が見られる。そして文献22には「市内修多羅の小高き所、今市立病院所在の地にて、附近に濠の跡ありしと云」とあり、現在の白山1丁目の住宅地(旧若松病院跡地)にあったとみられるが、早くに住宅地化しており、城郭遺構を確認することはできない。 |
| 八幡(西) | | | | | 5043 | 『拾遺』の「濱田古城」の項に「高塔峰と云地に砦の跡有。平地南北廿五間斗。東西五間斗。周りに堀の跡など残れり。山上に石佛有」とある。『元禄十二年筑前国絵図(写)』には高頭山に「古城」の記載が見られる。『全誌』には「麻生氏の端城にて大庭隠岐守と云士居たりと云」とある。高塔山山頂(標高122m)にあったが、早くに公園造成がなされてしまい、詳細不明なまま城郭遺構は消滅したとみられ、現状では何も確認することはできない。 |
| 八幡(西) | | ○ | | | 5029 | 本文136ページ参照。 |
| 岩屋(東) | | | | | | 『全誌』に「城ノ崎」として「(頓田)村の北十五町、海に臨める小山なり。砦趾なりと云。詳なる事しれず」とあり、頓田地内の臨海部に砦の存在を指摘するが、他には全く出典はない。現在頓田の臨海部は柳崎町の発電所として埋め立て造成がなされており、往時の状況は不明であるが、昭和25年の国土地理院地形図は埋め立て前の状況を示しており、頓田の沿岸部に「城ノ崎」と記載された岬がある。現在は発電所の建物となっている場所と想定され、既に消滅しているとみられる。 |
| 岩屋(東) | ○ | | | | | 本文136ページ参照。 |
| 折尾(東) | | ○ | ○ | | | 本文137ページ参照。 |
| 折尾(西) | ○ | | | | 22 | 本文138ページ参照。 |
| 中間(東) | ○ | | | 160018 | 59 | 本文139ページ参照。 |
| 折尾(西) | ○ | | | | | 本文140ページ参照。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | 231 | マルビ砦 | まるび | | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町若松 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | 25 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 232 | 五郎城 | ごろう | | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町島津 | | | | | | | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | 25 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 233 | 山鹿城 | やまが | | 遠賀郡 | 遠賀郡芦屋町山鹿 | 城山・城ヶ浦 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 26,28,**174** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 234 | 大城城 | だいじょう | | 遠賀郡 | 遠賀郡芦屋町大城 | 大城前・大城 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | ○ | | 26,28 | 丘城か | ○ |
| 筑前 | 235 | 碁石山城 | ごいしやま | 安口判官城 | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町吉木 | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | 25 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 236 | 隆守城 | たかもり | | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町吉木 | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | 平地城館か | △ |
| 筑前 | 237 | 岡ノ城 | おかの | 腰山城・城越城 | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町吉木西1丁目 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 25,30,**174**,**212** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 238 | 龍昌寺山城 | りゅうしょうじやま | 鍋倉城 | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町高倉 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | 30 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 239 | 熊山城 | くまやま | 熊鰐宅 | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町三吉 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | 25,30,**212** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 240 | 龍王山城 | りゅうおうやま | 八竜城・竜王城 | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町三吉・手野 | | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 丘城 | ● |
| 筑前 | 241 | 雨乞山城 | あまごいやま | 三吉城・手野城 | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町手野・三吉 | 城ヶ原 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 25,30,**207** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 242 | 海蔵寺城 | かいぞうじ | 海蔵寺戦城 | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町内浦 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | 25 | 山城 | ● |
| 筑前 | 243 | 白山城 | はくさん | | 宗像郡 | 宗像市山田 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,37,**207** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 244 | 吉田城 | よしだ | 十郎ヶ城 | 宗像郡 | 宗像市吉田・江口 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,37,207 | 山城か | |
| 筑前 | 245 | 城ノ腰城 | じょうのこし | 地島城 | 宗像郡 | 宗像市地島 | 城腰 | | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,35,**207** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 246 | 勝島城 | かつしま | | 宗像郡 | 宗像市神湊 | 城ノ辻 | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,35,207 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 247 | 草崎城 | くさざき | 四塚城・草崎山城 | 宗像郡 | 宗像市神湊 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,35,**207** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 248 | 大島城 | おおしま | | 宗像郡 | 宗像市大島 | 城山 | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,36,**207** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 249 | 草場城 | くさば | 平等寺城・草場山城 | 宗像郡 | 宗像市平等寺 | 城の口 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,37,**210** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 250 | 上山堡 | かみやま | | 宗像郡/遠賀郡 | 宗像市山田・遠賀郡岡垣町高倉 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | 210 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 251 | 蔦岳城 | つただけ | 岳山城・赤間山城・赤馬山城・城山城 | 宗像郡/遠賀郡 | 宗像市陵厳寺・遠賀郡岡垣町上畑 | 一ノ丸・二ノ丸・三ノ丸・芦屋堀・新堀・馬立場・馬責場・廣丸・城道・陣尾・先陣楠・屋形口・大門口・赤城・城腰・城ヶ谷・城山・城 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,37,**199**,**207**,**210** | 山城 | ◎ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 折尾(西) | | | | | | 『全誌』には「堂塔寺山の左右をマルビと云。砦ありし由言伝ふ」とある。堂塔寺山は遠賀川支流の西川西岸の標高10m足らずの低丘陵で、薬師山ともいい、堂塔寺があったとされるが、永禄年間に大友氏によって兵火にかかり廃絶したという。現在、堂塔寺のある低丘陵に城地が想定されるが、城郭遺構は見られず詳細は不明。 |
| 折尾(西) | | | | | | 『全誌』には、「(島津)村の東北一町許に平地二段五畝の所ありて、圃となれり。猪股五郎左衛門が居宅の址と云」とある。猪股五郎左衛門については『拾遺』に永享年間の人物と記す。堂塔寺山に推定されるマルビ砦から西川を挟んだ東側、標高14mの低丘陵上が城跡と伝えるが、後世の耕作等の改変が激しく、現状では城郭遺構は確認できず、詳細は不明である。 |
| 折尾(西) | ○ | | ○ | 400026 | 47 | 本文141ページ参照。 |
| 折尾(西) | | | | | | 『附録』には「麻生氏砦跡なるべし」とあり、城の東四町に大塚といふ2つの塚があるとする。『全誌』には「大城城址」として「(芦屋)村の東三町許に大塚小塚とてあり。城址と云。石垣の形猶のこれり。蒲冠者範頼、平氏を攻め下りし時、此所に居れりと云」とある。大字大城地内には、小字「大城」があり、そこに城地が推定されるが、現状では果樹園あるいは航空自衛隊芦屋基地の敷地となっており、城郭遺構を確認することはできず、詳細は不明である。 |
| 吉木(東) | | | | | | 『附録』には「城主しれず。むかし安楽院ありし地也」とある。『全誌』には「碁石山」として「岡松原(三里松原)の中、浜山の小高き所にあり。此所に丸き小石多し。因て碁石山と云。今も小礫堆く積めり。古安楽寺のありし地にて、安口判官が籠りし所と云」とあり、『種々』では「安口判官城(碁石山)」の名がみえる。吉木の安楽院の背後には、三里松原の砂丘が広がっており、標高46mの最高所が碁石山とみられ、そこに城地が想定されるが、砂の松林が広がるのみ(所々に円礫あり)で、城郭遺構は確認できない。伝承地にとどまる可能性も考えられる。 |
| 吉木(東) | | | | | | 『種々』に「岡ノ城址」と共に「隆守城址」の名を挙げているのが、初出で詳細は不明である。『附録』「吉木村」の項などには、「堀と云所に、麻生河内守隆守居たりし時の堀跡残れり。ゆえにほりと云」とあり、麻生隆守の居館跡と伝えているが、このことを指していると思われる。現在の小字には「堀」はないが、岡城の東側には「堀毛」という小字など関連地名もあるため、岡城周辺にあるものと思われる。しかしその一方で、『城郭』には岡城の別称として隆守城をあげており、岡城を指している可能性も考えられ、詳細は不明である。 |
| 吉木(東) | ○ | ○ | | 390089 | 390089 | 本文143ページ参照。岡垣町指定文化財。 |
| 吉木(東) | ○ | | | | 390236 | 本文144ページ参照。 |
| 吉木(東) | ○ | | | | | 本文144ページ参照。 |
| 吉木(東) | | | | | | 近世～近代の地誌類には龍王山城か竜王古城として記される。『拾遺』「竜王古城」には「三吉村の西南八龍山の上に在。此山龍王社ある故に龍王城と云。山頂平地四畝斗有。」とある。三吉集落の南、字「八竜」にある山崎神社がかつての龍王神社の場所で、その社殿の背後、標高105mの山が「竜王山」であり、その山頂部に城地が推定される。しかし、現地は自然の平坦地形が見られるばかりで、城郭遺構を確認することはできず、詳細は不明である。なお、八竜城という別称の初出は、『福岡県の城』である。 |
| 吉木(東) | ○ | | | 390074 | 390074 | 本文145ページ参照。 |
| 吉木(東) | | | | | | 文献25に「海蔵寺戦城址」とあるのが初出で、「大字内浦の西南六町余にあり。麻生河内守隆守が戦死の趾なり」とあるが、これは『全誌』の「海蔵寺谷戦場」の項の記事とほぼ同じであるため、これに拠っていることが想定される。なお、遠賀郡と宗像郡との境に聳える湯川山の東側の山麓近くある福聚山海蔵寺は、岡ノ城主・麻生隆守が戦死した地として、近世～近代の地誌類に記されるが、これは「村の西南五町」の場所にあるため、海蔵寺かその周辺に城地が想定されるものの、古戦場を初出とする記載のため、城郭遺構があった可能性は低いとみられる。 |
| 吉木(東) | ○ | | | | 00100 | 本文146ページ参照。 |
| 吉木(西) | | | | | 00080 | 『本編』には「大宮司三十七代氏仲居城なりしと云」とあり、『全誌』には「(吉田)村の西四町、山上に平なる所二反許あり。五月浜に近し。里民は十郎カ城と云」とある。文献35では吉田と江口との境に聳える丘陵上の最高所(前障子山(標高98m))及び西側頂部に曲輪があるとしているが、現状では自然の平坦地形があるのみであり、城郭遺構は確認できず、詳細は不明である。 |
| 神湊(東) | | | | | | 本文147ページ参照。 |
| 神湊(東) | | | | | | 本文147ページ参照。 |
| 神湊(東) | ○ | | | 320198 | 215(旧玄海町)・00024(宗像市) | 本文148ページ参照。 |
| 神湊(西) | ○ | | | | | 本文149ページ参照。 |
| 筑前東郷(東) | ○ | | | | 00184 | 本文150ページ参照。 |
| 筑前東郷(東) | ○ | | | | | 本文150ページ参照。 |
| 筑前東郷(東) | ○ | | | 330785<br>390164 | 00278(宗像市)<br>・390164(岡垣町) | 本文151ページ参照。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | 252 | 茶臼山城 | ちゃうすやま | | 宗像郡 | 宗像市三郎丸 | 一ノ構口・二ノ構口 | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | O | 207,210 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 253 | 今井城 | いまい | | 宗像郡 | 宗像市三郎丸2丁目 | 今井城 | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,37,210 | 丘城か平地城館 | ○ |
| 筑前 | 254 | 城腰城 | じょうのこし | 石丸城 | 宗像郡 | 宗像市石丸4丁目 | 城ノ越 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,37,210 | 丘城か | ○ |
| 筑前 | 255 | 城棒城 | じょうがぼう | 田久城 | 宗像郡 | 宗像市田久 | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,37,210 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 256 | 名残城 | なごり | 徳重城・橡城・縁城 | 宗像郡 | 宗像市名残 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | O | 33,37,207,210 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 257 | 冨地原城 | ふじわら | | 宗像郡 | 宗像市冨地原 | 城ノ根 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | 山城か丘城 | △ |
| 筑前 | 258 | 城浦堡 | じょうがうら | 朝町城・朝城 | 宗像郡 | 宗像市朝町・名残 | 城ヶ浦・堀田 | | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,37 | 山城 | ● |
| 筑前 | 259 | 大障子城 | だいしょうじ | 津瀬城・多礼城・瀧口城 | 宗像郡 | 宗像市多礼 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,35,207 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 260 | 片脇城 | かたわき | 秋葉山城 | 宗像郡 | 宗像市田島 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | O | O | 33,35,179,207 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 261 | 勝浦岳城 | かつらだけ | 桂岳城 | 宗像郡 | 福津市勝浦・宗像市田島 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | O | ○ | 33,38 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 262 | 大穂城 | おおぶ | | 宗像郡 | 宗像市大穂 | 湯園 | | | | | | | | | | | | | | ○ | | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 263 | 許斐岳城 | このみだけ | 許斐山城 | 宗像郡 | 宗像市王丸・福津市八並 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | O | O | 33,34,37,174,207 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 264 | 吉原里城 | よしわらの | 許斐里城 | 宗像郡 | 福津市八並 | 侍部殿谷(十殿谷)・右近屋敷 | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 34 | 平地城館か | ● |
| 筑前 | 265 | 宝林城 | ほうりん | | 宗像郡 | 福津市本木 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 34 | 不明 | ○ |
| 筑前 | 266 | 城の浦城 | じょうのうら | | 宗像郡 | 福津市本木 | 下城ノ裏・城ノ裏 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,34 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 267 | 蠟蛞羽子城 | けらはご | | 宗像郡 | 福津市本木 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,34 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 268 | 高宮城 | たかみや | 高宮山城 | 宗像郡 | 福津市畦町 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,34 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 269 | 冠山城 | かんむりやま | 冠城・手光城 | 宗像郡 | 福津市手光 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | O | 33 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 270 | 宮地岳城 | みやじだけ | | 宗像郡 | 福津市宮司 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | O | ○ | 33,38 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 271 | 亀山城 | かめやま | | 宗像郡 | 福津市福間駅東3丁目 | 切寄 | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 33,34,184,190 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 272 | 上西郷城 | かみさいごう | | 宗像郡 | 福津市上西郷 | 城山・城 | | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 33 | 丘城か | ○ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 筑前東郷（東） | ○ | | | | 00275 | 本文153ページ参照。 |
| 筑前東郷（東） | | | | | | 『附録』の三郎丸村の項には、「土穴村堺に丸く低き山あり。今井某が住し所といふ」とあり、『拾遺』には「今井城と云」とされる。一方、『全誌』では「今井城」として、「（宗像）氏貞の臣、小樋太郎左衛門が宅址なりと云。古来此地に住る者、皆小樋氏なり。其子孫なるべし」とあり、近世と近代の地誌類で城主名が異なっている。現在、三郎丸に残る小字「今井城」地内にある翁社あたりに城地が求められるが、現在は宅地開発が行われており、現状ではまったくわからないし、宅地開発に伴う事前調査でも城館遺構は確認されておらず、詳細は不明である。 |
| 筑前東郷（東） | | | | | 00360 | 『本編』には「城の腰の城と云。城主しれず」とある。また、『全誌』「赤馬山城址」の項には、「赤城、城腰、草場とて、三所に番所を設けたり」とあり、この「城腰」がこの城館を指すのであれば、蔦岳城の番所として機能した可能性も考えられる。現在、石丸には小字「城ノ越」の地名があり、そこにある小丘陵が城地が推定されるが、後世に改変もあり、明確な城館遺構は見られず、詳細は不明である。 |
| 筑前東郷（東） | | | | | | 『附録』に「ヂャウガボウといふ所に古城地あり。宗像の臣石松加賀守といへもの守れり」とある。『全誌』には「城棒城址」として、「村の西大船頭の上なる山、城棒と云所にあり。平地一反許り、三段に切平せり。」とある。「田久城」の初出は『教委』である。田久地内の西部は低丘陵地帯であるが、東海大学福岡短大等の施設によりかなり地形が改変されているため、既に消滅してしまった可能性が高い。文献37などでは福岡短大の北側の裏山一帯を想定しているが、城郭遺構を確認した記録もなく、詳細は不明である（本事業では未踏査）。 |
| 筑前東郷（東） | ○ | | | 330297 | 00475 | 本文154ページ参照。 |
| 筑前東郷（東） | | | | | | 『全誌』冨地原村の項に「古城址」として、「村の東南、大平山の内に一反許平地あり。又麓に城ノ根と云田字あり。旧記に古城ありと云るは此ならんか。詳なる事はしれず」とあり、唯一の記載となっている。大平山は『本編』には宗像郡名残村と鞍手郡上有木村の境にある山とし、山の西南に名引山（靡山）があるとする。大字富地原地内の南の山中にあることは推測できるものの、詳細な構造はおろか場所も不明である。 |
| 筑前東郷（東） | | | | | | 『拾遺』には「（朝町）村の東方鞍手郡の境に丸山あり。城と云。其下の谷を城浦といふ。山上平地少し有。堡のたくひなるべし」とあり、暦応・康永年間頃の朝町村地頭の佐々月（朝町）孫太郎入道禅恵の居所であったとする。『全誌』では「城浦堡址」として名を挙げる。『教委』以降は、地名を採って「朝城」としているが、本来的には「朝町城」とすべきであろう。自由ヶ丘の住宅街の最南端の南側の谷が字「城ヶ浦」で、その谷の南東側、大字名残との境の頂部（標高155m）が、通称「城ヶ浦山」であり、山頂部は自然の平坦地形しかないが、周辺からは古代～中世の土師器片を採集することができ、この場所に城地を想定することができる。なお、山の北側麓、名残地内に堀田池がある。「堀田」などの小字名はないが、この城の関連した地名の可能性がある。 |
| 筑前東郷（西） | ○ | | | | | 本文154ページ参照。 |
| 筑前東郷（西） | ○ | | | 320214 | 102（旧玄海町）・00116（宗像市） | 本文155ページ参照。 |
| 筑前東郷（西） | ○ | | | 350197 | | 本文156ページ参照。 |
| 筑前東郷（西） | | | | | | 本文157ページ参照。 |
| 筑前東郷（西） | ○ | | | 340058 | 40001（旧福間町）・00538（宗像市） | 本文157ページ参照。 |
| 筑前東郷（西） | | | | 340056 | 40003（旧福間町） | 『拾遺』「許斐岳古城」では「八並村の西南吉原の人家の上に治部谷左近屋舗など云所有。是許斐城の里城の址にて、此所即彼城の追手口なりしといふ。其南に古賀原有。立花勢の陣せし址也」とある。永禄4年の宗像氏貞感状では、立花勢が「吉原里城」を攻撃したことに対し、占部八郎が防戦したことがわかる。この時の大友方の感状からは「許斐之里城」を攻撃したことがわかることから、同一のものを指している。文献34には、許斐岳の西麓、八並の吉原には侍部殿谷（十殿谷）や右近屋敷という地名が残り、永禄年間の戦いで戦死した吉原源内左衛門の墓などが残され、その墓の奥、細い谷と谷の間の丘陵上に城地が想定されている。ただ、城郭遺構が確認されていないため、詳細は不明である（本事業では未踏査）。 |
| 筑前東郷（西） | | | | 340068 | 70001（旧福間町） | 文献34に「宝林城趾」として「御鷹ヶ原にあり。豊臣秀吉島津征伐の際、宝林城主赤星将監、秀吉に敵対し、加藤清正より亡ぼさる伝説あり。本木桑野家に宝林山合戦の古き講談本有り」とある。本木公民館の東の低丘陵上には宝林寺跡などもあり、城地のおよその場所はわかるが、明確な城館遺構はなく、詳細は不明である。 |
| 筑前東郷（西） | | | | 340070 | 70005（旧福間町） | 『拾遺』には「本木村の南に在。西法寺に近し」とある。『福間町史 資料編2』（福間町1998年）では西法寺の裏山は「城山」と呼ばれていたことが記される。西法寺の南西側の丘陵頂部（標高105m・字「城ノ浦」）に城地が想定されるが、若干の平坦地形が残るのみで明確な城館遺構はなく、詳細は不明である。 |
| 筑前東郷（西） | | | | 340066 | 70032（旧福間町） | 『本編』には宗像氏の家臣、許斐兵部少輔が守城し、敵方・立花方の鵜ヶ岳の城と相対したとする。本木集落の北西の丘陵上（標高100m）は、『福間町史 資料編2』（福間町1998年）によると、天保9年（1838）に四国八十八ヶ所霊場の一つ「蠑蛞羽子大師」の跡で、瓦や石材が散布する。ここが城地と想定されるが、若干の平坦地形は見られるものの、明確な城館遺構はなく、詳細は不明である。 |
| 筑前東郷（西） | ○ | | | 340064 | 70051（旧福間町） | 本文160ページ参照。 |
| 津屋崎（東） | ○ | | | 340014 | 10005（旧福間町） | 本文160ページ参照。 |
| 津屋崎（東） | ○ | | | 350178 | | 本文161ページ参照。 |
| 津屋崎（東） | ○ | | | | 60038（旧福間町） | 本文162ページ参照。 |
| 津屋崎（東） | | | | | 60025（旧福間町） | 『拾遺』には村の南にある「城」と呼ばれる山があり、天満宮が所在するとある。『全誌』には「城地三段許あり。圃となる」とある。現在、大字上西郷地内には字ジョウと呼ばれる場所があり、そこが城地とみられ、丘陵が広がるが、明確な城郭遺構は確認されておらず、詳細は不明である。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | 273 | 飯盛城 | いいもり | 飯盛山城 | 宗像郡 | 福津市内殿 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | O | O | 33,190 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 274 | 鵜岳城 | つぐみがたけ | 鵜ノ木城・津久見ケ城 | 宗像郡／糟屋郡 | 福津市本木・舎利蔵 古賀市薦野 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | O | 184,190 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 275 | 小松岡砦 | こまつがおか | 薦野氏邑城 | 糟屋郡 | 古賀市薦野 | 古屋敷 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | O | 190 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 276 | 臼ヶ岳城 | うすがたけ | 薦野臼岳城・茶臼山城 | 糟屋郡 | 古賀市薦野 | 城の山 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | O | 181,190 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 277 | 鷺城 | さぎ | 鷺代城・鷺白城 | 糟屋郡 | 古賀市薀内 | 城ノ谷・城ノ裏 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | 190 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 278 | 米多比城 | ねたび | | 糟屋郡 | 古賀市米多比 | 先城倉 | | | | | | | | | | | | | | O | 181,190 | 山城・丘城 | ◎ |
| 筑前 | 279 | 新城山城 | しんじょうやま | 青柳新城 | 糟屋郡 | 古賀市青柳町・谷山 | 新城 | | | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 190 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 280 | 四万城 | しまん | 四方城 | 糟屋郡 | 古賀市青柳町 | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 190 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 281 | 古子城 | ふるこ | 古子山城 | 糟屋郡 | 古賀市青柳 | | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | ○ | 181,190 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 282 | 佐谷城 | さたに | 飛尾城 | 糟屋郡 | 糟屋郡須恵町佐谷 | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 41 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 283 | 高鳥居城 | たかとりい | 鷹取城 | 糟屋郡 | 糟屋郡須恵町須恵・上須恵 篠栗町篠栗 | 岳城・城山 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | O | O | 41,191 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 284 | 草葉城 | くさば | 草場城 | 糟屋郡 | 糟屋郡篠栗町篠栗 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 40,80 | | ◎ |
| 筑前 | 285 | 飯盛山城 | いいもりやま | | 糟屋郡 | 糟屋郡篠栗町金出 | 陣が嶺（田尾） | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | O | ○ | 40,80 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 286 | 丸山城 | まるやま | 城山城 | 糟屋郡 | 糟屋郡粕屋町大隈 | 大城戸・辻畑 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | O | 80 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 287 | 焼地山城 | やきじやま | | 糟屋郡 | 糟屋郡粕屋町大隈 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 丘城か | ● |
| 筑前 | 288 | 丸山城 | まるやま | | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町久原 | | | | | | | | | | | | | | | | 219,240 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 289 | 白山城 | （しらさん） | | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町猪野・久原 | | | | | | | | | | | | | | | | 219,240 | 山城か | △ |
| 筑前 | 290 | 上山田城 | かみやまだ | 田代城・南ヶ浦砦 | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町山田・久原 | 古城 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 42,190 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 291 | 下山田城 | しもやまだ | | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町山田・新宮町立花口 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 42,200 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 292 | 立花山城 | たちばなやま | 立花城 | 糟屋郡 | 糟屋郡新宮町立花口・原上、久山町山田、福岡市東区下原・浜男・香椎 | 城ノ越・陣山 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | O | O | 39,43,178,181,195,202,208,213 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 293 | 御飯ノ山城 | おいのやま | 老ノ山城 | 糟屋郡 | 福岡市東区香椎3丁目 | 里城 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | O | 39,76,182 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 294 | 杉山城 | すぎやま | | 糟屋郡 | 福岡市東区香椎・水谷 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | 丘城か | ○ |
| 筑前 | 295 | 稲居塚城・金居塚城 | いないづか・かねいづか | 上月隈城 | 席田郡 | 福岡市博多区月隈1丁目 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 184,190,204 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 296 | 古野城 | ふるの | | 那珂郡 | 福岡市南区南大橋1丁目 | 城ヶ尾 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 丘城 | ◎ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 脇田(西) | ○ | | | 340077 | 100007<br>(旧福間町) | 本文162ページ参照。 |
| 脇田(西) | ○ | | | 340080 | 100001<br>(旧福間町) | 本文163ページ参照。 |
| 脇田(西) | ○ | | | | | 本文163ページ参照。 |
| 脇田(西) | ○ | | | 250092 | 2500134 | 本文164ページ参照。 |
| 脇田(西) | | | | | | 『附録』に莚内村の項、「愛宕社」の「鷺代山にあり。里民此所を城址と言」が初出である。『拾遺』には「山上に堀切二段に在。城主詳ならず」とある。莚内の東、大根川に架かる鷺白橋の北側、熊野神社のある丘陵地が城地と推定される。周辺には字「城ノ谷」「城ノ裏」などの関連地名も残るが、丘陵上には城館遺構は見られず、詳細は不明である。 |
| 脇田(西) | ○ | | | 250094 | 250122 | 本文164ページ参照。 |
| 脇田(西) | | | | | | 『本編』では「青柳町古城二所」として「青柳町の東、谷山村との境に古城有。新城と云。高き城山也。立花氏家臣の居たりし所といふ」とある。文献190では、青柳町と谷山の境にあたる丘陵上を城地と推定しているが、現地には明確な城郭遺構はない。また、周辺の丘陵は採石によってかなり損なわれているため、既に消滅してしまった可能性も考えられるため、詳細は不明である。 |
| 脇田(西) | | | | | | 本文166ページ参照。 |
| 古賀(東) | | | | | | 本文167ページ参照。 |
| 太宰府(西) | | | | 290102 | 290217 | 本文167ページ参照。 |
| 篠栗(西) | ○ | | ○ | 240075・<br>290085 | 240353<br>(篠栗町)・<br>290068<br>(須恵町) | 本文168ページ参照。 |
| 篠栗(西) | ○ | | | 240076 | 240289 | 本文169ページ参照。 |
| 篠栗(西) | ○ | | | 240077 | 240067 | 本文170ページ参照。 |
| 福岡(東) | ○ | ○ | ○ | 280069 | 280150 | 本文170ページ参照。 |
| 福岡(東) | | | | | | 『拾遺』の「丸山古城」の項には「(多々良)川の南に在を焼地山といふ。丸山と相対へり」とあり、割註として「或説に焼地山、古城と有」とされ、丸山の多々良川を挟んだ独立丘陵、焼地山に城館が存在した可能性を指摘する。『全誌』にも同様の記載がなされるが、町教育委員会の踏査結果によると、山中には古墳はあるが明確な城館遺構はなく、詳細は不明である。丸山と焼地山の間は、平地が狭隘となり、「勢門河内の吭咽」と称される交通の要衝であり、焼地山は砦などの城館の存在にふさわしい場所ではある。 |
| 篠栗(西) | | | | 270035 | 270163 | 1979年発行の福岡県遺跡等分布地図(文献219)を初出とし、「丘陵、元亀年間、平地」と概要が記されるのみである。久原川上流南岸の上久原集落に近い丘陵上に比定されている。現地には安政年間の五穀神の石碑があり、かつて社殿があったと思われる平坦面が残る。地元では「まるふね山」と呼ばれているが、城館に関連した伝承等は一切みられず、存在の是非も含めて詳細は不明である。 |
| 脇田(西) | | | | 270034 | 270041 | 1979年発行の福岡県遺跡等分布地図(文献219)を初出とし、「山頂、伝永禄6年」と概要が記されるのみである。久原川最奥部、犬鳴山に近い山中の頂部に比定されている。「白山」はやや麓よりの白山頭光寺(首羅山遺跡)にちなむと思われるが、「白山城」の比定地を城とする根拠が一切なく、現状ではその存在の是非も含め、詳細は不明と言わざるを得ない。 |
| 福岡(東) | ○ | | | 270037 | 270015 | 江戸時代の地誌類には上山田村の南あるいは西にあり、「古城」というとされる。文献42には「南が丘の山上に址がある。後年、田代氏が居を構え、田代城とも言われる」とある。上山田集落の南、久山中学校の北側の丘陵上が城地とされる。現在、ここは字「南ヶ浦」であるが、組合名称に「南が丘」が残り、麓には田代姓の住民も見られ、推定地としては問題ない。しかし、丘陵頂部は長さ50mを超える大きな平坦地形が見られ、単郭の城の平坦面としては大きすぎ、また堀などの防御遺構も見られない。そして周囲には耕作等による改変地形も多く見られることから、明確な城館遺構は不明と言わざるを得ない。 |
| 古賀(東) | ○ | | | 270038 | 270042 | 本文171ページ参照。 |
| 古賀(東)/<br>福岡(東) | ○ | | | 260038<br>・270033 | 260138<br>(新宮町) | 本文172ページ参照。 |
| 福岡(東) | ○ | ○ | ○ | | 020015 | 本文180ページ参照。 |
| 福岡(東) | | | | | | 『附録』に「杉山古城」として「御飯山古城」と共に名が挙がる。ただし他の地誌類では「杉山古戦場」として記され、足利尊氏の多々良浜合戦において阿蘇大宮司が討死した合戦地とされるため、城館というよりは合戦地、陣跡の可能性が高い。『拾遺』には香椎宮浜の鳥居より本社に参る道の右の小山を杉山というとあるが、現在、香椎には字「杉山」の地名が残されるものの、周辺は宅地化が進み、詳細は不明と言わざるを得ない。 |
| 福岡南部<br>(東) | ○ | | | | | 本文182ページ参照。 |
| 福岡南部<br>(西) | | | | | | 本文183ページ参照。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | 297 | 天浦城 | あまうら | 天満城・天裏城・白水城 | 那珂郡 | 春日市下白水6丁目・泉1・2丁目 | 城のヤネ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 46,194 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 298 | 中原城 | なかばる | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町中原 | 城・城ノ山 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | 45 | 丘城か | △ |
| 筑前 | 299 | 新城山城 | しんじょうやま | 隈本ノ城 | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町西隈 | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | **211** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 300 | 老林城 | おとなばやし(ろうりん) | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町別所 | 城山・城林谷 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 45,**215** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 301 | 龍神山城 | たつかみやま | 山田ノ城・安徳城・岩門城 | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町安徳・山田・上梶原 | 城山・城ノ下・山城 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | **133,194, 201,215** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 302 | 城ノ腰城 | じょうのこし | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町上梶原・山田 | 城ノ越 | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 山城 | △ |
| 筑前 | 303 | 猫嶺城 | ねことうげ | 猫尾ノ城・猫城 | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町不入道 | 猫城 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 45,**190,194, 215** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 304 | 藤原城 | ふじわら | 会下城 | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町南面里 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | 45 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 305 | 鷲ヶ岳城 | わしがたけ | 滑城 | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町南面里 | 城の谷 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | **○** | **○** | **190,206** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 306 | 大丸城 | おおまる | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町南面里 | 大丸 | | | | | | | | | | | | | | ○ | 229 | 山城 | ○ |
| 筑前 | 307 | 一ノ岳城 | いちのたけ | 五箇山城 | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山・市ノ瀬 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | **○** | ○ | **201,215** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 308 | 亀ノ尾城 | かめのお | 虎ヶ岳城・笹城 | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山・市ノ瀬 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | **201,215** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 309 | 白土城 | しらつちが | 猫城 | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山 | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | | 丘城 | ● |
| 筑前 | 310 | 七曲城 | ななまがり | | 那珂郡／肥前国 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山・佐賀県三養基郡みやき町原古賀 | | | | | | | | | | | | | | | | **54**,229 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 311 | 鳥飼城 | とりかい | | 早良郡 | 福岡市中央区鳥飼2丁目 | 茶屋の内・土井ノ内 | | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | | 平城城館 | △ |
| 筑前 | 312 | 小田部城 | こたべ | 小田部氏宅・月城・堀ノ内城 | 早良郡 | 福岡市早良区有田2～3丁目 | 堀内・築城・館屋敷 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | ○ | ○ | 47,186 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | 313 | 茶臼城 | ちゃうす | | 早良郡 | 福岡市早良区重留 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 47 | 山城か | ● |
| 筑前 | 314 | 莵道岳城 | うじだけ | 東入部城 | 早良郡 | 福岡市早良区東入部 | 駒留殿・長別当・ヌル木殿・安上殿・立石殿・八尋殿 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | 47 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 315 | 安楽平城 | あらひら | 荒平城 | 早良郡 | 福岡市早良区東入部 | 城原・大手・門貫・陣尾 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | **○** | **○** | 47,169, **181,190** | 山城 | ◎ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 福岡南部（東） | | | | | | 『本編』には「下白水村にあり。むかし島鎮慶といへる者の居城なりしとかや」とし、一ノ岳城の出城とする。『附録』では「里民ハ齋藤左馬頭と言士居たりし」とする。『種々』には「天満城（天裏城・白水氏）」とある。文献46によると、昭和35年ころまでは下白水集落の北側、標高30m程度の低丘陵上を「城のヤネ」と呼び、字図を見ると、三方向を方形に巡る堀状の区画が認められるが、現在は泉・下白水の住宅街に造成されており、詳細を窺い知ることは難しい。なお、『城数之覚』に出てくる「白水ノ城」（筑紫良甫居城）は天浦城を指しているものとみられるが、確証はない。 |
| 福岡南部（東） | | | | | | 『拾遺』中原村の項に「城といふ所、村の東の傍に在。観音堂の上なり。周り竹林にして上に平地三ヶ所在。上の方壱反許に堀切あり。其東四反許も有べし。其北に道を隔て黒男森の脇弐反許も有べし。いずれも乱世に小身の士の里城なるべし。土民は井上氏の城址といえども詳ならず」とある。文献45には浦田という場所に観音堂があり、その上の「城ノ山」に里城があったとする。現在、中原集落の中心は昭和40年代後半に新幹線博多南駅建設等に伴い、大々的に開発され、車両基地の西側に隣接して小字「浦田」が残るものの、現在は「城ノ山」の場所の詳細は不明である。 |
| 福岡南部（西）/不入道（西） | ○ | | | | | 本文184ページ参照。 |
| 不入道（西） | ○ | | | | 0140 | 本文185ページ参照。文献215では「隅本城」として紹介しているが、「隈本城」の誤り。 |
| 不入道（西） | ○ | ○ | ○ | | 0250 | 本文186ページ参照。 |
| 不入道（西） | | | | | | 『附録』には「其址を村民に問ふに詳ならず。（上梶原）村の南十町許に大将陣という山あり。八九分許に椽ありて其裾は龍神城の南に続けり」とある。『拾遺』には「上梶原村と山田、安徳三村にかかれり。龍神城山の南に続きて大将陣と云山有。是也」とある。現在、上梶原・山田・安徳の境は龍神山城のある城山山頂となっており、また『拾遺』には龍神山城の記載がないことから、現在、龍神山城として認識している範囲内に城ノ腰城が含まれている可能性も考えられる。 |
| 不入道（西） | ○ | | | | 0268 | 本文188ページ参照。 |
| 不入道（西） | | | | | 0264 | 『拾遺』には「藤原古城」として、鷲ヶ岳城と共に記載される。「又大津留が家老藤野右馬允と云者の守りし城とて、上南面里と下南面里の間、上南面里より一町半許丑の方山畑の上に在。其形茶臼の如く南北ハ深き谷也。縦廿八間斗、横六間許、坤より艮に長し。廻りに堀囲りて椽あり」とある。『全誌』では「会下城址」として記載する。南面里集落にほど近い丘陵上の頂部に城地があるが、現地は後世の耕作等により丘陵全体が階段状の平坦面群となっており、堀などの防御遺構はみられない。往時の城館遺構がどれほど残されているかは不明である。 |
| 不入道（西） | ○ | | | | 0258 | 本文188ページ参照。 |
| 不入道（西） | | | | | 0278 | 地元の伝承では、大丸の地に城跡があったとし、周知の包蔵地となっている。ただ、現地には明確な城館遺構はないため、正確な所在すら不明である。字「大丸」の地内のどこかに所在するものとみられる。地誌類等に全く出てこないため、存在自体を含め検討を要する。 |
| 不入道（西） | ○ | | | | 0290 | 本文190ページ参照。 |
| 不入道（西） | ○ | | | | 0295 | 本文192ページ参照。『種々』では「虎ヶ山城（筑紫氏）」とする。 |
| 中原（西） | | | | | 0311 | 『本編』「五箇山」の項に「網取より上十八九町はかりに、谷二あり。直に行て白土が城と云」とあり、『拾遺』には「里民は猫城と云」とある。那珂川上流、佐賀との県境、川が南から西へ大きく屈曲する大野橋と佐賀橋との間の小高い丘陵上に位置する。丘陵の東側はかつては切通しがあったが、国道によって、大幅に開削され当時の状況はない。丘陵上は狭い平坦面となっており、城地と想定されるが、堀などの明確な城館遺構はみられない。五ヶ山ダムの水没地点となるため、平成25年度に那珂川町教育委員会により発掘調査が行われた（報告書は未刊行）。 |
| 中原（西） | ○ | | | | 0314 | 本文194ページ参照。 |
| 福岡西南部（東） | | | | | | 『拾遺』には「本村の東の方に御茶屋の内といふ所有。是城址也。四方に高土手有り。昔は高く大なりしを、後に漸田に開き、或は土を引などして、今纔に其形を存せり」とある。「鎮西要略」などには九州探題の当初の所在地としている。『附録』の「大休嶺眺望図」に「鳥飼村」の右（東）には「茶ヤノ内」という表記があり、当該地を指している。南唐仁小学校付近が推定地とされるが、古くから宅地化が進み詳細は分からない。また、渡辺文吉「鳥飼城考（1・2）」（『ふるさとの自然と歴史』第213・215号 ㈳歴史と自然を守る会 1989年）では立地などの面から南公園付近の丘陵上ともみる向きもあり、所在も含め詳細は不明である。 |
| 福岡西南部（東） | | | | | 020314 | 本文195ページ参照。 |
| 福岡西南部（東） | | | | | | 大正12年発行の『早良郡誌』（文献47）を初出とする。同書には、「茶臼城阯」として「重留の東南に在って、土生宗観居城の阯である」とする。重留の宝満宮の東方の尾根上が城地として推定されており、現地は非常に広い人為的な平坦面とそれらを囲む石垣と土塁状遺構が認められるが、城館遺構とするにはあまりに広く、また堀などの遺構もないため、城館遺構と断定はできず不明と言わざるを得ない。 |
| 福岡西南部（東） | ○ | | | | | 本文196ページ参照。 |
| 福岡西南部（東） | ○ | | | | 020303 | 本文196ページ参照。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | 316 | 陣ノ原城 | じんのはる | | 早良郡 | 福岡市早良区西入部・西区室見が丘2・3丁目 | 山城陸・陣ノ尾・陣原 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | 169 | 丘城か | ○ |
| 筑前 | 317 | 内野城 | うちの | 本城山城・本城 | 早良郡 | 福岡市早良区早良6丁目 | 本城 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 47 | 平地城館か | △ |
| 筑前 | 318 | 曲渕城 | まがりぶち | 飯場城 | 早良郡 | 福岡市早良区曲渕 | 城の山・大門・中門 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 47,**190** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 319 | 金山城 | かなやま | 熊の城・神代氏城 | 早良郡／肥前国 | 福岡市早良区石釜・佐賀県佐賀市三瀬村三瀬 | | | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | 47,**54** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 320 | 池田城 | いけだ | | 早良郡 | 福岡市早良区脇山 | | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | ○ | 47 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 321 | 都地城 | とじ | 都地若狭守宅 | 早良郡 | 福岡市西区金武 | | | | | | | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | O | 47,**146** | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | 322 | 飯盛城 | いいもり | 飯盛(森)山城 | 早良郡 | 福岡市西区飯盛・羽根戸 | 城ノ尾・八貫櫓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | O | 47,**186,197** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 323 | 生松原城 | いきのまつばら | 城ノ原城 | 早良郡 | 福岡市西区城の原団地・上山門1丁目 | 城の原・堀 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | 47 | 平地城館か | ○ |
| 筑前 | 324 | 長鳥城 | ながとり | 長垂城・直鳥城・長鳥島城 | 早良郡／怡土郡 | 福岡市西区下山門・今宿青木 | 城ノ内・相馬陣・本城・城ノ辻 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 山城か | ● |
| 筑前 | 325 | 探題北条氏城 | たんだいほうじょうし | 九州探題城・浦山城・鷲尾山城・探題城・西国探題城 | 早良郡 | 福岡市西区愛宕2丁目 | 城ノ辻 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | 47 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 326 | 探題渋川氏城 | たんだいしぶかわし | 姪浜城・光運寺山城・丸隈山城 | 早良郡 | 福岡市西区姪の浜2丁目 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 47 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 327 | 城ヶ崎城 | じょうがさき | 北浦城・城崎砦 | 早良郡 | 福岡市西区能古 | 浦ノ城・城 | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 47,**186** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 328 | 東ノ城 | (ひがしの) | | 早良郡 | 福岡市西区能古 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | 237 | 不明 | ● |
| 筑前 | 329 | 高祖城 | たかす | | 怡土郡／志摩郡 | 糸島市高祖・高来寺、福岡市西区今宿上ノ原・女原・千里 | 城・草野陣 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | O | O | 48,**155,156,188,189,190** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 330 | 波多江館 | はたえ | 波多江氏宅 | 怡土郡 | 糸島市篠原 | | | | | | | ○ | | | ○ | | | | | | 48 | 平地城館か | △ |
| 筑前 | 331 | 篠原城 | しのわら | 繋城 | 怡土郡 | 糸島市前原南2丁目 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 丘城 | ○ |
| 筑前 | 332 | 有田城 | ありた | | 怡土郡 | 糸島市有田 | | | | ○ | | | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,**197** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 333 | 筒城 | つつ | 筒山城 | 怡土郡 | 糸島市雷山・飯原 | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | 197 | 山城 | ○ |
| 筑前 | 334 | 松尾城 | まつお | | 怡土郡 | 糸島市飯原 | | ○ | | | | | ○ | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | 48,197 | 山城 | ○ |
| 筑前 | 335 | 旗振嶺城 | はたふりみね | 旗振山城 | 怡土郡 | 糸島市飯原 | | | | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,**197** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 336 | 加布里城 | かふり | 城山城・高岳城・浜窪城 | 怡土郡 | 糸島市加布里・二丈浜窪 | 城山・南城・荒城 | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | O | 48,49,51,**184,190** | 山城 | ◎ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 福岡西南部(東) | | | | | | 『拾遺』には「西入部村の西、金武山境下山に在。曲渕氏が端城なりしと云」とあるが、『全誌』では「陣ノ尾」として「平地三層にあり。上の段は六畝、其下二層は一畝許」とある。文献169には城の近くの「山城陸」には曲渕氏と敵対する安楽平城の見張所があり、伊佐氏宅の周りには堀が巡っていたというとある。現在、西入部と金武の境界および西入部の山城陸の集落は室見が丘の新興住宅地として造成され、往時の面影はなくなっている。住宅地造成に伴い、中世遺構が見つかり、「浦江遺跡」として調査されている。これらの遺跡との関連も想定されるが、詳細は不明である。 |
| 福岡西南部(東)/背振山(東) | | | | | | 『拾遺』には「(内野)村の西の山中に在。本城といふ」とあり、天正7年の安楽平城攻防戦における龍造寺方大将の執行越前の本陣で、人家になっているとある。『全誌』には「本城山城址」として「村の西二町、本城山の麓にあり」とある。旧内野集落の中に推定されているが、明確な城館遺構は見当たらず、詳細は不明である。 |
| 福岡西南部(西)/脊振山(西) | ○ | | | | 020823 | 本文200ページ参照。 |
| 脊振山(西) | ○ | | | | | 本文200ページ参照。 |
| 脊振山(東) | ○ | | | | 020784 | 本文201ページ参照。 |
| 福岡西南部(東) | | ○ | ○ | | 020431 | 本文202ページ参照。 |
| 福岡西南部(西) | ○ | | ○ | | 020588 | 本文203ページ参照。福岡市指定史跡「飯盛山経塚」の範囲を含む。 |
| 福岡西南部(西) | | | | | | 『拾遺』には「鎮西要略」を引用し、正平17年(1362)の斯波氏経と菊池武光との戦いの際に、落城した城の一つとして「生ノ松原城」を挙げ、それが「城ノ原」の城跡ではないかと推測する。『全誌』では「城原城址」として名を掲げる。『早良郡誌』(文献47)では「城の原」として高祖城の出城があったと伝えるとし、上記の記事を掲げる。現在、生の松原の南、十郎川の西岸は「城の原」といい、ここが城地と推測されるが、早くに宅地化が進み、現状では城郭遺構の有無は判断がつかなく、詳細は不明である。 |
| 福岡西南部(西) | | | | | | 『拾遺』には「鎮西要略」を引用し、明応5年(1496)に高祖城の少弐政資が、大内方に対抗して長鳥、小田部など早良郡の諸城を攻略した時の長鳥島城が、下山門村の西の山中にある「城ノ内」「相馬陣」という地名がある場所に当たるとする。『全誌』には「長垂城址」として「城の原の西山中に在り。山上平地三段余」とある。油坂峠の南東側に聳える山稜頂部が城地として想定され、山頂部は後世の改変と思われる平坦面が見られるのみで、明確な城館遺構は認められず、詳細は不明である。 |
| 福岡西部(東)/福岡西南部(東) | | | | | | 『本編』等では永仁元年(1293)、九州探題に任命された北条兼時が築城したとするもので、室見川西岸の丘陵地帯の最も東の頂部、浦山の東南にあたる丘陵上に位置したとする。愛宕神社の南側の丘陵上と推測されているが、近世以降の改変が激しく、明確な城館遺構は確認されておらず、詳細は不明である。 |
| 福岡西部(東) | | | | | | 『本編』等では、南北朝～室町時代に足利将軍家から九州探題として任命された渋川氏、後に斯波氏が在城したとする。愛宕神社のある浦山の西に位置する丸隈山(光運寺山、萬正寺山ともいう)にあったとされる。姪浜の西、名柄川河口付近西側に、丸隈山の丘陵は残されており、頂部には毘沙門天も祀られているが、明確な城館遺構はない。なお、『早良郡誌』(文献47)では、渋川堯顕の墓石とされる探題塚がある丘陵上が城地とされるが、詳細は不明である。 |
| 福岡西部(東) | ○ | | | | | 本文204ページ参照。 |
| 福岡西部(西) | | | | | 020504 | 福岡市分布地図(文献237)の掲載を唯一の出典とする。昭和40年代以前の国土地理院の福岡西部の地形図に能古港フェリー発着所の岬に「東ノ城」の地名記載があり、これが城の根拠とみられる。現地には、現在城館遺構もなく、詳細は不明である。 |
| 福岡西南部(西)/前原(東) | ○ | ○ | ○ | 590330 | | 本文205ページ参照。国指定史跡「怡土城跡」の範囲内。 |
| 前原(東) | | | | | | 『全誌』には「〔篠原〕村の北二町、王町分と云所にあり。今林畑となる」とするのが初出である。同じ篠原地内に所在した篠原城と関連する館であった可能性も考えられるが、「王町分」という地名の所在もわからないため、大字篠原地内に所在する以外には詳細は不明である。 |
| 前原(東) | | | | 590328 | | 『本編』には波多江上総助鎮種の里城とし、志摩郡前原の城(舞岳城)から連なった場所にあることから「つなぎの城」ともいうとある。『附録』には隍が残るとする。舞岳城の東、糸島高校周辺が城地と推測されているが、後世の改変が激しく、明確な城館遺構はなく、詳細は不明である。 |
| 前原(東) | ○ | | | 590332 | | 本文208ページ参照。 |
| 前原(東)/雷山(東) | | | | | | 『全誌』には「雷山の半腹、不動山にあり、筒瀧を隔て東、旗振山にかかり、石垣残れり。西長門守興隆が居城なりしと云」とあり、雷山神籠石を再利用して城として取り立てたとある。しかし、神籠石は戦国期の城館と構造が全く異なっているため、どの部分を城としたのかも含め、詳細は不明である。また、『訂正怡土郡図』(第262図・国立公文書館蔵)の記載により、本書で旗振嶺城とする場所が筒城(筒山城)である可能性も考えられる。 |
| 雷山(東) | | | | | | 『全誌』には「筒山の西南にあり、西掃部森國と云者、居たりしと云」とある。しかし『糸島郡誌』(文献48)には、「飯原簇振岳の西に連りたる處」にあるとする。『訂正怡土郡図』(第262図・国立公文書館蔵)には筒山城の南背後の頂部、すなわち雷山神籠石の南西方向にあたる峰の上に描かれており、その周辺に城地は求められるが、現状では城館遺構は確認されていないため、詳細は不明と言わざるを得ない。 |
| 前原(東)/雷山(東) | ○ | | | 590334 | | 本文208ページ参照。 |
| 前原(西) | ○ | | | 600240(二丈町)・590331(前原町) | 0209(二丈町) | 本文209ページ参照。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | 337 | 波呂城 | はろ | 渡呂城 | 怡土郡 | 糸島市二丈波呂 | 城 | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,49,51,197 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 338 | 宝珠岳城 | ほうじゅだけ | | 怡土郡 | 糸島市二丈長石 | 城山 | | | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,49,51,**197** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 339 | 城崎山城 | じょうざきやま | | 怡土郡 | 糸島市二丈上深江 | 城崎 | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | 48,49,51 | 不明 | ○ |
| 筑前 | 340 | 古城 | こ | 深江淀川城 | 怡土郡 | 糸島市二丈深江 | 古城 | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | ○ | 49,51,197 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 341 | 小倉山城 | おぐらやま | 小蔵城・小倉城 | 怡土郡 | 糸島市白糸 | | | | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,**197** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 342 | 二丈岳城 | にじょうだけ | 深江岳城・二城岳城・二重城 | 怡土郡 | 糸島市二丈深江・二丈一貴山・二丈福井 | | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | **○** | **○** | 48,49,51,**183,197,214** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 343 | 吉井岳城 | よしいだけ | | 怡土郡 | 糸島市二丈吉井 | 城山・館・御屋敷・城 | | | ○ | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 49,51,**197,205** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 344 | 星山城 | ほしやま | | 志摩郡 | 福岡市西区今宿青木・今宿東3丁目 | | ○ | | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 48 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 345 | 青木城 | あおき | | 志摩郡 | 福岡市西区今宿町 | 古城 | | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | 52,**186,190**,222 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 346 | 臼杵氏端城 | うすきしは | 鎌倉城 | 志摩郡 | 福岡市西区今津 | 城カク・城山・城 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | **○** | 48,52,**184,190** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 347 | 鷺城 | さぎ | | 志摩郡 | 福岡市西区今津 | 館屋敷 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,52,190 | 丘城 | |
| 筑前 | 348 | 柑子岳城 | こうじだけ | 好士岳城・香地岳城・草場城 | 志摩郡 | 福岡市西区今津・草場 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | **○** | **○** | 48,50,**52,181,183,190** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 349 | 水崎城 | みずさき | | 志摩郡 | 福岡市西区元岡 | | ○ | | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,52,186,190 | 山城 | ● |
| 筑前 | 350 | 大神城 | おおがみ | 戸山城・大神出雲守宅 | 志摩郡 | 福岡市西区桑原 | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | ○ | 48,**52,184,185,186,190** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 351 | 志摩城 | しま | 馬場城・志摩野城 | 志摩郡 | 糸島市志摩馬場・福岡市西区桑原 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,52,190 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 352 | 岩松城 | いわまつ | 浦城 | 志摩郡 | 糸島市志摩浦 | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,**52,184,190** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 353 | 松隈城 | まつぐま | 松隈伊賀守宅 | 志摩郡 | 糸島市志摩松隈 | | | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | 48,**52,190** | 山城 | ◎ |
| 筑前 | 354 | 西田城 | にしだ | 井田原城 | 志摩郡 | 糸島市志摩井田原 | 城の辻・城の前 | ○ | | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,52,190 | 丘城か | ● |
| 筑前 | 355 | 泊城 | とまり | 古城 | 志摩郡 | 糸島市泊 | タチ・城崎・堀廻 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,52,190 | 丘城か平地城館 | ○ |
| 筑前 | 356 | 波多江館 | はたえ | 波多江城・丹波屋敷 | 志摩郡 | 糸島市波多江 | | | | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | | | ○ | **○** | **190** | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | 357 | 舞岳城 | まいたけ | | 志摩郡 | 糸島市前原 | 城ノ尾 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 48 | 丘城 | ● |
| 筑前 | 358 | 親山城 | おやま | 小山城・小金丸城 | 志摩郡 | 糸島市志摩小金丸 | 立 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | 48,50,**52,190** | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | 359 | 可也山城 | かやさん | 加也山城 | 志摩郡 | 糸島市志摩小金丸・志摩師吉・志摩小富士・志摩御床 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | 48,52 | 山城 | ○ |
| 筑前 | 360 | 新城山城 | しんじょうやま | | 志摩郡 | 糸島市志摩新町 | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,52 | 山城 | △ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 前原(西) | | | | 600239 | 0208 | 『全誌』には西長門守豊国の居城であったとする。波呂の天振神社と龍国寺の北にある小丘陵上に位置するが、後世の耕作等による造成が見られるのみで、堀や土塁などの明確な城館遺構は認められず、詳細は不明である。 |
| 前原(西) | ○ | | | 600237 | 0207 | 本文209ページ参照。 |
| 前原(西) | | | | | | 『全誌』には「(河原)村の西二町丘上にあり、廣四段二十四歩、城主不詳。原田の端城なるべし」とあり、原田氏の出城と伝えられる。現在、小字「城崎」があり、その周辺に城地が推定されるが、水田の平地であり、明確な城館遺構はみられない。また、文献51には「越道」という字地を推定地とするが、道路造成のために既に消滅したとあり、詳細は不明である。 |
| 前原(西) | | | | | 0211 | 『全集』が初出で、「深江岳の麓にあり、深江岳城の支城であろうと考えられているが、深江岳城の平時の居館であったとも思われる」とある。『本編』には二丈岳の麓に出城の跡があり、深江岳(二丈岳)城の砦であるとしているため、このことを指しているものとみられる。文献49には、深江の西南、淀川の背後の丘陵上に「古城」という字の小山があり、そこを城地とする。丘陵頂部を初め、周辺一帯は竹林等による後世の造成が大々的に入り、おびただしい数の平坦面群が展開しており、城館遺構と明確には区別がつかない状況であり、詳細は不明と言わざるを得ない。 |
| 雷山(西) | ○ | | | | | 本文210ページ参照。 |
| 雷山(西) | ○ | | | 600141 | 0210 | 本文210ページ参照。糸島市指定史跡。 |
| 浜崎(東) | ○ | | | 600238 | 0212 | 本文212ページ参照。 |
| 福岡西南部(西) | | | | | | 『拾遺』「長垂山」の項に「又廣石油坂両道の口、池の西畔に星山と云小山有。按に大宰少弐貞頼より出せる文書に星山城と見えたるは此地なるべし」とある。長垂山の青木川の麓には御開池があり、国道202号バイパスが貫いている。昭和35年の国土地理院の地形図を見ると、池の西側に標高約40mの独立丘陵があり、その頂部が城地とみられるが、現在はバイパス建設により完全に消滅している。 |
| 福岡西南部(西) | ○ | | | | | 本文213ページ参照。 |
| 福岡西部(西) | ○ | | | | 118E-1 | 本文213ページ参照。 |
| 福岡西部(西) | | | | | | 『本編』等では鷺氏の城とし、山上に城主の墓があるとする。『拾遺』には城の東の圃を「館屋敷」というとある。臼杵氏端城の北東約150mの標高11mの丘陵地が城地とされるが、後世の開削によりかなり旧状が損なわれており、明確な城館遺構はみられない。 |
| 宮浦(東) | ○ | | | | | 本文214ページ参照。 |
| 宮浦(東) | | | | | | 本文215ページ参照。 |
| 宮浦(東) | ○ | | | | | 本文216ページ参照。 |
| 宮浦(東) | | | | 610552 | | 『本編』には「馬場村古城」として「志摩城と号す。是大友氏の家臣、古庄能登が居たりし城なり。後に馬場越後と云し者も在城せしとかや」とある。馬場集落の北、桑原との境にあたる標高121mの丘陵頂部が城地とされるが、自然地形が見られるのみで城館遺構はなく、詳細は不明である。 |
| 宮浦(東) | ○ | | | 610348 | | 本文217ページ参照。 |
| 宮浦(東) | ○ | | | 610542 | | 本文217ページ参照。 |
| 宮浦(東) | ○ | | | 610536 | | 『拾遺』に「井田原村古城」として「西田に在。圃の中方三間許高き所なり。城辻と云。城主詳ならず」とあり、永仁年間の文書に伊田原二郎訓が城主の可能性をほのめかしている。『糸島郡誌』(文献48)が「西田城」としての初出である。井田原の長尾集落の西の低丘陵上が字「西田」で、そこに城があったと伝えられるが、70年代に削られてしまっており、詳細は不明である。周辺には「城の辻」「城の前」などの関連地名が残る。 |
| 前原(東) | | | | 590333 | 0018 | 『本編』には「泊村古城」として「村より巽に当て城跡あり。是泊中務少輔鎮家が城址也。其前は泊美作と云しもの在城せり」とあり、また桂木寺や、村の西の大日堂の上にも城跡があり、大日堂の城は泊内膳の城とする。現在、泊の桂木禅寺の周辺とみられ、寺の西には「タチ」、南側には「城崎」「大日堂」の字が残っており、この一帯にいくつかの丘城や館があったものとみられる。なお、『全集』は泊鎮家の城を「泊城」、泊内膳の城を「古城」と区別して表記する。 |
| 前原(東) | ○ | | | 590382 | 0035 | 本文218ページ参照。 |
| 前原(東) | | | | 590337 | 0046 | 『附録』には「城の尾或茶臼山ともいふ。波多江上総といふ者守りしとぞ。平らかなる所一畝余あり。竹樹茂生せり」とある。前原駅南の丘陵地形となっている笹山公園が城地とみられるが、配水池、展望台、記念碑などの公園等の造成により丘陵上は大きく改変されている。また、改変されていない縁辺部の尾根上は自然地形であり、明確な城館遺構を見出すことができず詳細は不明である。 |
| 前原(西) | ○ | | | 610623 | 0131 | 本文218ページ参照。 |
| 前原(西) | | | | 610612 | | 『本編』「加也山古城」に「いにしえ山上に城あり。近代乱世の時、郡士小金丸民部少輔良種是を守りしと云伝ふ」とあり、可也山山頂に城址の存在を示している。しかし『拾遺』には「山上にも城有し由見ゆれど今其址詳ならず」とあり、江戸時代後期には城の場所がわからなくなってしまっている。現在、可也山山頂には神社などの構築物はあるが、曲輪や堀などの明確な城館遺構を確認することはできず、詳細は不明である。 |
| 前原(西) | | | | | | 『附録』に「新城山」として「(新町)村の北三町計にあり。城主詳ならず」とある。『全誌』には「絶頂に礎石残れり。松立なり」とある。新町集落の北に聳える竹ノ越山が想定され、山頂付近を踏査したが、明確な城館遺構はなく、所在を含め詳細は不明と言わざるを得ない。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | 361 | 邊田砦 | へた | | 志摩郡 | 糸島市志摩小富士 | | | | | | | | | | ○ | | | | ○ | ○ | 48 | 不明 | △ |
| 筑前 | 362 | 姫島城 | ひめしま | | 志摩郡 | 糸島市志摩姫島 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,52 | 丘城 | ● |

＜近世城館＞

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | K6 | 犬鳴別館 | いぬなき | 犬鳴城・御別館 | 鞍手郡 | 宮若市犬鳴 | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | ○ | | 13,**20,63** | 館 | ◎ |
| 筑前 | K7 | 大音屋敷 | おおとやしき | 明専寺城 | 鞍手郡 | 宮若市山口 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | 20 | 館 | ◎ |
| 筑前 | K8 | 直方陣屋 | のおがた | 直方館・東蓮寺陣屋・東蓮寺城・黒田長清居館 | 鞍手郡 | 直方市直方 | 西殿町・東殿町・御館山・殿町・鉄砲町 | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | 12,13,17,176 | 陣屋 | ◎ |
| 筑前 | K9 | 感田城 | がんだ | | 鞍手郡 | 直方市感田 | 城尾・尾城・城の腰・大手門・御所坂・櫓下 | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | 13,17 | 丘城 | ● |
| 筑前 | K10 | 黒崎城 | くろさき | 道伯山城 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区屋敷1丁目・船町 | 城山・屋敷 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 21,26,180,193 | 山城 | ◎ |
| 筑前 | K11 | 若松城 | わかまつ | 中島城 | 遠賀郡 | 北九州市戸畑区中島 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 23,26,180,193 | 平城 | ● |
| 筑前 | K12 | 城辻城 | じょうのつじ | 千代丸城 | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町別府 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | 195 | 丘城 | ● |
| 筑前 | K13 | 名島城 | なじま | | 糟屋郡 | 福岡市東区名島1～3丁目 | 城山 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 73,**74,79,82** | 平山城 | ◎ |
| 筑前 | K14 | 福岡城 | ふくおか | 舞鶴城 | 早良郡／那珂郡 | 福岡市中央区城内・大濠公園 | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 44,**85～108,193** | 平山城 | ◎ |
| 筑前 | K15 | 石崎城 | いしざき | 高祖崎城 | 怡土郡 | 糸島市二丈石崎 | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | 48,49,51 | 丘城 | ◎ |
| 筑前 | K16 | 代官屋敷 | だいかん | | 怡土郡 | 糸島市二丈武 | | | | | | | | | | ○ | | | | | | 48,49 | 陣屋 | ● |

＜城館等伝承地＞

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | D21 | 左近屋敷 | さこんやしき | 須恵左近宅 | 鞍手郡 | 宮若市乙野 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 居館 | ○ |
| 筑前 | D22 | 陣ノ坂 | じんのさか | | 鞍手郡 | 宮若市山口 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | 陣 | ○ |
| 筑前 | D23 | 黒田監物利良宅 | くろだけんもつとしよし | | 鞍手郡 | 宮若市金丸 | | | | | | | ○ | | ○ | | | | | | | 13 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D24 | 杣島館 | そましま | | 鞍手郡 | 直方市中泉 | | | | | | | | | | | | | | | | 17 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D25 | 野中屋敷 | のなか | | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町新延 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | 居館 | △ |
| 筑前 | D26 | 遠藤大膳宅 | えんどうだいぜん | | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町古門 | 城尾 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | 居館 | △ |
| 筑前 | D27 | 古野山館 | ふるのやま | | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町古門 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | 16 | 居館 | △ |
| 筑前 | D28 | 島内館 | (しまうち) | | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町古門 | 御東・殿坂 | | | | | | ○ | | | | | | | | | 16 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D29 | 吉田壱岐宅 | よしだいきのかみ | | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町中山 | 中屋敷・辻屋敷 | | | | | | ○ | | | | | | | | | 16 | 居館 | ○ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 前原（西） | | | | | | 『糸島郡誌』（文献48）には「往昔は邊田浦と称す。邊田は海浜の義なりといふ。肥前松浦郡城山草野中務少輔家人が家臣江川采女の居たりし砦址なりと云ひ伝ふ」とある。現在の志摩小富士地内に当たるが詳細な場所の記載がないため、不明と言わざるを得ない。 |
| 芥屋（西） | | | | | | 『本編』には「当島の姫大明神社の上の山を城山と云。是城址也といへり。いにしへ海辺に海賊共多く来りをかせしより、城かまへをして、海賊を防ぎたるなるべし」とある。『全誌』にも「姫嶋神社の後の山なり。一顆の嶺にて平城僅にあり」とあることから、姫島神社裏の標高44mの頂部が城地と想定される。しかし現地は祠が建っており、若干の平坦面は見られるものの、堀などの明確な城館遺構は確認できないため、詳細は不明である。 |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 脇田（西） | | ○ | ○ | | | 本文220ページ参照。宮若市指定史跡。 |
| 脇田（東） | | | | 440273 | | 本文223ページ参照。 |
| 直方（東） | | | | 050114 | 164 | 本文224ページ参照。 |
| 中間（東） | | | | 050111 | 10 | 文献13には『関原軍記』を引用し、関ケ原合戦を控え、黒田氏が防備を固めた領内の諸城の一つに衣笠久左衛門が守っていた感田城があげられる。ただし、慶長5年（1600）段階では黒田氏の領域から感田はかけ離れており、疑問が残る。遠賀川支流の尺岳川の北岸、城の尾の丘陵上に城地は想定されており、文献13の記載と同様、現在は墓地となっている。土塁や堀などを兼ね備えた城館であった可能性もあるが、現状では明確な城館遺構は確認できない。黒田氏以前の城館の可能性も含めて今後検討を要する。 |
| 八幡（西） | | | ○ | | 017114 | 本文227ページ参照。 |
| 八幡（東） | | | | | | 本文229ページ参照。 |
| 折尾（西） | | | | | | 『拾遺』には「小早川の臣安増甚左衛門居城の跡と云ふ」とある。別府の西、貴船神社の西側の低丘陵上が城地とされるが、自然地形が見られるのみで明確な城館遺構はなく、詳細は不明と言わざるを得ない。 |
| 福岡（西） | | | ○ | | 020115 | 本文229ページ参照。 |
| 福岡（西）/福岡西部（東）/福岡西南部（東）/福岡南部（西） | | | ○ | | 020193・020164（肥前堀） | 本文232ページ参照。国指定史跡。 |
| 前原（西） | | | | | | 本文235ページ参照。 |
| 前原（西） | | | | | | 『糸島郡誌』（文献48）には「大字武にあり。豊前中津藩の代官原田多仲太の居住せし處なり。今池田辰次郎の畑となれり」とあり、代官屋敷跡の写真を掲載している。現在、武の集落の中に、伝承地が残されており、そこが屋敷の跡と見てよいと思われるが、現状では遺構を確認することができないため、詳細は不明である。 |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 脇田（東） | | | | | | 『拾遺』には「（乙野）村北に左近屋敷といふ處あり。須恵左近と云者の宅跡なりと云」とある。『全誌』には「圃となれり」とある。現在、乙野地内には小字「佐近」があり、その場所が該当するものと思われる。 |
| 筑前東郷（東） | | | | | | 『全誌』には「（山口）村の北猫塚より宗像郡野坂村に越える間道にあり。天正中、宗像立花両家小金原合戦の時、氏貞出兵宿陣の地と云」とある。現在の野坂峠付近に当たるものと思われる。 |
| 直方（西） | | | | | | 『全誌』には「（金丸）村の南岩崎にあり。圃となれり」とあり、黒田如水・長政の家臣で島原の乱で戦死した黒田利良の屋敷があったとする。『拾遺』などでは明覚寺が岩崎に位置することから、その近辺とみられる。 |
| 直方（東） | | | | | | 文献17には、「中泉宝ヶ浦の山上にあった。陶器・兵器類が発掘され、当時の古井戸もあり、杣島というのは直方城御用の時代の豊前との国境見張り役人であろう」とある。小字に「宝ヶ浦」が残されているため、およその場所はわかるが、現状では遺構は確認できない。 |
| 中間（西） | | | | | | 『全誌』には「本村の内犬王丸にあり。野中勘解由が別業の跡と云。小さき森あり」とある。野中勘解由は城腰山城の城主として伝わる人物で、居館に当たるものとみられ、城腰山城の東麓付近とみられるが、詳細な場所は不明である。 |
| 中間（西） | | | | | | 『全誌』には「本村と神崎の間に大膳藪と云あり。中古遠藤大膳と云者、居館にして其上の山を今に城尾と云は其城址なりと云」とある。文献16によると、古門集落の南の浦ノ原池の西側丘陵上には、遠藤大膳が建立したという大善寺跡があり、瓦が出土するという。その近辺が該当するものと思われるが、決め手に欠くため、所在は不明と言わざるを得ない。 |
| 中間（西） | | | | | | 『全誌』「遠藤大膳宅址」の記載中に「又神崎古野山の内、及び島内此二所にも館址てあり。各空堀の形のこれり」とある。文献16には伊藤文書の文政3年の書上帳を引用し、神崎中ノ屋敷の上に古野山があるとしている。古野山の場所が不明であるため、詳細は不明である。 |
| 中間（西） | | | | | | 『全誌』「遠藤大膳宅址」の記載中に「又神崎古野山の内、及び島内此二所にも館址とてあり。各空堀の形のこれり」とある。文献16には島内の館は、今宮と称し、東二町の所に「御東」と称する別館があったため、「殿坂」という地名が残るとある。古門集落の東に「島内」の地名があり、そこに該当するものと思われるが、詳細な場所等不明である。 |
| 中間（東） | | | | | | 『全誌』には「円清寺の東一町余にあり。今圃となれり」とあり、直方藩主黒田高政の家老・吉田壱岐守重成の館とする。円清寺が現存するため、およその場所は類推できるが、城館遺構は確認できないため、詳細は不明である。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | D30 | 岸本五郎兵衛宅 | きしもとごろうべえ | | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町小牧 | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 居館 | ○ |
| 筑前 | D31 | 陶弘詮館址 | すえひろのり | 守護所址 | 鞍手郡 | 北九州市八幡西区木屋瀬 | | | | | | | ○ | | ○ | | | | | | | 13 | 居館 | ● |
| 筑前 | D32 | 嶺野真玄宅 | みねのしんげん | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区香月 | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | 居館 | △ |
| 筑前 | D33 | 隠館 | かくれやかた | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区畑 | 隠舘 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 居館 | △ |
| 筑前 | D34 | 陣屋谷 | じんやだに | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区市瀬 | 陳屋 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | 26 | 陣 | ○ |
| 筑前 | D35 | 古砦趾 | こさい | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区市瀬 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | 26 | 山城か | △ |
| 筑前 | D36 | 内藤陣山 | ないとうじんやま | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区鳴水 | 陳山 | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | | | 21,26 | 陣 | ○ |
| 筑前 | D37 | 麻生氏家臣宅 | あそうしかしん | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区紅梅4丁目 | 古館 | | | ○ | | | ○ | | ○ | | | | | | | 21,26 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D38 | 井上家臣宅 | いのうえかしん | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区(旧藤田村) | 殿町・御屋敷・玄界屋敷・土居屋敷・源入屋敷・石坪 | | | | ○ | | ○ | | | | | | | | | 21・26 | 居館 | △ |
| 筑前 | D39 | 藤村氏宅 | ふじむらし | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区(旧熊手村) | 上ノ屋敷・御屋敷 | | | | | ○ | | | | | | | | | | | 居館 | ○ |
| 筑前 | D40 | 源経基陣 | みなもとのつねもと | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区陣山 | 陳山 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | 21,26 | 陣 | ○ |
| 筑前 | D41 | 御屋敷 | おやしき | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区祇園2丁目 | 御屋敷 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | 21・26 | 居館 | ● |
| 筑前 | D42 | 井上氏宅 | いのうえし | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区陣原4丁目 | 東屋敷・西屋敷・本町・袋町・福岡路・新屋敷 | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | 21,26 | 居館 | ● |
| 筑前 | D43 | 麻生氏宅 | あそうし | | 遠賀郡 | 北九州市若松区修多羅 | 堀・殿屋敷 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | 26 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D44 | 須藤駿河守行重宅 | すどうするがのかみゆきしげたく | | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町手野 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | 25,30 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D45 | 古宅 | こたく | | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町吉木 | 横田屋敷・上股屋敷・堀・堂楽屋敷・城山 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | 25 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D46 | 武藤氏宅 | むとうし | 須恵城 | 宗像郡 | 宗像市須恵2丁目 | 堀の内・城 | | | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 25,37,210 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D47 | 許斐氏宅 | このみし | | 宗像郡 | 宗像市王丸 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | 居館 | △ |
| 筑前 | D48 | 黒田養心宅 | くろだようしん | | 宗像郡 | 福津市津屋崎4丁目 | 殿屋敷 | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | 居館 | ● |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 中間（東） | | | | | | 『拾遺』には小牧村の内の今村の人家に際に岸本五郎兵衛の墓があるとし、「又其里に岸本氏の宅跡とて有。此岸本五郎兵衛は小牧村の内にて200石知行せし由」とあり慶長年間の人物とする。『全誌』には墓の北三町ほどに二重土手という所があり、岸本家の人切場であったと伝えられるとある。現在、JR鞍手駅の東側に「今村」の地名が残り、およその場所はわかるが、城館遺構はみられないため、詳細は不明である。 |
| 中間（東） | | | | | | 『全誌』には「（木屋瀬）町中にあり。今の永源寺の地なるべしと云」とあり、大内氏の家臣、陶中務少輔弘詮の館跡で守御所と称するという。現在、遠賀川に面したところに永源寺はあるため、『全誌』において指摘する場所はわかるが、現状では城館遺構はみられないため、詳細は不明である。 |
| 中間（東） | | | | | | 『本編』には香月村内に、香月七郎則宗の屋敷と合わせて、香月氏家臣の嶺野真玄（『附録』では真言）の宅があったとし、空壕の跡が残るとしている。詳細な場所については不明である。 |
| 徳力（西） | | | | | | 『拾遺』「畑村」の項には、「隠館」として「（畑）村の巽の谷の奥に有て尺ノ岳に登る路也。人家二軒あり。昔香月氏隣寇を避て爰に蟄せしによりて号くといふ」とある。『全誌』では、香月家記を引用し、永正元年に大友方が畑城の香月興則を攻めた際、詰めの城隠屋形に籠った結果、大友方は猫臥岩より先には進めなかったという隠屋形はここの事であるとしている。畑貯水池上流の畑観音附近の谷に所在するものと思われるが、詳細な場所は不明である。 |
| 八幡（西） | | | | | | 『全誌』には「（市瀬）村の北八町帆柱山の麓の谷にあり。麻生兵部（大輔弘重か）の陣所なりしと云」とある。地名などから市瀬の陣屋上池・下池周辺に所在したとみられるが詳細は不明である。 |
| 八幡（西） | | | | | | 『全誌』には「（市瀬）村の東北帆柱山の側に在り。昔藤原純友か砦の跡と言伝ふ。礎石今猶存せり。」とある。明確な城館遺構が残る場所がないため、詳細は不明である。 |
| 八幡（西） | | | | | | 『本編』では「帆柱山と花尾山との間にある小山を内藤陣と云」とし、麻生家信が花尾城に立て籠った際、攻め手の中国勢の内藤某が陣を張った所とする。『遠賀郡藤田村花尾山古城図』（国立公文書館蔵）にも、帆柱山城と花尾城との間の山腹に「此辺内藤陣山」という記載が見られる。そのため、およその場所は見当がつくが、明確な城館遺構が見当たらないため、詳細は不明である。 |
| 八幡（西） | | | | | | 『本編』には「古館」として麻生四郎兵衛、麻生治部少輔の宅跡の存在を示す。『全誌』では「花尾山の麓に有。古館と云。麻生氏在城の時、其臣麻生治部少輔、同四郎兵衛と云士住し址なり。此外にも家臣の宅址多し」とある。『拾遺』には紅梅地蔵堂が古館にあるとし、『全誌』では紅梅姫墓が藤田村の南七町にあるとしている。かつての紅梅地蔵は現在の紅梅4丁目付近にあったとみられ、そこに該当するものと思われるが、城館遺構はみられないため、詳細は不明である。 |
| 八幡（西） | | | | | | 『附録』には「殿町御屋敷、玄海屋敷、土佐屋敷、源入屋敷、石のつぼ等の名あり。皆井上周防家臣の宅跡なり」とあり、黒崎城主井上之房の家臣の屋敷群を示している。『全誌』には藤田村の東北にあるとすることから、黒崎城の周辺が想定されるが、場所が不明であるため、詳細も不明である。 |
| 八幡（西） | | | | | | 『拾遺』には「山寺人家の上に上ノ屋敷御屋敷と云地有。昔藤村丹後守と云し者の宅跡の由。其内に白石の五輪塔多し。藪などに障れば祟ありとて村民恐れて伐事なし。丹後守は麻生家の老臣などにや」とある。現在の山寺町の地域にあったものと思われるが、詳細は不明である。 |
| 八幡（西） | | | | | | 『拾遺』に「陣山と云は村の西官道の側藤田村の堺なり。古松一株あり」とし、藤原純友討伐の際に、源経基が陣を置いたところとする。現在の国道3号線の陣山付近に当たるものと思われるが、古くから開発が行われた場所であり、詳細は不明である。 |
| 八幡（西） | | | | | | 『拾遺』に「御屋敷と云地八幡宮の近辺に在て今は田となれり。前田侯の宅址なりしと云」とある。祇園2丁目の仲宿八幡宮近辺に位置するものとみられるが、明確な城館遺構はなく、詳細は不明である。 |
| 折尾（東） | | | | | | 『附録』には元和の一国一城令による黒崎廃城の後、城主井上之房が陣原村に館を構えたとある。また「家人も皆従い来り、家屋多く建並べり。今に本町・袋町・福岡路・新屋敷等の字残れり。之房男半右衛門・半兵衛二人の居を東やしき西やしきといふ。今皆村民の居地となれり」とある。『全誌』には上記の記載に加え、「本村にあり。井上之房が宅址は東屋敷と云」とある。井上之房の屋敷跡は現在舎月庵という仏堂となっているが、城館遺構等は不明である。 |
| 八幡（西） | | | | | | 『拾遺』「修多羅村安養寺」の項に「此地に昔麻生氏の隠宅有し由、周りに堀の形あり。字を堀と云。又此南に続き殿屋敷と云地有。廣二丁斗誰人の宅跡なるにや。安永の頃迄は猶築地の形有しと云」とある。修多羅の安養寺近辺に存在したものと思われるが、堀や築地などは現在見られず、詳細は不明である。 |
| 吉木（東） | | | | | | 『拾遺』「手野村」の項に「須藤駿河守宅址とて枝郷小塀の人家の上に在。今は圃となれり。本編に見えたり。夫より一町斗下に塀口といふ所あり。是外郭なるべし。大なる宅址也」とある。『全誌』には須藤駿河守行重の宅跡として、延徳年間の人物としている。現在、「小塀」の小字が残されているため、およその場所は把握できるが、城館遺構が確認されておらず、詳細は不明である。 |
| 吉木（東） | | | | | | 『附録』「吉木村」の項の「堂楽屋敷」には「井上周防家士久芳平左衛門といふ者居たりし屋敷跡残れり。又横田屋敷と云ところあり。小早川隆景卿の家臣横田太郎左衛門といへる者、居たりし跡なりといふ」とある。また「堀」には「隆景卿の臣、鬼塚某が屋敷墟も此所にあり。又隆景の家臣上股助左衛門といふ者の宅跡あり。字を上股屋敷といふ」とある。さらに『全誌』「古宅址」には、上記に加え、城山に瓜生貞延の宅跡があったとする。現在、上記の地名は全て残されておらず、詳細は場所は不明であるが、文献25によると道楽寺跡（堂楽寺）が、隆守院の北隣にあったとするため、岡ノ城近辺の集落に点在しているものと思われるが、詳細は不明である。 |
| 筑前東郷（東） | | | | | | 『拾遺』「須恵村」の項に、「村の北に城と云處有。三方ハ田野にて其邊を堀の内と云フ。一方ハ野山に連れり。方壱町余土居を築て其上に雑木茂れり。今其内に民家三軒有。」とあり、さらに「此城ハ則武藤氏の宅址也べし。」とある。現在、大字須恵には字「堀の内」があり、須賀浦交差点の南西側付近にあたり、その周辺に城地が推定されるが、現在宅地開発が進み、詳細は不明である。『全誌』では「武藤氏宅址」として名を挙げる。「須恵城」としての初出は『種々』である。 |
| 筑前東郷（西） | | | | | | 『全誌』に「本社（許斐神社か）の北七町にあり。此邊許斐氏の宅址と云。今は畑となれり」とある。許斐岳城の北麓に想定され、六之神社裏側の曲輪などはこれに想定される可能性があるが、詳細は不明である。 |
| 津屋崎（東） | | | | | | 『附録』には「（津屋崎）村内にトノヤシキといへる所あり。黒田修理尚之しばらく住居の所なりといふ。今其所に貢倉あり」とあり、黒田如水の弟、利則の屋敷があったとする。現在、津屋崎千軒の中に屋敷跡と伝える場所があるが、屋敷の詳細は不明である。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | D49 | 香雫井原屋敷 | かすくいはらやしき | 香雫城 | 宗像郡 | 福津市福間南1丁目 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 34 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D50 | 香葉深川屋敷 | かばふかがわやしき | 香葉城 | 宗像郡 | 福津市福間南2丁目 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | 34 | 居館 | ● |
| 筑前 | D51 | 團原館 | だんのばる | 團宗時宅 | 糟屋郡／宗像郡 | 古賀市筵内・福津市内殿・上西郷 | | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | 居館 | ○ |
| 筑前 | D52 | 遠見岳望楼 | とおみがたけ | | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町猪野 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | 219 | 砦 | ● |
| 筑前 | D53 | 和白村陣所 | わじろむら | | 糟屋郡 | 福岡市東区上和白 | 陣造 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | 陣 | △ |
| 筑前 | D54 | 陣腰 | じんのこし | | 糟屋郡 | 福岡市東区松崎1丁目 | 陣腰 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | 39 | 陣 | ● |
| 筑前 | D55 | 房州濠・矢倉門 | ぼしゅうぼり・やぐらもん | | 博多 | 福岡市博多区（祇園町） | | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | | 砦 | ◎ |
| 筑前 | D56 | 千葉探題宅 | ちばたんだい | | 那珂郡 | 福岡市南区屋形原 | 古屋敷 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | 居館 | △ |
| 筑前 | D57 | 原田種直館 | はらだたねなお | 岩戸館 | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町安徳 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | 居館 | ○ |
| 筑前 | D58 | 平三屋敷 | へいぞうやしき | 平蔵屋敷 | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町上梶原 | 平蔵 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | 45 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D59 | 黒田養心館 | くろだようしん | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町市瀬 | シロ | | | ○ | | | | | | | | | | | | | 居館 | ● |
| 筑前 | D60 | 一ノ岳里城 | いちのたけさとじろ | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山 | 御所・御屋敷 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 里城 | △ |
| 筑前 | D61 | 陣尾 | じんのお | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山 | | | | | ○ | | ○ | | | | | | | | | | 陣 | ● |
| 筑前 | D62 | 古城 | こじょう | | 早良郡 | 福岡市早良区桧原 | 城尾・堀添・屋形町・武士町 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 不明 | △ |
| 筑前 | D63 | 重松若狭守宅 | しげまつわかさのかみ | | 早良郡 | 福岡市早良区内野 | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | 居館 | ○ |
| 筑前 | D64 | 立屋敷 | たてやしき | | 早良郡 | 福岡市早良区次郎丸1丁目 | 建屋敷 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | 47 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D65 | 殿屋敷 | とのやしき | | 早良郡 | 福岡市早良区祖原 | 殿屋敷 | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | 居館 | △ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 津屋崎(東) | | | | | | 本文236ページ参照。 |
| 津屋崎(東) | | | | | | 文献34に、香雫井原屋敷の西に、同じく小金原合戦にて戦死した深川氏の屋敷があり、深川屋敷と呼ばれているとする。畑となっており、その傍らにはタブの老木と古井戸、鎮守様の祠があるとする。現在、福間南2丁目に「香葉」の字が残り、深川屋敷の古井戸と鎮守の祠のある場所は把握されているが、明確な城館遺構はみられないため、詳細は不明である。 |
| 脇田(西) | | | | | | 『拾遺』には「昔團右近将監宗時と云士の住せし所なり」とある。宗時と臼岳城の丹治峯延・峯時が、團原にて合戦したことも記されている。現在、飯盛山の南、内殿の小字に「旦ノ原」があり、その周辺に位置するものと思われるが、城館遺構はみられないため、詳細は不明である。 |
| 脇田(西) | | | | 270039 | 270039 | 『全誌』には天正14年(1586)に島津勢が立花山城を攻めたときに山上に斥候を置いた場所とする。その後の小早川氏も遠見番を置いたとする。山の後ろを屋敷谷といい、遠見の番兵が居住したとしている。猪野皇大神宮の背後に聳える遠見岳(標高322m)山頂にあったとされ、山頂からは立花山城が一望のもとにできる好立地ではあるが、現地に明確な城館遺構はなく、詳細は不明である。 |
| 古賀(東) | | | | | | 『本編』「和白」の項に、永禄10年(1567)に宗像勢を討伐するために出陣した立花山城代の奴留湯入道が宿陣したところが和白の山上にあるとする。『附録』には「中和白の巽壱町ばかりにヂンゾクリ(陣造)と云田あり。其上に山あり。奴留湯が宿陣せし所なるべし」とある。所在自体不明である。 |
| 福岡(東) | | | | | | 『本編』に「多々良大橋の東北なる山上に、陣の腰と云所有。此足利尊氏香椎より出て、此所にしばらく陣を取、多々良浜において菊池をたたかわれしと云伝へたり」とある。現在、多々良川に面した松崎の東に陣越公園があり、そこに該当するものと思われるが、浄水場などもあり、明確な城館遺構はみられず、詳細は不明である。 |
| 福岡(西) | | | | | | 『本編』「博多」の項に、「(博多の)南の方の外郭に、横二十間余の堀の跡ありて、瓦町の西南のすみより、辻堂の東に至る。是南方の要害の固なり。其土堤今もあり。此堀を房州堀と号す。臼杵安房守鑑賡といひし人ほらせたる故なりといふ。然れば元亀天正の比、始て堀しなるべし。或は其前大内家守護の時よりも、此要害有しを、臼杵氏修補せしにや、いまだ詳ならず。(中略)今も矢倉門と云て、其名のみ伝はれり」とある。正保年間に描かれた「福博惣絵図」(福岡市博物蔵館)にも博多の街の南側に横矢の折れを持った空堀が東西に描かれている。堀の形状から、元々存在した房州濠を江戸時代に徳永宗也が改修したものであるという意見もある。現在は完全に市街地化しており、埋没している。 |
| 福岡南部(西) | | | | | | 『本編』「屋形原」の項には「むかし此所に千葉探題の居宅有し故、屋形原と云。其宅の跡なり。四方に堀有て、頗要害をなせり」とある。また、『拾遺』「屋形原村」の項には上記に加え、「むかしは此村、南の方古屋敷といふ所にあり。延宝五年に今の地に移る。泰雲公の舘址といふ所即昔の村居址といふ。周りに堀の跡あり」とし、千葉氏の館は所在不明としている。現在は古屋敷の位置も定かではないため、所在不明である。 |
| 福岡南部(西)/不入道(西) | | | | | | 『本編』には「迹驚岡」の項に、「天慶年中の純友の追討使大蔵春実より七代原田種資、この原に居を構へて住せり」とあり、源平の争乱の際には、安徳天皇の仮宮を築いたため、「御所のうち」というとある。那珂川に面した台地「安徳台」がその地とされる。安徳台遺跡として発掘され、中世後期の居館遺跡なども見つかっているが、平安時代までさかのぼる遺構はなく、実態は不明である。 |
| 福岡南部(西)/不入道(西) | | | | | | 『本編』「梶原村」の項には、「大なる宅の址あり。是を平三屋敷と云。是(梶原)景時が末裔居たりし居宅なりと云。梶原平三と云者は、慶長の比居たりしといふ」とある。現在那珂川南中学校の敷地は、字「平蔵」といい、平坦な台地状でここが屋敷があった場所とみられる。中学校建設の際には、平蔵遺跡(筑前R25)として発掘調査が行われ、中世後期の堀立柱建物群や区画溝が多数検出された。屋敷との関連が窺われる。 |
| 不入道(西) | | | | | | 『附録』には「黒田養心舘址幷墳墓」として「村内にシロと言所あり。其境地凡千五百余坪有。石壁の址今に残れり」とある。市瀬の城ノ内集落に墓があり、その付近に館跡と伝える場所が残されている。 |
| 不入道(西) | | | | | 0294 | 『拾遺』「五箇山村」の項に「五ヶ山と網取との間、見返り坂の上に丸き小山を御所または御屋敷と云。一ノ嶽の里城なるべし」とある。那珂川町の分布地図(文献229)には亀ノ尾峠の西側に「御所屋敷跡」と位置を落としているが、正確な所在等含め、詳細は不明である。 |
| 不入道(西) | | | | | | 『附録』「五箇山村」の項に「陣の尾といふ山あり。一ノ嶽の西也。筑紫廣門が陣所なりと里民いへり」とある。一ノ岳城の西側の頂部、国土地理院地形図の一ノ岳山頂地点に該当する。自然地形が見られるばかりで城館遺構はみられず、詳細は不明である。 |
| 福岡南部(西) | | | | | | 『拾遺』「桧原村」の項に、「此村の田字に城ノ尾、堀添、屋形町、武士町等の名あり。いにしへいかなる人の住居ありてかくよび来れるにや。今其よししられず」とある。現在、桧原2丁目に「堀添」、西長住3丁目に「屋形町」の小字が残る。かなり広い範囲を指している。詳細については不明である。 |
| 福岡西南部(東)/脊振山(東) | | | | | | 『全誌』には「西光寺の後にあり。若狭守は郷士なり。其遠孫今も村中にあり」とある。天正年間の龍造寺による安楽平城攻略の際、脇山の大教坊と共に、重松対馬守が龍造寺方に与していることから、戦国時代の領主とみられる。西光寺周辺に所在するとみられるが、詳細は不明である。 |
| 福岡西南部(東) | | | | | | 『拾遺』「次郎丸」の項に「立屋敷」として「此人家四方に高土手を築り。其形方なり。昔大家の人の宅址のよしいひ伝ふれども、其由来詳ならず」とある。市街地化前の昭和35年の国土地理院の地図に次郎丸集落東、現在の次郎丸1丁目に当たる場所に「建屋敷」集落が記載されており、ここに該当するものと思われる。詳細については不明である。 |
| 福岡西南部(東) | | | | | | 『拾遺』「篭原村」の項に「殿の屋敷といふ所村の北に在。安楽平落城後に当村の辺を曲淵河内守領せし時に、彼家人を爰に遣わし置て、近辺の領地を支配せし所といふ。今は圃となれり。近き頃まで古井などの残りてありしと云」とある。祖原は早くから市街地化が進んでおり、またトノヤシキの地名も残っておらず、所在を含め詳細は不明である。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | D66 | 鉢窪 | はちのくぼ | | 早良郡 | 福岡市西区生の松原 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | 古戦場または陣 | ○ |
| 筑前 | D67 | 上原館 | うえばる | | 怡土郡 | 糸島市高祖 | | | | | ○ | | ○ | | | ○ | | | | ○ | ○ | 48 | 館 | ● |
| 筑前 | D68 | 毘沙門岳砦 | びしゃもんだけ | | 志摩郡 | 福岡市西区今津 | 陳屋 | | | | | | | | | ○ | | | | ○ | | 48 | 砦 | ○ |
| 筑前 | D69 | 元岡村古墨 | もとおかむら | | 志摩郡 | 福岡市西区元岡 | 馬場・泉水・射場 | | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | | 居館か | ○ |
| 筑前 | D70 | 古庄能登守宅 | ふるしょうのとのかみ | 古庄氏館 | 志摩郡 | 糸島市志摩吉田 | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | | 48 | 居館 | ● |
| 筑前 | D71 | 野北殿館 | のぎたどの | 北殿館・阿部鑑宗宅 | 志摩郡 | 糸島市志摩野北 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | ○ | | 48 | 居館 | △ |
| 筑前 | D72 | 油比氏宅 | ゆびし | 油比城 | 志摩郡 | 糸島市油比 | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 48,190 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D73 | 浦志孫右衛門宅 | うらしまごえもん | 浦志館 | 志摩郡 | 糸島市浦志2丁目 | 射場 | | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | ○ | ○ | 48 | 居館 | ○ |
| 筑前 | D74 | 小金丸氏館 | こがねまるし | | 志摩郡 | 糸島市志摩船越 | 殿畠 | | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | ○ | | 48 | 居館 | △ |

＜城館関連遺跡＞

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | R8 | 光福寺城館跡 | こうふくじ | | 鞍手郡 | 直方市下境 | | | | | | | | | | | | | | | | 66,175 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R9 | 上頓野宮ノ前遺跡 | かみとんのみやのまえ | | 鞍手郡 | 直方市上頓野 | | | | | | | | | | | | | | | | 64 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R10 | 本城南遺跡 | ほんじょうみなみ | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区本城東6丁目 | 本城 | | | | | | | | | | | | | | | 69 | 丘城か | ◎ |
| 筑前 | R11 | 上西郷ニホンスギ遺跡 | かみさいごうにほんすぎ | | 宗像郡 | 福津市上西郷 | | | | | | | | | | | | | | | | 72 | 町家遺構 | ◎ |
| 筑前 | R12 | 上西郷タナカ遺跡 | かみさいごうたなか | | 宗像郡 | 福津市上西郷 | | | | | | | | | | | | | | | | 203 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R13 | 堀ノ内遺跡 | ほりのうち | | 糟屋郡 | 古賀市庄 | 堀ノ内 | | | | | | | | | | | | | | | 53 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R14 | 香椎A遺跡 | かしいA | | 糟屋郡 | 福岡市東区香椎2丁目 | | | | | | | | | | | | | | | | 75, 81 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R15 | 香椎B遺跡 | かしいB | | 糟屋郡 | 福岡市東区香椎・香椎台4～5丁目 | 里城 | | | | | | | | | | | | | | | 76,83 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R16 | 席田青木遺跡・中山遺跡 | むしろだあおき・なかやま | 中山城・席田青木城 | 糟屋郡／席田郡 | 福岡市博多区空港前５丁目・糟屋郡志免町別府西 | 城・城尾 | | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | 77,84,204 | 丘城か | ◎ |
| 筑前 | R17 | 麦野A遺跡 | むぎのA | | 那珂郡 | 福岡市博多区麦野3丁目 | | | | | | | | | | | | | | | | 134 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R18 | 諸岡B遺跡 | もろおかB | | 那珂郡 | 福岡市博多区諸岡6丁目 | | | | | | | | | | | | | | | | 121,128 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R19 | 諸岡館跡 | もろおか | | 那珂郡 | 福岡市博多区諸岡1丁目 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | 122 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R20 | 大橋E遺跡 | おおはし | | 那珂郡 | 福岡市南区大橋4丁目 | 矢台 | | | | | | | | | | | | | | | 127,129 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R21 | 中白水遺跡 | なかしろうず | | 那珂郡 | 春日市上白水5～6丁目 | | | | | | | | | | | | | | | | 46,124,130 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R22 | 井出ノ原遺跡 | いでのはる | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町中原東2丁目 | | | | | | | | | | | | | | | | 119 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R23 | 大塚遺跡 | おおつか | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町安徳 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | 133 | 丘城 | ◎ |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 福岡西南部（西） | | | | | | 『附録』に「鉢の窪古城」として「本編に詳也」とある。『本編』には「鉢窪」として「生の松原の西、油坂の東の下り口にくぼき所あり。是を鉢の窪と云。（中略）此地をほれば、髑髏枯骨など出しと云。此邊は原田と大友と度度戦有し所なれば、其時討死せし者の骸骨なるべし」とあり、城跡ではなく、古戦場としている。『拾遺』にも「鉢窪古戦場」として「切所也」としている。昭和35年の国土地理院の地形図にも、長垂山の南側に下山門と青木とを結ぶ峠道が記載されており、その峠部分に該当するものと思われるが、山道が見られるのみで、明確な城館遺構はなく詳細は不明である。 |
| 福岡西南部（西）/前原（東） | | | | | | 『附録』に「上原屋舗といふあり。方一町斗。（高祖神社）大宮司上原氏が先祖の屋敷跡といふ」とある。『糸島郡誌』（文献48）には「高祖の西人家の側にあり、天神森とも云ふ」とある。『全集』において初めて「上原館」と称する。高祖地内に伝承地が知られるのみで、城館遺構は確認できない。 |
| 福岡西部（西） | | | | | | 「毘沙門岳砦」の名称は『全集』が初出である。『糸島郡誌』（文献48）には「陳屋」として「毘沙門岳の山巓にあり。此地は弘安の役、我軍が絶えず蒙古軍の動静敵艦の挙動を窺はんために設けられたる展望台のありし所なり」とあり、位置や記載内容からこのことを指しているものとみられる。なお、毘沙門岳山頂には明確な城館遺構は確認できず、詳細は不明である。 |
| 宮浦（東） | | | | | | 『本編』に「郡士元岡右衛門大夫と云し者の居所なりしと云。そのかみ切寄など云し址あり。城跡とは見えず」とあり、『拾遺』には「本村馬場に在。今圃となりて四段許有」とある。現在、元岡地内に小字「馬場」があり、この近辺とみられるが、集落となっており、明確な城館遺構はなく、詳細は不明である。 |
| 宮浦（西） | | | | 610498 | | 『全誌』には「高野神社の西二町、圃中に字残れり」とある。県の分布地図（文献221）により所在地が推測されるが、詳細は不明（本事業では未踏査）。古庄氏は本来豊後の土豪であったが、柑子岳城の在番衆としてこの地に移ったとされ、志摩城の城主としても名がみられる。 |
| 宮浦（西） | | | | | | 『本編』には「（野北）村の内北の方に、豊後大友氏の家臣阿部鑑宗と云者、此地を領して爰に住し屋敷跡今にあり。宅のまわり堀あり」とある。他の地誌類には里民は「野北殿の屋敷」と呼ばれており、本村東奥にあるとする。野北地内に所在するとは思われるが、詳細な場所は不明である。なお、『全集』の「北殿館」は「野北殿館」の誤りとみられる。 |
| 前原（東） | | | | 590336<br>590359 | | 『全誌』には「油比氏宅址」として「殿川の西十五間許圃中にあり。里民油比殿の城跡と称す。殿川と云るも、此宅地の用水なるべし」とある。油比神社の近くに「殿川」という泉があり（文献190）、なおかつ西側の丘陵の通称地名が「ユヒノシロ」であるため、この近辺に館があったものとみられるが、詳細な場所までは不明である。 |
| 前原（東） | | | | 590360 | | 『附録』には射場の天神社に触れ、「此社地はむかし浦志孫右衛門といふ郷士住し所という。周りに堀切二重残れり」とある。『全誌』などには孫右衛門は天正年間の原田氏の配下であったとする。現在浦志地内には、小字「射場」があり、そこに城地が求められるが、明確な遺構は見つかっておらず、詳細は不明である。 |
| 芥屋（東） | | | | | | 『附録』に「（船越）村より申酉の方五六町、山をこえて谷ふところに方廿間ばかりの平地あり。小金丸の城主落城の後潜居せし屋舗の跡といふ。字をトノバタ（殿畠）といふ」とある。地誌類の記載から、船越の半島の居付浜周辺が想定されるが、明確な根拠がなく詳細は不明である。 |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 直方（東） | | ○ | ○ | | 402044 | 本文237ページ参照。 |
| 徳力（西） | | | ○ | | | 本文237ページ参照。 |
| 折尾（東） | | | ○ | | | 本文238ページ参照。 |
| 津屋崎（東） | | | ○ | | | 本文239ページ参照。 |
| 津屋崎（東） | | | ○ | | | 本文240ページ参照。 |
| 古賀（東） | | | ○ | | | 新宮浜に注ぎ込む花鶴川の支流、大根川南岸、標高12～15mの低台地上に位置する。庄東地区遺跡群第3次調査として発掘調査が行われ、方形に囲むとみられる幅1.8m、深さ0.5m未満の溝に囲まれた区画を検出し、内部からは建物2棟が検出されている。区画の隅部分は北側の一ヶ所のみ検出しており、東側は溝が約2m途切れており、出入口であったとみられる。時期はおおむね14世紀である。当該地の字は「堀ノ内」で、関連地名と見られる。 |
| 福岡（東） | | | ○ | | | 本文240ページ参照。 |
| 福岡（東） | | | ○ | | | 本文242ページ参照。 |
| 福岡（東） | | ○ | ○ | | 020080<br>（福岡市）<br>310005<br>（志免町） | 本文243ページ参照。 |
| 福岡南部（東） | | | ○ | | 0048 | 本文244ページ参照。 |
| 福岡南部（東） | | | ○ | | | 本文244ページ参照。 |
| 福岡南部（東） | | ○ | ○ | | | 本文245ページ参照。 |
| 福岡南部（西） | | | ○ | | | 本文246ページ参照。 |
| 福岡南部（東） | | | ○ | | | 本文247ページ参照。 |
| 福岡南部（東） | | | ○ | | | 本文248ページ参照。 |
| 福岡南部（西）/不入道（西） | | ○ | ○ | | 0157 | 本文249ページ参照。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | R24 | 安徳台遺跡 | あんとくだい | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町安徳 | | | | | | | | | | | | | | | | 126,131 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R25 | 平蔵遺跡 | へいぞう | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町上梶原1丁目 | | | | | | | | | | | | | | | | 120,123,125 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R26 | 五ヶ山網取遺跡 | ごかやまあみとり | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山 | | | | | | | | | | | | | | | | 135 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R27 | 柏原K遺跡 | かしはらK | | 早良郡 | 福岡市南区柏原6丁目 | | | | | | | | | | | | | | | | 138 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R28 | 樋井川A遺跡 | ひいがわA | | 早良郡 | 福岡市城南区樋井川3丁目 | 下屋敷・向屋敷 | | | | | | | | | | | | | | | 141 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R29 | 広瀬遺跡 | ひろせ | | 早良郡 | 福岡市早良区西・内野8丁目 | | | | | | | | | | | | | | | | 143 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R30 | 志水A遺跡 | しみずA | | 早良郡 | 福岡市早良区小笠木 | | | | | | | | | | | | | | | | 140 | 兵舎か | ◎ |
| 筑前 | R31 | 清末遺跡 | きよすえ | | 早良郡 | 福岡市早良区東入部4・5丁目 | | | | | | | | | | | | | | | | 139 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R32 | 有田・小田部遺跡群 | ありたこたべ | | 早良郡 | 福岡市早良区有田・小田部 | | | | | | | | | | | | | | | | 136,186 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R33 | 原遺跡 | はら | | 早良郡 | 福岡市早良区原7・8丁目 | 小園・南屋敷 | | | | | | | | | | | | | | | 137,145 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R34 | 浦江遺跡 | うらえ | | 早良郡 | 福岡市西区金武 | | | | | | | | | | | | | | | | 144 | 砦か | ◎ |
| 筑前 | R35 | 一町屋敷跡 | いっちょうやしき | | 早良郡 | 福岡市西区拾六町 | | | | | | | | | | | | | | | | 186, 222 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R36 | 下山門乙女田遺跡 | しもやまとおとめだ | | 早良郡 | 福岡市西区下山門3丁目 | | | | | | | | | | | | | | | | 142 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R37 | 元寇防塁 | げんこうぼうるい | 博多古塁・石築地 | 志摩・早良・那珂・糟屋郡 | 福岡市東区・博多区・早良区・西区 | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | 109～118 | 防塁 | ◎ |
| 筑前 | R38 | 蔵持境遺跡 | くらもちさかい | | 怡土郡 | 糸島市蔵持 | | | | | | | | | | | | | | | | 154 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R39 | 蔵持古屋敷遺跡 | くらもちふるやしき | | 怡土郡 | 糸島市蔵持 | 古屋敷 | | | | | | | | | | | | | | | 149 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R40 | 東五反田遺跡 | ひがしごたんだ | | 怡土郡 | 糸島市東 | | | | | | | | | | | | | | | | 147 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R41 | 東下田遺跡 | ひがししもだ | | 怡土郡 | 糸島市東 | | | | | | | | | | | | | | | | 147 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R42 | 東高田遺跡 | ひがしたこうだ | | 怡土郡 | 糸島市東 | 屋敷田 | | | | | | | | | | | | | | | 148 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R43 | 熊野神社東遺跡 | くまのじんじゃひがし | | 怡土郡 | 糸島市二丈田中 | | | | | | | | | | | | | | | | 157 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R44 | 石崎曲り田遺跡 | いしざきまがりた | | 怡土郡 | 糸島市二丈石崎 | | | | | | | | | | | | | | | | 153 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R45 | 木舟・三本松遺跡 | きぶねさんぼんまつ | | 怡土郡 | 糸島市二丈深江 | | | | | | | | | | | | | | | | 151,152 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R46 | 木舟の森遺跡 | きぶねのもり | | 怡土郡 | 糸島市二丈深江 | | | | | | | | | | | | | | | | 150 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R47 | 大塚遺跡 | おおつか | | 志摩郡 | 福岡市西区今宿町 | | | | | | | | | | | | | | | | 160,163,164 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R48 | 青木遺跡 | あおき | | 志摩郡 | 福岡市西区今宿青木 | | | | | | | | | | | | | | | | 159,161,162 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R49 | 池田井田遺跡 | いけだいだ | | 志摩郡 | 糸島市波多江駅南1丁目 | | | | | | | | | | | | | | | | 166 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R50 | 潤古屋敷遺跡 | うるうふるやしき | | 志摩郡 | 糸島市潤 | 古屋敷 | | | | | | | | | | | | | | | 167,168 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R51 | 波多江遺跡 | はたえ | | 志摩郡 | 糸島市波多江 | | | | | | | | | | | | | | | | 158 | 平地城館 | ◎ |
| 筑前 | R52 | 木藤丸遺跡 | きふじまる | | 志摩郡 | 糸島市志摩稲留 | 木藤丸 | | | | | | | | | | | | | | | 165 | 平地城館 | ◎ |

＜所在不明＞

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | F13 | 蟻塚ノ城 | ありづかのしろ | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町 | | | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 筑前 | F14 | 一の瀬城 | いちのせ | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町市瀬 | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| 福岡南部（西）/不入道（西） | | | ○ | | | 本文250ページ参照。 |
| 福岡南部（西）/不入道（西） | | | ○ | | | 本文251ページ参照。 |
| 不入道（西） | | | ○ | | | 本文252ページ参照。 |
| 福岡南部（西） | | | ○ | | | 本文252ページ参照。 |
| 福岡南部（西） | | | ○ | | | 本文253ページ参照。 |
| 脊振山（東） | | | ○ | | | 本文254ページ参照。 |
| 脊振山（東） | | | ○ | | | 本文254ページ参照。 |
| 福岡西南部(東) | | | ○ | | | 本文255ページ参照。 |
| 福岡西南部(東) | | | ○ | | | 本文255ページ参照。 |
| 福岡西南部(東) | | | ○ | | | 本文256ページ参照。 |
| 福岡西南部(東) | | | ○ | | | 本文257ページ参照。 |
| 福岡西南部(東)/(西) | | | | | | 福岡市分布地図（文献226）の掲載を初出とする。十郎川東岸の標高6mの沖積地に位置する。文献186によれば、近年まで土塁と溝が現存していたが、現在は消滅したという。東西80m、南北120mの方形区画に土塁と溝が巡っていたという。地誌類等では確認することはできない。 |
| 福岡西南部（東）/福岡西部（東） | | | ○ | | | 本文257ページ参照。 |
| 福岡（西）/福岡西部（東）/（西）/福岡西南部(東)/(西)/宮浦（東） | | | ○ | | 020116 | 本文258ページ参照。 |
| 前原（東） | | | ○ | | | 本文261ページ参照。 |
| 前原（東） | | | ○ | | | 本文261ページ参照。 |
| 前原（西） | | | ○ | 590433 | 0107 | 本文263ページ参照。 |
| 前原（西） | | | ○ | 590433 | 0107 | 本文263ページ参照。 |
| 前原（西） | | | ○ | 590433 | 0107 | 本文263ページ参照。 |
| 前原（西） | | | ○ | | | 本文265ページ参照。 |
| 前原（西） | | | ○ | | | 本文266ページ参照。 |
| 前原（西） | | | ○ | | | 本文267ページ参照。 |
| 前原（西） | | | ○ | | | 本文268ページ参照。 |
| 福岡西南部（西） | | | ○ | | 0625 | 本文269ページ参照。 |
| 福岡西南部（西） | | | ○ | | | 本文270ページ参照。 |
| 前原（東） | | | ○ | | | 本文271ページ参照。 |
| 前原（東） | | | ○ | | | 本文271ページ参照。 |
| 前原（東） | | | ○ | | | 本文272ページ参照。 |
| 前原（西）/宮浦（西） | | | ○ | | | 本文273ページ参照。 |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| | | | | | | 『城数之覚書』（筑紫家文書）に「蟻塚ノ城」として番城であるとする。『筑紫野市史』上巻などには那珂川町に所在するが、詳細は不明であるとしている。既に知られている城のどれかにあたる可能性もあるが、どれなのか比定する根拠もないため、詳細不明である。 |
| | | | | | | 『北肥戦誌』に延文6年に少弐氏が守備した城の一つに「一の瀬」があげられる。また天正14年に筑紫氏の端城として一の岳と共に一の瀬の名が挙がる。亀ノ尾城の可能性も考えられる。 |

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | F15 | 徳永城 | とくなが | 細峯城 | 怡土郡 | 福岡市西区徳永か | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 筑前 | F16 | 一貴寺 | いぎじ | | 怡土郡 | 糸島市二丈一貴山 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 筑前 | F17 | 一貴寺高嶽 | いぎじたかだけ | | 怡土郡 | 糸島市二丈一貴山か | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 筑前 | F18 | 本岡城郭 | もとおか | | 志摩郡 | 福岡市西区元岡 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 筑前 | F19 | 荻浦居屋敷 | おぎうら | | 志摩郡 | 糸島市志摩荻浦 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 筑前 | F20 | 北崎城 | きたざき | | 志摩郡 | 福岡市西区北崎 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 筑前 | F21 | 青浦城 | あおうら | | 不明 | 不明 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 筑前 | F22 | 春日嶽城 | かすがだけ | | 不明 | 不明 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |

＜削除対象＞

| 地域 | No. | 名称 | よみがな | 別称 | 旧郡名 | 所在地 | 関連地名 | 史料 | | 地誌類 | | | | 基本参考文献 | | | | | | | | | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 一次 | 参考 | 本編 | 附録 | 拾遺 | 全誌 | 旧城 | 種々 | 全集 | 探訪 | 教委 | 大系 | 廣崎 | 城郭 | その他文献 | | |
| 筑前 | – | 本城山城 | ほんじょうやま | | 鞍手郡 | 宮若市本城 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 筑前 | – | 福地山城 | ふくちやま | | 鞍手郡 | 直方市頓野 | | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | |
| 筑前 | – | 比津城 | ひつ | | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区上津役 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 筑前 | – | 強洞陣 | ごうとう | 河頭山陣 | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区藤田 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 筑前 | – | 城腰 | じょうのこし | | 宗像郡 | 宗像市大島 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 筑前 | – | 葛ヶ岳城 | かずらがたけ | | 宗像郡 | 宗像市赤間 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 筑前 | – | (名称記載なし) | | | 宗像郡 | 福津市舎利蔵 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 筑前 | – | 葛城 | かつらぎ | | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町久原 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 筑前 | – | 三野城 | みの | | 那珂郡 | 福岡市博多区美濃島 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 筑前 | – | 観音山城 | かんのんやま | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町中原 | | | | | | | | | | | | | | | | 229 | | |
| 筑前 | – | 立ノ口城 | たつのくち | | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町大字中原字立ノ口・春日市上白水 | | | | | | | | | | | | | | | | 229 | | |
| 筑前 | – | 三瀬城 | みつせ | 城の山城 | 早良郡／肥前国 | 福岡市早良区曲渕・佐賀市三瀬村三瀬 | | | | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 筑前 | – | 十坊山城 | とんぼやま | 十防山城 | 怡土郡 | 糸島市二丈吉井 | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | 49 | | |
| 筑前 | – | 城山城 | じょうやま | | 志摩郡 | 糸島市板持 | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 筑前 | – | 城角城 | じょうかく | | 志摩郡 | 福岡市西区今津 | | | | | | | | | | | | | | | ○ | 52,190 | | |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| | | | | | | 『城郭』で「徳永城」として名が挙げ、細峯城が別称である可能性を指摘する。地誌類等には見えない。一次史料では「細峯城」として南北朝時代の文書に複数名が挙がる。福岡市西区徳永あたりに所在した可能性が考えられるが、詳細不明。 |
| | | | | | | 暦応3年の文書に筑前国一貴寺に立て籠もる内容のものが見られる。怡土七ヶ寺の一つ夷巍寺の事とみられるが、詳細は不明である。 |
| | | | | | | 正平17年の文書に「一貴寺高殿」において国司が敵を討ったという内容のものが見られる。夷巍寺あるいは二丈岳城の事を指している可能性が考えられるが、詳細は不明である。 |
| | | | | | | 観応元年に松浦佐志源蔵人に筑前国「本岡城郭」を与えたという文書が見られる。水崎城の事を指している可能性もあるが、水崎城の文書の年代と異なっていることから断定できない。 |
| | | | | | | 永正9年の文書に西五郎兵衛尉の知行地「荻浦居屋敷」が見られる。糸島市志摩荻浦周辺に所在したものとみられるが詳細は不明である。 |
| | | | | | | 天文2年の文書に北崎城の合戦に際した文書が確認できる。柑子岳城あるいは福岡市西区北崎周辺に所在した城を指しているものとみられるが、詳細は不明である。 |
| | | | | | | 観応4年の文書に青浦城攻めに関する記載が見られる。文書の来歴から志摩郡周辺の城を指している可能性もあるが、それ以外の地域の可能性も高く、詳細は不明である。 |
| | | | | | | 嘉吉2年の文書に飯盛城(篠栗町金出)に着陣した3日後に「春日嶽」にて合戦が行われたとある。春日嶽が筑前国内に所在する可能性が高いが、詳細な場所は特定できず不明である。 |

| 図幅名 | 調査データ | | | 包蔵地番号 | | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縄張 | 測量 | 発掘 | 福岡県 | 市町村 | |
| | | | | 410415か | | 『教委』を初出とし、以後の一覧に登場する。『教委』には出典・参考文献として『宮田町誌』(文献18)があげられているが、そこには明確に城という記載は見られない。また県の分布地図(文献218)に祇園岳城の麓の丘陵上に城跡の記載(包蔵地番号410415)があり、そこが大字本城にあたるため、ここの事を指している可能性もある。現地には堀切のようなくぼみも見られるが、後世の地形改変が激しく、城館遺構と断定することはできない。よって城館としての根拠不明確であるため、対象から削除した。 |
| | | | | | | 『種々』の「直方市主要史跡」の一つとして「福地山城址」を挙げる。福智山山頂所在を想定していると思われるが、有名な山にもかかわらず他に城跡という記載は全く見られないため、対象から削除した。 |
| | | | | | | 『教委』を初出とし、以後の一覧に登場する。『教委』には出典・参考文献として『種々』を挙げているが、『種々』には「比津城」という城名は出てこない。所在が上津役であることから類推するに、竹尾城(筑前210)の別称が「上津役城」で、現在も残る地名「上上津役」の「上上」を「比」と縮めて読み取ってしまった結果、このような架空の名称の城館が産み出されてしまったのではないかと思われる。地誌類等にも一切記載がないため、上記の想定により削除対象とした。 |
| | | | | | | 『城郭』を唯一の出典とする。そこには「別称河頭山城。花尾城の西北、河頭山に位置。堀切残る。」とあるが、地誌類等には、河頭山に陣や城館の記載は一切なく、また北九州市自然史・歴史博物館による現地踏査においても城館遺構は認められないため、城館としての根拠は不十分であると判断し、削除対象とした。 |
| | | | | | | 『城郭』には大島の北の台地に「城腰」という地名が残ることを根拠に城館としているが、根拠が地名のみで地誌類における城館としての記載や現地に明確な城館遺構が存在しないため、削除対象とした。 |
| | | | | | | 『種々』に「葛ヶ嶽城址(宗像氏)」とあるのを初出とし、以後の一覧に登場する。葛嶽という山名や城名は地誌類などには一切登場がなく、また『種々』には宗像地域有数の城郭である「蔦岳城(蔦ヶ岳城)」が掲載されていないことを考えると、「葛」は「蔦」の誤字であるとみられ、「蔦岳城」を指しているものとみられる。よって「葛ヶ岳城」は削除対象とした。 |
| | | | | | 100006(旧福間町) | 福間町の分布地図(文献228)に舎利蔵の勝宝寺の背後の丘陵が城郭遺構として登録されている。福津市の担当者に聞いたところ、分布地図作成時の踏査において、堀切とみられる窪みがあったため、城郭としたということであった。現地を踏査したところ、勝宝寺の背後には確かに平坦地が見られ、窪みもあったが、切通しによる窪みであり、明確には城館遺構とは言えない。また城館としての伝承や記載も見られないため、削除対象とした。 |
| | | | | | | 『城郭』には「葛城」という地名が残ることを根拠に城館としているが、根拠が地名のみで地誌類における城館としての記載や現地に明確な城館遺構が存在しないため、削除対象とした。 |
| | | | | | | 『日本書紀』記載の山城「三野城」を指している。いわゆる古代山城で中近世城館ではないので、今回は対象外とする。古代山城としても所在不明である。 |
| | | | | | 0121 | JR博多南駅の南側に聳える観音山山頂に城地があるとする。那珂川町の分布地図(文献229)における記載を唯一の出典とする。町の分布調査の際の現地踏査において、城郭と思われる平坦面が見られたため、城郭としたということであるが、今回現地を確認したところ、自然地形のみで、明確な城館遺構はなく、また地誌類や伝承にも城館の存在は裏付けられないため、削除対象とした。 |
| | | | | | 0122 | 観音山の南側の丘陵上に城地があるとする。那珂川町の分布地図(文献229)における記載を唯一の出典とする。町の分布調査の際の現地踏査において、城郭と思われる平坦面が見られたため、城郭としたということであるが、今回現地を確認したところ、自然地形のみで、明確な城館遺構はなく、また地誌類や伝承にも城館の存在は裏付けられないため、削除対象とした。 |
| | ○ | | | | 020826 | 福岡市分布地図(文献237)を初出とし、佐賀県との境にあたる通称「城の山」山頂にあるとしている。現地は特に明瞭な城館遺構もなく、また文献54によると、山名の根拠も不明確であるという。佐賀県側の三瀬城主、神代氏の出城であるとするも、金山城(筑前319)が神代氏の出城という明確な地誌類記載もあることから、金山城と混同されている可能性も十分考えられる。以上のように城館という根拠が非常に不明確であるため、削除対象とした。 |
| | | | | | | 『二丈町誌』(文献49)の吉井岳城の説明イラストに「十防山(詰の城)　最後の據点である」と記載されるのが初出とみられ、以後の文献に登場する。しかし、有名な山であるにもかかわらず、これ以外の地誌類の記載は一切なく、十坊山山頂には明確な城館遺構もないため、城館としては根拠が不明確であるので、削除対象とした。 |
| | | | | 590335 | | 『教委』を初出とし、以後の一覧に登場する。『教委』掲載時の出典・参考文献を見ると『種々』となっている。しかし『種々』にある「城山城」は加布里に所在するとあり、「加布里城(筑前336)」の別称である。板持は加布里の隣の行で、『教委』作成時の単なる写し間違いであり、存在しない城館であるため、削除した。 |
| | | | | | | 文献190を初出とする。「城角」という地名を城館としての根拠としており、現地には城館遺構はみられないとしている。地誌類等の城館としての記載も見られないため、削除対象とした。 |

参考文献一覧表

＜基本参考文献＞

| No. | 編著者名 | 発行年 | 著書名 | 発行 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 貝原篤信 | 1709 | 『筑前国続風土記』 | |
| 2 | 加藤一純・鷹取周成 | 1798 | 『筑前国続風土記附録』 | |
| 3 | 青柳種信 | 文政～天保 | 『筑前国続風土記拾遺』 | |
| 4 | 臼井浅夫ほか | 1875～1880 | 『福岡県地理全誌』 | |
| 5 | 和田宗八 | 1936 | 『研究旅行用　面白い種々な見方の福岡縣史、史蹟名勝口碑傳説所在地』 | 金文堂 |
| 6 | 鳥羽正雄ほか編 | 1967 | 『日本城郭全集』14 佐賀・長崎・福岡 | 人物往来社 |
| 7 | 西谷正ほか | 1977 | 『探訪日本の城』10西海道 | 小学館 |
| 8 | 副島邦弘・近沢康治編 | 1979 | 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』XXIX | 福岡県教育委員会 |
| 9 | 磯村幸男編 | 1979 | 「福岡県」『日本城郭大系』第18巻 | 新人物往来社 |
| 10 | 廣崎篤夫 | 1995 | 『福岡県の城』 | 海鳥社 |
| | | 1997 | 『福岡古城探訪』 | 海鳥社 |
| 11 | 福岡県の城郭刊行会 | 2009 | 『福岡県の城郭　戦国城郭を行く』 | 銀山書房 |

＜市町村郡誌＞

| No. | 編著者名 | 発行年 | 著書名 | 発行 |
|---|---|---|---|---|
| ＜全般＞ | | | | |
| 12 | (財)西日本文化協会 | 1998 | 『福岡県史』通史編　福岡藩（一） | 福岡県 |
| ＜鞍手郡＞ | | | | |
| 13 | 鞍手郡教育会 | 1934 | 『鞍手郡誌』全 | 鞍手郡教育会 |
| 14 | 鞍手郡教育研究所 | 1965 | 『鞍手郡郷土史』 | 鞍手郡教育研究所 |
| 15 | 直方市史編さん委員会 | 1971 | 『直方市史』上巻 | 直方市役所 |
| 16 | 鞍手町誌編集委員会 | 1974 | 『鞍手町誌』上巻 | 鞍手町 |
| 17 | 直方市史編さん委員会 | 1978 | 『直方市史』下巻 | 直方市役所 |
| 18 | 宮田町誌編纂委員会 | 1978 | 『宮田町誌』上巻 | 宮田町役場 |
| 19 | 小竹町史編さん委員会 | 1985 | 『小竹町史』 | 小竹町 |
| 20 | 若宮町誌編さん委員会 | 2005 | 『若宮町誌』上巻 | 若宮町 |
| ＜遠賀郡＞ | | | | |
| 21 | 伊東尾四郎 | 1936 | 『八幡市史』 | 八幡市役所 |
| 22 | 若松市役所 | 1937 | 『若松市史』 | 若松市役所 |
| 23 | 伊東尾四郎 | 1939 | 『戸畑市史』 | 戸畑市役所 |
| 24 | 若松市史第二集編纂委員会 | 1959 | 『若松市史』第二集 | 若松市役所 |
| 25 | 遠賀郡誌復刊刊行会 | 1961 | 『増補改訂　遠賀郡誌』上巻(遠賀郡教育会1917『遠賀郡誌』全の増補版) | 遠賀郡誌復刊刊行会 |
| 26 | 遠賀郡誌復刊刊行会 | 1962 | 『増補改訂　遠賀郡誌』下巻(遠賀郡教育会1917『遠賀郡誌』全の増補版) | 遠賀郡誌復刊刊行会 |
| 27 | 水巻町郷土誌編集委員会 | 1962 | 『水巻町誌』全 | 水巻町教育委員会 |
| 28 | 芦屋町誌編集委員会 | 1972 | 『芦屋町誌』 | 芦屋町役場 |
| 29 | 遠賀町誌編纂委員会 | 1986 | 『遠賀町誌』 | 遠賀町 |
| 30 | 岡垣町史編纂委員会 | 1988 | 『岡垣町史』 | 岡垣町 |
| 31 | 北九州市史編さん委員会 | 1992 | 『北九州市史』古代・中世 | 北九州市 |
| ＜宗像郡＞ | | | | |
| 32 | 伊東尾四郎 | 1931 | 『宗像郡誌』中編 | 名著出版（復刊） |
| 33 | 伊東尾四郎 | 1944 | 『宗像郡誌』上編 | 名著出版（復刊） |
| 34 | 福間町教育委員会<br>福間郷土史研究会 | 1972 | 『福間町史』明治編 | 福間町 |
| 35 | 玄海町町誌編纂委員会 | 1979 | 『玄海町誌』 | 玄海町 |
| 36 | 大島村教育委員会 | 1985 | 『大島村史』 | 大島村 |
| 37 | 宗像市史編纂委員会 | 1999 | 『宗像市史』通史編第二巻 | 宗像市 |
| 38 | 津屋崎町史編さん委員会 | 1999 | 『津屋崎町史』通史編 | 津屋崎町 |
| ＜糟屋郡＞ | | | | |
| 39 | 香椎町誌編纂委員会 | 1953 | 『香椎町誌』 | 香椎町役場 |
| 40 | 篠栗町文化財専門委員会 | 1982 | 『篠栗町誌』歴史編 | 篠栗町役場 |
| 41 | 須恵町誌編集委員会 | 1983 | 『須恵町誌』 | 須恵町役場 |
| 42 | 久山町誌編纂委員会 | 1996 | 『久山町誌』下巻 | 久山町 |
| 43 | 新宮町誌編集委員会 | 1997 | 『新宮町誌』 | 新宮町 |
| ＜福岡城＞ | | | | |
| 44 | 福岡市史編集委員会 | 2013 | 『新修福岡市史』特別編　福岡城－築城から現代まで－ | 福岡市 |
| ＜那珂郡＞ | | | | |
| 45 | 那珂川町教育委員会 | 1976 | 『郷土史那珂川』 | 那珂川町 |
| 46 | 春日市史編さん委員会 | 1995 | 『春日市史』上巻 | 春日市 |
| ＜早良郡＞ | | | | |
| 47 | 早良郡役所 | 1933 | 『早良郡誌』全 | |

| No. | 編著者名 | 発行年 | 著書名 | 発行 |
|---|---|---|---|---|
| ＜怡土郡・志摩郡＞ | | | | |
| 48 | 糸島郡教育会 | 1927 | 『糸島郡誌』全 | 糸島郡教育会 |
| 49 | 二丈町誌編集委員会 | 1967 | 『二丈町誌』 | 二丈町役場 |
| 50 | 志摩町史編集委員会 | 1972 | 『志摩町史』 | 志摩町 |
| 51 | 二丈町誌編纂委員会 | 2005 | 『二丈町誌（平成版）』 | 二丈町 |
| 52 | 『新修志摩町史』編集委員会 | 2009 | 『新修志摩町史』上巻 | 志摩町 |

＜発掘等調査報告書＞

| No. | 編著者名 | 発行年 | 著書名 |
|---|---|---|---|
| ＜全般＞ | | | |
| 53 | 福岡県教育委員会 | 2004 | 『福岡県埋蔵文化財発掘調査年報』－平成14年度－ |
| 54 | 佐賀県教育委員会 | 2013 | 『佐賀県の中世城館』第２集　各説編１（三養基・神埼・佐賀地区） |
| ＜鞍手郡＞ | | | |
| 55 | 福岡県教育委員会 | 1977 | 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』ⅩⅥ |
| 56 | 福岡県教育委員会 | 1978 | 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』ⅩⅩ |
| 57 | 福岡県教育委員会 | 1978 | 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』ⅩⅩⅢ |
| 58 | 直方市教育委員会 | 1987 | 『筑前鷹取城跡』（直方市文化財調査報告書第８集） |
| 59 | 直方市教育委員会 | 1988 | 『筑前鷹取城跡Ⅱ』（直方市文化財調査報告書第９集） |
| 60 | 直方市教育委員会 | 1989 | 『筑前鷹取城跡Ⅲ』（直方市文化財調査報告書第10集） |
| 61 | 直方市教育委員会 | 1990 | 『筑前鷹取城跡Ⅳ』（直方市文化財調査報告書第11集） |
| 62 | 直方市教育委員会 | 1991 | 『筑前鷹取城跡Ⅴ』（直方市文化財調査報告書第12集） |
| 63 | 福岡県教育委員会 | 1992 | 『犬鳴Ⅲ』（福岡県文化財調査報告書第100集） |
| 64 | 直方市教育委員会 | 1993 | 『上頓野宮ノ前遺跡』（直方市文化財調査報告書第15集） |
| 65 | 若宮町教育委員会 | 1999 | 『黒丸丸尾城跡』（若宮町文化財調査報告書第16集） |
| 66 | 直方市教育委員会 | 2010 | 『光福寺遺跡』（直方市文化財調査報告書第39集） |
| ＜遠賀郡＞ | | | |
| 67 | 竹中岩夫 | 1967 | 『園田浦城址発掘調査報告書』北九州市青年郷土史研究会 |
| 68 | （財）北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室 | 1981 | 『別当山遺跡』（北九州市埋蔵文化財調査報告第10集） |
| 69 | （財）北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室 | 1984 | 『本城南遺跡』（北九州市埋蔵文化財調査報告第33集） |
| 70 | （財）北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室 | 1999 | 『園田浦城跡』（北九州市埋蔵文化財調査報告書第232集） |
| 71 | （財）北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室 | 2005 | 『小敷城跡』（北九州市埋蔵文化財調査報告書第343集） |
| ＜宗像郡＞ | | | |
| 72 | 福津市教育委員会 | 2010 | 『上西郷ニホンスギ遺跡現地説明会』資料 |
| ＜糟屋郡＞ | | | |
| 73 | 福岡県 | 1928 | 『名島城址』（史蹟名勝天然記念物調査報告書第４集） |
| 74 | 福岡市教育委員会 | 1993 | 『名島城跡Ⅰ』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第318集） |
| 75 | 福岡市教育委員会 | 1996 | 『蒲田・水ヶ元遺跡　付録１．香椎A遺跡第１次調査』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第491集） |
| 76 | 福岡市教育委員会 | 2000 | 『香椎B遺跡』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第621集） |
| 77 | 志免町教育委員会 | 2000 | 『中山遺跡』（志免町文化財調査報告書第10集） |
| 78 | 須恵町教育委員会 | 2003 | 『筑前高鳥居城跡』（須恵町文化財調査報告書第8集） |
| 79 | 福岡市教育委員会 | 2007 | 『名島城跡２』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第938集） |
| 80 | 粕屋町教育委員会 | 2008 | 『丸山城』（粕屋町文化財調査報告書第27集） |
| 81 | 福岡市教育委員会 | 2010 | 『香椎A遺跡』３（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1072集） |
| 82 | 福岡市教育委員会 | 2010 | 『名島城跡３』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1084集） |
| 83 | 福岡市教育委員会 | 2013 | 『香椎B遺跡』２（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1186集） |
| ＜席田郡＞ | | | |
| 84 | 福岡市教育委員会 | 1993 | 『席田青木遺跡１』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第356集） |
| ＜福岡城＞ | | | |
| 85 | 福岡県教育委員会 | 1964 | 『史跡福岡城発掘調査概報』（福岡県文化財調査報告書第34集） |
| 86 | 福岡市教育委員会 | 1980 | 『筑前国福岡城三ノ丸御鷹屋敷』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第59集） |
| 87 | 福岡市教育委員会 | 1981 | 『史跡福岡城跡環境整備報告書』 |
| 88 | 福岡市教育委員会 | 1983 | 『福岡城址―内堀外壁石積の調査―』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第101集） |
| 89 | 福岡市教育委員会 | 1986 | 『福岡城肥前堀』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第131集） |
| 90 | 福岡市教育委員会 | 1990 | 『筑前国福岡城三ノ丸御鷹屋敷』図録編（福岡市埋蔵文化財調査報告書第59集） |
| 91 | 福岡市教育委員会 | 1991 | 『福岡城跡Ⅳ―内堀内壁の調査―』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第237集） |
| 92 | 福岡市教育委員会 | 1991～2014 | 『鴻臚館跡発掘調査概報』Ⅰ～21 |
| 93 | 福岡市教育委員会 | 1992 | 『福岡城肥前堀第3次調査報告』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第293集） |
| 94 | 福岡市教育委員会 | 1992 | 『福岡城肥前堀第4次調査報告』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第294集） |

| No. | 編著者名 | 発行年 | 著書名 |
|---|---|---|---|
| 95 | 福岡市教育委員会 | 1992 | 『福岡城　月見櫓』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第316集） |
| 96 | 福岡市教育委員会 | 1994 | 『福岡城の櫓』 |
| 97 | 福岡市教育委員会 | 1995 | 『福岡城跡—第23次調査報告—』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第415集） |
| 98 | 福岡市教育委員会 | 1996 | 『福岡城赤坂門跡—福岡城跡第26次調査報告—』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第463集） |
| 99 | 福岡市教育委員会 | 1997 | 『福岡城跡—福岡城中堀跡の調査—』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第498集） |
| 100 | 福岡市教育委員会 | 1997 | 『史跡福岡城跡—東の丸の発掘調査—』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第546集） |
| 101 | 福岡市教育委員会 | 1998 | 「福岡城跡36次・37次調査」『福岡市埋蔵文化財年報Vol.11』 |
| 102 | 福岡市教育委員会 | 2003 | 『福岡城大手門—第48次調査報告—』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第772集） |
| 103 | 福岡市教育委員会 | 2007 | 『福岡城跡—第53次調査報告—』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第960集） |
| 104 | 福岡市教育委員会 | 2007 | 『福岡城跡—潮見櫓・時櫓整備に伴う確認調査報告—』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第969集） |
| 105 | 福岡市教育委員会 | 2007 | 『福岡城跡（18・25・38次）』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第970集） |
| 106 | 福岡市教育委員会 | 2007 | 「福岡城跡54次調査」『福岡市埋蔵文化財年報Vol.20』 |
| 107 | 福岡市教育委員会 | 2008 | 『福岡城跡』15（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1005集） |
| 108 | 福岡市教育委員会 | 2012 | 『福岡城祈念櫓跡』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1247集） |
| ＜元寇防塁＞ | | | |
| 109 | 福岡市教育委員会 | 1968 | 『生の松原元寇防塁発掘調査概報』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第３集） |
| 110 | 福岡市元寇防塁調査委員会 | 1969 | 『今津元寇防塁発掘調査概報』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第７集） |
| 111 | 福岡市教育委員会 | 1970 | 『西新元寇防塁発掘調査概報』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第11集） |
| 112 | 福岡市教育委員会 | 1995 | 「地蔵松原防塁（5次）」『福岡市埋蔵文化財年報Vol.8』 |
| 113 | 福岡市教育委員会 | 1998 | 「元寇防塁第6次調査」『福岡市埋蔵文化財年報Vol.11』 |
| 114 | 福岡市教育委員会 | 2001 | 『国史跡　元寇防塁（生の松原地区）復元・修理報告書（7次）』（福岡市埋蔵文化財調査報告第694集） |
| 115 | 福岡市教育委員会 | 2002 | 『博多』85（福岡市埋蔵文化財調査報告第711集） |
| 116 | 福岡市教育委員会 | 2002 | 『西新地区元寇防塁発掘調査報告書』（福岡市埋蔵文化財調査報告第726集） |
| 117 | 福岡市教育委員会 | 2002 | 「元寇防塁跡第9次調査」『福岡市埋蔵文化財年報Vol.15』 |
| 118 | 福岡市教育委員会 | 2007 | 『香椎地区遺跡確認調査報告書』（福岡市埋蔵文化財調査報告第926集） |
| ＜那珂郡＞ | | | |
| 119 | 福岡県教育委員会 | 1976 | 『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第２集 |
| 120 | 那珂川町教育委員会 | 1980 | 『平蔵遺跡』（那珂川町文化財調査報告書第５集） |
| 121 | 福岡市教育委員会 | 1980 | 『板付周辺遺跡調査報告書』６（福岡市埋蔵文化財調査報告書第57集） |
| 122 | 福岡市教育委員会 | 1984 | 『諸岡遺跡』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第108集） |
| 123 | 那珂川町教育委員会 | 1990 | 『平蔵遺跡』Ⅱ（那珂川町文化財調査報告書第22集） |
| 124 | 春日市教育委員会 | 1993 | 『春日市埋蔵文化財年報』１　平成４年度 |
| 125 | 那珂川町教育委員会 | 1998 | 『平蔵遺跡』Ⅲ（那珂川町文化財調査報告書第41集） |
| 126 | 那珂川町教育委員会 | 2000 | 『安徳台』（那珂川町文化財調査報告書第52集） |
| 127 | 福岡市教育委員会 | 2003 | 『大橋E遺跡』５（福岡市埋蔵文化財調査報告書第740集） |
| 128 | 福岡市教育委員会 | 2003 | 『諸岡B遺跡20次』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第776集） |
| 129 | 福岡市教育委員会 | 2004 | 『大橋E遺跡』６（福岡市埋蔵文化財調査報告書第791集） |
| 130 | 春日市教育委員会 | 2006 | 『春日市埋蔵文化財年報』13　平成16年度 |
| 131 | 那珂川町教育委員会 | 2006 | 『安徳台遺跡群』（那珂川町文化財調査報告書第67集） |
| 132 | 那珂川町教育委員会 | 2006 | 『岩門城跡』（那珂川町文化財調査報告書第68集） |
| 133 | 那珂川町教育委員会 | 2009 | 『大塚遺跡群』（那珂川町文化財調査報告書第76集） |
| 134 | 福岡市教育委員会 | 2009 | 『麦野A遺跡』７（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1056集） |
| 135 | 福岡県教育委員会 | 2013 | 『五ヶ山』Ⅰ（福岡県文化財調査報告書第237集） |
| ＜早良郡＞ | | | |
| 136 | 福岡市教育委員会 | 1980～2014 | 『有田・小田部』第１集～53 |
| 137 | 福岡市教育委員会 | 1986 | 『原遺跡』２（福岡市埋蔵文化財調査報告書第140集） |
| 138 | 福岡市教育委員会 | 1987 | 『柏原遺跡群』Ⅲ（福岡市埋蔵文化財調査報告書第157集） |
| 139 | 福岡市教育委員会 | 1992 | 『入部Ⅲ』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第310集） |
| 140 | 福岡市教育委員会 | 1995 | 『小笠木』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第425集） |
| 141 | 福岡市教育委員会 | 2001 | 『樋井川A遺跡』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第682集） |
| 142 | 福岡市教育委員会 | 2004 | 『下山門乙女田遺跡』３（福岡市埋蔵文化財調査報告書第796集） |
| 143 | 福岡市教育委員会 | 2005 | 『広瀬遺跡』１（福岡市埋蔵文化財調査報告書第865集） |
| 144 | 福岡市教育委員会 | 2005 | 『金武』２（福岡市埋蔵文化財調査報告書第866集） |
| 145 | 福岡市教育委員会 | 2012 | 『原遺跡』15（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1168集） |
| 146 | 福岡市教育委員会 | 2013 | 『福岡市埋蔵文化財年報』Vol 27　平成24年度版 |

| No. | 編著者名 | 発行年 | 著書名 |
|---|---|---|---|
| ＜怡土郡＞ | | | |
| 147 | 前原町教育委員会 | 1989 | 『長野川流域の遺跡群』Ⅰ（前原町文化財調査報告書第31集） |
| 148 | 前原町教育委員会 | 1990 | 『長野川流域の遺跡群』Ⅱ（前原町文化財調査報告書第33集） |
| 149 | 前原町教育委員会 | 1993 | 『蔵持古屋敷遺跡　高祖遺跡群Ⅱ』（前原市文化財調査報告書第46集） |
| 150 | 二丈町教育委員会 | 1995 | 『木舟の森遺跡』（二丈町文化財調査報告書第12集） |
| 151 | 二丈町教育委員会 | 1997 | 『木舟・三本松遺跡』Ⅱ（二丈町文化財調査報告書第15集） |
| 152 | 二丈町教育委員会 | 1998 | 『木舟・三本松遺跡』Ⅲ（二丈町文化財調査報告書第16集） |
| 153 | 二丈町教育委員会 | 2001 | 『石崎曲り田遺跡-第３次調査-（中）』（二丈町文化財調査報告書第27集） |
| 154 | 前原町教育委員会 | 2001 | 『蔵持境遺跡』（前原市文化財調査報告書第74集） |
| 155 | 前原市教育委員会 | 2003 | 『高祖城』（前原市文化財調査報告書第85集） |
| 156 | 前原市教育委員会 | 2006 | 『怡土城跡』（前原市文化財調査報告書第94集） |
| 157 | 二丈町教育委員会 | 2009 | 『熊野神社東遺跡』（二丈町文化財調査報告書第43集） |
| ＜志摩郡＞ | | | |
| 158 | 福岡県教育委員会 | 1982 | 『今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』第６集 |
| 159 | 福岡市教育委員会 | 1987 | 『青木遺跡』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第169集） |
| 160 | 福岡市教育委員会 | 1990 | 『大塚遺跡・女原遺跡』（福岡市埋蔵文化財調査報告書第224集） |
| 161 | 福岡市教育委員会 | 1993 | 『青木遺跡』２（福岡市埋蔵文化財調査報告書第350集） |
| 162 | 福岡市教育委員会 | 2003 | 『青木遺跡』３（福岡市埋蔵文化財調査報告書第734集） |
| 163 | 福岡市教育委員会 | 2009 | 『大塚遺跡』３（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1025集） |
| 164 | 福岡市教育委員会 | 2012 | 『大塚遺跡』５（福岡市埋蔵文化財調査報告書第1144集） |
| 165 | 志摩町教育委員会 | 2006 | 『稲留地区遺跡群』（志摩町文化財調査報告書第25集） |
| 166 | 前原市教育委員会 | 2006 | 『池田井田遺跡』（前原市文化財調査報告書第91集） |
| 167 | 糸島市教育委員会 | 2012 | 『潤遺跡群』Ⅱ（糸島市文化財調査報告書第６集） |
| 168 | 糸島市教育委員会 | 2013 | 『潤遺跡群』Ⅲ（糸島市文化財調査報告書第７集） |

＜その他刊行物＞

| No. | 編著者名 | 発行年 | 著書名 | 発行 |
|---|---|---|---|---|
| 169 | 石津　司 | 1985～2001 | 『安楽平城物語』その１～その９ | |
| 170 | 柴田貞志 | 1986 | 『水巻昔ばなし』 | 水巻町 |
| 171 | 門司宣里 | 1993 | 「伝説と史話　歴史を秘めた郷土の山々」『北九州の山と自然』 | 帆柱自然公園愛護会 |
| 172 | 中村修身 | 1995 | 「八幡の山城」『わが故郷　八幡』 | 北九州八幡信用金庫 |
| 173 | 柴田貞志 | 2001 | 『ものがたり北九州合戦史』 | 水巻町 |

＜論文等＞

| No. | 編著者名 | 発行年 | 論文名 | 著書名 | 発行 |
|---|---|---|---|---|---|
| 174 | 廣崎篤夫 | 1969 | 『北九州の城』 | | 廣崎篤夫 |
| 175 | 光福寺遺跡調査会 | 1984 | 「直方市下境光館寺城館調査報告」 | 『地域相研究』第15号 | 地域相研究会 |
| 176 | 牛嶋英俊 | 1986 | 「歴史地理学的に見た直方城下町の成立」 | 『郷土直方』第14号 | 直方郷土研究会 |
| 177 | 木村幸雄・鴻江敏雄 | 1986 | 「花尾城跡に関する基礎調査」 | 『地域相研究』第16号 | 地域相研究会 |
| 178 | 村田修三編 | 1987 | 『図説中世城郭事典』第三巻 | | 新人物往来社 |
| 179 | 小川　賢 | 1993 | 「宗像氏の居城である片脇城に付いて」 | 『地域相研究』第20号下 | 地域相研究会 |
| 180 | 木島孝之 | 1995 | 「近世初頭九州における支城構造―黒田・細川領の支城について―」 | 『福岡県地域史研究』No.13 | 福岡県地域史研究所 |
| 181 | 木島孝之・中西義昌 | 1998 | 「天正中・後期の北部九州における城郭の様相」 | 『戦国の城と城下町Ⅱ』 | 鳥栖市教育委員会 |
| 182 | 中西義昌 | 1998 | 「筑前老ノ山城と香椎宮」 | 『福岡県史だより』96号 | 福岡地方史研究会 |
| 183 | 山崎龍雄 | 1998 | 「糸島半島の中世山城採集資料について」 | 『福岡市博物館紀要』第８号 | 福岡市博物館 |
| 184 | 中西義昌 | 1999 | 「小規模山城・丘城の縄張り構造にみる小規模在地勢力の様相―筑前糟屋郡・席田郡・志摩郡を中心に―」 | 『愛城研報告』第４号 | 愛知中世城郭研究会 |
| 185 | 大塚俊司 | 1999 | 「福岡市西区桑原」 | 『筑前国怡土庄故地現地調査速報』(地域資料叢書３) | 九州大学服部英雄研究室 |
| 186 | 山崎龍雄 | 2000 | 「福岡市内の中近世城館」 | 『香椎B遺跡』（福岡市文化財調査報告書第621集） | 福岡市教育委員会 |
| 187 | 中村修身 | 2000 | 「北部九州の畝状空堀群」 | 『長野城』（北九州市文化財調査報告書第89集） | 北九州市教育委員会 |

| No. | 編著者名 | 発行年 | 論文名 | 著書名 | 発行 |
|---|---|---|---|---|---|
| 188 | 中西義昌 | 2000 | 「城郭遺構にみる九州征伐—筑前西部における城郭の変容過程—」 | 『愛城研報告』第５号 | 愛知中世城郭研究会 |
| 189 | 中西義昌 | 2000 | 「城郭遺構にみる戦国後期糸島半島の動向」 | 『福岡地方史研究』第38号 | 福岡地方史研究会 |
| 190 | 中西義昌・岡寺　良 | 2001 | 『歴史史料としての戦国期城郭—北部九州における城郭遺構と地域権力—』（地域資料叢書４） | | 九州大学服部英雄研究室 |
| 191 | 中西義昌 | 2001 | 「筑前高鳥居城の縄張りと国人勢力の結集」 | 『城館研究論集』発刊準備号 | 仮称城館学会 |
| 192 | 中村修身 | 2001 | 「福岡県若宮盆地の中世城郭調査—天正九年段階戦国大名（宗像氏貞）の軍事体勢の一側面—」 | 『日本考古学』第12号 | 日本考古学協会 |
| 193 | 木島孝之 | 2001 | 『城郭の縄張り構造と大名権力』 | | 九州大学出版会 |
| 194 | 中西義昌 | 2002 | 「戦国期筑前中南部における領主権力の動向」 | 『福岡地方史研究』第40号 | 福岡地方史研究会 |
| 195 | 木島孝之 | 2003 | 「筑前立花山城跡が語る朝鮮出兵への道程—小早川隆景による立花山城の大改修の実態とその史的意 | 『城館史料学』創刊号 | 城館史料学会 |
| 196 | 片山安夫 | 2004 | 「筑後黒木・高牟礼城」 | 『北部九州中近世城郭情報紙』７ | 北部九州中近世城郭研究会 |
| 197 | 中西義昌 | 2004 | 「戦国期城郭にみる戦国期国衆の領国構造—縄張り研究に基づく戦国期北部九州の基礎的考察—」 | 『中世城郭研究』第18号 | 中世城郭研究会 |
| 198 | 村上勝郎 | 2005 | 「淺川城探訪記」 | 『北部九州中近世城郭情報紙』８ | 北部九州中近世城郭研究会 |
| 199 | 片山安夫 | 2008 | 「「当国無双」の要害・蔦岳城」 | 『図説福岡・宗像・糸島の歴史』 | 郷土出版社 |
| 200 | 藤野正人 | 2008 | 「糟屋郡下山田城について」 | 『北部九州中近世城郭情報紙』14 | 北部九州中近世城郭研究会 |
| 201 | 岡寺　良 | 2009 | 「筑前一嶽城と亀尾城—国人領主・筑紫氏の城郭としての視点から—」 | 『九州歴史資料館研究論集』34 | 九州歴史資料館 |
| 202 | 藤野正人 | 2009 | 「立花陣（三日月山城塞群）について」 | 『北部九州中近世城郭研究会情報紙』17 | 北部九州中近世城郭研究会 |
| 203 | 井浦　一 | 2010 | 「福津の歴史～上西郷タナカ遺跡が語るもの～」 | 『文化福津』第５号 | 福津市文化協会 |
| 204 | 山崎龍雄 | 2010 | 「福岡市博多区所在の二つの山城席田青木城・稲居塚城について」 | 『北部九州中近世城郭研究会情報紙』19 | 北部九州中近世城郭研究会 |
| 205 | 山崎龍雄 | 2011 | 「糸島市二丈吉井岳城の縄張り調査」 | 『北部九州中近世城郭研究会情報紙』21 | 北部九州中近世城郭研究会 |
| 206 | 田中賢二・村上勝郎 | 2011 | 「筑前那珂川町の鷲ヶ岳城について」 | 『北部九州中近世城郭研究会情報紙』21 | 北部九州中近世城郭研究会 |
| 207 | 藤野正人 | 2011 | 「城郭から見た宗像の戦国時代ー大宮司宗像氏貞の時代を中心としてー | 『むなかた電子博物館紀要』第３号 | 宗像市 |
| 208 | 藤野正人 | 2011 | 「筑前国糟屋郡立花陣について−立花山城の南に位置する二つの巨大城砦群−」 | 『第28回全国城郭研究者セミナー　テーマ報告「城郭遺構の認識を問う」』資料集 | 第28回全国城郭研究者セミナー実行委員会・中世城郭研究会 |
| 209 | 岡寺　良 | 2012 | 「筑前劔嶽城と豊前上仏来山城の平面構造について」 | 『都市・建築学研究』第22号 | 九州大学大学院人間環境学研究院 |
| 210 | 藤野正人 | 2013 | 「宗像氏貞の居城「岳山城」について」 | 『むなかた電子博物館紀要』第５号 | 宗像市 |
| 211 | 中村修身 | 2013 | 「城郭に敷設された横堀　北部九州山口県の例から」 | 『北部九州中近世城郭研究会情報紙』24 | 北部九州中近世城郭研究会 |
| 212 | 中村修身 | 2014 | 「福岡県岡垣町岡城について」 | 『北部九州中近世城郭研究会情報紙』26 | 北部九州中近世城郭研究会 |
| 213 | 藤野正人・山崎龍雄 | 2014 | 「三日月山城砦群と城ノ越山城砦群の考察 − 対面する二つの巨大な城砦群 −」 | 『九州考古学』第89号 | 九州考古学会 |
| 214 | 山崎龍雄 | 2014 | 「福岡県糸島市二丈岳城の調査-縄張り構造と出土遺物から見た二丈岳城の意義-」 | 『先史学・考古学論究』Ⅵ | 龍田考古学会 |
| 215 | 木原武雄 | 発行年不詳 | 「肥前戦国史　中世肥前（佐賀県）北・中・東部編」 | 『「佐賀学」を考える』（佐賀大学・教育研究学内特別経費による研究報告書） | |

＜分布地図＞

| No. | 編著者名 | 発行年 | 著書名 |
|---|---|---|---|
| 216 | 福岡県教育委員会 | 1977 | 『福岡県遺跡等分布地図』（宗像郡編） |
| 217 | 福岡県教育委員会 | 1977 | 『福岡県遺跡等分布地図』（中間市・遠賀郡編） |
| 218 | 福岡県教育委員会 | 1979 | 『福岡県遺跡等分布地図』（直方市・鞍手郡編） |
| 219 | 福岡県教育委員会 | 1979 | 『福岡県遺跡等分布地図』（糟屋郡編） |
| 220 | 福岡県教育委員会 | 1980 | 『福岡県遺跡等分布地図』（筑紫野市・春日市・大野城市・筑紫郡編） |
| 221 | 福岡県教育委員会 | 1981 | 『福岡県遺跡等分布地図』（糸島郡編） |
| 222 | 福岡市教育委員会 | 1982 | 『福岡市文化財分布地図』（西部Ⅱ） |
| 223 | 岡垣町教育委員会 | 1993 | 『岡垣町遺跡詳細分布調査報告書』（岡垣町文化財調査報告書第16集） |
| 224 | 福岡市教育委員会 | 1993 | 『福岡市文化財分布地図』（中部・南部） |
| 225 | 水巻町教育委員会 | 1994 | 『水巻町遺跡等詳細分布調査報告書』（水巻町文化財調査報告書第２集） |
| 226 | 福岡市教育委員会 | 1993 | 『福岡市文化財分布地図』（西部Ⅰ） |
| 227 | 直方市教育委員会 | 1995 | 『直方市内遺跡詳細分布調査報告書』（直方市文化財調査報告書第19集） |
| 228 | 福間町教育委員会 | 1995 | 『福間町遺跡等分布地図』 |
| 229 | 那珂川町教育委員会 | 1995 | 『那珂川町文化財分布地図』 |
| 230 | 志摩町教育委員会 | 1995 | 『志摩町遺跡等分布地図』（志摩町文化財調査報告書第17集） |
| 231 | 福岡市教育委員会 | 1996 | 『福岡市文化財分布地図』（東部Ⅰ） |
| 232 | 北九州市教育委員会 | 1997 | 『北九州市埋蔵文化財分布地図』（若松区・戸畑区・八幡東区） |
| 233 | 古賀町教育委員会 | 1997 | 『古賀町遺跡等分布地図』 |
| 234 | 福岡市教育委員会 | 1996 | 『福岡市文化財分布地図』（東部Ⅱ） |
| 235 | 芦屋町教育委員会 | 1998 | 『芦屋町遺跡詳細分布調査報告書』（芦屋町文化財調査報告書第９集） |
| 236 | 新宮町教育委員会 | 1998 | 『新宮町文化財分布地図』 |
| 237 | 福岡市教育委員会 | 1998 | 『福岡市文化財分布地図』（西部Ⅲ） |
| 238 | 前原市教育委員会 | 1998 | 『福岡県前原市史内遺跡等分布地図』 |
| 239 | 二丈町教育委員会 | 1998 | 『二丈町遺跡等分布地図』 |
| 240 | 久山町教育委員会 | 1999 | 『久山町文化財分布地図』 |
| 241 | 北九州市教育委員会 | 2001 | 『北九州市埋蔵文化財分布地図』（八幡西区） |
| 242 | 篠栗町教育委員会 | 2001 | 『篠栗町文化財分布地図』 |
| 243 | 中間市教育委員会 | 2003 | 『中間市遺跡等詳細分布調査報告書』（中間市文化財調査報告書第４集） |
| 244 | 粕屋町教育委員会 | 2006 | 『粕屋町文化財分布地図』（粕屋町文化財調査報告書第22集） |
| 245 | 須恵町教育委員会 | 2009 | 『須恵町文化財分布地図』（須恵町文化財調査報告書第９集） |
| 246 | 宗像市教育委員会 | 2011 | 『宗像市遺跡等分布地図』 |
| 247 | 遠賀町教育委員会 | 2013 | 『遠賀町内遺跡詳細分布調査報告書』（遠賀町文化財調査報告書第19集） |
| 248 | 宇美町教育委員会 | 2013 | 『宇美町内遺跡等分布地図』（宇美町文化財調査報告書第19集） |

# Ⅳ　対象地域城館分布図

本章では、本書における対象地域内すべての城館および関連遺跡についての位置図を示す。凡例および分布図対照図について以下のとおりである。

＜凡例＞

1　基本地図は、国土地理院長の承認を得て（承認番号　平 26 情複　第 978 号）、同院発行の数値地図 25000（地図画像）を複製したもので、下の対照図に★が付されている図幅については、1/37,500 に、それ以外は全て 1/35,000 に縮小して掲載している。

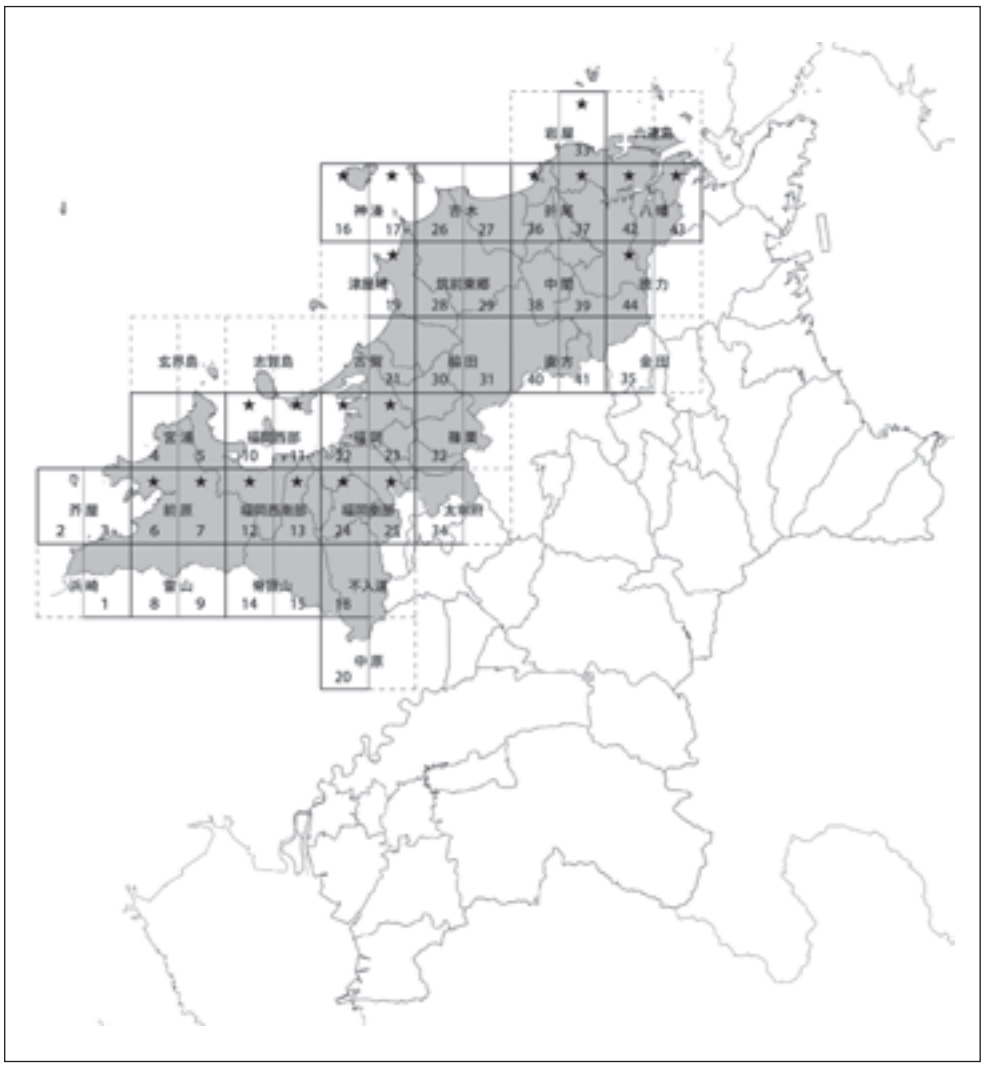
2　本書の対象地域になっているが、城館が存在しない図幅については割愛した。

3　分布図の遺跡の表記と分布図対照図は以下のとおり。

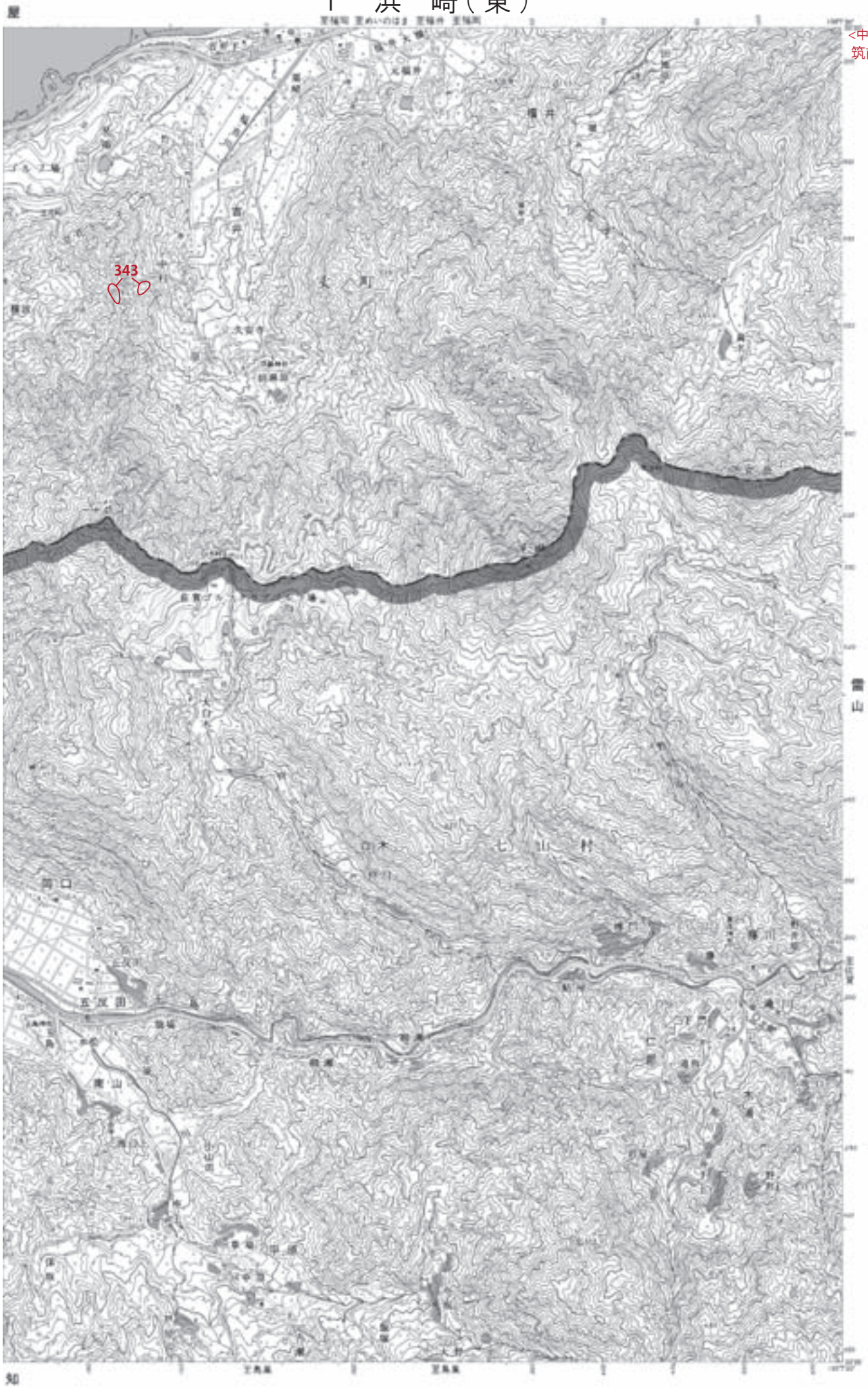
＜遺跡の表記＞

| | 範囲が明確なもの | 所在は明確であるが範囲が不明確なもの | 所在はある程度は明確なもの（小字の範囲程度） | 所在は明確でないもの（大字の範囲までの把握） |
|---|---|---|---|---|
| 中近世城館 | ◯ | ● | ○ | 表記なし（地図の欄外に名称のみ記載） |
| 伝承地 | なし | ● | ○ | 表記なし（地図の欄外に名称のみ記載） |
| 城館等関連遺跡 | ◯ | ● | ○ | なし |

〈分布図対照図〉

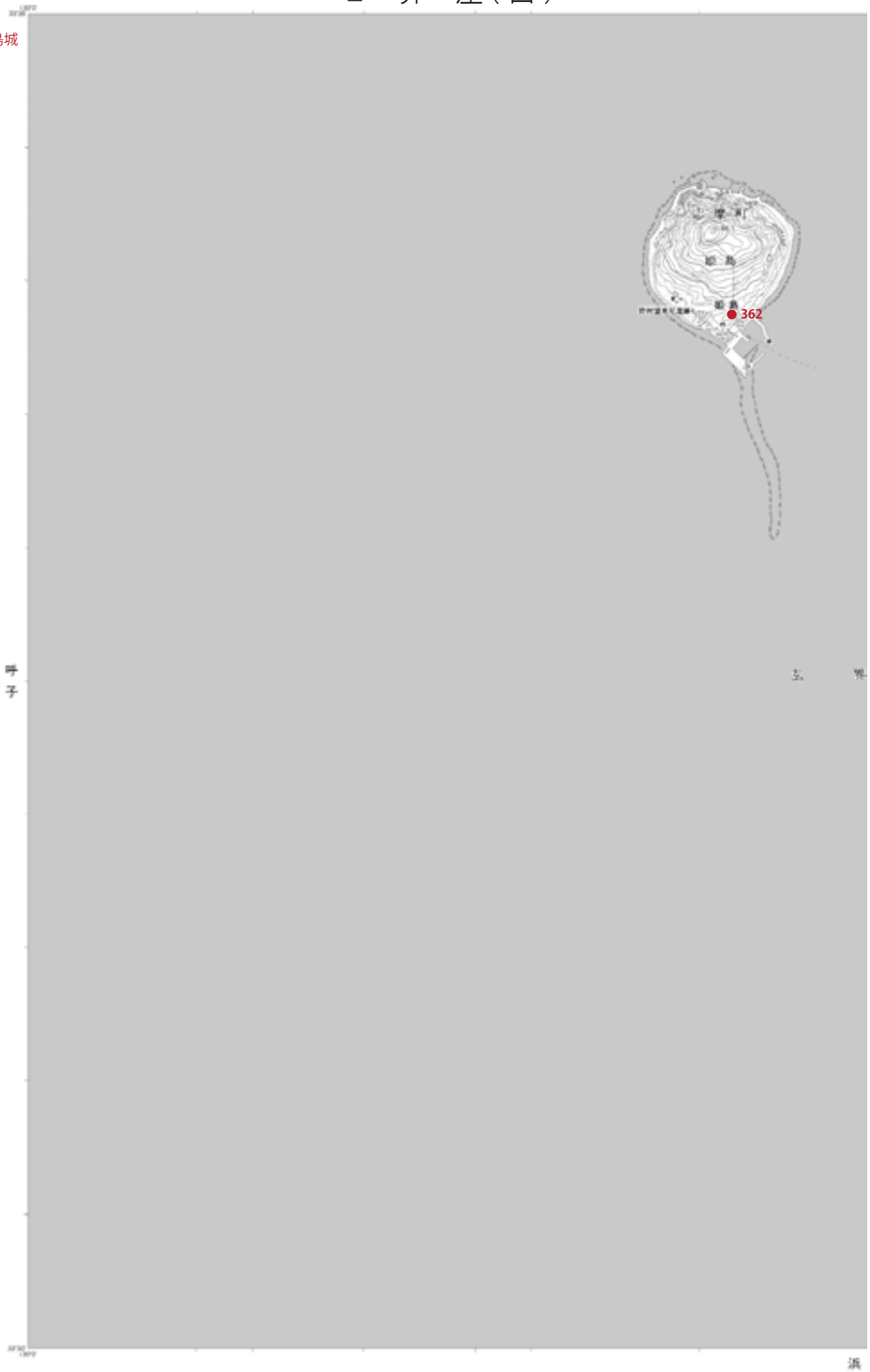


# 1　浜　崎（東）

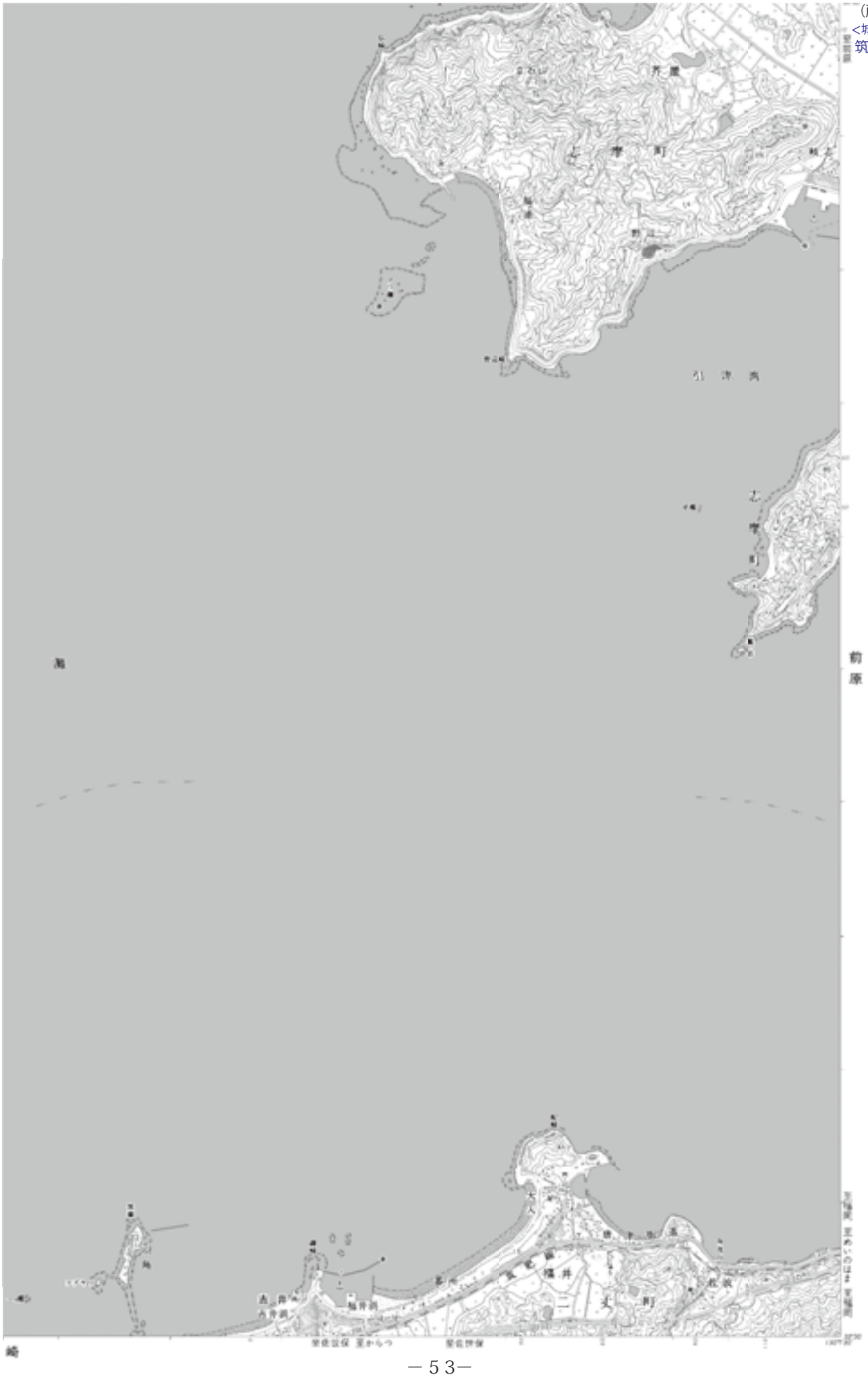


# 2　芥　屋（西）

<中近世城館>
筑前362姫島城



# 3　芥　屋（東）



（所在不明）
<城館等伝承地>
筑前Ｄ74
小金丸氏館

# 4　宮　浦（西）

<城館等伝承地>
筑前Ｄ70
古庄能登守宅
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ52木藤丸遺跡

（所在不明）
<城館等伝承地>
筑前Ｄ71
野北殿館



# 5　宮　浦（東）




<中近世城館>
筑前348
柑子岳城
筑前349水崎城
筑前350大神城
筑前351志摩城
筑前352岩松城
筑前353松隈城
筑前354西田城
<城館等伝承地>
筑前D69
元岡村古墨
<城館関連遺跡>
筑前R37元寇防塁
（今津地区）

# 6　前　原（西）

<中近世城館>
筑前336加布里城
筑前337波呂城
筑前338宝珠岳城
筑前339城崎山城
筑前340古城
筑前358親山城
筑前359可也山城
筑前Ｋ15石崎城
筑前Ｋ16代官屋敷
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ40
　東五反田遺跡
筑前Ｒ41
　東下田遺跡
筑前Ｒ42
　東高田遺跡
筑前Ｒ43
　熊野神社東遺跡
筑前Ｒ44
　石崎曲り田遺跡
筑前Ｒ45
　木舟・三本松遺跡
筑前Ｒ46
　木舟の森遺跡
筑前Ｒ52
　木藤丸遺跡

(所在不明)
<中近世城館>
筑前360新城山城
筑前361邊田砦



# 7　前　原（東）

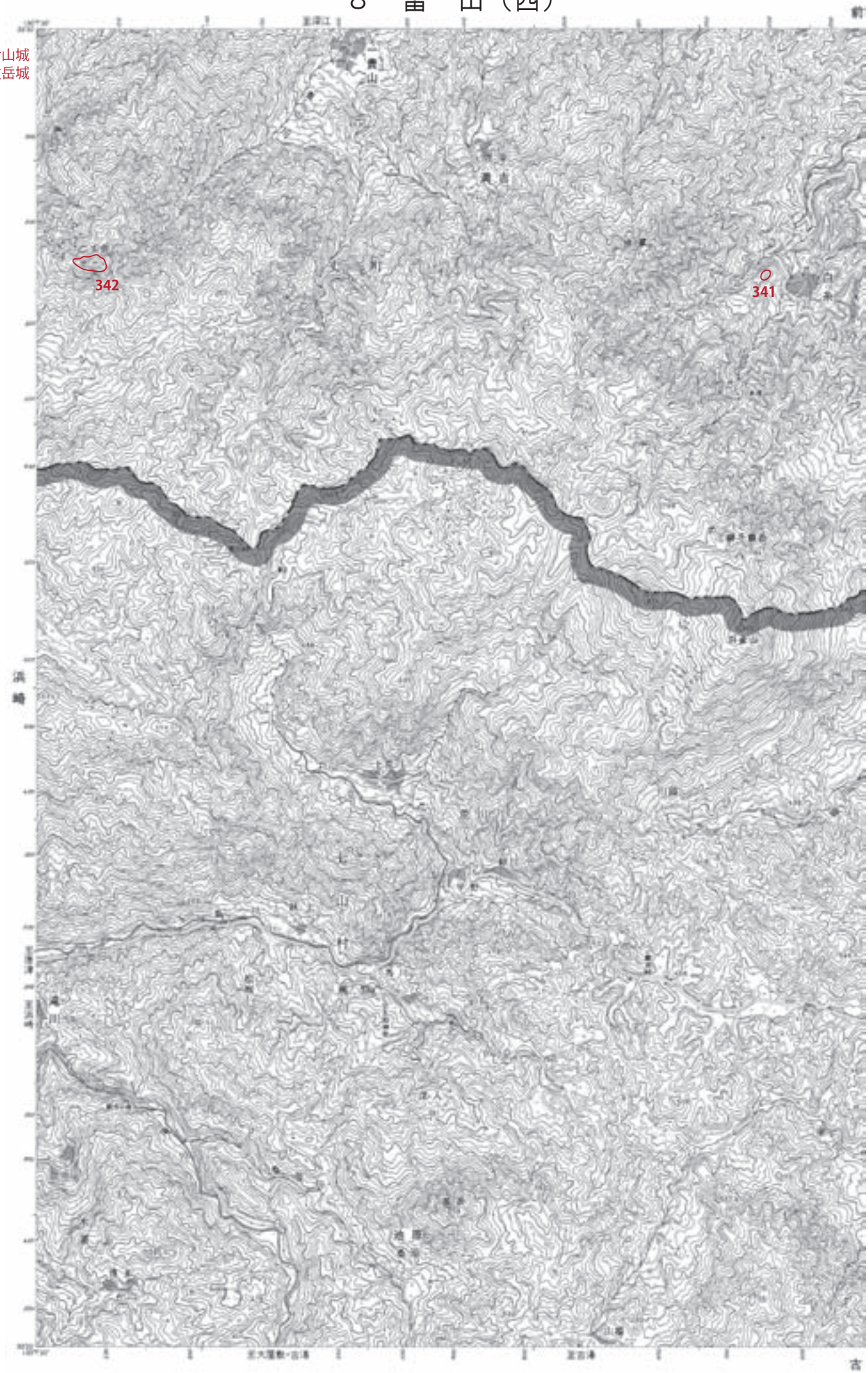



<中近世城館>
筑前329高祖城
（高来寺地区）
筑前331篠原城
筑前332有田城
筑前333筒城
筑前335旗振嶺城
筑前355泊城
筑前356波多江館
（波多江地区）
筑前357舞岳城
<城館等伝承地>
筑前R67
上原館
筑前D72油比氏宅
筑前D73
浦志孫右衛門宅
<城館関連遺跡>
筑前R38
蔵持境遺跡
筑前R39
蔵持古屋敷遺跡
筑前R49
池田井田遺跡
筑前R50
潤古屋敷遺跡
筑前R51
波多江遺跡

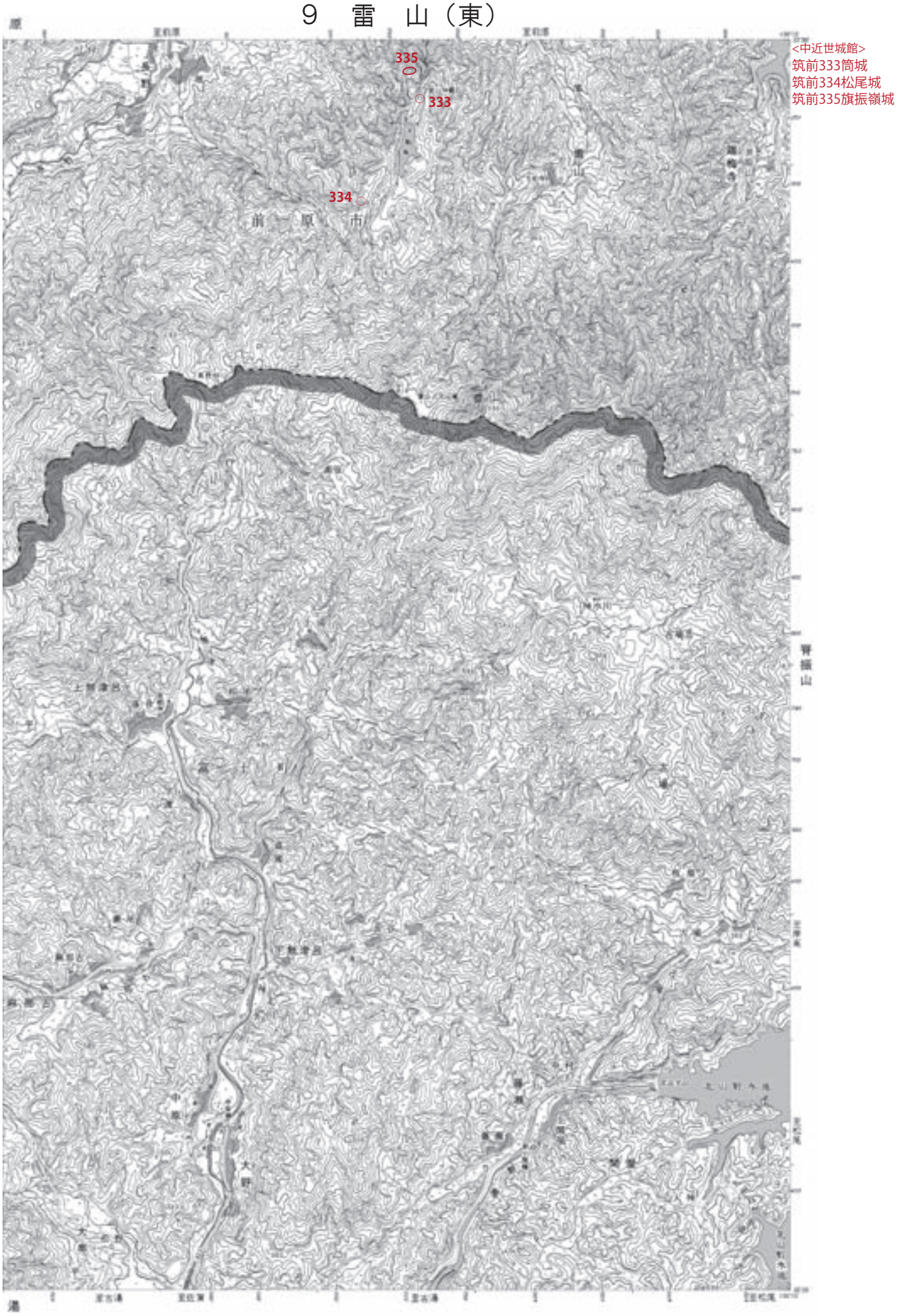
（所在不明）
<中近世城館>
筑前330波多江館
（篠原地区）

# 8　雷　山（西）

<中近世城館>
筑前341小倉山城
筑前342二丈岳城



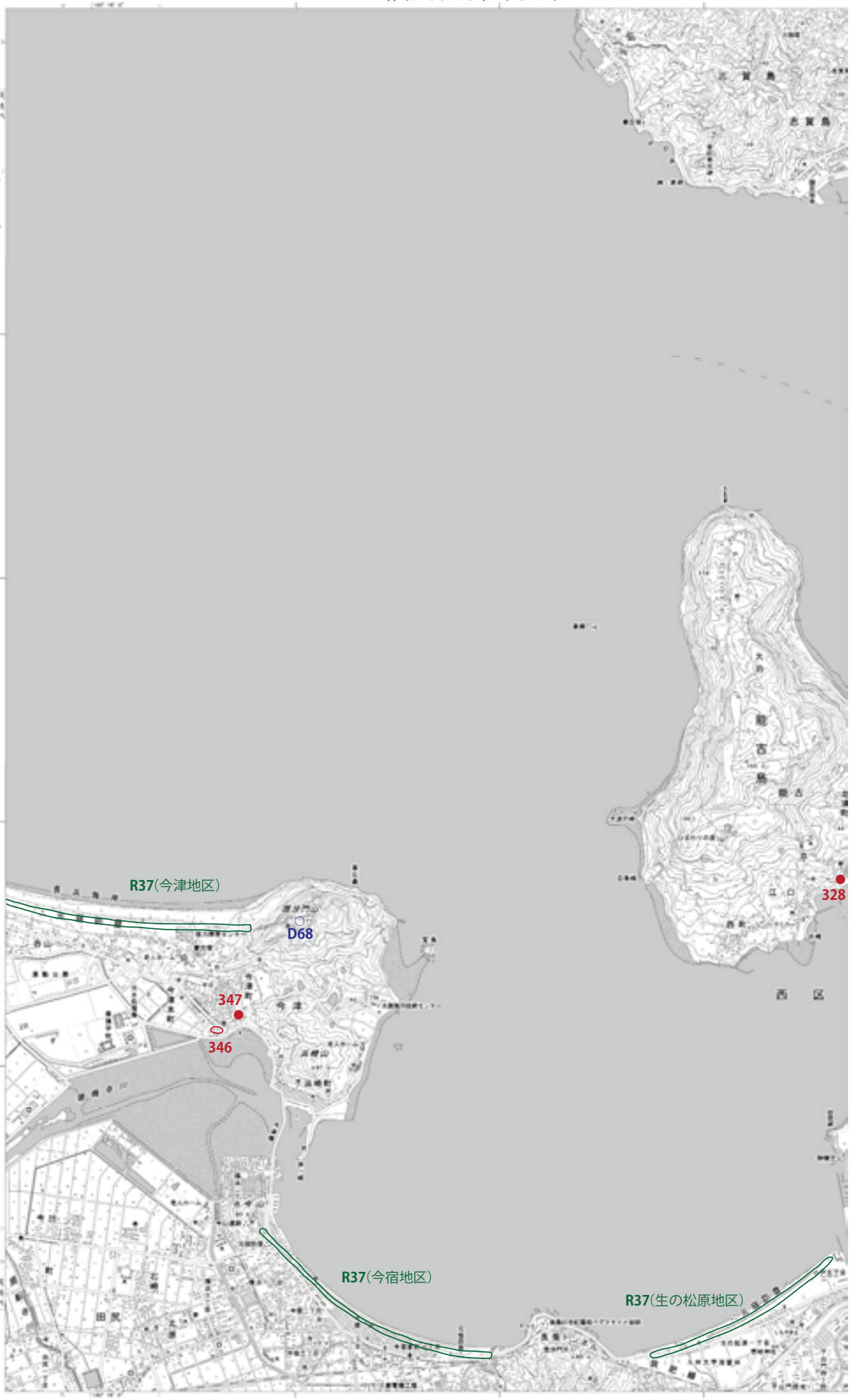
# 9　雷　山（東）




<中近世城館>
筑前333筒城
筑前334松尾城
筑前335旗振嶺城

# １０　福岡西部（西）

<中近世城館>
筑前328東ノ城
筑前346
　臼杵氏端城
筑前347鷺城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ68
　毘沙門岳砦
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ37元寇防塁
　（今津地区）
　（今宿地区）
　（生の松原地区）



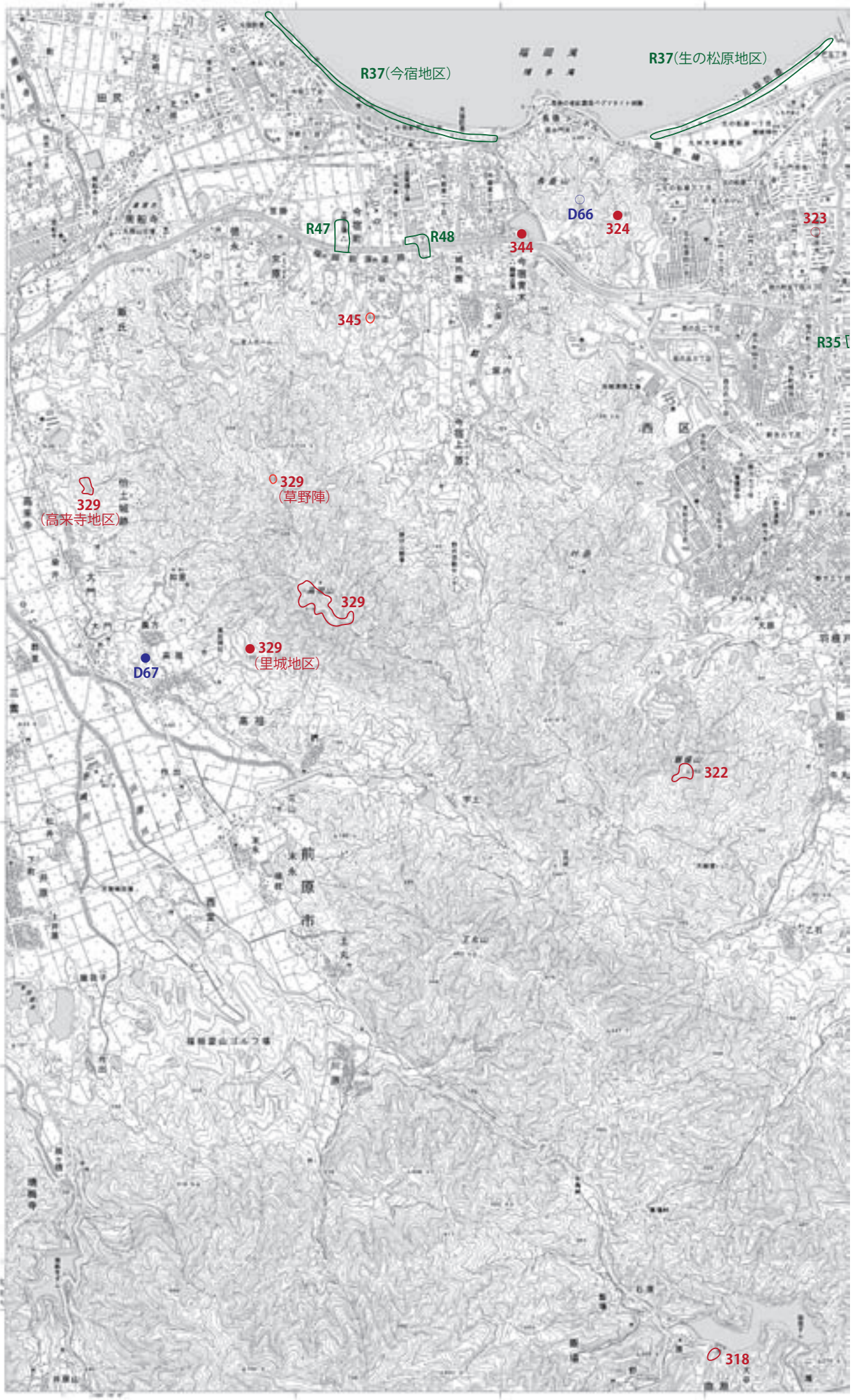
# 11　福岡西部（東）



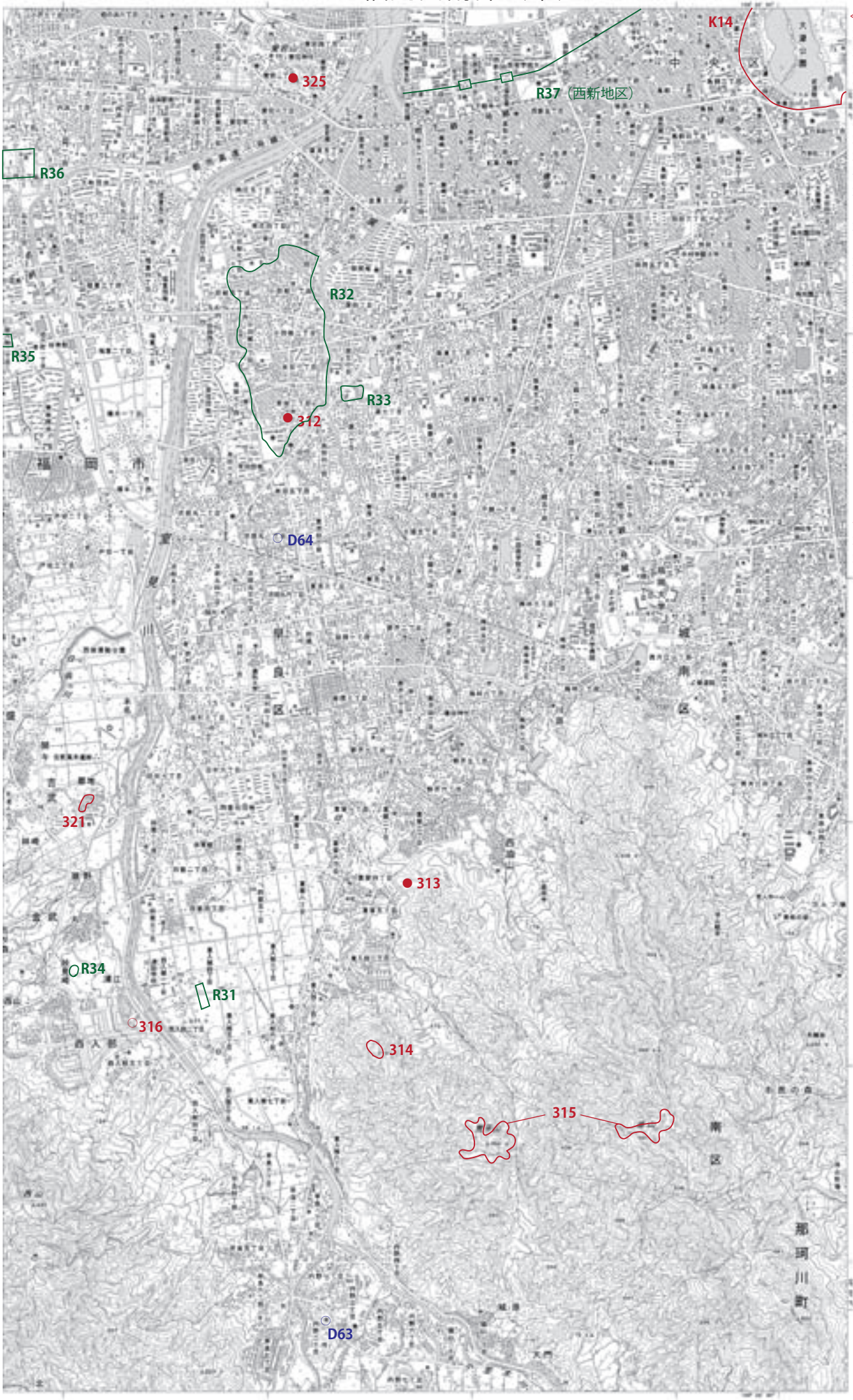

<中近世城館>
筑前325
探題北条氏城
筑前326
探題渋川氏城
筑前327城ケ崎城
筑前K14福岡城
<城館関連遺跡>
筑前R36
下山門乙女田遺跡
筑前R37元寇防塁
（姪浜地区）
（西新地区）
（地行地区）

# １２　福岡西南部（西）

<中近世城館>
筑前318曲淵城
筑前322飯盛城
筑前323生松原城
筑前324長鳥城
筑前329高祖城
筑前344星山城
筑前345青木城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ66鉢窪
筑前D67上原館
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ35
　一町屋敷跡
筑前Ｒ37元寇防塁
　（今津地区）
　（今宿地区）
　（生の松原地区）
筑前Ｒ47大塚遺跡
筑前Ｒ48青木遺跡



# １３　福岡西南部（東）




<中近世城館>
筑前312小田部城
筑前313茶臼城
筑前314莵道岳城
筑前315安楽平城
筑前316陣ノ原城
筑前321都地城
筑前325探題北条氏城
筑前K14福岡城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ63
重松若狭守宅
筑前Ｄ64立屋敷
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ31清末遺跡
筑前Ｒ32
有田・小田部遺跡群
筑前Ｒ33原遺跡
筑前Ｒ34浦江遺跡
筑前Ｒ35
一町屋敷跡
筑前Ｒ36
下山門乙女田遺跡
筑前Ｒ37元寇防塁
（西新地区）

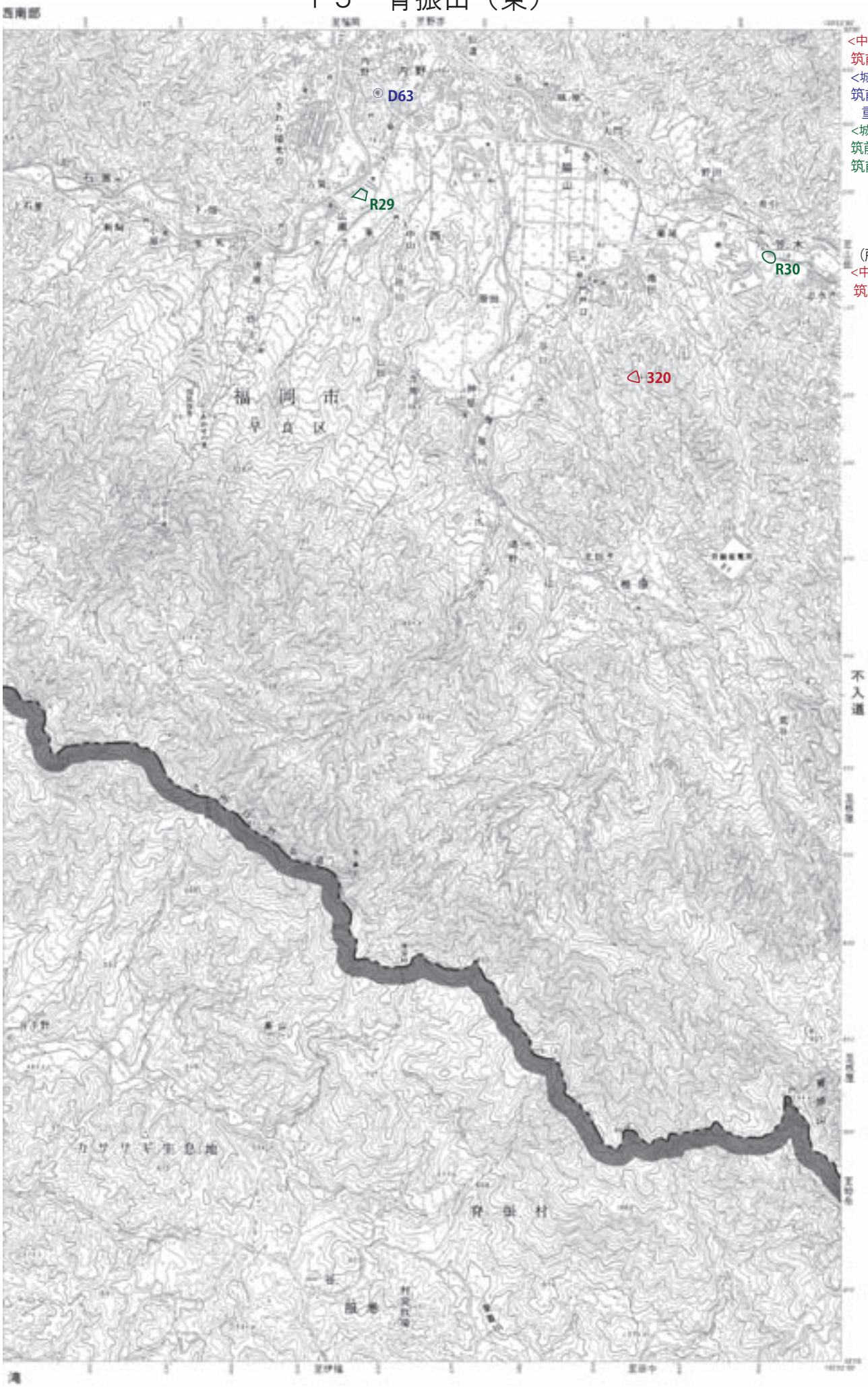
(所在不明)
<中近世城館>
筑前311鳥飼城
筑前317内野城
筑前Ｄ65殿屋敷

# 14　脊振山（西）

<中近世城館>
筑前318曲渕城
筑前319金山城



# １５　脊振山（東）




<中近世城館>
筑前320池田城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ63
重松若狭守宅
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ29広瀬遺跡
筑前Ｒ30
志水Ａ遺跡

（所在不明）
<中近世城館>
筑前317内野城

# １６　神　湊（西）

<中近世城館>
筑前248大島城

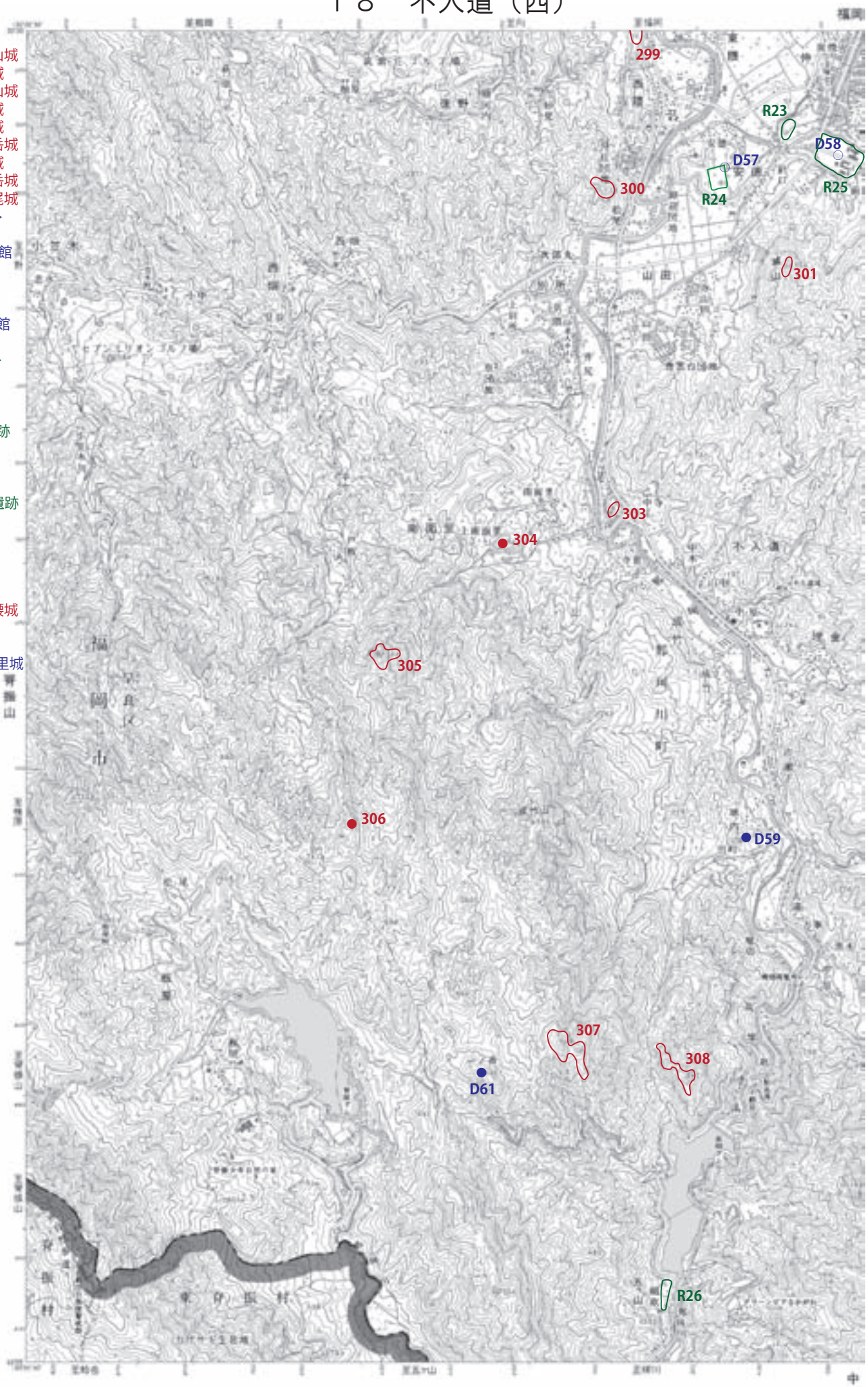


# １７　神　湊（東）




<中近世城館>
筑前245城ノ腰城
筑前246勝島城
筑前247草崎城

# １８　不入道（西）




<中近世城館>
筑前299新城山城
筑前300老林城
筑前301龍神山城
筑前303猫嶺城
筑前304藤原城
筑前305鷲ヶ岳城
筑前306大丸城
筑前307一ノ岳城
筑前308亀ノ尾城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ57
　原田種直館
筑前Ｄ58
　平三屋敷
筑前Ｄ59
　黒田養心館
筑前Ｄ61陣尾
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ23
　大塚遺跡
筑前Ｒ24
　安徳台遺跡
筑前Ｒ25
　平蔵遺跡
筑前Ｒ26
　五ヶ山網取遺跡

（所在不明）
<中近世城館>
筑前302城ノ腰城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ60
　一ノ岳里城

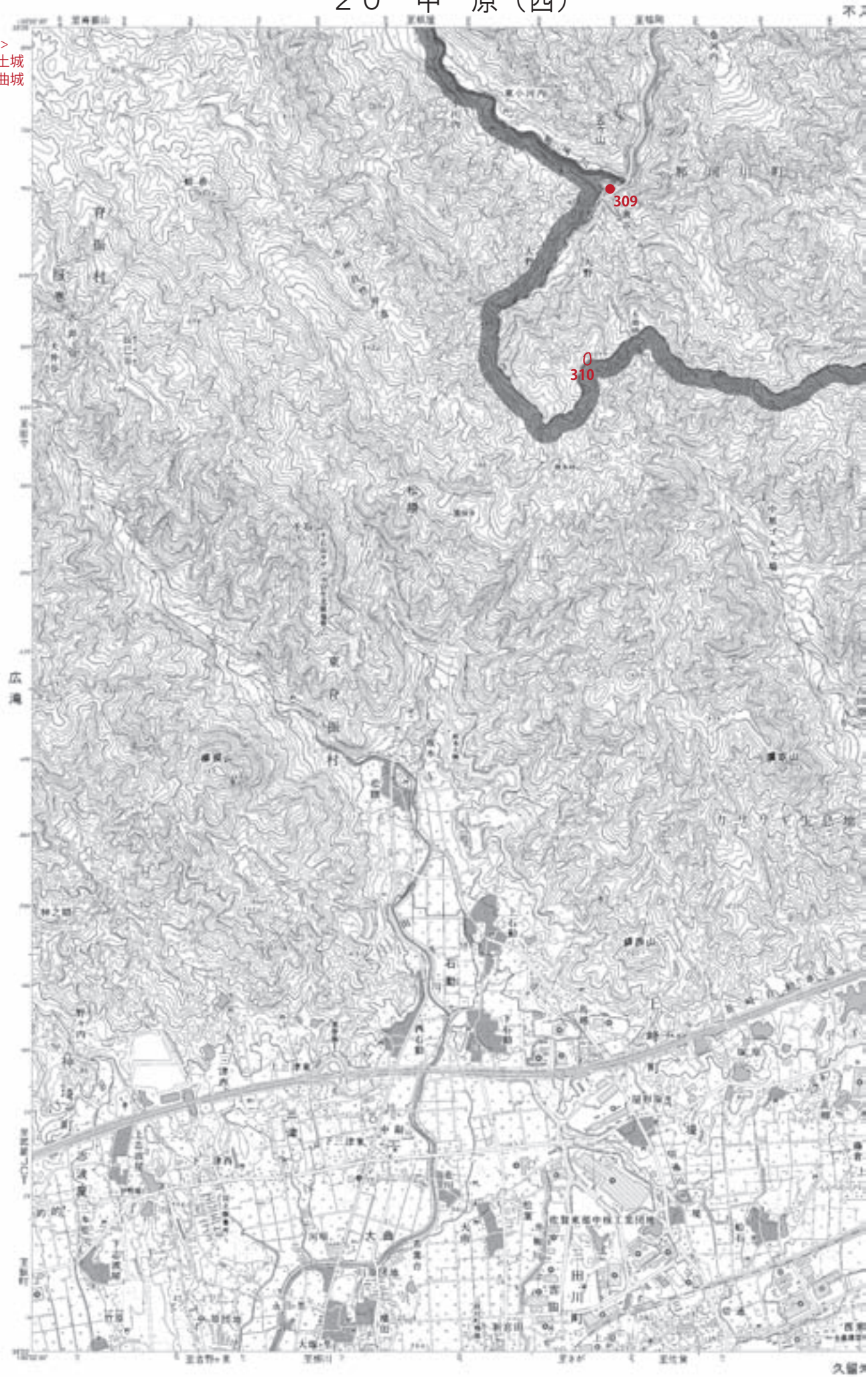
# １９　津屋崎（東）




<中近世城館>
筑前269冠山城
筑前270宮地岳城
筑前271亀山城
筑前272上西郷城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ48
黒田養心宅
筑前Ｄ49
香雫井原屋敷
筑前Ｄ50
香葉深川屋敷
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ11
上西郷
ニホンスギ遺跡
筑前Ｒ12
上西郷
タナカ遺跡

# ２０　中　原（西）

<中近世城館>
筑前309白土城
筑前310七曲城



# ２１　古　賀（東）




<中近世城館>
筑前281古子城
筑前291下山田城
筑前292立花山城
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ13
堀ノ内遺跡

（所在不明）
<城館等伝承地>
筑前Ｄ53
和白村陣所

# ２２　福　岡（西）

<中近世城館>
筑前Ｋ13名島城
筑前Ｋ14福岡城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ55
房州濠・矢倉門
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ37元寇防塁
（箱崎地区）
（博多111次）



# ２３　福　岡（東）




<中近世城館>
筑前286丸山城
筑前287焼地山城
筑前290上山田城
筑前292立花山城
筑前293 御飯ノ山城
筑前294杉山城
<城館等伝承地>
筑前D54陣腰
<城館関連遺跡>
筑前R 14
香椎A遺跡
筑前R 15
香椎B遺跡
筑前R 16
席田青木遺跡

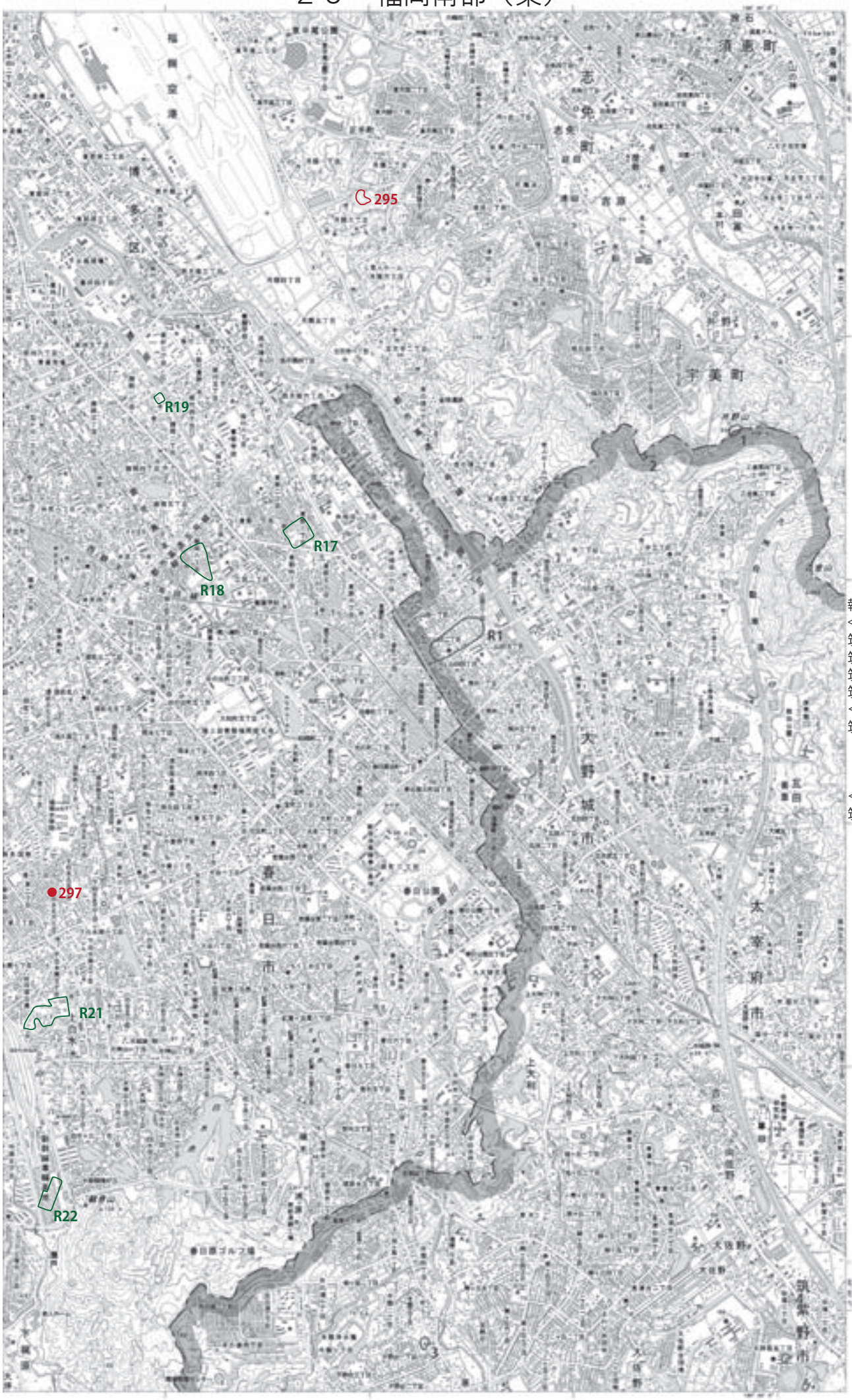
# ２４　福岡南部（西）

<中近世城館>
筑前296古野城
筑前299新城山城
筑前Ｋ14福岡城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ57
　原田種直館
筑前Ｄ58
　平三屋敷
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ20
　大橋Ｅ遺跡
筑前Ｒ23
　大塚遺跡
筑前Ｒ24
　安徳台遺跡
筑前Ｒ25
　平蔵遺跡
筑前Ｒ27
　柏原Ｋ遺跡
筑前Ｒ28
　樋井川Ａ遺跡

（所在不明）
<城館等伝承地>
筑前Ｄ56
　千葉探題宅
筑前Ｄ62古城



# ２５　福岡南部（東）




<中近世城館>
筑前295稲居塚城
・金居塚城
筑前297天浦城
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ17
麦野Ａ遺跡
筑前Ｒ18
諸岡Ｂ遺跡
筑前Ｒ19 諸岡館跡
筑前Ｒ21
中白水遺跡
筑前Ｒ22
井出ノ原遺跡

（所在不明）
<中近世城館>
筑前298中原城

報告書１にて報告分
<中近世城館>
筑前１ 唐山東城
筑前２ 唐山西城
筑前３ 不動城
筑前４ 和久堂城
＜城館関連遺跡＞
筑前Ｒ１
御笠の森遺跡

（所在不明）
＜城館等伝承地＞
筑前Ｄ１ 豊後谷

# ２６　吉　木（西）

<中近世城館>
筑前244吉田城



# ２７　吉　木（東）



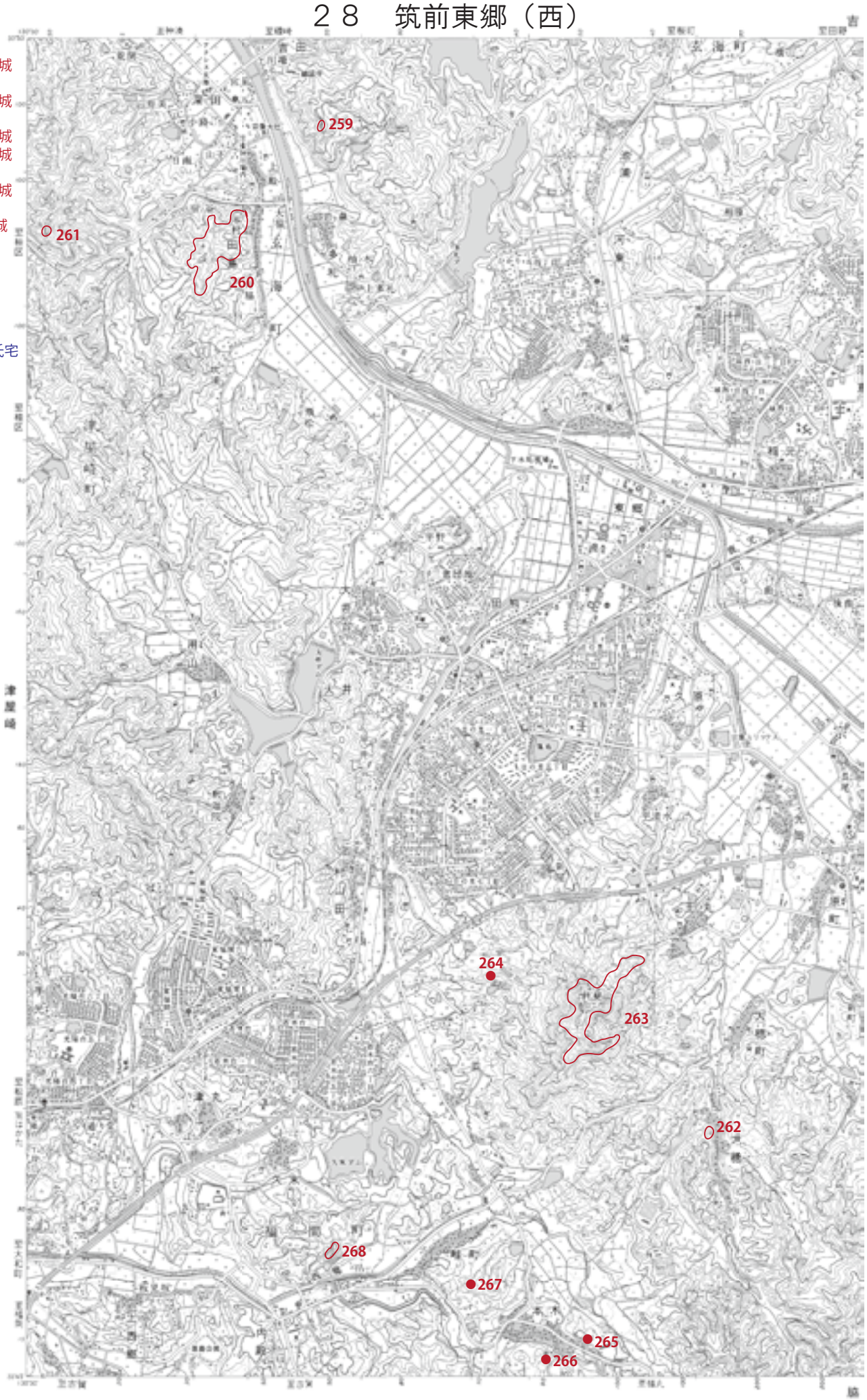

<中近世城館>
筑前235基石山城
筑前237岡ノ城
筑前238龍昌寺山城
筑前239熊山城
筑前240龍王山城
筑前241雨乞山城
筑前242海蔵寺城
筑前243白山城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ44
　須藤駿河守行重宅
筑前Ｄ45古宅

(所在不明)
<中近世城館>
筑前236隆守城

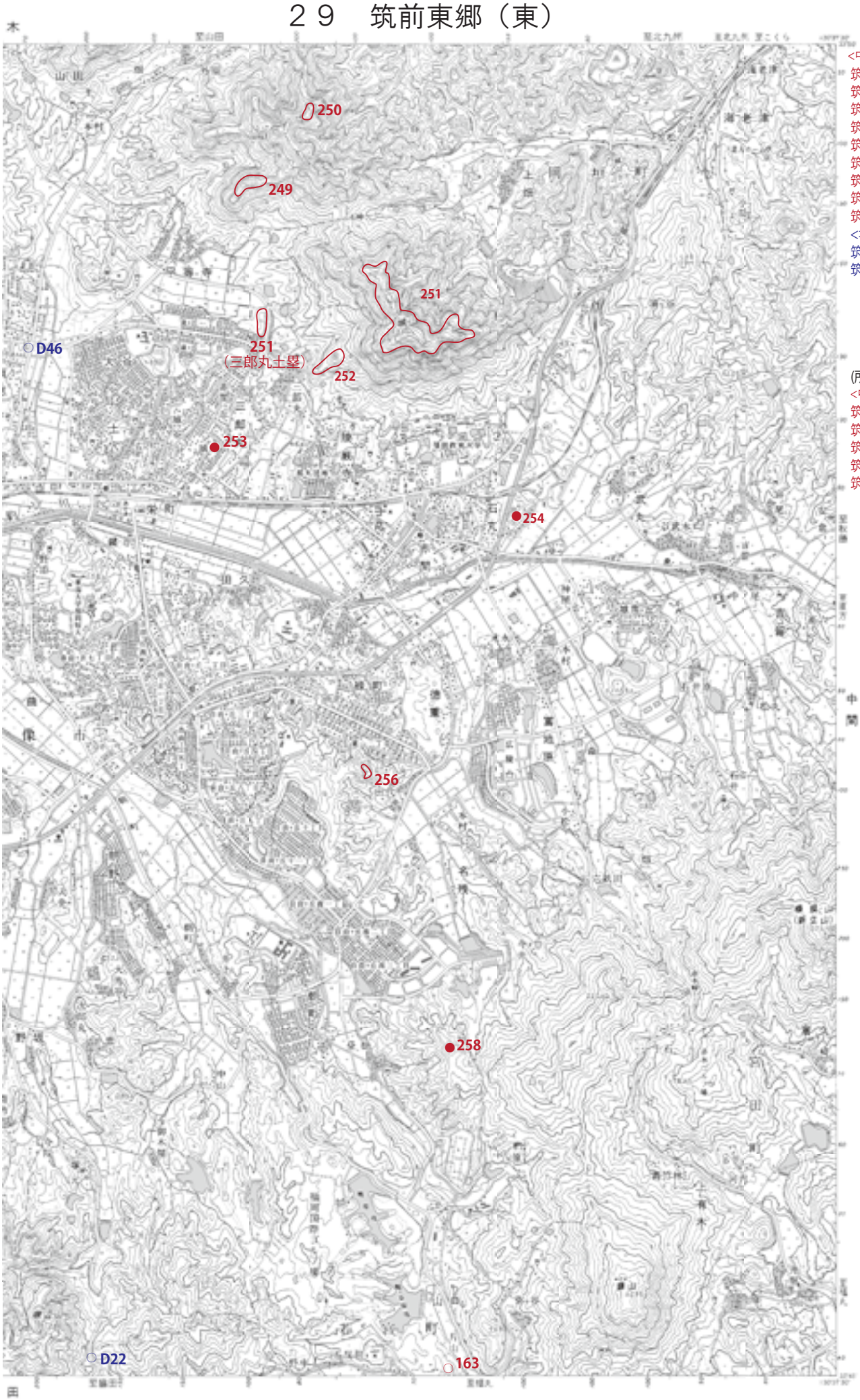
# ２８　筑前東郷（西）

<中近世城館>
筑前259大障子城
筑前260片脇城
筑前261勝浦岳城
筑前262大穂城
筑前263許斐岳城
筑前264吉原里城
筑前265宝林城
筑前266城の浦城
筑前267
　　蠛蛄羽子城
筑前268高宮城

（所在不明）
<城館等伝承地>
筑前Ｄ47許斐氏宅



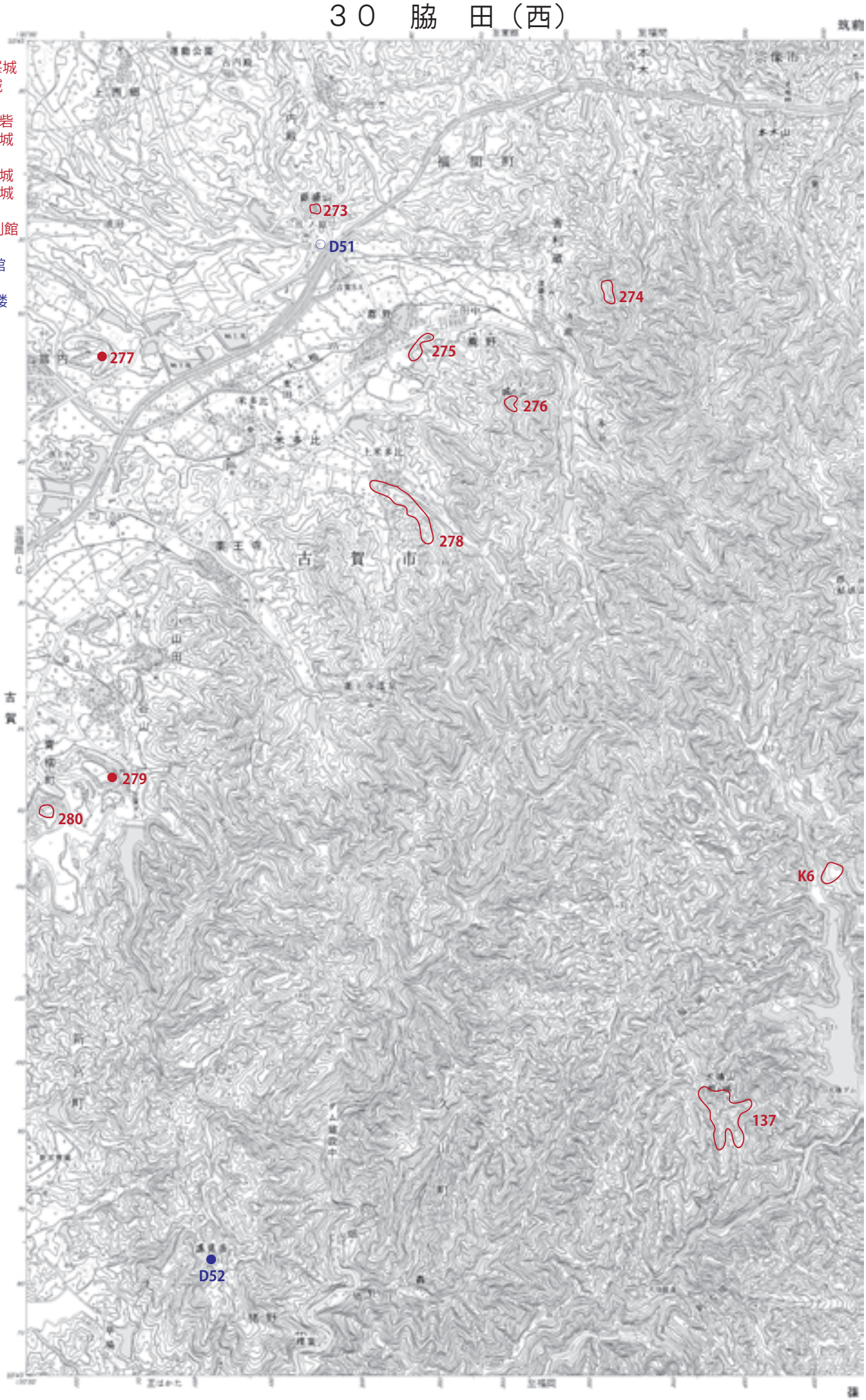
# ２９　筑前東郷（東）




<中近世城館>
筑前163 片山砦
筑前249草場城
筑前250上山堡
筑前251蔦岳城
筑前252茶臼山城
筑前253今井城
筑前254城腰城
筑前256名残城
筑前258城浦堡
<城館等伝承地>
筑前Ｄ22陣ノ坂
筑前Ｄ46
武藤氏宅

(所在不明)
<中近世城館>
筑前172 下有木城
筑前173 山崎城
筑前174 四郎丸城
筑前255 城棒城
筑前257冨地原城

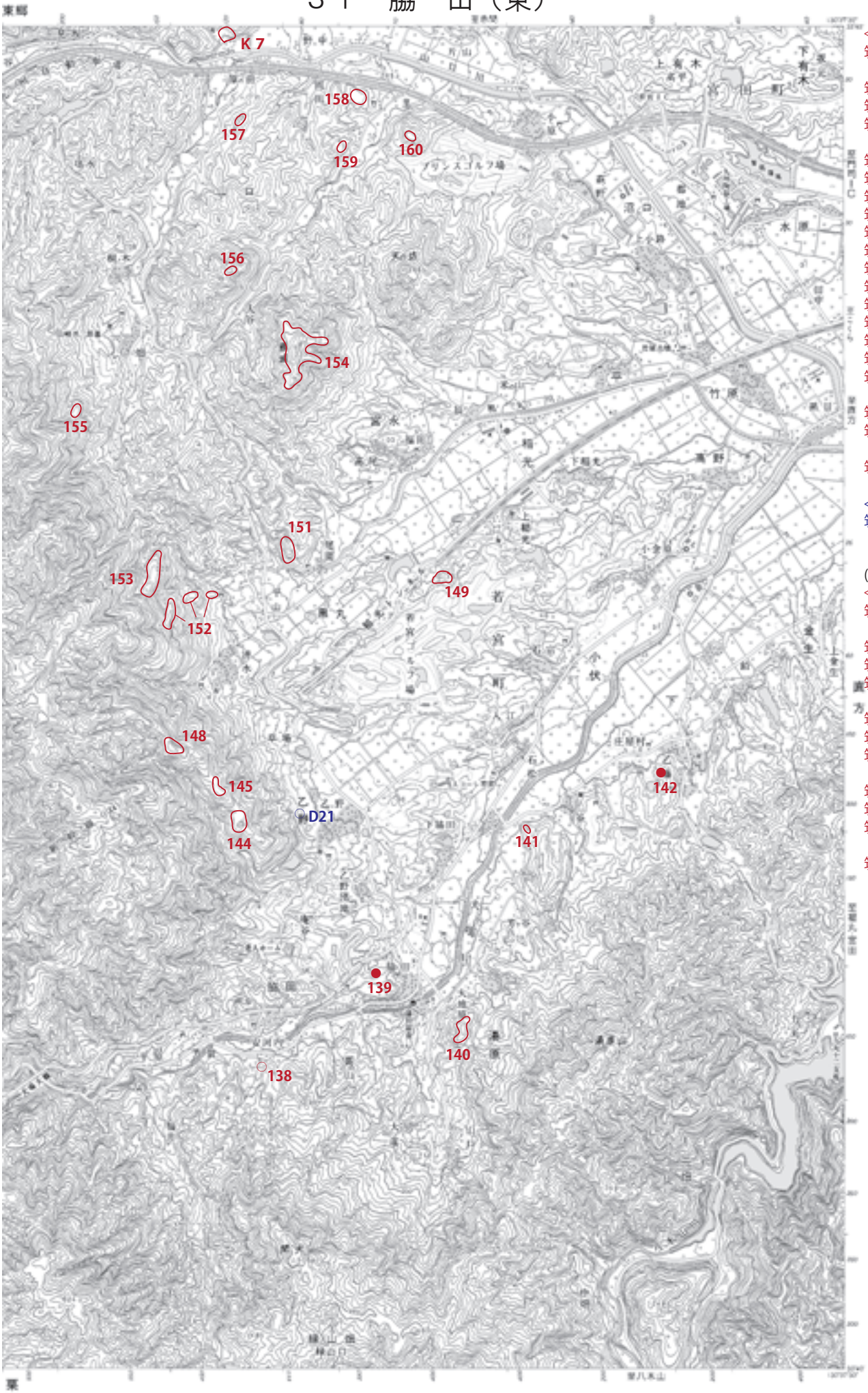
# ３０　脇　田（西）




<中近世城館>
筑前137 熊ヶ峯城
筑前273 飯盛城
筑前274鵜岳城
筑前275小松岡砦
筑前276臼ヶ岳城
筑前277鷺城
筑前278米多比城
筑前279新城山城
筑前280四万城
筑前Ｋ６犬鳴別館
<城館等伝承地>
筑前Ｄ51團原館
筑前Ｄ52
　　遠見岳望楼

（所在不明）
<中近世城館>
筑前289白山城

# ３１　脇　田（東）




<中近世城館>
筑前138
　安河内城
筑前 139 古賀城
筑前 140 草場城
筑前 141
　地蔵山城
筑前 142 下村城
筑前144 篠城
筑前145 草場城
筑前148 立林城
筑前149 稲光城
筑前151 黒丸城
筑前152 平山城
筑前153 丸尾城
筑前154 宮永城
筑前155 黒巣城
筑前156 高丸城
筑前157 岡田城
筑前158
　尾園本城
筑前159 山下城
筑前160
　茶臼山城
筑前Ｋ７
　大音屋敷
<城館等伝承地>
筑前Ｄ21
　左近屋敷

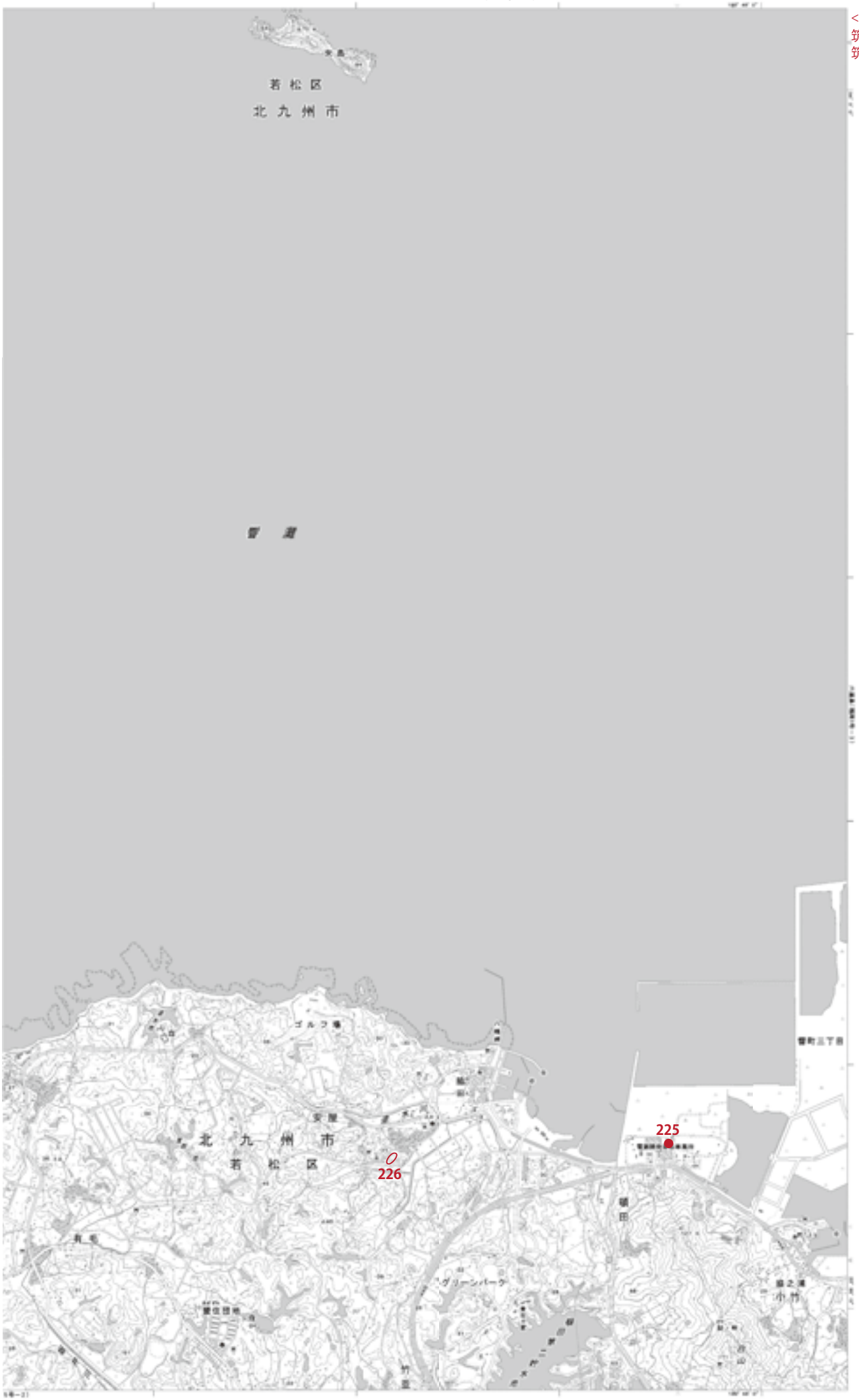
(所在不明)
<中近世城館>
筑前143
　天神山城
筑前146 岳宮城
筑前147 清水城
筑前150
　亭鋒山城
筑前161 中尾城
筑前162 寺山城
筑前164
　天ノ坊城
筑前165 浦山城
筑前166 堀谷城
筑前167
　都市原城
筑前168 竹垣城

# ３２　篠　栗（西）

<中近世城館>
筑前283高鳥居城
筑前284草葉城
筑前285飯盛山城
筑前288丸山城



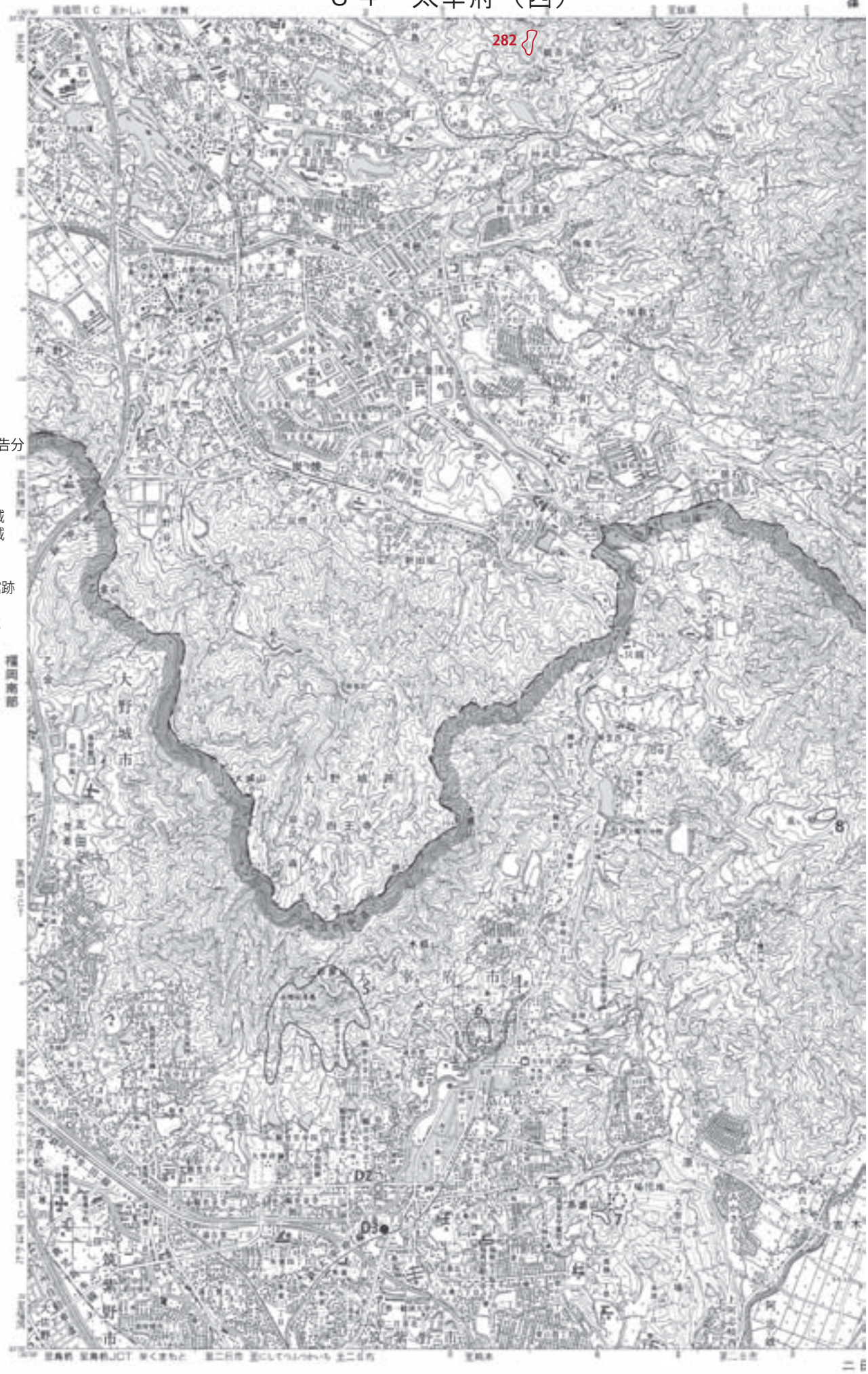
# ３３　岩　屋（東）




<中近世城館>
筑前225城ノ崎砦
筑前226楽丸城

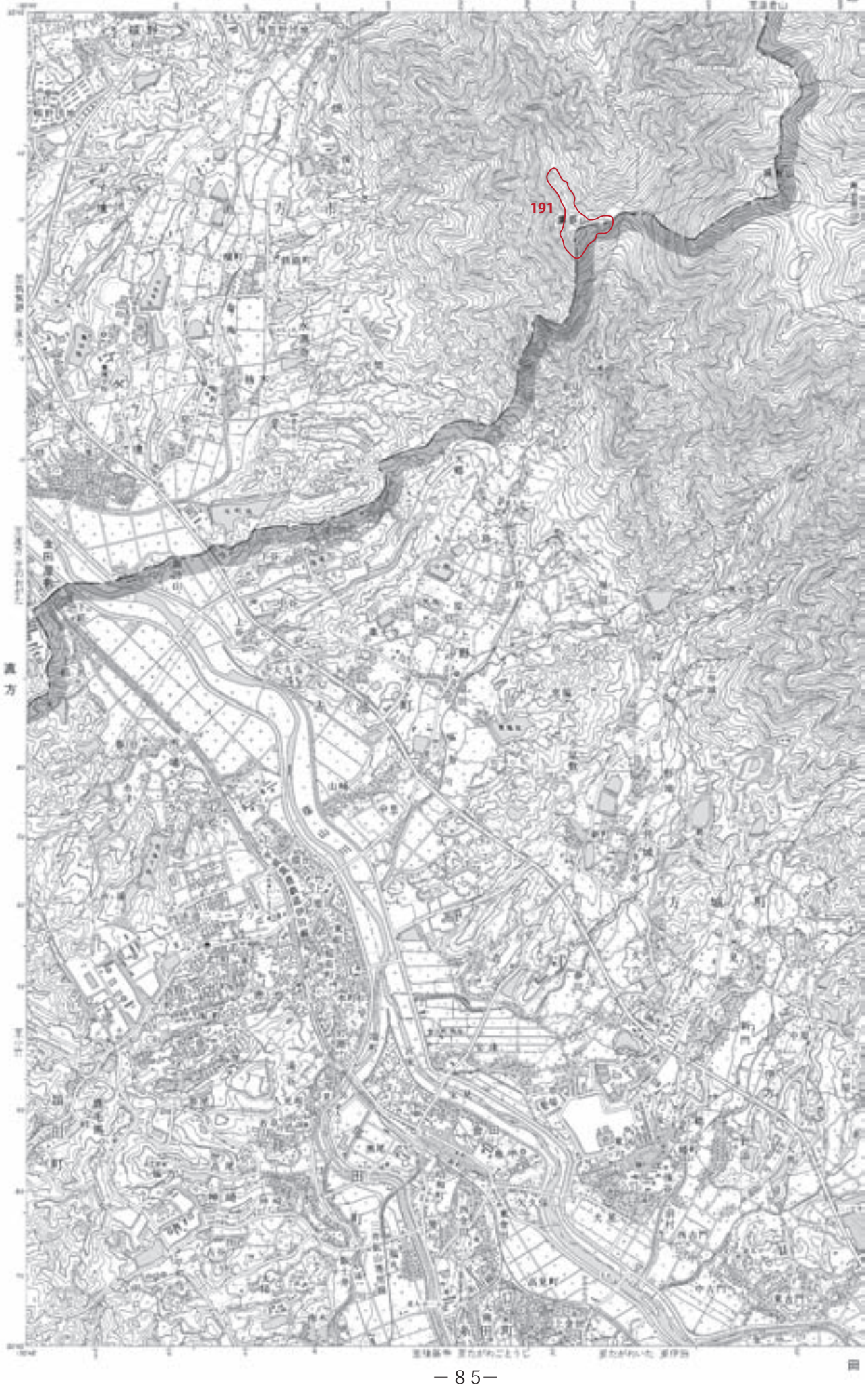
# ３４　太宰府（西）

<中近世城館>
筑前282佐谷城




報告書１にて報告分
<中近世城館>
筑前５ 岩屋城
筑前６ 浦ノ城
筑前７ 高尾山城
筑前８ 有智山城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ２
　少弐氏関連館跡
筑前Ｄ３
　今川了俊居城

# ３５　金　田（西）




<中近世城館>
筑前191鷹取城

# ３６　折　尾（西）

<中近世城館>
筑前228古賀城
筑前230城之越城
筑前231マルビ砦
筑前232五郎城
筑前233山鹿城
筑前234大城城
筑前K12城辻城



# ３７　折　尾（東）

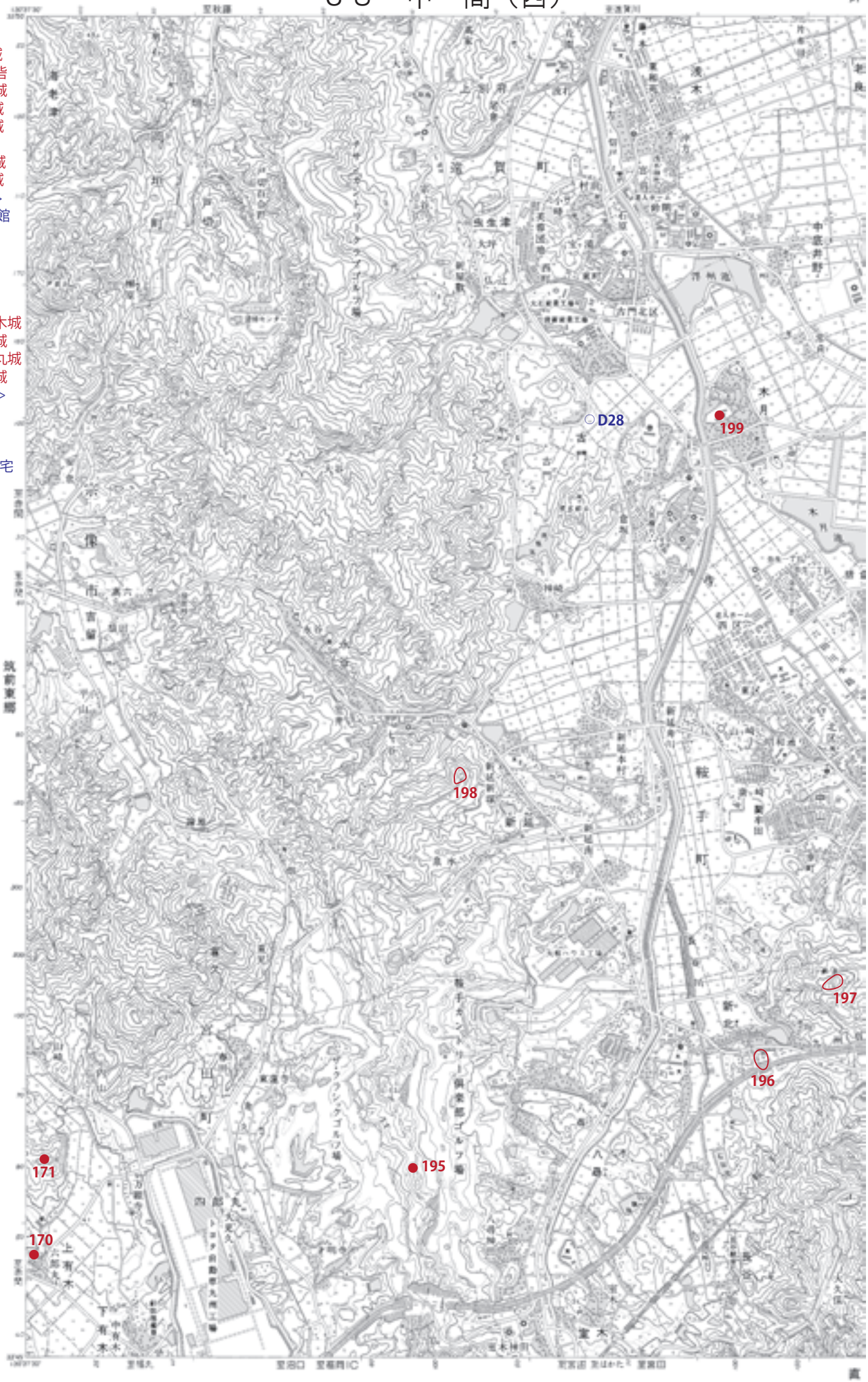



<中近世城館>
筑前205園田浦城
筑前206本城城
筑前207浅川城
筑前224花房山城
筑前227小敷城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ 42
井上氏宅
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ10
本城南遺跡

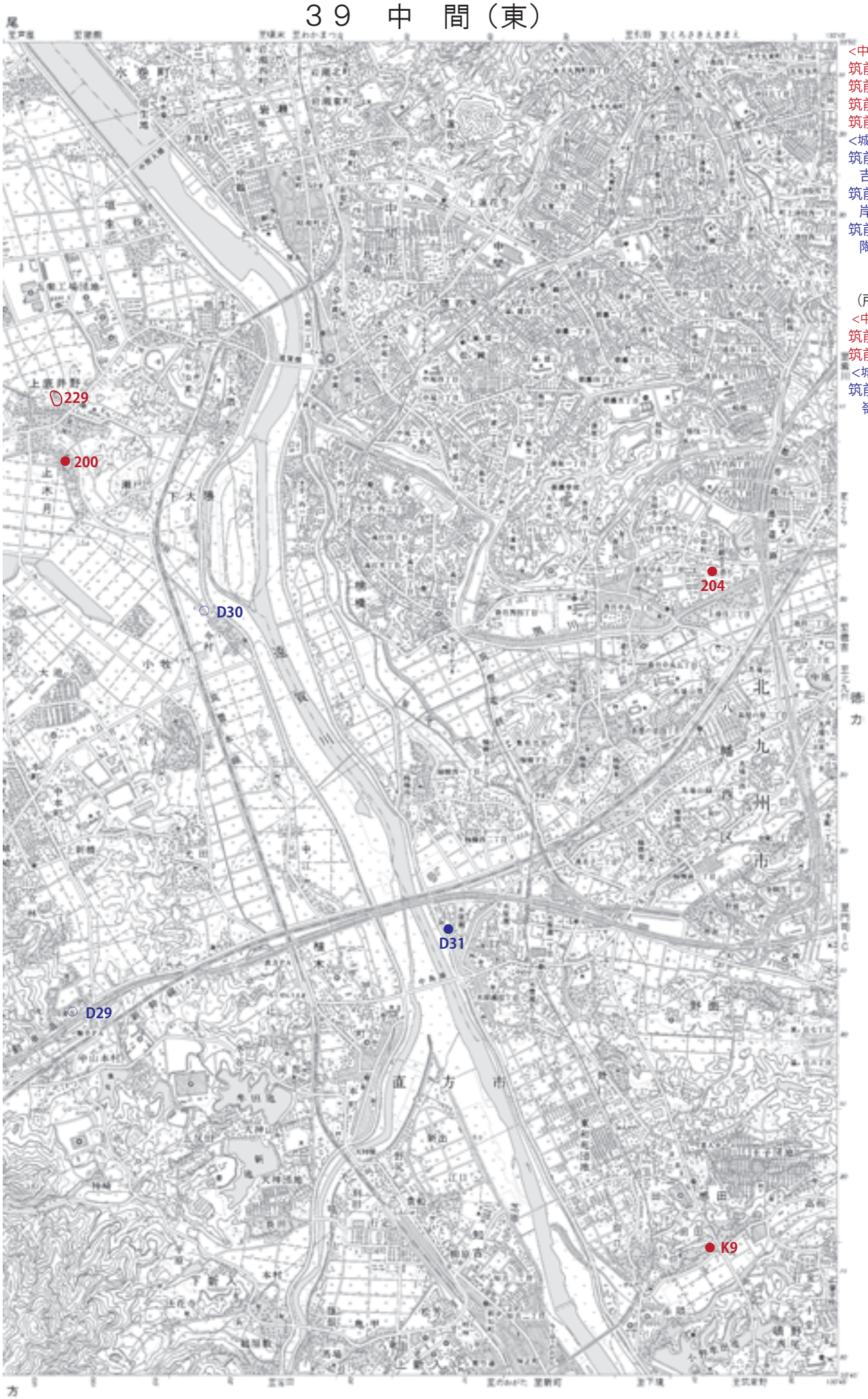
# ３８　中　間（西）

<中近世城館>
筑前170
六郎丸城
筑前171 城崎砦
筑前195 白山城
筑前196音丸城
筑前197剣岳城
筑前198
城腰山城
筑前199古野城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ28島内館

(所在不明)
<中近世城館>
筑前169 上有木城
筑前173 山崎城
筑前174 四郎丸城
筑前175 内山城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ25
野中屋敷
筑前Ｄ26
遠藤大膳宅
筑前Ｄ27
古野山館



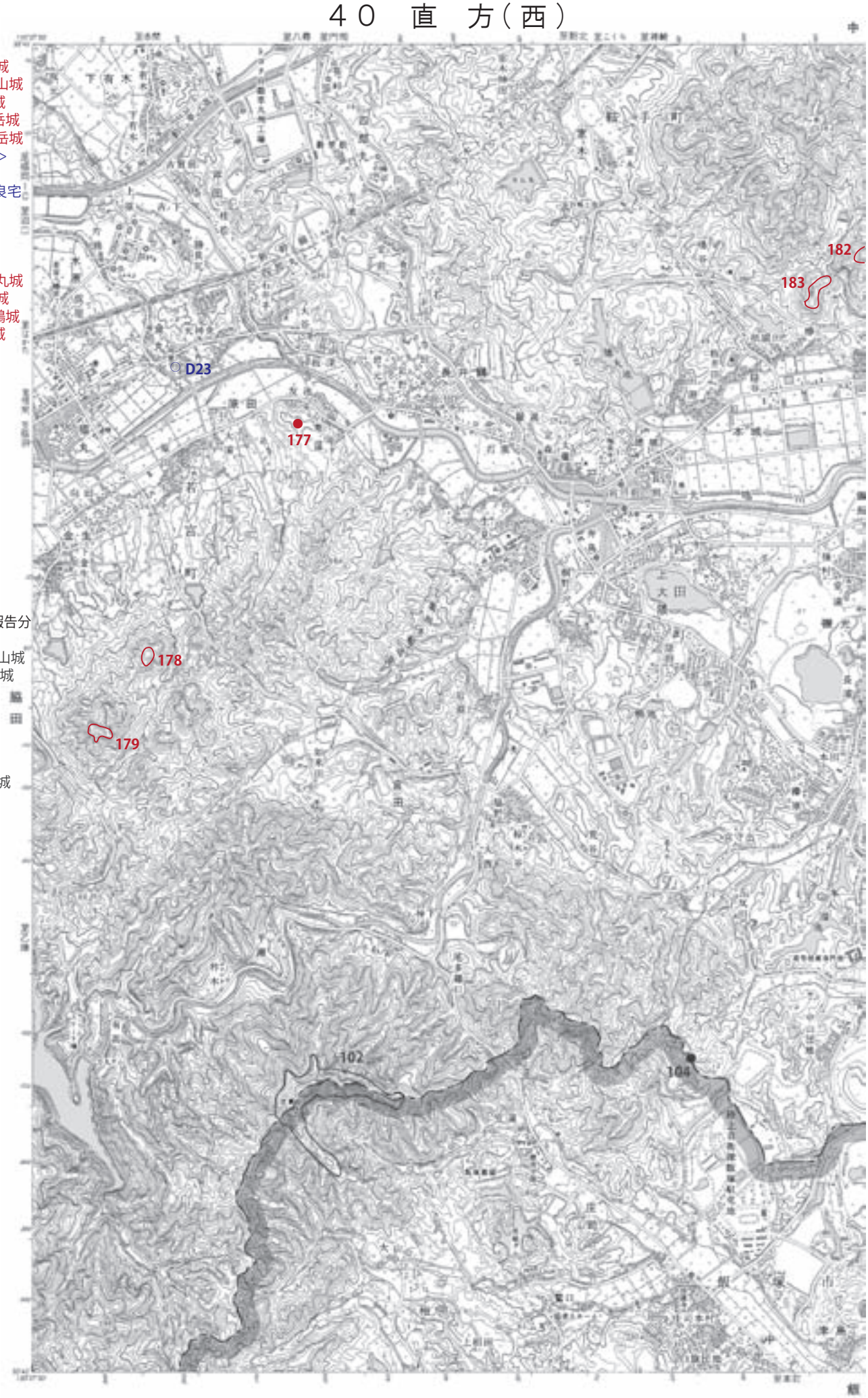
# ３９　中　間（東）




<中近世城館>
筑前200今許斐城
筑前204香月館
筑前229猫城
筑前Ｋ９感田城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ29
吉田壱岐宅
筑前Ｄ30
岸本五郎兵衛宅
筑前Ｄ31
陶弘詮館址

（所在不明）
<中近世城館>
筑前202楠橋城
筑前203茶臼山城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ32
嶺野真玄宅

# ４０　直　方（西）




<中近世城館>
筑前177 友池城
筑前178 鬢鏡山城
筑前179金生城
筑前182龍ヶ岳城
筑前183 祇園岳城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ23
黒田監物利良宅

（所在不明）
<中近世城館>
筑前174 四郎丸城
筑前176 金丸城
筑前180長井鶴城
筑前181宮田城

報告書１にて報告分
<中近世城館>
筑前102 笠木山城
筑前 104 葛山城

（所在不明）
<中近世城館>
筑前103 高丸城

# ４１　直　方（東）




<中近世城館>
筑前182 龍ヶ岳城
筑前184 塔ノ峯城
筑前185 稲付城
筑前186高取城
筑前187草場城
筑前188山崎城
筑前189権現山城
筑前Ｋ８直方陣屋
<城館等伝承地>
筑前Ｄ24杣島館
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ８
光福寺城館跡

(所在不明)
<中近世城館>
筑前190杣城城

報告書１にて報告分
<中近世城館>
筑前105 小呉竹城
筑前109 萱城

# ４２　八　幡（西）

<中近世城館>
筑前209馬乗城
筑前210竹尾城
筑前211市瀬城
筑前212別当山城
筑前213帆柱山城
筑前214鷹見岳城
筑前215花尾城
筑前216
　多良倉岳城
筑前217尾倉城
筑前218茶臼山城
筑前222浜田城
筑前223高塔峰砦
筑前224花房山城
筑前Ｋ10黒崎城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ34陣屋谷
筑前Ｄ36内藤陣山
筑前Ｄ37
　麻生氏家臣宅
筑前Ｄ39藤村氏宅
筑前Ｄ40源経基陣
筑前Ｄ41御屋敷
筑前Ｄ43麻生氏宅

（所在不明）
<城館等伝承地>
筑前Ｄ35古砦趾
筑前Ｄ38
　井上家臣宅



# ４３　八　幡（東）



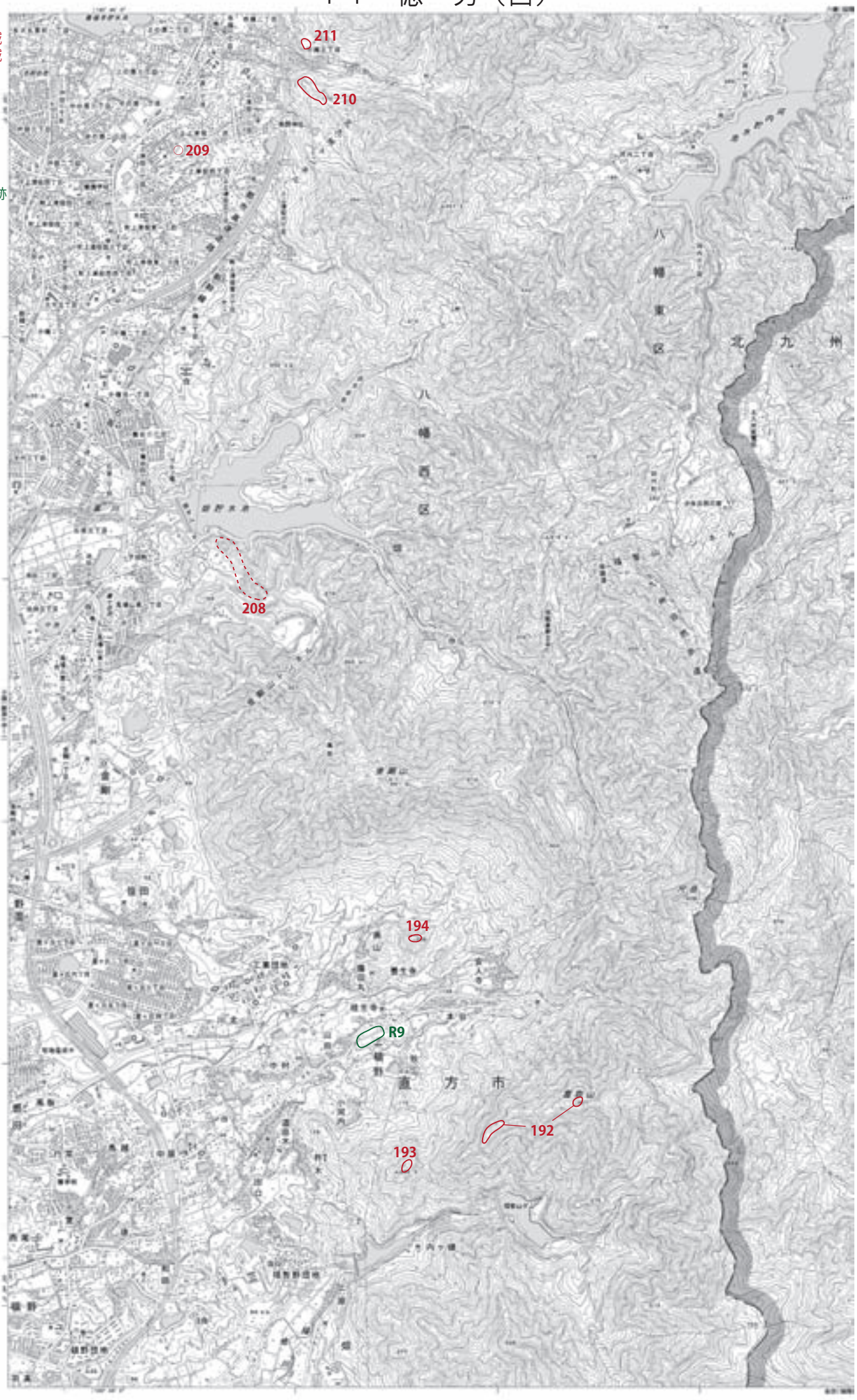

<中近世城館>
筑前219篠谷城
筑前221天賀城
筑前Ｋ11若松城

（所在不明）
<中近世城館>
筑前220戸畑城

# ４４　徳　力（西）

<中近世城館>
筑前192 雲取山城
筑前193 山ノ田城
筑前194髻砦
筑前208畑城
筑前209馬乗城
筑前210竹尾城
筑前211市瀬城
<城館関連遺跡>
筑前Ｒ９
上頓野宮ノ前遺跡

（所在不明）
<中近世城館>
筑前201金剛城
<城館等伝承地>
筑前Ｄ33隠館



# Ⅴ　個別城館報告

＜凡例＞

1　本章では、対象地域に分布する個別城館遺跡等の記載を行っている。

2　城館跡は、遺跡の分類単位で、なおかつ旧郡単位で収録しており、市町村単位ではない。

3　個別城館のタイトルに示した内容は、Ⅳの一覧に準じている。

4　文中にある文献番号は、参考文献一覧（44～49ページ）と対応している。また、基本参考文献等の略号は以下のとおりである。

・「本編」…『筑前国続風土記』（貝原益軒著・1629年）

・「附録」…『筑前国続風土記附録』（加藤一純・鷹取周成著・1798年）

・「拾遺」…『筑前国続風土記拾遺』（青柳種信著・文政～天保年間（未完））

・「全誌」…『福岡県地理全誌』（臼井浅夫ほか著・1875～1880年）

・「種々」…『研究旅行用　面白い種々な見方の福岡縣史、史蹟名勝口碑傳説所在地』（和田宗八・1936年）

・「全集」…『日本城郭全集』14 佐賀・長崎・福岡（人物往来社（鳥羽正雄他編・1967年））

・「教委」…『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』XXIX 付録　福岡県中世山城跡（福岡県教育委員会（副島邦弘・近沢康治編）・1979年）

・「大系」…『日本城郭大系』第18巻福岡・熊本・鹿児島（新人物往来社（磯村幸男編・1979年）

・「城郭」…『福岡県の城郭』（福岡県の城刊行会・2009年）

・「古城図」…『古戦古城之図』（大蔵種周・土井正就ほか筆・国立公文書館蔵）

※なお、本書における国立公文書館所蔵の絵図面は断り書きのない限り、全てのこの絵図面集を指すものとする。

・「旧跡全図」…『太宰府旧跡全図』

・「城数之覚」…『筑紫氏城数之覚』（筑紫家文書）

・「覚書」…『天正十五年四月生駒雅楽頭宛城数覚書』

5　個別報告文章の項目および内容は以下のとおりである。

【沿革】…城館の位置、および伝承等の来歴を記す。

【概要】…城館の現地の状況及び構造等を記す。

【史料】…文書調査における「一次史料」・「参考史料」の記載の有無を示す。

【参考文献】…参考文献一覧に示した文献の有無を示すもので、文献番号を付した。番号がゴチック体となっているものについては、記載文献に縄張り図・測量図等の調査データが搭載されているものを示す。

6　掲載した縄張り図の内、事務局作成分については、作成方法・表記方法等は、『発掘調査のてびき　各種遺跡編』（2014年・文化庁編）に準じている。また、遺構名称も上記文献に準じているが、曲輪への出入口を指す用語については「虎口」を用いた。

## 1　中世城館　　①鞍手郡

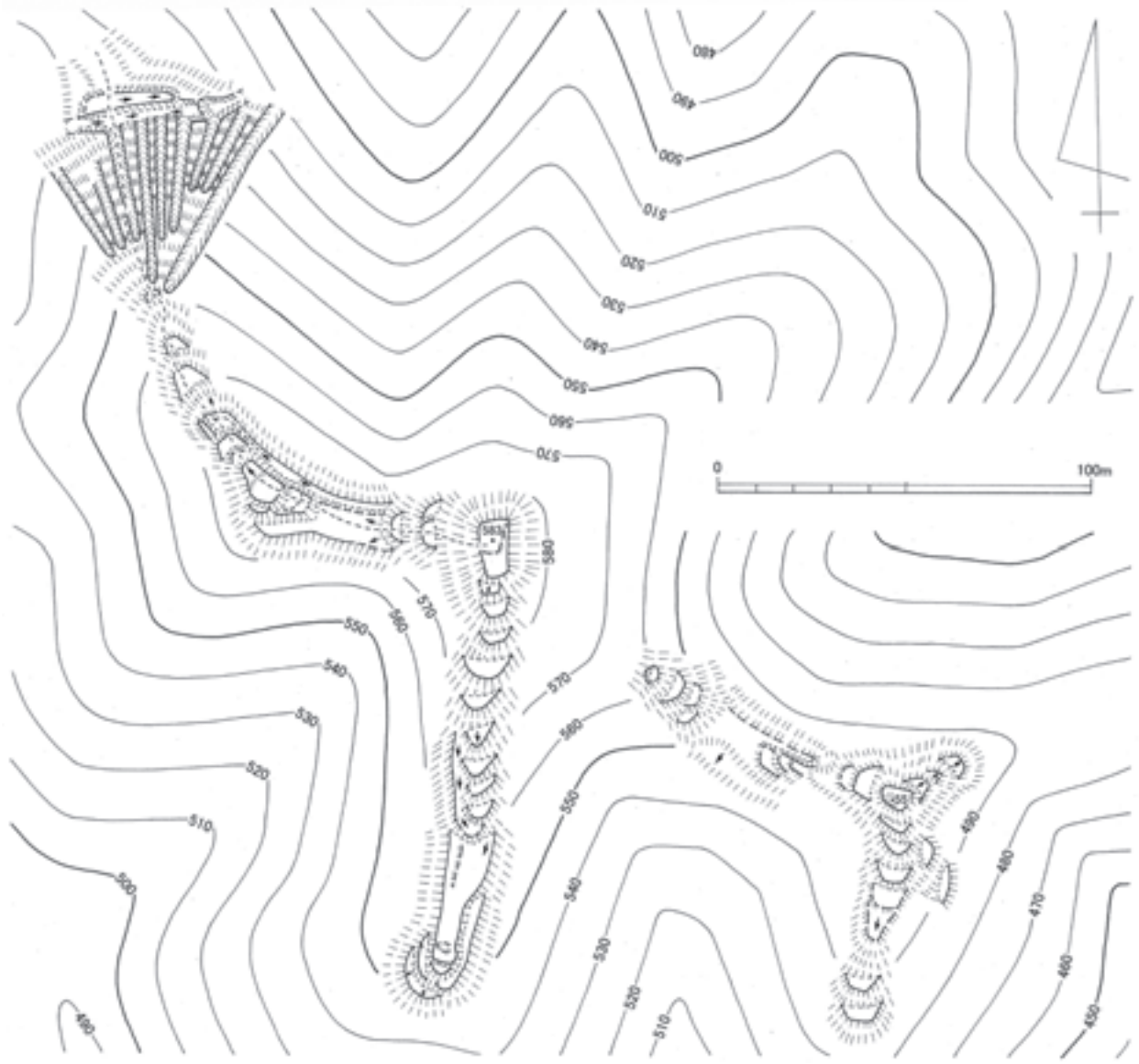
| 筑前 137 | 熊ヶ峯城（くまがみねじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　熊ヶ城 | 図幅名　脇田（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　宮若市犬鳴 | |

【沿革】宮若市西部、糟屋郡久山町との境に近い犬鳴山山頂部に位置する。『本編』『附録』『拾遺』『全誌』は城主不詳とするも、『筑前要領』（香月文書）は黒瀬越後守を城代とする。『本編』『拾遺』には、本丸、二の丸のほか、調馬場（馬場（山の東の方））・轡洗（沓洗（山の西の麓））などの地名を記している。

【概要】犬鳴山山頂（標高 583m）に南北約 20m、東



第５図　熊ヶ峯城畝状空堀群




第６図　熊ヶ峯城縄張り図（事務局作成）

西約 10m の主郭を置く。主郭は東に若宮の盆地、北西側には立花山をはじめとする糟屋郡を見渡すことのできる適所に位置する。主郭から延びる尾根上に曲輪を階段状に展開する構造を呈する。特に北西側の尾根に小曲輪群を置いたさらに先には、９本からなる畝状空堀群と１本の堀切を設け、厳重に防御している。また、主郭の南側の尾根上や、そこから東に延びる尾根上にも小曲輪群を展開するが、堀切などの防御遺構は見られず、防御性は乏しい。

前述のように黒瀬越後守を城主とする在地の城とも伝えられるが、他の事例に比べて非常に規模が大きく、比高も高く、複数の曲輪から構成されるなど構造も異なっている。『森脇飛騨覚書』（山口県史料中世編）には永禄 12 年 (1569) に毛利勢が立花勢を攻めた際に熊ヶ峯を通過して糟屋方面へ進軍したことが記されており、当地域に見られる在地の小規模城館とは異なり、毛利もしくは大友などの大名勢力の積極的な関与が窺われる。

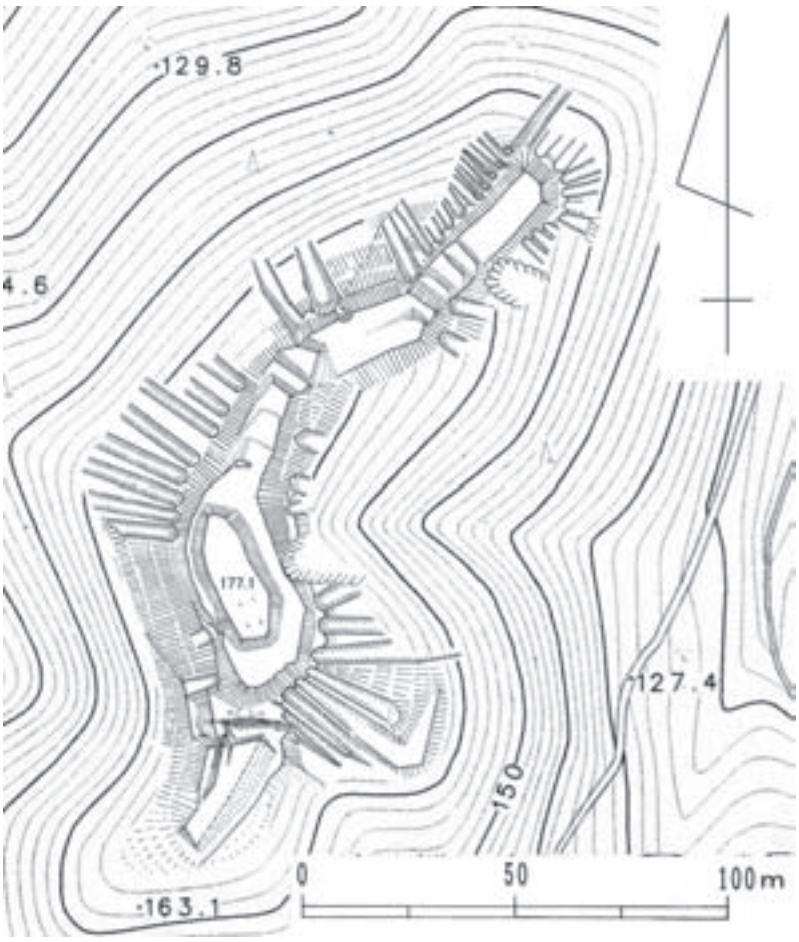
【史料】なし　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,**11**,13,14,**20**,**192**

**筑前 140　草場城（くさばじょう）**　　**郡名　鞍手郡　別称　福山城・湯原草場城　図幅名　脇田（東）**
**種別　山城　　所在　宮若市湯原**

【沿革】湯原山の中腹、脇田温泉街の南東側の丘陵上に位置する。『本編』には大内氏、のち秋月種実の配下となった松井修理・越後守秀郷親子を城主とし、宗像氏によって落城されたとする。城下には松井屋敷という常の屋敷があるとされているが、『拾遺』には既にその所在は分からないとしている。また、『筑前要領』（香月文書）には「湯原村艸場城代　松井越後守、同修理亮主子越中丞」と記載がある。

【概要】標高 177m の頂部に主郭を置き、その周囲に帯曲輪を巡らす。そして北へ延びる尾根上へ曲輪を階段状に展開しているが、その間は堀切で仕切る。それらの曲輪群の周囲には、約 40 本近くの畝状空堀群を巡らすと共に、南側は二重の堀切で防御する厳重な構造である。城域は全長約 200m 近くもあり、規模はやや大きいと言える。

草場城が所在する地は、中世吉川庄が所在する場所であり、大内氏や大友氏が重要視する場所で、吉川庄については多くの古文書が



第７図　草場城（湯原所在）縄張り図（藤野正人氏提供）

残されている。秋月氏、宗像氏を含め、周辺の大名、国人領主層が吉川庄を巡る攻防の中で、様々な勢力に取り立てられた城である可能性が考えられる。

【史料】なし

【参考文献】1 ～ 5,7,**10**,**11**,13,14,**20**,**192**



第８図　草場城（湯原所在）遠景

**筑前 141　地蔵山城（じぞうやまじょう）**　　**郡名　鞍手郡**　　**別称　大村氏宅**　　**図幅名　脇田（東）**
**種別　丘城**　　**所在　宮若市湯原**

【沿革】宮若市湯原の北、中世以来の古刹、東禅寺の西にあたる字「大城（おおしろ）」と呼ばれる尾根の突端部に位置する。江戸時代の地誌類には一切見られず、「地蔵山城」としての初出は『鞍手郡郷土史』（文献 14）掲載の「城趾（とりで）古戦場分布図」であるが、『全誌』には「大村氏宅址」として、「村ノ北五町ニアリ。今大城ト云。大村讃岐守、同弟因幡守居住ノ地ト云。」とあり、地蔵山城を指しているとみられる。



第９図　地蔵山城遠景

また、『福岡県の城』には、宗像氏の端城として音藤四郎が天文年間の城主であるとしているが、これは下村城（筑前 142）の事を指しているとみられる。

【概要】湯原山から北へ派生する尾根の突端の頂部（標高 82m）に位置する。径約 20m の主郭とその周囲に帯曲輪を巡らす構造で、南側の尾根続きには、深さ 4m の大きな堀切を設け、南側からの侵入を遮断する。堀切より南側や周囲の斜面は後世の畑造成による平坦面が多数みられ、城郭遺構かどうかの判断は困難である。

現在、主郭の平坦面上には寛延２年 (1749) の銘のある地蔵石像や弘法大師石像が置かれており、これが「地蔵山」の名の由来とみられる。

なお、主郭部はその形状や立地から大型円墳を利用した可能性も考えられているが、不確定である。

【史料】なし

【参考文献】4,**10**,11,14




第 10 図　地蔵山城縄張り図（事務局作成）

## 筑前 144　篠城（しのんじょう）

郡名　鞍手郡　　別称　篠崎城　　図幅名　脇田（東）
種別　山城　　所在　宮若市乙野

【沿革】犬鳴山の東、乙野集落の西側の尾根上に位置する。『拾遺』には茶臼山ともいい、清水某が居したとしている。一方、『筑前要領』（香月文書）には「乙野村篠ノ城代　毛利左衛門」と記載されるが、『鞍手郡誌』（文献 13）「吉川村」には、「篠か城址」として、「村の西十町山上にあり廣一反許　井上源五左衛門と云士の居城なりと云」とあり、『全誌』も同様の記載をとる。このように文献によって城主は全く異なる。

【概要】西山（標高 644m）から南へ派生する同一の尾根上には、北から立林城、（乙野）草場城、篠城が立地する。これらの内、篠城は最も低い場所に位置する。

篠城の縄張りは曲輪が明確ではなく、城内の最高所（標高 312m）には曲輪としてもよさそうな平坦面がいくつか見られるが、それ自体が土塁の役割とも見ることができ、単体の城としての主体がどこを想定すればよいのか不明確である。全体的には大型の堀切とそれに伴う土塁状の高まりによって、尾根上の進攻を妨げようとする意図が読み取れる。



第 11 図　篠城（城内最高所の曲輪）

篠城の北約 150m 地点には草場城（筑前 145）があり、両者の関係は密接で、場合によっては草場城防御のために設けられた防御遺構とも考えられる。

【史料】なし

【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,11,13,14,**20**,**192**

## 筑前 145　草場城（くさばじょう）

郡名　鞍手郡　　別称　乙野草場城　　図幅名　脇田（東）
種別　山城　　所在　宮若市乙野

【沿革】篠城（筑前 144）から尾根上を北へ約 150m 上がった箇所に位置する。『筑前要領』（香月文書）には乙野村の内として「艸場城　藤豊後守」と記載したものがこの城郭を指しているものと推測される。文献 20 では『拾遺』記載の立林の古城跡をこの城としているが、それは立林城（筑前 148）を指す。

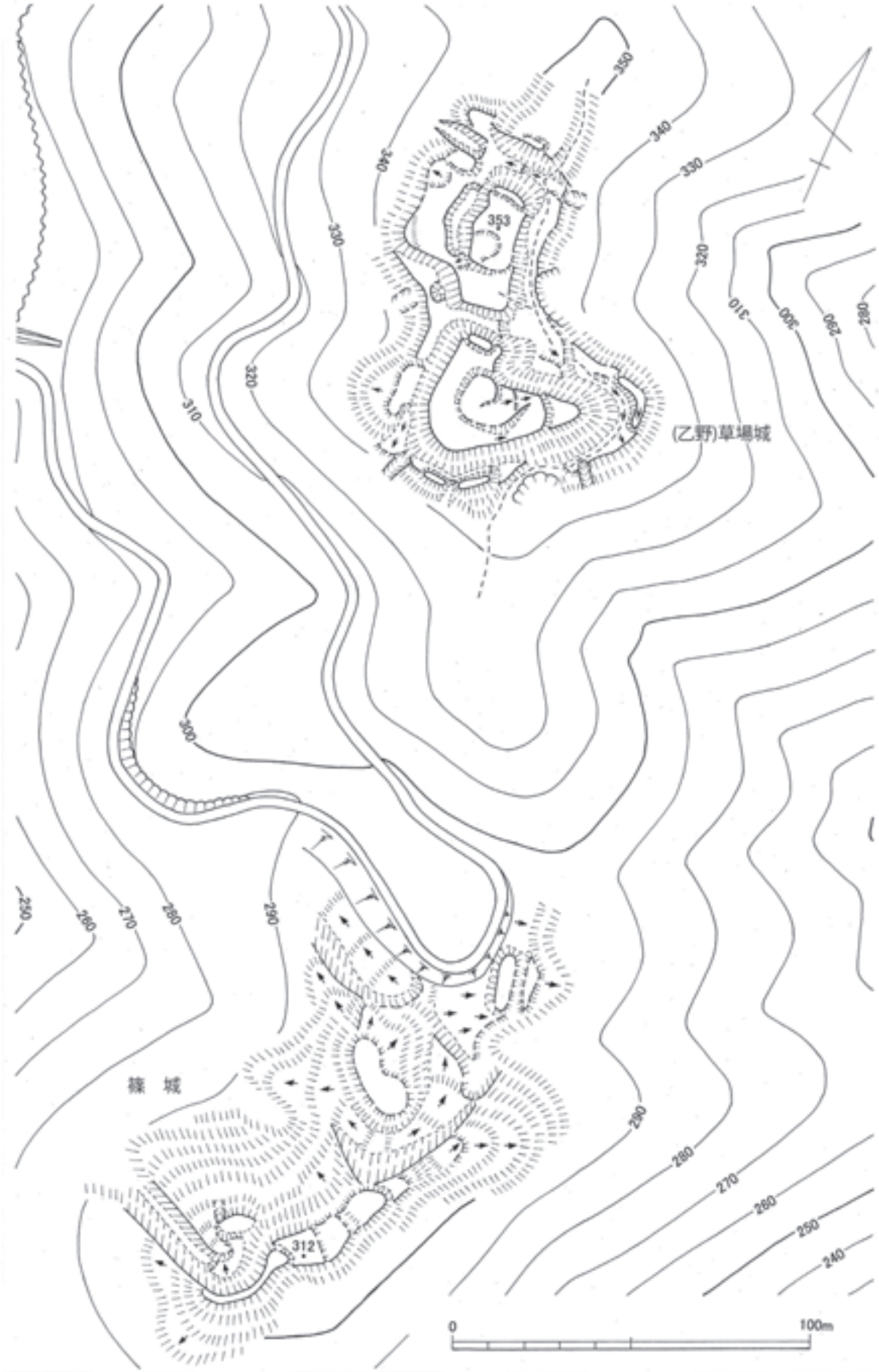


第 12 図　草場城（乙野所在）横堀
（横堀部分に水が溜っている）

【概要】標高 353m を最高所とし南北約 20m、東西約 10m 規模の曲輪を置き、周囲を土塁、堀切、横堀、帯曲輪を巡らす。また、堀切を挟んで南側にもほぼ同じ標高の位置に、約 20m 四方の曲輪を設け、東側から南側にかけて帯曲輪、横堀とそれに伴って竪堀を施しており、厳重な防御の様子を見ることができる。草場城から北へ約 400 ～ 500m さらに上ると、立林城が立地しており、篠城と合わせ、乙野や黒丸一帯の小領主が、それぞれ尾根の頂部に小規模城館を築いていた様子を窺うことができる。

【史料】なし

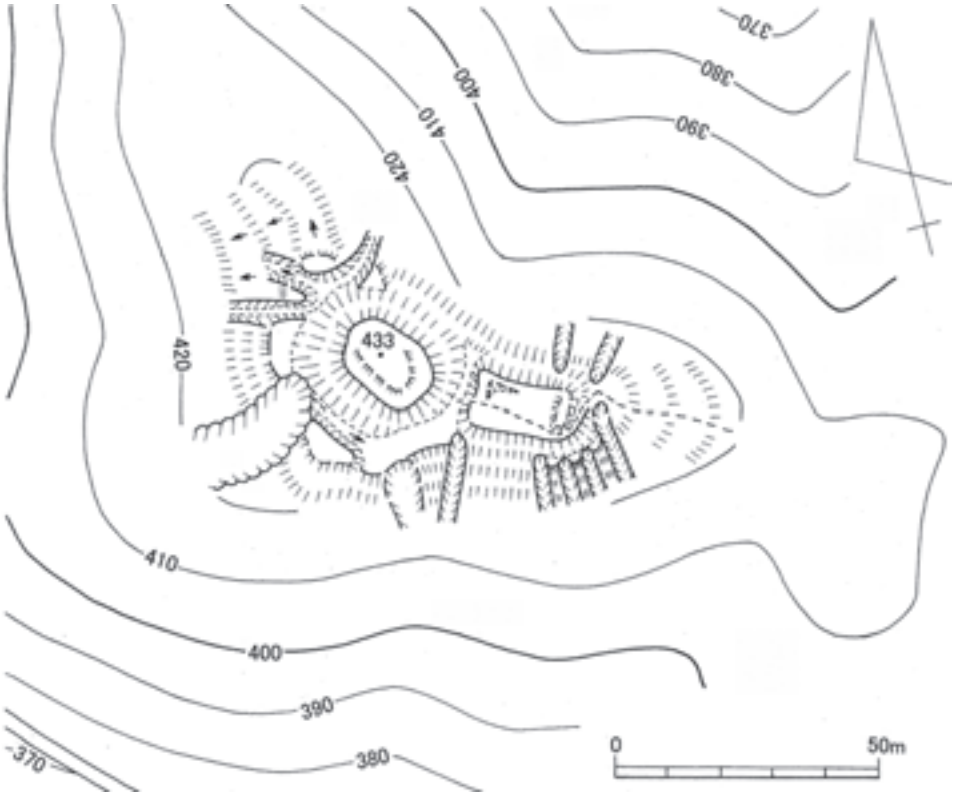
【参考文献】8,9,11,13,14,**20**,**192**




第 13 図　篠城・(乙野) 草場城縄張り図（事務局作成）

| 筑前 148 立林城（たてばやしじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　なし | 図幅名　脇田（東） |
|---|---|---|---|
| | 種別　山城 | 所在　宮若市黒丸 | |

【沿革】草場城（筑前145）から北へ尾根上を約 400 ～ 500m 上った頂部に位置する。この場所の小字は「立林」であり、『拾遺』「黒丸古城」の記載中に「又平山立林の両所にも古城址有。いずれも安永氏が端城と云。立林の古城は犬鳴山の裏続きの別峯にて此邊古城址の内にては最も高し」とあり、この立林所在の城跡がここに当たると考えられ、実際周辺で確認されている城郭の中で最高所に位置することとも合致する。




第 14 図　立林城縄張り図（事務局作成）

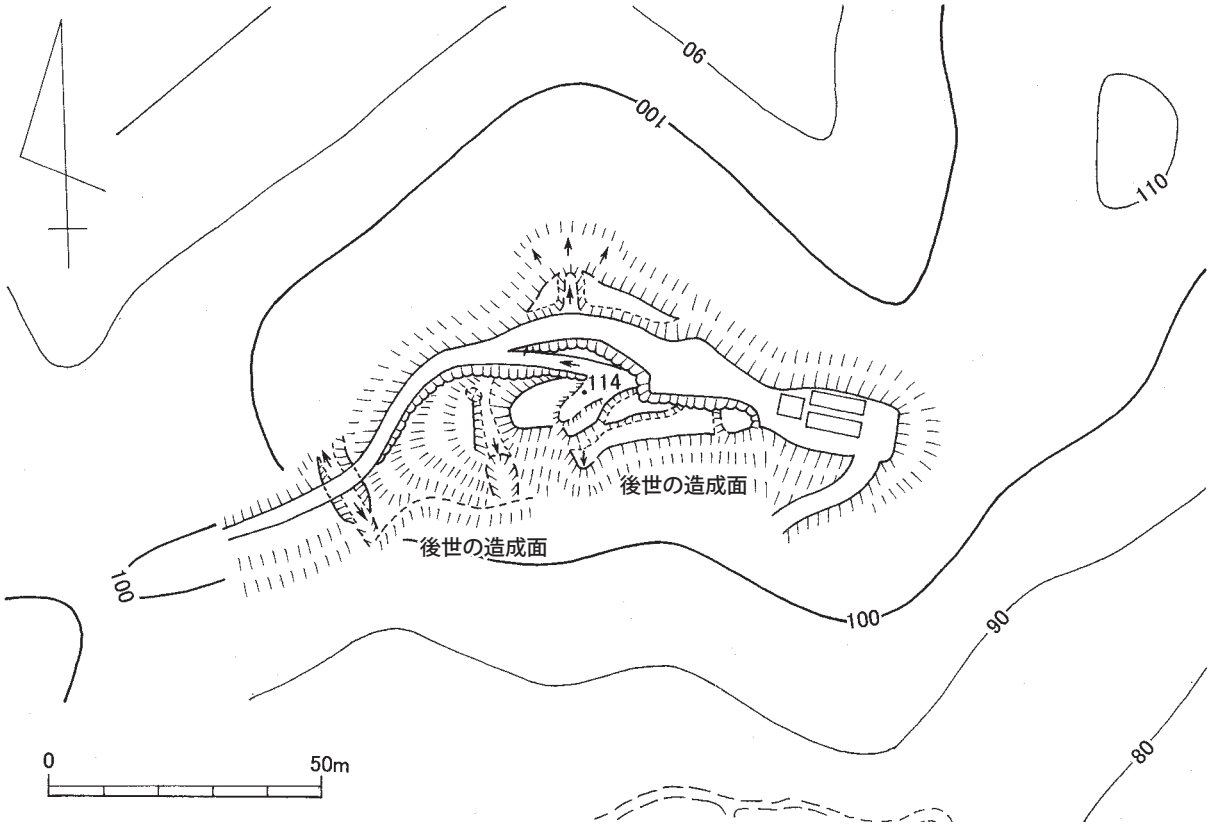
【概要】古刹清水寺の西側背後、標高 433m の頂部に径 15 ～ 20m の楕円形の主郭を置き、南北の尾根上は堀切で防御する。南西側は帯曲輪を巡らすが一部堀状となっている。南東側の堀切を挟んで東側にも曲輪を置くが、一部に土塁で囲まれた痕跡を見出すことができる。また、その曲輪の東側は土塁を伴う屈曲した虎口が構えられ、併せて 6 本の畝状空堀群で防御している。

『拾遺』の記載を信用すれば黒丸城の安永氏の詰めの城とも解釈できるが、近傍の尾根伝いには乙野の草場城や篠城があり、それらとも連携しながら存在していたことが推測される。

【史料】なし　【参考文献】3,4

| 筑前 149 稲光城（いなみつじょう） | 郡名　鞍手郡　別称　城山城・稲次城・小伏城 | 図幅名　脇田（東） |
|---|---|---|
| | 種別　丘城　所在　宮若市稲光・小伏 | |

【沿革】 稲光と小伏との境、現在若宮ゴルフクラブが所在する場所の北側の低丘陵頂部に位置する。『本編』「小金原」には、天正 10 年（1582）11 月の小金原合戦において、立花方が合戦前に休息した「稲光の城山」が記載されている。また、『拾遺』「小金原古戦場」には「里民は古城（ふるじょう）と云る地也。」とあり隣接する「鎗場の松」なども紹介する。また、『全誌』の稲光村の項には「城山城址」として「宗像氏の臣、井原九郎と云者守れりと云。旧記に稲次城ともあり。」とする一方で、小伏村の項にも、




第 15 図　稲光城縄張り図（事務局作成）

「古城址」として「古城（ふるじょう）」にあり、曲輪のある山上の西方に堀切の跡が残るとしており、ともにこの稲光城を示している。

【概要】稲光と小伏との境は標高 100m 前後の低丘陵が細長く伸びているが、稲光城はその頂部のうちの一つ標高 114m 地点に位置する。給水塔により削平を受けていて詳細な規模は不明であるが、東西約 50m、南北約 20m の範囲内に曲輪は収まり、その西側の尾根上に堀切２本を設け、防御する構造をとる。恐らく単郭か２～３の曲輪からなる小規模城館と推測される。



第 16 図　稲光城遠景



第 17 図　稲光城堀切

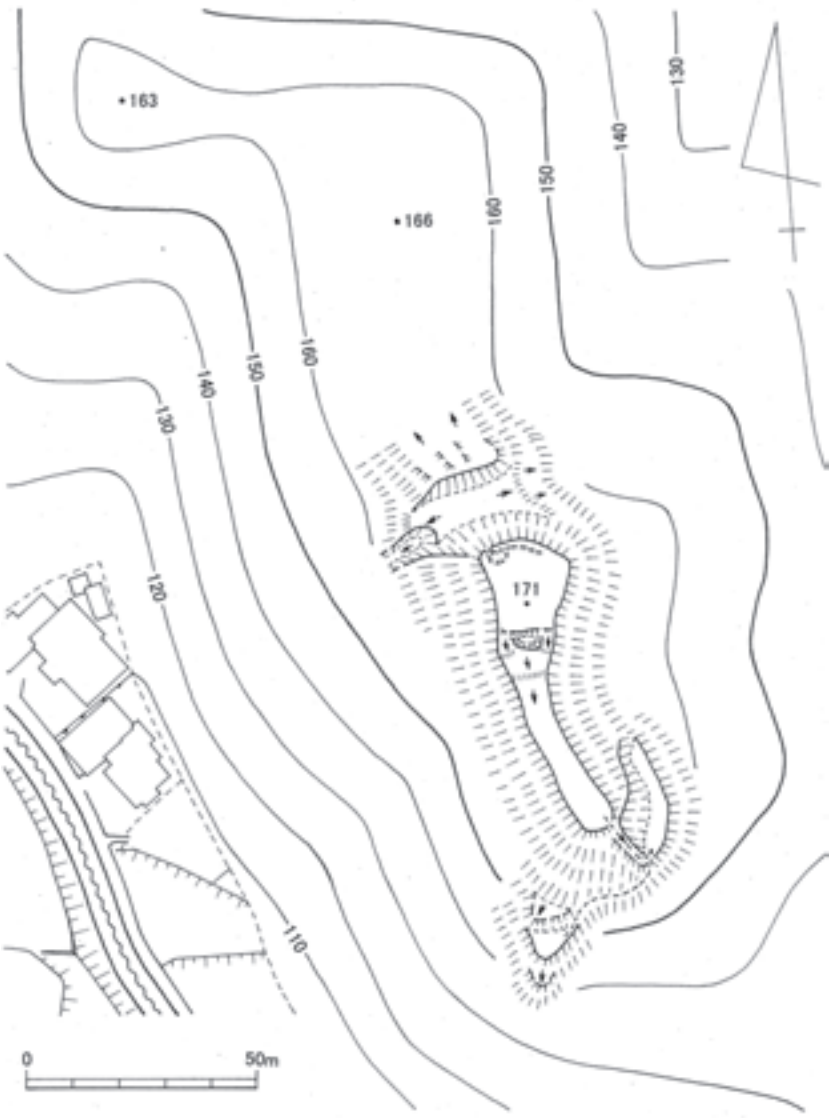
【史料】なし　【参考文献】3,4,8 ～ 11,13,14,**20**,**192**

| 筑前 151 | **黒丸城**（くろまるじょう） | **郡名**　鞍手郡 | **別称**　古賀宗城 | **図幅名**　脇田（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | **種別**　山城 | **所在**　宮若市黒丸 | |

【沿革】黒丸集落の北、標高 171m の丘陵上に位置する。現在も「城ノ脇」の小字を残す。『本編』には太宰少弐の端城として安永釈太郎を城主とする。『拾遺』には、安永但馬守重勝が築城し、以下五代にわたっての城主が記され、村内に安永釈太郎の墓の存在なども伝えている。『筑前要領』（香

月文書）では「黒丸村黒丸城代安永越中守　子釈太郎」と記す。『全誌』は「本村の内、古賀宗にあり。」としている。また、『城郭』では天文 12 年（1543）３月 20 日に大内義隆家臣で長門国守護代内藤興盛は勝間田盛保に対し、筑前国若宮庄黒丸郷の十石足地を与えており、黒丸と勝間田氏の関係が窺われるとしているが、黒丸城との関係の有無は不明である。

【概要】黒丸集落背後の標高 171m地点の頂部に約 25m 四方の主郭を置き、その北側に残存高 0.5mにも満たない土塁が残る。その北側は幅 10m、深さ 10mにも及ぶ大規模な堀切を設けて城域を大胆に区切っている。そのため、それより北側にも自然の平坦地形は継続するが、城域には含めず放置される。『福岡県の城』や『城郭』では主郭北側の標高 163m、166m の頂部地点も曲輪が広がるとするが、その一帯は基本的に人工的な造成は確認できない。



第 18 図　黒丸城縄張り図（事務局作成）

主郭の南側は、堀状の窪みを挟んで南北 50m を越える細長い曲輪を置く。そしてその南東側と南側の尾根上に小規模な曲輪をいくつか設置している。近隣の小規模城館よりはやや規模が大きいと言えよう。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10,11**,13,14,**20,192**


第 19 図　黒丸城遠景


第 20 図　黒丸城堀切（南側部分・左上が主郭）

| 筑前 152 | 平山城（ひらやまじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　六社八幡城 | 図幅名　脇田（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城・山城 | 所在　宮若市黒丸 | |

【沿革】清水寺の北、江戸時代初期に焼亡したと伝える平山寺跡の谷の北側には、応神天皇、神功皇后を初めとする六柱の祭神を祀る六社八幡宮があるが、その西側の尾根上には三箇所の城郭遺構が存在する。『拾遺』「黒丸古城」には、「又立林平山の両所にも古城址有。」とし、黒丸城主の安永氏の端城と記載する。また『全誌』にも「平山城跡」としてほぼ同様の記載がなされる。現在平山城と伝える正確な場所は不明であるが、ここに報告する複数の城郭遺構は、平山寺跡に近いため、丸尾城（筑前 153）も含めて、これらのいずれかが平山城とみられるが、断定できないため、ここではこれらを一括して平山城として報告する。

【概要】六社八幡宮から西へ上る尾根上、標高 193m、237m、313m 地点にそれぞれ城郭遺構が確認できる（図中Ⅰ～Ⅲ）。もっとも標高の低いⅠは、六社八幡宮社殿のすぐ裏側に当たる。長さ 20m にも満たない規模の略方形の曲輪が２つ並列する構造で、西側の曲輪には土塁も確認することができる。それらの曲輪の間を堀切で区切り、曲輪群の周囲は堀切、もしくは横堀、帯曲輪を巡らす。全長約 70m の規模である。文献 20 ではⅠが平山城に当たると推測している。

Ⅰからさらに尾根を西へ約 100m 上るとⅡの曲輪群にたどり着くが、ⅠとⅡの間は自然地形である。Ⅱは一辺約 10m の曲輪 A を中心に B・C の曲輪が西へ延び、その西側に深さ２m の堀切を設け上方からの防御に備える。A ～ C の曲輪の南側には階段状に平坦面が続いているが、後世の畑や植林などの際の造成面とみられ、城郭遺構をどれほど反映しているかは不明である。

Ⅱの曲輪群からさらに西方、約 150m 地点に至ると、南北に細長く伸びる尾根に行き当たるが、その尾根の標高 313m 地点を中心としてⅢの曲輪群が築かれる。Ⅲの主郭は南北 30m、東西約 15m の楕円形を呈し、周囲は高さ６～７m と傾斜がきつく高い切岸で防御する。北と南の尾根続きは堀切で分断し、東西両側は幅の広い帯曲輪を巡らせている。特に南側は堀切を３本築いている。また東側の帯曲輪の縁辺部には一部土塁状の高まりなども見られる。主郭の北側にも、南北に細長い曲輪を置き、帯曲輪を巡らしている。最北部には方形の平坦面があるが、城郭に伴うものか否かは検討を要する。全長 100m を超え、Ⅰ～Ⅲの中の曲輪群では最も大きい。



第 21 図　平山城曲輪群Ⅰの堀切

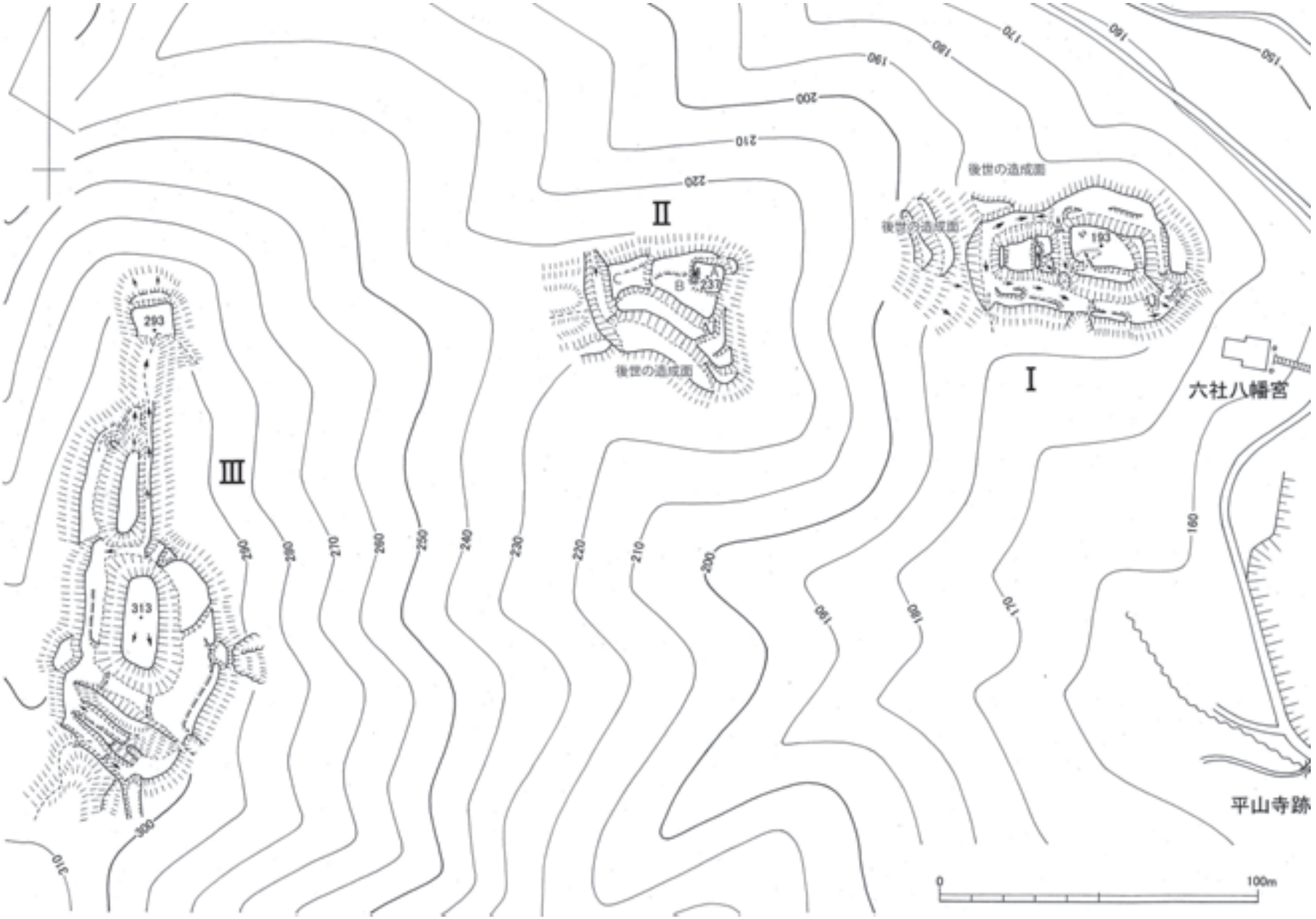


第 22 図　平山城曲輪群Ⅲの帯曲輪

このように、同一の尾根にⅠ～Ⅲの曲輪群が見られるが、規模こそ大小あるものの、曲輪の周囲に帯曲輪、堀切を巡らせる構造は同じであり、若宮地域通有の在地の城館の在り方に近いと言えよう。

【史料】なし

【参考文献】3,4,11,**20**,**192**




第 23 図　平山城縄張り図（事務局作成）

| 筑前 153 | 丸尾城（まるおじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　黒丸丸尾城 | 図幅名　脇田（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　宮若市黒丸・山口 | |

【沿革】宮若市黒丸、平山城の北、標高 326m の尾根の頂部に位置する。現地からは若宮の盆地を見渡すことができる。



第 24 図　丸尾城から眺める若宮盆地

電力会社の鉄塔建設に伴う発掘調査の際に、新たに発見された城郭で、地誌類等に記載は見られない。調査の際には大字名称と小字名称を採り、「黒丸丸尾城」としているが、ここでは小字名のみで「丸尾城」とする。しかし､厳密には小字名は「丸尾」ではなく、「蛇谷」のようであり、また西側半分は大字山口にあたるため、名称については今後検討を要する。

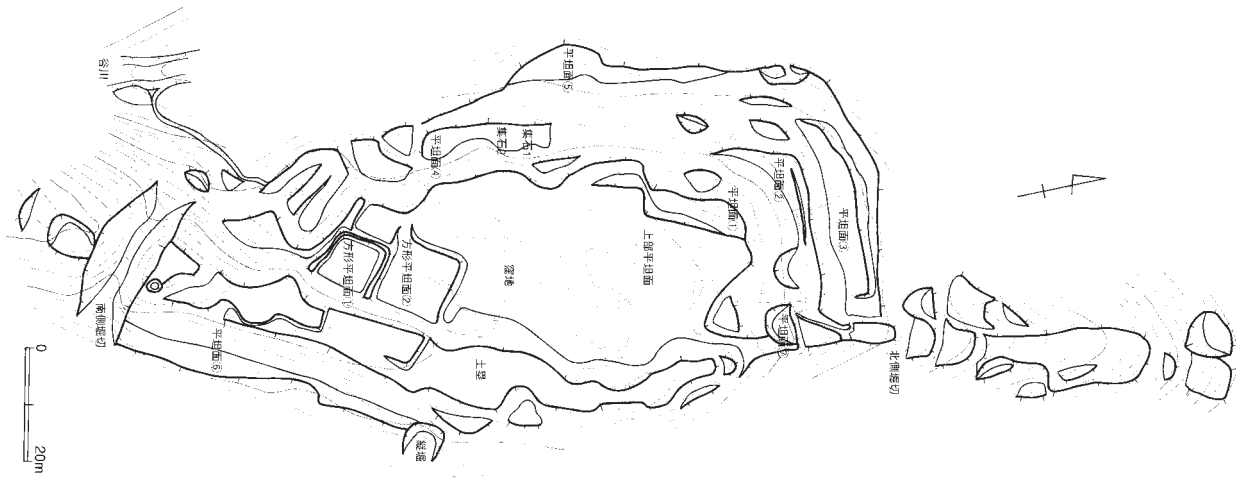


第 25 図　丸尾城南側堀切

【概要】南北約 50m、東西約 30m のやや大きめの平坦面を主郭とし、周囲に帯曲輪ともなる細長い平坦面を巡らし、東側には土塁状の高まりを持ち、南側の尾根続きは堀切で遮断する。堀切遺構等があるため、城郭遺構とみなすことには問題ないが、主郭に隣接して方形平坦面などが見られたり、焼土坑、集石遺構があり、各所で平安時代の須恵器や土師器、さらには室町時代の高麗の象嵌青磁なども出土しており、明らかに城郭が築かれる以前に祭祀場等、城郭以外の遺跡がこの場所に存在したことを示している。城郭以外の機能として使用されていた場所に、戦国時代になって城郭が築かれたと考えるのが妥当であろう。

現在現地には電力鉄塔が建ち、平坦面部分は不明瞭となっているが、堀切は良好に残存している。

【史料】なし　【参考文献】11, 20,**65**,**192**




第 26 図　丸尾城測量図（文献 65）

| 筑前 154 | 宮永城（みやながじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　雁城山城・繁木城 | 図幅名　脇田（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　宮若市宮永・山口 | |



第 27 図　宮永城遠景

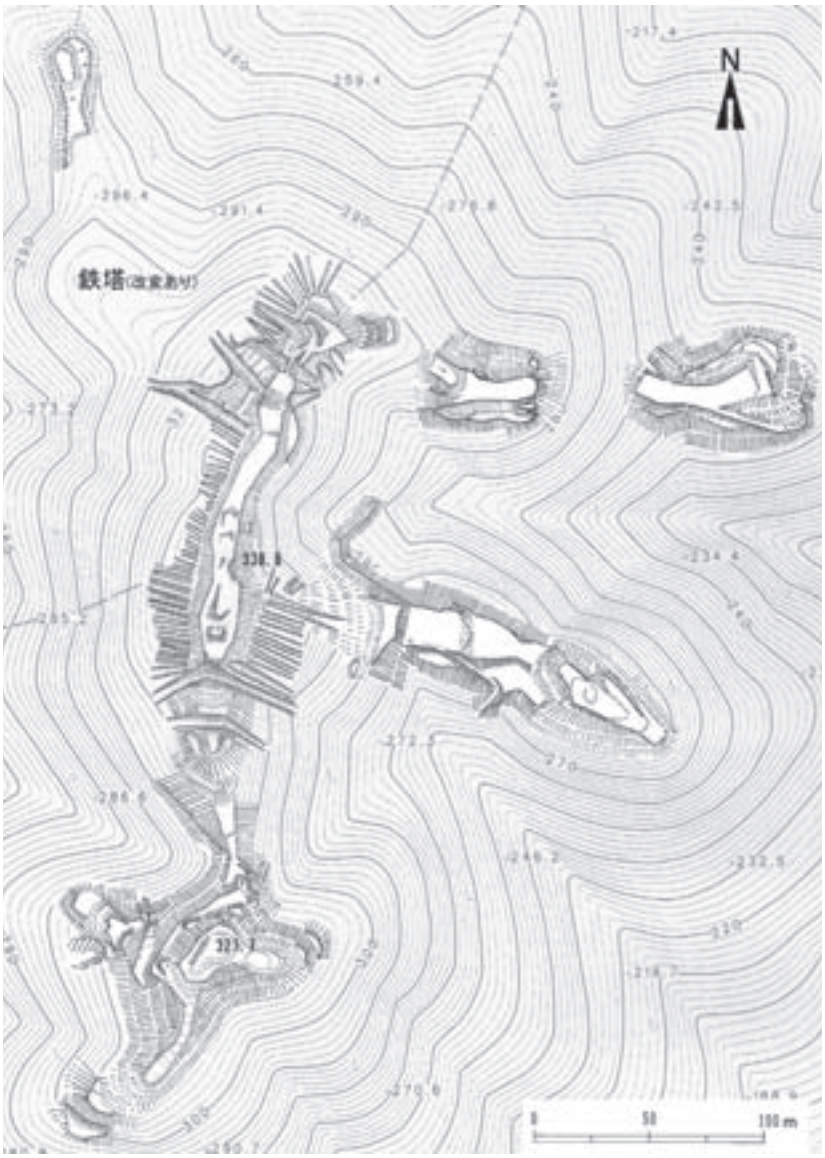
【沿革】若宮盆地北西部、靡山と共にひときわ目立つ山容を見せる雁城山頂に位置する。『筑前要領』（香月文書）には「宮永城代　吉田掃部介貞昌」とあり、『本編』には「宗像氏の端城にして、吉田杢之助という者、城番たりし」とある。『拾遺』には吉田杢之助が天正９年（1581）の小金原合戦に馳せ参じなかったことにより宗像氏貞に勘当されたことと、「竪に畔の如く堀下したり」と畝状空堀群の存在を記載している。『種々』には別称として「雁城山城、繁木城」を挙げ、城主を阿部氏とする。

【概要】雁城の山頂部に南北に細長い曲輪を置き、その周囲にくまなく畝状空堀群を配する。竪堀の数は 40 本を超える。その南側には堀切を２本設け、さらに南側のピークは、若干の人工的な造成加工が見られるが、明瞭な曲輪とはなっていない。また、東側の尾根上にも曲輪とみられる平坦面群が確認されるが、堀切などの防御遺構を確認することはできない。

地誌類の記載に、宗像氏の端城とあるように、宮永城は宗像氏の若宮地方進出の足がかりとして重要拠点であったとみられ、おびただしい数の畝状空堀群の存在はそれを示しているとみられる。

【史料】あり

【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,**11**,13,14,**20**,**192**,**210**




第 28 図　宮永城縄張り図（文献 210・藤野正人作成）

## 筑前 155　黒巣城（くろすじょう）

**郡名**　鞍手郡　　**別称**　畑黒巣城・黒烏城　　**図幅名**　脇田（東）
**種別**　山城　　**所在**　宮若市山口

【沿革】糟屋郡と鞍手郡の境に聳える西山から北西に延びる尾根の一角、標高 329m の頂部に位置する。『筑前要領』（香月文書）には「畑 ○黒巣城代　峯壮三郎」とする。『全誌』山口村の項には「黒烏城址」として「本畑の西二町にあり。東西五間、南北六間。五郎と云う人（姓不詳）守れりと云」とあり、城主名は異なるものの、黒巣城を指しているものとみられる。

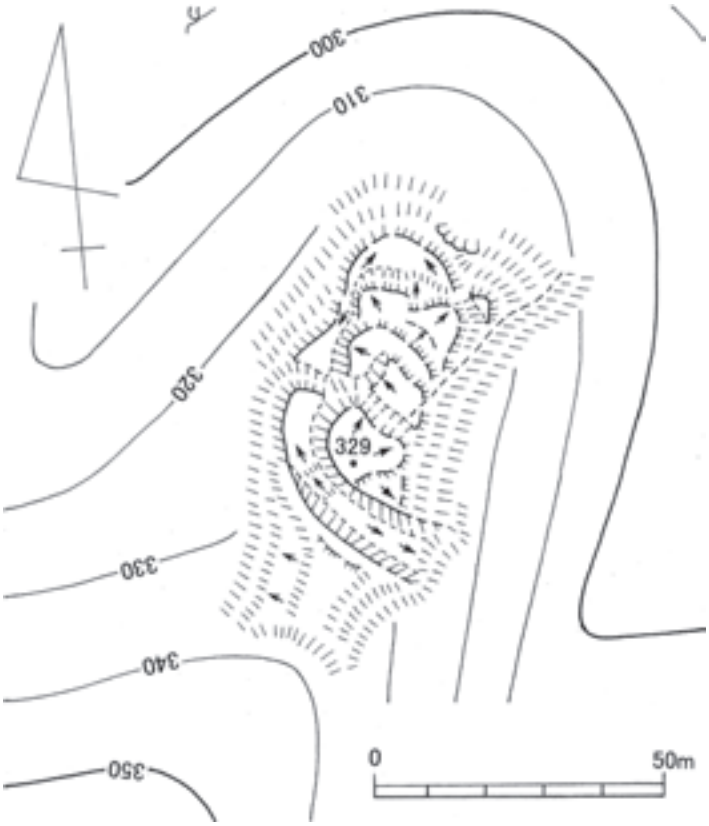
【概要】標高 329m の頂部の最高所に径約 10m の主郭を置き、その南側の尾根を幅 10m 近く、深さ２～３m の堀切で遮断する。主郭の北側には小規模な曲輪の平坦面が５段ほど展開する。堀切の西側は帯曲輪へと続いており、これらの曲輪群を囲い込む形状となっている。曲輪の平坦面は全体的に不明瞭である。

【文献】なし

【参考文献】4,8,9,11,13,20,192



第 29 図　黒巣城堀切




第 30 図　黒巣城縄張り図（事務局作成）

## 筑前 156　高丸城（たかまるじょう）

**郡名**　鞍手郡　**別称**　大谷城・鷹丸城・大谷高丸城　**図幅名**　脇田（東）
**種別**　山城　　**所在**　宮若市山口

【沿革】宮永城のある雁城の谷を挟んで北西約１km、高（鷹）丸山に位置する。『筑前要領』（香月文書）には「大谷 ○高丸城代　吉原源九郎、同栄田十郎宮代」とし、『全誌』では大谷城を別称とし、城主を小力又三郎とする。

【概要】高丸山がある山塊は、南側の標高 265m 地点が最高所で、県の分布地図などではここが城の推



第 31 図　高丸城（堀切から続く帯曲輪）

定地となっているが、そこには城郭遺構は存在しない。山塊の北東側の標高 248m 地点が半独立丘陵状の頂部となっており、その北東側の標高 241m 地点を中心に城郭遺構が位置する。略東西約 30m、南北約 10m の楕円形の主郭を置き、その南西側の尾根上には、主郭側で深さ 4 ～ 5 m の堀切を設けている。その堀切から帯曲輪が派生し、主郭の周囲を囲い込んでいる。

高丸城からは、宮永城など周辺地域の城郭はもとより、宗像郡の城山（蔦岳城）、遠賀郡の帆柱山・花尾山なども見渡すことができ、眺望を重視した結果の立地であることが推測される。




第 32 図　高丸城縄張り図（事務局作成）

【文献】なし　【参考文献】4,8 ～ 11,13,14,20,192

## 筑前 157　岡田城（おかだじょう）

**郡名**　鞍手郡　　**別称**　なし　　**図幅名**　脇田（東）
**種別**　山城　　**所在**　宮若市山口

【沿革】高丸山から北へ派生する尾根上の標高 161m 地点に位置する。『筑前要領』（香月文書）には「岡田城代　占部十郎　林弥左衛門」とするが、『全誌』では井原磯松の居城としている。

【概要】尾根上に約 10m × 30m の長方形の主郭を置き、その北東側と南西側の尾根上を堀切で遮断している。主郭の両側には不明瞭ながらも帯曲輪が若干確認できる。主郭以外には曲輪はなく、非常に小規模な城館である。

【文献】なし

【参考文献】4,8 ～ 11,13,20,192



第 33 図　岡田城遠景




第 34 図　岡田城縄張り図（事務局作成）

| 筑前 158 | 尾園本城（おぞのほんじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　尾園城・宮山城 | 図幅名　脇田（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　宮若市山口 | |

【沿革】山口八幡宮の裏、標高 126m の丘陵頂部に位置する。『筑前要領』（香月文書）では「尾園本城　尾園加賀守 三ヶ所城アリ」とされ、尾園加賀守に関わる城が本城の他に２～３箇所存在することを示している（他の城は未確認）。一方『全誌』山口村の項には「宮山城址」として「宗像の臣、柴田左京居城なり」とする。

【概要】一辺 20 ～ 30m の方形を基調とした主郭を置くが、北西側の一角のみ方形基壇状に高まりとなっている。そこには明治時代に建てられた「尾園氏古城址之碑」が建つ。主郭の北西側と南東側に堀切が設けられ、深さは約３m を測る。堀切からさらに主郭の周囲にかけて帯曲輪が派生し一部横堀状になるが、主郭の南側の角部分には低土塁が設けられ、堀切の堀底からそのまま帯曲輪へは回り込みにくいような工夫がなされている。同様の防御は、高丸城（筑前 156）にも見られる。

また、北東側斜面には造成により平坦面が築き出されているが、城郭遺構ではないとみられる。




第 35 図　尾園本城縄張り図（事務局作成）

なお、尾園本城のある丘陵の北側は、九州自動車道建設に伴い、「遠園遺跡」として発掘調査が行われ、12 世紀代を中心とした掘立柱建物群や多くの陶磁器類が出土している。

【史料】なし　【参考文献】4,8 ～ 11,13,**20**,55,**192**

| 筑前 159 | 山下城（やまじたじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　なし | 図幅名　脇田（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　宮若市山口 | |

【沿革】尾園本城の約 300 ～ 400m 南、谷を二つ挟んだ尾根の先端上部に城郭遺構が存在する。『筑前要領』（香月文書）には「山下城代　奥主膳正」とあるが、『全誌』には「村の北にあり（中略）宗像の臣、金子又三郎居れり」とする。山下と奥は現在でも近隣の小字に残る。

【概要】尾根の先端部、標高 117m 地点に径約 15m の不整円形の主郭を置き、その南北の尾根上に堀切を設ける。南側の堀切は深さ３～４ｍもあり、主郭の大きさに比べて規模が大きい印象を受ける。

それらの堀切からは主郭の周囲にかけて帯曲輪が派生する。

『全誌』では城の規模を「東西十間､南北二十一間」としており、この城とは別の城を指している可能性も考えられる｡山下地内には、他にも中尾城（筑前 161）も想定されており、この城がそちらの可能性であることも考えられる。

【史料】なし

【参考文献】

4,5,8 ～ 11,13,20,192



第 36 図　山下城堀切




第 37 図　山下城縄張り図（事務局作成）

## 筑前 160　茶臼山城（ちゃうすやまじょう）

郡名　鞍手郡　　別称　茶臼岳城・茶臼城　　図幅名　脇田（東）
種別　山城　　所在　宮若市山口

【沿革】宮永城のある雁城から北東へ派生する尾根上で、山口川に面した先端部に位置する。『筑前要領』（香月文書）は、「山口村茶臼岳城代　森備中守」とし天文 11 年（1542）に大友方により落城したとする。その一方で、『全誌』は「茶臼山城址」として「宗像大宮司の臣、峯弥三郎なり」とある。『筑前要領』では黒巣城代が峯荘三郎となっており、どちらかが誤伝の可能性も考えられる。

【概要】半独立丘陵状を呈する標高 154m の頂部に南北約 50m、




第 38 図　茶臼山城縄張り図（事務局作成）

東西約 30m の主郭を中心に城域が展開しているが、後世の畑造成とみられる改変を受けており、階段状の平坦面が丘陵全体に残されている。ただし、山頂部の平坦面の南北両側 A・B には、堀切を確認することができ、A と B とで囲まれた空間については、中世城郭が存在した空間であることは間違いないようである。その外側の階段状の造成については、城郭遺構とみる向きもあるが、現段階においては城域と断定することはできない。



第 39 図　茶臼山城遠景

なお、茶臼山城から北東約 300m 地点の尾根上は、九州自動車道建設に伴い、福岡県教育委員会により発掘調査が行われ、丘陵裾部を取り巻くように土塁と堀状遺構が確認され、「茶臼山城跡」の一部とされている。しかし、主郭からは遠く離れた箇所にあり、また堀状遺構に隣接して曲輪や建物などの遺構・施設が確認できないこと、さらには堀状遺構が一部農道と重複していることなどから考えると、後世の山道遺構である可能性が高く、城郭遺構と認識することはできない。



第 40 図　茶臼山城堀切 A

【史料】なし　【参考文献】4,5,7 ～ 9,**10**,11,13,14,20,55,192

| 筑前 178 | 鬢鏡山城（びんかがみやまじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　勝山城 | 図幅名　直方（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　宮若市金生 | |

【沿革】金生集落の南、白山から北西に延びる尾根の頂部、鬢鏡山山頂に位置する。『拾遺』「金生村古城」には「鬢鏡と云茅山有。是も城跡と見へたり」とある。『全誌』には「勝山城址」として「幸山の東、鬢鏡山の頂にあり。平地三間許、堀切の址あり。有吉三郎と云者居たりと云」とする。ただ、『拾遺』には「幸山の西南の竹山を勝山と云。此頂にも切ならせる所有。」とあり、金生城（筑前 179）のある場所を勝山と呼んでおり、検討を要する。

【概要】鬢鏡山山頂（標高 203m）には、慶応 3 年の五穀神の石碑などが建つが、そこに径約 30m のあまり平坦ではない主郭を置き、その南側の尾根上に堀切 1 本を設ける。堀切の深さは約 1 m である。

【史料】なし【参考文献】3,4,8,9,11,192




第 41 図　鬢鏡山城縄張り図（事務局作成）

| 筑前 179 | 金生城（かのうじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　旗山城・白旗城 | 図幅名　直方（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　宮若市金生 | |

【沿革】金生集落の南に聳える白山（標高 246m）の南西側約 150m の高山（幸山）山頂（標高 227m）に位置する。『本編』『附録』『拾遺』は「金生村古城」として、幸山（現在の白山のことか）山頂およびその周辺を城地とする。『附録』では幸山山頂を本城とし、山内の赤寺（場所不明）にも城跡があるとする。『筑前要領』(香月文書)では「金生村旗山城城主　入田勝全入道」とし、『本編』と同様の城主名を記載する。『全誌』では城主を入田将監（勝全或は氏勝とも）とする。『種々』では「旗山城址（黒瀬氏、入田氏)」と記載し、文献 14 では「白旗城」として記載する。



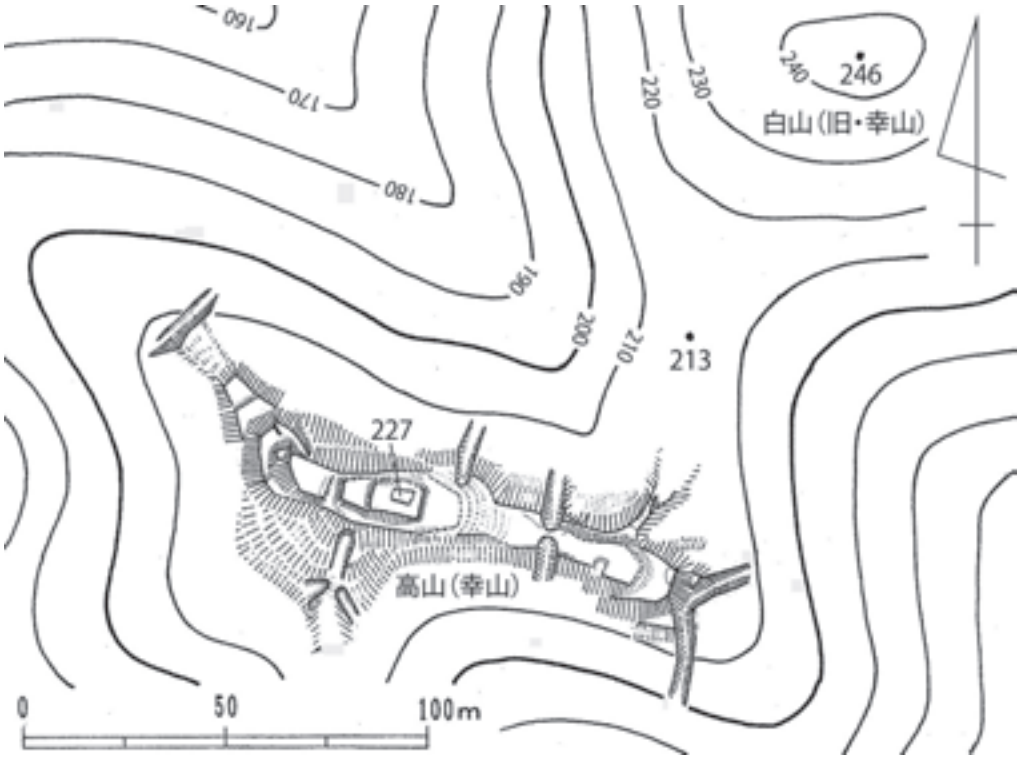
第 42 図　鬢鏡山城（左）・金生城（右）遠景

【概要】東西に延びた尾根上を約 100m にわたって幅約 20m の曲輪群が並列し、曲輪群の端部を中心に竪堀および堀切を設けて防御する。山の最高所からは近いにもかかわらず、最高所は自然の平坦地形のままの状況とみられる。金生は中世、金生庄が置かれた地であり、大内氏、大友氏が深く関与した地であって、また周辺の城よりも比高も高く、規模も大きいことから、金生庄のおさえの城として重要視されたものとみられる。

【史料】なし

【参考文献】

1 ～ 5,7 ～ 9,11, 13,192




第 43 図　金生城縄張り図（藤野正人氏作成・提供）

| 筑前 182 | 龍ヶ岳城（りゅうがだけじょう／たつがだけじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　鶴岳城・龍徳城・粥田城 |
|---|---|---|---|
| | | 図幅名　直方 ( 西 / 東 ) | 種別　山城　　所在　宮若市龍徳 |

【沿革】六ヶ岳から南東側に派生する尾根の支峰の一つ、龍ヶ岳に位置する。地誌類などには大内氏家臣の杉氏が糟屋郡高鳥居城（筑前 283）と共に代々の居城とし、城主に興行、忠重、連並などの名を挙げている。また、秋月氏の持ち城の一覧を記した『覚書』には竜ヶ岳として坂田蔵人、深見駿河の城主名を挙げている。別称については『拾遺』では里民は「鶴岳城」というとするが、『福岡県の城』掲載の龍徳城、粥田城については出典は明確ではない。

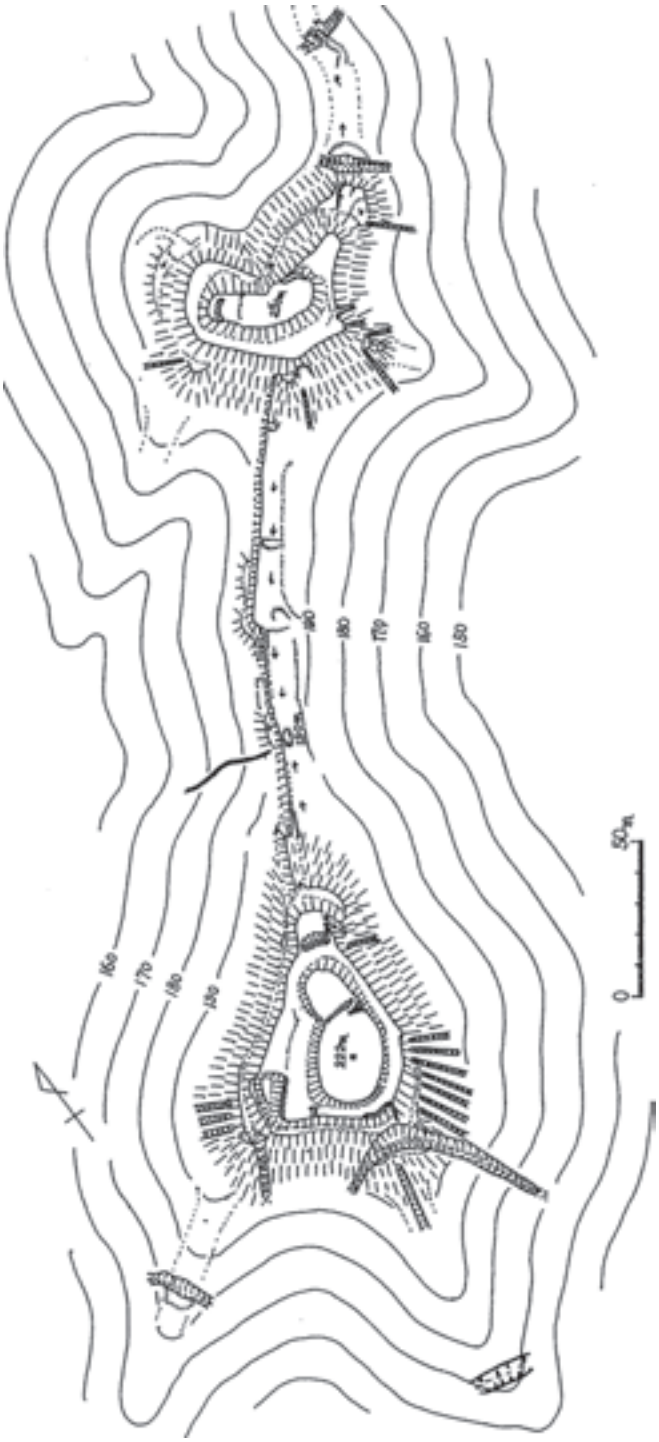
【概要】龍ヶ岳は北と南の二つの峰からなり、双方の頂部を中心に曲輪群が展開する。北側の峰（標高 230m）は、「二の丸」と伝わるが、南の峰より標高が高く、本来主郭として機能したとみられる。主郭の曲輪には土塁が一部見られ、周囲に帯曲輪を巡らし、北側と東側の尾根に堀切を設ける。南の曲輪群へ続く尾根上は緩斜面でつないでおり、西側斜面に切岸で防御する。北と南の曲輪群を一体化するための造作であろう。

一方、南側の峰（標高 222m・伝本丸）の曲輪群もまた主郭周囲に帯曲輪や横堀を巡らし、南側の斜面を中心に堀切、畝状空堀群で防御する。

以上のように、南北約 250m にわたって城域としているが、龍ヶ岳城の南麓の頂部には祇園岳城（筑前 183）、さらに麓には町屋敷、辻屋敷、門ノ内などの小字が残る。『拾遺』には東麓に御館、表口、裏口、門内などの地名、北側の下新入側にも宅跡らしき地もあるとしていることから、



第 44 図 龍ヶ岳城・祇園岳城遠景



第 45 図　龍ヶ岳城縄張り図（文献 196・片山安夫作成）

城の周囲の麓に屋敷群の存在が想定される。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 9,**10**,**11**,13,14,**18**,**196**

| 筑前 183 | 祇園岳城（ぎおんだけじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　なし | 図幅名　直方（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　宮若市本城 | |

【沿革】龍ヶ岳城から南西側に下った標高 152m の頂部に位置する。『本編』では杉太郎兵衛が在城したとし、『拾遺』では本来、杉氏はこの城を本城とし、後に龍ヶ岳城に移ったのち、城番として杉太郎兵衛を置いたと推察している。『筑前要領』（香月文書）でも城代を杉太郎左衛門とする（文献 13 は「右衛門」と誤読か）。

【概要】標高 152m の頂部に南北約 50mの主郭を置き、そこを中心に南北約 150m にわたって 10 近くの曲輪を配置する。主郭の南側は縁辺部に土塁を添わせて通路状としている。それらの曲輪群の周囲には約 80 本にも及ぶ膨大な数の畝状空堀群と尾根上には連続堀切群を設け、周囲の斜面を厳重に防御する。龍ヶ岳城よりも厳重な防御の在り方を看て取ることができる。

なお、祇園岳城の南東側、県道 21 号線を挟んだ標高約 50m 地点の頂部は字「城」といい、平坦面群と二重の堀状遺構が見られ、城郭遺構ともみられている（文献 218。文化財番号は 410415 で城郭（名称なし）として登録している）。しかし、後世の耕作による造成が大々的に入っており、城郭遺構と即断することはできず検討を要する。



第 46 図　祇園岳城縄張り図（中村修身作成・提供）



第 47 図　祇園岳城堀切・畝状空堀群

【史料】なし

【参考文献】

1 ～ 9,**10**,**11**,13,14,18,**178**

## 筑前 191　鷹取城（たかとりじょう）

**郡名　鞍手郡 / 豊前国田川郡　別称　高取（山）城･鷹取山城･高鳥居城　図幅名　金田（西）**
**種別　山城　　所在　直方市永満寺・頓野・田川郡福智町上野**

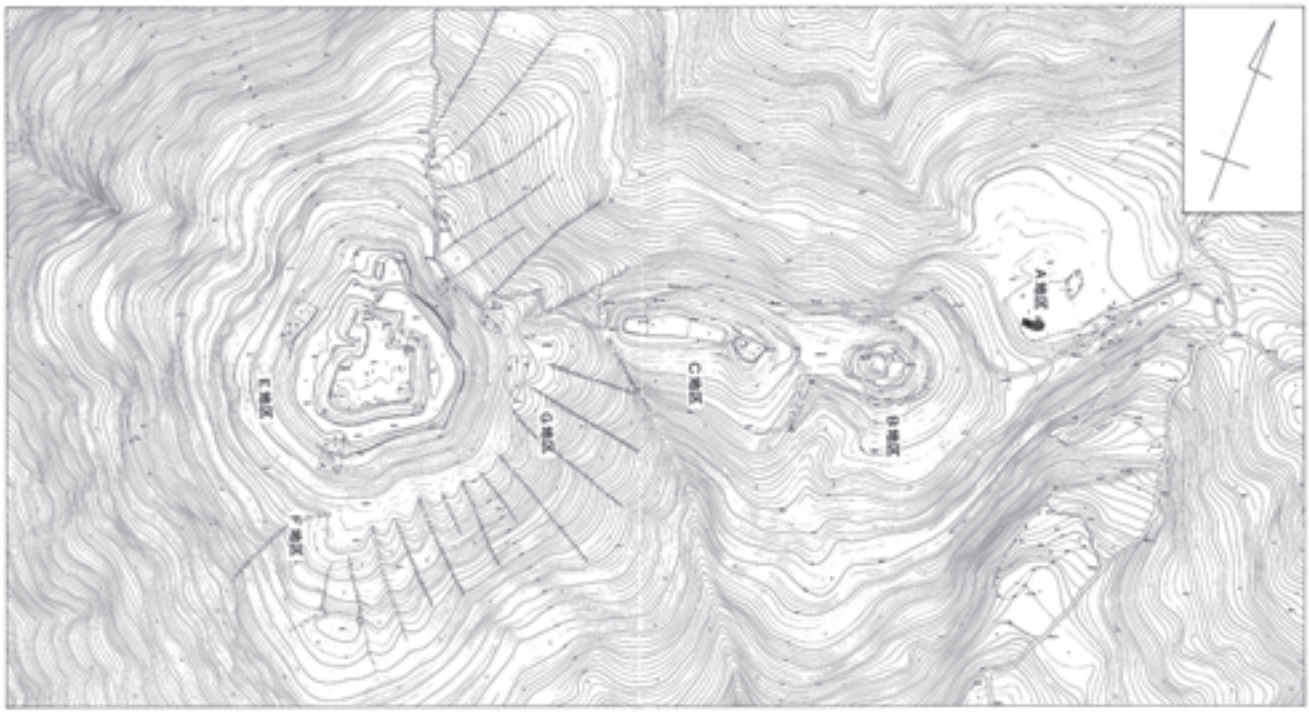
【沿革】豊前と筑前との境に聳える福智山（標高900m）から西へ延びる支峰・鷹取山山頂（標高633m）に位置する。鷹取山山頂も、豊前と筑前との境にあたる。築城は、永承元年（1046）頃、長谷川吉武の家臣永井宗久によると伝えられ、天正年間には大友方の毛利鎮実などが在城した。慶長６年（1601）､黒田長政が筑前に入部すると、重臣母里太兵衛が一万四千石の禄をもって入城する。いわゆる「筑前六端城」の一つに数えられる。慶長 11 年には後藤又兵衛に代わって、母里太兵衛は益富城主となるため、鷹取城には手塚光重が入城する。元和の一国一城令により破却され、廃城したとされる。



第 48 図　鷹取城遠景（雲取山山頂から）




第 49 図　鷹取城縄張り図（文献 180・木島孝之作成）




第 50 図　鷹取城測量図（文献 62・1/3,500）



第 51 図　鞍手郡頓野村鷹取山古城図（部分・国立公文書館蔵）

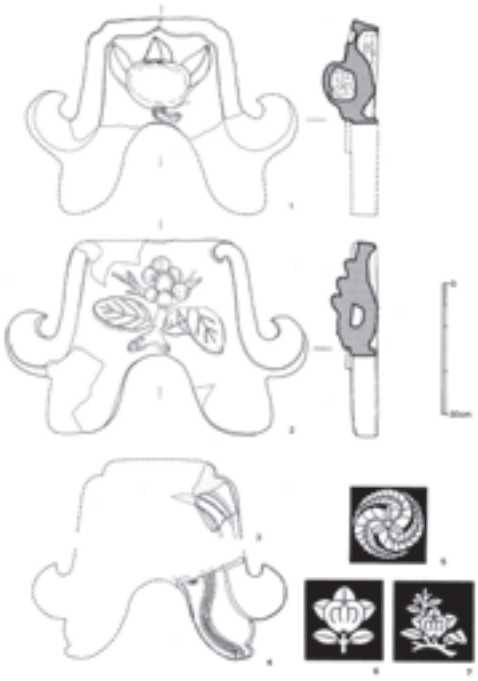
【概要】城は大きく、山頂部を中心とした主郭部（本丸）、東側尾根の曲輪群（二の丸）、北側尾根の曲輪群に分かれるが、主郭部以外の曲輪群については一部に横堀などが見られる以外は、防御面はかなり弱い。その一方、主郭部には様々な防御遺構等が見られる。

主郭部の北側から東側にかけての斜面、つまり福智山側には、約 20 本の畝状空堀群が構築される。竪堀の幅が 10m 前後あって非常に規模の大きなものとなっている。これは戦国期、特に天正年間の改修によるものとみられ、非常に防御性の高いものとなっている。

一方、主郭部の曲輪上は総石垣や枡形虎口などが見られることから、黒田氏入部後の織豊系の築城技術によるプランである。主郭部は発掘調査が行われており、その様相はより明らかとなっている。




第 52 図　鷹取城主郭部測量図
（文献 62 掲載図を一部改変して事務局作成）



第 53 図　鷹取城出土鬼板瓦（文献 60）




第 54 図　鷹取城発掘調査状況写真（直方市教育委員会提供）
（1：西口城門、2：南口城門、3・4：礎石建物）

主郭部は上下二段の曲輪で構成されており、それぞれ 2 箇所ずつの虎口が設けられ、曲輪の縁辺部は総石垣で固められている。曲輪の塁線は要所要所で直角に屈曲したり、横矢の張り出しが設けられる。虎口は、上段の 2 箇所（東口城門・西口城門）が防御性の高い内枡形虎口であるのに対し、下段の 2 箇所（南口城門・永満寺口城門）は出撃性の高い外枡形（嘴形）虎口となっており、曲輪ごとに明確な機能分化がなされていることが指摘されている（文献 180）。石垣は約 5 m

の高さを持つが大半が上半分以上崩壊しており、廃城時の破却によるものとみられる。上段の曲輪の塁線上には東面と南面に一列、部分的に二列の礎石列が並んでおり、多聞櫓が想定される。さらに南西隅には４間×６間と想定される礎石建物が検出されており、大型櫓建物が置かれていた。出土遺物には、鬼板瓦のほか、大量の瓦があり、主郭部の建物は瓦葺きであったとみられる。

このように鷹取城は、主郭部を中心に黒田氏時代の織豊系城郭の築城技術が確認できる箇所と、その周辺の畝状空堀群に代表される戦国期城館としての特徴の双方を残しているといえる。

また、鷹取山の城下には「鉄砲町」「町屋敷」「横町」などの字が残ることから、黒田氏の時期には、士分の屋敷や町家などの城下が形成されていたことが想定される。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 9,**10**,**11**,13 ～ 15,**58 ～ 62**,**178**,**180**,**193**

**筑前 192　雲取山城（くもとりやまじょう）**　**郡名　鞍手郡　別称　雲取城　図幅名　徳力（西）**
**種別　山城　所在　直方市上頓野・頓野**

【沿革】鷹取山から内ヶ磯の谷を挟んだ北側に聳える雲取山（標高 606m）山頂およびそこから西へ延びる尾根上に位置する。地誌類の多くには、雲取山にあり、永禄・天正年間に麻生鎮益が在城したことが記される。文献 13 では「古書」からの引用として、畑城の香月興則が築城し、家臣の麻生三河守鎮益を置くが、大友方に寝返ったため、香月興則は鎮益を捕え、髻の砦守・上杉興房を新たな城主にしたとする。

【概要】城があるとされる雲取山山頂部分は十数 m 前後の広さの平坦地形が見られるばかりで、積極的に曲輪を造り出している様子は見受けられない（第 55 図）。山頂の北側には若干の人工的な造成による平坦地形があり、曲輪とみられるが、堀切などの明瞭な防御遺構は確認することはできない。



第 55 図　雲取山城（山頂部）縄張り図（事務局作成）


第 56 図　雲取山城・山ノ田城遠景


第 57 図　雲取山城（標高 444m 地点）堀切

その一方で、山頂から西へ延びる尾根線上に城郭遺構を確認することができる。山頂から約 500m 西にあたる標高 444m 地点（通称五合目）を中心とした一角に曲輪群が見られる（第 58 図）。10 ～ 20m 規模の曲輪が 4 箇所ほど並列し、80m にわたり尾根上に展開する。その曲輪群の前後を堀切 1 本ずつで防御する構成となっている。標高 444m 地点を中心とする曲輪群は雲取山山頂の曲輪群よりも規模が大きい。雲取山城の主体的な場所は、山頂よりもむしろこちらの方である可能性が高い。



第 58 図　雲取山城（標高 444m 地点）縄張り図（事務局作成）

また、ここからさらに西に 1 km 先にある山ノ田城（筑前 193）も同一の尾根続きにあり、また山ノ田城は全く伝承等に出てこない城であるため、雲取山城の一部と捉えることもできよう。以上のように雲取山城は山頂部とそこから西へ延びる尾根線上の各所に曲輪群が分散する構成となっていることがわかる。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 11,13,15

**筑前 193　山ノ田城（やまのたじょう）**　**郡名　鞍手郡**　**別称　なし**　**図幅名　徳力（西）**
**種別　山城**　**所在　直方市上頓野**

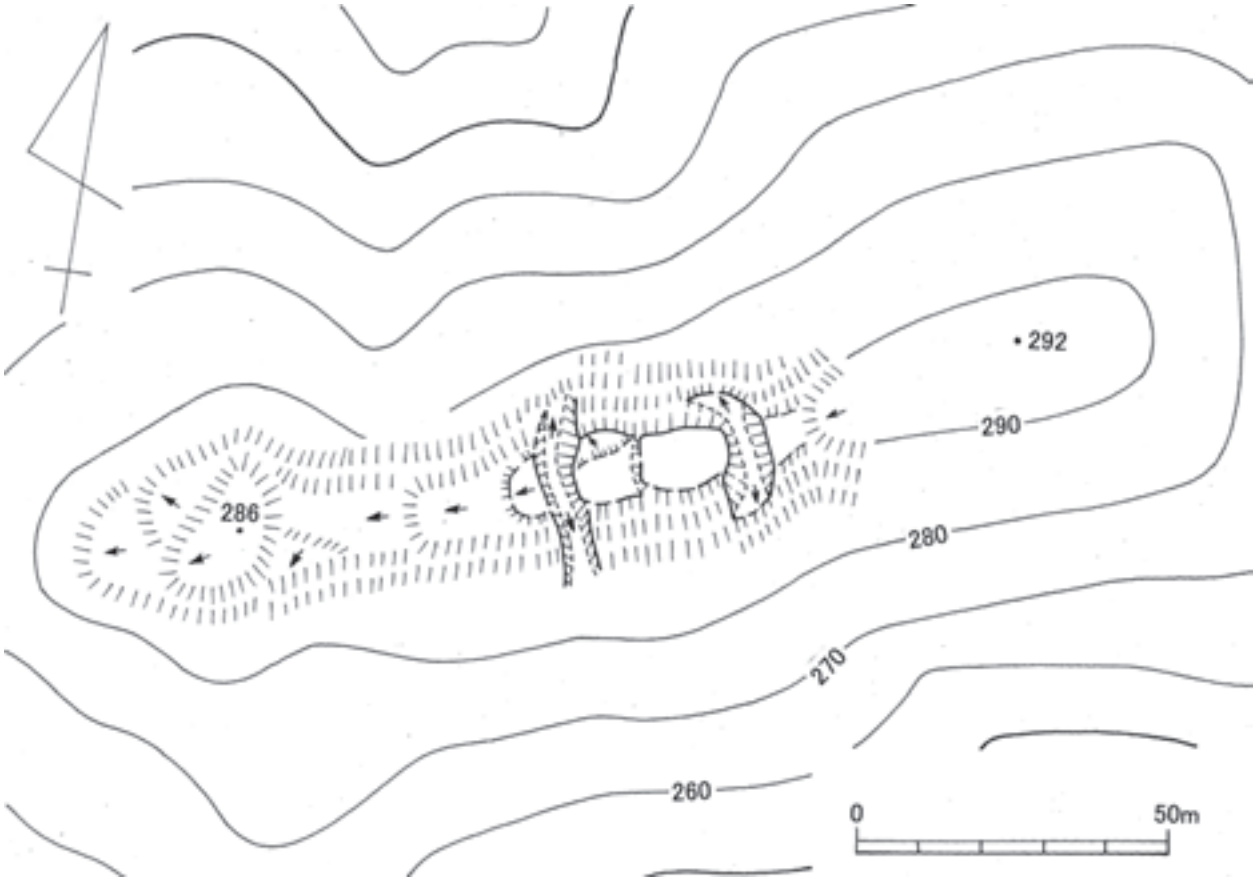
【沿革】雲取山山頂から西へ尾根線を約 1.5km 進んだ半独立峰の頂部に位置する。直方市の分布調査によって初めて確認されたもので、字名を採り、「山ノ田城」として周知化されている。地誌類などに明確な記載は見当たらない。


第 59 図　山ノ田城堀切

【概要】城がある丘陵頂部は約 200m に渡って平坦な地形が広がっているが、城郭と認識することができるのは、堀切と堀切に挟まれた約 50m の範囲にとどまる。堀切は深さ 1 m 前後とあまり深くはなく、曲輪も 10m 四方の規模のものが 2 段あるばかりである。

立地から見て、雲取山城の一部とみることもできるが、その一方で、文献 13 には「古書」からの引用として鷹取城と雲取山城との攻防戦の中で、畑城主香月興則は「辻ヶ城」を新たに築城して、家臣秀俊を置き、鷹取城に拠る大友方の北進を防いだとある。可能性としては山ノ田の城郭遺構が

「辻ヶ城」かもしれないが、確証にかけるため不明と言わざるを得ない。
【史料】なし　【参考文献】227




第 60 図　山ノ田城縄張り図（事務局作成）

**筑前 194　髻砦（もとどりとりで）**　　**郡名　鞍手郡**　　**別称　元取城**　　**図幅名　徳力（西）**
**種別　山城**　　**所在　直方市上頓野**

【沿革】直方市上頓野の尺岳川の北にある半独立峰の元取山山頂（標高 206m）に位置する。文献 13 には「古書」からの引用として、畑城主・香月興則方にあった上杉興房が髻の砦守であった記載が見られる。
【概要】山頂周辺には全長 10m 未満の小曲輪が 5 つほど階段状に展開するばかりで堀切などは見られない。ただ、周辺は全くの自然地形で、かつ切岸も明瞭にあることから、城郭遺構と考えられる。

なお、文献 13 記載の「古書」に




第 61 図　髻砦縄張り図（事務局作成）

は髻の砦のほか、城の腰の砦（笹岡某）や辻ヶ城（秀俊）などの城砦名が見られるが、近辺に所在するものとみられるものの、詳細は全く不明である。また、西側の麓は藤田丸の地名を残すが、『全誌』「上頓野村」には「御立城（おたつじょう）」に「麻生藤田丸墓」があるという記載があるが、砦との関連は不明である。

【史料】なし 【参考文献】11,13,15

| 筑前 196 音丸城（おとまるじょう） | 郡名 鞍手郡 | 別称 音丸山城 | 図幅名 中間（西） |
|---|---|---|---|
| | 種別 丘城 | 所在 鞍手郡鞍手町新北 | |

【沿革】六ヶ岳の山塊の北側、新分天満宮がある音丸山の小丘陵上に位置する。新北の熱田神社に伝わる金川文書の「続風土記附録御調子書上帳」(註)（文政３年（1820）・文献 57 所収）には「一　音丸山と申所ニ古城と申し、従以前唐堀等御座候而、只今は山上ニ天満宮ヲ祭居申候、何某の城と申儀相分不申候」とあり、城郭の認識はあったことがわかる。



第 62 図　音丸城縄張り図
（文献 57 掲載図面と現地調査を元に事務局作成）

【概要】現在、天満宮がある丘陵頂部（標高 42m）に南北約 40m、東西約 20m の主郭を置き、周囲に横堀と土塁を巡らせる構造を呈する。土塁の外側は耕作等による後世の改変が激しく、往時の状況を確認するのは困難であるが、昭和 51 年に九州自動車道建設に伴い、主郭の南側の発掘調査が行われ、尾根の鞍部に幅５～ 10m、深さ 1.5 ～ 2.5mの空堀を確認している。調査区外の路線地内にもトレンチを入れているが、部分的であり、14 ～ 15 世紀代の五輪塔を伴う集石遺構が確認されるのみで、検出された堀のプランが主郭を巡る横堀か、尾根を断ち切る堀切だったのかはよくわからないが、主郭の周囲を巡る横堀のさらに外側に埋没遺構が存在する可能性が考えられる。

【史料】なし

【参考文献】８～ 11,16,57

【註】「続風土記附録御調子書上帳」は、青柳種信が『拾遺』編纂にあたって各町村寺社に提出を求めさせた報告書（書上）で、新北村の書上帳は福岡県立図書館が所蔵する『筑前町村書上帳』には含まれておらず、当資料は作成した村に保存分として残されたとみられる。


第 63 図　音丸城横堀（現存）


第 64 図　音丸城横堀（1976 年調査）
（文献 57 から転載）

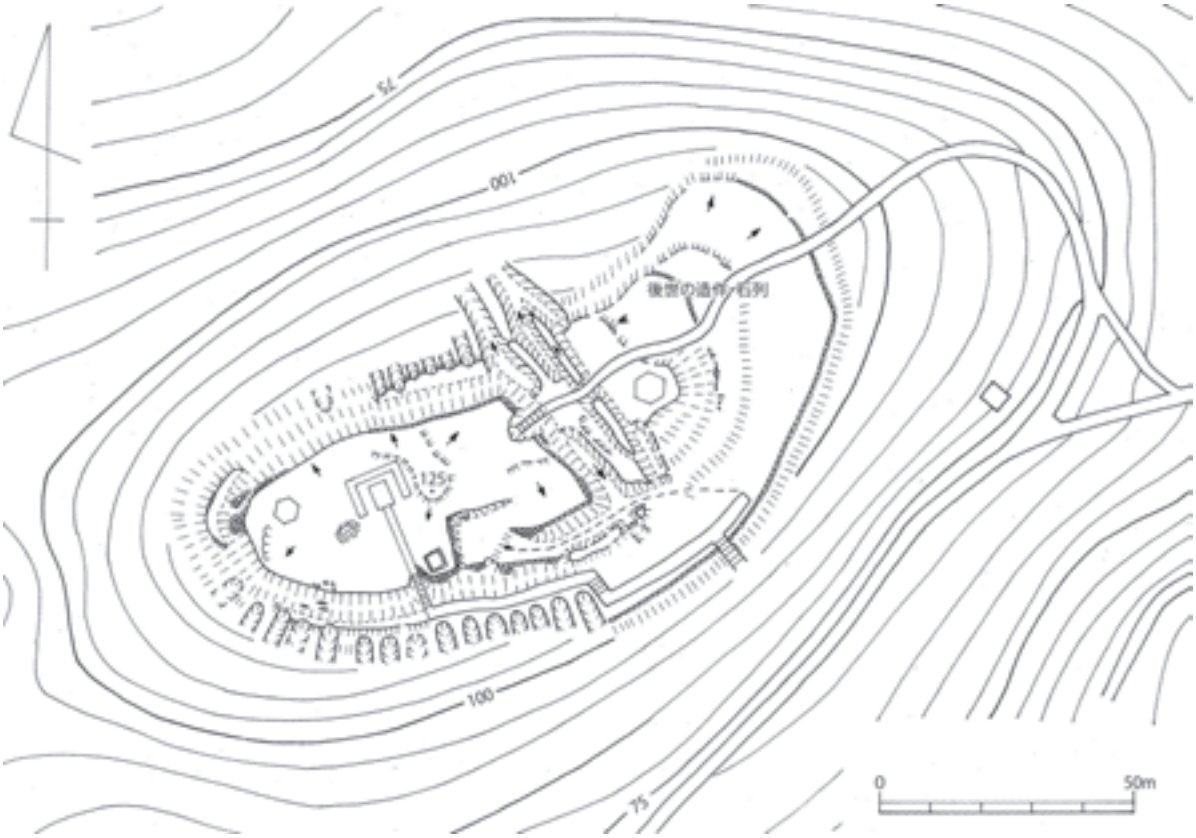
| 筑前 197 剣岳城（つるぎだけじょう） | 郡名　鞍手郡 | 別称　尾山城･中山城･剣（山）城 | 図幅名　中間（西） |
|---|---|---|---|
| | 種別　山城 | 所在　鞍手郡鞍手町中山・新北 | |

【沿革】六ヶ岳の北約３km、剣岳山頂（標高 125m）に位置する。『拾遺』には応仁年間に梅野土佐が居城を築いたとし、文明年間に宗像氏の出城として野中勘解由が守備したとする。その後、空城となっていたものを秋月氏家臣の跡部安芸守が入ったとある。『覚書』には剣山として重松駿河の城主名が見られる。

【概要】剣岳山頂には南北約 30m、東西約 50m の主郭が置かれ、平坦地形が続く東側には２本の堀切を設けて侵入を遮断する。堀切より東側は平坦地形だが、後世の造作地形しか確認できない。

また曲輪の周囲には南北側の斜面に畝状空堀群が構築される。一つ一つの竪堀の規模はさほど大きくなく、長さも短いが、本数は 20 本前後に上る。また、曲輪の縁辺部には石垣が確認でき、主郭南東隅には枡形を呈した出入り口が石垣により構築される。『附録』や『拾遺』の記載に「石壁」として記載されているのはこれらの石垣を指しているものと考えられるが、堀切や畝状空堀群などのように遮断を主目的とする防御遺構に、枡形虎口のような導入させるための防御遺構を組み合わせる事例は北部九州ではほとんど見られず、城郭遺構とするにはさらなる検討が必要である。また、『本編』には八劔神社上宮は寛永２年（1625）まで剣岳山頂にあったとするため、廃城後に置かれた上宮に伴う石垣とも考えられる。ただ、曲輪西側の石垣などは神社とは直接関係のない位置にあるため、城郭に少しは石垣が伴っていた可能性も考えられる。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,**11**,13,14,16,**187**,**209**




第 65 図　剣岳城縄張り図（文献 209・岡寺　良作成）

## 筑前 198　城腰山城（じょうのこしやまじょう）

**郡名**　鞍手郡　**別称**　腰 ( 越 ) 山城・新町城　**図幅名**　中間（西）
**種別**　山城　**所在**　鞍手郡鞍手町新延

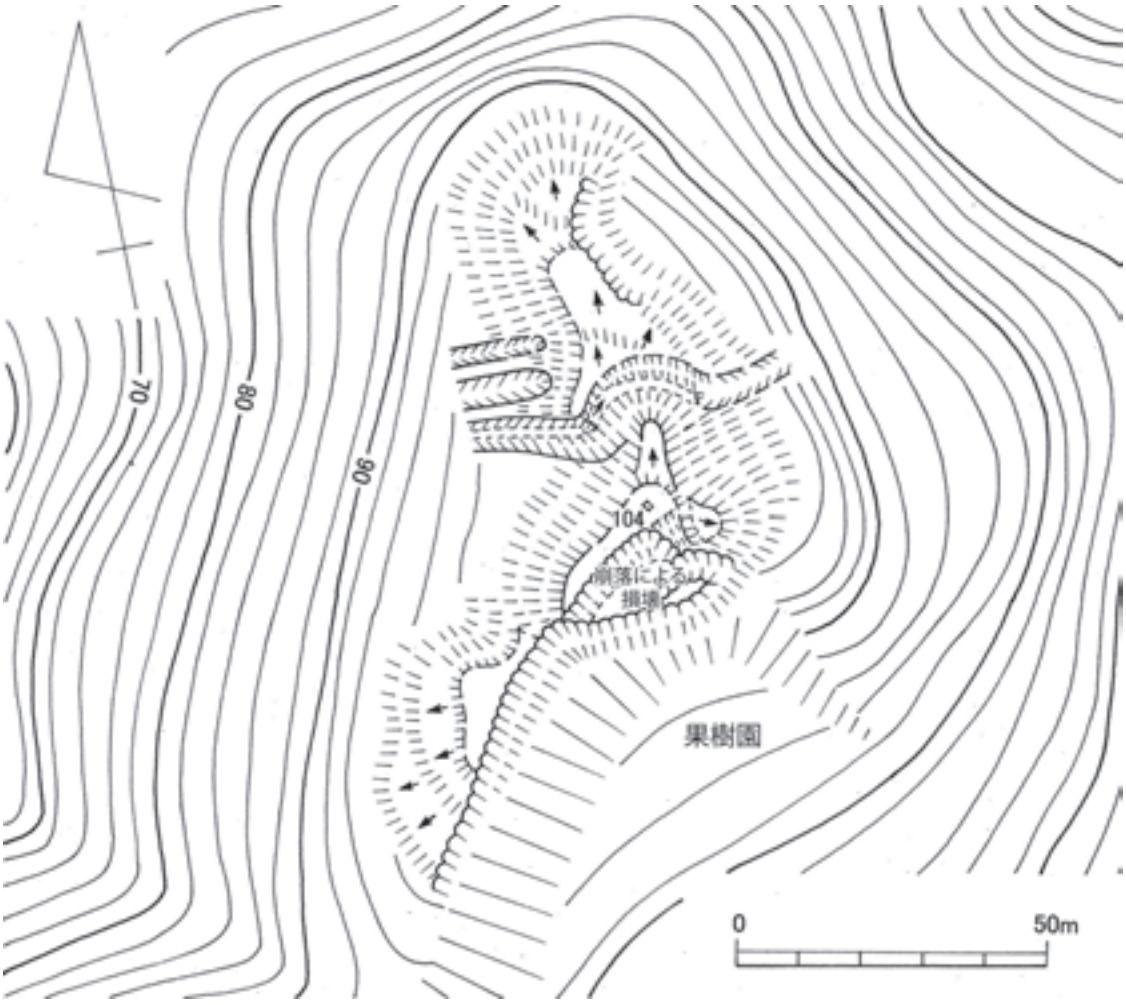
【沿革】宮若市との境にほど近い鞍手町新延の福地山と呼ばれる丘陵端部の頂部に位置する。『附録』には大友氏家臣の野中勘解由の居城とする。野中勘解由は剣岳城の城主としても名前が挙がる。文献 14 には新町城という名称で記される。



第 66 図　城腰山城遠景

【概要】福地山山頂（標高 104m）に主郭を築くが、曲輪の南側は果樹園造成により失われ、なおかつ主郭の南半部も近年の自然崩落による損壊により失われてしまっている。主郭の北側は良好に旧地形が残存しており、横堀状に巡る堀切とその堀切に隣接して竪堀 2 本が西側斜面に築かれており、その北側は自然地形となっている。主郭の南西側には不明瞭な平坦地形があるが、現状では城郭遺構とは判断できるものではない。

【史料】なし　【参考文献】2,4,8 ～ 11,13,14,16




第 67 図　城腰山城縄張り図（事務局作成）

②遠賀郡

| 筑前 205 | 園田浦城（そのだうらじょう） | 郡名　遠賀郡　別称　園田城・永犬丸城　図幅名　折尾（東）<br>種別　丘城　所在　北九州市八幡西区北筑２丁目 |
|---|---|---|

【沿革】洞海湾に注ぎ込む金山川の東岸の丘陵上に位置する。『附録』『拾遺』は「園田城跡」として麻生近江守の砦で、園田浦にも別の砦があるとしている。尾根ごとに築かれた曲輪群をそれぞれ別の砦と認識したものと考えられる。『全誌』には本城とは別に馬責場と呼ばれる馬場があったとする。

【概要】城域は、３箇所の尾根上に広がっており、「北郭」「本郭（中央郭）」「南郭」と呼称される。その大半は宅地造成により発掘調査後に消滅している。本郭の南半部は残存しているが、現状では宅地造成による法面の地下に未調査の状態で埋没しており、現状では南郭のみ旧状を目にすることができる。



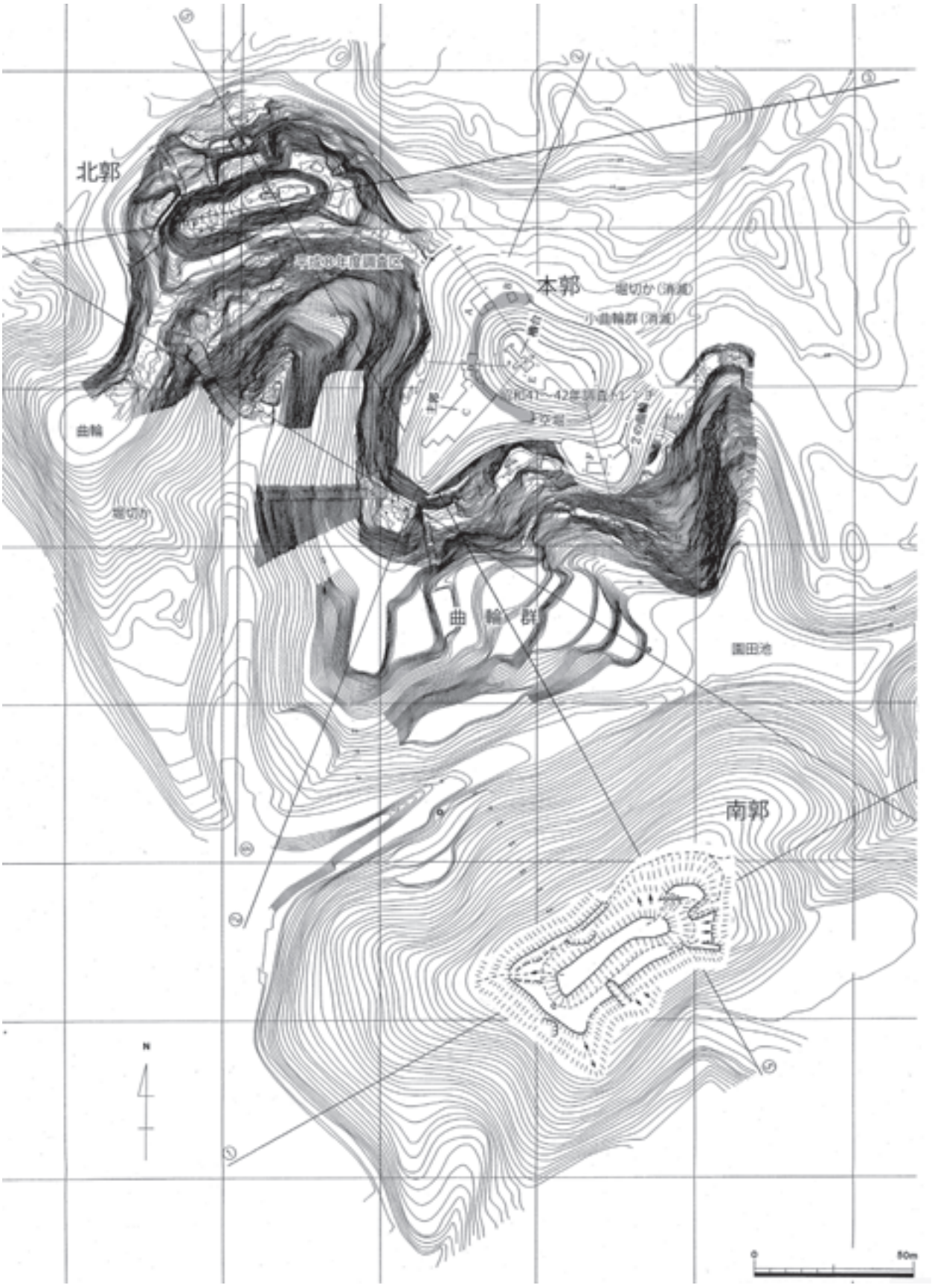
第 68 図　園田浦城遠景（昭和 42 年頃・文献 67 から転載）

この城の発掘調査は昭和 41 ～ 42 年と平成８年に２回実施されている。最初の調査はセメント原料用土砂採取によるもので、北九州市青年郷土史研究会により実施され、本郭部分のトレンチ調査が行われ、曲輪上のトレンチ内からは数多くの柱穴群や本郭の「櫓台」の曲輪の裾を取り巻くように空堀が検出された。その後、本郭は土砂採取のため、櫓台付近を中心に大きく削られてしまい、詳細な状況は不明のままとなってしまった。本郭損壊前に作成したとみられる縄張り図（第 69 図）によると、「櫓台」の北東側にも２～３の小曲輪と堀切１本が存在したようである。

平成８年には北郭から本郭の北半部が宅地造成に伴い㈶北九州市埋蔵文化財調査室により発掘調査が行われた。本郭は櫓台・主郭などは既に削られていたため、調査の主体は北郭部分で、調査の結果、竪穴建物、柵列などのほか、14 ～ 15 世紀代を中心とした貿易陶磁器、土師器などが出土



第 69 図　破壊前の園田浦城縄張り図（文献 31・中村修身作成）




第 70 図　園田浦城測量図（文献 70 掲載図に文献 67 掲載図面と事務局作成図面を合成して事務局作成）

している。

城の縄張り構造であるが、南北に並んだ東西方向の尾根上にそれぞれ曲輪群がみられる（北郭・本郭・南郭）。北郭は丘陵頂部に東西約 50m、南北約 20m の主郭を置き、その周囲に帯曲輪もしくは小曲輪を巡らせ、要所に竪堀を設け、北西側には堀切を置いている。平成８年の発掘調査では主郭の平面上では竪穴建物が検出されたほか、主郭から南西の出曲輪へ延びる尾根上では柵列が検出された。北郭南西部の出曲輪部分は保存区域となったため調査は行われなかったが、調査後に宅地造成により埋められてしまい、その状況を窺い知ることはできないが、出曲輪のさらに南側の尾根上に堀切１本が存在したようである（第 69 図）。

本郭は丘陵頂部に楕円形の曲輪（昭和 40 年代の調査では「櫓台」）を置き、そこから三～四方向に延びる尾根上に曲輪を置く構造である。「櫓台」の西側の曲輪（昭和 40 年代の調査では「主郭」と呼称）には昭和 40 年代の発掘調査では「櫓台」の裾を取り巻くように横堀が検出され、それぞれの曲輪の平面上でも柱穴が検出されている。本郭の北東側は緩やかな尾根が続いていたようであるが、未調査のまま破壊されたため、詳細は不明だが、第 69 図によると、小曲輪と堀切１本があったようである。また、本郭の南側斜面にも階段状の平坦面群が 10 段近くと井戸２基があったが、宅地開発により未調査のまま地下に埋没したため、詳細な状況を知ることはできないものの、本郭に付随する曲輪群とみられる。平成８年の調査は、本郭は部分的な調査にとどまったが、旧表土上に造成土を埋め、整地する様子などが確認されている（第 73 図）。

南郭は現状でも残されており、園田浦城の中で、現在唯一地表面で確認できる曲輪群である。長さ約 50m の主郭の周りに帯曲輪を巡らし、竪堀２本を設ける構造であり堀切は確認できない。以上のように、３つの曲輪群で構成された城郭で各々の独立性は高い。出土遺物から 14 世紀後半～ 15 世紀前半に位置づけられる。

【史料】なし

【参考文献】2 ～ 6,8 ～ 10,**11**,26,**31**,**67**,**70**,174



第 71 図　園田浦城北郭全景（平成８年）
（北九州市教育委員会提供）



第 72 図　園田浦城北郭堀切（平成８年）
（北九州市教育委員会提供）



第 73 図　園田浦城本郭検出の整地層（平成８年）
（北九州市教育委員会提供）



第 74 図　園田浦城本郭からみた帆柱山城・花尾城（右端の森が南郭の丘陵）

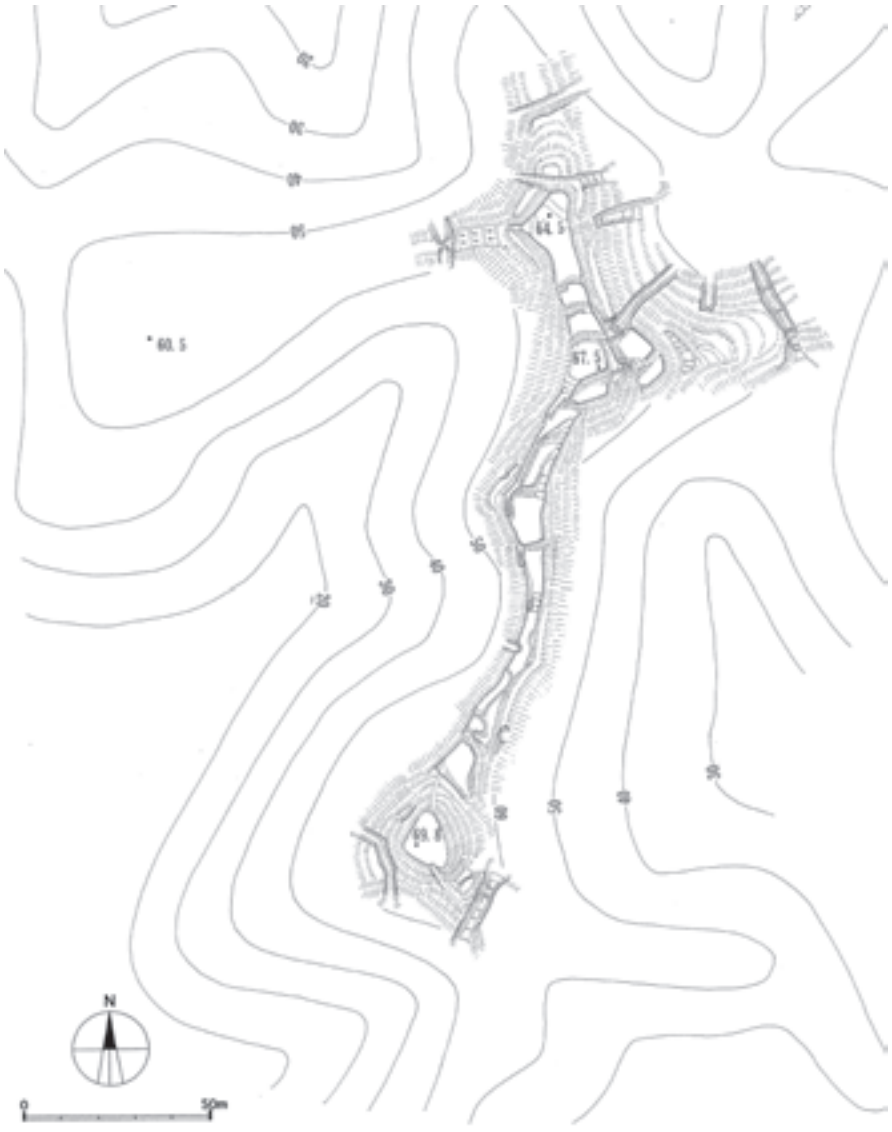
| 筑前 207 浅川城（あさかわじょう） | 郡名　遠賀郡　別称　陣山城 | 図幅名　折尾（東） |
|---|---|---|
| | 種別　山城　所在　北九州市八幡西区浅川 | |

【沿革】遠賀川東岸、遠賀川と江川が合流する浅川の丘陵上に位置する。『本編』等の地誌類には麻生氏端城とするが、天正 14 年（1586）には秋月方となった麻生鎮里、統春親子の持ち城として機能し、10 月に黒田孝高により落とされたことが黒田家文書などで確認することができ、秋月方の遠賀郡攻略の拠点であった。『全誌』では「陣山城址」として名を掲げている。



第 75 図　浅川城遠景（手前は遠賀川）

【概要】複雑な地形を呈する丘陵上だが、標高 69m の最高所を含み、南北 200m あまりにわたって城域が展開する。最高所の 69m 地点を最南端とし、そこに約 20m 四方の主郭を置き、そこから北へ細長く伸びる尾根上に曲輪群を並列させる。主郭の南西側と南東側には堀切を設け、南側からの防御に備える。北側は尾根の鞍部から標高 67m 地点の曲輪までの間に、西側に土塁を巡らせており、防塁ラインを形成する。標高 67m 地点の曲輪からもさらに北へ約 50m の区間、階段状に曲輪を並べ、その北側と西側の尾根に堀切を設けて城域を画している。特に最北端の曲輪の周辺には堀切と併せ、帯曲輪を巡らせている。




第 76 図　浅川城縄張り図（北九州市立自然史・歴史博物館作成・提供）

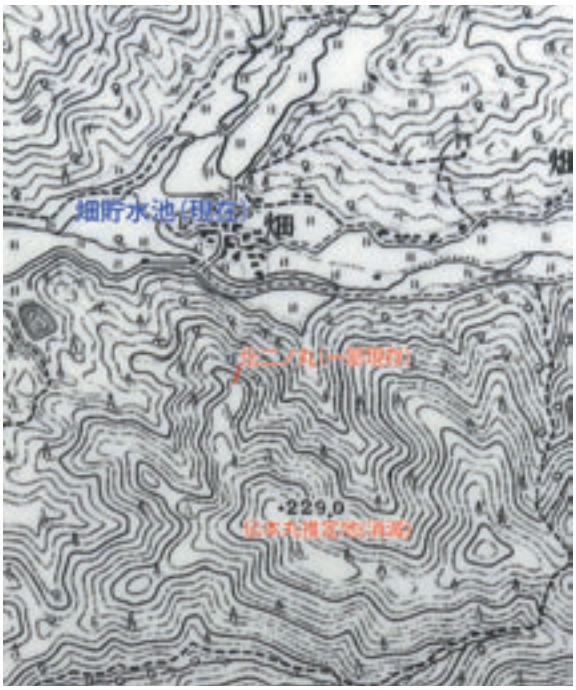
【史料】あり

【参考文献】1 ～ 4,7 ～ 10, **11**,31,172,**198**

| 筑前 208 | 畑城（はたじょう） | 郡名　遠賀郡　別称　畑山城・白木城・麻生城　図幅名　徳力（西）<br>種別　山城　所在　北九州市八幡西区畑 |
|---|---|---|

【沿革】鞍手郡と遠賀郡の境に聳える金剛山から北西に派生する尾根上、畑貯水池に面した頂部に位置する。『附録』には堀、水の手の跡が残るとある。『全誌』には源平の争乱の際に香月庄司秀則が畑山に城を築き、居城としたとしているが、『本編』では南北朝時代に香月三郎左衛則次が畑の城を居城としたと伝え、戦国時代になり香月氏代々の居城となったとする。

【概要】文献 174 によれば、かつて畑城は、畑の集落の南、標高 229m の頂部を主郭とし、集落に向けた北へ延びる尾根の頂部に二ノ丸と呼ばれる曲輪があった（第 77 図）。現在、畑の集落は畑貯水池に沈み、また畑城の大部分は昭和 40 年代以降の採石によりその大半が調査されることなく失われてしまった。文献 174 には、主郭は東西 35m、南北 50m ほどで、東側に 3 m 下がって幅 4 m ほどの帯曲輪があり、南は深さ 3 m ほどの空堀（堀切か？）で区切られ、主郭の周囲には土塁が残っていたという。また、周囲の山々の頂上にも砦跡を構えた跡が存在するとしている（未調査）。




第 77 図　畑城位置図（1/25,000「徳力」を一部改変）
（大正 11 年陸地測量部作成・福岡県立図書館提供）

現在、畑城で唯一確実に残されているのが、「二ノ丸」とされる曲輪である。南側は採石により消滅しているが、約 20m 四方の曲輪上には石祠なども残されている。かつて尾根続きであった南側へは地形がそのまま緩やかに上っているようであり、曲輪を区画する切岸や堀切などの痕跡は残っていないため、遺構の有無も含めて詳細は不明である。




第 78 図　畑城・伝二ノ丸地点縄張り図（事務局作成）

【史料】あり

【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 11,26,31,172,174

## 筑前 210　竹尾城（たけのおじょう）

**郡名　遠賀郡　別称　上津役城･竹尾山城　図幅名　徳力（西）/ 八幡（西）**
**種別　山城　　所在　北九州市八幡西区上上津役・市瀬**

【沿革】権現山の南西麓、鷹見神社の南西側の尾根上に位置する。江戸時代の地誌類には、麻生鎮里の居城として記される一方で、文献 26 には当初は、麻生遠江守家延、兵部大輔弘重父子の蟄居の城であったとしている。麻生鎮里は天正 14 年（1586）の九州平定戦においては秋月方として参戦し、竹の尾城を拠点の一つとしたが、黒田・小早川の軍勢に敗れている。『宗像追考』（文献 32 所収）に「上津役ノ城」として名が挙がる。

【概要】 標高 174m の丘陵頂部に東西 20m 弱、南北約 40m の主郭を置き、そこから北西側へ延びる尾根上に約 200m 近くにわたって曲輪群が展開している。大小約 10 の階段状に並んだ曲輪群全体を横堀によって厳重に防御している様子を看て取ることができる。

【史料】なし

【参考文献】1 ～ 4,6 ～ 9,**10**,**11**,26,31,172,**174**




第 79 図　竹尾城縄張り図
（文献 11・村上勝郎・田中賢二作成）

## 筑前 211　市瀬城（いちのせじょう）

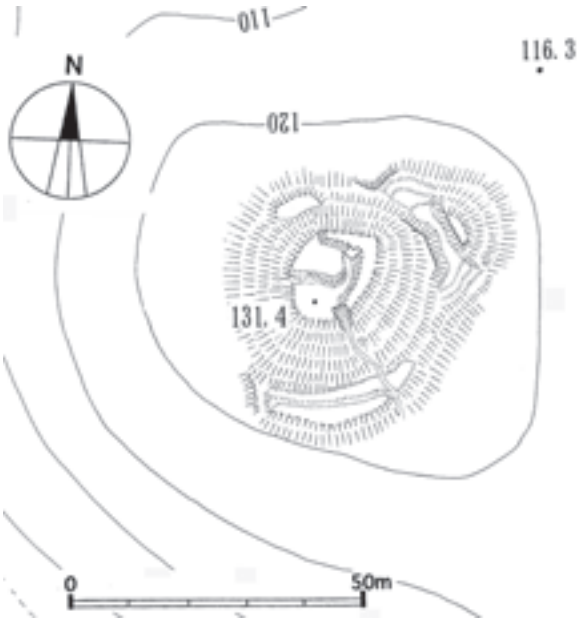
**郡名　遠賀郡　別称　一瀬城　図幅名　徳力（西）/ 八幡（西）**
**種別　丘城　　所在　北九州市八幡西区市瀬**

【沿革】竹尾城と割子川を挟んだ向かい側の丘陵上に位置する。『本編』には「香月五三郎則村が初て築きし居城也。後に麻生氏の邑城なりしと云」とある。

【概要】竹尾城の北側の標高 131m 地点の頂部に約 20m 四方の主郭を築く。後世の改変等もあるが、元来は二段の曲輪ではないかとみられる。北東側に堀切 1 本を入れる。主郭側にも腰曲輪ともみられる平坦面があるが判然としない。50m四方にも満たない狭い城域しか持たない小規模城館である。

【史料】なし

【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 11,26,31,172,174




第 80 図　市瀬城縄張り図
（北九州市自然史・歴史博物館作成・提供）

| 筑前 212 | 別当山城（べっとうやまじょう） | 郡名　遠賀郡 | 別称　なし | 図幅名　八幡（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　北九州市八幡西区別当町 | |

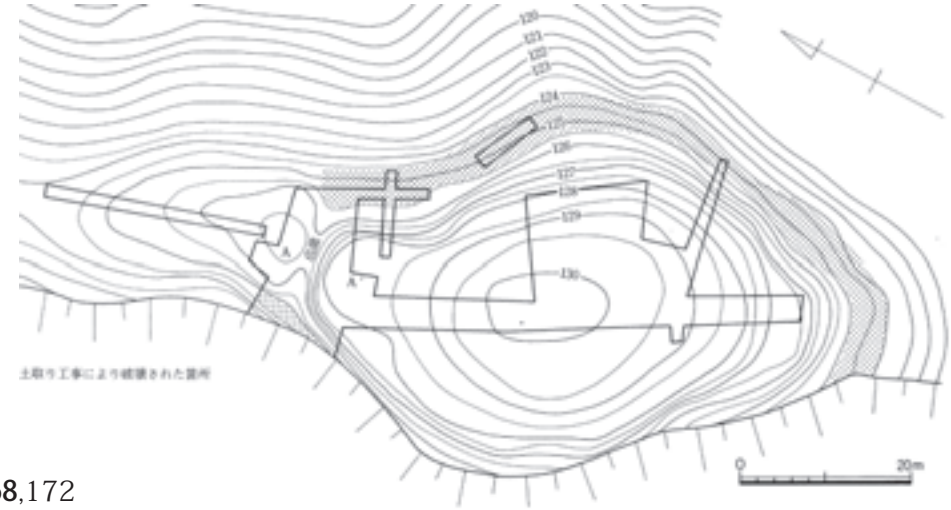
【沿革】帆柱山から西へ延びる尾根の先端部の小丘陵上の別当山山頂に位置する。別当山については『附録』に鷹見宮浮殿の記載が見られるくらいで、城館等についての記載は確認できない。

【概要】宅地開発に伴う調査に先立ち、昭和 54 年（1979）に新たに山城跡として確認がなされ、翌年発掘調査が行われ、城館遺構は全て消滅した。標高 130m の頂部には南北約 40m、東西約 30m の主郭を置き、その北側に堀切 1 本を設け、堀切から主郭を取り巻くように帯曲輪（図中網掛け部）が展開している。堀切は幅約 4 m、深さは約 2 m で、表土により 1 m ほど埋没していたことがわかった。土師器、擂鉢、青磁片などが出土した。

麻生氏もしくは香月氏に関わる小規模城館の一つ見ることができよう。城の南側の大字市瀬地内には小字「陣屋」があり、この城に関わる地名の可能性も考えられる。

【史料】なし

【参考文献】10,11,31,**68**,172



第 81 図　別当山城測量図（文献 68）

| 筑前 209 | 帆柱山城（ほばしらやまじょう） | 郡名　遠賀郡 | 別称　なし | 図幅名　八幡（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　北九州市八幡西区市瀬・熊手 | |

【沿革】標高 617m の権現山から西へ派生して聳える支峰・帆柱山（標高 488m）山頂に位置する。『本編』等には建久年間に宇都宮上野介重業が筑前へと下り、花尾城を取り立て、後に帆柱山に城を築き、麻生氏の始祖となったのが始まりとされる。その真偽は定かではないが、以後、中世を通じて頻繁に文献史料に現れる。天正 14 年（1586）には秋月方についていた麻生鎮里、統春らの拠点城郭であったが、黒田・小早川によって落とされている。その後は、黒田孝高家臣の三宅山太夫が城番として



第 82 図　帆柱山城石垣



第 83 図　帆柱山城堀切

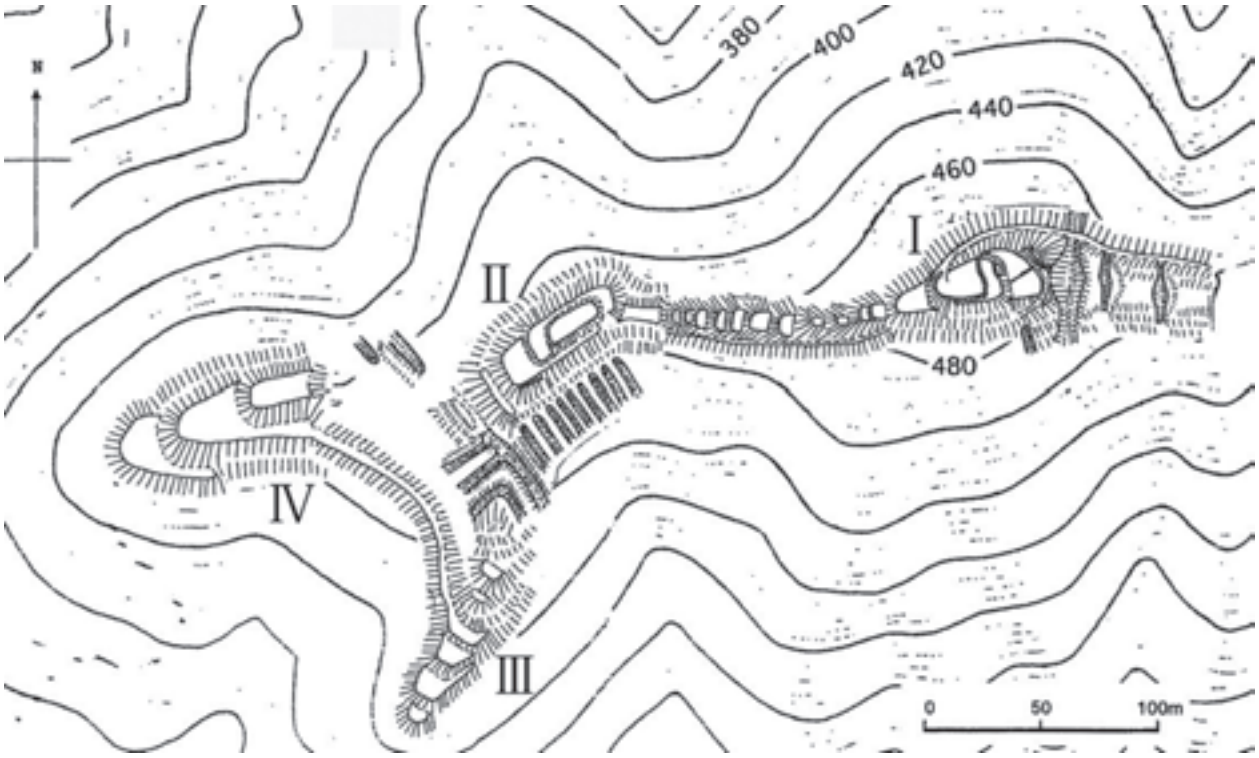
置かれたとされる。

【概要】帆柱山山頂に主郭を置き（Ⅰ）、そこから西側に延びる尾根上に約 400m にわたって曲輪群などの城郭遺構が展開する。曲輪群は大きくⅠ～Ⅳに大別でき、主郭を含むⅠは城内最高所を占めており、東側に大規模な堀切をはじめ何本か堀切を入れることにより城域を画している。Ⅰの西側は緩やかに尾根が下っていくが、尾根上には小曲輪がいくつも並ぶ。Ⅱはやや小高くなっており、城の西側の中心ともいえる位置を占める。Ⅱの曲輪群の周りには畝状空堀群や堀切群が構築され、尾根下からの攻撃に対する厳重な防備が窺われる。Ⅱから南と西へ二股に延びる尾根の突端にⅢとⅣの曲輪群が展開しており、ⅢとⅣとの間には通路状の平坦面も見られ、それぞれの連絡の意識が見られる。またⅣの曲輪群には曲輪の縁に土留めのための石垣遺構を確認することができる。

帆柱山城は花尾城と共に、洞海湾に臨む遠賀郡東部を抑えるための麻生氏の拠点としてふさわしい規模と防備の厳重さを見ることができる。

【史料】あり

【参考文献】1 ～ 9,**10**,**11**, 21,26,**31**,171,172,174,**178**




第 84 図　帆柱山城縄張り図（文献 11・村上勝郎作成）

**筑前 215　花尾城（はなおじょう）**

**郡名　遠賀郡　別称　花尾山城　　図幅名　八幡（西）**
**種別　山城　　所在　北九州市八幡西区鳴水・熊手・八幡東区前田**

【沿革】帆柱山から北へ派生する支峰花尾山（標高 351m）山頂に位置する。『本編』には帆柱山城と同じく宇都宮重業が築城し、麻生氏代々の居城としての事績を書き連ねる。一次史料には文明年間以降、天文、永禄とたびたび合戦に関する記事が見られる。天正 14 年（1586）の黒田・小早川



第 85 図　花尾城縄張り図（文献 178・八巻孝夫作成）



第 86 図　遠賀郡藤田村花尾山古城図（部分・国立公文書館蔵）

による帆柱山城における攻城戦の際に、帆柱山城と共に落城したとみられる。『福岡県の城』には小早川氏筑前入部の際に、小早川隆景の番城となったとあるが、出典は不明である。

【概要】城域は花尾山山頂を中心に東西に延びる尾根上、約 600m にもわたる。その尾根上には大きくⅠ～Ⅶの曲輪を並列させている。それらの曲輪のうち、Ⅰ・Ⅱ・Ⅴの曲輪には土塁や石垣が付随する。特にⅠとⅡの間には土塁の通路とその周りを石垣で固めている様子が窺えるが、これにつ

いては近代以降の公園整備に伴う造作の可能性も考えるべきとの意見もある（文献 187）。しかしながら、江戸時代の絵図（第 86 図）に既にその場所に石垣で固められた通路状遺構（一と二の間）が描かれており、城郭遺構とみて問題ない。また、逆にⅣの曲輪は昭和 44 年（1969）のブルドーザー造成により一つの平坦面となっているが、絵図では二つの曲輪（三・四）として描かれ、しかも石垣を備えた様子も描かれている。Ⅴの曲輪は絵図の五に対応し、Ⅴの南側斜面にある石垣（第 88 図）も絵図にも描かれており、戦国時代のものとみてよいであろう。

また、曲輪群の斜面にはおびただしい畝状空堀群が構築されているが、注目すべきはⅡの北側斜面にある石垣の遺構である。長さ数十 m にもわたり二列の登り石垣を組み上げ、その最上部と最下部は二列の石列が結合し、最下部は井戸のように方形に組み上げたものである。

これについて江戸時代の絵図には、曲輪群の北側斜面に「城山ニ井ノアト在ト云未探」とあり、実際に調査は行っていないが井戸の存在を指摘している。おそらくこの石垣の遺構を指したものとみられる。また、文献 26（昭和 37 年（1962）木村幸雄による追録部分）には「花ノ尾城井戸」としてほぼ現在と同じ形状を記載する。また文献 22 には、大正 13 年（1924）発行の『黒崎商工案内』を引用し、「頂辺より高さ一間、巾七尺、石垣にて築きたる長堤の如きもの、両側に並列し、下ること二十五間、其の終点連結して井あり」とし、大正末期にもその存在を確認できる。

登り石垣の上面が階段状になっていることや、最下部外面の石垣が落し積み状となっていることから、公園整備等により改変が加えられていることは想定できるが、江戸時代の絵図に記載があることなどから、当初からの何らかの城郭遺構であることは肯定してよいと思われる。ただ、機能や性格については、井戸とそれを防御する石垣遺構とも取れるが、現段階では断定できない。また、築造時期も戦国時代の麻生氏段階に求めるのか、はたまた小早川氏、黒田氏段階まで下る可能性があるのかは今後検討を要しよう。

また、城内からは遺物が多く採集されており、明の染付・白磁の他、鉄滓、銅銭、鉄器などが見つかっている。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 9,**10**,**11**,26,**31**,171,172,174,177,**178**,**187**



第 87 図　花尾城曲輪Ⅰの石垣



第 88 図　花尾城曲輪Ⅴの石垣





第 89 図　花尾城曲輪Ⅱ北側斜面の石垣遺構
（上：「井戸」部分・下：登り石垣部分）

| 筑前 218 | 茶臼山城（ちゃうすやまじょう） | 郡名　遠賀郡 | 別称　大蔵城 | 図幅名　八幡（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　北九州市八幡東区尾倉 | |

【沿革】皿倉山から北西へ派生する尾根上頂部に位置する。現在は大字尾倉の地内にあたるが、北西側は大字大蔵との境界線にあたり、地誌類の場所に該当する。『本編』「大蔵村古城」には、「大蔵村の上、尾倉村の境にあり。麻生氏の出城なりと云」とし、『附録』には「里民は茶臼山といふ」としている。『拾遺』には「大蔵村古城」を「茶臼山と云」とする一方で、「尾倉村古城」の項にも「山上には今一ヶ所茶臼山古城有」と記している。

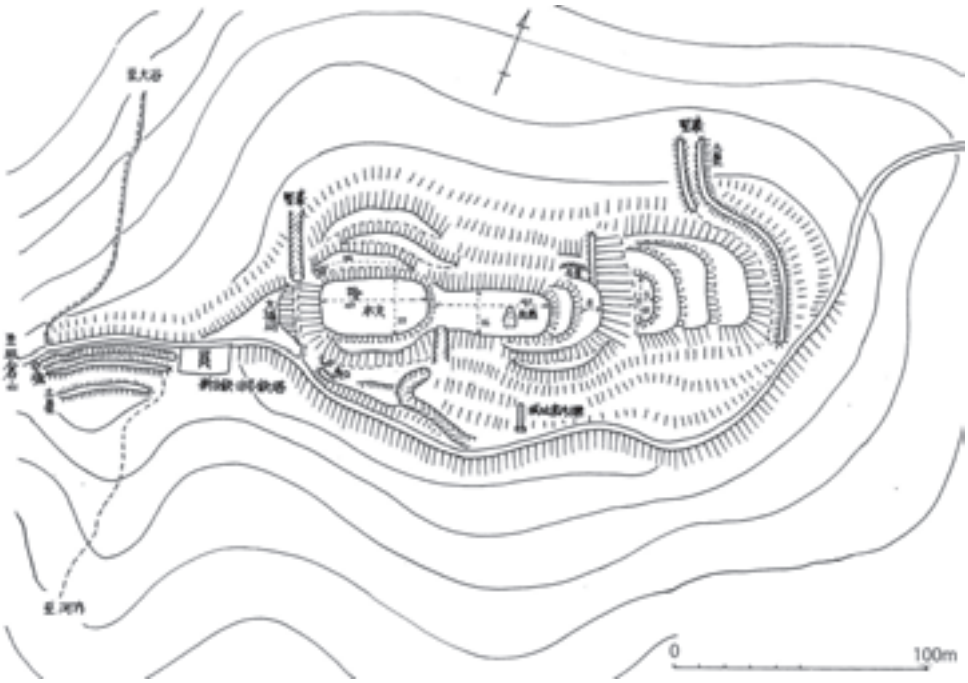



第 90 図　茶臼山城南西側にある御大典記念碑（左）と土塁状遺構（右）

【概要】皿倉山の北西、標高 294m の尾根の頂部に城を築く。最高所に約 20m × 40m の主郭を置き、主郭から北西側の尾根上に階段状に曲輪を 10 数ヶ所造り出し、全長は 100m を超える規模を有している。主郭の南西側には幅 10m にも及ぶ大堀切を設けて主郭を防御する一方で、堀切の東側からは主郭へと通じる通路状の掘り込みを確認することができる。堀切のさらに南西の山側には鉄塔が建っており、さらにその南西側に堀と土塁状の人工造成が見られる。その一部は山道や昭和初期の御大典記念石碑へ通じる道など、城郭とは無関係の造作もあるが、それだけで説明のつく造作ではなく、城郭遺構か否かも含め、今後検討を要する。

【史料】なし

【参考文献】1 ～ 4, 7 ～ 9,**10**,**11**,21,22, 26,31,172




第 91 図　茶臼山城縄張り図（文献 10・廣崎篤夫作成）

## 筑前 224　花房山城（はなぶさやまじょう）

**郡名**　遠賀郡　　**別称**　花房城　　**図幅名**　八幡（西）
**種別**　山城　　**所在**　北九州市若松区畠田・二島

【沿革】洞海湾の奥に北面する岩尾山（標高 220m）の峰続きの頂部に位置する。『拾遺』には「或説に麻生遠江守が居とあり」としている。文献26には「此は山鹿遠江守仲中の居城ならむ、又或は麻生上総介家見の居城ならむか」とある。

【概要】約 40m 四方の曲輪の単郭構造であるが、曲輪の南北の尾根続きには堀切とそれに伴って土塁が構築され、そして、西側斜面には横堀と竪堀約 10 本からなる畝状空堀群が巡らされており、単郭ながら厳重な防備を看て取ることができる。一次史料には出てこない城ではあるが、過剰な防御遺構の在り方から、戦国時代末期にかなり重要な役割を担ったとみられ、花尾城や帆柱山城などの秋月方にあった麻生氏に関連する出城とも考えられる。

【史料】なし

【参考文献】1 ～ 10,**11**,22,24,26,31,174,**187**



第 92 図　花房山城測量図
（文献 11・中村修身作成）

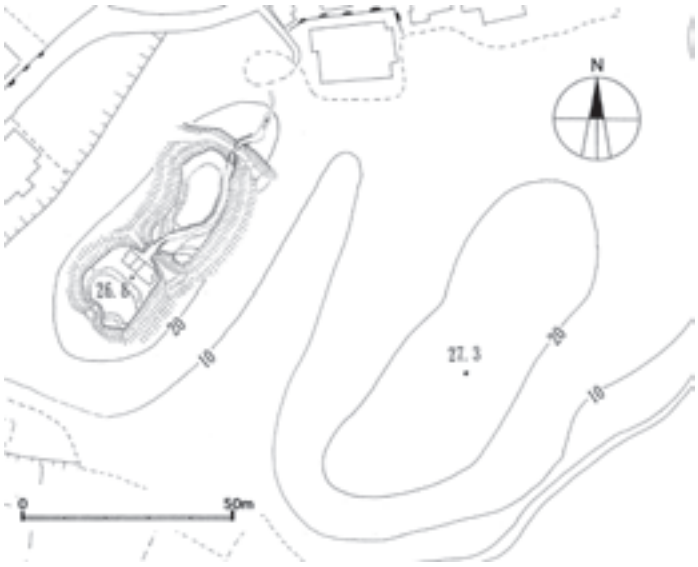
## 筑前 226　楽丸城（らくまるじょう）

**郡名**　遠賀郡　　**別称**　安屋城　　**図幅名**　岩屋（東）
**種別**　丘城　　**所在**　北九州市若松区安屋

【沿革】響灘に面した安屋集落にほど近い丘陵上に位置する。『拾遺』や『全誌』では「城山」として紹介されるが、『筑前町村書上帳』の「遠賀郡出郡覚」には「楽丸古城」として青柳種信が現地を踏査して、堀切があることや、近傍に、城主・天野兵内の墓などを記載する。

【概要】安屋の中の楽丸集落に近い標高 26m の低丘陵上に位置する。約 20m 四方の主郭に堀切を挟んで 30m × 20m の曲輪を置き、その北東側にさらに堀切をもう 1 本設ける。主郭は後世の墓地となっており、一部改変が見られるが、基本的な遺構配置に齟齬はないものとみられる。

【史料】なし　【参考文献】3,4,10,11,24,26,31




第 93 図　楽丸城縄張り図
（北九州市立自然史・歴史博物館作成・提供）

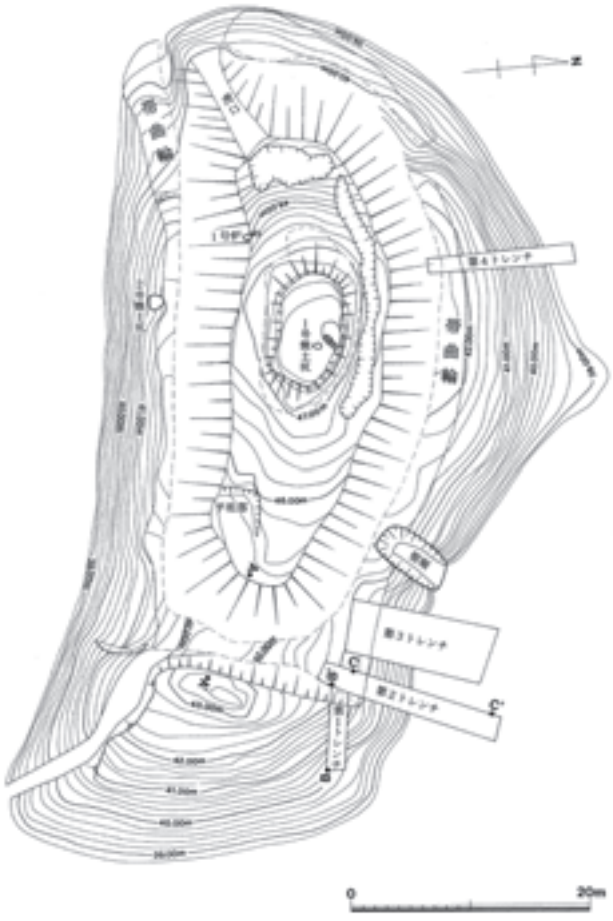
| 筑前 227 | 小敷城（こしきじょう） | 郡名　遠賀郡 | 別称　なし | 図幅名　折尾（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　北九州市若松区小敷 | |

【沿革】江川南岸の丘陵地帯、舟尾山（標高 68m）から北西へ派生し、江川に突き出した半独立丘陵上に位置する。字は「城ノ下」で城館関連地名が残るが、城館との伝承等は一切残されておらず、土地区画整理事業に伴う発掘調査によって発見され、平成 16 年（2004）に城域全体が調査され、調査後、完全に消滅した。

【概要】丘陵頂部に東西 38m、南北 12m の楕円形の主郭を置き、その中心部分に 9ｍ × 5ｍ の高まりが見られた。主郭の東側に堀切 1 本、北側斜面に竪堀 1 本が確認されたほか、それ以外の三方には、幅 2 ～ 3ｍ の帯曲輪が確認され、堀切の堀底部分と帯曲輪は接続していた。

　また、焼土坑や炉跡等も見られたものの、城郭との関連は不明である。出土遺物は、土師器小片を除き、縄文土器、近世後期の磁器類など城郭とは無関係のものがほとんどであった。室町～戦国時代の城郭とみられる。

【史料】なし　【参考文献】71



第 94 図　小敷城測量図（文献 71）



第 95 図　小敷城遠景
（発掘調査時・北九州市教育委員会提供）



第 96 図　小敷城堀切
（発掘調査時・北九州市教育委員会提供）

| 筑前 228 古賀城（こがじょう） | 郡名　遠賀郡 | 別称　なし | 図幅名　折尾（西） |
|---|---|---|---|
| | 種別　山城 | 所在　遠賀郡水巻町古賀 | |

【沿革】水巻町の遠賀川東岸には、明神ヶ辻山（標高 96m）、多賀山（標高 103m）、豊前坊山（標高 84m）の独立峰があるが、その内の遠賀川に面した豊前坊山（『全誌』では城山、古賀岳と称する。）山頂に位置する。近世～近代の地誌類では、麻生鎮里の端城とされる。麻生文書には、天正 14 年（1586）10 月 4 日に秋月方にあった古賀城を、剣岳城、浅川城とともに、宗像・麻生の軍勢により攻め落とされたことが記される。



第 97 図　古賀城遠景

【概要】豊前坊山山頂は、南北約 40m、東西約 15m の平坦面となっており、古賀城の主郭があったことが想定されるが、近世の高住神社や近年の展望台整備により平坦面上はかなりの改変を受けている。登山道に面した北側斜面には、高さ約 3 m の隅角を持った立派な石垣（第 99 図）があるが、直上には地蔵堂があり、近世以降に地蔵堂整備に伴って積まれたものとみられる。ただ、山頂の東斜面や南斜面には神社とは直接関係がなさそうな石垣（第 100 図）もあり、これらについては城郭に伴うものの可能性がある。また、北側の久我神社近辺には、立屋敷などの関連地名が残されており、館などの関連遺跡がある可能性が指摘できる。




第 98 図　古賀城縄張り図（事務局作成）

【史料】あり

【参考文献】

1 ～ 4,7 ～ 11,25,27,170,173



第 99 図　古賀城石垣（後世に積まれたもの）



第 100 図　古賀城石垣（南側斜面）（城郭に伴うものか）

| 筑前 229 | 猫城（ねこじょう） | 郡名　遠賀郡 | 別称　月瀬城 | 図幅名　中間（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　中間市上底井野 | |

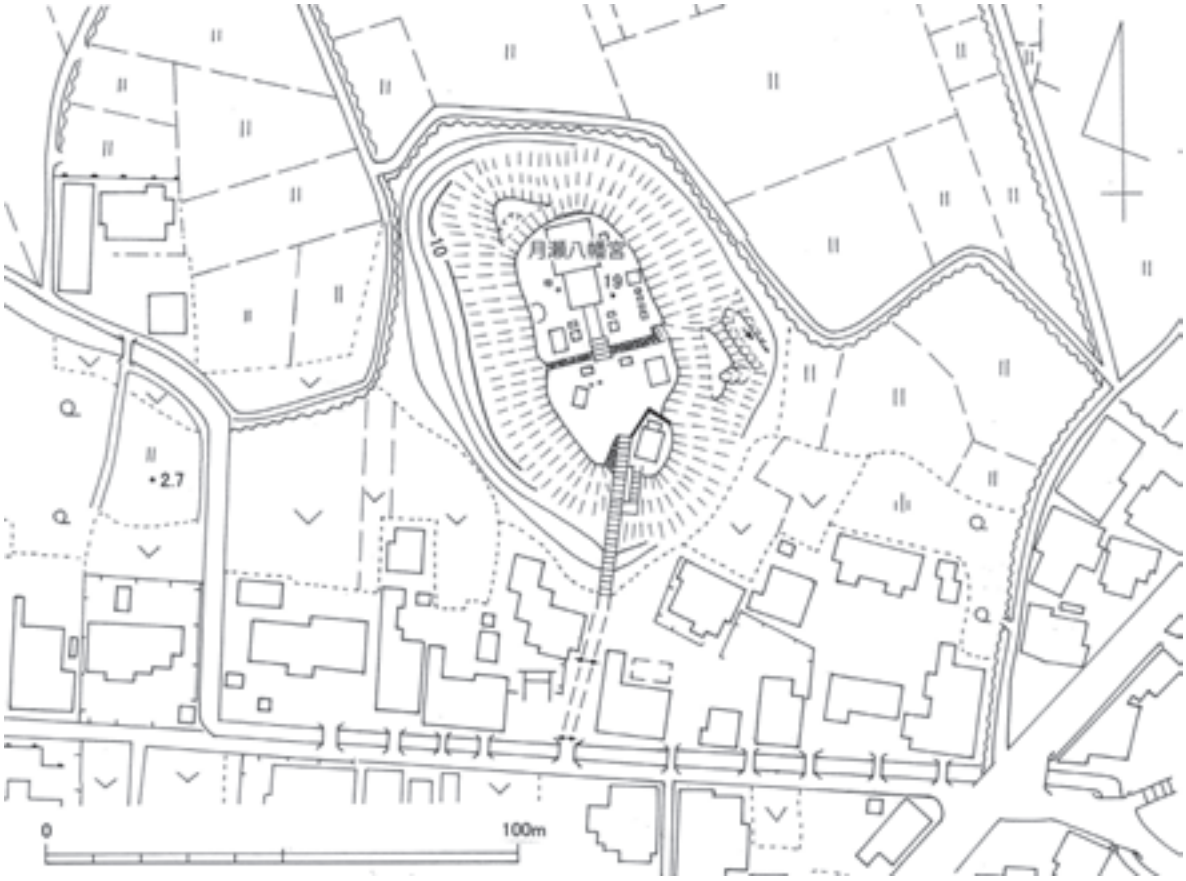
【沿革】遠賀川下流域西岸、中間市上底井野には平野の中に低独立丘陵が所々に残存しているが、そのうちの一つ、猫城山（標高 19m）の頂部に位置する。近世～近代の地誌類には、元々麻生氏の出城であったのが、天正６年（1578）に宗像氏の出城となり吉田倫行が城代となるが、天正８年に大友方の毛利鎮実が猫城を攻めたが落とせなかったことが記される。



第 101 図　猫城遠景

【概要】現在、城のある丘陵頂部は、八幡宮の境内地となっており、約 30 m×約 50m の平坦地が二段に分かれているが、八幡宮の社殿や新しい石垣がみられ、かなり削平を受けているようであり、平坦面の中心部分は赤土の地山が露出しているため、城郭があった当時の様子をどのくらい反映しているかは不明である。削平は受けているものの、おそらくは基本的な曲輪配置はさほどは変わらないものとみられる。また、丘陵の麓、北側を中心に農業用水路が巡っており、かつては水堀の跡との伝承もあるが定かではない。丘陵南側の上底井野集落部分に館などがあった可能性も考えられるが、現在見られる姿は近世以降の街並みであり、かつての様相は、よくわからないのが現状である。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 11,25,**174**




第 102 図　猫城縄張り図（事務局作成）

| 筑前 230 | 城之越城（じょうのこしじょう） | 郡名　遠賀郡　別称　戸切城　図幅名　折尾（西）<br>種別　山城　所在　遠賀郡遠賀町尾崎 |
|---|---|---|

【沿革】遠賀町と岡垣町の境にある山田峠の東北の丘陵頂部に位置する。現在の字は「上ノ越」であるが、昭和初期の陸地測量部の地形図には「城之越」とあり（第 104 図）、城郭に関連する地名であることがわかる。地元では昭和 40 年代頃までは、岡垣町の地名を採って「戸切城」として伝承されていたようである（廣崎篤夫氏の御教示による）。

【概要】標高 108m の丘陵頂部を中心に城郭遺構が展開している。頂部には、径 15m ほどの主郭を置き、北東側と南側に深さ 1 m にも満たない堀切によって、尾根上からの侵入に備える。そして、それらの堀切の堀底から、主郭の周囲を帯曲輪が展開している。

なお、これらの外側にも平坦な地形が多く見られるが、すべて自然地形であり、城郭遺構を確認することはできない。小規模な城館であったとみられる。

【史料】なし

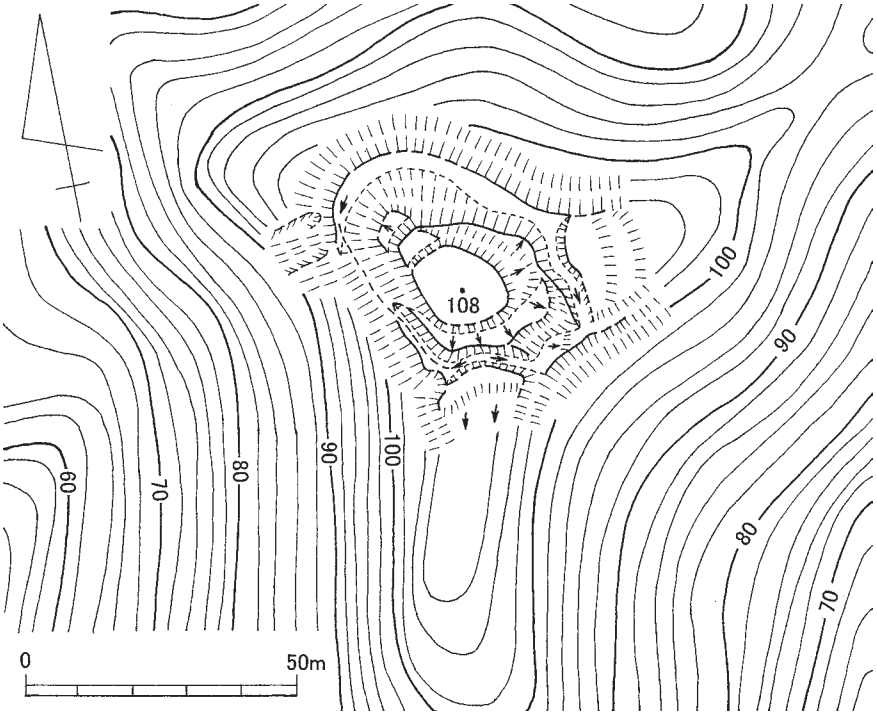
【参考文献】10,11



第 103 図　城之越城遠景




第 104 図　城之越城位置図（1/25,000「折尾」を一部改変）
（昭和 11 年陸地測量部作成・福岡県立図書館提供）




第 105 図　城之越城縄張り図（事務局作成）

| 筑前 233 | 山鹿城（やまがじょう） | 郡名　遠賀郡 | 別称　なし | 図幅名　折尾（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　遠賀郡芦屋町山鹿 | |

【沿革】遠賀川河口付近、芦屋の対岸、汐入川が遠賀川に流れ込む山鹿の丘陵上に位置する。近世～近代の地誌類には、藤原秀郷の弟藤次が築城し、子孫は山鹿氏を名乗ったが、兵藤治秀遠は平家方



第 106 図　山鹿城遠景（2014 年撮影）



第 107 図　大正～昭和初期の山鹿城（絵葉書・個人蔵）

につき滅亡。その後、東国から入部した宇都宮一族の麻生氏の拠点城郭となり、花尾城と共に重要視された。天正 15 年（1587）、豊臣秀吉の九州平定により、麻生氏は筑後の小早川家配下とされたため、山鹿城は廃城となった。

【概要】現在、城山公園として整備されているが、古くより斜面崩落が起こっていたようであり（第 107 図）、また西側斜面は戦後、芦屋競艇場建設によって大幅に削られているため、地表観察のみでは城郭遺構の判断は困難である。江戸時代の絵図と比較すると（第 108・109 図）、絵図で「本丸」と「三」で朱書きされた曲輪は、現状図ではⅠとⅢにあたり、Ⅲの南西隅を除き、さほど変化していないことがわかる。しかし、「二」の曲輪は、現状では西（左）側が大幅に消滅しており、Ⅰの南側にわずかに残るのみとなっている。また、絵図には「三」の西側にも南



第 108 図　遠賀郡山鹿古城図（国立公文書館蔵）

北に細長い曲輪が描かれており、これは現状図でのⅣにあたるものと思われる。一方、絵図の「二」の南（下）側には「石取場」の記載があり、江戸時代後期の段階で既に採石により消滅していたとみられる。そして、「三」の東側にも「ハタ」の記載があるため、Ⅲの北側や北東側の小平坦面群は、近世の耕作による改変とも考えられる。ただ、Ⅲの北側斜面では、昭和52年（1977）に中世墓の発見・発掘調査が行われており、地下遺構は残存しているものとみられる（芦屋町教育委員会1978『山鹿城址の中世火葬墓』）。また、丘陵北東隅にも、小曲輪らしき記載が三箇所、絵図には見られるが、既に削られているかもしくは後世の耕作等により改変されているものとみられる。このように曲輪や切岸以外は、堀などの防御遺構を現状で確認することはできない。



第109図　山鹿城縄張り図（事務局作成）

以上のように、後世の改変が見られるものの、近世の絵図等などとの比較により、少なくとも４箇所曲輪が残存している可能性を指摘することができる。これらを城域とみると、南北の全長100mを超える規模となる。

遠賀川下流域周辺の城館は、地形の制約もあってか猫城（中間市）、岡城（岡垣町）など、堀などの防御遺構も乏しく、低丘陵上に立地するものが多いが、この山鹿城もその部類に属するものとみられる。ただ、それらの中でも最大の規模を誇っているのは、国人領主・麻生氏の遠賀郡内における拠点城郭としての性格を如実に表しているものと思われる。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 9,**10**,**11**,26,28,**174**

## 筑前 237　岡ノ城（おかのじょう）

**郡名　遠賀郡　　別称　腰山城・城越城　　図幅名　吉木（東）**
**種別　丘城　　所在　遠賀郡岡垣町吉木西1丁目**

【沿革】三里松原に流れ込む汐入川西岸、吉木の集落の西にある低丘陵上に位置する。地誌類には天文年間に麻生隆守が城主で、その後大友家の家臣、瓜生貞延、のちに宗像氏の出城となったとしている。

【概要】標高 40m の低丘陵上の頂部に南北約 20m、東西約 10m の主郭Ⅰ（伝本丸）を置き、その北側に同規模の曲輪Ⅱ（伝二の丸）、さらに北側の下段に曲輪Ⅲ（伝三の丸）を配置する。主郭Ⅰの北側は、かつては峰続きになっていたようであり、そのやせ尾根上には 4 本ほどの堀切の痕跡が確認できる。



第 110 図　岡ノ城縄張り図（事務局作成）

また、丘陵西側から北西側は後世の耕作等による改変が激しく、城郭の痕跡が残されているかは不明である。Aの場所は北西側からの上り口にあたり、土塁状の高まりも見られ、虎口という見解もあるが、おそらく耕作等による改変とみておくべきと思われる。城の西側には「門田」という小字が残り、城の大手にあたるとも言われているが、城の東側には、城主麻生隆守の菩提を弔った隆守院や、古い方格地割なども残されており、「矢口」「正矢口」「堀毛」「倉丸」「狭間」「古小路」などの関連地名が残るため、むしろこちら側が正面ではないかと考えられる。

【史料】なし

【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9, **10**,**11**,25,30,**174**,**212**

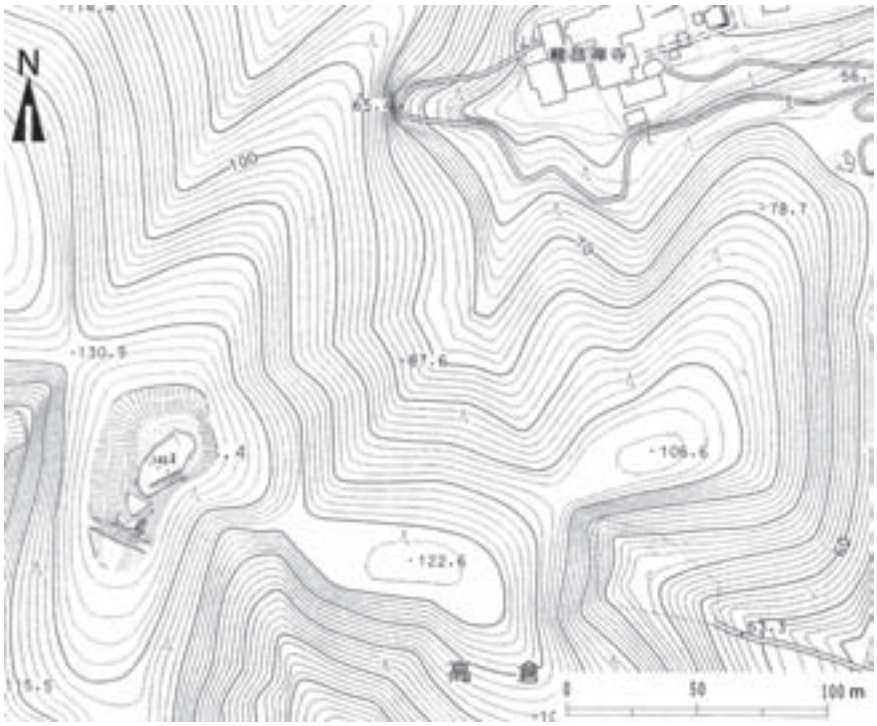

第 111 図　岡ノ城から東を望む
（手前に汐入川、奥に花尾城・帆柱山城などがみえる）


第 112 図　麻生隆守墓

## 筑前 238　龍昌寺山城（りゅうしょうじやまじょう）

郡名　遠賀郡　　別称　鍋倉城　　図幅名　吉木（東）
種別　山城　　所在　遠賀郡岡垣町高倉

【沿革】遠賀郡と宗像郡との境に聳える孔大寺山の東麓、龍昌寺の標高 143m の裏山の頂部に位置する。文献 30 には「龍昌寺山城」として『吉木旧記』（原典不明）を引用し、麻生隆守が吉田貞延に攻められて討ち死にした際、隆守が普請中であった高倉龍昌寺山の城が、内通によって吉田方に落ちたという内容が記される。



第 113 図　龍昌寺山城縄張り図（藤野正人作成・提供）

【概要】龍昌寺の南西約 200m の頂部には、約 20m 規模の主郭が築かれ、その南側に小曲輪を置いた上で堀切 1 本によって、城域を画している。文献 30 には曲輪 3、堀切 1 があるとしており、曲輪の残る 2 つは東側の標高 122m、106m の頂部の事を指しているものと思われるが、ここは自然の平坦地形であり、城郭遺構を確認することはできない。

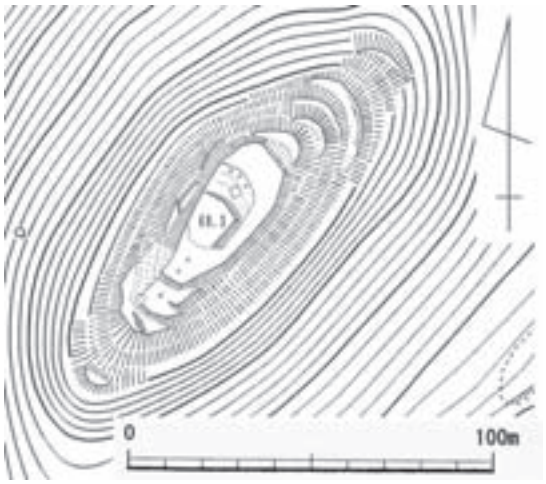
【史料】なし　【参考文献】11,30

## 筑前 239　熊山城（くまやまじょう）

郡名　遠賀郡　別称　熊鰐宅　　図幅名　吉木（東）
種別　山城　　所在　遠賀郡岡垣町三吉

【沿革】三吉集落の南西にある低丘陵「熊山」の山頂に位置する。『拾遺』「竜王古城」の項に「熊山有。山頂に平地有。村民ハ熊鰐の館址と云。」とあり、古代の岡県主の館跡と伝承する。古代豪族の館と伝承されるが、『城郭』において初めて戦国期城館の可能性が指摘され、熊山城と仮名された。

【概要】熊山山頂に、概ね全長 50m、幅約 20m の主郭を置き、その北側の尾根上には、階段状に小曲輪を 5 段ほど配置し、その反対の南側の尾根上にも、3 ～ 4 段の階段状の小曲輪が配置される。小曲輪の縁辺部には土塁状の高まりを持つものも



第 114 図　熊山城縄張り図（文献 212・藤野正人作成）

見られるが、堀切などの防御遺構は確認できない。

地誌類等には、古代豪族の館跡とされてはいるが、近辺には龍昌寺山城や城之越城など、戦国期城館という伝承がほとんど見られないにもかかわらず、戦国期城館の痕跡を残す城跡が見られることから、ここもまたそのような伝承に乏しい戦国期城館の一つとしておきたい。

【史料】なし 【参考文献】3,4,11,25,30,**212**



第 115 図　熊山城遠景

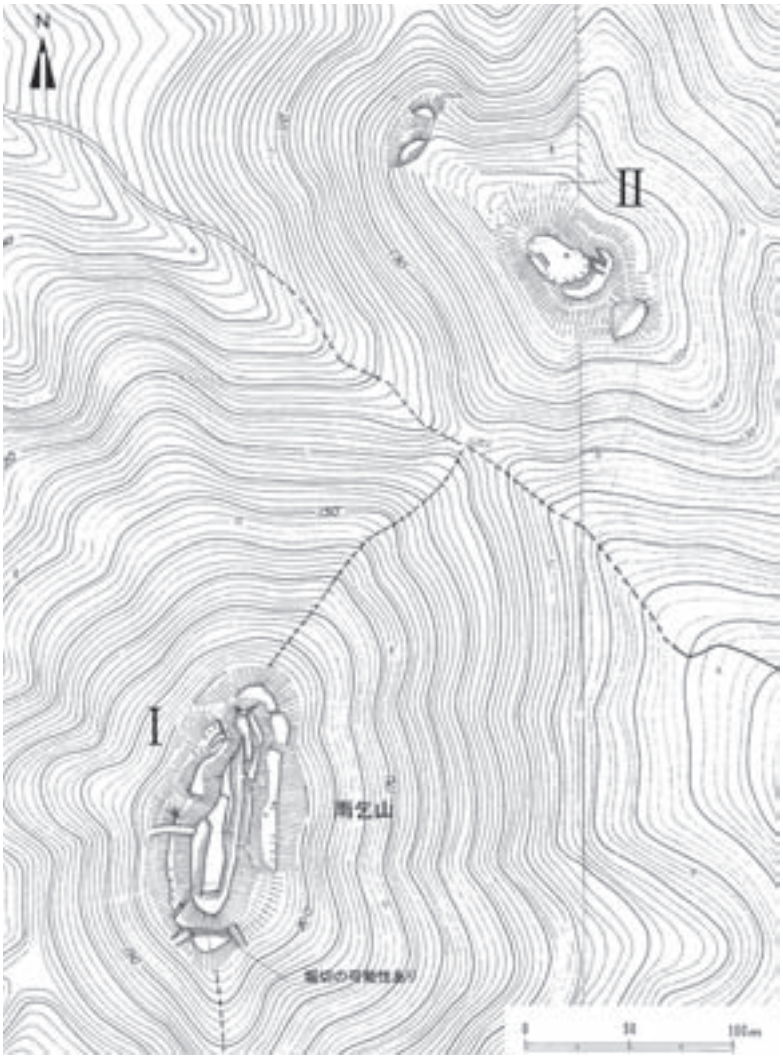
## 筑前 241　雨乞山城（あまごいやまじょう）

**郡名**　遠賀郡　　**別称**　三吉城・手野城　　**図幅名**　吉木（東）
**種別**　山城　　**所在**　遠賀郡岡垣町手野・三吉

【沿革】孔大寺山から北東へ派生する尾根上、手野と三吉の境界部分の頂部に位置する。『拾遺』には、永承年間に大内義興から宗像四郎氏佐に送られた文書に「天野（手野の旧称）要害落居之由・・」とあるとし、さらに『宗像追考』を引用し、宗像氏貞が三吉城（雨乞山城）を港湾の押さえとして築城を始めようとしたが、奉行人の反対に遭い、叶わなかったことなどが記されている。

【概要】標高 232m の雨乞山（城原山）山頂には全長約 100m にわたって城域が広がる（図中Ⅰ）。山頂部の主郭の周囲には幾重にも腰曲輪が巡り、南側には堀切ともみられる竪堀状遺構を確認することができる。

また、Ⅰの曲輪群から北東約 300m 地点にある標高 174m の頂部にも楕円形の曲輪といくつかの小曲輪が見られ、堀切などは見られないものの、城郭遺構と思われる。




第 116 図　雨乞山城縄張り図（文献 207・藤野正人作成）

雨乞山城から眼下には麻生氏の岡ノ城を見下ろすことができ、宗像氏の遠賀郡進出の足掛かりとした城郭とも考えられる。

【史料】なし 【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 11,25,30,**207**

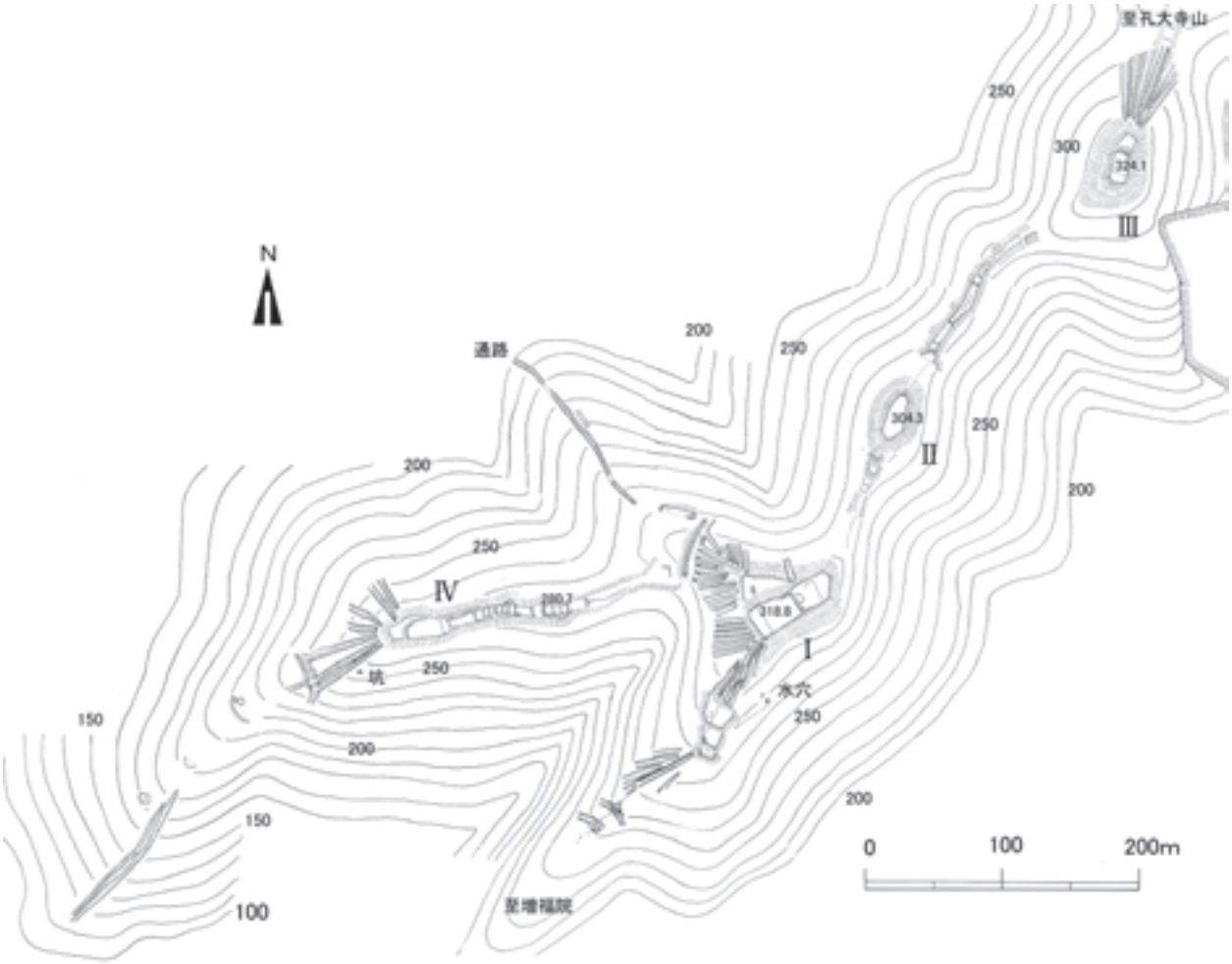
③宗像郡

| 筑前 243 | 白山城（はくさんじょう） | 郡名　宗像郡<br>種別　山城 | 別称　なし<br>所在　宗像市山田 | 図幅名　吉木（東） |
|---|---|---|---|---|

【沿革】宗像郡と遠賀郡との境に聳える孔大寺山の西側の支峰・白山山頂に位置する。『拾遺』には宗像大宮司家 36 代の宗像氏国が築城し、代々宗像氏の居城として機能した。また、宗像大宮司家最後の当主・氏貞も『本編』には 12 年間居城としたとある。

【概要】白山山頂（標高 318m）を中心に尾根上の頂部ごとに 4 箇所の曲輪群（Ⅰ～Ⅳ）が配置され、全長 600m 以上にも及ぶ。曲輪群Ⅰから南西側と西側にそれぞれ尾根が延びているが、その尾根方向の斜面には 20 本にも達する数の畝状空堀群が構築され曲輪群Ⅳへ向かう西側の尾根には堀切 1 本が施される。また、曲輪群Ⅳの南西麓方向にも畝状空堀群と堀切が置かれ、麓側に対する防御を厳重にしている。また孔大寺山に登る尾根上にある曲輪群Ⅲ（標高 324m）の北東側にも 5 本の竪堀が見られ、孔大寺山側にも防御の構えを見せている。その一方、曲輪群ⅠとⅢとの間にある曲輪群Ⅱには堀切や竪堀などの防御遺構はなく、尾根上の通行をはかったものとみられる。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 4,7 ～ 9,**10**,**11**,33,37,**207**




第 117 図　白山城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）

## 筑前 245　城ノ腰城（じょうのこしじょう）

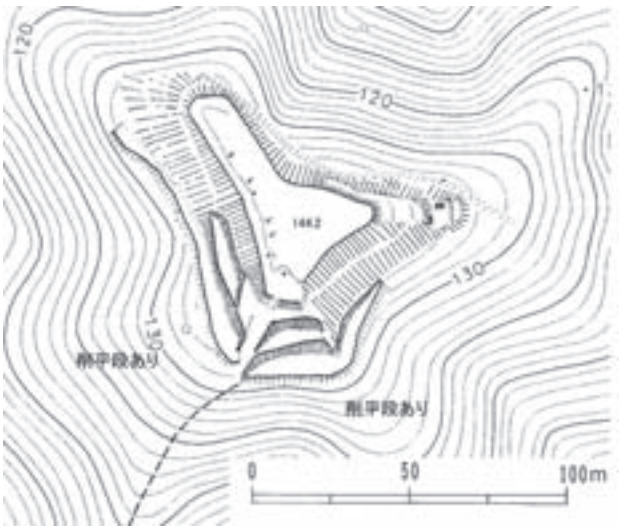
郡名　宗像郡　別称　地島城　図幅名　神湊（東）
種別　山城　所在　宗像市地島

【沿革】玄界灘に浮かぶ地島の北東、標高 144m の祇園山山頂に位置する。『拾遺』「地島」に「白浜の上に高山あり。城腰と云。城址有。城主詳ならず」とある。『全誌』には「城ノ腰城址」として名を挙げている。

【概要】白浜港を見下ろす祇園山山頂に南北約 50m、東西約 30m の不整な形状の平坦面が見られる。周囲には後世の耕作等による改変とみられる小平坦面が点在しており、主郭部分も後世の改変を受けている可能性が高いが、何らかの城郭遺構は存在したものとみられる。

【史料】なし

【参考文献】3,4,8 ～ 11,33,35,**207**




第 118 図　城ノ腰城縄張り図（文献 207・藤野正人作成）

## 筑前 246　勝島城（かつしまじょう）

郡名　宗像郡　別称　なし　図幅名　神湊（東）
種別　山城　所在　宗像市神湊

【沿革】神湊漁港の西に突き出た草崎半島の突端から海上約 500m に浮かぶ勝島は、現在無人島であるが、昭和 36 年（1961）まで人家があった島である。『拾遺』には「勝嶋古城」として「山上に城址有。平地二反許、宗像氏貞永禄の比、隣国の敵を避て大嶋に渡海有し時の端城なりと云」とある。『宗像追考』（文献 32 所収）には、永禄３年（1560）に宗像氏の家臣、占部尚安が勝島から草崎にわたって草崎城を築いたことが記される。島内には万エ門屋敷という占部甲斐守の屋敷跡があったとされる（文献 35）。

【概要】勝島の高所は標高 98m と 90m の二か所あり、100m あまり離れているが、その二箇所には、現状で平坦面が確認される。また、それら二箇所の間の尾根の鞍部や、そこから海へ下る尾根や谷間には数多くの階段状の小平坦面が展開している。土塁状の高まりも見られるが、これらのほとんどは後世の耕作等による改変地形であると思われる。無人島に渡島する機会を得たため、今後




第 119 図　勝島城縄張り図（藤野正人・事務局作成）

の検討のために城郭に直接関係のない平坦面群も図化している。

なお、『拾遺』には正徳・享保年間に勝島に南京焂商による密貿易を取り締まるために番所を置いたとされ、文献 35 には標高 98m の最高所に遠見番が置かれたとするが、現状では番所の痕跡と確定できるものは何も確認できなかった。

いずれにせよ、堀などの顕著な防御遺構を持つ城ではなかったものとみられ、近辺の海に臨む城館と同様に単純な構造であったものとみられる。

【史料】なし

【参考文献】1 ～ 3,5,7 ～ 11,33,35,207



第 120 図　勝島遠景（最高所が城跡）



第 121 図　島内最高所の平坦地形（勝島城跡）

## 筑前 247　草崎城（くさざきじょう）

郡名　宗像郡　　別称　四塚城・草崎山城　　図幅名　神湊（東）
種別　山城　　所在　宗像市神湊

【沿革】玄界灘に突き出た草崎半島の丘陵上に位置する。一の岳から四の岳まで四つの峰からなるため、草崎は四塚とも呼ばれる。『宗像追考』（文献 32 所収）には永禄 3 年（1560）に占部甲斐守尚安が勝島から草崎にわたって城を築き、大島からの軍勢を合わせて許斐城を奪還した記載がなされている。『本編』には宗像大宮司 16 代の氏俊の出城とある。

【概要】四つの峰の内、一の岳（標高 69m）と二の岳（標高 82m）の頂部に平坦面群を確認することができる。頂部の



第 122 図　草崎城遠景（勝島から）

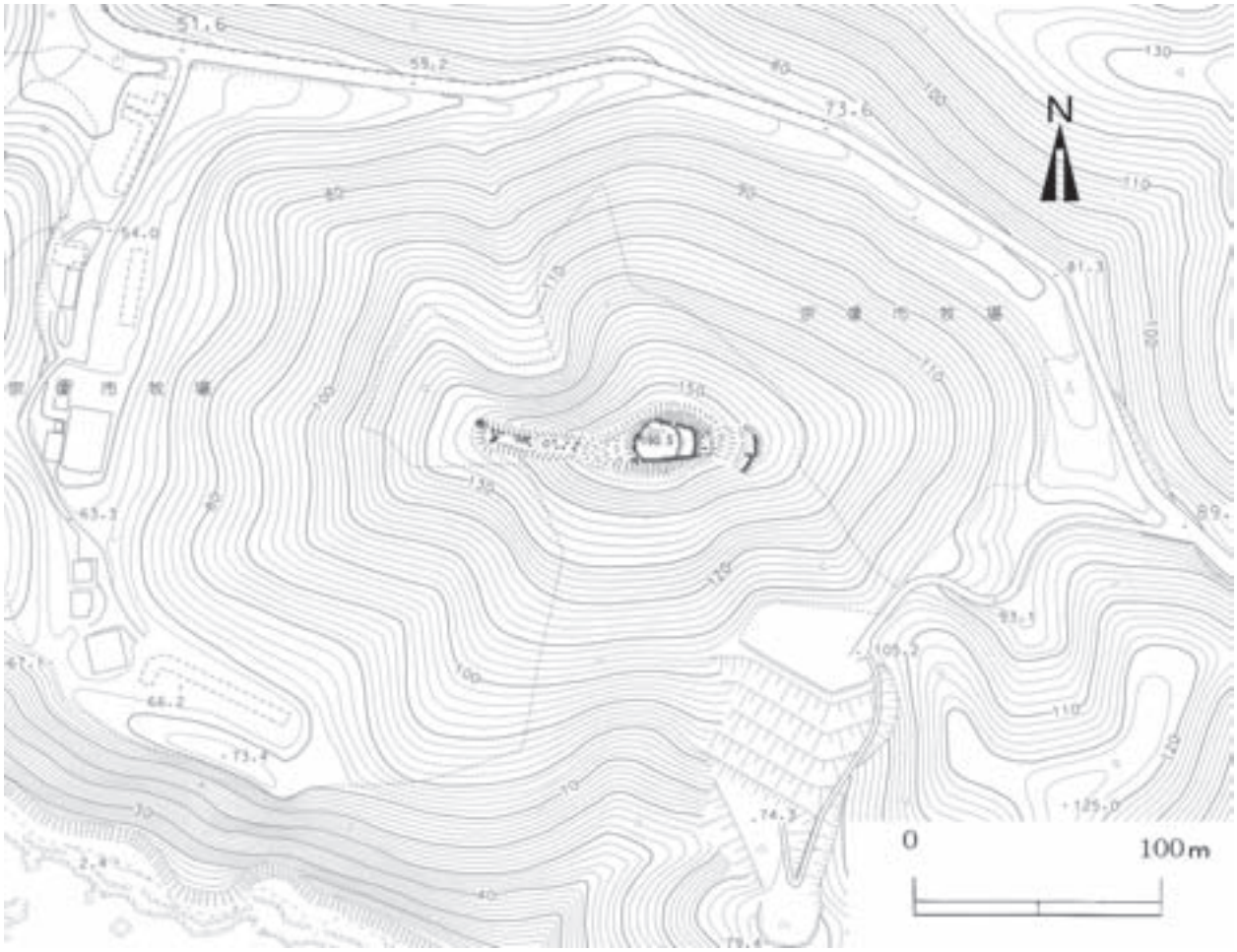



第 123 図　草崎城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）

周辺にも図化していないが、平坦面が展開している。後世の耕作等による改変が想定されるが、頂部周辺については、草崎城の曲輪とみてよいと思われる。堀などの顕著な防御遺構等は見られない。
【史料】なし 【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,**11**,33,35,**207**

| 筑前 248 | 大島城（おおしまじょう） | 郡名 宗像郡 | 別称 なし | 図幅名 神湊（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別 山城 | 所在 宗像市大島 | |

【沿革】大島の最高峰、中津宮のある御岳（標高 214m）の南西約 1 km にある。『拾遺』には「大宮司の城山」と称し、御岳の西海岸の丸く高い峰にあるとする。永禄 2 年（1559）に大宮司宗像氏貞が避難したことなどが記される。『全誌』には、「宗像大宮司氏貞の時、乱世なれば大島を以て宗像のつめの城とせり。要害よければなり。是に依て許斐安芸守氏鎮、占部八郎貞保、吉田兵部少輔貞勝三人を遣て常に守らしむ。永禄二年己未には、氏貞も隣国の敵を此に避て、翌年まで在城せり」とある。
【概要】御岳の南西約 1 km の頂部（標高 160m）に主郭を置く。主郭の規模は南北約 10m、東西約 20m と小さく、周囲には土留めと思われる石列や石垣が見られる。堀などの顕著な防御遺構を確認することはできない。非常に小規模な城館である。
【史料】なし 【参考文献】2 ～ 5,8 ～ 10,**11**,33,36,**207**

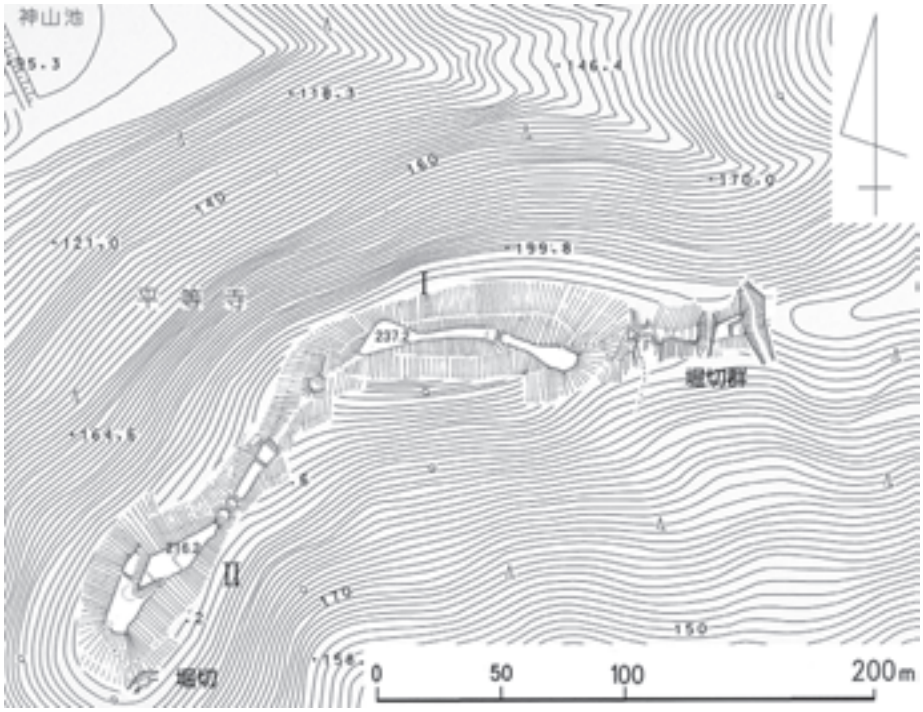



第 124 図 大島城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）

## 筑前 249　草場城（くさばじょう）

**郡名**　宗像郡　**別称**　平等寺城･草場山城　**図幅名**　筑前東郷（東）
**種別**　山城　**所在**　宗像市平等寺

【沿革】蔦岳城のある城山の北に聳える金山から南へ派生する尾根上（草場山）に位置する。城からは南東側に宗像から岡垣へ抜ける石峠を見下ろす位置にあたる。『拾遺』には白山城（筑前 243）の出城とし、『全誌』では杉権頭が一時在城したとする。



第 125 図　草場城縄張り図（文献 210・藤野正人作成）

【概要】標高 237m の草場山山頂を中心に曲輪群Ⅰが形成され、そこから西へ約 200m あまりにわたって、細長い曲輪群が階段状に展開する。西側先端部分には標高 216m の頂部があり、山頂と同規模の曲輪群Ⅱが見られ、その南側には堀切 1 本が作られる。また、山頂の東側、金山へと登る尾根筋上には三本の堀切で尾根を分断して防御する。石峠を押さえる要衝の地を白山城の出城としたものと思われる。

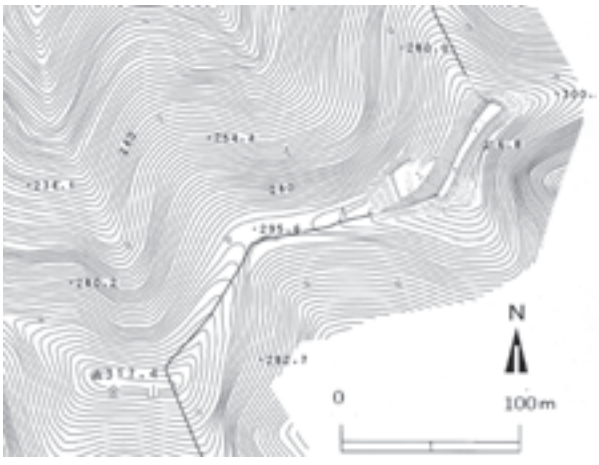
【史料】なし　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,11,33,37,**210**

## 筑前 250　上山堡（かみやまほう）

**郡名**　宗像郡 / 遠賀郡　**別称**　なし　**図幅名**　筑前東郷（東）
**種別**　山城　**所在**　宗像市山田・遠賀郡岡垣町高倉

【沿革】『拾遺』「草場古城」に「谷（上山谷）を隔て北なる茂山を上山と云。山上に平地少シ有。草場山よりは高し。遠方より能見ゆ。堡址なるべし。」とある。草場城の北には小字「神山」があり「上山」が訛じたものとみられる。

【概要】金山山頂（標高 317m）の東側の峰の頂部（標高 316m）に想定される（ただし小字「神山」地内でなく確定ではない）。尾根筋にそって幅約 10m の平坦地が約 100m 継続するほか、西側斜面に平坦面が見られる程度の単純な縄張りである。



第 126 図　上山堡縄張り図（藤野正人作成・提供）

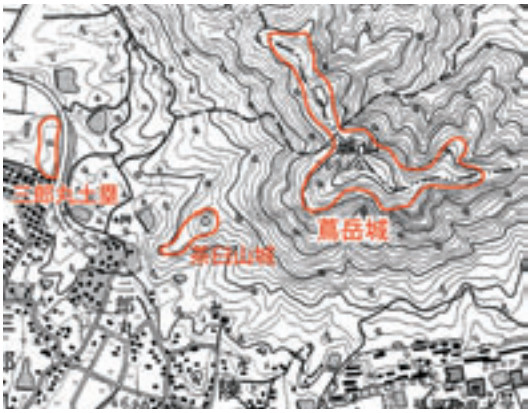
【史料】なし　【参考文献】3,4,11,210

## 筑前 251　蔦岳城（つただけじょう）

**郡名　宗像郡 / 遠賀郡　別称　岳山城・赤間山城・赤馬山城・城山城**
**図幅名　筑前東郷（東）　種別　山城　　所在　宗像市陵厳寺・遠賀郡岡垣町上畑**

【沿革】小倉方面から博多へ抜ける交通の要衝、赤間宿の背後に高く聳える城山（標高 369m）の山頂を中心とし、東西約 800m、南北約 500m の広大な範囲に城郭遺構が展開する大規模な城郭である。近世以降の地誌類はもとより、一次史料にも「岳山」、「蘿（蔦）岳」として頻繁に登場する宗像大宮司家最後の当主・宗像氏貞の居城として知られている。『本編』によると、小早川隆景が天正 15 年（1587）に筑前を拝領した際に、当城を破却するように命ぜられ、翌年破却されたと記される。

なお、『種々』には、「蔦岳城」や「岳山城」の名称は挙げられていないが、赤間町葛嶽に「葛ヶ嶽城址（宗像氏）」なる記載が見られる。赤間周辺に葛嶽という山名や地名が確認できないことから、「蔦嶽」を「葛嶽」と誤記したものと思われる。



第 127 図　蔦岳城及び周辺城館位置図
（国土地理院発行 1/25,000 地形図「筑前東郷」を一部改変して作成）

【概要】城域は、大きく城山山頂一帯の曲輪群Ⅰ（主城部）と、その北西側の尾根上の曲輪群Ⅱに二分される。標高 369m の最高所 A に東西約 50m、南北約 30m の主郭を置き、そこから南西方向と東側へ延びる尾根上に曲輪群を階段状に配置するが、それらの周囲の斜面上には数十本にも及ぶ畝状空堀群によって防御する。そして、さらに東側の尾根の鞍部に堀切を設け、その東側に曲輪 B を置く。B から東側については、堀切を幾重にも施し、曲輪 C をさらに設けて東側の尾根の突端は堀切によって城域を画している。曲輪群Ⅰは全長 800m にも及ぶ。曲輪 A の南斜面には城郭に伴うものと思われる石垣（第 128 図）がある他、周辺では巴文軒丸瓦や宝珠文軒平瓦も採集されており、瓦葺の城郭建築があったものとみられる。

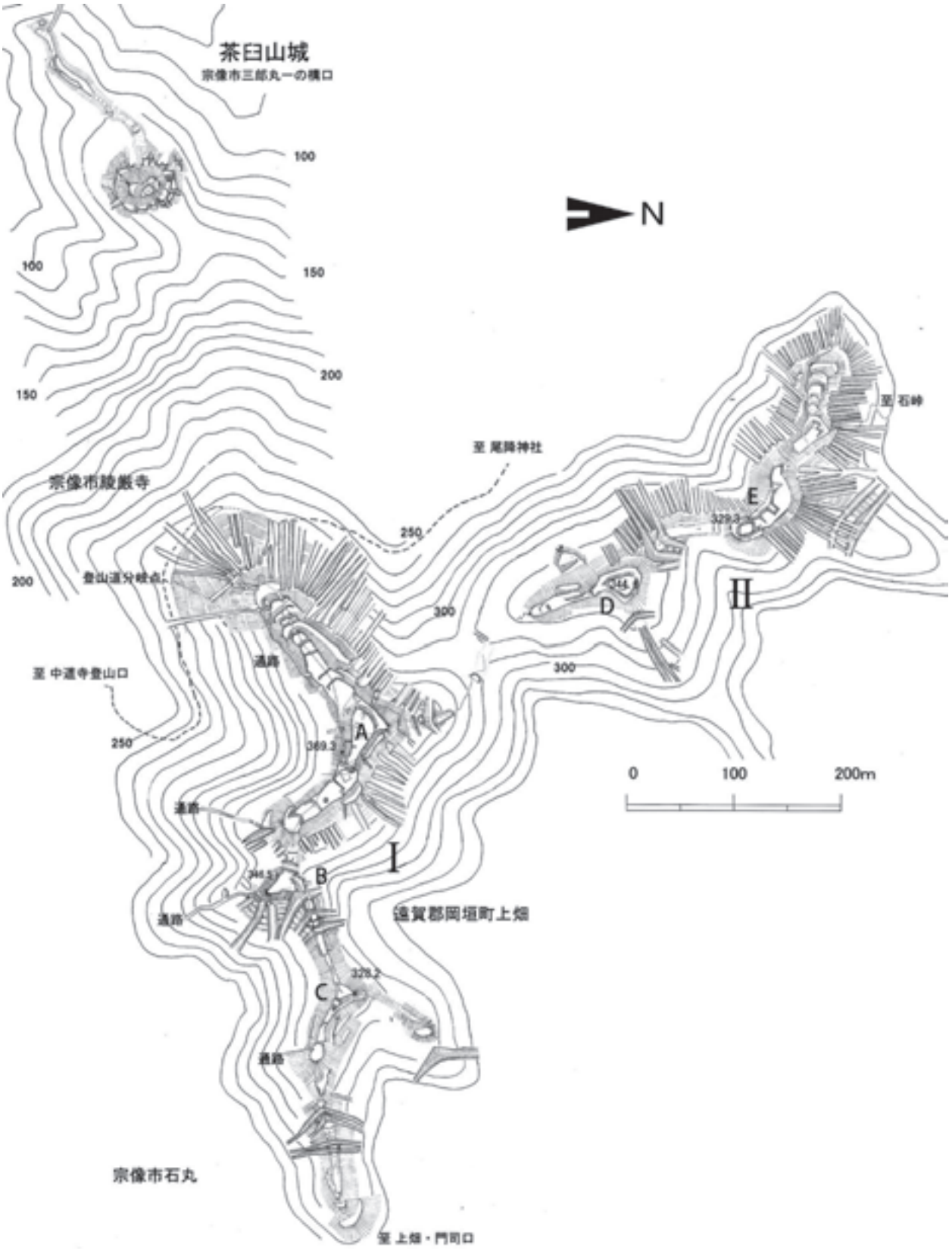

第 128 図　蔦岳城石垣（曲輪 A 南斜面）


第 129 図　蔦岳城堀切

一方、曲輪群Ⅱは全長約 500m の範囲で確認できる。『宗像追考』（文献 32 所収）のいう所の、石峠の口にある外曲輪とみられる。曲輪 D と E が中心的な曲輪となり、尾根上に小曲輪をいくつも配し、それらの周囲は曲輪群Ⅰと同様に、畝状空堀群や堀切によって厳重に防備している。国人領主宗像氏の最後の拠点城郭にふさわしい「当国無双の城」と言えよう。

また、蔦岳城周辺には関連する城館遺跡として、峰続きに茶臼山城（筑前 252）などがある。また、茶臼山城の西、三郎丸の丘陵部には、現在も横堀二本とそれに付随する土塁遺


第 130 図　蔦岳城からの眺め
（白山城・玄界灘方面）




第 131 図　蔦岳城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）

構が残され、「三郎丸土塁」として周知の包蔵地となっている（文化財番号 00272）。土塁の南側の谷は「城ヶ谷」と呼ばれることや、蔦岳城への登山口の一つでもあるため、蔦岳城防衛に関連した城館遺構であろう。

また城の南山麓には番所を置いたという「赤城、城腰、草場」などの他、関連する地名が多数見受けられる。

【史料】あり

【参考文献】1 ～ 4,8,9,**10**,**11**,33,37,**199**,**207**,**210**



第 132 図　三郎丸土塁の横堀




第 133 図　三郎丸土塁縄張り図（文献 207・藤野正人作成）

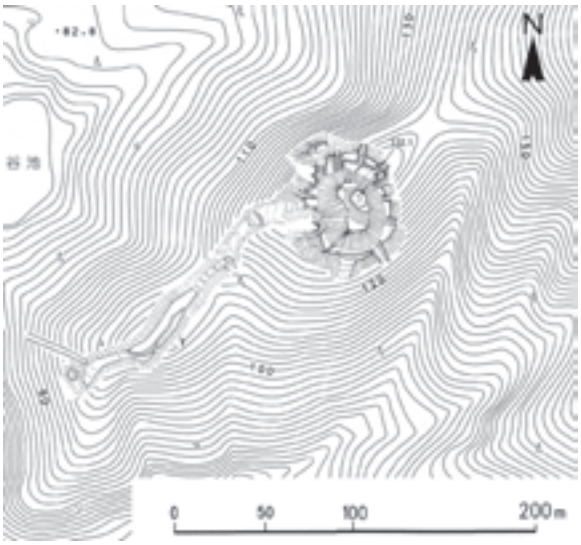
**筑前 252　茶臼山城（ちゃうすやまじょう）**　**郡名　宗像郡**　**別称　なし**　**図幅名　筑前東郷（東）**
**種別　山城**　**所在　宗像市三郎丸**

【沿革】『種々』の赤間町三郎丸に「茶臼山城」として名称が挙がるのが初出である。蔦岳城の南西側に位置する。

【概要】蔦岳城主郭から南西へ下る尾根上に立地する。標高 152m の丘陵頂部に約 10m 規模の主郭とその周りに腰曲輪を巡らす。腰曲輪は一部横堀状となり、間隔をおいて放射状に畝状空堀群を 10 本ほど設けている。南西へ尾根を下った先には堀切と細長い平坦面を設ける。蔦岳城の出曲輪が、『種々』の段階で蔦岳城と別の城と認識されたものとみられる。

【史料】あり

【参考文献】5,8 ～ 10,**11**,**207**,**210**




第 134 図　茶臼山城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）

## 筑前 256　名残城（なごりじょう）

**郡名**　宗像郡　**別称**　徳重城・椽（縁）城　**図幅名**　筑前東郷（東）
**種別**　山城　**所在**　宗像市名残

【沿革】宗像市外を流れる釣川流域、名残の標高 107m の丘陵上に位置する。『附録』には「平地五畝計あり。其下椽有て茶臼に似たり。故に村民ハ茶臼山ともいふ。其西北に平地三畝計あり。端城の跡ならんか」とある。『拾遺』には、宗像氏続の要請により大内義隆家臣の黒川隆尚が名残城に入城したことが記される。

【概要】丘陵頂部に南北約 50m 東西約 20m の主郭を置き、その周囲に細い幅の腰曲輪を巡らす。「椽（縁）」と呼ばれる所以である。頂部から南西側に延びる尾根上には小曲輪を階段状に配置すると共に、北西側へ延びる尾根上には、堀切２本で区切った外側にさらに曲輪を置き、その北西側も堀切１本により防御している。地誌類では大内氏関連の城郭であったことがわかるが、大内氏滅亡後は宗像氏の出城となったものと思われる。



第 135 図　名残城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 4,7 ～ 10,**11**,33,37,**207**,**210**

## 筑前 259　大障子城（だいしょうじじょう）

**郡名**　宗像郡　**別称**　津瀬城・多礼城・瀧口城　**図幅名**　筑前東郷（西）
**種別**　山城　**所在**　宗像市多礼

【沿革】宗像大社から釣川を挟んだ東側、鎮国寺の南側背後の丘陵上に位置する。『附録』では宗像氏貞の居城、『拾遺』では宗像大宮司家代々の城跡とする。『全誌』では上記の内容に加え、「津瀬ノ城と云しも是なるべし」とし、少弐直資が出した書状に由比重留次郎正雄がこの城における忠節を記したものが残るとする。『種々』に「瀧口城址（少弐直資）」とあるのはこれを示しているものと思われる。

【概要】鎮国寺の南の裏山の頂部からさらに南へ下った丘陵頂部に位置する。主郭があったとみられる標高 106m 地点は貯水施設等の建設により本来よりかなり削られており、旧状を残していないが、現状とほぼ同規模の曲輪があったものと思われる。その東側は果樹



第 136 図　大障子城縄張り図（事務局作成）

園造成により大々的に改変がなされ、旧状を推察するすべもないが、北側から西側にかけてはかつての地形を残しており、部分的ではあるが、北へつながる尾根上に堀切３本が残されている。南側にかけては急斜面となっており、曲輪などはなかったものとみられるが、東側の尾根上には曲輪や堀切などがあった可能性も考えられる。

【史料】あり

【参考文献】1 ～ 5,8 ～ 11,33,35,207



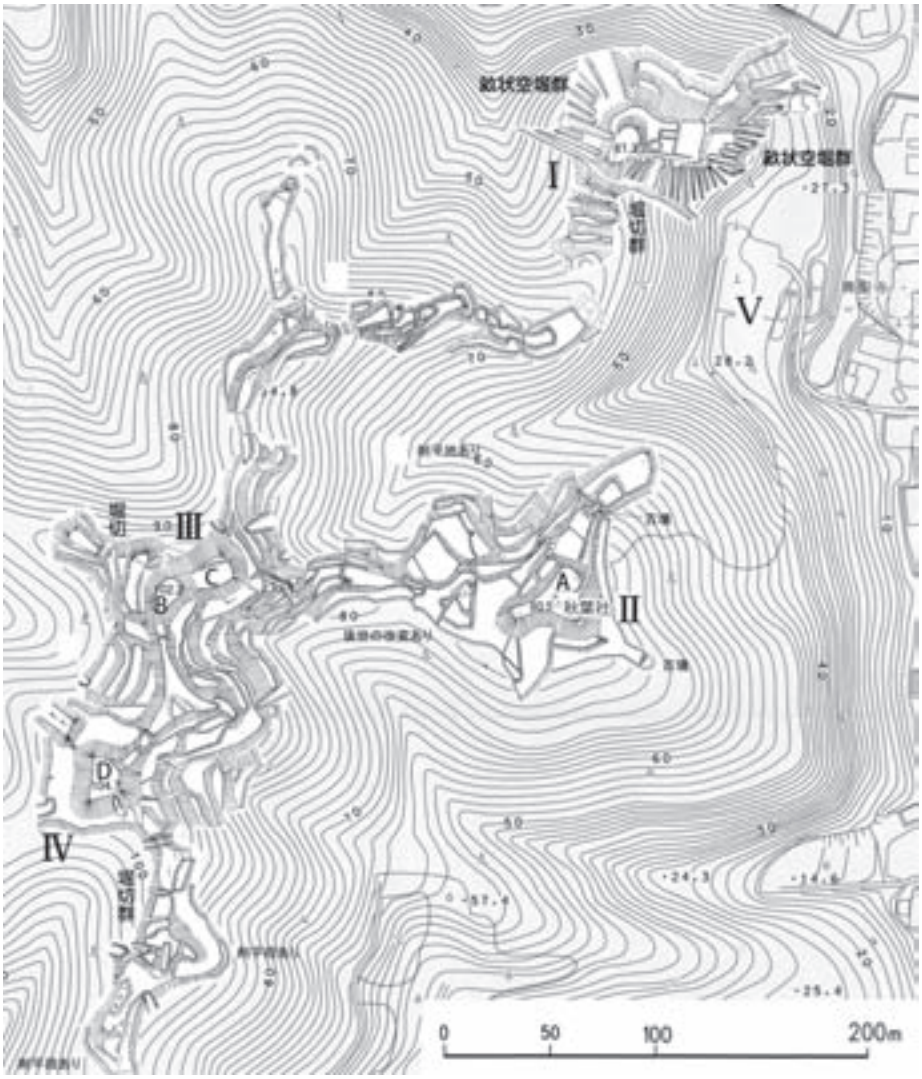
第 137 図　大障子城遠景（最高所のやや右）

| 筑前 260 | 片脇城（かたわきじょう） | 郡名　宗像郡 | 別称　秋葉山城 | 図幅名　筑前東郷（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　宗像市田島 | |

【沿革】宗像大社の南、色定法師ゆかりの興聖寺の裏の丘陵上一帯に位置する。『本編』には「宗像大宮司清氏初て此地に住す。此後代々の社務此城に住居す」とあり、『附録』には、「山上に平らかなる地三所あり。皆南北に長し。南の方三反計、北の方二反計、中なるは五反はかりあり」とあり、現状の縄張りが示す通り、広大な面積を示している。

【概要】興聖寺の裏山一帯は、現在竹林となっており、後世の改変も含め、人工的な平坦地形が無数に広がっているが、城郭に関連する曲輪群は少なくともⅠ～Ⅳの４箇所は確認できる。『福岡県の城』ではⅠを片脇城、Ⅱを秋葉山城とする一方、文献 11・179 ではこれら全体を片脇城とする。ここでは後者と同様、一体のものとして報告する。

Ⅰは標高 61m の頂部に中心的な曲輪を置き、その周囲にいくつかの曲輪を配置して群となし、その周囲、北側斜




第 138 図　片脇城縄張り図（文献 11・藤野正人作成）

面を除く斜面に数多くの畝状空堀群を設ける。また、Ⅱ～Ⅳへ続く尾根上には５本の連続する堀切群を設けて周囲を厳重に防備する。城域内で、これほど厳重に防備するのはⅠのみである。

Ⅰの南側は起伏の少ない丘陵が広く展開しており、頂部をいくつか含んだ地形となっている。前述したようにこの一帯は後世の改変地形も含め、無数の平坦面が展開しており、これら全てを城郭遺構とみなすのは難しい。しかし、所々に堀切遺構（Ⅲの北西側、Ⅳの南側など）が見られることから城郭遺構を含んでいることは間違いない。ほとんどの平坦面群が幅５m も満たない小さいもので、なおかつ平坦面間の高さも１m 内外、いわゆる腰高程度のものであり、後世の耕作等の改変地形と思われるものの、図中のＡ～Ｄについては平坦面として規模もあり、なおかつ周囲との比高が５m 前後もあり、これらは曲輪とみなせるものと考えられる。このようにみると、城域はⅡ・Ⅲ・Ⅳの３つの独立した曲輪群が点在して構成され、それらの外側に堀切を設けて防御した縄張りを想定することができる。いずれにせよ、全長は 600m 近くとみられる。

また、Ⅰの東、興聖寺の裏のⅤにも人工的に造成された平坦地形が見られ、方形を基調とし瓦などの遺物が散在することから、城館に関わる施設（居館など）か興聖寺関連の施設が想定される。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,**11**,33,35,**179**,**207**

**筑前 261　勝浦岳城（かつらだけじょう）**　**郡名　宗像郡**　**別称　桂岳城**　**図幅名　筑前東郷（西）**
**種別　山城**　**所在　福津市勝浦・宗像市田島**

【沿革】宗像大社から西の勝浦へ抜ける峠は名児峠（大坂越え）と呼ばれ、傍らの名児山は万葉集の歌枕ともなったところであるが、その峠の北に聳える勝浦岳（桂岳・標高 158m）に位置する。『本編』では宗像大宮司 36 代氏国、『附録』『拾遺』では 15 代氏平が築城したとする。また、天正６年（1576）の宗像宮造営置札には、永禄 12 年（1569）に大友氏が名子山（勝浦岳城のことか）に陣取った安芸毛利勢と対峙したことが記されている。

【概要】名児峠の北には勝浦岳、その北に名児山（標高 165m）が聳える。『福岡県の城』ではこれら２つの山にわたって曲輪群が展開する（註）とされているが、勝浦岳周辺を除いては自然の平坦地形で城郭ではないとみられる。勝浦岳山頂の南側に 10 ～ 20m 規模の曲輪を３～４箇所配したのみの小規模な遺構が確認できるのみである。堀などの防御遺構もなく、山頂部分も曲輪などに造成していないのは南側の名児峠を見張



第 139 図　勝浦岳城遠景
（左の頂部が名児山、右が勝浦岳）




第 140 図　勝浦岳城縄張り図（事務局作成）

る機能を重視した結果の表れであろう。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,11,33,**38**

【註】『福岡県の城』および文献 38 では、勝浦岳と名児山の位置が、本稿とは逆となっている。

**筑前 262　大穂城（おおぶじょう）**　　**郡名　宗像郡**　　**別称　なし**　　**図幅名　筑前東郷（西）**
**種別　山城**　　**所在　宗像市大穂**

【沿革】宗像市の南西、旧唐津街道に面した大穂の丘陵上に位置する。近くには許斐岳城や小早川隆景ゆかりの宗生寺がある。地誌類などに記載はなく、近年確認されたもので、『城郭』にて「大穂城」として、「大穂集落の北。もと天満宮のあった山上（標高約 90m）に単郭構造の城郭遺構らしきものがある」とあるのが唯一の記載である。

【概要】大穂川に面した標高 94m の丘陵頂部に位置する。南北約 30m、東西約 20m の主郭を頂部に置き、その南側の尾根上に堀切 2 本、東側斜面に竪堀 1 本を設けて防御する。北側には小曲輪を確認できる（竪堀は現在消滅）。

ここから北西 1 km には宗像氏の拠点城郭の一つ、許斐岳城もあり、唐津街道に面していることから、交通の要衝をおさえる出城のような機能を想定できるが、詳細は今後の課題である。

【史料】なし　【参考文献】11



第 141 図　大穂城縄張り図（藤野正人作成・提供）

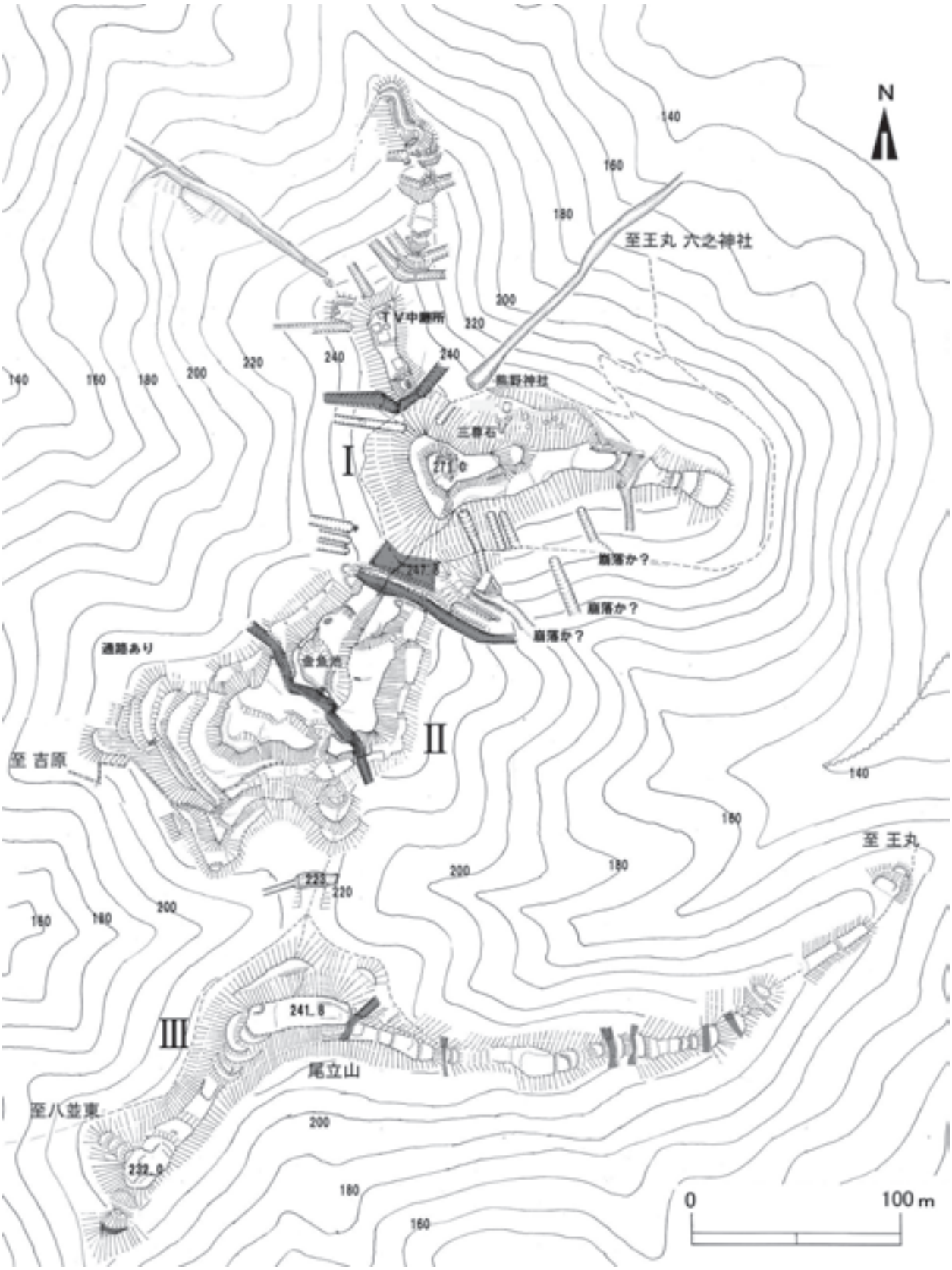

第 142 図　大穂城主郭

**筑前 263　許斐岳城（このみだけじょう）**　　**郡名　宗像郡**　　**別称　許斐山城**　　**図幅名　筑前東郷（西）**
**種別　山城**　　**所在　宗像市王丸・福津市八並**

【沿革】宗像市と福津市との境に聳える許斐岳山頂に位置する。『本編』では宗像大宮司 15 代の氏平が築城し、家臣の許斐左馬太夫氏備が居城したとし、永禄～天正年間にかけて、大友方との争奪の歴史が繰り返されたことが記される。宗像氏の重要拠点の一つであった。

【概要】城域は大きくⅠ～Ⅲの３つの曲輪群に分けるこ


第 143 図　許斐岳城遠景（左奥は立花山）




第 144 図　許斐岳城縄張り図（文献 11・藤野正人作成。網掛け部は堀切（堀切すべては網掛けせず））

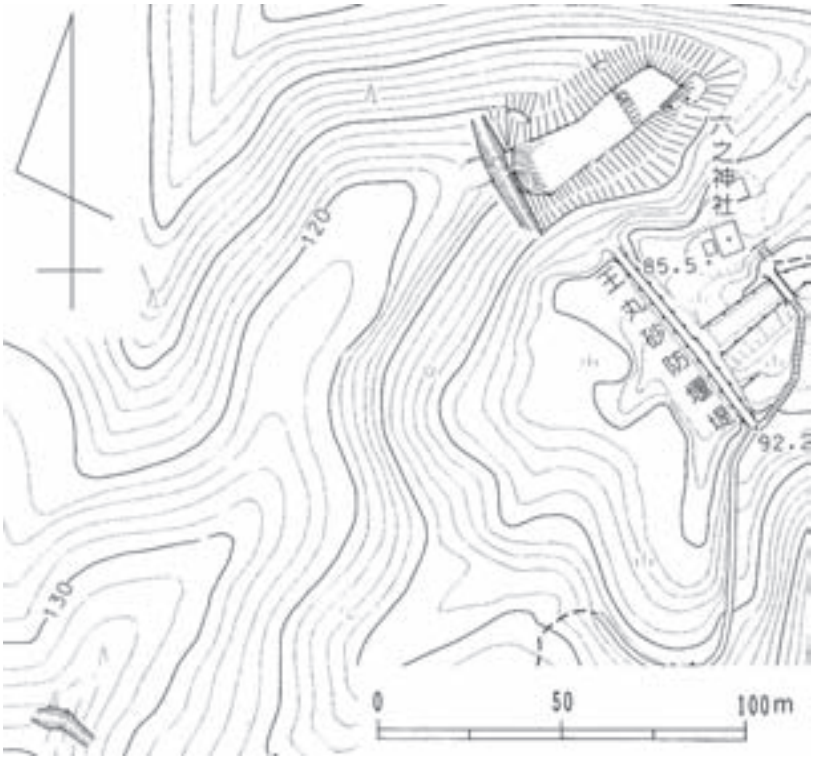
とができる。許斐岳山頂（標高 271m）を中心としたⅠは主郭の周りに帯曲輪を配し、周囲の尾根上には、堀切を何本も重ねて防御すると共に、斜面の要所には竪堀群なども確認することができる。主郭の東側の曲輪は馬場と呼ばれ、『附録』のいう「調馬場」とみられる。主郭の南は、比高 10m 以上もの落差を持ち、非常に規模の大きな堀切を設けて遮断をはかっている（第 145 図）。その南側に広がる曲輪群Ⅱには、水溜め状の大きな窪みがある。『附録』に「池あり。城の用水なりしといふ」とあるのはこれを指す。さらに金魚が自然に生じることから「金魚池」と呼ぶとある。山の中腹にある金魚山熊野宮との関連もある可能性がある。その池状遺構の南には屈曲した堀があり、そのさらに南側にも階段状に曲輪群が続く。



第 145 図　許斐岳城堀切



第 146 図　金魚池




第 147 図　許斐城縄張り図（北東麓部分・文献 207・藤野正人作成）

Ⅱの南側は尾根の鞍部となって、城郭遺構は見られないが、その南側の尾立山には頂部を中心として曲輪群Ⅲが確認できる。一見、後世の階段状造成にも見えるが、尾根上には堀切遺構が複数本確認することができ、ⅠやⅡよりは防御性が低いが、確実に城郭遺構とみてよい。

また、主郭から北東側約 600m 地点の麓にある六之神社の背後の丘陵上には曲輪状の平坦面があり、山頂側に 1 本の堀切が掘られている。また、そこと山頂との間の尾根上にも堀切が見られることから、出曲輪や居館など許斐岳城に関わるものとみられる。『全誌』には「許斐氏宅址」（筑前 D47）が許斐岳の許斐権現（熊野神社）の北七町にあるとし、これに該当する可能性も考えられる。

また、山中からは玉縁を持つ白磁から龍泉窯系青磁や明の青花まで、およそ 12 ～ 16 世紀の中国製陶磁器が見つかっている（文献 207）。平安～鎌倉時代の遺物は熊野神社に関連したものであろうが、中世後期の遺物は許斐岳城に伴うものであろう。主郭のすぐ北側には熊野三尊を象った三尊石などもあり、古く山岳霊場であった山を山城へと大々的に改修していったことが想定される。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,**11**,33,34,37,**174**,**207**

| 筑前 268 | 高宮城（たかみやじょう） | 郡名　宗像郡　別称　高宮山城　図幅名　筑前東郷（西）<br>種別　山城　所在　福津市畦町 |
|---|---|---|

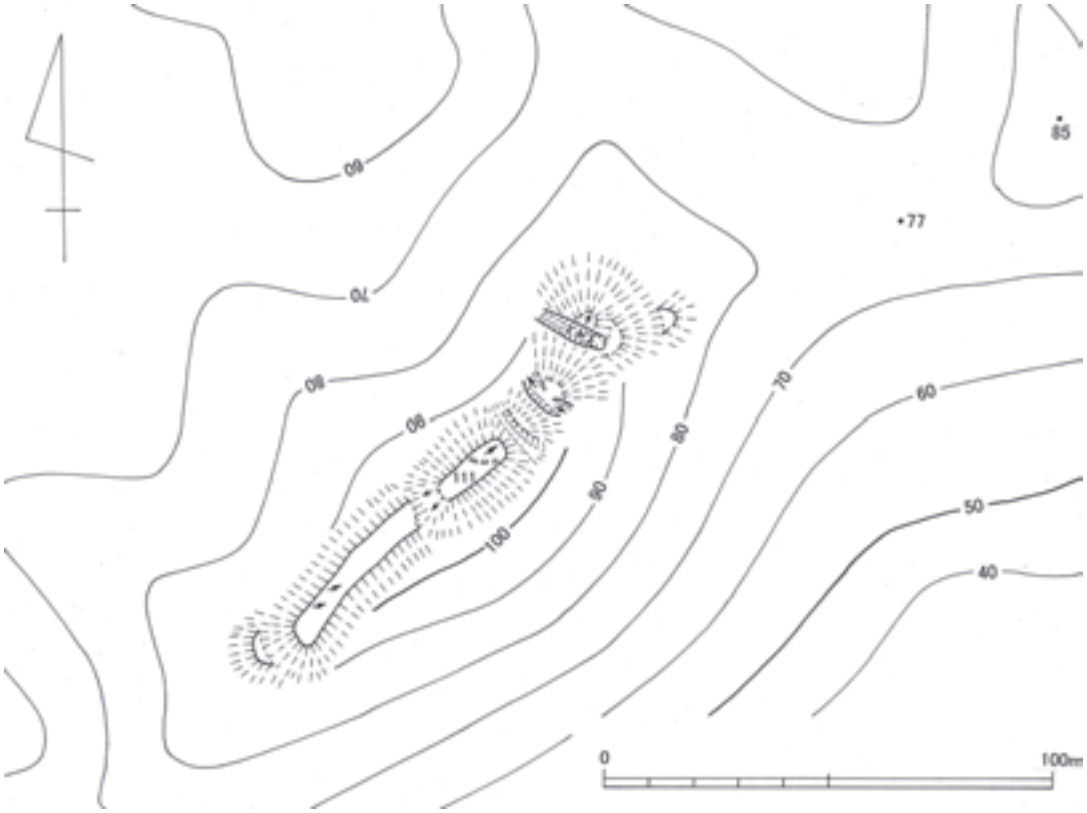
【沿革】福津市東部、西郷川の北側の標高 111m の丘陵頂部に位置する。『本編』では許斐岳城の出城で、『宗像追考』（文献 32 所収）を引用し、吉原源内左衛門が城番であったとするが、『附録』では村民の言として深川弾正弘氏が居したとする。



第 148 図　高宮城遠景

【概要】標高 111m の頂部に 10m × 20m ほどの主郭を置き、その南西側にも幅 10m 未満、長さ 50m の曲輪を置く。主郭の北東側には 3 本の堀切を設け、北東側からの侵入を防いでいる。堀切部分には戦時中の地下壕と思われる大穴がいくつかおられている。小規模な城ではあるが、立花山城方面へ向かう唐津街道に面した交通の要衝をおさえており、伝承のとおり許斐岳城の出城として重要な役割を果たしたとみられる。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 5,8 ～ 11,33,34




第 149 図　高宮城縄張り図（事務局作成）

| 筑前 269 | 冠山城（かんむりやまじょう） | 郡名　宗像郡　別称　冠城・手光城　図幅名　津屋崎（東）<br>種別　山城　所在　福津市手光 |
|---|---|---|

【沿革】福津市の中央部、宗像市大井との境近くの丘陵上に位置する。『本編』では宗像大宮司氏貞が番を置き立花方が城下の道を侵す押さえとしたとあり、『附録』では氏貞が河津丹後守弘業を守ら

せたとある。

【概要】冠集落の北西背後の丘陵頂部（標高 155m）に位置する。頂部に尾根筋方向に長さ 70m、幅約 15m の細長い主郭を置き、その背後の尾根続きを幅 10m、深さ 4 m もある大きな堀切で分断する。主郭の麓側には、竪堀が若干見られるくらいであり、顕著な防御遺構は見られない。『城郭』には中腹や麓にも曲輪や土塁などの遺構があるとしているが、城郭遺構かどうかは現状での判断は難しい。冠集落から峠を越えて宗像方面へ侵入する敵をおさえるには格好の場所を選地していると言えよう。

【史料】なし

【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 10,**11**,33




第 150 図　冠山城縄張り図（藤野正人作成･提供）

## 筑前 270　宮地岳城（みやじだけじょう）

郡名　宗像郡　　別称　なし　　図幅名　津屋崎（東）

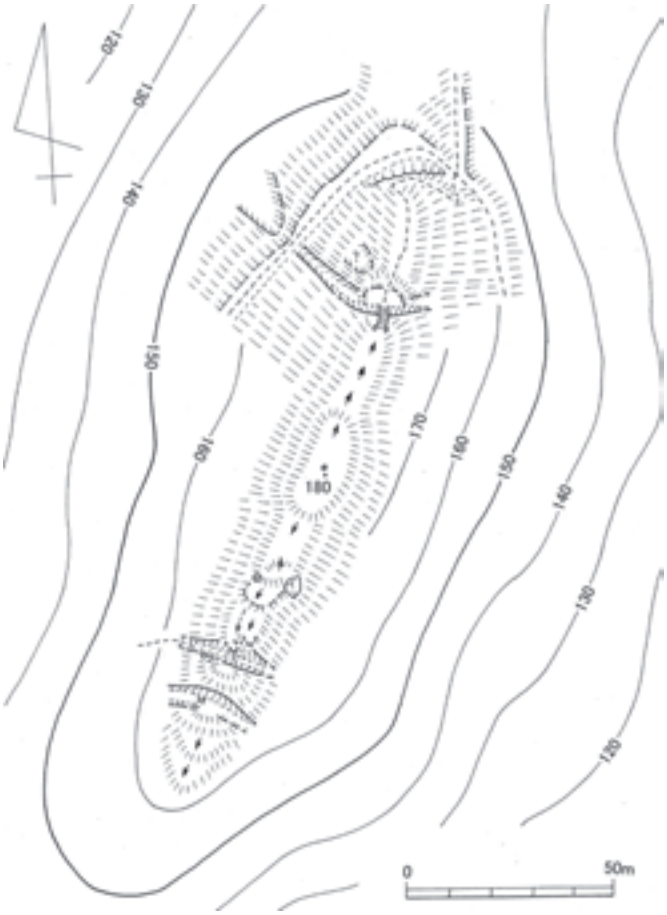
種別　山城　　所在　福津市宮司

【沿革】宮地岳神社の背後、宮地岳山頂に位置する。『本編』では宗像氏貞の家臣、小樋対馬（一説には蔵人）を城番としたとあり、『拾遺』では小樋蔵人に加えて阿部藤七郎を城番として沿岸防備にあたらせたとある。『全誌』ではこれらに加え、宗像大宮司氏国の居城とする。

【概要】宮地岳山頂（標高 180m）は宮地岳上宮が祀られており、自然の平坦地形が広がる。また、山頂の南約 50m 地点には御来光遥拝所の岩があり、宮地岳神社の聖地となっている。その南側に堀切が 2 本、さらに山頂から北側約 50m 地点に堀切 1 本があり、その堀切と堀切の間およそ 100m を城域としていることがわかる。曲輪は基本的に自然の平坦地形をほとんど加工せずにそのまま利用しているようである。単純な構造ではあるものの、玄界灘沿岸部における宗像氏最南端の城郭であり、重要な役割を果たしたものとみられる。

【史料】あり

【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,11,33,**38**




第 151 図　宮地岳城縄張り図（事務局作成）

## 筑前 271　亀山城（かめやまじょう）

郡名　宗像郡　　別称　なし　　図幅名　津屋崎（東）
種別　丘城　　所在　福津市福間駅東3丁目

【沿革】JR 福間駅の東、西郷川の北側にある亀山神社の境内地に位置する。『附録』では「キリヨセといふ所に城跡といふ山あり。河津新四郎といふ者守れり」とある。『附録』には「周廻に堀有」とし、享禄５年に大友方と城主河津新四郎弘業との合戦の様子を記している。

【概要】 亀山神社がある標高 10 ～ 20m の小丘陵で、社殿がある場所が径 10m ほどの曲輪であったとみられる。またその東側にも曲輪が見られ、そこには河津氏の墓が安置される。

また、地割図を見ると、丘陵の周囲に堀と思われる区画の配置が見られ（第 153 図）、『拾遺』の示す堀と思われる。また、東約 100m 地点にある正蓮寺は周囲が丘陵で囲まれた方形区画を呈しており、詳細は不明であるが地元の伝承では河津氏の居館があったとされている。また、文献 189 では城の北東側に隣接して方形区画が見られることから、平地居館を想定するが詳細は不明である。

【史料】なし

【参考文献】2 ～ 5,8 ～ 11,33,34,**184**,**190**



第 152 図　亀山城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）



第 153 図　亀山城周辺地割図（事務局作成）

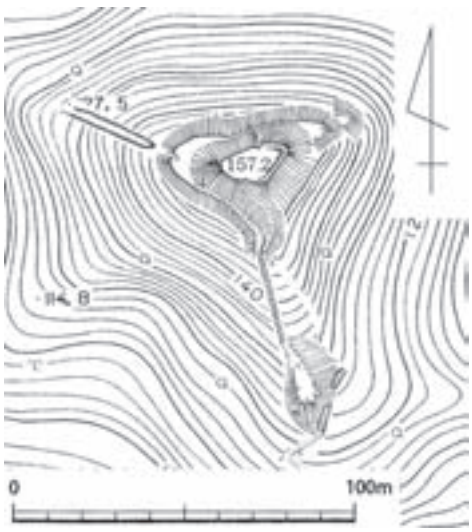
## 筑前 273　飯盛城（いいもりじょう）

郡名　宗像郡　　別称　飯盛山城　　図幅名　脇田（西）
種別　山城　　所在　福津市内殿

【沿革】福津市内殿の南、旧博多往還に隣接し、飯を盛ったような特徴的な姿を呈する飯盛山山頂（標高 157m）に位置する。『本編』では許斐岳城の出城として宗像方が築き、永禄 11 年（1568）に許斐岳城攻防の際に、立花方によって落城したことが事細かに記される。『拾遺』には翌 12 年の合戦についても記され、立花方と宗像方との攻防の城郭である。

【概要】飯盛山山頂に東西約 20m、南北約 10m の主郭を置き、東側に土塁を巡らす。主郭の北東側と北西側にも小曲輪を置く程度の単純な構造である。防御遺構も少なく、南側の登城路沿いと北西側斜面に竪堀がいくつか見られる程度である。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,**11**,33,**190**



第 154 図　飯盛城縄張り図
（文献 11・藤野正人作成）

④糟屋郡

**筑前 274　鶫岳城（つぐみがたけじょう）**

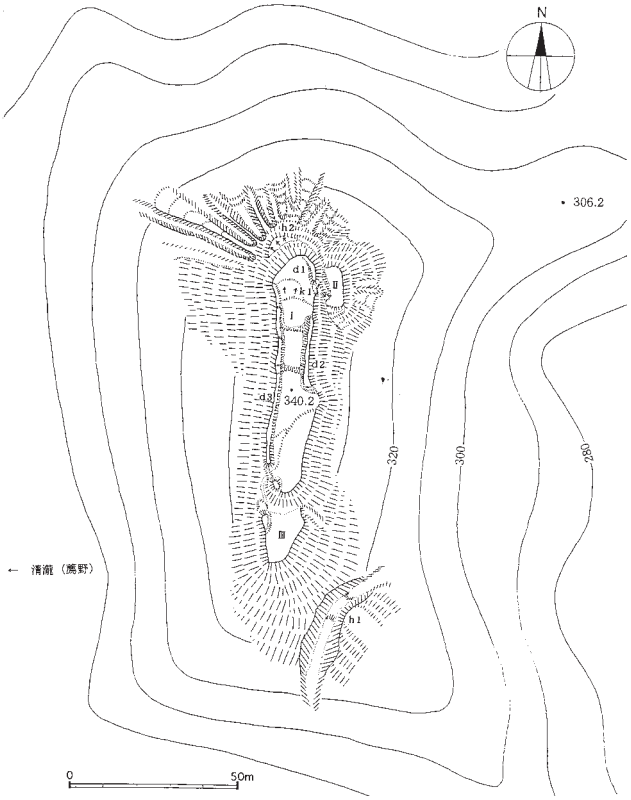
**郡名　宗像郡 / 糟屋郡　別称　鵜ノ木城・津久美ヶ城　図幅名　脇田（西）**
**種別　山城　所在　福津市本木・舎利蔵、古賀市薦野**

【沿革】大根川上流域、古賀市薦野と福津市舎利蔵との境に位置する鶫岳（標高 304m）山頂に位置する。『本編』には薦野城主丹治修理亮峯時が築城し、その弟次郎左衛門武道を置き、後年立花道雪により大鶴宗松を城番としたとある。『拾遺』には上記に加え、津久美美作も豊後より城代として来たため、「津久美ヶ城」と呼ばれるようになったとある。『全誌』では舎利蔵村の項で「鶫岳城址」、薦野村の項では「鵜ノ木古城」として名が記される。

【概要】鶫岳山頂に南北約 80m の細長い曲輪Ⅰを主郭として置き、その北東側と南側に小曲輪Ⅱ・Ⅲを置く。Ⅰの曲輪には土塁が巡り、Ⅰの北側は 10 本ほどの畝状空堀群、Ⅲの南東側は堀切 1 本によって防御している。全長は 100m 近くにも及び、古賀市域ではかなり規模の大きい方の部類で、畝状空堀群など高度な防御技術が見られ、城の重要性が窺い知れる。

【史料】あり

【参考文献】1 ～ 4,7 ～ 10,**11**,**184**,**190**




第 155 図　鶫岳城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）

**筑前 275　小松岡砦（こまつがおかとりで）**

**郡名　糟屋郡　別称　薦野氏邑城　図幅名　脇田（西）**
**種別　丘城　所在　古賀市薦野**

【沿革】薦野氏の居城薦野城がある城の山の西側麓の矢落池のある低丘陵上に位置する。『本編』等には臼ヶ岳城の邑城（里城）で、養徳山というとする。『拾遺』には臼ヶ岳城の砦とあり、広さは二反、古井戸が二か所あるとし、ここに薦野峯延・増時の墓があるとしている。

【概要】現在、矢落池の南西側を養徳山とし、薦野氏の墓地があり、砦の推定地とも考えられるが、文献 190 では池の北西側の若宮神社の境内地を城地とみる。若宮神社境内地は、池の造成により一



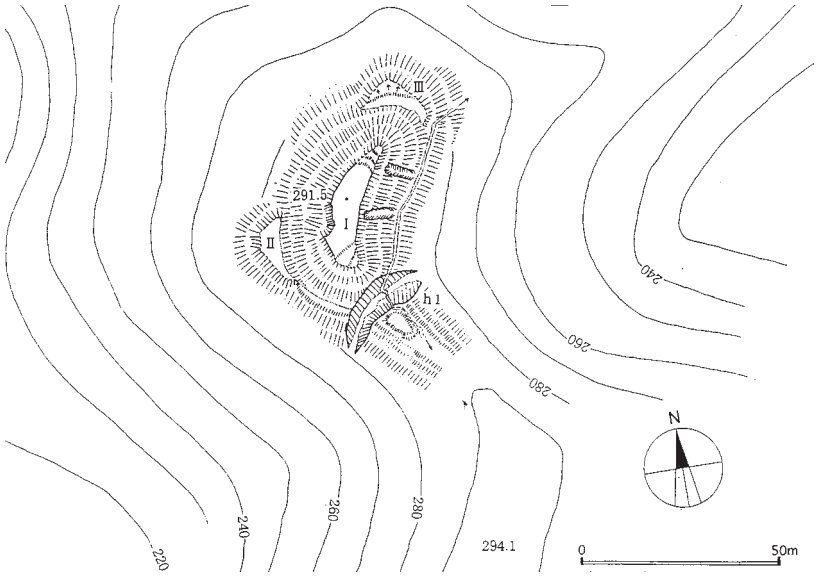

第 156 図　小松ヶ岡砦縄張り図（文献 190・中西義昌作成）

部改変があるとみられるものの、東西約 20m、南北約 10m の平坦面があり、東側背後には浅い堀切で防御するいわゆる単郭構造を呈する。立地などから考えて、地誌類のとおり、臼ヶ岳の里城あるいは砦とみられる。

【史料】なし 【参考文献】1 ～ 4,7 ～ 10,**11**,**190**

**筑前 276 臼ヶ岳城（うすがたけじょう）** **郡名 糟屋郡 別称 薦野臼岳城・茶臼山城 図幅名 脇田（西）**
**種別 山城 所在 古賀市薦野**

【沿革】薦野集落の背後、城の山山頂（標高 291m）に位置する。『本編』には薦野氏の祖、丹治式部少輔峯延が築城したとする。薦野氏は永禄年間には立花山城の在番衆で、天正年間には立花山城の立花氏と行動を共にする大友方の領主であった。



第 157 図 臼ヶ岳城縄張り図（文献 181・中西義昌作成）

【概要】城の山山頂周辺は南北に細長く自然の平坦地形が続いているが、その北端部標高 291m 地点を中心に城域を展開する。南北約 30m の細長い主郭を置き、その北側と西側に小曲輪を備え、南西側の尾根上には堀切 1 本（h1）を設けて尾根続き側からの防御に備えている。そして、東斜面には竪堀 2 本を置く構造となっている。

【史料】あり 【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 10,**11**,**181**,**190**

**筑前 278 米多比城（ねたびじょう）** **郡名 糟屋郡 別称 なし 図幅名 脇田（西）**
**種別 山城・丘城 所在 古賀市米多比**

【沿革】臼ヶ岳城の南西約 1 km、米多比集落の背後の山稜中腹の頂部に位置する。昭和 54 年（1979）発行の福岡県遺跡等分布地図（文献 219）を初出とし、地誌類等には一切出てこない城で、城主などの由来は一切不明である。

【概要】城域は大きく中腹部分（山城部）と山麓部分（里城部）に二分される。山城部分は標高 187m の頂部に南北約 100m にわたって二段に分かれて曲輪Ⅰ・Ⅱが並び、注目すべきはその周囲を土塁と 30 本前後に上る畝状空堀群で防御している。特に北側は竪堀と横堀からなるものである。曲輪の北東部は土塁が途切れており、虎口（k1）となっている。また、曲輪群の北西側と南側には堀切二本（h1,h2）を掘り、厳重に防備している。

中腹の山城部から麓の里城部へは、なだらかな尾根道となっているが、その要所には堀切三本（h3 ～ h6）が設けられ、尾根上の侵攻を妨げている。

麓の里城部分は、現在須賀神社の境内となっており、東西約 30m、南北約 15m の平坦面（Ⅲ）となっ

ている。その平坦面の背後には堀切１本（h6）があり、神社の平坦面も曲輪として機能したものとみられる。また、周囲の集落地には字「源蔵屋敷」や「先城倉」などの地名があり、集落部分には屋敷などの関連施設が想定できる。

上記のように地誌類等では城主などの由来は不明であるが、立地などから考えて、在地領主の米多比氏に関わる居城ではないかと考えられ、またおびただしい数の畝状空堀群や城域の広さなどから見ても、当地域においても優れた城郭遺構を備えたものと評価できる。

【史料】なし　【参考文献】11,181,190




第 158 図　米多比城縄張り図（文献 190・中西義昌作成図を一部改変して事務局作成）

| 筑前 280 | 四万城（しまんじょう） | 郡名　糟屋郡 | 別称　四方城 | 図幅名　脇田（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　古賀市青柳町 | |

【沿革】青柳町の集落の南、標高 145m の独立丘陵の頂部に位置する。城名であるが、近世～近代の地誌類では「四万城」となっているが、『教委』『大系』『福岡県の城』は「四方城」としている。単に「万」を「方」と書き間違えたと思われるが、それを示唆する資料を今回確認することができた。それは九州歴史資料館所蔵の福岡県史編纂資料にある「「糟屋郡史」編纂資料」である。昭和 10 年代に糟屋郡史編纂のために執筆された原稿などの資料であるが（糟屋郡史は未刊）、その中にある「第九章　安土桃山時代」には「附. 城砦古戦場一束」の原稿がある。これは近世の地誌類の記載を元に糟屋郡内の城砦を紹介するもので、目新しい記載もないが、この原稿中に「四~~蕪~~方城山」という記載部分が見られる。しかし、さらに修正され、最終的には「四万城」となっている。昭和 10 年代から「四万」と「四方」の混乱があったものとみられる。地誌類では、新城山城の西、もしくは南にあったとされる。



第 159 図　「糟屋郡史」編纂資料「附. 城砦古戦場一束」中の四万城の記載
（左：修正稿（四方城山）・右：決定稿（四万城山））

【概要】丘陵頂部は東西約 40m、南北約 20m の範囲が平坦となって主郭となしているが、自然の平坦地形が多く、あまり造成加工はなされていない。

主郭の北側と南西側は尾根が続いており、深さ 0.5m にも満たない浅い堀切で防御する。特に北側の堀切は後世の埋没により、段差が見られる程度となっているが、斜面には竪堀状の掘り込みもあり、堀切であった可能性が高い。また、南西の堀切から主郭の南側にかけては細長い帯曲輪が約 50m にわたって巡っている。地誌類では明言していないが、新城山城と同様に、立花方の小規模城館ではないかと思われる。




第 160 図　四万城縄張り図（事務局作成）

【史料】なし

【参考文献】1,3,4,7 ～ 11,190

## 筑前 281　古子城（ふるこじょう）

**郡名**　糟屋郡　　**別称**　古子山城　　**図幅名**　古賀（東）
**種別**　丘城　　**所在**　古賀市青柳

【沿革】古賀市青柳に聳える尾東山（標高 122m）東に派生する丘陵頂部に位置する。『本編』「立花山古城」には、立花鑑載が永禄 11 年に「ふるこの城」を出て立花山から逃れたことを記す。『拾遺』には、上記の事柄に加え、その後吉弘左近大夫鑑理が陣所としたと記す。『種々』には「古子山城址（立花城ノ端城）」と名を載せている。

【概要】標高 100m の頂部に南北約 30m、東西約 20m の主郭（Ⅰ－１）を置き、その南に南北 30m の細長い曲輪Ⅱを置く、さらにⅠ－１の北西側に小曲輪がいくつか見られる程度であり、堀などの防御遺構は認められない。古子城は唐津街道に面した交通の要衝で、立花山城の出城として機能したことが窺われる。

【史料】なし

【参考文献】1,3 ～ 5,11,**181**,**190**



第 161 図　古子城縄張り図（文献 181・中西義昌作成）

## 筑前 282　佐谷城（さたにじょう）

**郡名**　糟屋郡　　**別称**　飛尾城　　**図幅名**　太宰府（西）
**種別**　山城　　**所在**　糟屋郡須恵町佐谷

【沿革】須恵町と篠栗町との境に聳える若杉山の南西、須恵川支流の観音谷川流域の山稜中腹の頂部に位置する。『附録』佐谷村の項には、「チモチウラ（『拾遺』では「木持浦」）と云所に砦の址有。高鳥居の砦なりしと里民いへり」とあり、『拾遺』も「佐谷村古城」として同様の記載がなされる。また、『左谷山健正寺縁起』（『筑前町村書上帳』所収）には「既に当山の飛尾を責む。此城は所謂、杉弾正出城なり」とあり、同書に「飛尾」に地蔵菩薩を安置し、「乳持浦（チモチウラ）」と名付けたとある。すなわち佐谷村古城と飛尾の出城は同一のものを指している。実際、城館遺構がある尾根の麓は「木持浦」と呼ばれている。『種々』には「飛尾城址（杉氏）」の記載が確認できる。

【概要】左谷建正寺の観音谷を挟んだ西側の山稜中腹、標高 199m の頂部に 10m 四方の規模の主郭を置き、その南にⅡ・Ⅲの二つの曲輪を置く、それぞれの曲



第 162 図　佐谷城縄張り図（事務局作成）

輪の間には堀切Bが設けられると共に、両方の曲輪には土塁が築かれる。Ⅲの曲輪の南西部はやや窪んでおり、虎口などが想定できる可能性がある。Ⅰの北側には堀切Aを築いて防御となし、さらにその北側、尾根の鞍部にあたる所にも堀切Cを築く。堀幅が広いことや、東側斜面の竪堀が2本になっていることから、堀切は二重であった可能性も考えられる。その堀切Cの南西側、Ⅰからみて北西側の尾根の鞍部にも堀切Dを設けて防ぎとしている。堀切Cの北側は自然の尾根地形で、曲輪などの遺構はなく、古墳のようなマウンド状の凹凸が見られるのみであるが、約70m先には堀切Eを設け、城域をさらに防御している。

【史料】なし

【参考文献】2～5,8～11,41



第163図　佐谷城遠景（中央。左は若杉山）



第164図　佐谷城堀切

**筑前283　高鳥居城（たかとりいじょう）**　**郡名　糟屋郡**　**別称　鷹取城**　**図幅名　篠栗（西）**
**種別　山城**　**所在　糟屋郡須恵町須恵・上須恵、篠栗町若杉**

【沿革】若杉山から西へ派生する峰、岳城山山頂に位置する。『本編』筑前守護大内氏に代わり、守護代として筑前に入った杉氏代々の居城で、大内氏滅亡後は、杉氏は鞍手郡に退転していたため、城は一時使用されていなかったが、天正14年（1586）に秋月方の星野鎮胤・親胤兄弟（地誌類では吉実・吉兼）が入城し、秋月・島津方の最先鋒となった。翌15年、立花山城攻めの島津勢が退却するや否や、立花山城主の立花統虎（宗茂）はすぐさま高鳥居城を初めとする糟屋郡内の諸城を攻略、高鳥居城も落城し、星野兄弟も討死した。



第165図　高鳥居城遠景（左の頂部。右は若杉山）

なお、『拾遺』には、河津氏の祖、次郎祐重の子、貞重河津弥次郎が築城したとし、その他、神代紀伊守貞総、岡部彦左衛門など、大内氏家臣が城主として挙げられている。

【概要】岳城山山頂（標高381m）には約20m四方の主郭Ⅰ－1を置き、北側を中心に土塁が巡る。北側には小曲輪や堀切を配するのみであるが、そこから南西側の尾根上に曲輪群が展開する。大きく5つの曲輪から構成され、その総延長は200m近くにも上る。それらの曲輪群（Ⅱ－1～4・Ⅲ）には南側を中心に土塁が施され、その南側斜面にはおびただしい数の畝状空堀群が設けられる。特に曲輪Ⅱ-2の南側の尾根上には畝状空堀群に加え、三重の堀切群が構築され、城内でも最も防御性を高めている。曲輪Ⅲは東西50mを超える城内最大の曲輪であるが、そこから北側と西側に尾根が延びており、それぞれ曲輪ⅣとⅤが構築されるが、ⅢからⅤにかけての南側斜面にも畝状空堀群がみられる。曲輪Ⅴの北側と西側の尾根上に堀切を施し、城域を画している。

これら60本前後の畝状空堀群を構築し、厳重な防備を実現しているが、これらの防御遺構は天

正 14 年の星野氏入城の際に行われた改修の結果と思われる。
【史料】あり　【参考文献】1 ～ 9,**10**,**11**,41,**191**



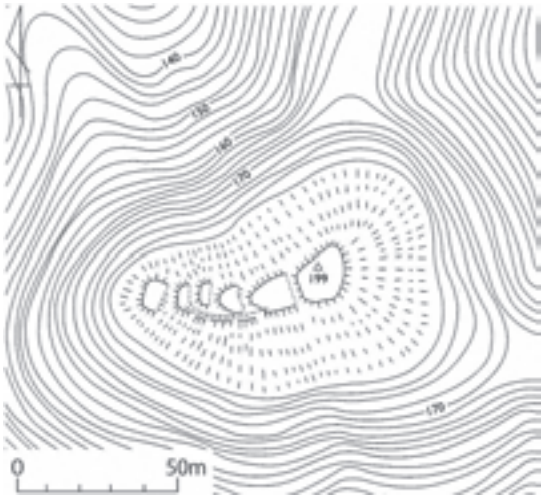
第 166 図　高鳥居城縄張り図（文献 191・中西義昌作成）

| 筑前 284 | **草葉城**（くさばじょう） | 郡名　糟屋郡 | 別称　草場城 | 図幅名　篠栗（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　糟屋郡篠栗町篠栗 | |

【沿革】若杉山、米ノ山の北西麓の丘陵頂部に位置する。『本編』には杉権頭連並の出城とすることから、高鳥居城の出城とみられる。
【概要】標高 199m の丘陵頂部から西側に約 60m にわたって小曲輪群を構成する。周囲は急斜面であり、堀切などの防御遺構はみられない。
【史料】なし
【参考文献】
1 ～ 4,7 ～ 11,40,**80**



第 167 図　草葉城遠景
（粕屋町教育委員会提供）



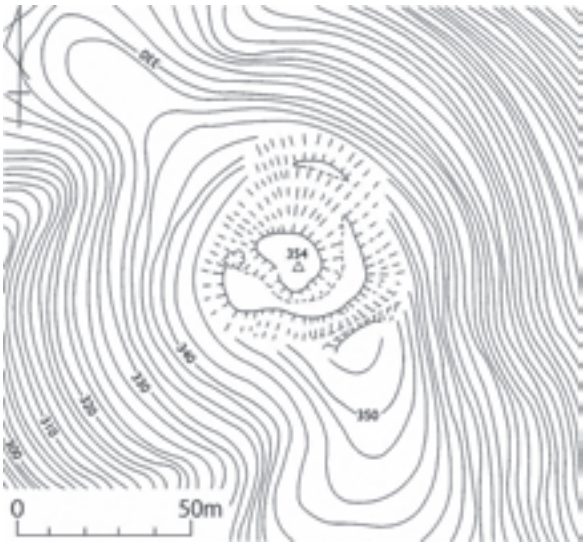

第 168 図　草葉城縄張り図（文献 80・西垣彰博作成）

| 筑前 285 | 飯盛山城（いいもりやまじょう） | 郡名　糟屋郡 | 別称　なし | 図幅名　篠栗（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　糟屋郡篠栗町金出 | |

【沿革】多々良川上流の北岸、犬鳴山系へとつながる山稜中腹部、飯盛山山頂に位置する。『本編』では「古き屋敷跡もあり」とする。『拾遺』によれば、貞治元年（1362）に長者原合戦の際に築城されたとし、天文末年頃には杉連緒に属した毛利三郎が居城としたとある。毛利三郎の子孫は飯野姓を名乗ったという。また、杉氏の高鳥居城の出城ともある。



第 169 図　飯盛山城遠景
（粕屋町教育委員会提供）




第 170 図　飯盛山城縄張り図（文献 80・西垣彰博作成）

【概要】飯盛山山頂（標高 354m）に 20m 四方不整円形の主郭を置き、その南側に幅 10m 前後の帯曲輪を配し、さらにその南東側には堀切 1 本を設け、南側からの備えとする。また、城の北側の峰を「陣が嶺（たお）」と称するが、城館遺構等は確認されていない。『本編』のいう「古き屋敷跡」も所在不明である。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 4,7 ～ 9,**10**,11,40,**80**

| 筑前 286 | 丸山城（まるやまじょう） | 郡名　糟屋郡 | 別称　城山城 | 図幅名　福岡（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　糟屋郡粕屋町大隈 | |

【沿革】博多湾東岸に流れ込む多々良川北岸の丸山山頂に位置する。『本編』等では、杉権頭連並の城とし、平地二段、周囲に堀が巡るとある。『種々』には「城山城址（杉氏）」とある。

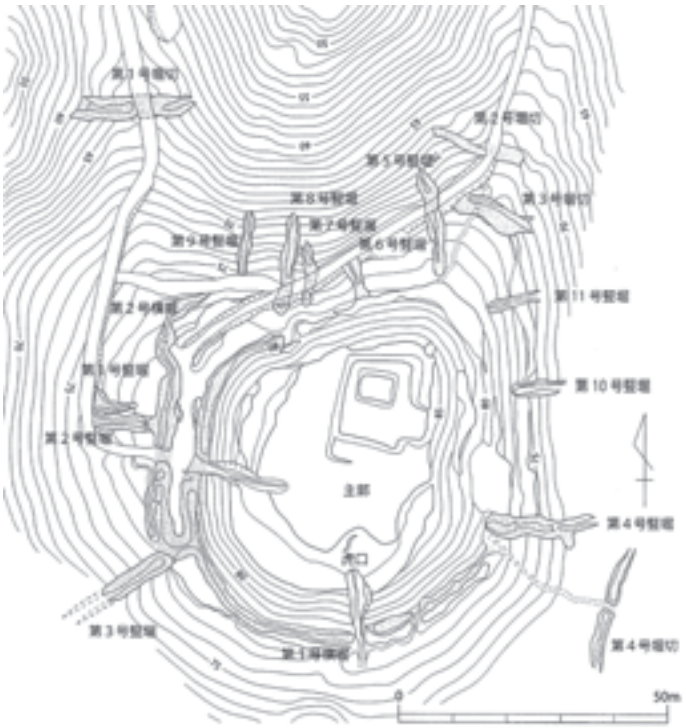


第 171 図　丸山城遠景（粕屋町教育委員会提供）

【概要】丸山城の主要部分は、平成 16 年（2004）度に粕屋町教育委員会により発掘調査がなされている。丸山山頂（標高 86m）には、愛宕神社がかつてあり、神社の基壇状遺構などが見られ、後世の改変が見られるが、概ね径 30m の円形の主郭を置く。発掘調査ではピットや土坑などが検出されたが、城館との関連は不明である。また、現状では主郭へは南側と西側の二方向から入ることができるが、西側については、発掘調査の結果、その部分の堀が後世に埋められていたため、後世の入口とみられ、往時の虎口は南側であったことがわかる。そして主郭の周囲、南から西側にかけては横堀が、東から北側にかけては帯曲輪が巡る。特に西側については横堀が二



第 172 図　丸山城堀切断面
（粕屋町教育委員会提供）



第 173 図　丸山城測量図（文献 80）

重となっており、防御をより一層厳重にしている。また、帯曲輪側を中心に斜面には竪堀が 10 本前後、間隔をあけて配置される。

主郭からは北東、北西、南東の三方向に尾根が延びているが、すべての尾根上には堀切が掘られ、侵入を妨げている。このように、丸山城は小規模ながらも厳重な防備がなされていたことがわかる。

なお、城の東麓には、丸山城落城の際に落命した「黒殿の姫」を祀った黒殿神社があるが、その傍らには石塔群があり、また神社背後の尾根上にも平坦面に加え、石塔群がある。『本編』には石を積んで作られた杉連並の墓所の存在が記載されており、これに該当するものと考えられるし、「黒殿」の名称から在地領主の黒瀬氏に関わるものとも考えられる。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 10,**11**,**80**

**筑前 291　下山田城（しもやまだじょう）**

**郡名　糟屋郡　別称　なし　図幅名　古賀（東）**
**種別　山城　所在　糟屋郡久山町下山田・新宮町立花口**

【沿革】立花山山頂から南東に下る尾根上、新宮町と久山町との境の頂部に位置する。『本編』には永禄期の毛利勢の立花山城籠城の際の大友方の付城であるとする。

【概要】山稜中腹部に全長 100m の長い主郭を置くが、内部は石垣で固められた階段状の小段に分かれており、縁辺部は土塁で囲まれる。そして東斜面には竪堀 15 本からなる畝状空堀群が構築されて防御すると共に、南西、南東、北西側に延びる尾根上にも堀切を設けて、尾根上の侵攻を妨げている。立花山城にも峰続きで近く、出城か付城かの議論はともかく立花山城に関わる城館の一つとしてみてよい。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 4,7 ～ 11,42,**200**



第 174 図　下山田城縄張り図（藤野正人作成・提供）

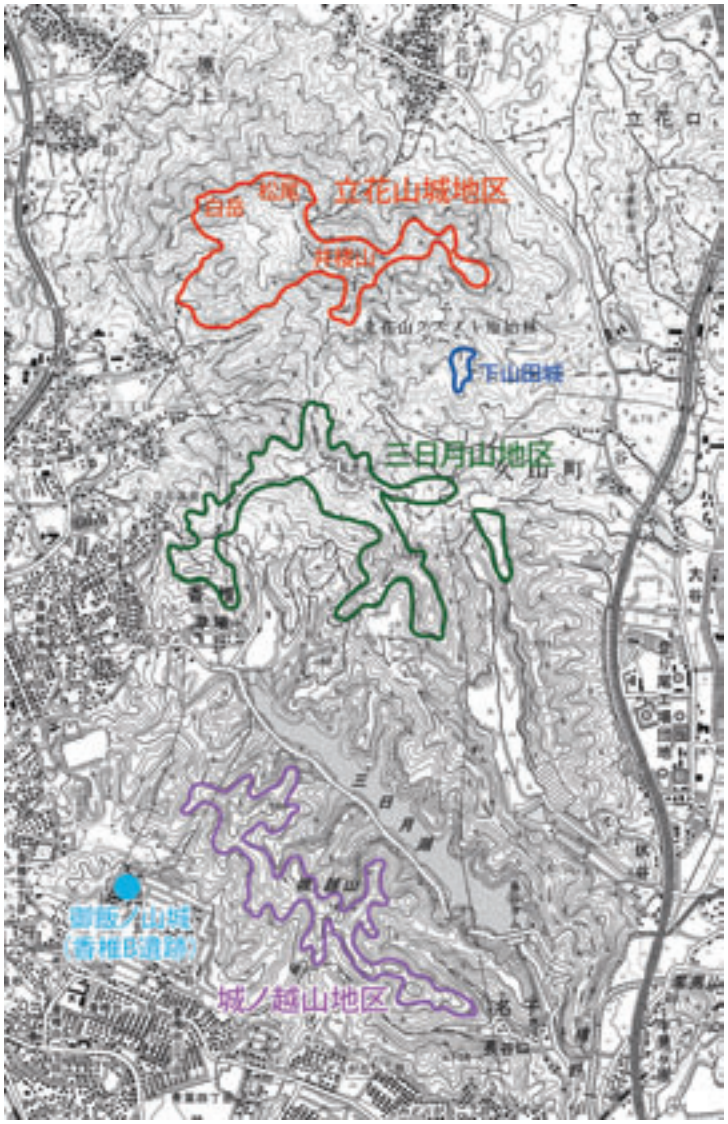
## 筑前 292　立花山城（たちばなやまじょう）

郡名　糟屋郡　別称　立花城　　図幅名　古賀（東）/ 福岡（東）　種別　山城
所在　糟屋郡新宮町立花口・原上、久山町山田、福岡市東区下原・浜男・香椎

【沿革】香椎宮の北側背後に聳える立花山は、井楼山、松尾、白岳の三つの峰から構成されるが、それらの三つの峰を中心に所在する。山頂からは福岡平野全体を見渡すことができ、糟屋郡はもとより福岡平野一帯をおさえる上で重要な城郭である。

元徳２年（1330）に大友貞載が築城して立花姓を称し、以後、代々立花氏の居城となった。糟屋郡を初めとする大友氏の筑前統治の要となった城郭であったため、たびたび周辺勢力から攻撃の目標となった。15 世紀中ごろから 16 世紀にかけては大内氏、少弐氏によって落城している。その後、永禄年間には、立花城督の立花鑑載が、毛利氏と組み、たびたび大友氏に反旗を翻した。永禄 11 ～ 12 年（1568 ～ 69）にかけては毛利と大友が互いに立花山城を奪い合い、籠城・包囲戦が繰り広げられたが、最終的に大友方が勝利、以後、大友氏重臣の戸次鑑連（道雪）が城督につき、天正 13 年（1585）に病没すると、養子の統虎（後の立花宗茂）が跡を継ぐ。翌 14 年には北上してきた島津軍が太宰府市の岩屋城を落城させたのちに、立花山城を包囲するが、一月足らずで島津軍は撤収した。

翌 15 年に豊臣秀吉により九州平定がなされたのちは筑前一国を拝領した小早川隆景の居城となり、さらに翌年隆景が名島城に居城を移すと、家臣乃美宗勝が




第 175 図　立花山城および周辺城館位置図
（国土地理院 1/25,000「福岡」・「古賀」を一部改変して事務局作成）



第 176 図　立花山城遠景（久山町遠見岳から）




第 177 図　筑前国裏粕屋郡立花山古城之図（部分・国立公文書館蔵）

入城した。慶長５年（1600）に小早川家が備前に移封となった際に廃城となった。

【概要】城域は、立花山の三峰（井楼山・松尾・白岳）を中心とした地区のみならず、下山田城に加え、近年、その南側にある三日月山やさらに南側の城ノ越山の地区にも城館遺構が発見されている。三日月山地区、城ノ越山地区については立花山城とは別の山城として報告すべきかもしれないが、評価がまだ定まっておらず、その一方で立花山城と密接な関係にあることは間違いないため、ここで一括して報告することとしたい。

**＜立花山地区の概要＞**井楼山を頂点とし、松尾、白岳の三つの峰を中心に曲輪群が構成される（第 179 図）。井楼山山頂（標高 367m）には、東西約 100m に

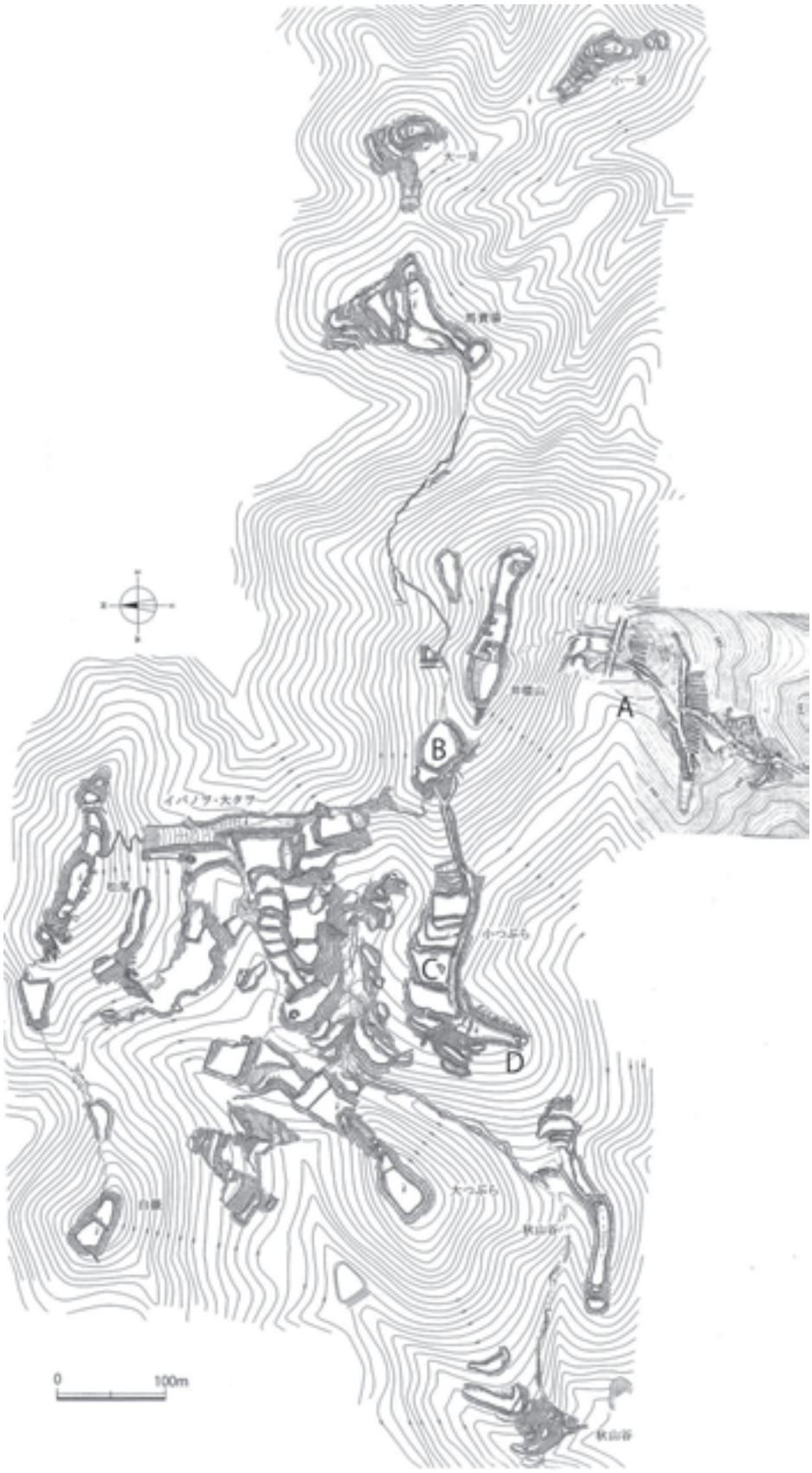


第 178 図　立花山城 A 地点の堀切

わたって曲輪群が形成される。特に注目すべきは、石垣で固められた外枡形虎口を３つ連続して配置し、屈曲しながら城内へ導入させる虎口プランである。これは織豊系城郭による築城技術で、織豊政権に与した小早川氏による織豊期の改修である。

井楼山から東側へ下った尾根には、馬責場、大一足、小一足の曲輪群が、尾根の頂部ごとに形成され、東側からの押さえを果たしている。また、井楼山の南側は、三日月山へと続く尾根線であるが、A地点には堀切と畝状空堀群が過剰なまでに構築されており、戦国期（立花期）の立花山城の中では最も防御遺構が入念に施される場所である（第178図）。これは三日月山側からの侵入に対する警戒を読み取ることができる。

また、井楼山から西へ下るとBの曲輪があるが、ここでは瓦・陶磁器類が多く表採されており、立花期、小早川期双方のものが含まれ、井楼山山頂およびBの曲輪にあったものとみられる。Bの曲輪からは小つぶらとイバ




第179図　立花山城（立花山地区）縄張り図（文献195・木島孝之作成図に井楼山南斜面部分（藤野正人作成・提供図）を合成して事務局作成）

ノヲ・大タヲの二つに尾根がわかれるが、松尾へつながる尾根の鞍部にあたるイバノヲ・大タヲには、井楼山と松尾の二つの頂部をつなぐ土塁、石垣が確認できる（第 180・181 図）。また、ここは新宮町の立花口からの登山道にあたり、やや谷を下った場所には井戸も残されている（第 182 図）。

一方、小つぶらの尾根上には、階段状に曲輪が並び、その南側には通路状遺構が通り、一部土塁状になっている。この遺構は石垣で固められており、C の曲輪に入る箇所や通路の先端部 D には枡形虎口が設けられており、これらの造作も小早川期のものとみられる。

そして、松尾、白岳の頂部にもそれぞれ曲輪群が形成され、各々の頂部を曲輪で固めると共に、小つぶら、松尾に挟まれた福岡市側の谷部分には数十にわたる曲輪の平坦面群が展開しており、城内では最も城域の広い場所となっている。石垣などは見られず、立花期の所産とみられる。さらに西側の大つぶら、秋山谷（絵図には「休ヒ堂」）の頂部にも曲輪が形成される。

以上のように、立花山城地区は、東西約 900m、南北約 500m にも及ぶ広大な城域内に曲輪群を配し、尾根や峰の頂部はもとより谷部分にまで曲輪群を広く展開している。これらの内、井楼山、小つぶら、イバノヲ・大タヲの各地区には、枡形虎口や隅角部を持つ石垣など織豊系城郭の特徴を持つ遺構が見られることから、小早川期に改修・使用されたものであることがわかる。それ以外の地区については上記のような特徴は見られないため、立花期のものであり、戦国期に異常なまでに広大となった城域が小早川期には限定的に改修されて使用されたことがわかる。

**＜三日月山地区＞**井楼山山頂の南に聳える三日月山には、標高 272m の山頂部分を中心として、そこから四方に派生する尾根上に曲輪群は展開する。その範囲は東西約 1 km、南北約 800m で総延長は 2 km 近くにも上り、立花山城地区に匹敵する城域を有している。曲輪群は尾根の頂部にそれぞれ A ～ J の頂部に核となる曲輪を置き、その周囲に階段状に小曲輪を配していく構造を採る。A・D・G・H・α・βには堀切が置かれ、特に H・αには畝状空堀群も確認できる。城域の末端部分、特に城ノ越山がある西側斜面を中心にこれらの防御遺構を配置しているようである。

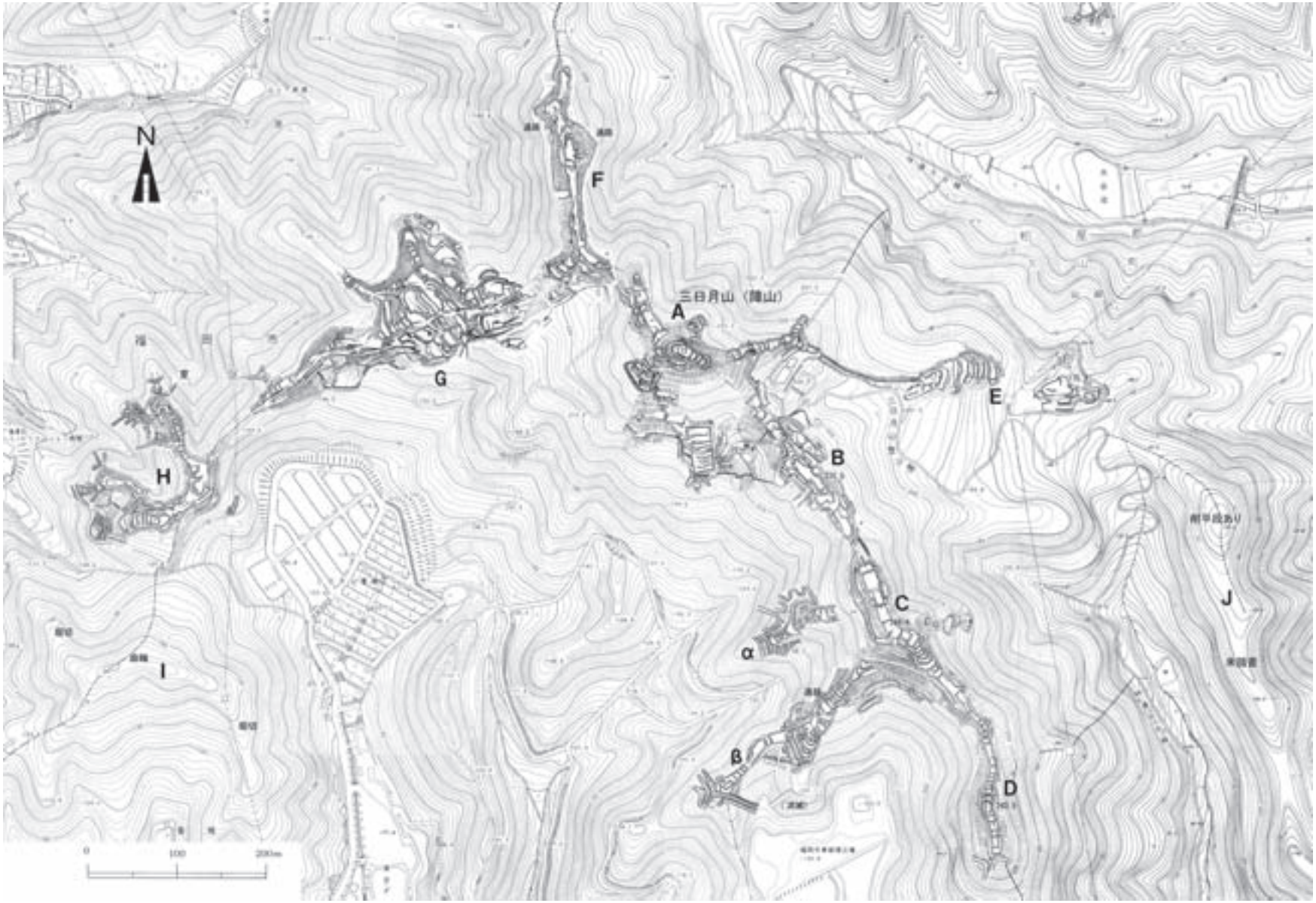

第 180 図　立花山城イバノヲ・大タヲの石垣


第 181 図　立花山城イバノヲの石垣隅角部


第 182 図　立花山城立花口側の井戸


第 183 図　立花山城小つぶら通路遺構の石垣


第 184 図　立花山城曲輪 D の枡形虎口




第 185 図　三日月山地区縄張り図（文献 213・藤野正人作成）

また、Aの南側・B・Eには石垣遺構も見られ、BやEでは枡形状の虎口があったり、BとCとの間の斜面には登り石垣もあり、構築時期については織豊期も含めて検討する必要がある。また、A地区南側の矩形を呈する石垣に囲まれた区画などは城館遺構というより宗教施設などを想定する必要もあるし、G地区の無数に広がる小平坦面群についても、後世の耕作地の可能性も考えられ、詳細については、今後のさらなる検討課題である。

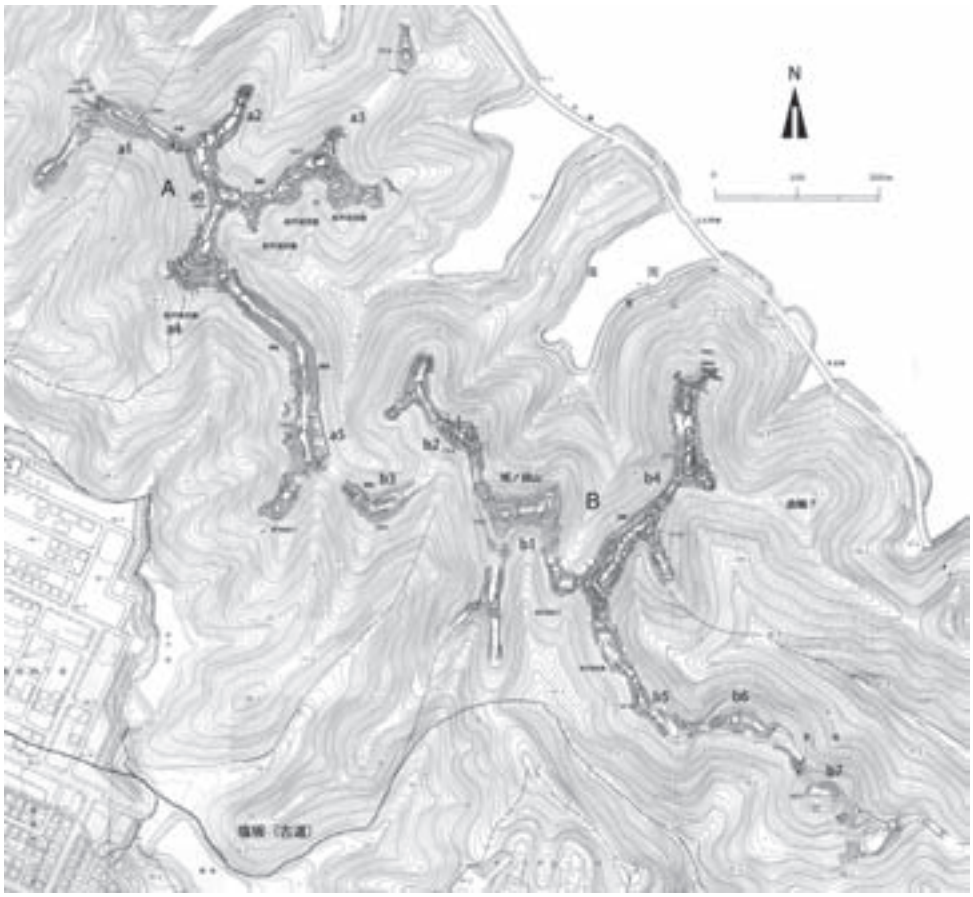


第186図　三日月山遠景（城ノ越山側から）



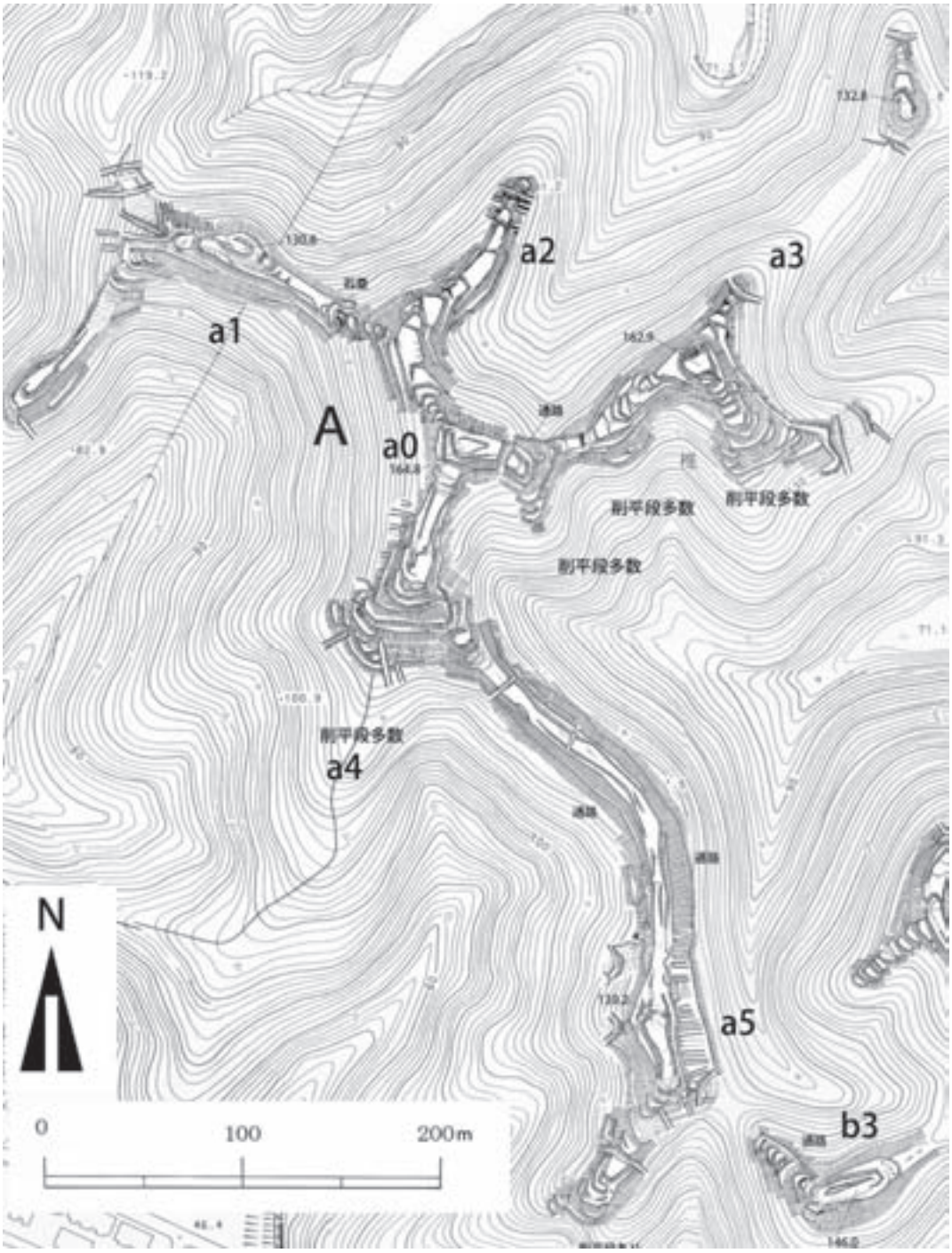
第187図　城ノ越山遠景（三日月山山頂から）

**＜城ノ越山地区＞**三日月山から三日月湖（かつての長谷集落）を挟んで南東側に細長く横たわる城ノ越山山頂を中心に城域が展開している。城域は大きく分けて、城ノ越山山頂部（b1）を中心とするB地区と、山頂の約400m北西に位置する頂部（a0）を中心とするA地区に二分することができるが、基本的には、尾根上の曲輪が形成できる場所はくまなく曲輪としている様子であり、その範囲は約800m四方にわたり、総延長は約2km近くにも上る。それぞれの地区ごとに説明すると、A地区は、標高164mの頂部を中心とし、そこから四方に派生する尾根上に曲輪群を配置する。平坦な地形の所はほとんど段差を設けない一方で、斜面地は階段状の小曲輪を連ねる。a3地点は標高162m地点の頂部に土塁をもった虎口を備える曲輪を配し、周囲に帯曲輪を配するが、この周辺では瓦片も採集されている。




第188図　城ノ越山地区縄張り図（全体）（文献213・藤野正人作成）

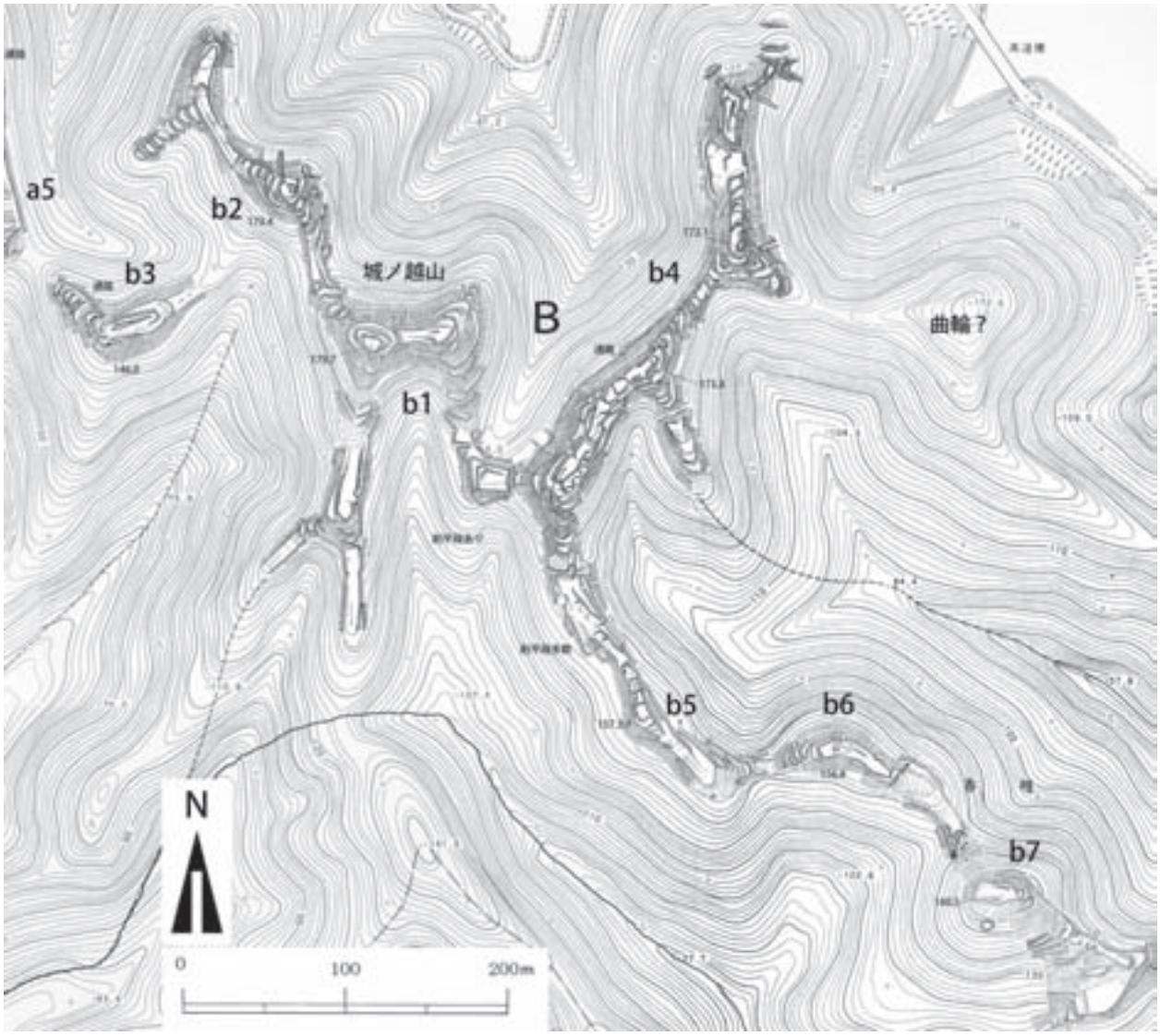
また、それぞれの




第 189 図　城ノ越山地区（A 地区部分）（文献 213・藤野正人作成）

曲輪群の末端は複数本の堀切で遮断するとともに、a0 の北・西側斜面や a1 の北西側斜面、a5 の東側斜面には畝状空堀群を設けて防御を固めている。所々には石垣も確認できる。一方、B 地区は城ノ越山山頂（標高 179m）の頂部に主郭を置き、小曲輪を尾根上に配置する。A 地区同様、曲輪群の末端部に堀切を配置して防御し、a0 や a5 に見られるような畝状空堀群は確認できないが、b4 の末端部の曲輪は土塁で周囲を囲み、麓の尾根側には多重の堀切を設けて厳重に防備しており、防御の工夫を見せている（第 191 図）。

以上のように、城ノ越山地区も他の地区同様、戦国期の城館遺構が大規模に展開していることがわかる。




第 190 図　城ノ越山地区縄張り図（B 地区）（文献 213・藤野正人作成）

**＜各地区の位置づけ＞**『拾遺』には「鑑種陣所」として「下原村の巽に在。山の峯をいふ。平地二反許有」とあり、ちょうど三日月山山頂を指している。「古城図」（第 177 図）にも、三日月山にあたる箇所に「陣山」とあり、「鑑種ノ陣か」と記され、二段の平坦面が描かれる。近世以降には永禄年間の毛利・大友の立花山争奪戦に伴う陣所と認識されている。

一方、城ノ越山は、『拾遺』「老ノ山古城」には、「香椎宮の東北大宮司が宅の上の山也。峯二ツ有。



第 191 図　城ノ越地区の城館遺構
（左：a3 地点の切岸（岩盤削り出しの様子がわかる））
（右：b4 地点の土塁囲みの曲輪）

東の高峯に平地二反許有。城ノ腰と云。東ノ谷を御倉谷と云。南麓に隍の址有。北の谷を笠懸といふ。西の山下に里城の址有」とある。城ノ越山地区の南西側、同一丘陵上には御飯ノ山城（香椎 B 遺跡・筑前 293）として発掘調査がなされ、城館遺構が見つかっている。この南麓が「里城」と呼ばれていることから、これは老ノ山城（御飯ノ山城）の西側の峰にあたるものと思われる。一方、立地場所や「城ノ腰」の名称から、老ノ山城の東の峰は城ノ越山地区の城館遺構にあたる可能性が高い。以上のことから、城ノ越山地区の城館遺構は、御飯ノ山城（香椎 B 遺跡）と密接な関係にあったことが窺われる。

文献 202・208・213 では三日月山地区と城ノ越山地区の城館遺構をそれぞれ城砦群として、永禄年間の毛利・大友の立花山城争奪戦によるもので、三日月山城砦群を立花山城包囲の毛利方の城砦群、城ノ越山城砦群を立花山城救援のため陣取った大友方の城砦群であった可能性を指摘している。ただし、立花山城は戦国時代を通じて、争奪が繰り広げられた山城であり、これらの城館遺構がどの時点にどの勢力によって築かれたのかは即決するのは難しく、今後、さらなる現地調査を進めたうえで、また御飯ノ山城（香椎 B 遺跡）との関係も踏まえつつ、考察を進めていく必要があろう。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 9,**10**,**11**, 39,43,**178**,**181**,**195**,**202**,**208**,**213**

**筑前 293　御飯ノ山城（おいのやまじょう）**　**郡名　糟屋郡**　**別称　老ノ山城**　**図幅名　福岡（東）**
**種別　丘城**　**所在　福岡市東区香椎３丁目**

【沿革】福岡市東区、香椎宮の北東背後に所在する丘陵上に位置していたが、宅地造成により消滅した。『本編』では大友氏家臣の一万田弾正が籠ったとあり、立花山城の出城ともある。『拾遺』には香椎宮が城主を置いたところではないかともしている。『拾遺』には城ノ腰と呼ばれ東西二つの峰で構成されるとある。西側の峰については発掘調査で確認された城館遺構がそれにあたり、東側の峰については不確かではあるが、城ノ越山の城館遺構がそれにあたるものと推測される。以下、概要は西側の峰部分のみとする。

【概要】御飯ノ山城の西の峰は、平成８～９年（2006 ～ 07）度に宅地開発に伴って、福岡市教育委員会によって香椎 B 遺跡として発掘調査が行われた。

城館遺構は、標高 90m の丘陵上に東西約 50m、南北約 20m の主郭を置き、三方向に延びる尾根に堀切、斜面には 10 本ほどの竪堀を設けて防御する。

主郭の平坦面上からは、柵が３列、掘立柱建物７棟が検出された。中でも建物ＳＢ 01 は、16.3m



第 192 図　御飯ノ山城（香椎 B 遺跡）遠景（左：南から（奥に立花山）・右：北から）
（福岡市埋蔵文化財センター提供）

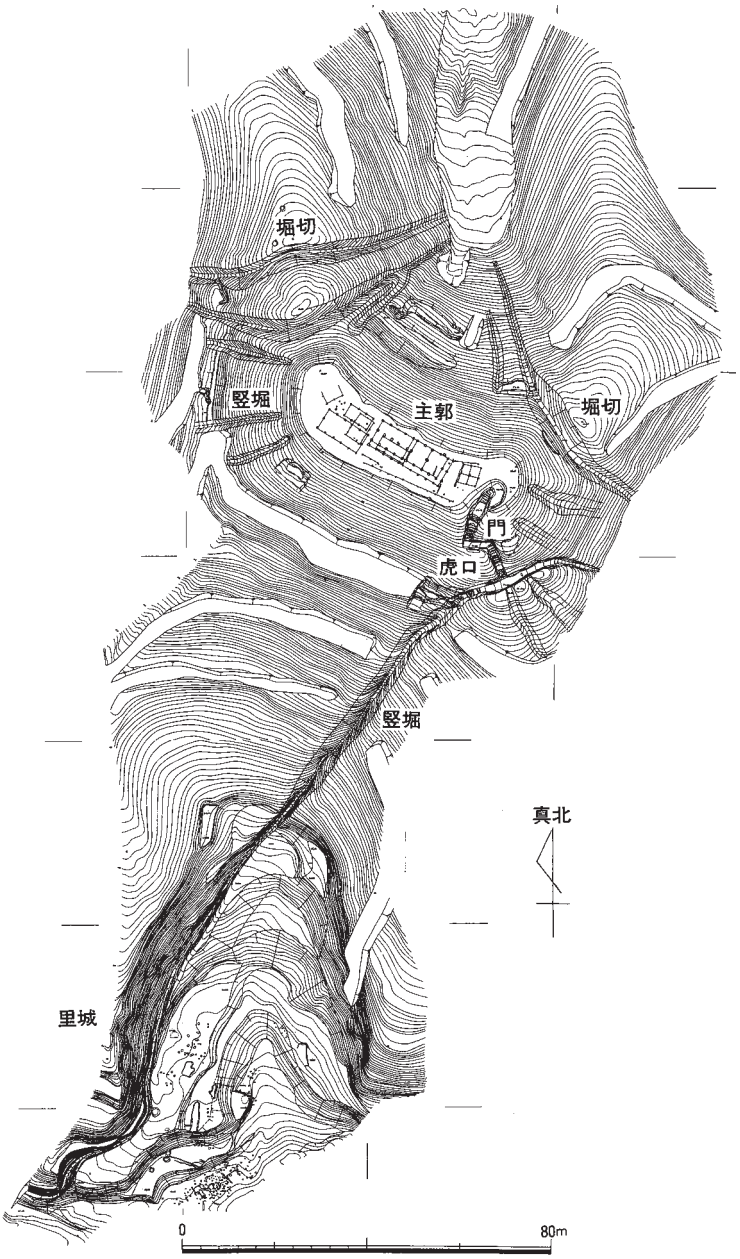
× 4.88m の規模を有し、東面と南面に廂がつく構造で、山城の建物としては非常に立派なものである。

また、主郭の南東側には虎口があり、主郭の導入部分には門と思われる柱穴６基が確認されている。虎口からは階段状の通路を通り、屈曲して堀切の堀底に降りることができるようになっている。そして、その堀底からは南側の麓まで約 200m にわたって竪堀状遺構がある。麓は字が「里城」といい、居館等が想定される場所であるが、竪堀はその里城部分を取り囲むように麓部分で屈曲している（里城部分は未調査 。

この竪堀状遺構については山道が流水によって削り込まれたものであるともみることができるが、斜度のきつさや自然形成とも思えない屈曲具合から人工的なものである可能性が高い。山城と里城部分を一体的に防御しようとした可能性も考えられる。いずれにしても、近年発見された城ノ越山地区の城館遺構とも比較し、検討を進めることが必要であろう。

【史料】なし

【参考文献】1 ～ 4,7 ～ 10,**11**,39,**76**,**182**




第 193 図　御飯ノ山城（香椎 B 遺跡）測量図（文献 76）

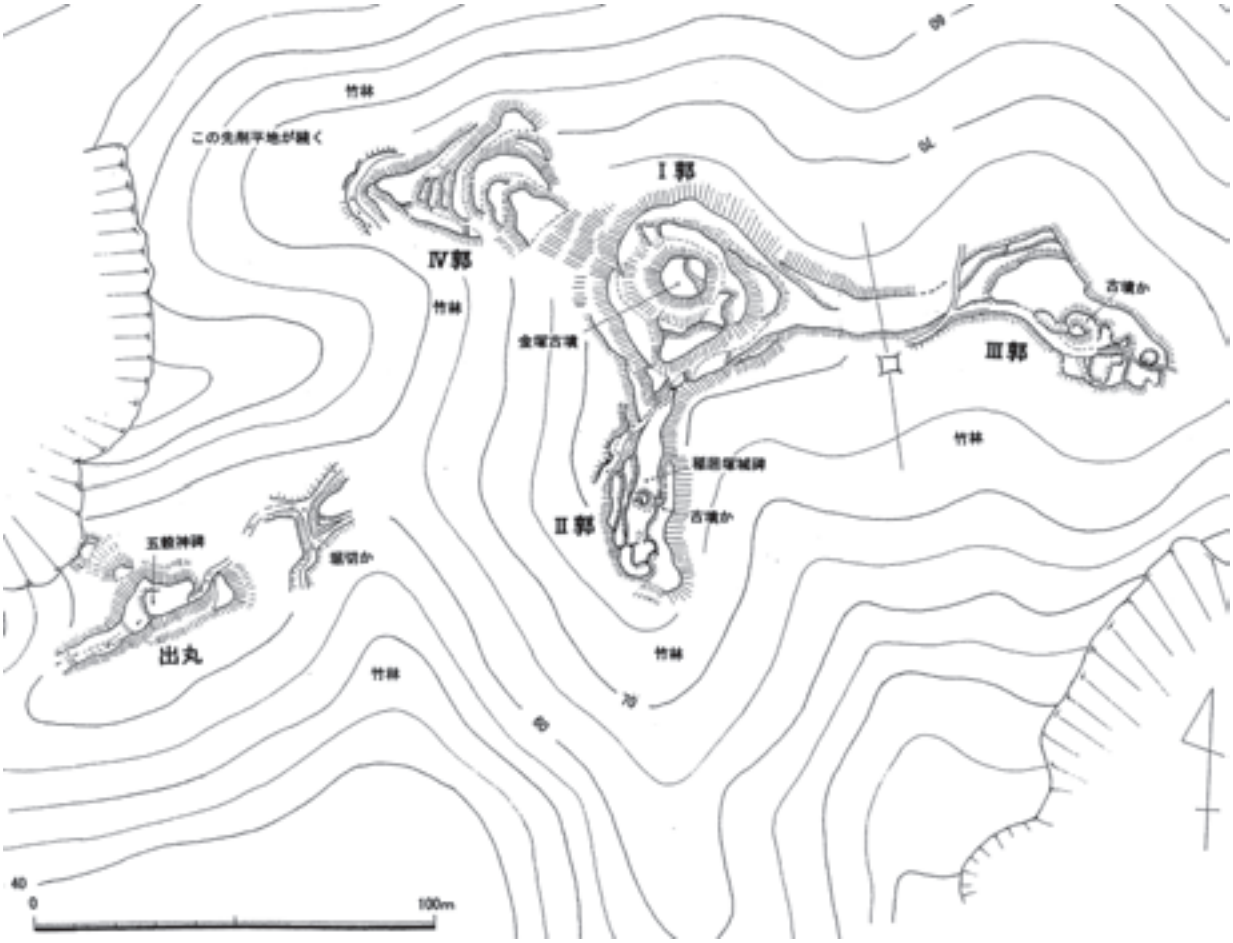
⑤席田郡

| | | | |
|---|---|---|---|
| 筑前 295 | 稲居塚城（いないづかじょう）<br>金居塚城（かねいづかじょう） | 郡名　席田郡　別称　上月隈城　図幅名　福岡南部（東）<br>種別　丘城　所在　福岡市博多区月隈1丁目 | |

【沿革】福岡空港の東、糟屋郡志免町との境近くの丘陵上に位置する。『本編』では安河内遠江守が城主であるとも、また立花山城の出城で戸次治郎兵衛が籠ったともしている。『拾遺』では安河内筑前守の他に、光安筑後守、隈本筑後守が居城としたとも伝え、峰続きに金居塚城という城があるとするが、これらは一連の城であるとしている。

【概要】現在、城のある丘陵全体は竹林等になっており、後世の耕作等による平坦面群が点在し、城郭遺構と区別するのが困難な状況となっている。ただ、丘陵には標高約 80m の頂部を初めとして、尾根上には城館遺構と思われる曲輪の平坦面が残存しているが、堀などの明確な防御遺構は確認できない。Ⅰ郭は主郭部分と想定されるが、頂部には金塚古墳があり、古墳を利用して城郭としているとみられる。また、周辺の尾根上にもⅡ～Ⅳ郭などの曲輪群が想定できる平坦面群が見られる。伝承や地名を尊重すれば、Ⅰ郭が金居塚城、Ⅱ郭が稲居塚城と考えられるが、遺構の広がりの検討と共に、それらを断定するのは難しい。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 4,7 ～ 11,**184**,**190**,**204**




第 194 図　稲居塚城・金居塚城縄張り図（文献 204・山崎龍雄作成）

⑥那珂郡

| 筑前 296 | 古野城（ふるのじょう） | 郡名　那珂郡 | 別称　なし | 図幅名　福岡南部（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　福岡市南区南大橋1丁目 | |

【沿革】福岡市南区大橋、那珂川西岸の丘陵上に位置していた。『本編』には「其名をも城か尾と云。百年前には、的野主税入道了心と云者居たりしと云伝ふ」とあるが、的野了心は黒田家の家臣であり、疑問が残る。

【概要】昭和 30 ～ 40 年代までは、那珂川西岸は、那珂川町の片縄山から北へ派生する標高 40m 前後の丘陵と谷が入り組む地形で、古野城もそのような丘陵上の一つに築かれていたが、現在は一帯が住宅地となり、往時の姿は見る影もなくなり、にわかに所在を特定することは難しい。江戸時代の絵図と昭和 30 年代の地図を比較した結果（第 196 図）、西鉄大橋駅に近い尾根の突端に造られたと想定できる。現在は筑紫丘中学校の南東、福田学園ミネルバ会館の周辺であるとみられる。



第 195 図　那珂郡三宅邨古野城之図
（部分・国立公文書館蔵）

江戸時代の絵図（第 195 図）等を元に、城の構造を見ると、標高 30m の丘陵上に曲輪を 4 面尾根線に沿って並べ、その間を堀切と土塁で遮断する。また、北東の斜面側に向けて二重の横堀（絵図では「ホリキリ」）を設けると共に北側斜面に竪堀 2 本を置き防御を固める構造であった。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 4,7 ～ 11




第 196 図　古野城の位置比較（左：那珂郡三宅邨古野城之図（江戸後期）・右：国土地理院作成 1/25,000「福岡南部」（昭和 35 年）を一部改変して事務局作成）

**筑前 299　新城山城（しんじょうやまじょう）**　**郡名**　那珂郡　**別称**　隈本ノ城　**図幅名**　福岡南部（西）/ 不入道（西）
**種別**　丘城　**所在**　筑紫郡那珂川町西隈

【沿革】那珂川中流域西岸に面した丘陵上に位置する。『附録』には「(西隈)村の乾三町許に城址といふあり。城主しれず」とある。『拾遺』には「新城山古城」として所在、規模などを記し、城主不詳としている。

【概要】西隈周辺は、那珂川西岸に南北に細長い丘陵が延び、その北端の標高 59m の丘陵上に位置する。最高所は横穴式石室を持つ円墳で、その円墳を取り込みつつ、Ⅰの主郭を形成する単郭の構造である。単郭ではあるが、その南側を除く三方には横堀が巡り、要所に竪堀も入る構造を呈する。さらにⅠの北側にあるａは北側からの虎口にあたり、斜面には堀状の通路がジグザグに掘り込まれる。当初は後世の山道かとも思ったが、堀状の通路と横堀とは交差せず、横堀からそのまま通路に移ることができないような防御の工夫がなされていることから、これが城郭遺構であることがわかる。Ⅰの南側は円墳の周溝を利用した横堀と斜面下には堀切を設け、南側の尾根上からの侵攻を防いでいる。



第 197 図　新城山城縄張り図（岡寺　良作成）

地誌類では城主不明だが、筑紫氏の持ち城を記した『城数之覚』には那珂郡に「隈本ノ城」が記される。現在、隈本の地とされる西隈・東隈には新城山城しかない（老林城は別所地内に収まる）ため、この城が「隈本ノ城」とみられる。横堀を多用する筑紫氏の縄張りの特徴とも符合する。

【史料】あり　【参考文献】2 ～ 4,11,**211**


第 198 図　新城山城遠景


第 199 図　新城山城堀切

| 筑前 300 | 老林城（おとなばやしじょう／ろうりんじょう） | 郡名　那珂郡　別称　なし | 図幅名　不入道（西） |
|---|---|---|---|
| | | 種別　山城　所在　筑紫郡那珂川町別所 | |

【沿革】那珂郡と早良郡との境の小笠木峠の東、那珂川西岸に面した丘陵上に位置する。『本編』では亀ノ尾城の出城（『拾遺』では遠見城）であるとし、『拾遺』には長尾とも松尾山とも言うとある。『拾遺』別所村の項、「火乱社」には「松尾の人家の北、城山の南の麓」という表現があることから、城山とも呼ばれていたことがわかる。なお、城名の読み方であるが、江戸時代の地誌類では「をとなばやし」とするが、明治期の『全誌』には「ラウリン」となっており、訓読みから音読みへ変わっていったことがわかる。

【概要】那珂川に突き出した標高 136m の丘陵上に位置する。総延長 100m 近く、幅約 10m の弓なりをした形状の主郭Ⅰを頂部に置き、そこを中心に城域が展開している。主郭Ⅰは高さ 0.5m にも満たない低土塁が曲輪のほぼ全周を巡って防御するが、平坦面はあまり平坦加工がなされていない。主郭Ⅰの東側から西側にかけての斜面に腰曲輪を、尾根上を中心に四か所ほど配している。特に北東尾根の腰曲輪は非常に平坦で広く、城内で最も曲輪らしい形状を呈している。主郭Ⅰの南側から西側にかけての尾根には、大規模な多重の堀切が施される。竪堀なども交えつつ、かなり複雑な構




第 200 図　老林城縄張り図（事務局作成）

造を呈し、主に主郭の南～西側からの侵攻に対する警戒を読み取ることができる。

また、Ⅰの北西の尾根筋約 150m 先の標高 139m 地点には、約 10m 四方の曲輪が二面、土塁と堀切を備えて構築されている（図中Ⅱ）。北西側からの攻撃に備えた出曲輪と見ることができる。

以上のように、老林城は土塁と堀切、竪堀を巧みに多用した高度な縄張りであることがわかる。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 4,7 ～ 11,45,**215**



第 201 図　老林城遠景



第 202 図　老林城主郭切岸

**筑前 301　龍神山城（たつかみやまじょう）（岩門城）**　**郡名　那珂郡**　**別称　山田ノ城・安徳城**　**図幅名　不入道（西）**　**種別　山城**　**所在　筑紫郡那珂川町山田・安徳・上梶原**

【沿革】老林城から那珂川を挟んだ対岸に聳える城山山頂に位置する。山頂からは福岡平野を一望できる好立地にある。『本編』では「龍神山城址」として安徳天皇が岩門に滞在した際の警護の城とする。南北朝期には、「岩門城」として今川了俊、少弐氏が深くかかわることを示す文書があり、また戦国時代には大内氏家臣の遠田兼相・武藤次郎などが岩門在城を賞されている。そして『城数之覚』には「山田ノ城」として筑紫氏の番城となっており、この城にあたるものと思われる。このように長期にわたりさまざまな勢力が使用した那珂郡の拠点城郭の一つである。



第 203 図　龍神山城遠景

【概要】城山山頂（標高 195m）の頂部に径約 20m の主郭Ⅰ－１を置き、その北側には土塁で囲まれた曲輪Ⅰ－３を配置する。その北東側と南側には堀切を構えて防御する。南側の堀切（h2）のさらに南にⅡの曲輪群を構え、尾根上に曲輪が並列する構造をとる。西へ下る尾根上には堀切３本を設けて麓からの敵の侵入に



第 204 図　龍神山城曲輪切岸



第 205 図　龍神山城からみた福岡平野



第 206 図　龍神山城曲輪ピット群
（那珂川町教育委員会提供）



第 207 図　龍神山城堀切土層
（那珂川町教育委員会提供）



第 208 図　龍神山（岩門）城縄張り図
（文献 201、那珂川町教育委員会作成測量図・中西義昌作成図・岡寺　良作成図を合成して岡寺作成）

備えている。一方南側の尾根はⅡ－１・２・３と広めに曲輪を展開させ、落差をもって南側に堀切群（h4 ～ 6・山頂中央堀切群）を設ける。

その堀切群から南は一見自然地形が展開し、城域ではないという考えもあるが、やや人為的に平坦面化しているＡとＢの曲輪を中心に、その周囲の尾根上に浅いものの人為的に掘削して生じた堀切を三方に配置していることから（C ～ E）、その範囲内は城域とみてよい。造成などをあまり加えない粗放な空間が広がることから、駐屯地などの機能が考えられる。

なお、平成 14 ～ 16 年（2002 ～ 04）度に部分的に発掘調査が行われ、主郭の平坦面上では多数のピット群と中世遺物が検出されるとともに、堀切などの埋没状況等が確かめられた。また、Bの曲輪でもトレンチ調査が行われたが、こちらではピット等は検出されず、一時的、臨時的な使用を示しているのではないかと考えられる。

【史料】あり　【参考文献】1,2,4,7 ～ 9,**10**,**11**,**133**,**194**,**201**,**215**

**筑前 303　猫嶺城（ねことうげじょう）**　　**郡名　那珂郡**　　**別称　猫尾ノ城・猫城**　　**図幅名　不入道（西）**
**種別　丘城**　　**所在　筑紫郡那珂川町不入道**

【沿革】城山の南に高く聳える矢岳から西へ派生する尾根は、山田と不入道あたりでは那珂川にまで突き出している。中でも那珂川が屈曲して流れる不入道の地には猫嶺（ねことうげ）と呼ばれる急峻な地形があり、その先端部に城は位置する。

近世の地誌類では山田兵部丞が居たとし、『城数之覚』では「猫尾ノ城」として筑紫氏の番城であったとみられる。

【概要】標高 104m の頂部を中心に全長約 50m の主郭Ⅰ－１を置き、その北側には土塁囲みの曲輪Ⅰ－２があり、東側に虎口を構える。その北側には堀切２本を設けて、尾根の鞍部側からの攻撃に備える。鞍部は今では国道により開削されているが、かつては「猫嶺」と呼ばれる峠越えルートであった。主郭の南側にも土塁を構えた曲輪を２つほど並べている。

那珂郡の南と北をつなぐ重要な交通の要衝に在り、南北の往来を厳重に監視する役割も果たしていたとみられる。



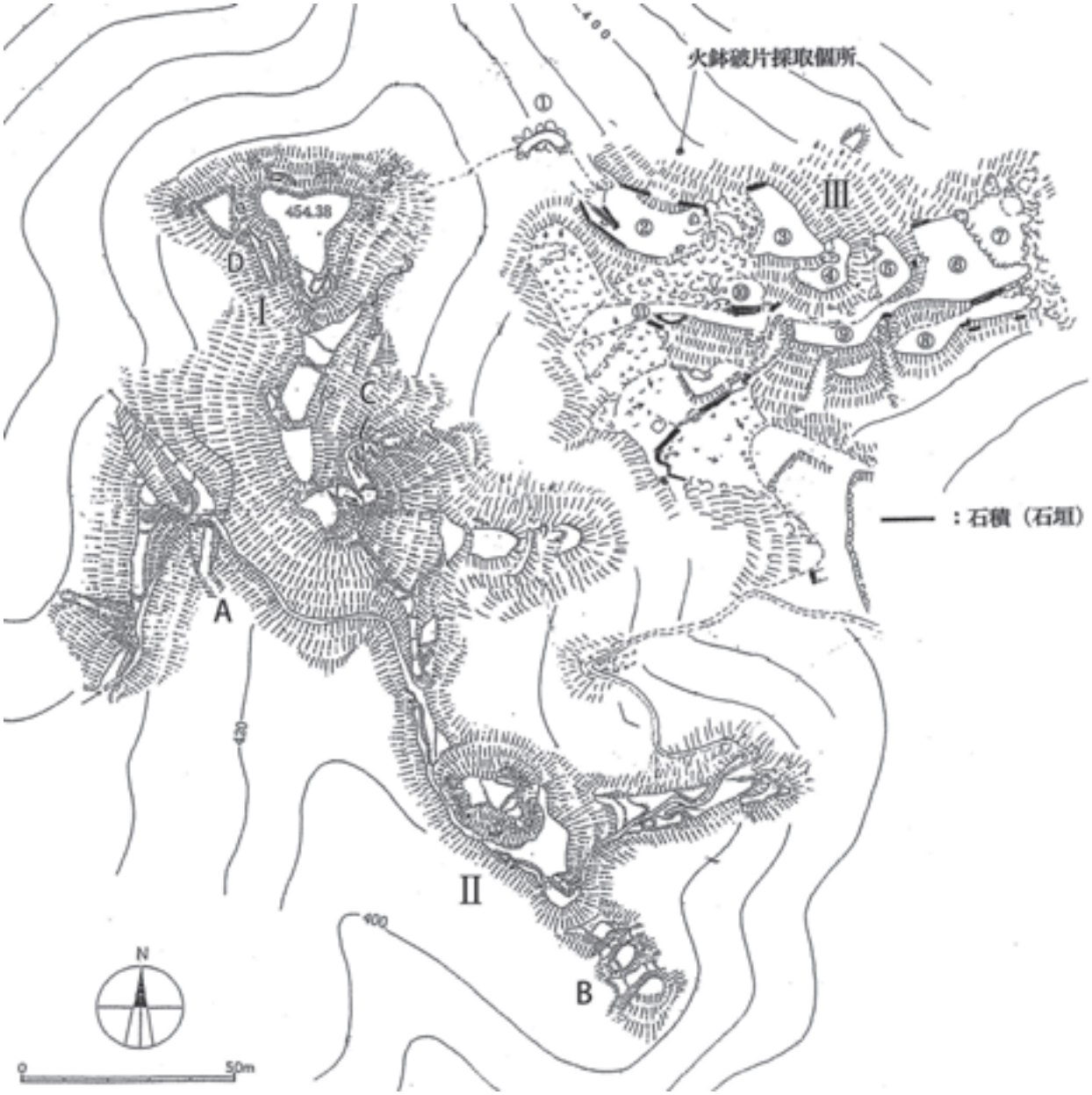
第 209 図　猫嶺城縄張り図（文献 190・中西義昌作成）

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 11,45,**190**,**194**,**215**

**筑前 305　鷲ヶ岳城（わしがたけじょう）**　　**郡名　那珂郡**　　**別称　滑城**　　**図幅名　不入道（西）**
**種別　山城**　　**所在　筑紫郡那珂川町南面里**

【沿革】那珂川西岸に聳える成竹山（標高 580m）から北へ派生する尾根上、鷲ヶ岳山頂に位置する。山頂からは福岡平野を一望のもとにすることができる。『本編』には大友氏の家臣、大鶴宗雲（『拾遺』では宗周）が那珂郡の拠点として築き、居城とした城とされ、天正７年（1579）に龍造寺隆信方の攻撃を撃破したが、同９年に筑紫廣門によって落城せられたとする。『拾遺』には築城年を永禄３年（1560）の大友方による筑紫秋月方攻略時であるとし、永禄３年築城の記事については、南面里の会下の岩崖の銘にあるとする。実際、この岩崖の銘は、『全誌』の他、昭和 51 年（1976）刊行の『郷土史那珂川』（文献 45）に「当城所事永禄五年（『全誌』


第 210 図　鷲ヶ岳から眺めた福岡平野




第 211 図　鷲ヶ岳城縄張り図（文献 206・中西義昌作成図・村上勝郎・田中賢二作成図を合成して村上・田中作成）

は永禄三年）･･･」と刻まれているとある（「会下の岩崖」の遺跡番号は 0262）。

【概要】城の曲輪群は大きく三分される（Ⅰ～Ⅲ）。標高 454m 地点を中心とした曲輪群Ⅰは山頂部に約 20m 四方の主郭を置き、そこから南側へ延びる尾根線上に曲輪群を並列させる。西側の尾根（A）には、大型の堀切 2 本を設け、城域を画す。Ⅰの曲輪群の周囲には、東側と西側の斜面（C・D）を中心に自然石を利用した石垣が積



第 212 図　鷲ヶ岳城堀切

まれる。

Ⅰから尾根の鞍部を挟んだ南側にはⅡの曲輪群が尾根上に展開する。その南側には、三重の堀切Bが構えられ、南側からの防御に備えている。一方、東側の尾根は緩やかな傾斜の平坦面が設けられ、谷へ向かって道が続いている。谷を挟んで北側の尾根に曲輪群Ⅲが展開している。併せて11ほどの曲輪面が確認でき、それらには大振りの自然石を用いた石垣が用いられている。



第213図 鷲ヶ岳城曲輪群Ⅰの石垣







第214図　鷲ヶ岳城曲輪群Ⅲの石垣

従来、曲輪群Ⅲは城館遺構として認識されていなかったが、堀切などの顕著な防御遺構はないものの、中世の火鉢なども採集されており、その時期の人為的構築物であり、また城の縄張りの配置としても違和感はないため、鷲ヶ岳城の一部とみてよいと思われる。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,**11**,**190**,**206**

## 筑前307　一ノ岳城（いちのたけじょう）

**郡名**　那珂郡　　**別称**　五箇山城　　**図幅名**　不入道（西）
**種別**　山城　　**所在**　筑紫郡那珂川町五ヶ山・市ノ瀬

【概要】那珂川町の平野部の最奥部、亀ノ尾峠の西に聳える一ノ岳山頂に位置する。『本編』では九州探題千葉氏の居城で、後に筑紫廣門の出城であったとする。『城数之覚』では「一ノ嶽ノ城」で、筑紫氏の番城として記載される。天正14年（1586）に島津方によって落とされ、翌年の豊臣秀吉の九州平定まで秋月氏の持ち城となった。

【概要】標高646mの一ノ岳山頂を中心に城域は展開する。




第215図　一ノ岳城と亀ノ尾城



第216図　一ノ岳城堀切




第 217 図　一ノ岳城縄張り図（文献 201・岡寺　良作成）

山頂部に南北約 50m、東西約 20m の細長い主郭 a を置き、その南側の尾根上に細長く曲輪群が並列する。その西側には自然石による石垣 b が築かれる。これらの曲輪群の西側斜面一帯には、横堀 d が築かれ、その横堀の下には一面に畝状空堀群が築かれる。竪堀の数は、後世の炭焼による破壊を考えれば、30 本を超える規模とみられる。竪堀のさらに斜面下にも横堀を設け、さらに防御を固くしている。その畝状空堀群の北側は北西側につながる尾根を堀切で断ち切っているが、尾根の先には一部曲輪も認められる。

一方、山頂の曲輪群の東側斜面には特に防御遺構はみられず、そのまま尾根の鞍部へと続いている。尾根の鞍部は約40m四方の曲輪g、曲輪iが並び、その南北側の斜面には石垣遺構が見られる（石垣j,k）。特に南側斜面の石垣kは高さが3m前後にもなる大掛かりなもので、最も高くなる箇所は二段に分けてセットバックして積んでいる様子がわかる。隅角部を造り出しているが、いわゆる算木積みとはなっておらず、戦国期のものとみられる。曲輪群はその東の頂部hにも見られ、土塁と堀切でその北東側斜面からの防御としている。


第218図　一ノ岳城石垣j

そこから南側へ延びる尾根上にはlなどの平坦面があるが、周囲は炭焼き遺構が多く存在し、城館遺構と断定することは難しい。ただ、南の尾根の先端部mには登山口の両側に竪堀を掘っており、いわゆる城に出入りする虎口のような機能を持っていたものとみられる。


第219図　一ノ岳城石垣k

以上のように、一ノ岳城は、総延長500m近くもある規模を誇るのみならず、膨大な数の畝状空堀群を持つ那珂郡の中でも屈指の戦国期城館であり、筑紫氏の筑前進出の足掛かりとなる城館として機能したものとみられる。

【史料】あり　【参考文献】1～5,7～9,**10**,11,**201**,**215**

## 筑前308　亀ノ尾城（かめのおじょう）

**郡名**　那珂郡　**別称**　虎ヶ岳城・虎ヶ山城・笹城　**図幅名**　不入道（西）
**種別**　山城　**所在**　筑紫郡那珂川町五ヶ山・市ノ瀬

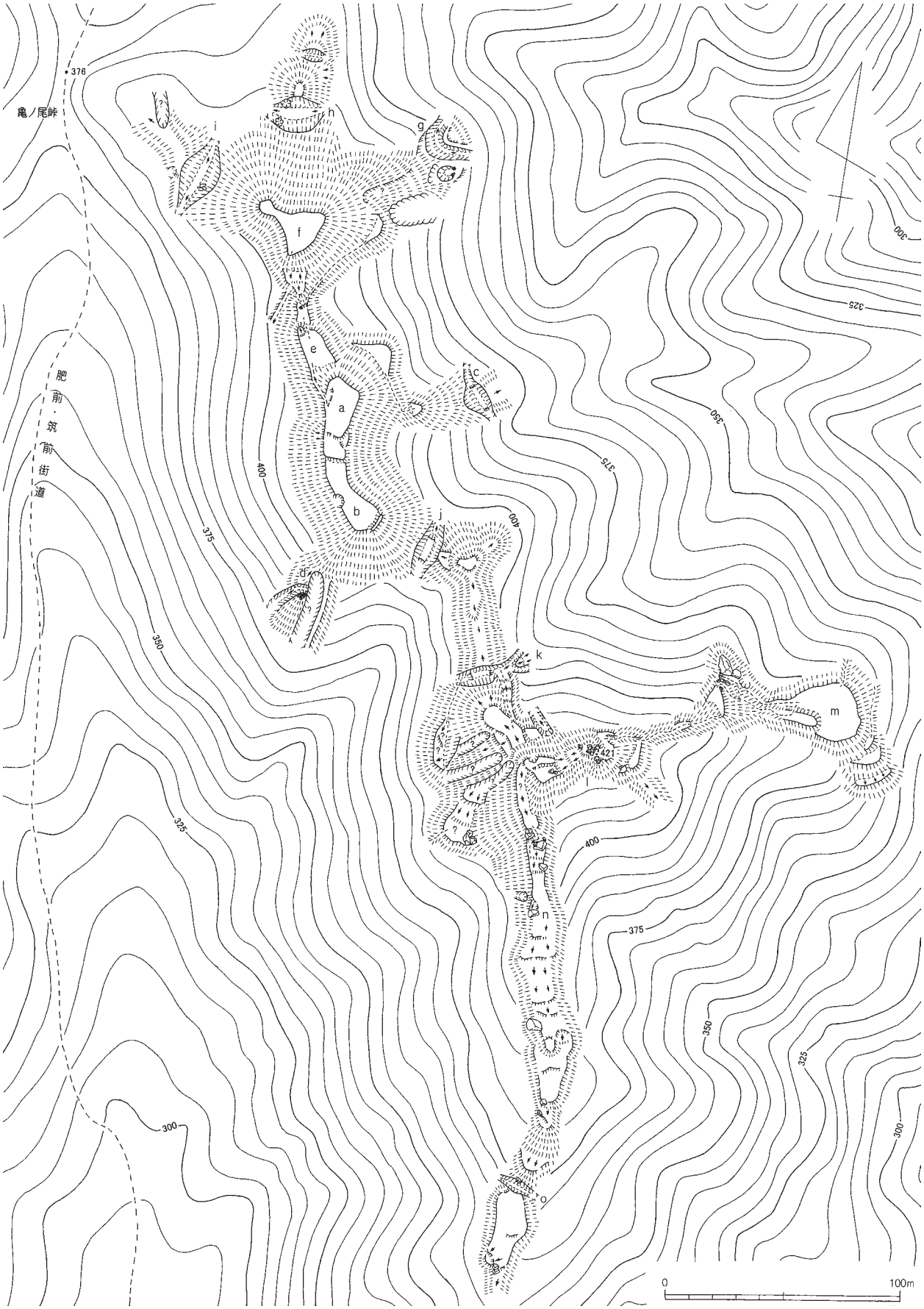
【沿革】亀ノ尾峠の東に聳える亀ノ尾山の二つの峰に位置する。『本編』には「網取（五ヶ山の枝村）村の境内に虎か岳とて古城の址あり。城主しれず。亀尾山につづきて少東南の方にあり」とし、「麻生氏の端城と云伝ふ」とある。また、「亀ノ尾城」についても「是は大友家の旗下麻生民部少輔が居城」とする。『拾遺』には亀尾古城と虎ヶ嶽古城を併記し、亀ノ尾城の南に虎ヶ岳城があるとし、虎ヶ岳城を笹城ともいうとある。現状確認できる亀ノ尾城は二つの峰にまたがっているため、亀ノ尾城と虎ヶ岳城（笹城）は一体の城郭であったとみてよいと思われる。


第220図　亀ノ尾城遠景

なお、一次史料では亀尾城は九州探題渋川氏の居城で、渋川氏衰退後は大内氏家臣の遠田弘常が城督となっている。さらに『本編』によると天正14年（1586）の島津方の一ノ岳城攻略の際には、亀ノ尾城は島津方の向陣（付け城）として利用されたとある。


第221図　亀ノ尾城堀切

【概要】亀ノ尾山は標高420m前後の頂部が南北に二つ並んでおり、地誌類の記載から、北を亀ノ尾城、南を虎ヶ岳城と呼ん




第 222 図　亀ノ尾城縄張り図（文献 201・下高大輔・岡寺　良作成）

でいたとみられる。北側の曲輪群（a,b,e,f）は非常に平坦加工がなされており、周囲の尾根すべてに堀切を設け、厳重に警戒する。一方、南側の曲輪群（l,m,n）は自然地形に近い平坦地形で、ほとんどが一見城郭の曲輪ではないようにも見えるが、堀切 k や o が縁辺部に見られ、その内部を防御していることから、これらも城域に含めてみるべきである。龍神山城（岩門城）の南半部と同様、駐屯地的な機能を考えるべきであろう。

以上のように亀ノ尾城は、全長が 500m を超える規模であり、当初は渋川氏の拠点、大内氏の那珂郡支配の要となり、後には一ノ岳城と共に筑紫氏の那珂郡の拠点として重要な機能を担ったものとみられる。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 3,5,7 ～ 11,**201**,**215**

**筑前 310　七曲城（ななまがりじょう）**　　**郡名　那珂郡 / 肥前国　　別称　なし　　図幅名　中原（西）**
**種別　山城　所在　筑紫郡那珂川町五ヶ山・佐賀県三養基郡みやき町原古賀**

【沿革】那珂川から佐賀県みやき町中原と神埼郡坂本へ抜ける県境、七曲峠と坂本峠との間の稜線上の頂部に位置する。那珂川町教育委員会の遺跡分布図（文献 229）に「七曲城」として周知の包蔵地として掲載されるのを初出とし、佐賀県教育委員会による中近世城館跡緊急分布調査報告書（文献 54）に現地の調査報告が掲載される他は、地誌類等には一切見られない。


第 223 図　七曲城石垣

【概要】標高 600m の頂部は、現在電波鉄塔が建つが、若干の平坦面が見られ、そこから曲輪の縁に沿って土塁が延びる。主郭とみられる I は約 20m 四方の平坦面が確保でき、その東側の土塁には大振りの自然石を用いた石垣が確認できる（図中 A）。



第 224 図　七曲城縄張り図（事務局作成）

B の箇所は堀切状に掘られているが、防御的な意味をあまりなしておらず、城郭遺構か否かは微妙である。I の南には脊振山系の稜線上を通る山道が走るが、明確な城館遺構は特に見られない。頂部の北東側はなだらかな尾根地形が 200m ほどにわたって続くものの、曲輪など人為的な造成はなされていない。

文献 54 には渋川氏の筑前への足掛かりとしての性格を想定しているが、文献記載等が全くないため、断定することは難しい。

【史料】なし　【参考文献】**54**・229

⑦早良郡

**筑前 312　小田部城（こたべじょう）**　**郡名 早良郡　別称 小田部氏宅・堀ノ内城・月城　図幅名　福岡西南部（東）**
**種別 平地城館　　所在　福岡市早良区有田2～3丁目**

【沿革】福岡市早良区の平野部、室見川と金屑川との間に挟まれた有田の地に位置する。現在では、宅地化が進み、旧地形を窺いにくくなったが、昭和 30 年代の地図を見ると、両側の河川に挟まれた低丘陵上に位置する。

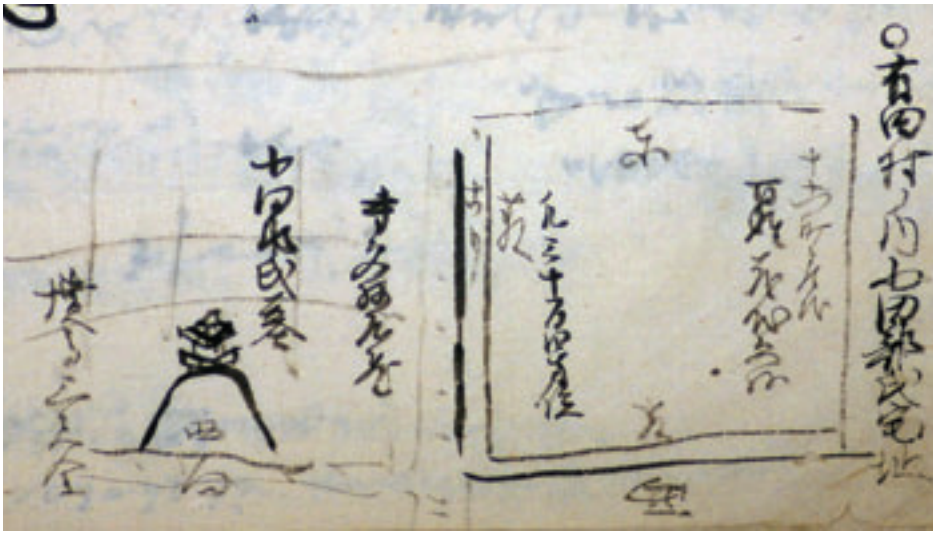
『拾遺』には「古宅」として「村内に在。堀内といふ。堀址残れり。廣宅なりしと見ゆ。是小田部氏が里城なるべし。其邊に小田部氏墓といふもあり。塚上に切石二重を置り」とあり、さらに「又村南に築城といふ所あり」とし、鎮西要略の小田部城はこれかと推測する。



第 225 図　小田部城位置図（国土地理院作成 1/25,000 地形図「福岡西南部」（昭和 35 年）を一部改変して事務局作成）

【概要】『拾遺』編纂の際に青柳種信が作成した「早良郡廻村覚帳　下　文政六年未十月」（『筑前町村書上帳』所収）には、「有田村ノ内小田部氏宅址」として、第 226 図が載せられている。それには、面積五段、三十間四方の方形区画で北側と西側に堀を巡らせた構造の「小田部氏宅」が、小田部氏墓と共に載せられている。福岡市分布地図（文献 226）等では宝満宮を含む 100m × 140m の範囲が推定されている。文献 186 によるとかつて土塁や堀の跡があったという。また、築城の場所は、文献 47 によれば有田高等小学校（現在の福岡講倫館高校）の敷地であるというが、城館遺構の存在は見られない。

なお、有田から小田部の台地上の一帯の発掘調査では、有田・小田部遺跡群として 15～16 世紀の堀で囲まれた居館遺構が数多く見つかっており、小田部城に関連するものとみられる。


第 226 図　有田村ノ内小田部氏宅址図
（「早良郡廻村覚帳（下）」『筑前町村書上帳 早良郡四』・福岡県立図書館蔵）

【史料】なし

【参考文献】

3～5,10,11,47,186

## 筑前 314　菟道岳城（うじだけじょう）

郡名　早良郡　　別称　東入部城　　図幅名　福岡西南部（東）
種別　山城　　所在　福岡市早良区東入部



第 227 図　菟道岳城主郭の土塁



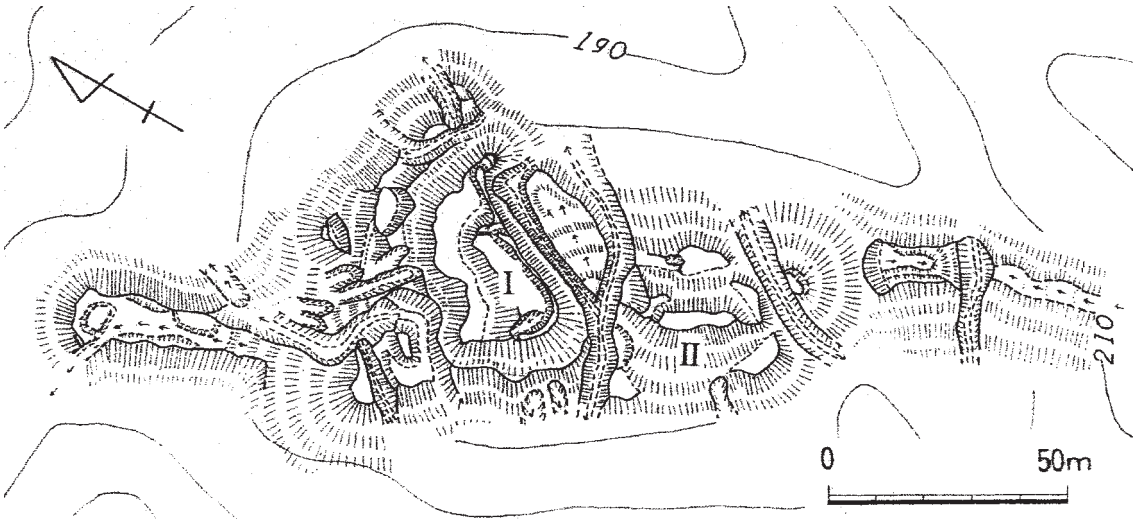
第 228 図　菟道岳城切岸と曲輪面

【沿革】安楽平城のある荒平山から北西へ延びる尾根上、標高約 200m の頂部に位置する。

『拾遺』には「安楽平の出城なり」とある。『本編』や『拾遺』の安楽平城の「はるか西に出城（東入部古城）」があるとしているが、この城に該当するものと思われる。文献 47 には弘安の役の見張所の跡ともあるが、真偽は定かではない。

【概要】尾根の頂部に主郭Ⅰを設け、南側は土塁で囲み、その南側は、所々に小曲輪群Ⅱを挟みつつ、多重の堀切で防御する。主郭の北側はやや広い腰曲輪となっており、その曲輪と主郭との間の切岸は非常に急角度となる。また、その北側斜面は堀切、竪堀群で厳重に防御する構えを見せる。

【史料】なし　【参考文献】2 ～ 4,11,47




第 229 図　菟道岳城縄張り図（山崎龍雄作成・提供）

## 筑前 315　安楽平城（あらひらじょう）

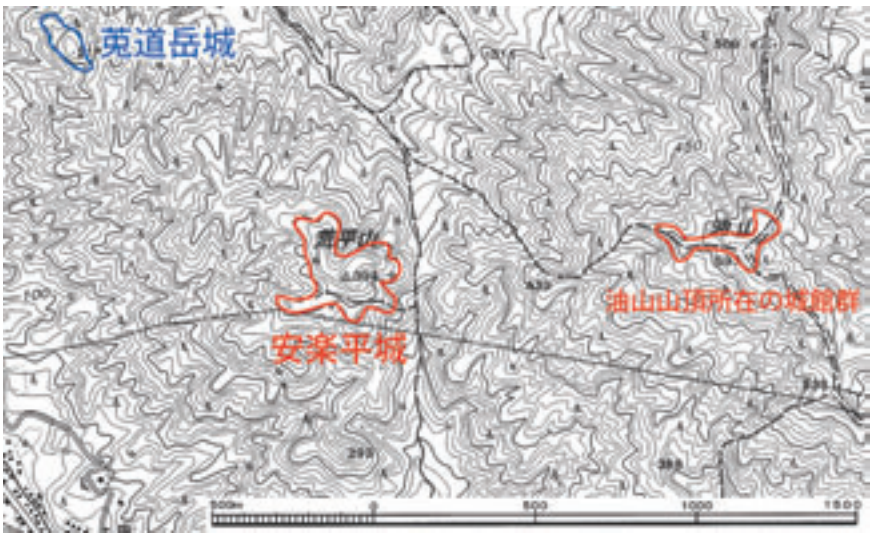
郡名　早良郡　　別称　荒平城　　図幅名　福岡西南部（東）
種別　山城　　所在　福岡市早良区東入部

【沿革】福岡平野に突き出すようにそびえたつ油山山頂の西の別峰・荒平山山頂に位置する。『本編』には天文 22 年（1553）に大友氏家臣・小田部民部大輔鎮通入道紹叱が城主となり、早良郡を治める拠点としたが、天正 7 年（1579）に龍造寺隆信に攻められ、落とされたとある。『本編』




第 230 図　安楽平城・周辺城館遠景（脇山側から）

には落城の際のことが事細かに記載されている。『拾遺』には同９年に龍造寺方に明け渡し、小田部紹叱は立花山城に退転し、隆信は小田部常陸介増光・空閑三河入道可清を入れ置いたとする。




第 231 図　安楽平城及び周辺城館群位置図（国土地理院 1/25,000 地形図「福岡西南部」を一部改変して事務局作成）

【概要】安楽平城は、油山山頂の西約 1km 地点の荒平山山頂（標高 394m）に所在するが、安楽平城の北西約 1km 地点の東入部側の尾根上には菟道岳城があり、また油山山頂にも城館群を確認することができる。ここでは安楽平城と油山山頂の周辺城館群をそれぞれ報告する（菟道岳城は筑前 314（P.196）として報告）。

**＜安楽平城＞**荒平山山頂に東西約 30m、南北約 20m の主郭Ⅰ－１を置き、そこから北と東へ延びる尾根線上に曲輪群を配置する。東側の尾根は主郭の直下に曲輪Ⅰ－２～４を置く。Ⅰ－３はやや高くなっており、周囲を石垣で固めている。曲輪Ⅰ－４の下に堀切１本を設け、東側からの備えとし、南側斜面にも石垣（i2）を備えている。一方、北側斜面は、尾根の鞍部を石垣（i1）と土塁で防御し、Ⅱの曲輪群へとつないでいる。南北に細長くⅡ－１～３の曲輪が並ぶが、西側に低土塁を設けて防塁ラインとしている。北側の尾根の要所は多重の堀切によって厳重に防備する。



第 232 図　安楽平城から望む早良平野



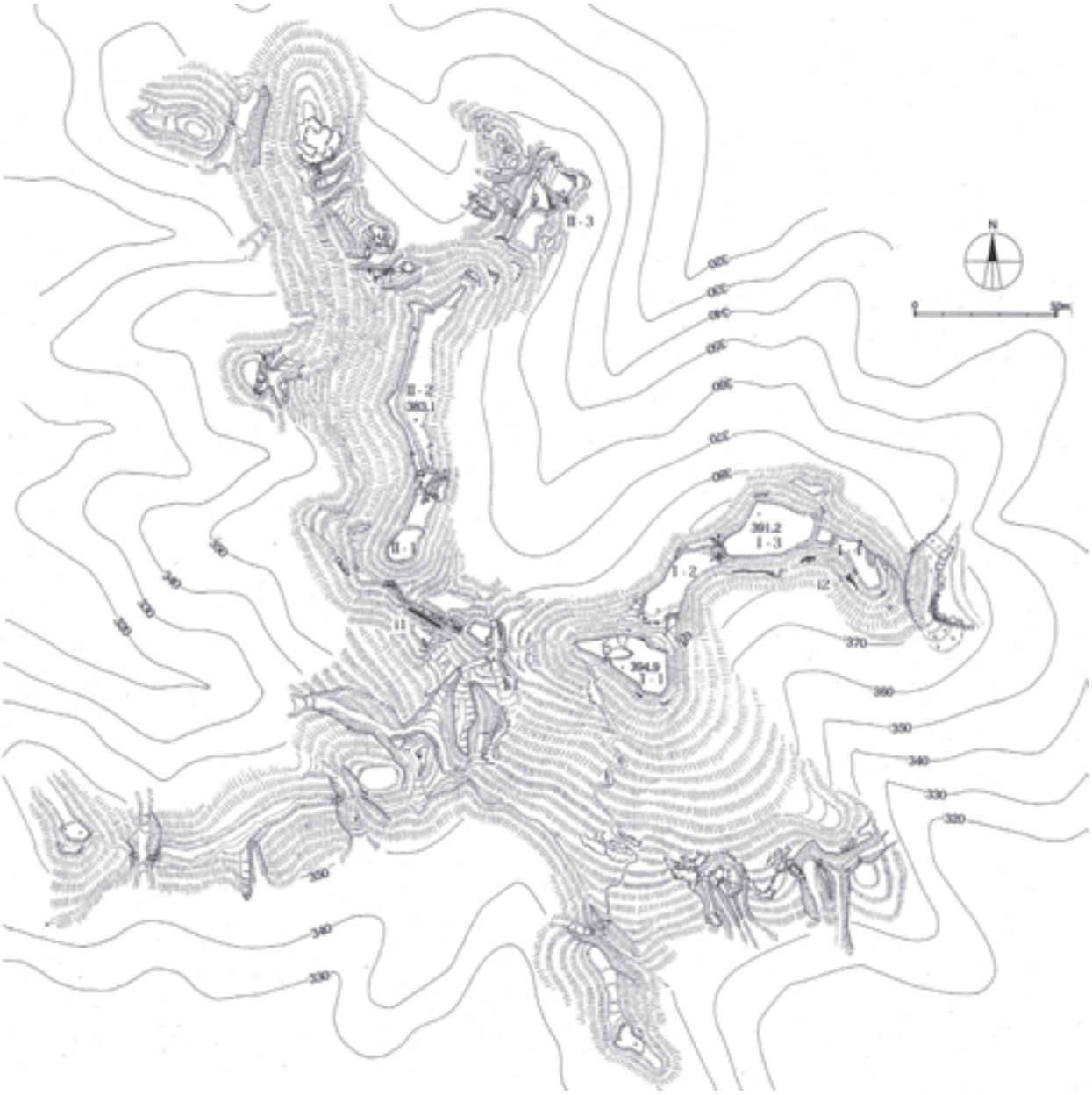
第 233 図　安楽平城堀切



第 234 図　安楽平城石垣

主郭の西側の尾根は基本的には曲輪にはせず、尾根上を大きな多重の堀切や竪堀によって通行を遮断し、城域を画している。主郭の南側は急斜面となっており、やや平坦になった尾根の鞍部に堀切を設けて防御している。曲輪群周辺の斜面には所々に、自然石を用いた石垣が見られ、城域内のかなりの部分に石垣が用いられていたことがわかる。安楽平城からは、早良平野が南北を通して一望することができる場所に在り、早良郡をおさえる上で非常に重要な位置にあったことがわかる。

**＜油山山頂所在の城館群＞**油山山頂周辺にも城館群が所在する。山頂周辺には大きく２箇所、城館遺構が確認できる。山頂周辺の曲輪群Ⅰは、山頂部の主郭１を中心に東西に２と３の曲輪を配する。山頂からは、北側を除く三方に緩やかな尾根が延びているが、南側は三重の堀切群（あるいは竪堀群）Ａによって遮断し、南側からの侵入に備えている。東側の尾根にも３の曲輪の先に堀切Ｂを設けて




第 235 図　安楽平城縄張り図（中西義昌作成・提供）

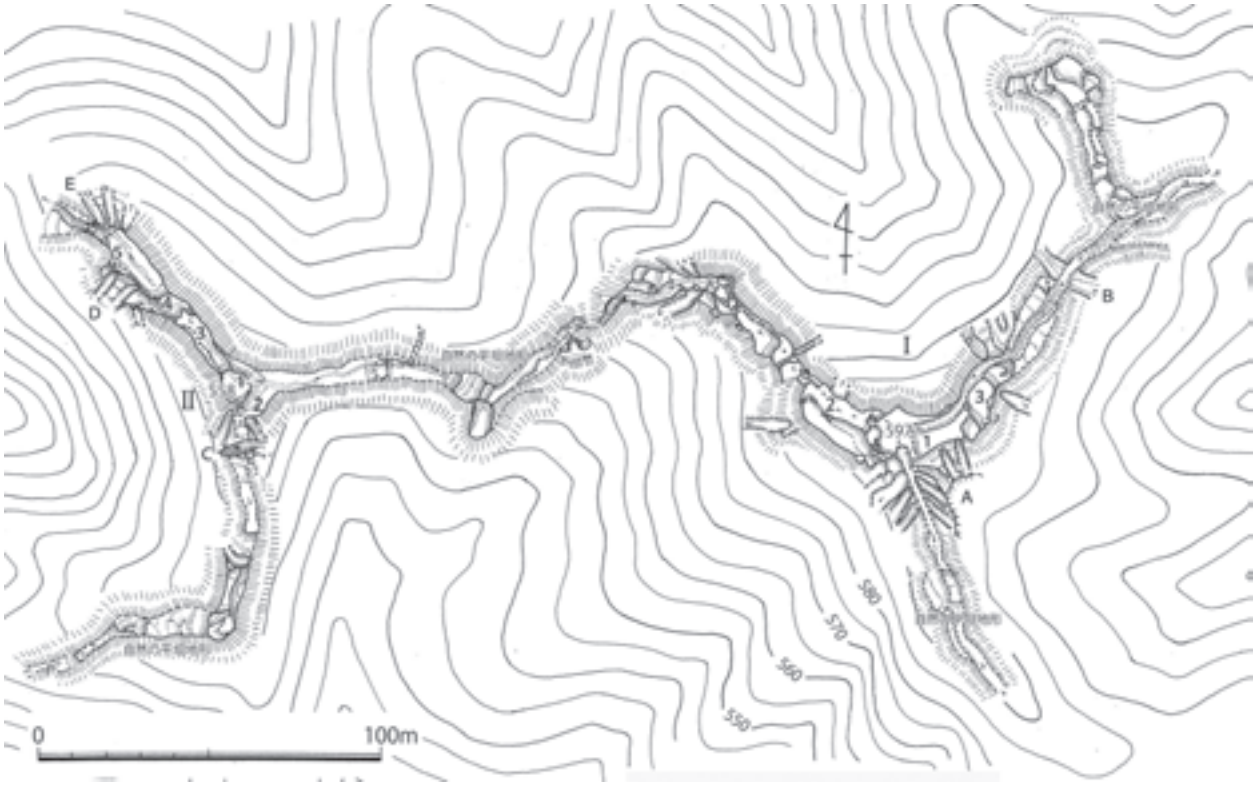
いる。その一方で、西側の尾根は堀などの防御遺構を設けず、自然の平坦な尾根地形がそのまま継続している。また、曲輪周辺の斜面にも竪堀が何本か見られる。

もう一つの曲輪群Ⅱは山頂から西へ約 200 m離れた頂部を中心に形成される。土塁を備えた径約 15 mの曲輪 1 を中心に 2 の腰曲輪を置き、北西側の尾根にかけて 3 ～ 5 の曲輪を配する。ここも東、南、北西の三方に尾根が延びているが、南側には竪堀と堀切 C で防御を固め、北西側にも竪堀群 E を配し、尾根下からの攻撃に備える。5 の曲輪の南側斜面にも竪堀群 D などが見られる。しかし、東側の尾根は自然の平坦な尾根地形となっており、堀などの防御遺構はみられない。

以上のように、油山山頂周辺には大きく 2 つの城館遺構群が確認できるが、全体の配置を見ると、曲輪群ⅠとⅡはそれぞれ城館として独立した縄張りを呈しているように見えるものの、それぞれの曲輪群の間をつなぐ尾根に対しては堀などの遮断するような防御遺構は一切見られず、ⅠとⅡの間の通行が非常に容易にしていることがわかる。よって、これら 2 つの曲輪群は別々に存在しているのではなく、お互い連携してこそ縄張りが完結していることがわかる。ⅠとⅡの間の自然平坦地形は、戦時における駐屯地として機能することも想定できよう。

この城館群については明確に地誌類には記載が見られない。ただ『本編』には天正 7 年に龍造寺方が安楽平城を攻撃した際に、「やだけ」の山の頂上に原田氏と草野氏が在陣したとある。『拾遺』によれば、現在の油山山頂を「矢竹ノ山」と呼んでいることから、『本編』記載の原田・草野氏が在陣した場所は油山山頂ということになる。偶然かもしれないが二つ曲輪群があるのは原田氏と草野氏がそれぞれ在陣した可能性も考えられるが、即断は難しいであろう。いずれにせよ、安楽平城に深くかかわった城館群であることは疑いないであろう。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 9,**10**,**11**,47,169,**181**,**190**




第 236 図　油山山頂所在の城館群（山崎龍雄作成・提供図を一部改変して事務局作成）

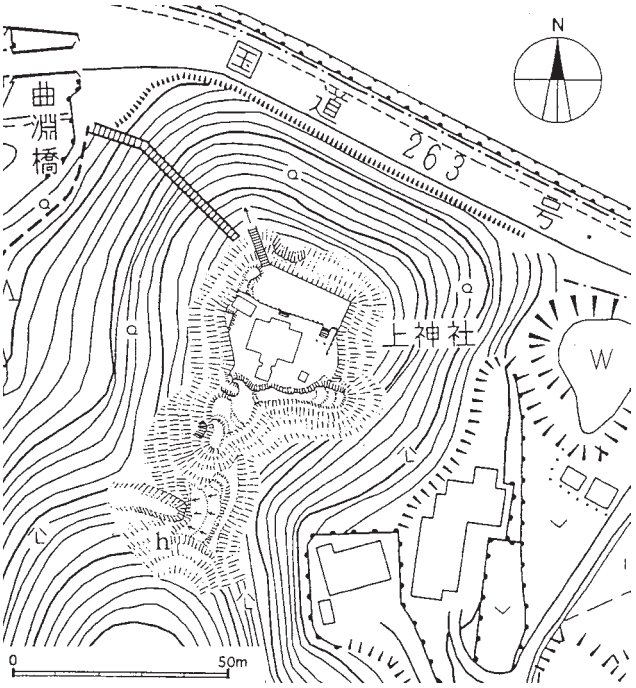
## 筑前 318　曲渕城（まがりぶちじょう）

**郡名**　早良郡　**別称**　飯場城　**図幅名**　福岡西南部（西）/ 脊振山（西）
**種別**　丘城　**所在**　福岡市早良区曲渕

【沿革】早良から肥前へ抜ける三瀬峠への入口にあたる曲渕集落の東の丘陵上（城の山）に位置する。『本編』では曲渕の領主で、高祖城主・原田氏の家臣、曲淵河内守氏助、その子信助が、元亀・天正年間に在城したとある。麓に居館もあったとするが、現在貯水池の底になっており、詳細は不明である。

【概要】丘陵頂部には、現在曲淵神社があるが、麓の集落にあったものを曲渕貯水池建設の際に移転したものである。現状では約30m四方の平坦面となっているが、神社移築に伴い、曲輪面はかなり削られており、改変されているものとみられるものの、主郭の所在とみてよい。南側は尾根の鞍部になっており、一部堀切状の掘り込みなども見られる。『附録』にある「堀切の跡」であろう。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 11,47,**190**



第 237 図　曲渕城縄張り図（文献 190・中西義昌作成）

## 筑前 319　金山城（かなやまじょう）

**郡名**　早良郡 / 肥前国　**別称**　熊の城・神代氏城　**図幅名**　脊振山（西）
**種別**　山城　**所在**　福岡市早良区石釜・佐賀県佐賀市三瀬村三瀬

【沿革】福岡県と佐賀県との県境をなす脊振山系で、脊振山に次いで二番目に高い金山山頂に位置する。『全誌』には「神代氏城址」として、「三瀬城と云。是本城なり。永禄六年癸亥、神代勝利是を築く。其子長良まで此所に居れり。山内に砦十六所あり」とある。三瀬城の本城は佐賀県側の麓近くに「三瀬城」としてあるため、立地等から考えてもにわかには信じがたく、神代氏の詰城と考えられる。また明治時代の『神埼郡村誌』に「金山城」として報告されている。

【概要】金山山頂（標高 967m）に位置する。山頂部に東西約 20m、南北約 10m の主郭を置き、そこから東側に曲輪群を展開する。もっとも東側の曲輪は土塁で囲まれている。主郭から東へ約 150mの地点には堀切 1 本を設ける。深さ 0.5m に満たない緩やかな堀切ではあ



第 238 図　金山城遠景
（上：早良区脇山から・下：西から）

るが、東の小爪峠からの侵攻を防いでいる。

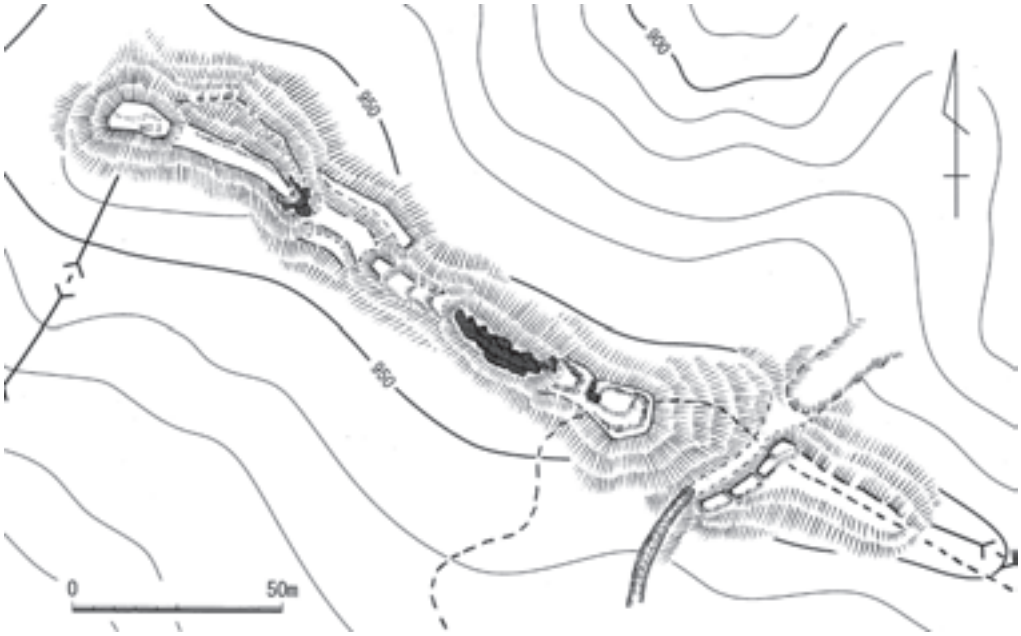
『早良郡誌』(文献 47) には山頂に「神代勝利の墓」や「人見岩」があるとしているが、山頂にいくつか確認できる立石状の自然石はこれらを示しているのかもしれない。

金山城からは佐賀側は固より安楽平城などの早良郡を一望することができ、神代氏が筑前側を窺うために構築した城郭としての性格が想定できる。

【史料】なし

【参考文献】

4,11,47,**54**




第 239 図　金山城縄張り図（文献 54・宮武正登作成）



第 240 図　金山城堀切



第 241 図　金山山頂の立石状自然石

**筑前 320　池田城（いけだじょう）**　　**郡名　早良郡**　　**別称　なし**　　**図幅名　脊振山（東）**
**種別　山城**　　**所在　福岡市早良区脇山**

【沿革】早良平野の奥部、脇山の池田集落の南側背後の山稜上の頂部（池田山）に位置する。『本編』「安楽平城跡」の項には、池田城は安楽平城の小田部氏配下の大教坊兼光が守備していたが、天正 7 年（1579）の安楽平城攻防戦において、龍造寺方に寝返ったため、小田部方が攻めたことが記載される。

池田の大教坊は背振山脇山東門寺の有力坊で、池田集落の最奥部には大教坊があったとされる大日堂があ



第 242 図　池田城遠景



第 243 図　大教坊墓石

り、天正 11 年銘の墓石が残されている。

【概要】北西へ突き出した尾根の先端頂部（標高 240m）に約 10m 四方の主郭を置き、西側に曲輪 2 面と、南側の尾根上に堀切 1 本を設けている。北および北東方向の尾根上は緩やかな地形だが、曲輪や堀などの防御遺構はみられず、麓側からの防御よりも南の尾根側からの防御に対する配慮が見られる。

全長が 50m に満たない小規模な城館で、池田の集落をおさえていた領主でもあった大教坊に関する城館とみてよいと思われる。

【史料】なし

【参考文献】1,4,11,47




第 244 図　池田城縄張り図（事務局作成）

## 筑前 321　都地城（とじじょう）

**郡名**　早良郡　　**別称**　都地若狭守宅　　**図幅名**　福岡西南部（東）
**種別**　平地城館　　**所在**　福岡市西区金武

【沿革】室見川西岸、吉武との境に近い、金武の字都地に位置する。『全誌』では「都地若狭守宅址」として「廣四反歩許り、周に堀の址のこれり」とあり、細川五位尉蔵人光行と名乗り宮中に奉仕していたが、天文元年（1532）に足利義輝の命により、同地に下向して土着、都地姓を名乗ったと家記に記されるという。子孫の若狭守の時に「都地原屋敷」に移り住み、それがこの若狭守宅にあたるという。若狭守の子左近助は、後に小早川隆景の配下として早良郡の代官になったとあるが、近世の地誌類には一切登場せず、定かではない。文献 47 にて初めて「都地城阯」として紹介される。

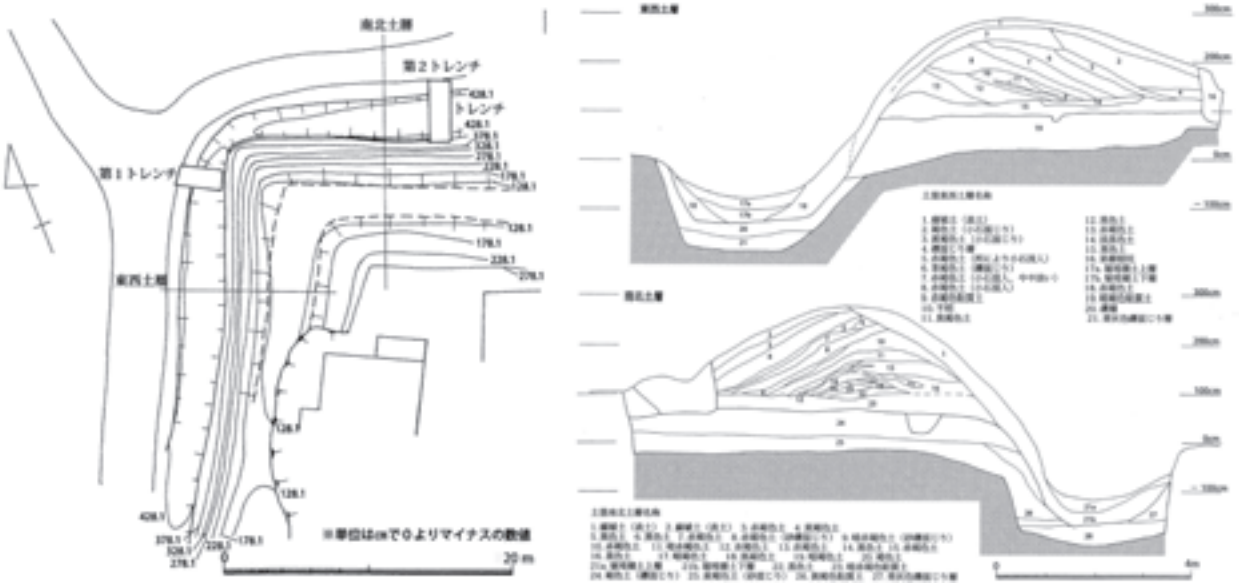



第 245 図　都地城縄張り図（文献 11・山崎龍雄作成）

【概要】都地の集落には、水路が流れ、一部には土塁状遺構も森として残存し、城館の様相を色濃く残していたが、現在は改変等によりかなりわかりにくい状況となってきている。南北二つの区画が認められ、それぞれ土塁と堀や溝で囲まれている。北側の区画は一辺 50 ～ 80m の方形で中心的な曲輪である一方、南側は一辺 30 ～ 50m の方形で、北側より小さく副郭とみてよい。二つの区画の間には現在水路が通っている。また、北側区画の北西側は、昭和 50 年（1975）に畑地造成に伴い発掘調査が行われ、堀底か




第 246 図　都地城遠景（左：南から、右：西から・福岡市埋蔵文化財センター提供）




第 247 図　都地城跡発掘調査図（左：平面図・右：土塁土層図・文献 146）

らの高さ 4 mもある土塁の状況を確認している。土塁は区画内部に傾斜するように斜めに少しずつ積まれている様子が窺われる。また、土塁盛土から出土した遺物の下限は 14 世紀であることから、それ以降に築造時期が求められる。

戦後の早い段階で開発が進んだ福岡市内にあって、地表面で確認できる土塁遺構を持つ平地城館が残されているのは貴重な事例である。

【史料】なし　【参考文献】4,5,8 ～ 10,**11**,47,**146**

**筑前 322　飯盛城（いいもりじょう）**　　**郡名　早良郡　別称　飯盛（森）山城　図幅名　福岡西南部（西）**
**種別　山城　　所在　福岡市西区飯盛・羽根戸**

【沿革】室見川西側、怡土郡のほど近くに神奈備形にきれいにそびえる飯盛山山頂に位置する。『拾遺』には文和２年（1353）、九州探題の一色直氏が築城したとし、『本編』等では南北朝の争乱において戦場となったが、戦国時代には高祖城主の原田了栄の出城であったとしている。

【概要】標高 382m の飯盛山山頂には、飯盛神社の上宮が祀られており、平安時代後期の瓦経を大量に埋納した飯盛山経塚が大正年間に発見されている。そのため、発見の際の改変は若干想定はできるが、城

館遺構は比較的良好に残存している。山頂部に約 10m四方の主郭Ⅰを置き、その周囲に複数の曲輪を配置する。それらの曲輪は基本的に土塁で囲まれ、土塁の途切れたところが虎口となる。主郭周囲には地誌類にあるように、石垣が断片的にみられる。南側斜面には 10 本を超える畝状空堀群を設けると共に、郡境にあたる日向峠に向けた西側の尾根上にも堀切２本を設けて防御する。『拾遺』には東側にも所々に堀切ありとするが、現状では見つかっていない。また、『全誌』には、山の北東側の山腹に「八貫櫓」（『本編』では「千貫矢倉」）という岩があり、岩の上に櫓を置いたところと伝える。



第 248 図　飯盛城縄張り図（文献 197・中西義昌作成）

高祖城からも峰伝いに渡ることができ、原田氏が早良郡を窺う足掛かりとしたことが想定される。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 5,7 ～ 10,**11**,47,**186**,**197**

**筑前 327　城ヶ崎城（じょうがさきじょう）　郡名　早良郡　別称　北浦城・城崎砦　図幅名　福岡西部（東）**
**種別　丘城　所在　福岡市西区能古**

【沿革】能古島の東南、北浦集落の近くにある「浦ノ城」という岬に位置する。『附録』では「古城地」として城主不明とするも、『拾遺』では「城ヶ崎古城」として、平安時代の藤原純友に従った伊賀壽太郎が砦を築き、海賊行為を働いた拠点であったとする。文献 47 が「北浦城」の名称の初出である。

【概要】博多湾に面した岬の突端の標高 22m 地点の頂部に 20 ～ 30m四方の曲輪が突端に向けて階段状に展開する。主郭の西側には堀切が掘られ、北側端部は土橋状になっている。第 250 図は江戸時代に描かれた城ヶ崎城の略図で、左下の「ホリ」が土橋状となっており、往時からの形態であることがわかる。また、北東側には「エン（縁）」の記載があり、腰曲輪の存在を示しているものと思われる。

【史料】なし

【参考文献】2 ～ 5,8 ～ 11,47,**186**



第 249 図　城ヶ崎城縄張り図（山崎龍雄作成・提供）


第 250 図　城ノ崎城図（「早良郡廻村覚帳（上）」『筑前町村書上帳 早良郡四』・福岡県立図書館蔵）

⑧怡土郡

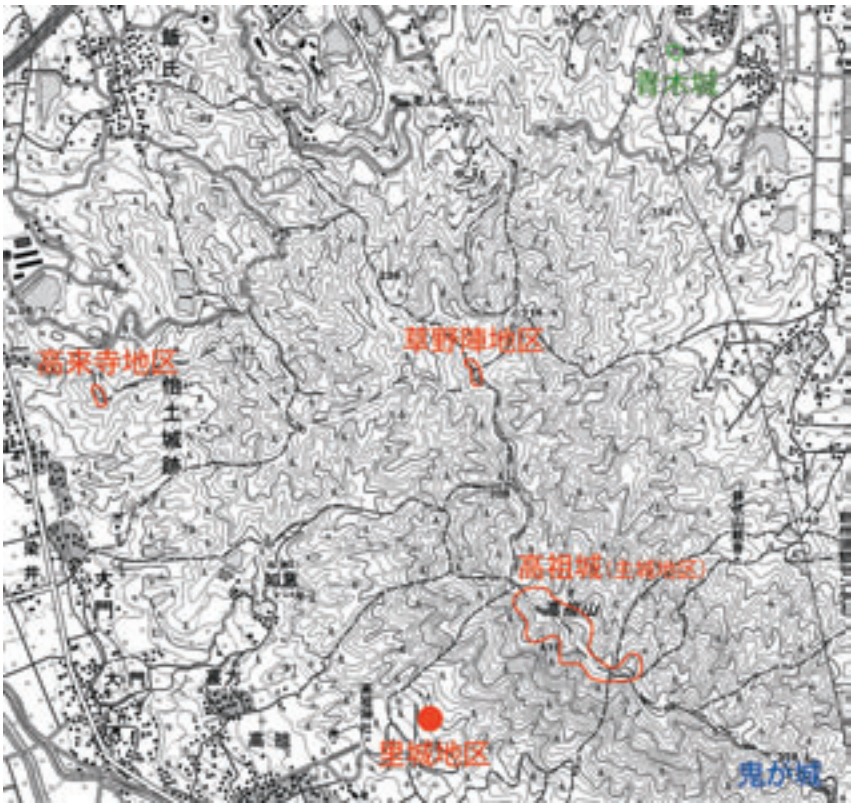
| 筑前 329 | 高祖城（たかすじょう） | 郡名　怡土郡 / 志摩郡　別称　なし　　図幅名　福岡西南部（西）/ 前原（東） |
|---|---|---|
| | | 種別　丘城　　所在　糸島市高祖・高来寺、福岡市西区今宿上ノ原・女原・千里 |

【沿革】福岡市西区と糸島との境にひときわ大きく聳える高祖山山頂に位置する。15 世紀末に大内氏が取り立て、烏田氏などが城督となったが、大内氏滅亡後は、在番衆であった原田氏が城主となり、怡土郡・志摩郡から肥前松浦郡にかけて勢力を誇った。



第 251 図　高祖城遠景

【概要】高祖山山頂にある高祖城を初めとして、山内には、何箇所か中世の城館遺構と認められる場所がある。ここではそれらを便宜的に山頂の「主城地区」、「草野陣地区」「高来寺地区」「里城地区」に分けてそれぞれ記載する。




第 252 図　高祖城および周辺城館位置図（国土地理院 1/25,000 地形図「福岡西南部」を一部改変して事務局作成）

なお、『本編』にある「鬼が城」(『拾遺』では「高取城」) は主城地区の南東の峰、標高 358mの山を指しているが、現地には城館遺構はない。『本編』も鬼が城のことを「名高き山」と山の名前として紹介しており、現段階では城館とは認めがたい。また同じく『本編』にある北麓の青木村の三重の空堀の搦手は、「青木城（筑前 345）」を指しているものと思われる。

**＜主城地区＞**高祖山山頂（標高 416m）の頂部を中心に、Ⅰ～Ⅴの大きく五地区に分かれる（第 253 図）。Ⅰ地区は主郭①が置かれ、「上の城」と呼ばれている。平成 10 年（1998）度の発掘調査では北側の切岸に石垣が見られ、上部が一部崩れている状況が見受けられた（第 254 図）。主郭の一段下の②の曲輪には虎口ともいうべき石段遺構の他、①では礎石群も見つかっている。一方、Ⅱ地区は「下の城」と呼ばれており、Ⅰ地区と同規模の曲輪群が並列する。こちらの曲輪群にもⅠ地区同様、石垣遺構を確認することができる。また、Ⅰ地区とⅡ地区の間の鞍部にはⅢ地区として⑧の曲輪が置かれている。このⅠ地区とⅡ地区では瓦が多く出土、採集されている。主に巴文軒丸瓦、




第 253 図　高祖城測量図（文献 156・山崎龍雄・瓜生秀文ほか作成）

宝珠唐草文軒平瓦の他、菊菱文を表現した袖をもつ軒平瓦なども見つかっており、ここに瓦葺きの建物が少なからず建っていたと想定される。

そしてⅠ地区とⅢ地区の北側斜面一帯には堀切群と畝状空堀群（Ⅳ地区）が構築されている。『本編』にいう「姪浜堀」も考えられる。Ⅰ地区から南東方向に尾根が延びており、堀切群で大きく断ち切った後、緩やかに続く尾根上に平坦面の不明瞭な曲輪群が並び、それらを土塁で囲んでいる。このⅤ地区は他の曲輪群と比べ、あまり平坦ではなく明らかに性格の異なるものである。駐屯地などの性格も想定できよう。以上のように「主城地区」は「上の城」と「下の城」の曲輪群を中心に全長 500m にも及ぶ大規模な城域を有し、周囲の斜面に堀切群や畝状空堀群を構築した非常に高度な防御施設を備えていたことを示している。

**＜里城地区＞**『本編』には「城の上に谷間より登る道有。其麓に原田氏の常の居宅の跡あり。高祖社よりはるか上なる所也。村民は御館と云。今は田となれり」とある。高祖神社から山上へ約 200m 登った場所から、軒丸瓦、軒平瓦が採集されており、主城地区のものと類似する。『本編』のいう「御館」の推定地に該当する場所と考えられる。現状では何面かの平坦面が認められるが、後世の開墾等に伴う改変が少なからず存在し、詳細な構造についてはよくわかっ



第 254 図　高祖城上の城の石垣遺構
（糸島市教育委員会提供）



第 255 図　高祖城堀切



第 256 図　高祖城Ⅴ地区の土塁ライン

ていない。『糸島郡誌』（文献 48）には神社と御館との間には「桜馬場」という馬場もしくは堀があるというが、現状ではよくわかっていない。また、里城地区の山頂側には一の坂礎石群という怡土城関連の礎石群のある平坦面があるが、ここでは中世の土師器の小片が多数散乱している。堀などの明確な防御遺構はみられないが、これらの遺物から城館に関連した施設があった可能性が高い。

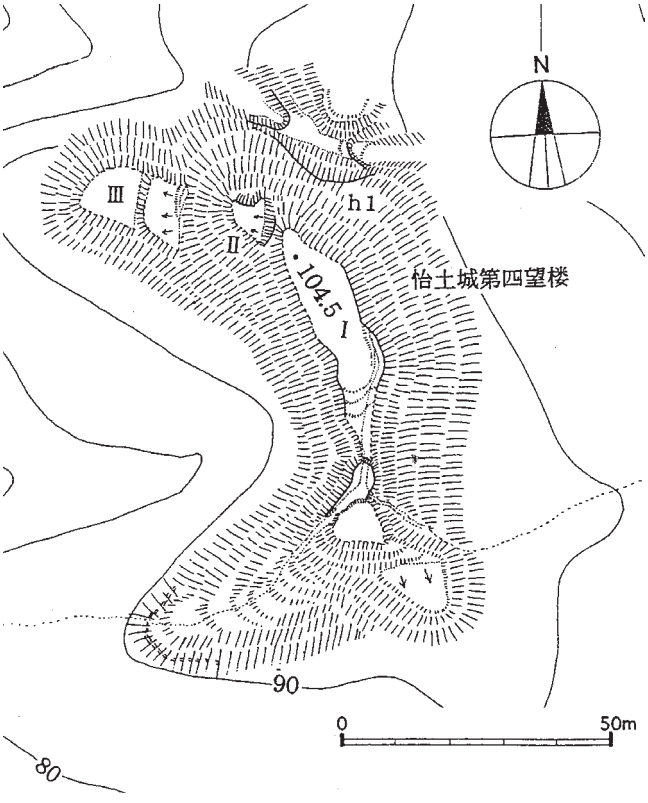
**＜草野陣地区＞**『本編』怡土郡「安上（あんのう）」の項には「上原村の上に、小田部陣、草野陣など云所あり。是むかし原田を攻し時、寄手の陣所なりと云」とある。小田部陣については、所在はよくわからないが、文献 48 には「草野陣の鐘撞」は飯氏、女原、上ノ原の境にあるとあり、怡土城の第一望楼のある頂部がそこにあたる。第一望楼の南側に戦国期の城館遺構を確認することができる（第 257 図）。

城館遺構の構造は、高祖山山頂側の尾根上に堀切 1 本を入れ、頂部およびその周辺に小曲輪を配置する単純な構造である。おそらく第一望楼のある平坦面も城域に含めていたものと思われる。山頂側に堀切を掘っているため、『本編』のいうように、高祖城を攻める際の付城の可能性も十分考えられる。

**＜高来寺地区＞**文献 48 には怡土城第四望楼のある峰の平地を「古城」というとある。実際、ここは高来寺と千里との境にあたり、戦国期の城館遺構が確認できる。望楼の礎石群のある標高 104m の頂部に南北約 30m の曲輪を置き、其の北東側に堀切 1 本を設ける構造である。草野陣地区の城館遺構と一見構造は似ているが、堀切が麓側に入っているのが対照的である。



第 257 図　草野陣地区の城館縄張り図（山崎龍雄作成・提供）



第 258 図　高来寺地区の城館縄張り図（文献 190・中西義昌作成）

以上のように、山頂周辺のみならず、山麓一帯にかけて、広く高祖城に関連すると思われる城館遺構が確認されており、今後さらなる詳細な検討が必要である。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 9,**10**,**11**,48,**155**,**156**,**188 ～ 190**

## 筑前 332　有田城（ありたじょう）

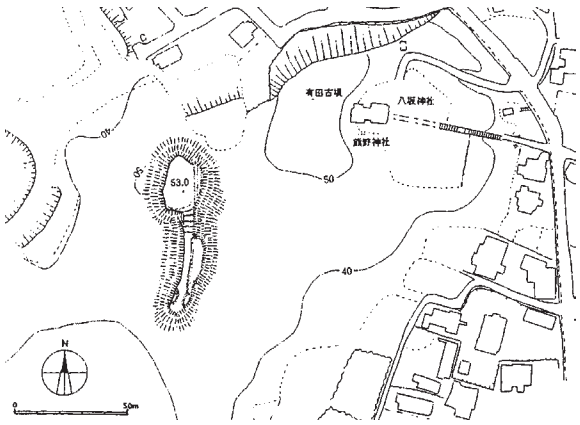
郡名　怡土郡　　別称　なし　　図幅名　前原（東）
種別　丘城　　所在　糸島市有田

【沿革】雷山川の西、有田の熊野神社背後の丘陵上に位置する。『本編』では城主が有田因幡守と伝えるとある。

【概要】標高 53m の頂部に東西約 20m、南北約 30m の曲輪を置くのみの単純な構造である。曲輪の南側はなだらかな地形が続くが竹林による造成が見られる程度で堀などの明確な城館遺構は認められない。原田方にあった有田氏の居城であろう。

【史料】なし

【参考文献】1,5,7 ～ 11,48,**197**



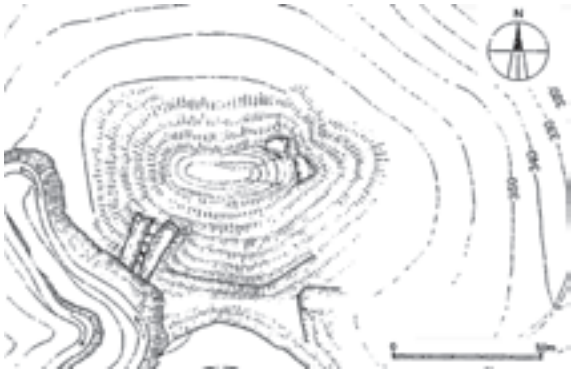
第 259 図　有田城縄張り図（文献 197・中西義昌作成）

## 筑前 335　旗振嶺城（はたふりみねじょう）

郡名　怡土郡　　別称　旗振山城　　図幅名　前原（東）/ 雷山（東）
種別　丘城　　所在　糸島市飯原

【沿革】「筒城」と称された古代山城・雷山神籠石の西側の山稜上に位置する。『本編』「怡土城」に「旗振嶺の西南に、少きなる城址有。其下にから隍有」とあり、原田氏の旗下で宝珠岳城主の西左近鎮兼が原田氏に反逆して立て籠もった城とする。

【概要】山稜頂部は南側に大きな堀地形が入り込み、半独立丘陵状となっている。底の部分のみ掘削などの造作がある可能性があるが、頂部から 20m 近くも比高差があり、元々の谷地形をかなり利用したものとみられる。頂部はほぼ自然地形で北東側に若干の小平坦面が認められるくらいで、ほとんど人工的な造成は行われていない粗野な単郭構造である。

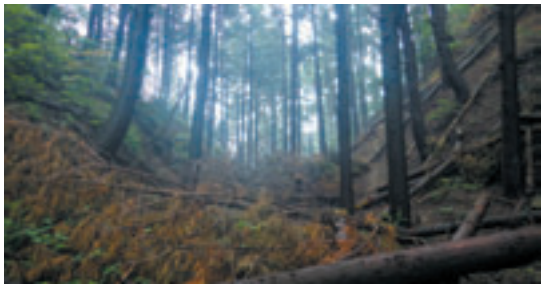


第 260 図　旗振嶺城縄張り図
（文献 197・中西義昌作成）

第 262 図には雷山神籠石周辺に旗振嶺・筒山城（筒城）・松尾城が描かれる。この城館遺構の場所には「筒山城址」との記載があり、旗振嶺城と筒山城が重複あるいはここが筒山城の可能性も考えられる。

【史料】なし

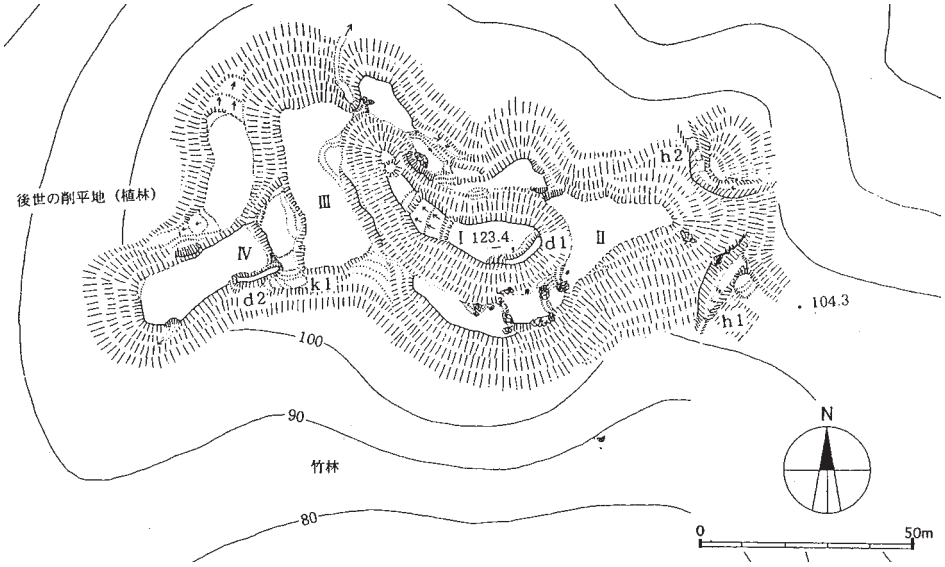
【参考文献】1,4 ～ 6,8 ～ 11,48,**197**


第 261 図　旗振嶺城南側にある堀切状の谷


第 262 図　訂正怡土郡図（部分・国立公文書館蔵）
（上が南。一部改変して事務局作成）

| 筑前 336 | 加布里城（かふりじょう） | 郡名　怡土郡 | 別称　城山城・高岳城・浜窪城 | 図幅名　前原（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　糸島市加布里・二丈浜窪 | |

【沿革】糸島半島の西側の付け根にあたる加布里に聳える城山山頂に位置する。『本編』では「原田了栄端城なり。岩熊河内といふものを城代として籠置たり」とし、『全誌』では「城山城址」と称する。『訂正怡土郡図』（国立文書館蔵）には「高岳城址」と記載される



第 263 図　加布里城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）

【概要】城山山頂（標高 123m）に東西約 20m、南北約 10m の主郭を中心に城域が展開する。主郭Ⅰの周囲には帯曲輪Ⅱが取り付き、Ⅰの西側にはⅢ、Ⅳの比較的大きな広さを持つ曲輪が尾根上に展開する。ⅠとⅣの曲輪には部分的に土塁も設けられる。Ⅱの北東側と南東側の尾根上にはそれぞれ堀切 1 本が設けられ、東側からの攻撃に備えている。全長は 200m 近くにも及び、高祖城や柑子岳城を除いては、周辺の城館の中では群を抜いて大きく、原田方の重要拠点であったとみられる。

【史料】あり　【参考文献】1,4 ～ 10,**11**,48,49,51,**184**,**190**

| 筑前 338 | 宝珠岳城（ほうじゅだけじょう） | 郡名　怡土郡 | 別称　なし | 図幅名　前原（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　糸島市二丈長石 | |

【沿革】長石集落にある宝満宮の西隣、「城山」と呼ばれる低丘陵上に位置する。『本編』には、大友方の西左近鎮兼が居城していたが、鎮兼は永禄 10 年（1567）に高祖城主原田隆種に滅ぼされたことが記される。最終的に鎮兼は宝珠岳から一貴山、さらには旗振嶺に逃れ、打ち滅ぼされる。

【概要】標高 62m の丘陵上に約 20m 四方の主郭を造り出し、その北側に幅 10m を超える大きな堀切で北半分を断ち切っている。南側は緩やかな自然地形が見られる単郭の構造である。

【史料】なし

【参考文献】1,4 ～ 11,48,49,51,**197**


第 264 図　宝珠岳城縄張り図（文献 197・中西義昌作成）

## 筑前 341　小倉山城（おぐらやまじょう）

**郡名**　怡土郡　　**別称**　小蔵城・小倉城　　**図幅名**　雷山（西）
**種別**　山城　　**所在**　糸島市白糸

【沿革】白糸の滝の北約 1 km にある白糸集落から川を挟んだ西側の丘陵上に位置する。『本編』では原田了栄の出城とする一方で、『全誌』には「砦址」として原田氏の家臣、波多江兵庫頭種載が居城したとある。

【概要】標高 382m の丘陵上に一辺約 20 ～ 30m 規模の主郭Ⅰを置き、その南側にⅠよりやや広い曲輪Ⅱを配置する。Ⅰの東西に小曲輪がいくつか見られるが、堀などの防御遺構は確認できない。白糸集落と密接にかかわる小規模城館と言えよう。

【史料】なし

【参考文献】1,4 ～ 6,8 ～ 11,48,**197**



第 265 図 小倉山城縄張り図（文献 197・中西義昌作成）

## 筑前 342　二丈岳城（にじょうだけじょう）

**郡名** 怡土郡　**別称** 二城岳城・深江岳城・二重城　　**図幅名**　雷山（西）
**種別** 山城　　**所在**　糸島市二丈深江・二丈一貴山・二丈福井

【沿革】糸島市西部、玄界灘に突き出すように大きく聳える二丈岳山頂に位置する。山頂からは怡土郡・志摩郡全体を見通せ、さらに肥前唐津から壱岐まで見渡すことのできる絶好の場所である。『本編』では「深江岳城」として記載され、永禄年間は原田氏の配下の草野鎮永が居城し、豊臣秀吉に打ち滅ぼされたとある。『全誌』には草野氏入城前は深江豊前守良治が城主であったとする。

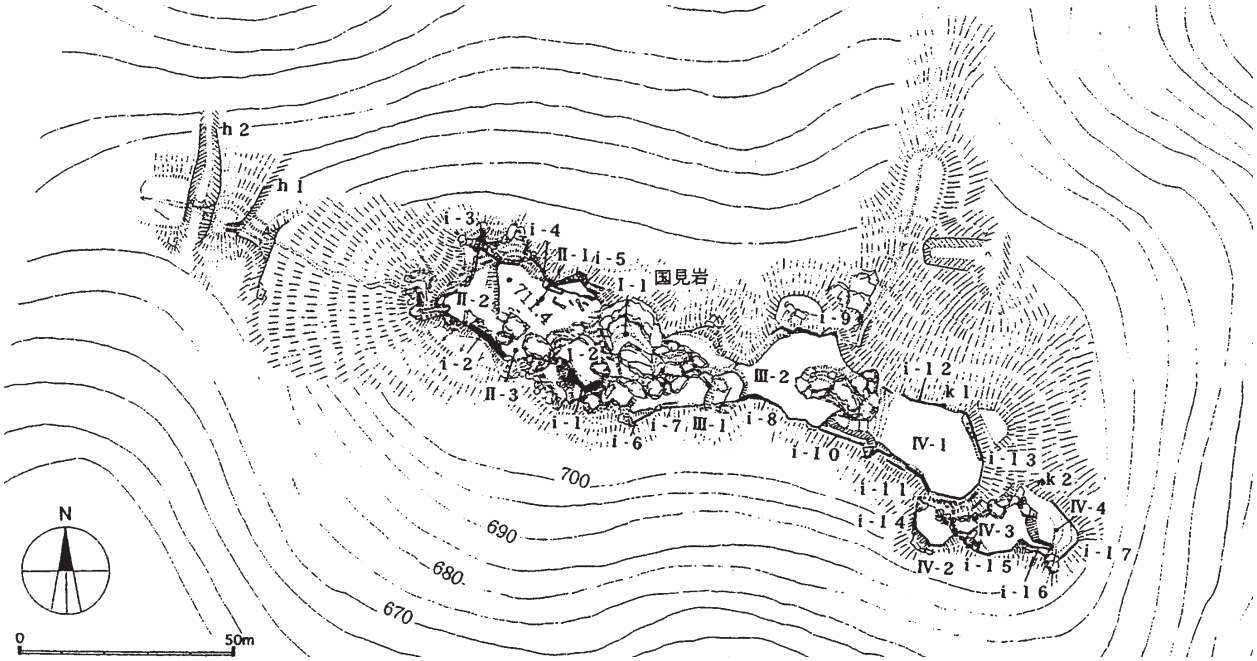


第 266 図　二丈岳城からの眺め（糸島半島）



第 267 図　二丈岳城堀切

【概要】二丈岳山頂（標高 711m）を中心に、東西約 200mの範囲に城域を確認することができる。山頂一帯は、花崗岩の露頭が集中しており、その岩と岩の間を縫うように曲輪の平坦面が形成されている。山頂頂部の国見岩の東西両側に曲輪の平坦面群が確認できるが、特に東側のⅢ－２、Ⅳ－１の曲輪が約 20 ～ 30m の規模を有し、城内では中心的な曲輪となっている。また、それらの曲輪の縁辺部は断崖絶壁となっているが、南側を中心に、石塁により周囲を固めている。石塁は露頭の




第 268 図　二丈岳城縄張り図（文献 197・中西義昌作成）





第 269 図　二丈岳城石塁

岩と岩の間の隙間を埋めるように人頭大の自然石が積まれ、１m 前後の高さを測る。また西側は最も緩やかな尾根になっており、尾根の鞍部に堀切２本を設置して尾根筋からの侵攻に備えている。山頂周辺では、土師器や瓦片が数多く採集されており、瓦葺き建物の存在が想定される。

また、山頂の北側約 300m 地点は広い尾根の鞍部になっており、『全誌』にも「五段ほどの宅地もあり」とあるように、広い平坦面群が広がっていて、中世の遺物が多く採集されている。ここを城館遺構とする考えもあるが（文献 214）、日常的な屋敷群にしては近辺に水場がなく、あまりに高地にあり、また散漫に広がる平坦面群がある一方で、堀などの明確な防御遺構は存在せず、経塚や窟など城館とは性格の異なる遺構の色合いが強く、宗教施設と見るべきである。その廃絶後に城館として再利用した可能性は否定できないが、二丈岳城本来の遺構とは言えないので、ここでは除外しておく。いずれにしても、唐津近辺を本拠とする草野氏にとっては怡土郡西部において重要な位置を占めた城館であったとみられる。

【史料】あり

【参考文献】1,4 ～ 9,**10**,**11**, 48,49,51,**183**,**197**,**214**

| 筑前 343 | 吉井岳城（よしいだけじょう） | 郡名　怡土郡 | 別称　なし | 図幅名 浜崎（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　糸島市二丈吉井 | |

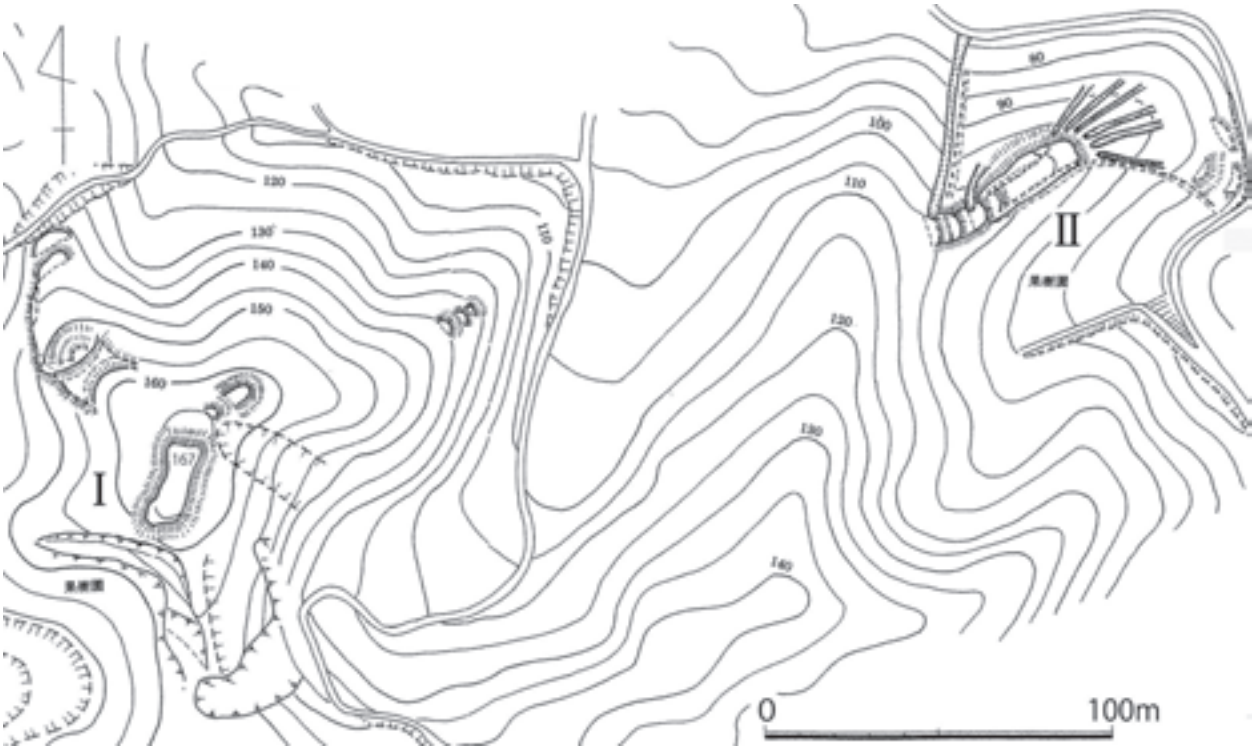
【沿革】吉井の南に聳える十坊山（標高 535m）から北へ延びる山稜の中腹、「城山」と呼ばれる頂部に位置する。『本編』では在地領主で原田氏配下にあった吉井左京亮隆光の居城と伝える。元亀２年（1571）に草野永久（原田了栄の三男である草野鎮永の養父）との争いがあったことが記される。



第 270 図　吉井岳城・城山山頂の堀切

【概要】城域は大きく分けて吉井集落西側の標高 167m の城山の頂部（Ⅰ）と、そこから南東方向へ 200m ほど下った中腹部（Ⅱ）の２か所からなる。Ⅰは城山の頂部に南北約 20m、東西約 10m の曲輪一つを置き、その北西側の尾根に幅約７m の大きな堀切により防御する。一方、麓に近いⅡの曲輪は東西約 40m、南北約 10m の範囲に複数段の曲輪を設け、その東側斜面に６本の畝状空堀群を置いて、麓側からの防御としている。また、文献 49 には十坊山から下る稜線上にも何箇所か出城跡が存在するとあるが、詳細は不明である。

【史料】なし　【参考文献】1,4,8 ～ 11,49,51,**197**,**205**




第 271 図　吉井岳城縄張り図（文献 205・山崎龍雄作成）

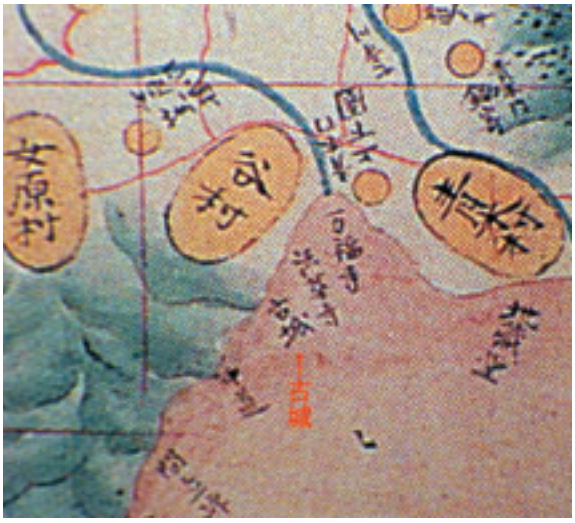
⑨志摩郡

| 筑前 345 | 青木城（あおきじょう） | 郡名　志摩郡 | 別称　なし | 図幅名　福岡西南部（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　福岡市西区今宿町 | |

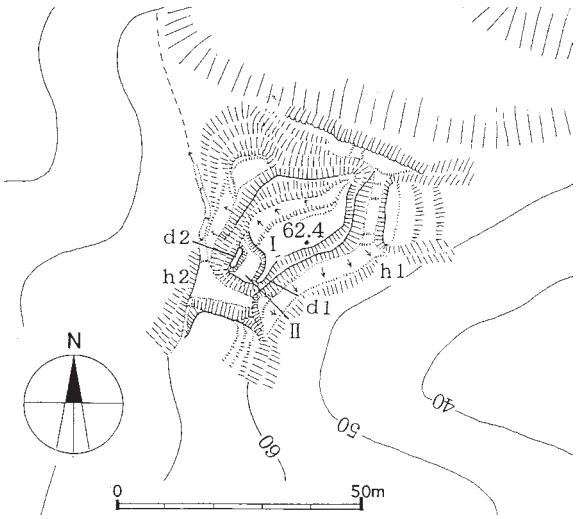
【沿革】今宿町と今宿上ノ原との境にほど近い、丘陵上に位置する。福岡市の遺跡分布地図（文献222）に「青木城」として名称と位置が示されるのが初出であるが、『訂正志摩郡図』・『訂正怡土郡図』（国立公文書館蔵）をみると、志摩郡谷村と怡土郡上原村との境に「古城」という記載が見られ、この城を示しているものと思われる。また、『本編』「高祖古城」に「上の原青木村に三重のからほり有。其かまえ夥し。是此城の搦手の要害なるべし」とあり、『拾遺』「安上」の記載からはもっと大がかりな構築物の可能性もあるが、ここが高祖城の出城との位置づけを示している可能性がある。

【概要】標高 62m の丘陵上に小曲輪を２面ほど配置し、東側と南側の尾根上に堀切を設け、堀底から、曲輪の周囲に帯曲輪が接続する。曲輪の一部に土塁遺構なども見られるが、概して小規模で単純な構造である。在地の小領主層などが築城主体として想定できる小規模城館だが、上記『本編』のいうように高祖城の出城との性格も含めて考えるべきであろう。

【史料】なし　【参考文献】1,11,52,**186**,**190**,222



第 272 図　訂正志摩郡図（部分・国立公文書館蔵）



第 273 図　青木城縄張り図（文献 190・中西義昌作成）

| 筑前 346 | 臼杵氏端城（うすきしはじょう） | 郡名　志摩郡 | 別称　鎌倉城 | 図幅名　福岡西南部（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　福岡市西区今津 | |

【沿革】糸島半島の東側の付け根部分にあたる瑞梅寺川河口の今津湾に面した低丘陵上に位置する。『本編』には「大友の臣臼杵重察が邑城なりといふ。其所に重察が墓あり」とある。北東 150m 地点には鷺城のある丘陵が所在する。

【概要】今津集落の西、今津湾に面した標高 15m の低丘陵上に位置する。東西約 70m、南北約 20 ～ 30m の範囲に二段にわたって曲輪が形成される。周


第 274 図　臼杵氏端城遠景（右手前・左奥は柑子岳）

囲は急傾斜の切岸となっているが、東側を中心に腰曲輪なども認められる。堀などの防御遺構は確認できない。地誌類にある城主の墓は、曲輪の西端にある。近世以来耕作地であったとみられ、若干は改変がなされているとみられるが、基本的な構造は踏襲しているものと思われる。中世の今津集落や港が見下ろすことができ、それらを監視する役目を果たすことができる位置にあると言えよう。



第 275 図　臼杵氏端城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）

なお、平成 26 年度に曲輪の東端部が福岡市役所により発掘調査が行われ、柱穴などの遺構や当時の遺物などが出土した。詳細は近年中に報告される予定である。

【史料】なし　【参考文献】1 ～ 4,6 ～ 10,**11**,48,**52**,**184**,**190**

## 筑前 348　柑子岳城（こうじだけじょう）

**郡名**　志摩郡　**別称**　好士岳城・香地岳城・草場城　**図幅名**　宮浦（東）
**種別**　山城　**所在**　福岡市西区今津

【沿革】今津湾の北西にひときわ南北に高く聳える柑子岳山頂に位置する。柑子岳山頂からは怡土・志摩の各郡の他、博多湾から立花山、宗像連山まで見通すことができる適所である。『本編』では、永禄年間に大友宗麟が志摩郡支配のために親山城とともに築城し、臼杵新助鎮賡（しげつぐ）を城代とし、元亀２年（1571）に新助に代わり臼杵進士兵衛鎮氏が城代となったが、原田了栄を滅ぼそうとして逆に攻め滅ぼされたとある。『拾遺』はさらに詳しく、天文３～４年（1534 ～ 35）に大内氏家臣仁保宮内少輔が築城、梅月頼致、その子致定が城番を勤めたが、天文７年に大友方の城となり、臼杵安芸守、安房守鎮続が在城、上記の臼杵鎮氏の後は、小金丸などの近郷の領主が在番、天正５年（1577）には木付少輔鎮実が城督となるも、同７年に原田氏により攻められ、大友方は柑子岳城もろとも志摩郡を放棄したとある。


第 276 図　柑子岳城から見た眺望
（長浜海岸・能古島・博多湾）

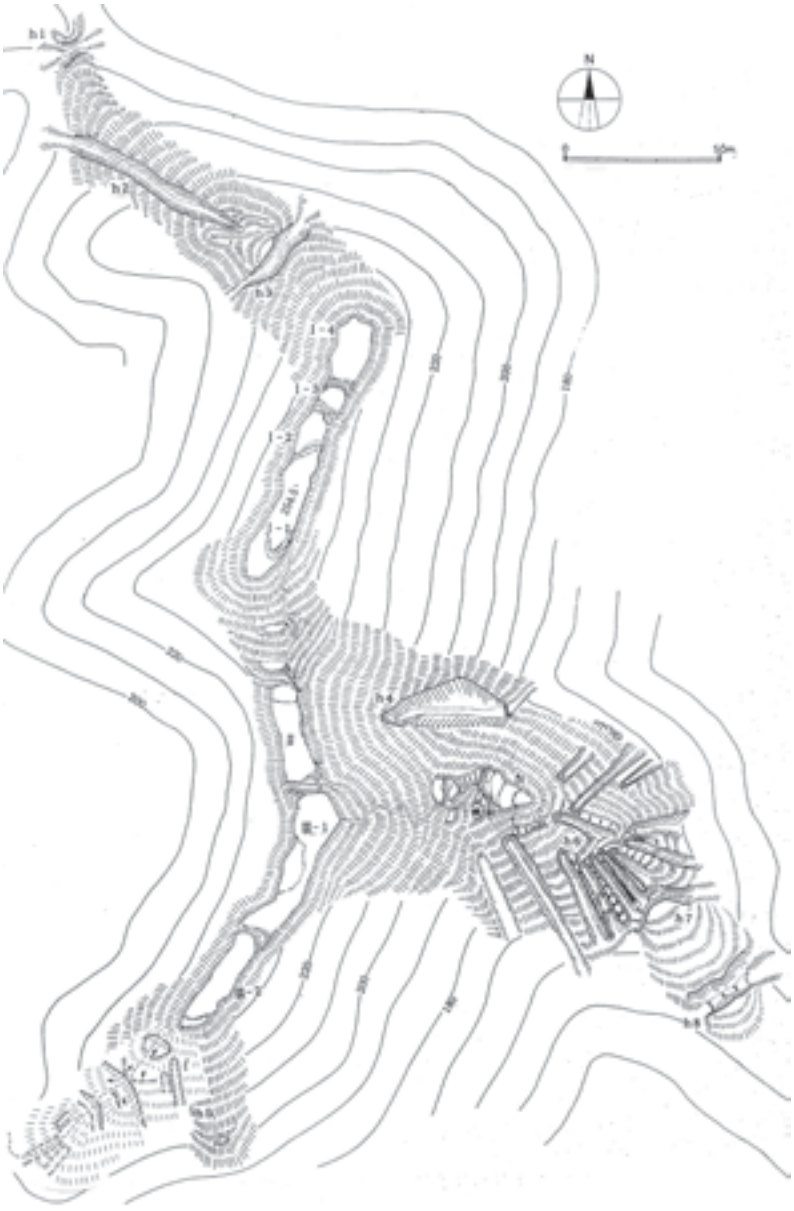

第 277 図　柑子岳城堀切

【概要】柑子岳山頂（標高 254m）を中心に南北 300mを超える規模の城域を有する。曲輪群は大きく山頂部分周辺（Ⅰ－１～４）と南側の峰（Ⅲ－１・２）の二つに分かれ、それぞれ地誌類の本丸（城の上）、二の丸（下城の上）にあたる。それらの間のⅡ

の曲輪を調馬場（馬場跡）と呼ばれる。主郭を中心とした曲輪群Ⅰは全長約 100m 近くあり、緩やかな段によっていくつかの面に分かれる。北側斜面は堀切２本に竪堀を掘り、北の峰からの攻撃に備える。この北側にも２つほど曲輪の造れそうな頂部があるが、自然地形のままであり、城域には含まれていない。

一方、Ⅱ・Ⅲの曲輪群も主郭と同じくらいの規模を有する３つの曲輪が並列する。曲輪Ⅲ－１の東側には尾根が派生しており、50m ほど下った先にⅣの小曲輪を置き、その直下に畝状空堀群と堀切２本を設ける。城内において最も防御を固めている場所である。さらに、Ⅲ－２の南西側の尾根上にも堀切２本と若干の竪堀を設けて南側からの攻撃に備えている。

以上のように、小規模城館が多数存在する志摩郡にあって、柑子岳城は、規模と畝状空堀群などの高度な防御遺構の存在は特異であり、志摩郡一円をおさえる役割を十分に発揮したものと思われる。



第 278 図　柑子岳城縄張り図
（文献 181・中西義昌作成図を一部改変して事務局作成）

なお、地誌類には柑子岳城の南の独立峰に「陣尾山」と呼ばれる原田氏の柑子岳攻城の際の陣跡があるとされる。柑子岳城の南側にも尾根が延びており、所々、頂部を形成しているが、それらに明確な城館遺構は認められないが、さらに南に存在する可能性もあり、さらなる踏査が必要である。
【史料】あり　【参考文献】1 ～ 9,**10**,**11**, 48,50,**52**,**181**,**183**,**190**

| 筑前 349　水崎城（みずさきじょう） | 郡名　志摩郡 | 別称　なし | 図幅名　宮浦（東） |
|---|---|---|---|
| | 種別　山城 | 所在　福岡市西区元岡 | |

【沿革】柑子岳から南に派生する丘陵地帯の末端部、元岡の集落の北東側に聳える水崎山山頂に位置する。『拾遺』では「山上に平地有。縁有て周れり」とあり、地元には城の伝承が伝わっていないためか、古文書を引いている。永享長禄年間の大友親綱からの書状を初出とし、応仁、永正年間の少弐･大友と大内との合戦などの古文書などを示している。実際に一次史料にも水崎城は頻出しており、

城館があったことは疑いないようである。

【概要】かつては今津湾に面していた水崎山山頂（標高約 80m）に位置するというが、実際山頂には人工的に平坦に造成がなされた平坦面群を確認することができ、所々には土留めとも考えられる石列なども見られ、山頂一帯が人工的な造成の手が入っていることは間違いない。しかし、平坦面の周囲が急角度の切岸にならずに自然地形になっていることや、周囲に明らかに後世のものとみられる造成段がいくつか見られること、直近に堀切などの明確な城館遺構が確認できず、山頂部の平坦面が果たして城館遺構か否かは即断することはできない。詳細については発掘調査などのさらなる調査を待つほかない。



第 279 図　水崎山（水崎城）遠景



第 280 図　水崎山山頂周辺の平坦面（城郭遺構かは不明）

【史料】あり　【参考文献】3 ～ 5,8 ～ 11,48,52,186,190

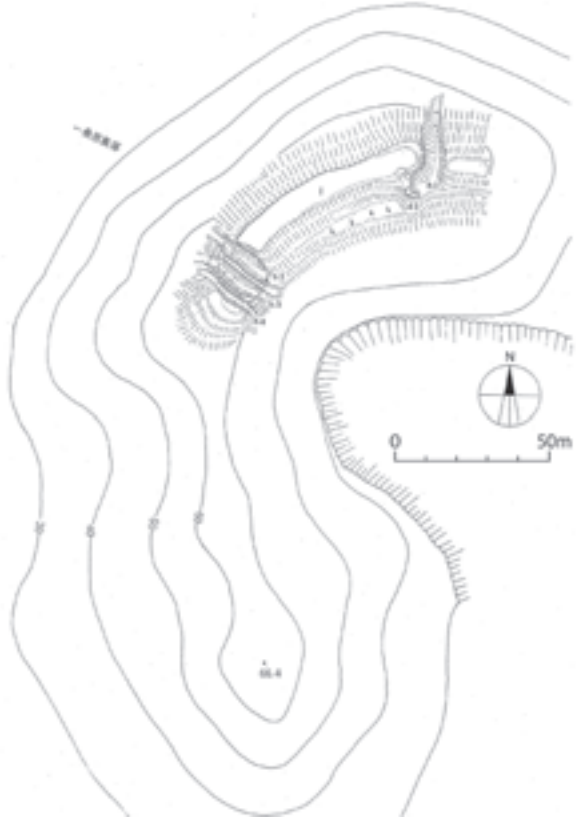
| 筑前 350 | 大神城（おおがみじょう） | 郡名　志摩郡 | 別称　戸山城・大神出雲守宅 | 図幅名 宮浦（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　福岡市西区桑原 | |

【沿革】水崎山の北側、桑原集落の南の丘陵上に位置する。文献 184・185 では仮称「戸山城」としていたが、地誌類の記載に基づき、『全集』掲載の呼称「大神城」として報告する。

『拾遺』桑原村の項には「民家の上に大神出雲と云者の墓とて有。其邊に出雲が居宅二十間に三十間の跡もありて堀切など猶残れり。里民は城跡といへり」とあり、ここで報告する城館遺構を指しているものとみられる。また文献 190 によれば城の麓に「オオガミノシロ」という地名も存在するという。

【概要】標高 66m、南北に細長く伸びた丘陵の北半分を利用して城域とする。全長約 60m の細長い主郭を置き、その尾根つながりの前後に北側は 1 本、南側は 3 本の堀切を設け、尾根上からの攻撃に備える。北側の堀切の片側には d1 のスロープ状土塁が見られ、虎口としての機能を有している。集落側からの出入りを想定しているといえよう。大友配下とみられる在地領主大神氏の居城と考えられよう。

【史料】なし【参考文献】3,4,6,11,48,**52,184 ～ 186,190**




第 281 図　大神城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）

| 筑前 352 | 岩松城（いわまつじょう） | 郡名　志摩郡 | 別称　浦城 | 図幅名　宮浦（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　糸島市志摩浦 | |

【沿革】糸島半島のほぼ中央部、桜井集落から北東方向に延びる谷の最奥部、浦集落の北側の丘陵に位置する。『拾遺』には「岩松古城」として「桜井村浦の上という所に在。故に浦城共云。浦刑部（『全誌』では浦刑部大輔次永）が居城なりしとぞ」とある。



第 282 図　岩松城縄張り図（文献 184・中西義昌作成）

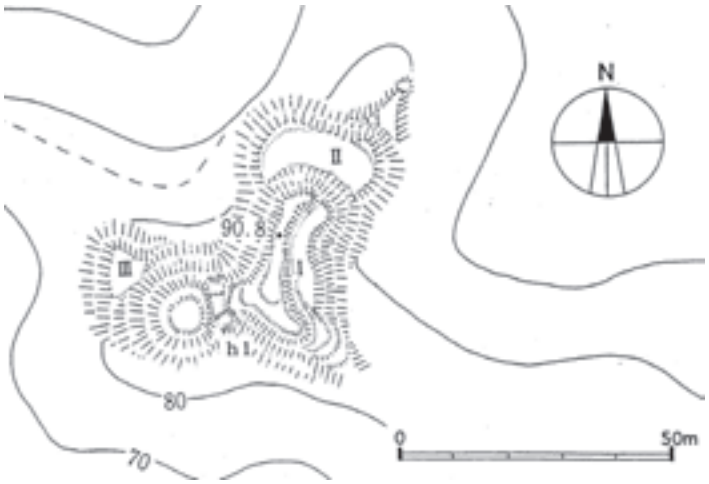
【概要】丘陵上は東西二つの頂部があるが、西側の丘陵上に全長約 50m の曲輪が形成される。土塁なども認められるが、縁辺部の切岸加工などはあまり明確ではない。また曲輪面上は緩やかに傾斜している。近世以降の墓石なども見られることから、後世の改変も若干は受けていると思われる。至って単純な構造と言えよう。

【史料】なし　【参考文献】3 ～ 6,8 ～ 11,48,**52**,**184**,**190**

| 筑前 353 | 松隈城（まつぐまじょう） | 郡名　志摩郡 | 別称　松隈伊賀守宅 | 図幅名　宮浦（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　山城 | 所在　糸島市志摩松隈 | |

【沿革】志摩城の南西、松隈集落の北にある低丘陵上に位置する。「松隈氏代々記」（「怡土志摩古文書」のうち『筑前町村書上帳所収』）には新田伊賀守正家が松隈に姓を改め、「松隈里に居城を構」えたとある。

また、『拾遺』「松隈村長音寺」にも村内に松隈氏の宅跡の存在が示されているほか、『全誌』・『糸島郡誌』（文献 48）・『種々』には「松隈伊賀守宅址」として名が挙がっている。『全誌』には子孫が旧宅跡に在住しているとある。



第 283 図　松隈城縄張り図（文献 190・中西義昌作成）

【概要】松隈集落の北の標高 90m の低丘陵上に堀切を挟んで二つの頂部がある。堀切は至って浅く、また二つの頂部は共に曲輪などの造成加工は施されていない。しかし、東側斜面には曲輪が二面ほど確認できる。南東側の麓への道筋には「ジョウノサカ」、「ナカノヤシキ」などの通称地名が残り、城館との関連が窺われる。

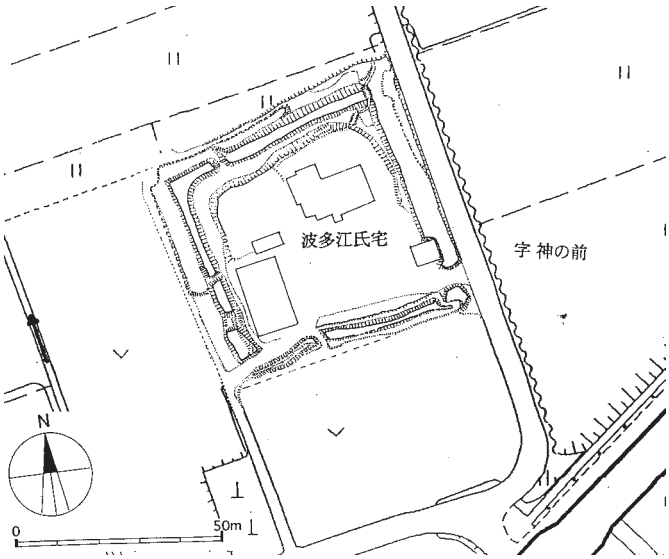
【史料】なし　【参考文献】3 ～ 6,11,48,**52**,**190**

## 筑前 356　波多江館（はたえやかた）

**郡名　志摩郡　別称　波多江城・丹波屋敷　図幅名　前原（東）**
**種別　平地城館　所在　糸島市波多江**

【沿革】雷山川と瑞梅寺川に挟まれた水田地帯で、波多江集落そばに位置する。『本編』「波多江」の項には「波多江村の内に、丹波屋敷と云所有。是波多江丹波が居たりし宅の址也。四方大堀をかまへ、高築地あり」とする。『拾遺』では波多江丹波守種敦の宅跡とし、二方に堀の跡があるとしている。

【概要】水田の中に一辺約 50m 四方の方形区画が良好に残っている。周囲には堀と土塁が巡っており、南側と東側が一部損なわれているほかは、双方とも良好に残存している。堀と土塁はそれぞれ幅約３～４ｍある。土塁の内側にも堀が巡っているが、防御の役割と言うよりは排水のためのものと考えられる。



第 284 図　波多江館縄張り図（文献 190・中西義昌作成）

なお、館の南側を走る国道 202 号バイパス建設の際に、館に近接する場所において中世の集落遺跡（波多江遺跡）が見つかっており、館との関連が窺われる（筑前 R51 参照）。


第 285 図　波多江館遠景


第 286 図　波多江館堀・土塁

【史料】なし

【参考文献】

1,3,4,6,10,**11**,**190**

## 筑前 358　親山城（おやまじょう）

**郡名　志摩郡　別称　小山城・小金丸城　図幅名 前原（西）**
**種別　丘城　所在　糸島市志摩小金丸**

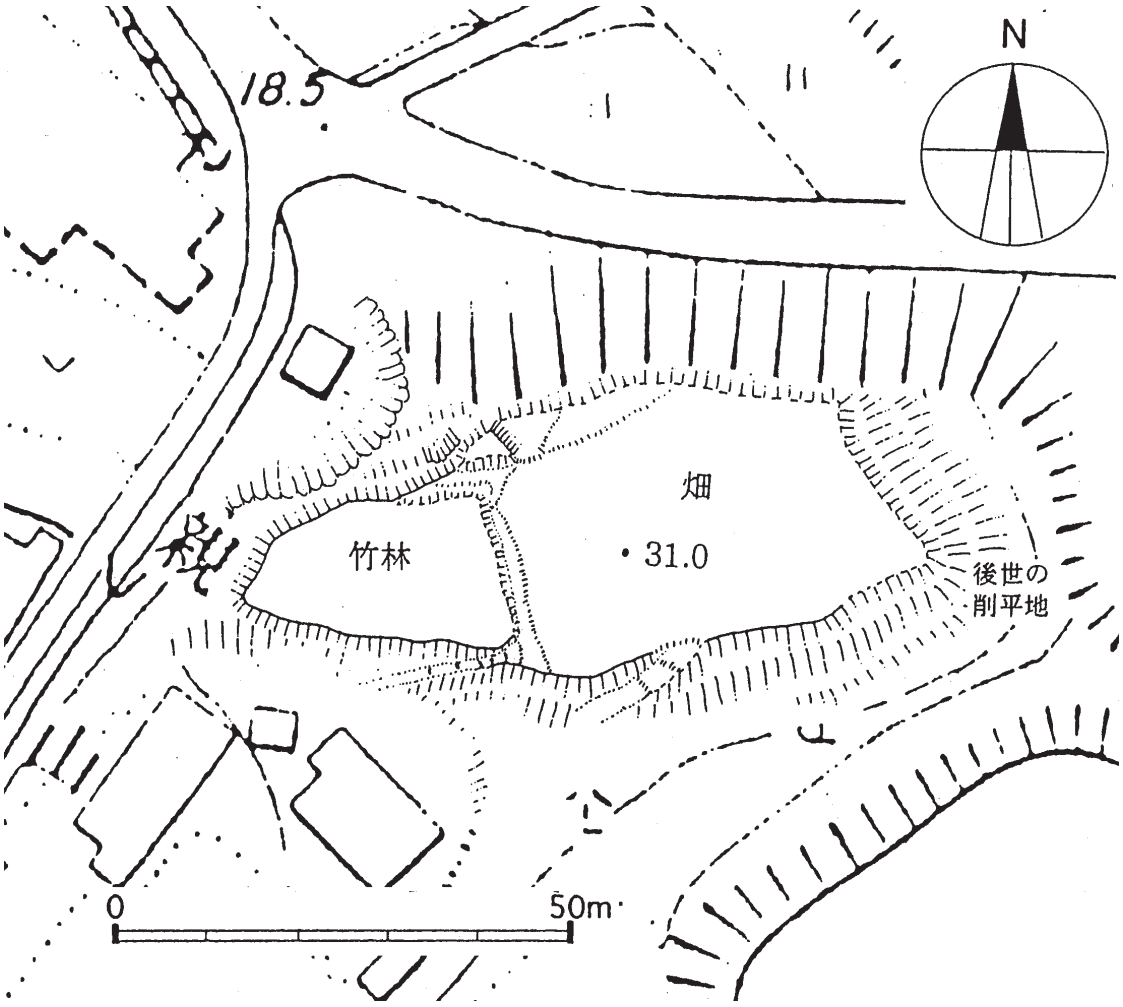
【沿革】可也山北麓、小金丸集落の親山集落の東の低丘陵上に位置する。『本編』「加也山古城」として、可也山山頂に古くに城があったとし、「又此山の北の麓にも城跡有。是は小金丸民部大輔政種守りしと云。又大友氏より志摩郡の目代として、日野三九郎と云ものをもしばらく此城に置れしと云」とある。

【概要】 親山集落の東、親山川の東に面した標高 31m の低丘陵上に位置する。丘陵上は畑と竹林になっており、後世の改変がある程度想定されるが、現状では東西約 30m、南北約 20m の曲輪とその東側に東西約 20m、南北約 15m の小曲輪の二面が確認される。堀や土塁などの明確な防御遺構

は認められない。『全誌』には「字を立（タテ）と云」とあり、関連地名とみられる。

【史料】なし

【参考文献】1 ～ 9,11,48,50,**52**,**190**




第 287 図　親山城縄張り図（文献 190・中西義昌作成）

## 2　近世城館

| 筑前 K6 | 犬鳴別館（いぬなきべっかん） | 郡名　鞍手郡 | 別称　犬鳴城・御別館 | 図幅名　脇田（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　館 | 所在　宮若市犬鳴 | |

【沿革】 鞍手郡の最も西、糟屋郡との境に近い犬鳴谷の奥部の丘陵上に位置する。『新訂黒田家譜』に「福岡者海岸故、攘夷之時也或ハ長防御征伐ニ付而者、英夷加担致すべき間、海岸之城ハ不都合とて、右様犬鳴山え別館取立候」とあるように、幕末の元治元年（1864）、福岡藩が国内外に対する防備のため、有事に備えて藩主をかくまうため、家老加藤司書の推挙により犬鳴谷に別館の建設が始められた。途中、乙丑の獄と呼ばれる藩内における勤皇派への弾圧が行われ、加藤の切腹により建設は頓挫したが、慶応元年（1865）11 月には完成した。明治初期まで福岡藩の施設として利用されたが、明治 17 年（1884）に建物が倒壊した。



第 288 図　犬鳴別館遠景（昭和 62 年調査時）

【概要】現在、犬鳴ダムがある犬鳴谷の奥部、標高 290 mの丘陵の腹部を切り込むように平坦面が築かれる。階段状に 5 ～ 6 段の平坦面を造り出し、合計 13 面程に上る。最上段は約 50m 四方の方形を呈する最大の平坦面を造り出し、左右二か所の石段、石垣を備えた虎口を持つ。その下段には約 20m × 50m の長方形の平坦面が 8 面ほど続き、最下段は地形に即して不整円形となる。基本的には全ての平坦面に石垣が築かれている。昭和 62 年（1987）に犬鳴ダム建設に伴い、福岡県教育委員会により発掘調査が行われ、下段の石垣を中心に調査が行われた。藤巴文軒丸瓦なども出土し、藩の施設であることを示す。二段目以下は、ダム工事に伴い地中に埋没しているが、最上段は現在でも見ることができる。『犬鳴御別館絵図』（宮若市教育委員会蔵・第 292 図）は、建物配置も含めた犬鳴別館の様子を描いた絵図であるが、これを見ると、最上段の最大の平坦面に別館の藩主館が建てられていた。館の間取りに







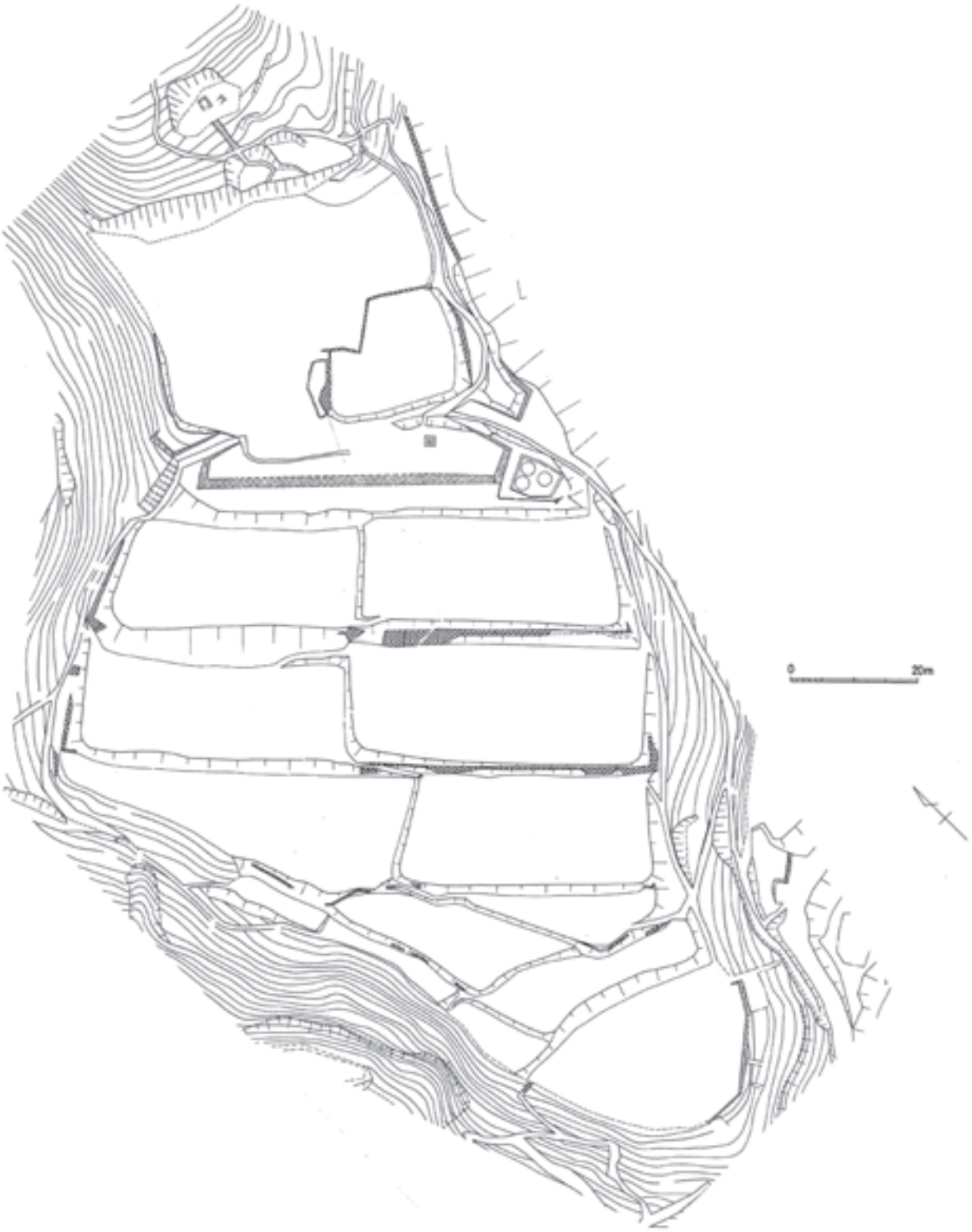
第 289 図　犬鳴別館石垣（下段）



第 290 図　犬鳴別館裏門の石垣

は御居間、御湯殿、御台所、大溜りなどが描かれている。

また、館の東側には園池が描かれているが、現地には池の石垣などが残されている。そして表門の傍らには番所の建物が描かれている。



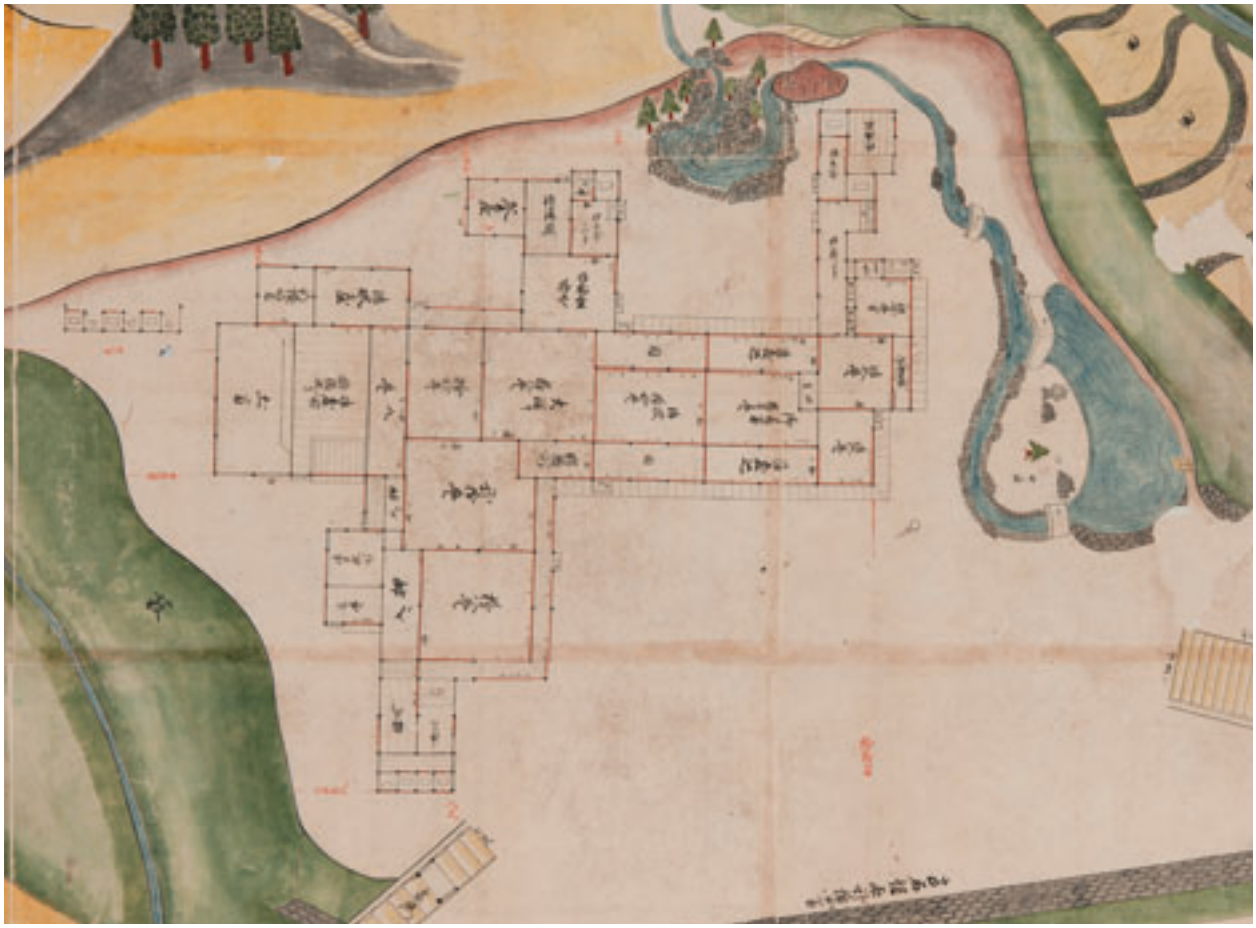

第 291 図　犬鳴別館測量図（文献 63）

下段側は大きく三段に描かれ、物置蔵、上長屋、下長屋が置かれ、最下段には犬鳴谷庄屋の篠崎文内宅が置かれる。以上のようにこの絵図は犬鳴別館の構造を知る上で非常に重要な資料である。

幕末期には各藩は国内外の防衛に備え、別館や御殿という名目で、非常時の避難施設を構築する事例が多く（下関市勝山御殿など）、犬鳴別館もそのような幕末期の築城の一つと位置付けられよう。【史料】あり　【参考文献】5,10,13,**20**,**63**



第 292 図　犬鳴御別館絵図（宮若市教育委員会蔵・宮若市指定文化財）



第 293 図　犬鳴御別館絵図（藩主館部分・宮若市教育委員会蔵）

| 筑前 K7 | 大音屋敷（おおとやしき） | 郡名　鞍手郡 | 別称　明専寺城 | 図幅名　脇田（東） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　館 | 所在　宮若市山口 | |

【沿革】明専寺城は、文献 56 などの分布地図記載を初出とし、明専寺背後の丘陵上にある中世城館とされているが、実際には同所には城館遺構はない。一方で『教委』には戦国期としながらも大音氏の居城としていることから、明専寺南側にある大音屋敷のことを指しているものと思われる。大音屋敷は福岡藩の幕末の家老・大音青山の屋敷であった。明治 7 年（1874）に屋敷の演武場を山口小学校の校舎に転用、同 15 年には書院大広間を教室に充てた（文献 20）。

【概要】明専寺の南側に東西約 100m 近くの石垣を備えた区画を屋敷地とする。石垣の中央部には内枡形の虎口を備える。大正初期の写真には石垣の上に築地塀が築かれているが、現在は見られない。

【史料】なし　【参考文献】8 ～ 10,20



第 294 図　大音屋敷
（上：石垣全景・下：枡形虎口）

## 筑前 K8　直方陣屋（のおがたじんや）

**郡名 鞍手郡　別称 直方館・東蓮寺陣屋・東蓮寺城・黒田長清居館　図幅名 直方（東）**
**種別　陣屋　所在　直方市直方**

【沿革】遠賀川西岸、直方市の市街地を見下ろす御館山を中心に、江戸時代、福岡藩の支藩・東連寺・直方藩の城下は形成された。元和９年（1623）に黒田長政の遺言に従い、長政四男の高政は鞍手郡東部に四万石が分知され、東蓮寺（現在の直方）の地に居館が置かれた。東蓮寺藩の創始である。延宝３年（1675）、東蓮寺の府名を直方に改名したが、同５年に三代藩主・黒田長寛が、福岡藩の世子を継いだため（後に福岡藩四代藩主綱之となる）、一時的に藩主不在となり福岡藩預かりとなった。11 年後の元禄元年（1688）に黒田長清が四代藩主となると、五万石に加増、同５年に御館山に居館を新築した。長清の子、継高は、享保５年（1720）に福岡藩六代藩主を継いだため、継嗣がなくなり、直方藩は廃藩、福岡藩に収公された。



第 295 図　直方惣郭図（個人蔵）

【概要】東蓮寺藩の居館は、直方城下町のほぼ中央、居館移転後に双林院が置かれた場所にあったという。江戸後期に描かれた『直方惣郭図』（個人蔵）には双林院の場所に「以前四万石ノ節之御館、只今祈祷所双林院」と書かれている。絵図には双林院の周りには、旧藩主館を囲んでいたとみられる水堀の名残が描かれている。双林院は現在も殿町の宅地の中にある。

一方、元禄５年に移転した居館は、双林院の西の丘陵、御館山の頂部にあった。現在は、体育館や公園となって、往時の状況はよくわからないが、絵図に




第 296 図　直方惣郭図（部分・個人蔵）（御殿の右上の鉤形の堀の下が旧藩主館跡地）

は「御殿」と書かれた方形の区画が描かれ、丘陵の東側から南側にかけて水堀が巡っていたのがわかる。館の南側には、水堀に面して虎口空間を持つ表門と、単に門を構えた裏門があり、それぞれ別々の道で丘陵を登り、居館へも別の門口から入る構造となっていた。

居館内部は、表門からの道は、東側の中門、裏門からの道は西側の門へと通じ、館内部に入る。中門からは御玄関へそのまま入るのに対し、裏門からのルートでは、いわゆる裏方の御台所へと入るようになっており、表と裏が入口により分化されていることがわかる。館内部には、御用部屋、大書院御能御舞台、家老衆詰所などがあり、最も奥に御風呂屋、御寝間など、藩主の私的な空間が設けられている。

なお、『直方旧考』には「東蓮寺御旧館の建さる已前は、此の所に杉連並が老臣、尾仲加賀と云し者居れりとぞ」とあり、戦国時代、大内氏に仕え、大内氏滅亡後は秋月氏の配下となった杉連並の家臣、尾仲加賀が館を構えていたということである。そして『直方旧考』には「東蓮寺に居宅のまま数年住せしが、此の所に新館御築立に依りて山辺村に移され云々」とあり、尾仲氏の屋敷地がそのまま

東蓮寺藩の居館の建設地となったということである。尾仲氏の館の構造がどこまで反映されているのかは不明である。

【史料】あり　【参考文献】4 ～ 6,9,10,12,13,17,176




第 297 図　直方御殿御絵図（個人蔵）

| 筑前 K10 | 黒崎城（くろさきじょう） | 郡名　遠賀郡　別称　道伯山城　図幅名　八幡（西）<br>種別　山城　所在　北九州市八幡西区屋敷1丁目・船町 |
|---|---|---|

【沿革】洞海湾南岸に聳える道伯山山頂に位置する。黒田長政が関ヶ原合戦の後に筑前に入部した際、築かせた出城「筑前六端城」の一つである。御牧（遠賀）郡奉行にして重臣の井上之房が 17,000 石の高禄にて封ぜられるが、他の端城同様、元和の一国一城令にて廃城となる。廃城後は、城の南側が、長崎街道の黒崎宿として発展を見せる。

【概要】標高 62m の道伯山は現在、山頂部に大きな貯水槽が建設されており、建設の際に山頂周辺の遺構はほとんど壊されてしまっており、詳細な状況はほとんどわからない。しかし、江戸時代の絵図を見ると、およその状況を知ることができる。山頂部に方形の主郭（本丸）を置き、その北側と西側に土塁と石垣を巡らせる。北側には、内枡形と思われる虎口を構え、下段へと続いている。本丸の周囲は帯曲輪が巡っているが、特に東側と北側は広くなっており、いわゆる二の丸と呼べる曲輪となっている。そして、その北側に南北に細長い曲輪（三の丸）を築いている。本丸の一部を除いては、破城の影響か、石垣などの表記は認められない。



第 298 図　遠賀郡黒崎古城図（部分・国立公文書館蔵）

前述のように、貯水槽建設により、現状ではほとん

ど遺構が残されていないと考えられていた黒崎城ではあるが、近年北九州市が確認調査を行い、その実態が徐々に明らかとなってきている。

本丸部分についてはほとんど残存していないが、その周囲の二の丸や三の丸の縁辺部では石垣が残存している。ほとんどは玄武岩質の石材を用いて積んでいる。道伯山内には矢穴痕跡の残る石材（ただし、石垣中の玄武岩には矢穴は見られない）があり、城内で石材を調達していたものとみられる。また、本丸跡に方形の花崗岩石材が数点確認でき、石垣の隅角部分専用の石材として利用された可能性も考えられる。

他に瓦などが出土しており、瓦葺き建物が想定される（詳細は刊行予定の発掘調査報告書を参照）。

また、絵図には山の北側の岬には「御舟入」と横矢がかかった石垣で護岸された箇所（矢倉台）があるが、現在は埋め立てられてしまい、よくわからなくなっている。しかし、大正時代の地形図を見ると、江戸時代と類似する形態で石垣の表記があり、大正時代頃までは残されていた可能性が高い。しかし、この遺構が六端城の当時まで遡るかどうかは今後の検討課題である。

【史料】あり

【参考文献】

1 ～ 4,7 ～ 11,21,26,180,193





第 299 図　黒崎城石垣



第 300 図　黒崎城南斜面にある矢穴痕跡の残る玄武岩



第 301 図　黒崎城本丸跡の花崗岩石材




第 302 図　黒崎城北側の護岸の石垣表記（陸地測量部作成 1/25,000 地形図「八幡市」（大正 11 年）を一部改変して事務局作成）（福岡県立図書館提供）

## 筑前 K11　若松城（わかまつじょう）

**郡名**　遠賀郡　　**別称**　中島城　　**図幅名**　八幡（東）
**種別**　平城　　**所在**　北九州市戸畑区中島

【沿革】戸畑と若松との間の洞海湾上に浮かぶ中島にあった。福岡藩の六端城の一つで、船手頭の三宅若狭守家義が 2,750 石で支城主として置かれたが、元和の一国一城令により廃城となった。『全誌』には永正年間に竹内治部が居城したとあり、黒田氏以前にも城があったことになっているが定かではない。

【概要】大正時代の洞海湾開削により、中島は消滅している。そのため、若松城はおろか中島の正確な位置すら、現状ではよくわからないが、大正時代の地図を見ると、洞海湾が最も狭くなる場所のすぐ北側にあることがわかる。現在の若戸大橋の真下あたりとなる。

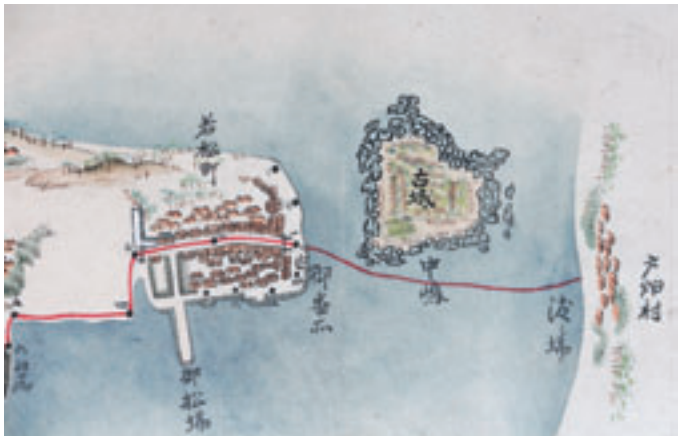
第 304 図は元禄十二年作「筑前国絵図」（福岡県立図書館蔵）を昭和 8 年（1933）に模写したとされる絵図である（原図は戦災にて焼失）。この中嶋の部分が「古城」となっている。島の周囲には岩礁が描かれ、島の中は草地が描かれるばかりであり、残念ながら城の構造を知る手がかりは現在の所、存在していない。

【史料】あり

【参考文献】1 ～ 4,6 ～ 11,23,26,180,193



第 303 図　中島（若松城）の位（陸地測量部作成 1/25,000 地形図「八幡市」（大正 11 年））（福岡県立図書館提供）



第 304 図　元禄十二年若松附近古絵図（写）
（部分・北九州市自然史・歴史博物館所蔵・提供）

## 筑前 K13　名島城（なじまじょう）

**郡名**　糟屋郡　　**別称**　なし　　**図幅名**　福岡（西）
**種別**　平山城　　**所在**　福岡市東区名島 1 ～ 3 丁目

【沿革】博多湾の東奥部に面した名島の丘陵上に位置する。『本編』には「初め立花但馬守鑑載が築きし立花の端城あり」とあり、戦国時代後期に既に名島城が築城されていたことが記されるが、真偽のほどは定かではない。天正 15 年（1587）、豊臣秀吉の九州平定により筑前を与えられた小早川隆景は立花山城に入城するが、翌 16 年には名島城の築城を始め、ほどなく入城した。慶長 5 年（1600）の関ヶ原合戦の戦功により、小早川隆景は備前に移封、代わって入城した黒田長政は、当初この名島城を居城としたが、すぐさま福岡城築城に取り掛かり、7 年の内に完成を見た。『本編』によると、福岡築城に際し、名島城の石材や建築部材の多くは福岡城に転用されたとある。福岡城




第 305 図　名島城跡地形図（文献 79・昭和初期）



第 306 図　表粕屋郡名嶋古城之図（小早川期・国立公文書館蔵）

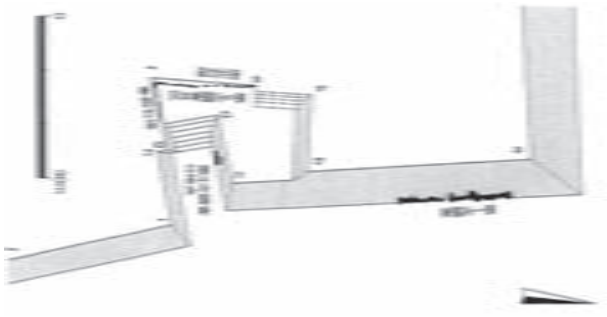
完成により、名島城は廃城となった。

【概要】かつて半島状に博多湾に突き出していた名島の丘陵の最先端（標高 21m）の最高所の本丸（黒田期を描いた絵図では天守）から東側に長天守（黒田期を描いた絵図では本丸）、二の丸、三の丸と曲輪が展開していた。曲輪群の南側に水堀が巡り、長天守と二の丸の間にも水堀が走っていた。三の丸の東側は空堀となっていた。

昭和 30 年代頃までは往時の様相が色濃く残っていたが、道路建設や宅地化により、公園となった本丸以外の曲輪は、宅地や道路なってしまい、現状の残存状況は不明である。本丸部分についてもかなりの部分が残されていないと思われていたが、近年の確認調査により、櫓台、石垣、枡形虎口が良好に残存していることが確認されている。



第 307 図　名島城本丸枡形虎口の石垣
（福岡市埋蔵文化財センター提供）



第 308 図　発掘調査で確認された名島城本丸石垣
（文献 82）

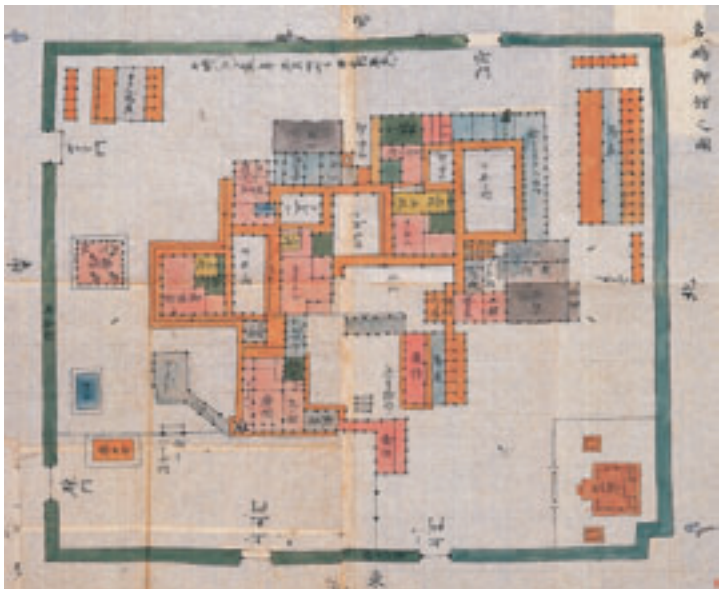
また、発掘調査では肥前名護屋城出土品と同笵の巴文軒丸瓦や唐草文軒平瓦が多く出土したが、過去の採集品には桐文の塼や鯱瓦などもみられ、大型の天守か櫓を備えていたと類推される。

なお、関連資料として名島城の館を描いたとする絵図（第 310 図）がある。形状などから見て最も西側の曲輪（小早川期の本丸）が妥当とみられるが、証拠に乏しく断定できない。名島城で使用された建築部材の多くは福岡城に運ばれたとするが、福岡市博多区の崇福寺の唐門（第 309 図）など、近隣の寺院等に移築されたとする伝承も数多く残る。

【史料】あり　【参考文献】1 ～ 11,73,**74**,**79**,**82**



第 309 図　崇福寺唐門（重要文化財）



第 310 図　名嶋御館之図（九州大学附属図書館蔵）

## 筑前 K14　福岡城（ふくおかじょう）

**郡名　那珂郡 / 早良郡　別称　舞鶴城　図幅名　福岡（西）/ 福岡西部（東）/ 福岡南部（西）/ 福岡西南部（東）　種別　平山城　所在　福岡市中央区城内・大濠公園**

【沿革】近世以降、博多に加え、福岡の中心となった福岡藩主の居城である。慶長５年（1600）の関ヶ原合戦に勝利した東軍方についた黒田長政は、豊前中津から筑前一国 52 万石を与えられ、翌年筑前に入部した。当初、前領主の小早川秀秋の居城であった名島城に入るが、すぐさま新たな居城を移す場所の選定に入った。最終的に那珂郡警固村の福崎の地に決定して、街の名を福岡と改名、六端城（『本編』では７か所）と共に７年の内に完成を見た。以後、明治維新に至るまで福岡藩主の居城として機能した。

【概要】**＜縄張り＞**城が築かれたのは福岡平野の中央、赤坂の丘陵地の北端の海浜部であり、古代には大宰府の役所の一つ鴻臚館が築かれた場所でもあった。西側には元々入江だった草香江を巨大な湿地帯の池「大堀」として防備、南側は丘陵を断ち切って水堀を通し、北側と東側は所々に屈曲した横矢の入った巨大な水堀を巡らして守りを固めた。これらの濠や天然の池で囲まれた「内城」には、本丸、二ノ丸、三ノ丸が順次配置されていた。さらにその北側（海側）から東側にかけては「外城」の町割が形成され、三ノ丸の東側からは中洲へ向かって東西方向に中堀、肥前堀が掘られていた。さらに東に中洲を挟んで古代以来の商業都市博多の南側にいわゆる「房州堀」の空堀により城下町として取り込んで、城と併せて一体的な「福博」城下となしていた。



第 311 図　福岡城堀石垣（腰巻石垣）

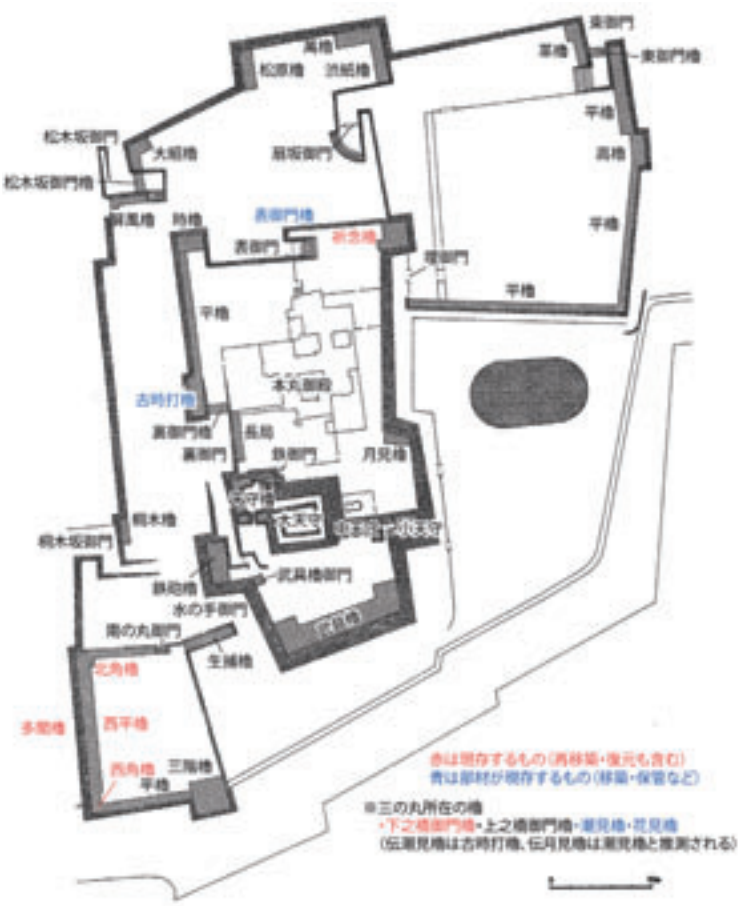



第 312 図　福博惣絵図（部分・福岡市博物館蔵、一部改変して事務局作成）

本丸から三ノ丸を囲んだ水堀は幅50～70mと広大で、高さ７m以上の土塁で周囲を囲み、土塁下部には土留めのための腰巻石垣（堀石垣）で囲まれていた。城内に入るには北側の上之橋、下之橋と、南側の追廻橋の３箇所しかなく、特に正面となる上之橋と下之橋は、内枡形の二重櫓門が備えられていた。三ノ丸には家祖如水が隠居したという御鷹屋敷の丘陵のほか、家老クラスの重臣の屋敷群が並ぶ。二ノ丸から内部は御殿、櫓のみとなる。二ノ丸に入る東御門や松木坂御門は内枡形の虎口で、メインルートの東御門には石垣前面に巨石を象徴的に配する鏡石が置かれている。二ノ丸から内側の虎口は全て折れを伴う枡形虎口となり、ますます防備を固めている。正面北側の扇坂御門、本丸に上がる表御門などは内枡形であるのに対し、本丸天守台裏側にはＬ字形に飛び出した石垣を持つ外枡形虎口を重層的に配置し、非常に出撃性の高い空間に仕上げている。

なお、現在、中堀、肥前堀、本丸南側の堀は埋め立てられている。

**＜門と櫓建物＞**福岡城には数多くの門と櫓が存在したが、その多くは本丸と二の丸に集中している。現存するものは、二の丸南の丸の多聞櫓と祈念櫓のみで、祈念櫓は再移築のため、元の姿からはかなり異なっている。また、三の丸下之橋御門は重層




第 313 図　福岡城本丸・二ノ丸所在の門・櫓位置図
（文献 193 掲載図を一部改変して事務局作成）



第 314 図　福岡城二ノ丸表御門



第 315 図　福岡城二ノ丸裏御門



第 316 図　福岡城三ノ丸土塁



第 317 図　福岡城大天守台

構造が一層構造に建て替えられて残されていたが、焼失したため、現在は元の姿に復元している。また、その下之橋御門の傍らにある伝潮見櫓は再移築されたもので、調査の結果、元々潮見櫓の部材ではなく、古時打櫓の部材である可能性が高いとされている。城内になく、他所に再移築や保管されているものとしては、本丸表御門が福岡市博多区の崇福寺の山門として再移築されているほか、伝本丸月見櫓と伝三ノ丸花見櫓も崇福寺の仏殿と拝殿として利用されていたが、現在は解体されている。調査の結果、伝月見櫓については、三ノ丸潮見櫓の部材である可能性が高いとされている。


第 318 図　福岡城多聞櫓


第 319 図　福岡城祈念櫓


第 320 図　福岡城旧本丸表御門櫓


第 321 図　福岡城下之橋御門と伝潮見櫓

**＜発掘調査＞**福岡城の城内では、現状変更や史跡整備等に伴う発掘調査が行われており、その回数は 50 次を超える。その内､門については上之橋御門､下之橋御門(大手門)の調査がなされている。また櫓は、本丸祈念櫓、月見櫓、時櫓、武具櫓、三の丸潮見櫓、花見櫓の確認調査が行われている。その他、三の丸については、御鷹屋敷を初め、鴻臚館の調査に伴い重臣屋敷の調査が多く行われ、濠については地下鉄建設ほか開発行為に伴い、内堀、中堀、肥前堀の調査が行われている。詳細は各発掘調査報告書を参照されたい。


第 322 図　福岡城下之橋御門調査状況
（福岡市埋蔵文化財センター提供）


第 323 図　福岡城祈念櫓調査状況
（福岡市埋蔵文化財センター


第 324 図　福岡城上之橋御門調査状況
（福岡市埋蔵文化財センター提供）

【史料】あり

【参考文献】

1,4 ～ 11,44,85 ～ 108,193

| 筑前 K15 | 石崎城（いしざきじょう） | 郡名　怡土郡 | 別称　高祖崎城 | 図幅名 前原（西） |
|---|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　糸島市二丈石崎 | |

【沿革】怡土郡西部に聳える二丈岳の北東麓、現在の糸島市葬祭場の北側、標高約 20m の通称「城山」に位置する（一貴山小学校の敷地に位置する説もある）。江戸後期に唐津藩厳木浦河内庄屋の秀島鼓渓が著した『松浦記集成』（原本は唐津市寄託）には、「石崎城　怡土郡石崎村寺沢公出張城」とある。『全誌』には「高祖崎城址」として「本村の北五町余、原田氏の端城なり。寺澤志摩守広高、此邊を領せし時、支庁とし国枝小兵衛と云者を代官として置しか。天草賊乱の後、廃して深江駅に移せしと云」とあり、石崎の地に戦国時代は原田氏の出城、江戸時代初期の寺澤領の時期に唐津藩の支城が置かれていたことがわかる。



第 325 図　肥前慶長国絵図に描かれた石崎古城
（部分・佐賀県立名護屋城博物館蔵）


第 326 図　石崎城遠景

【概要】現在、城があったとされる丘陵は残っており、丘陵上は人為的に造成された広い平坦地形が残されているが、祠などに用いられた瓦の散布や石垣が残っていたりするものの、地表面では明確な城館遺構を確認することはできない。

なお、『肥前慶長国絵図』（第 325 図）には「いしざき古城」が描かれており、唐津領内では唐津城の他に、名護屋城、岸岳城、獅子ヶ城が記されている。この絵図の記載内容は佐賀領内に蓮池城や龍造寺城があることから慶長 12 年（1607）以前段階の情報を描いているとみられ、既にこの段階で石崎城は廃城となっていることがわかる。島原の乱後に廃したという『全誌』の記載内容とは齟齬を来しているが、他の唐津藩内に描かれた城がいずれも重要な城であることを考えると、この石崎城も唐津藩にとって重要な位置を占めていたと推測される。

【史料】なし

【参考文献】4 ～ 6,10,11,48,49,51

## 3　城館等伝承地

**筑前 D49　香雫井原屋敷（かすくいはらやしき）**

**郡名　宗像郡　別称　香雫城　図幅名　津屋崎（東）**
**種別　居館　所在　福津市福間南1丁目**

【沿革】西郷川に面した南側の丘陵上に位置する。文献34には、「香雫井原屋敷」として、小金原合戦に敗れた井原一族の館のあった場所が「香雫」といい、江戸時代中期までは民家が点々とあり、観音堂が祀られていたという。『種々』には「香雫城（井原氏）」と名を挙げている。



第327図　香雫井原屋敷地割図（事務局作成）

【概要】現在、字「香雫」の地は、耕作地の他、民家が建っており、地表観察の限りでは城館遺構は見当たらない。しかし、地割を見ると、南北約80m、東西約90mの方形区画を確認することができ、これが井原屋敷の区画を示している可能性があるが、発掘調査等を行っていないため、断定できない。

【史料】なし

【参考文献】5,8 ～ 11,34

## 4　城館関連遺跡

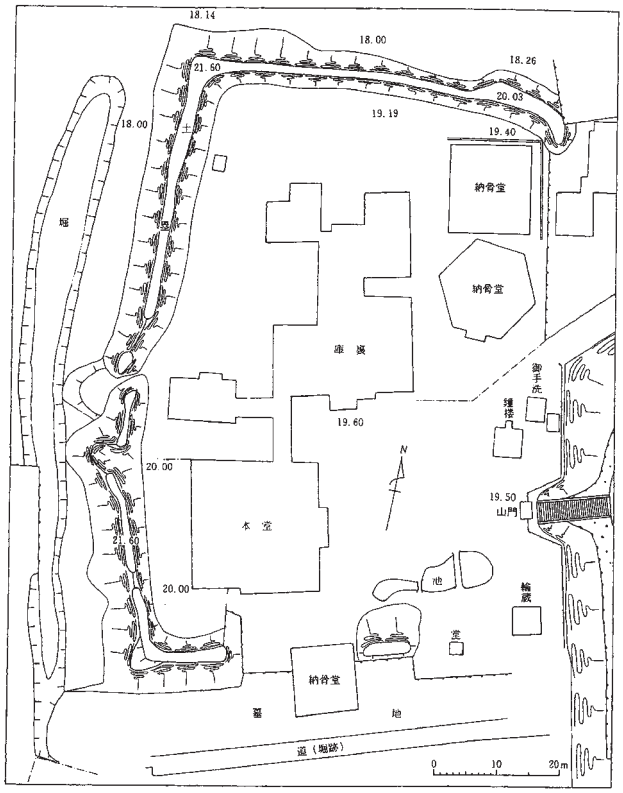
**筑前 R8　光福寺城館跡**（こうふくじじょうかんあと）

**郡名**　鞍手郡　　**図幅名**　直方（東）
**種別**　平地城館　　**所在**　直方市下境

【位置】遠賀川支流の彦山川東岸、広い台地の南端に位置する。

【概要】享禄元年（1528）に開基したと伝える光福寺の境内は、周囲に土塁と堀が巡っている。東側には土塁が見られず、南側も一部しか残存していないが、西側には南北約 100m、北側には東西約 70m の土塁が巡り、西側の土塁の外には幅約３m、深さ約１m の空堀が巡っている。土塁の規模は基底部幅約 10m、高さ約２m である。部分的に発掘調査が行われており、12 ～ 13 世紀の柱穴群なども見つかっており、敷地内に中世前期にまで遡る遺構が存在することが判明したが、土塁や堀の形成時期については不明である。

【参考文献】66,175




第 328 図　光福寺城館跡測量図（文献 175）

**筑前 R9　上頓野宮ノ前遺跡**（かみとんのみやのまえいせき）

**郡名**　鞍手郡　　**図幅名**　徳力（西）
**種別**　平地城館　　**所在**　直方市上頓野

【位置】直方市上頓野、近津川上流北岸の平坦地に所在する。

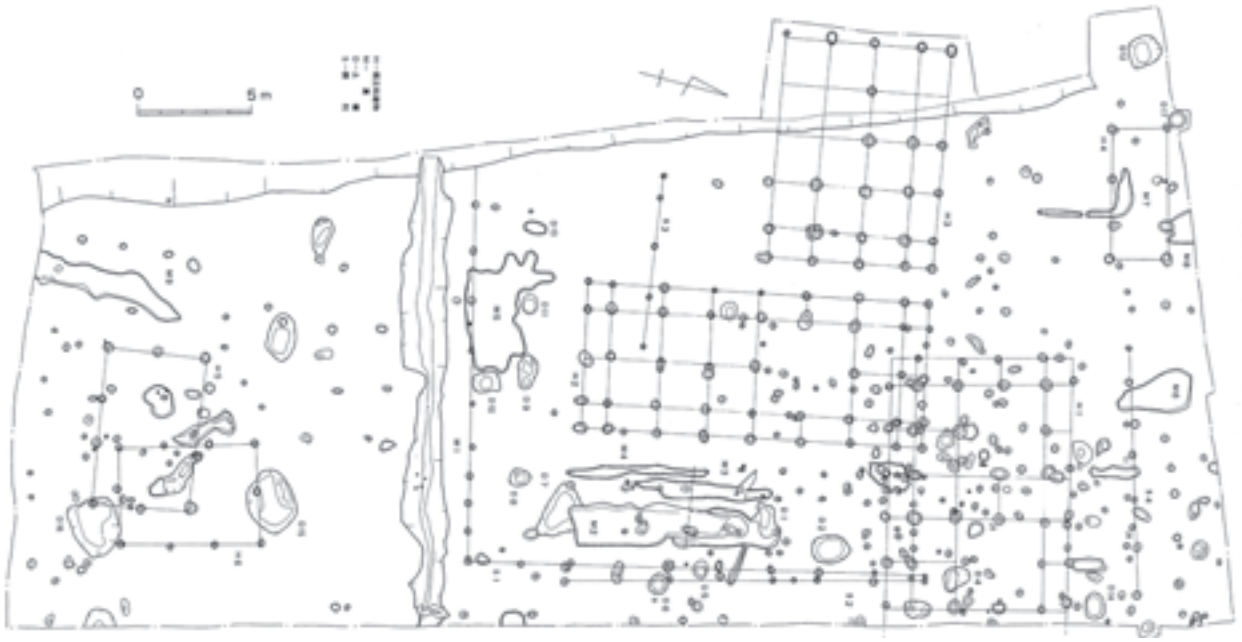
【概要】７地区約 8,000㎡の発掘調査が行われ、14 ～ 16 世紀を中心とする掘立柱建物約 40 棟、溝約 10 条、土坑約 80 基が検出され、15 ～ 16 世紀が最盛期であることが判明した。

特に第３区では、２間×６間で四面に庇が巡る大型建物群が溝と柵で囲まれた状況で検出され（第 330 図）、発掘された遺跡の中でも核となる建物群であると考えられ、在地領主の邸宅と



第 329 図　上頓野宮ノ前遺跡調査区位置図（文献 64）

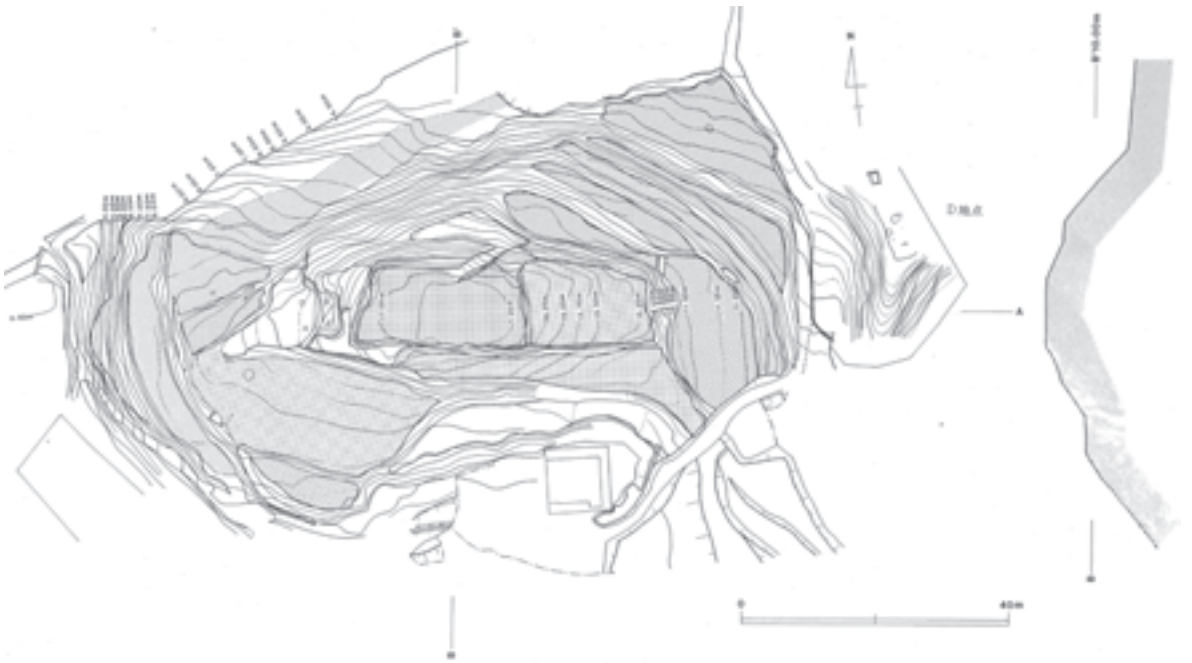
みられる。調査区の制約もあり、堀や溝が四方を巡る状況は確認されなかったが、区画溝がいくつか見られ、建物群を囲んでいる可能性も考えられる。雲取山城の麻生氏との関連が想定されている。
【参考文献】64



第 330 図　上頓野宮ノ前遺跡第 3 区遺構平面図（文献 64）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 筑前 R10　本城南遺跡（ほんじょうみなみいせき） | 郡名　遠賀郡 | 図幅名　折尾（東） |
| | 種別　丘城か | 所在　北九州市八幡西区本城東6丁目 |

【位置】洞海湾の最奥部、低丘陵が複雑に入り組む丘陵の頂部に位置する。
【概要】発掘調査が行われた範囲の内、城館関連遺構とみられるものが検出されたのは C 地区の小



第 331 図　本城南遺跡 C 地区遺構平面図（文献 69）

丘陵である。標高 17m の小丘陵全体に地山整形を行い平坦面と切岸が造り出されている状況が検出された。頂部に 10m × 20m の方形の曲輪を置き、その周囲に階段状に平坦面を展開している。堀切などの明確な防御遺構は確認できないが、丘陵の南東側に断面Ｖ字を呈する切通しがあり、元々堀切であった可能性も考えられる。遺構面は削平されたためか、建物などの明確な遺構は確認されなかったが、周囲の谷からは 12 世紀後半～ 13 世紀前半の瓦・陶磁器類が多く出土しており、概ねその時期の遺構とみられるが、周囲の丘陵上からは同時期の墓群なども見つかっており、遺跡の詳細な性格については断定できない。

【参考文献】69



第 332 図　本城南遺跡 C 地区調査状況
（北九州市教育委員会提供）

## 筑前 R11　上西郷（かみさいごう）ニホンスギ遺跡（いせき）

郡名　宗像郡　　図幅名　津屋崎（東）
種別　町家遺構　　所在　福津市上西郷

【位置】西郷川中流域、亀山城の川を挟んだ標高８mの平地上に位置する。

【概要】発掘調査区 2,000㎡の範囲から、幅約８m、長さ約 20m 弱の短冊形地割が少なくとも９区画確認された。それぞれの区画からは主に東西方向を長軸とする２間×３間の掘立柱建物が１～２棟ずつ、併せて 19 棟が検出された。他には井戸１基と柱穴・土坑多数が見つかっている。調査区の北側は西郷川の氾濫原となり、状況は詳細にはわからないが、南側は東西方向の現道に接続し、旧来から道路があった可能性も考えられる。



第 333 図　上西郷ニホンスギ遺跡（奥左隅に亀山城）
（福津市教育委員会提供）

出土遺物は瓦質土器、土師器、陶磁器、銅銭、笄、土錘など、15世紀後半～ 16 世紀に位置づけられる。



第 334 図　上西郷ニホンスギ遺跡全景（上が北・福津市教育委員会提供）

短冊形地割などの状況からいわゆる町家遺構と見られるが、川を挟んだ向かい側に亀山城、南東側には武家居館と見られる上西郷タナカ遺跡が隣接する。さらにその南側には鷺城の想定される丘陵も位置し、上西郷の一帯が、丘城、居館、町家が一体となった城下的な様相を呈していた可能性が考えられる。

【参考文献】72

| 筑前 R12 | 上西郷タナカ遺跡 | 郡名 | 宗像郡 | 図幅名 | 津屋崎（東） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 種別 | 平地城館 | 所在 | 福津市上西郷 |

【位置】西郷川に面して町家遺構が見つかった上西郷ニホンスギ遺跡の南東約 200m 地点、標高 8 mの平地に位置する。

【概要】調査区からは、溝により方形に区画された箇所が 2 ～ 3 箇所検出された。その内の一区画は、東西 35m 以上、南北 25m 以上の規模を有し、区画内部からは掘立柱建物 7 棟の他、多数の柱穴、土坑が検出された。銅銭、動物骨、漆器、下駄、羽子板など、日常生活に関わる遺物から、鉄滓、鞴羽口など鍛冶などに関わる生産遺物なども出土している。時期は 14 世紀後半～ 17 世紀後半までと長期にわたるものである。中世においてはニホンスギ遺跡や亀山城、鷺城との密接なかかわりが想定されるほか、近世以降、在地有力層の拠点が解体された様相を示しているものと思われる。

【参考文献】203



第 335 図　上西郷タナカ遺跡全景（上が北・福津市教育委員会提供）

| 筑前 R14 | 香椎 A 遺跡 | 郡名 | 糟屋郡 | 図幅名 | 福岡（東） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 種別 | 平地城館 | 所在 | 福岡市東区香椎2丁目 |

【位置】香椎宮の西約 500m、御飯ノ山から西へ派生する丘陵の麓の標高 4 m の平地に位置する。

【概要】香椎宮の北側一帯の範囲を包蔵地とする香椎 A 遺跡は、過去に 6 回発掘調査が行われているが、その内、 1 次調査と 4 次調査 I 区で溝に囲まれた方形区画の屋敷地群が検出されている。 4

次調査Ⅰ区は南北90m、東西55mの範囲で調査が行われ、調査区からは溝で囲まれた方形区画２面と、調査区全面から多数の掘立柱建物群、柵、土坑、井戸が検出された。溝で囲まれた方形区画は、南北に２面並列し、南北約30m、東西約30m以上の規模を有する。

出土遺物の時期は13～16世紀で、出土遺構もそれらの時期の間に３期にわたる変遷案が提示されている。溝による方形区画が形成されるのは最終の３期とされており、大半の掘立柱建物は溝がない時期の１～２期に当たるとされるが、溝の方向と大半の建物の方向が並行していることから、溝の最終的な埋没の時期が16世紀代であり、成立時期は遡る可能性も考えられる。

また、第４次調査Ⅰ区の西約20m地点では第１次調査として南北44m、東西12mの範囲の発掘調査がなされており、４次調査Ⅰ区で検出された溝に並行する東西方向の溝が数本、掘立柱建物を含む多数の柱穴群と共に検出されている。出土遺物の報告がないために詳細は不明であるが、報告書には、年代は概ね12世紀代としている。しかし､溝の方向などを考え合わせると､４次調査Ⅰ区と同時期の可能性も考えられる。




第336図　香椎A遺跡第４次調査Ⅰ区遺構平面図（文献81）

少なくとも４次調査の成果を考えると、13世紀以降、中世末期まで屋敷地が展開していたと想定され、香椎宮関連の屋敷跡とも考えられる一方で、時代的な背景をみると元寇を発端とする大友氏による異国警固番役が始まる時期でもあり、武家居館の可能性も十分考えられる。

【参考文献】75,81

| 筑前 R15 | 香椎 B 遺跡（かしい いせき） | 郡名 | 糟屋郡 | 図幅名 | 福岡（東） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 種別 | 平地城館 | 所在 | 福岡市東区香椎・香椎台4～5丁目 |

【位置】香椎宮の東約 500m、御飯ノ山城のある老ノ山の南側麓の標高 15 ～ 18m の台地上に位置する。

【概要】老ノ山の南麓の山裾には、東西に細長く耕作地となっている平坦地が延びている。香椎 B 遺跡の第 1・2 次の発掘調査は、その平坦面の東西約 200m、南北約 50m の範囲が行われ、調査区ほぼ全面に中世の屋敷地が出土した。

検出した遺構は、屋敷地を区画する多数の塀、柵、溝などの施設と、屋敷地を構成する掘立柱建物、井戸、苑池、土坑墓、土坑などがあげられる。

屋敷群は 12 世紀前半に発生し、13 世紀前半～ 14 世紀前半にかけて一時期衰退する。その後、屋敷群を西側へ拡張して再び発展を迎え、16 世紀には衰退したと想定されている。前半の発展期に当たる 12 ～ 13 世紀の遺物には大量の陶磁器の他、中国瓦や卍文軒丸瓦なども出土し、箱式木棺墓も出土するほか、背後の小倉谷では数多くの火葬墓群が検出されていることなどから、禅宗寺院が存在したとみられる。「寺熊」という字もこの時の寺院に由来している可能性が考えられる。

後半期の室町～戦国時代の発展期には、屋敷を構成する掘立柱建物群に付随して、東側（寺熊調査区）には東西 100m ×南北 50m 以上の溝に囲まれた方形区画、西側（生水調査区）には一辺約 50m の方形区画が発生し、生水調査区の方形区画は南側を除く三方を断面 V 字形で深さ 1.5m もある溝で囲まれ、南側は柵と門が構えられており、防御的機能を兼ね備えたものとなっている。

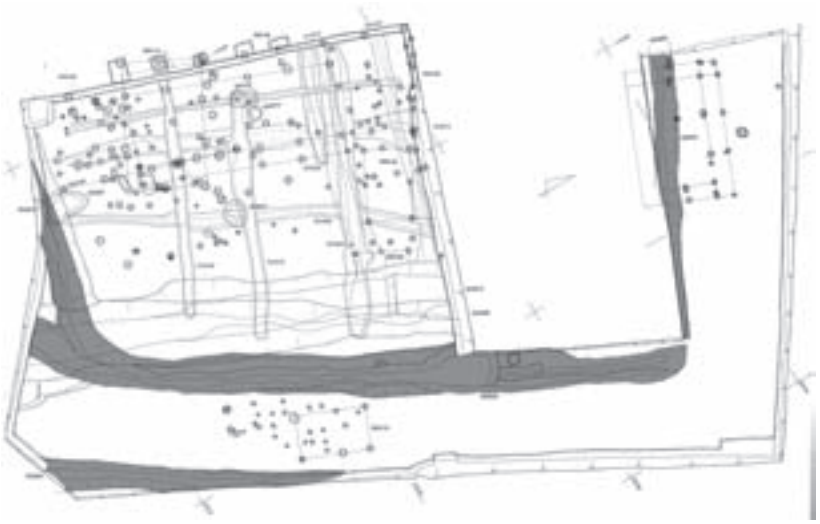
また、1 ・ 2 次調査区の西側の平坦面が第 8 次調査として発掘調査が行われており、調査区の内の 1 ～ 3 区では、南北約 30m、東西約 30m 以上の溝で囲まれた方形区画が検出され、その区画の内外から掘立柱建物群が検出されている。出土遺物はおおむね 12 ～ 13 世紀代で、多くの陶磁器に加えて、平安時代後期の軒丸瓦、平瓦、滑石製石鍋なども出土しており、寺院などの宗教施設が想定される。



第 337 図香椎 B 遺跡生水・寺熊調査区遺構配置図（文献 76）

このように香椎 B 遺跡では、中世全般にわたって、屋敷地が密集して存続していることが確認されている。これらの多くは溝で囲まれた方形区画をもつ屋敷地であるが、武家勢力に限らず、寺院などの宗教勢力の屋敷地も存在していることが想定されている。香椎宮や国際貿易港としての博多とのつながりによる繁栄と見られよう。

【参考文献】**76,83**



第 338 図　香椎 B 遺跡第 8 次調査 3 区遺構平面図（文献 83）

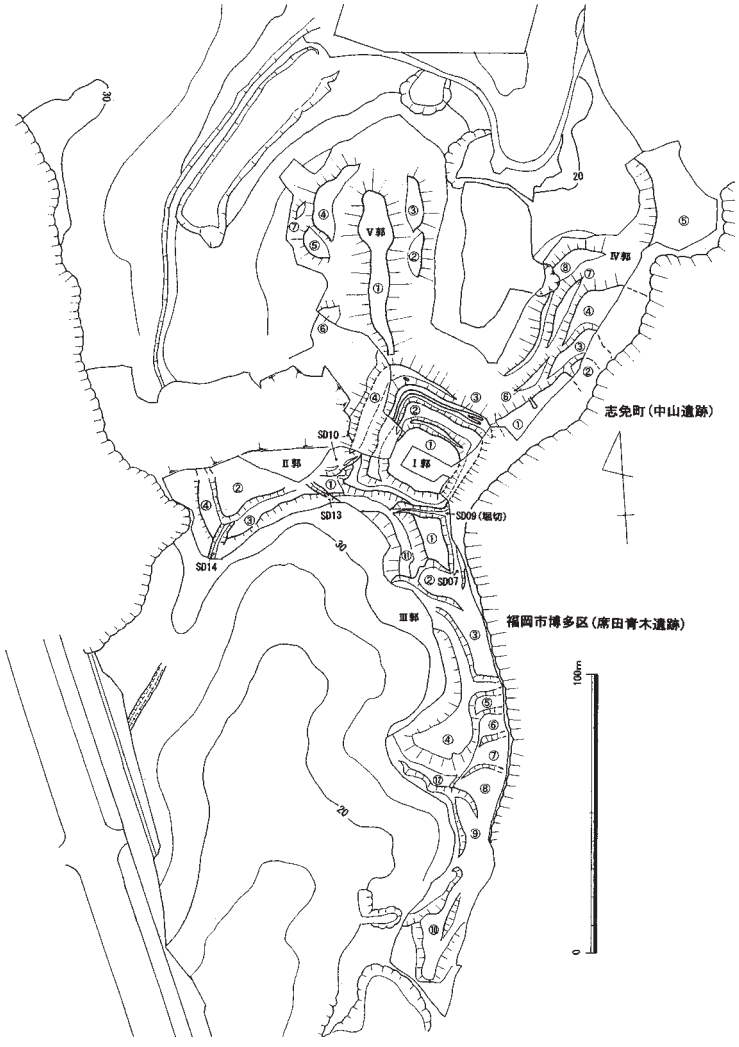
## 筑前 R16　席田青木遺跡（むしろだあおきいせき）・中山遺跡（なかやまいせき）

郡名　糟屋郡 / 席田郡　　図幅名　福岡（東）
種別　丘城か　所在　福岡市博多区空港前5丁目・糟屋郡志免町別府西

【位置】福岡空港の東、席田郡と糟屋郡との境をなす丘陵上に位置する。『拾遺』「別府村」の項には「青木村の堺ひ山の最も高き所を城と云。平地少しあり。砦などの有し跡ならんか」とあり、城館遺構の存在をほのめかしている。

【概要】青木と別府との境にあたる標高約 40m の丘陵頂部に一辺約 20m の方形を呈する平坦面が形成され、その周囲の尾根上に階段状に平坦面が南北約 300m、東西約 200m の範囲に展開している。発掘調査では、弥生時代や江戸時代の遺構が濃密に重複しているため、これらの遺構がどれほど城館遺構を反映したものかは断定できないが、頂部の平坦面（Ⅰ郭①）のすぐ南側には堀切と思われる溝が検出されており、16 世紀の遺物も出土している。よって、少なくとも丘陵頂部の一角については城館遺構と判断できるのではなかろうか。

【参考文献】3,11,**77**,**84**,**204**




第 339 図席田青木遺跡・中山遺跡遺構配置図（文献 204・山崎龍雄作成）

## 筑前 R17　麦野（むぎの） A 遺跡（いせき）

郡名　那珂郡　　図幅名　福岡南部（東）
種別　平地城館　　所在　福岡市博多区麦野3丁目

【位置】福岡平野東部を流れる御笠川とその支流の諸岡川との間に挟まれた中位段丘に位置する。

【概要】麦野 A 遺跡では、これまで 20 次にわたる発掘調査が行われてきており、その中で中世の溝で囲まれて方形区画の様相が明らかとなってきている。現状では北東隅と南西隅のコーナー部および、東側と西側の一部で一連と思われる溝が検出されている。東側の 20 次調査で検出された溝は幅３～ 3.5m、深さは 1.7m で底面幅約 0.4m の断面箱形の形状である。

これまでの調査を合わせると、東西約 110m、南北約 150m の大きな方形区画が想定されるが、内部はほとんど未調査であり、内部には区画をさらに細分する溝が検出される可能性が残されている。

【参考文献】134



第 340 図　麦野 A 遺跡遺構配置図全景（文献 134）

## 筑前 R19　諸岡（もろおか） B 遺跡（いせき）

郡名　那珂郡　　図幅名　福岡南部（東）
種別　平地城館　　所在　福岡市博多区諸岡6丁目

【位置】諸岡川西岸に面して鎮座する諸岡八幡宮の丘陵地に位置する。

【概要】諸岡 B 遺跡ではこれまで 20 次の調査が行われ、中世居館に関する遺跡が見つかっている。八幡宮東側の段丘上を調査した９次調査（G 区）や 13 次調査では溝に囲まれた方形区画とその内部から中世の掘立柱建物群が検出されている。

特に、９次調査では、南北約 30m、東西約 25m 以上と想定される方形の区画の周囲を溝が巡り、その内部からは少なくとも１棟の掘立柱建物（ＳＢ 01）、井戸１基、柱穴多数が検出され、区画外からも、多数の柱穴や井戸が検出された。



第 341 図　諸岡 B 遺跡調査区位置図（文献 121）

溝の隅部は、南東側のみ検出され、幅は２～３m、深さは１～ 1.5m で、南側部分は、二段堀りの様相を呈していた。

方形区画の屋敷地が形成されるのは 14 世紀代と見られているが、溝の埋土から明の染付碗なども出土・報告されており、最終埋没はもう少し時期が下る可能性がある。出土遺物は他に土師器・瓦質土器・石臼などが見られる。

また、諸岡 B 遺跡地内では、八幡宮の丘陵の東側斜面を調査した２・４～６次調査区（A・C・D区）では、多くの中世の地下式横穴が見つかっており、屋敷地との関連が想定されるとともに、未調査である八幡宮の丘陵上にも関連遺構の存在が想定される。

【参考文献】121,128




第 342 図　諸岡 B 遺跡 9 次調査（G 区）遺構平面図（文献 121）

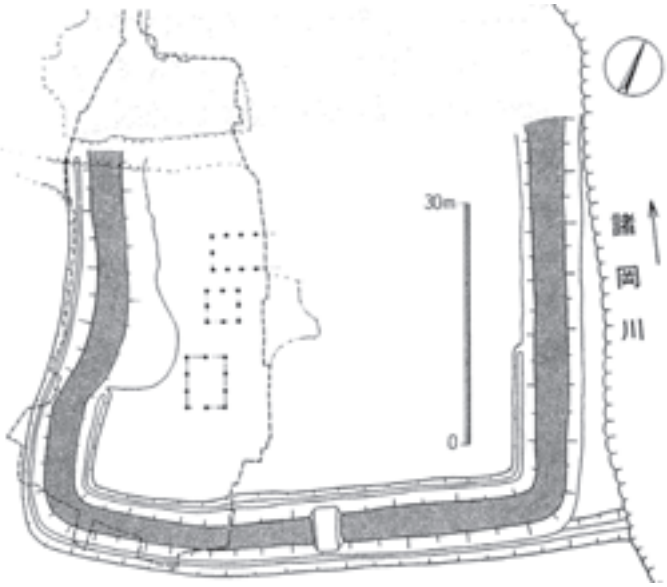
**筑前 R19　諸岡館跡（もろおかやかたあと）**

**郡名　那珂郡　　図幅名　福岡南部（東）**
**種別　平地城館　　所在　福岡市博多区諸岡1丁目**

【位置】諸岡川西岸の標高 11m の段丘上に位置する。諸岡八幡宮からは北へ約 400m の地点にあたる。

【概要】調査前より部分的に土塁遺構が残存していたが、昭和 55・57 年（1980・82）に諸岡遺跡 14 次・17 次調査として行われた発掘調査の段階では、土塁が残存していた西側半分が調査対象となったが、既に東半分は宅地化によって土塁遺構は消滅していた。調査では土塁の外側に溝が全周するが、土塁の内側の溝は屋敷地の南側のみ巡る状況が確認された。土塁幅は約５m、残存する高さは１m、溝の深さは約１m であった。

想定される土塁の平面プランは南北約



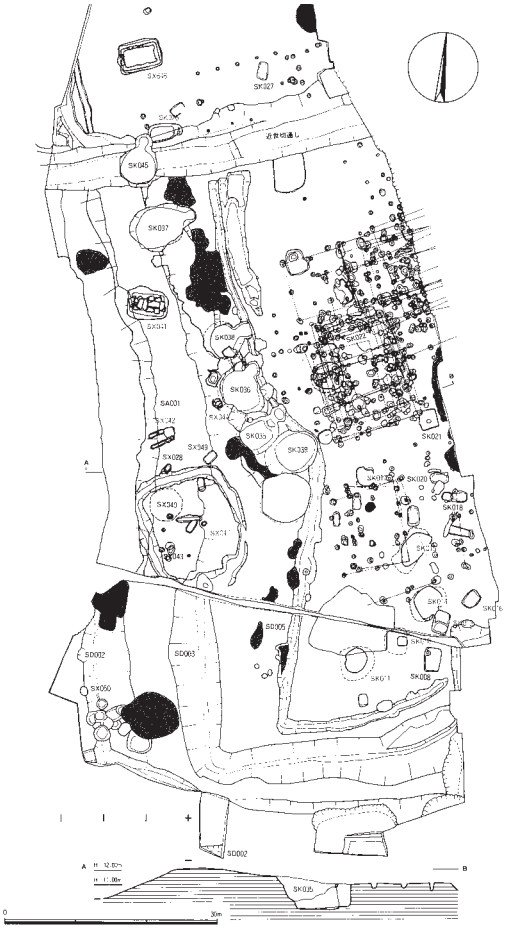

第 343 図　諸岡館跡全体復元図（文献 122）



第 344 図　諸岡館跡土塁遺構（福岡市埋蔵文化財センター提供）

40m 以上、東西約 50m の方形を呈するもので、内部には幾度も建て替えがなされた結果、掘立柱建物が併せて 24 棟見つかったほか、地下式土坑が 6 基、土坑 7 基が見つかった。多くの貿易陶磁器や石塔類が出土し、それらの年代から、14 世紀後半から 16 世紀の活動期間が想定されている。近世以降は隣接する寺院によるものとみられる一字一石経が検出された。

【参考文献】122



第 345 図　諸岡館跡遺構平面図（文献 122）

## 筑前 R20　大橋（おおはし）E 遺跡（いせき）

郡名　那珂郡　　図幅名　福岡南部（西）
種別　平地城館　　所在　福岡市南区大橋 4 丁目

【位置】那珂川中流の西岸に面した標高 10m の沖積微高地上に位置する。

【概要】大橋 E 遺跡ではこれまで約 10 次の発掘調査が行われているが、中でも 7 次と 9 次 B 区で明確な中世の居館遺構が見つかっている。東西約 22m、南北約 11m の長方形を呈する溝で囲まれた方形区画が検出され、溝はほぼ東西 - 南北方向を示しており、溝の規模は西側で幅約 2.4m、深さ 0.5m である。区画の内部からは 2 間 × 2 間の総柱の掘立柱建物が 1 棟と井戸 1 基と土坑がいくつか検出されている。時期は概ね 16 ～ 17 世紀である。区画外でも北側に井戸 1 基があることから区画外にも他の屋敷地が展開しているとみられる。この調査区を南西隅として一辺約 100m の範囲に方形区画が広がる復元案も出されているが、調査範囲が狭く不明確である。

【参考文献】127,129



第 346 図　大橋 E 遺跡遺構平面図（文献 129）

| 筑前 R21 | 中白水遺跡（なかしろうずいせき） | 郡名 | 那珂郡 | 図幅名 | 福岡南部（東） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 種別 | 平地城館 | 所在 | 春日市上白水5～6丁目 |

【位置】那珂川を西方に見下ろす標高約30mの河岸段丘上に位置する。
【概要】白水八幡宮の西、現在の上白水５・６丁目の一帯、東西約300m、南北約200mの範囲に溝で囲まれた方形区画が複数個所で検出されており、中世の居館群が存在したことが判明している。

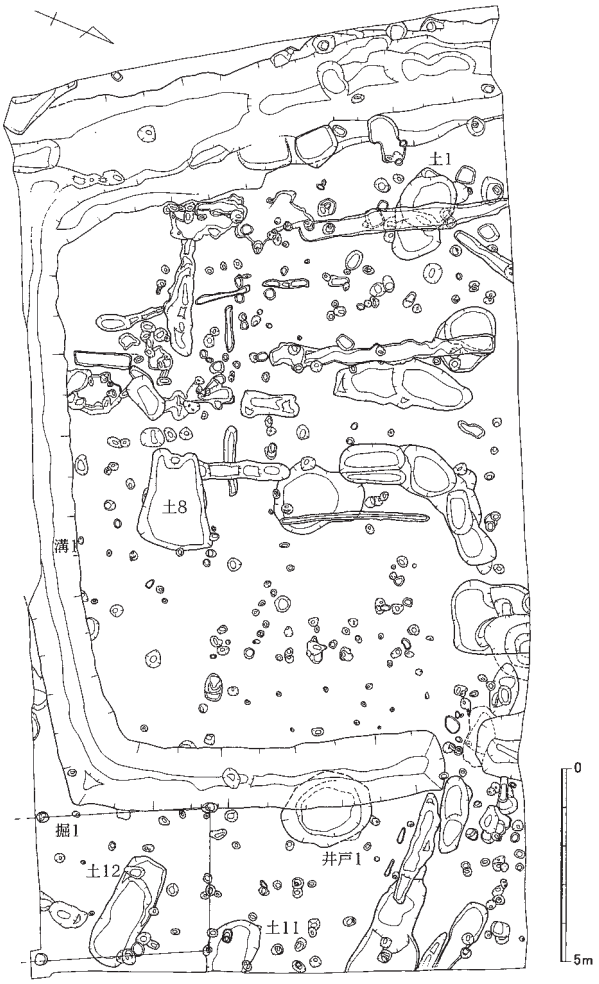
中でも最も状況が判明しているのが、八幡宮の西約100m地点の上白水館跡１次調査区で、一辺42～50mの溝で囲まれた方形区画が検出され、その内部からはおびただしい数の柱穴、土坑、井戸が見つかった。溝は南東隅と南側の２箇所で途切れており、出入口となっていると想定される。出土遺物も高麗青磁梅瓶など高級陶磁器類も




第347図　中白水遺跡平地城館遺構配置図（文献46）



第348図　中白水遺跡12次調査全景
（春日市教育委員会提供）




第349図　中白水遺跡12次調査遺構平面図
（文献130）

散見され、中世白水庄の中心施設と目されている。時期は 14 ～ 16 世紀とみられる。

また、その南側約 50m 地点の上白水館跡 5 次調査でも掘立柱建物 4 棟、井戸 3 基などが見つかり、少なくとも南側と東側の 2 箇所に溝が巡ることが判明し、 1 次調査の居館の周りにも同様な屋敷地が存在していたと想定される。一方、上白水館跡 1 次の北側では、近年、中白水遺跡 12 次調査が行われ、東西約 15m、南北 10m 以上の方形に溝が巡る屋敷地が検出された。溝は幅 1.5 ～ 3 m、深さは約 1 m の断面逆台形である。

この他、上白水西遺跡などでも方形に巡る溝の一部と掘立柱建物が検出されており、居館群が広範囲にわたることが類推されるほか、南側の天神ノ木遺跡でも、小範囲の調査で中世の溝遺構がいくつか見つかっており、今後中世の居館遺跡が確認される可能性があり、白水一帯に上白水八幡宮を中心とした屋敷地群が想定される。

【参考文献】**46,124,130**

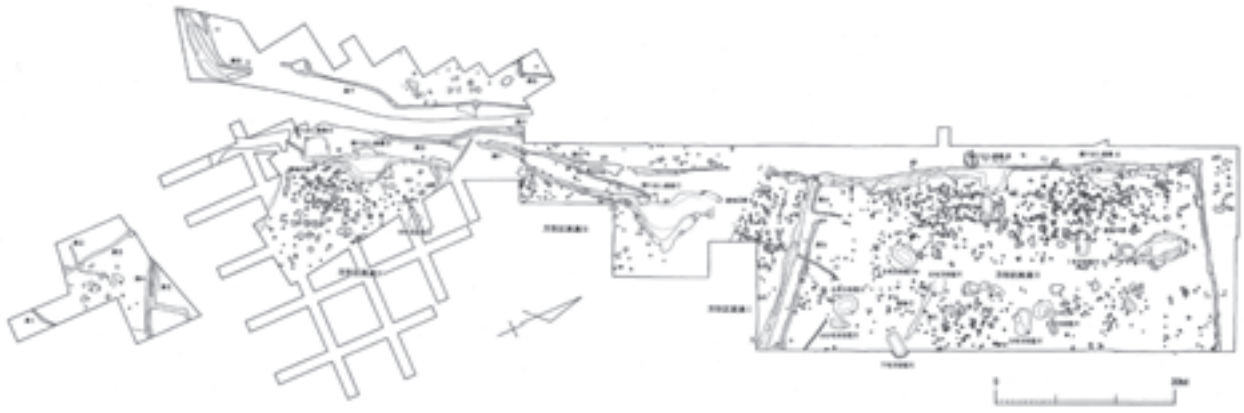
**筑前 R22　井出ノ原遺跡（いでのはるいせき）**

**郡名　那珂郡　　図幅名　福岡南部（東）**
**種別　平地城館　　所在　筑紫郡那珂川町中原東２丁目**

【位置】那珂川支流の梶原川東岸、観音山の北麓の標高 38m の低台地上に位置する。現在は JR 博多南駅博多総合車両所となっている。

【概要】調査では、南北約 200m、東西約 40 ～ 50m の範囲の発掘が行われ、溝で囲まれた方形区画が 3 ～ 4 面南北に並列する状況が確認された。いずれも東西 30m 以上、南北約 40 ～ 60m の規模を有し、区画の内部からは掘立柱建物群を構成する夥しい数の柱穴群が検出された。中でも最も内容が判明しているのが北側の方形区画Ⅱで、南北 60m、東西 30m 以上の区画を有し、囲まれた溝は幅約 1 m、深さ 0.6m であるが、溝の要所に内側に張り出した窪み（報告書では「張り出し遺構」）を有している（機能は不明）。出土遺物は土師器、陶磁器、茶釜、石臼、瓦などがあり、時期は概ね 14 ～ 15 世紀代で、館の機能した時期にあたるものと思われる。

【参考文献】**119**



第 350 図　井出ノ原遺跡全景（文献 119）

| 筑前 R23 | 大塚遺跡（おおつかいせき） | 郡名　那珂郡 | 図幅名　福岡南部（西）/ 不入道（西） |
|---|---|---|---|
| | | 種別　丘城 | 所在　筑紫郡那珂川町安徳 |

【位置】那珂川を西に見下ろす大塚古墳に隣接する標高 55m の丘陵上に位置する。

【概要】丘陵頂部から南側斜面の発掘調査がなされており、丘陵頂部に城館遺構が検出された。

発掘調査前までは丘陵頂部に平坦面とその東側と南側に堀切状の窪みが見られるのみで、城館遺構という認識がなかったが、発掘調査により城館遺構と判明した。

丘陵頂部の主郭は東西 21m、南北 37m で、その周囲に横堀が巡る。横堀は幅約３m、深さ約２mであるが、調査前まではほとんど埋没していた。横堀の断面形態は箱形あるいはＵ字形である。その横堀の東側に堀に並行するように堀切１本が確認されている。

主郭の平坦面上からは、柱穴群の他、楕円形の外溝と方形の内溝遺構が見つかっているが、機能等については不明である。

また、この城館遺構から南側の斜面を下った平坦面には多数の柱穴群が検出され、少なくとも５棟の掘立柱建物が存在することがわかった。

出土遺物については、陶磁器類は少なく、土師器、瓦質土器が主体をなし、およそ 14 世紀後半～ 16 世紀代に位置づけられる。当遺跡の活動期間を示しているものと思われる。

現在の所、地誌類等に記載は見られないが、周辺には龍神山城（岩門城）や安徳台遺跡、平蔵遺跡など、中世の城館遺跡が立地し、それらとの関連が窺われる。

【参考文献】11,133



第 351 図　大塚遺跡全景（那珂川町教育委員会提供）



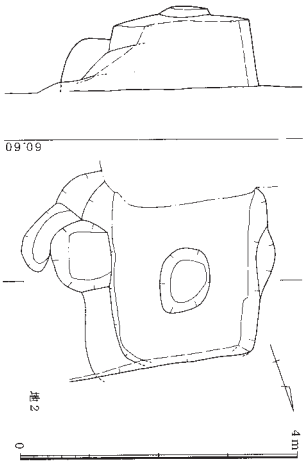
第 352 図　大塚遺跡遺構配置図（文献 133）

| 筑前 R24 | 安徳台遺跡（あんとくだいいせき） | 郡名 | 那珂郡 | 図幅名 | 福岡南部（西）/ 不入道（西） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 種別 | 平地城館 | 所在 | 筑紫郡那珂川町安徳 |

【位置】大塚遺跡の西に所在する標高 60m の安徳台の台地上に位置する。
【概要】安徳台の台地は東西約 400m、南北約 300m の範囲が平地状となっており、弥生時代の甕棺墓群が検出されたことでも知られている。その一方で、日本書紀の神功皇后にまつわる迹驚岡として記載され、平家と共に西下した安徳天皇の仮行宮を置いた原田氏の居館があった場所ともされている。

発掘調査においても上記の弥生時代の他、中世の遺構・遺物が検出されている。特に台地の西側中央部では、中世の溝や地下式横穴遺構、掘立柱建物などを検出している。部分的なトレンチ調査であるため、全体像は不明確な部分が残されるが、一辺約 100m の範囲で溝に囲まれた方形区画が想定されている。時期は 15 世紀後半～ 16 世紀に位置づけられ、大内氏が岩門城に城督を置いた時期と重複することから、岩門城（龍神山城）との関連が指摘されている。

【参考文献】126,131



第 353 図
安徳台遺跡地下式横穴
（文献 131）



第 354 図　安徳台遺跡遺構配置図（文献 131 掲載図を一部改変して事務局作成。アミカケ部が居館推定域）

| 筑前 R25 | 平蔵遺跡（へいぞういせき） | 郡名 | 那珂郡 | 図幅名 | 福岡南部（西）/ 不入道（西） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 種別 | 平地城館 | 所在 | 筑紫郡那珂川町上梶原1丁目 |

【位置】龍神山城（岩門城）の北東約 1,000m、梶原川の谷に面した標高 45m の台地上に位置する。
【概要】遺跡が所在する台地は南北約 250m、東西約 300m の平地となっている。中学校建設等に伴い、過去３回の発掘調査が行われ、台地上のかなりの部分で、建物群や製鉄関連遺跡など、濃密に中世の遺構が確認されている。特に、台地の北東側を対象とした３次調査では、掘立柱建物 15 棟、柵３列と区画溝が確認された。区画溝は建物群の南側を大きく囲むように方形に巡っており、区画内部からも多くの柱穴群が検出されている。広大な面積の屋敷地の存在が想定される。区画された溝は幅１m 内外、深さも 1m ほどで防御の堀というよりは敷地を区画するための溝に近い印象を受ける。溝は所々で約５m 途切れている箇所がいくつか見られ、出入口であったとみられる。

出土遺物は、耳皿を含む大量の土師器皿と若干の陶磁器、瓦質土器が見られ、年代は 15 世紀代に位置づけられる。また、３次調査区の南約 100m 地点では２次調査の際にⅢ区として調査がなされ、10m × 20 ～ 30m の範囲を溝で方形に囲まれた区画が５面隣接した状況で確認され、内部からは数棟の掘立柱建物群が検出されている。年代は不明確だが、隣接して検出された古墳の横穴式石室からは、再利用によると思われる 12 ～ 14 世紀の遺物が出土しており、概ねその頃のものと思われる。

なお、当該地は梶原景時の後裔、梶原平三が慶長年間に屋敷を構えた「平三屋敷」と伝えられており、平蔵遺跡の中世屋敷地が伝承として記憶された可能性も考えられる。

【参考文献】120,123,125



第 355 図　平蔵遺跡３次調査遺構配置図（文献 125）

| 筑前 R26 | 五ヶ山網取遺跡（ごかやまあみとりいせき） | 郡名 | 那珂郡 | 図幅名 | 不入道（西） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 種別 | 平地城館 | 所在 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山 |

【位置】那珂川上流、筑紫耶馬渓を遡った五ヶ山の入口にあたる旧網取集落に位置する。

【概要】那珂川西岸に面した標高 280m の河岸段丘上にあたり、東西 20 ～ 50m、南北約 100m を対象に発掘調査が行われている。

調査区のほぼ全面において中近世の遺構が確認された。特に北側の 3 区・7 区では、一辺 30m ほどの大溝に囲まれた方形区画が少なくとも 3 面検出され、その内部からはおびただしい数の柱穴群が検出され、堀立柱建物群が想定されている。区画の周りを囲む溝は、幾度かの掘削と埋没を繰り返しており、中には幅 4 m、深さ 2 m 近くにもなる大型の溝も確認された。

溝からは茶臼を含む大量の石臼や砥石、鉄滓などの遺物の他、中国陶磁、朝鮮陶磁、唐津焼などが出土した。時期は概ね 15 ～ 16 世紀を最盛期としつつ、方形区画の溝などは 17 世紀に最終的に埋没している。5 区などではその後の時期の遺構なども検出されており、平成期まで続く網取集落に継続していくものとみられる。

【参考文献】135



第 356 図　五ヶ山網取遺跡遺構配置図（文献 135）

| 筑前 R27 | 柏原 K 遺跡（かしはらいせき） | 郡名 | 早良郡 | 図幅名 | 福岡南部（西） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 種別 | 平地城館 | 所在 | 福岡市南区柏原6丁目 |

【位置】樋井川上流東岸の標高約 45m の段丘上に位置する。

【概要】発掘調査では、東西約 200m、南北約 80m の範囲が対象として行われ、ほぼ全域に中世の屋敷地が検出された。

検出された屋敷地は、東西約 100m、南北約 50m の区画を二重の溝で方形に囲み、その西側に付属して東西約 40m、南北約 25m の溝で囲まれた方形区画をなし、区画の内外からは多くの掘立柱建物が検出された。溝の幅は 1 ～ 2 m、深さは 1 m 未満であった。

出土遺物は、土師器、陶磁器の他、中国端渓産の石硯などの特殊遺物も見られ、13 世紀中頃～14 世紀中頃が主体を占め、屋敷の活動期間を示しているものと思われる。

なお、弘安の役で戦死した渋谷有重の勲功賞として、筑前早良郡比伊郷の地頭職が配分された書状が入来文書にあり、現地地名の比較から、当遺跡が勲功賞として配分された惣検校入道屋敷と六郎屋敷と想定されている。

【参考文献】**138**



第 357 図　柏原 K 遺跡中世遺構配置図（文献 138）

**筑前 R28　樋井川（ひいがわ）A 遺跡（いせき）**

**郡名　早良郡　　図幅名　福岡南部（西）**
**種別　平地城館　　所在　福岡市城南区樋井川3丁目**

【位置】樋井川西岸、標高 20m の段丘上に位置する。

【概要】南北約 100m、東西約 80m の範囲の調査が行われ、ほぼ全面に中世後期の遺構が検出された。

検出した遺構は、溝 12 本、土坑 18 基、墓 7 基、掘立柱建物 1 棟以上、地下式土坑 27 基で、溝は調査区を十字形に走っており、区画を四分しているとみられる。溝の幅は約 2 m、深さは 1 ～ 2 m である。数多く検出した地下式土坑の一つからは、完形の龍泉窯系青磁盤なども出土している。

これらの遺構の時期は概ね 15 ～ 16 世紀で、17 世紀以降は、隣接する長徳寺に関連して造成などがなされ、前代とは異なった区画溝などが形成される。戦国時代の名主層の屋敷地とみられる。

【参考文献】**141**



第 358 図　樋井川 A 遺跡中世遺構配置図（文献 141）

| 筑前 R29 | 広瀬遺跡（ひろせいせき） | 郡名 | 早良郡 | 図幅名 | 脊振山（東） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 種別 | 平地城館 | 所在 | 福岡市早良区西・内野8丁目 |

【位置】室見川上流の東岸、標高 78 ～ 89m の河岸段丘上に位置する。

【概要】1 次調査 1 区では、東西約 50m、南北約 60m の範囲を調査した結果、調査区の北側に溝で囲まれた方形区画の隅部が検出された。方形区画は、東西 30m 以上、南北 25m 以上の規模を有し、区画内部からは掘立柱建物 1 棟、土師器焼成遺構 1 基と区画の内外からは多くの柱穴群と焼土坑が検出された。溝の幅は約 2.5m、深さは 0.5 ～ 0.9m である。南側の溝で陸橋部が検出されており、区画の中心と想定した場合、区画の一辺は約 50m となる。

出土遺物から 15 ～ 16 世紀の活動時期が想定されている。

【参考文献】143

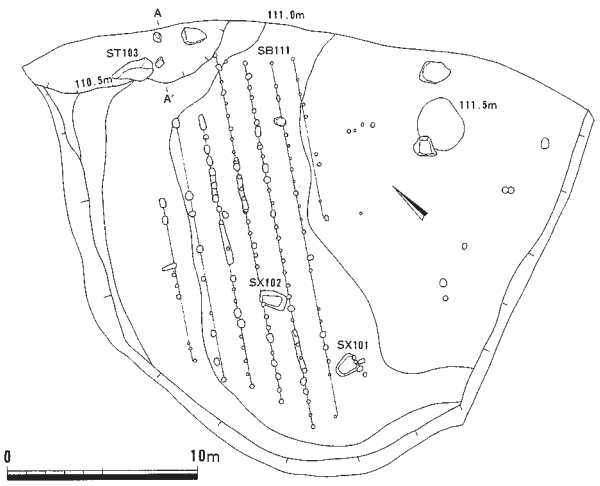


第 359 図　広瀬遺跡 1 次調査中世遺構配置図（文献 143）

| 筑前 R30 | 志水 A 遺跡（しみずいせき） | 郡名 | 早良郡 | 図幅名 | 脊振山（東） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 種別 | 兵舎か | 所在 | 福岡市早良区小笠木 |

【位置】室見川支流、小笠木川の南岸の標高 110m の段丘上に位置する。

【概要】約 20m 四方の範囲を発掘調査した C 区において、1.4 ～ 1.5m の間隔で併行する柱穴列 7 列を確認した。柱穴は円形もしくは不整方形で、一部柱穴列が布掘りとなっていた。柱間は 0.5 ～




第 360 図志水 A 遺跡 C 区遺構配置図（文献 140）



第 361 図　志水 A 遺跡 C 区全景
（福岡市埋蔵文化財センター提供）

0.7m と不規則である。この特異な柱穴群の配置は、熊本県和水町田中城跡で検出されている連棟式長屋建物に類するものとみられ、兵舎とも考えられている。時期は周辺遺構の出土遺物から 16 世紀後半とみられ、安楽平城を巡る攻防に関連したものとみられている。

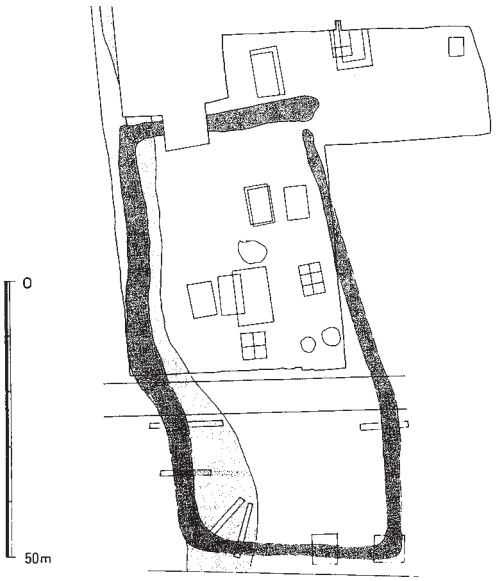
【参考文献】140

## 筑前 R31 清末遺跡（きよすえいせき）

郡名　早良郡　　図幅名　福岡西南部（東）
種別　平地城館　　所在　福岡市早良区東入部4～5丁目

【位置】室見川中流域東側の標高 28m の沖積地上に位置する。

【概要】第２次調査４区では、12 ～ 14 世紀の遺構・遺物が多数出土した。12 世紀中頃には平面コの字形の大型建物群が見られ、14 世紀代になると、溝で囲まれた方形区画が出現する。４－１区の調査区内では南北約 50m、東西約 30m の範囲で方形区画を確認したが、区画の溝はそれよりもさらに南側へ延び、部分的なトレンチ調査の成果を含めると、南北長は 70m 前後となる。溝は西側で幅３～５m、深さ 1.3m で断面は V 字形となる。東側は幅 1.8m、深さ 0.4m で溝の中には人頭大の礫が大量に入っており、石垣などがあったとも想定されている。北東隅は陸橋となっている。



第 362 図　清末遺跡中世後期遺構配置図（文献 139）

区画の中からは大量の柱穴群と共に、掘立柱建物、井戸などが検出されている。溝に囲まれた方形区画の年代は 14 世紀初頭～前半頃とみられる。

【参考文献】139

## 筑前 R32 有田・小田部遺跡群（ありた　こたべいせきぐん）

郡名　早良郡　　図幅名　福岡西南部（東）
種別　平地城館　　所在　福岡市早良区有田・小田部

【位置】室見川と金屑川との間に挟まれた有田・小田部の台地上に位置する。

【概要】台地上では有田遺跡群として 200 次前後の調査が行われ、小田部城（筑前 312）を中心として、数多くの中世の城館関連遺跡が検出されている。

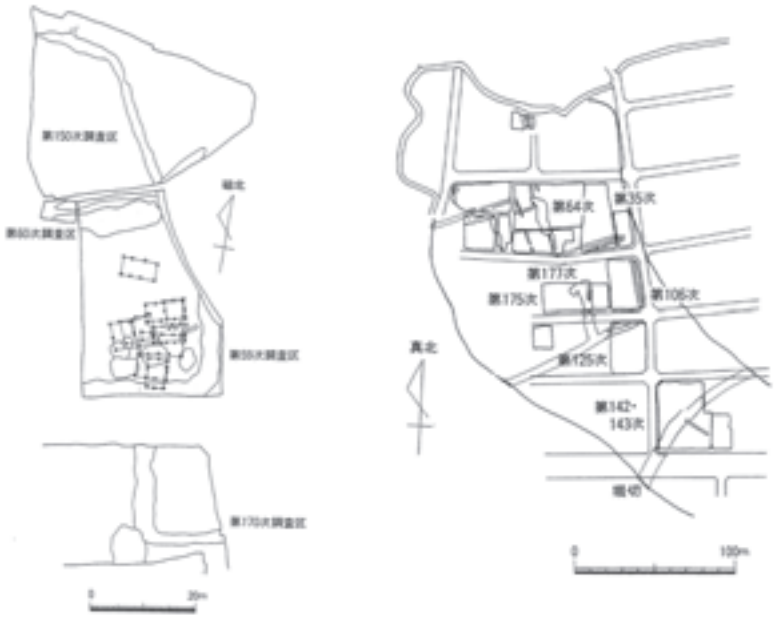
特に小田部３丁目、５丁目、有田１・２丁目地区においては、溝で囲まれた方形区画が複数箇所確認されている。

中でも、有田１・２丁目地区では、復元すると一辺約 100m にも上る規模


第 363 図　有田・小田部遺跡群中世遺構配置図（文献 186・右は復元図）

の溝で囲まれた方形区画が複数箇所確認されており、また小田部城にも近いことから、城との密接な関係が窺われる。

【参考文献】136,186



第 364 図　有田・小田部遺跡群中世城館関連遺構配置図（文献 186）
（左：小田部３丁目地点・右：小田部５丁目地点）

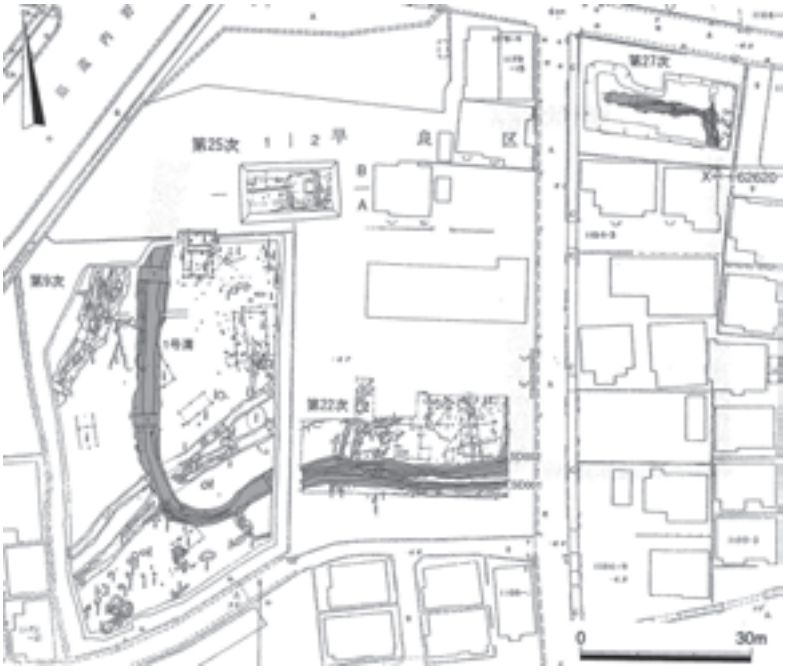
| 筑前 R33　原遺跡（はらいせき） | 郡名　早良郡 | 図幅名　福岡西南部（東） |
|---|---|---|
| | 種別　平地城館 | 所在　福岡市早良区原７～８丁目 |

【位置】有田遺跡群の東、金屑川東側の標高５m の沖積地上に位置する。

【概要】原遺跡では過去 30 次近くの発掘調査が行われており、中世の城館関連遺跡が検出されている。それらを総合的に併せると、東西約 100m、南北約 65m の溝で囲まれた屋敷地の方形区画を想定することができる。区画の南西側を調査した９次調査では、幅 2.5 ～ 5.2m、深さ 0.5 ～ 1 m の大溝の南西隅部が検出され、区画内部からは掘立柱建物群が検出されている。９次調査の東隣の 22 次調査区では９次から続く溝が東西方向に検出され、二股に分かれていた。区画内部を区切る溝が派生している可能性も考えられている。

北東側の 27 次調査区の方形区画の溝は、幅２m 弱、深さ約１m と他の調査区よりは小規模の溝ではあるが、一連の溝とみられている。溝からは土師器・陶磁器に加え、呪符木簡なども出土した。年代は 15 世紀初頭～ 16 世紀後半とみられている。

【参考文献】137,145



第 365 図　原遺跡遺構配置図（文献 145）

## 筑前 R34　浦江遺跡（うらえいせき）

郡名　早良郡　　図幅名　福岡西南部（東）
種別　砦か　　所在　福岡市西区金武

【位置】室見川の西、支流の竜谷川によって形成された標高 48m の扇状地に位置する。

【概要】5 次調査 13 区では、楕円形に残丘部が残り、発掘調査で中世の遺構が検出された。調査区は大きく上下二段に分かれており、上面に侵入するための出入口が溝によって虎口状に形成されていた。この溝を積極的に城館遺構としてとらえるならば、上段の平坦面を主郭とし、そこへ導入するための虎口をその東側に敷設し、下段の曲輪へと接続する様子が想定できる。下段では掘立柱建物なども検出されており、城館に関連する施設が存在した可能性が考えられる。しかし、周囲は早くに耕作地化してしまっており、これが中世遺構の全体像であるか不明であるため、その性格については今後検討を要する。

【参考文献】144




第 366 図　浦江遺跡 5 次調査 13 区遺構配置図
（文献 144 掲載図を一部改変して事務局作成）

## 筑前 R36　下山門乙女田遺跡（しもやまとおとめだいせき）

郡名　早良郡　　図幅名　福岡西南部（東）/ 福岡西部（東）
種別　平地城館　　所在　福岡市西区下山門 3 丁目

【位置】十郎川の東、標高 2 m の沖積地に位置する。

【概要】下山門乙女田遺跡では過去 3 回調査が行われ、各所で中世の溝で囲まれた方形区画が確認されている。

いずれの調査区においても、溝、井戸、柱穴群が見つかっており、全体で大きな方形区画を形成するのではなく、一辺 50m ほどの方形区画が複数切り合いながら各所に点在するという状況とみられる。

出土遺物には 1 次調査で木製仏像なども見つかっているが、土師器・須恵器などから 15 ～ 16 世紀頃に位置づけられるものとみられる。

【参考文献】142




第 367 図　下山門乙女田遺跡中世遺構配置図（文献 142）

| | | |
|---|---|---|
| 筑前 R37 | 元寇防塁（げんこうぼうるい） | 郡名　志摩郡 / 早良郡 / 那珂郡 / 糟屋郡<br>図幅名　福岡(西) / 福岡西部(東 / 西) / 福岡西南部(東 / 西) / 宮浦(東)<br>種別　防塁　　所在　福岡市東区・博多区・早良区・西区 |

【位置】元寇防塁は、蒙古襲来の文永の役（1274）での戦禍を教訓に、再度の襲来に備え、九州各国の鎌倉御家人により博多湾沿岸を中心に約 20km にわたり築かれた防塁遺構である。当時は「石築地」として文献史料に登場するが、大正２年（1913）に中山平次郎により「元寇防塁」と命名され、さらに昭和６年（1931）に「今津」「今宿（２地点)」「生の松原」「姪浜（２地点)」「西新（２地点)」「地行」「箱崎」の７地区 10 地点が国史跡「元寇防塁」に指定された。

【概要】現在、防塁遺構自体が確認されているのは、指定されている上記地点であるが、博多地区においても発掘調査により元寇防塁と推測されている石塁遺構が見つかっている。その他、文献史料の記載から、博多湾東側の香椎地区にもその存在が確認できるが、実際の遺構は見つかっていない。また、博多湾の東岸から、糟屋、宗像の沿岸部にかけても口碑として元寇防塁が存在したとされる箇所もあるが、これらについては実在自体も不明なところである。以下、発掘調査の成果を元に概要を説明する。

指定された地区およびその周辺で確認調査が行われたのは、生の松原、今津、西新、姪浜、箱崎、百道の各地点である。

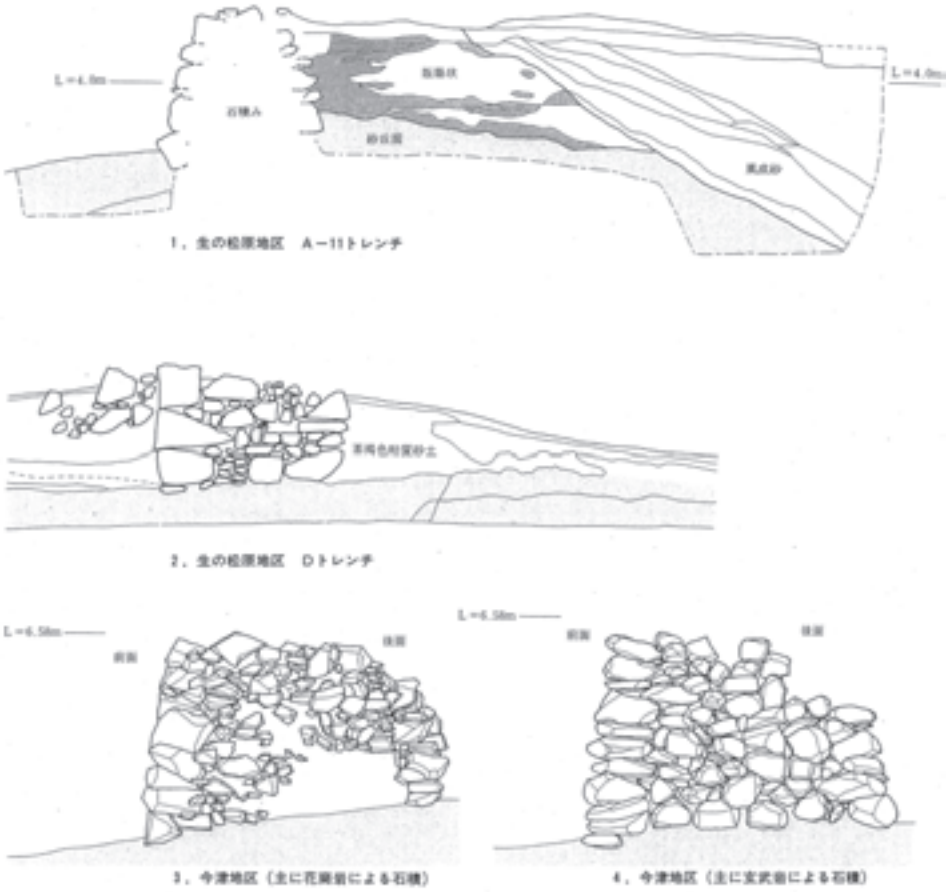
これまでの調査成果から見ると、防塁遺構の構築方法は大きく２つに分かれている。今津地区の内、玄武岩を用いた地区では断面台形の石積み部分がすべて石材によって構築されるのに対し、その他




第 368 図　元寇防塁の位置を描いた「石塁遺址図」（『伏敵編』（明治 24 年）より転載）

の地区（今津地区内で花崗岩を用いて築かれた地区を含む）では、前面と背面のみ石を積み、内部は砂や小礫を充てんする工法を採っている。中でも、西新地区では粘土と砂の互層により堅固にしている事例も見られる。

また、生の松原地区では、石積みの背後に砂と粘土により版築状に盛土を築いている。これは石積み自体を安定させるばかりではなく、『蒙古襲来絵詞』に描かれているように、背面から石積みの天端に容易に登ることができるようにするためのもの




第 369 図　各地区の防塁遺構断面図（文献 114）



1



2



3



4

第 370 図　元寇防塁（指定地）の現状（1：今津地区・2：生の松原地区・3：西新地区・4：姪浜地区）

とみられる。

そして石積みは、現在は崩落し、かなり高さが低くなってしまっているが、遺存が良好な今津地区では2.83m の高さまで積まれていることが確認されており、他の地区についても当初はそれぐらいの高さを持っていたとみられる。

また、平成 11 年（1999）に西南学院大学構内で行われた 8 次調査では、砂と粘土の互層によって積まれた土塁遺構が、従来確認されている石積み遺構に並行して築かれていることが確認されている。石積み遺構については、同じ西新地区指定地内のものと同様、前面と背面に石を積み、内部を版築状に突き固めていた。

平成 10 ～ 11 年（1998 ～ 99）には、博多区奈良屋町にある博多小学校改築に伴う調査が、博多遺跡群第 111 次調査として行われた。この場所は博多遺跡群の北側、息浜（沖の浜）に位置し、旧海岸線に沿って、東西 50m の範囲で石塁遺構が検出された。基底部付近しか残存していなかったが、最も残存状況の良い A 区では残存長 8.5m、最大幅 3.8m、最大高 1.3m で、前面と背面には、70cm × 50cm 以下の大きな石を積み上げ、その間には 50cm × 40cm 以下の小さな石を詰め込む構築方法であった。他の区でも、所々には石塁と直交方向に地区割りを示すかのように方形の石が並べられていた。石材は礫岩と砂岩が圧倒的に多い。



第 371 図　元寇防塁 8 次調査で見つかった石積み遺構（福岡市埋蔵文化財センター提供）



第 372 図　元寇防塁 8 次調査防塁遺構復元状況

石積みの石の間やその周囲からは、中世後半期以降の新しい時期の遺物が多数出土した。これらは石積み遺構の時期を直接示すものではなく、遺構を破壊した際に混入したものとみられ、その一方で、石積み前面からは 13 ～ 14 世紀の遺物も出土している。そして石積みの規模や構造が今津地区の元寇防塁に非常に類似することや、海岸の砂丘に沿ったラインで構築されていることなどから、この石積みが元寇防塁であると推測されている。現在、この遺構は一部が校内にて保存されている。

平成 17 年（2005）には、博多湾東岸の香椎 1 丁目において調査が行われ、旧海岸線に沿う形で石積み遺構が検出された。当初、香椎地区では新発見の元寇防塁ではないかという意見もあったが、従来の元寇防塁の基底部が標高 3.5m 前後であるのに対し、当該遺構が標高 1 m 以下で、かつての波打ち際にあたる高さで築かれていること、石積み基底部には胴木が敷かれており、他では見られない工法であると共に、胴木のすぐそばからは寛永通宝が出土していることなどから、江戸時代以降に築造された護岸遺構と判明し、元寇防塁ではないとされている。

【参考文献】109 ～ 118

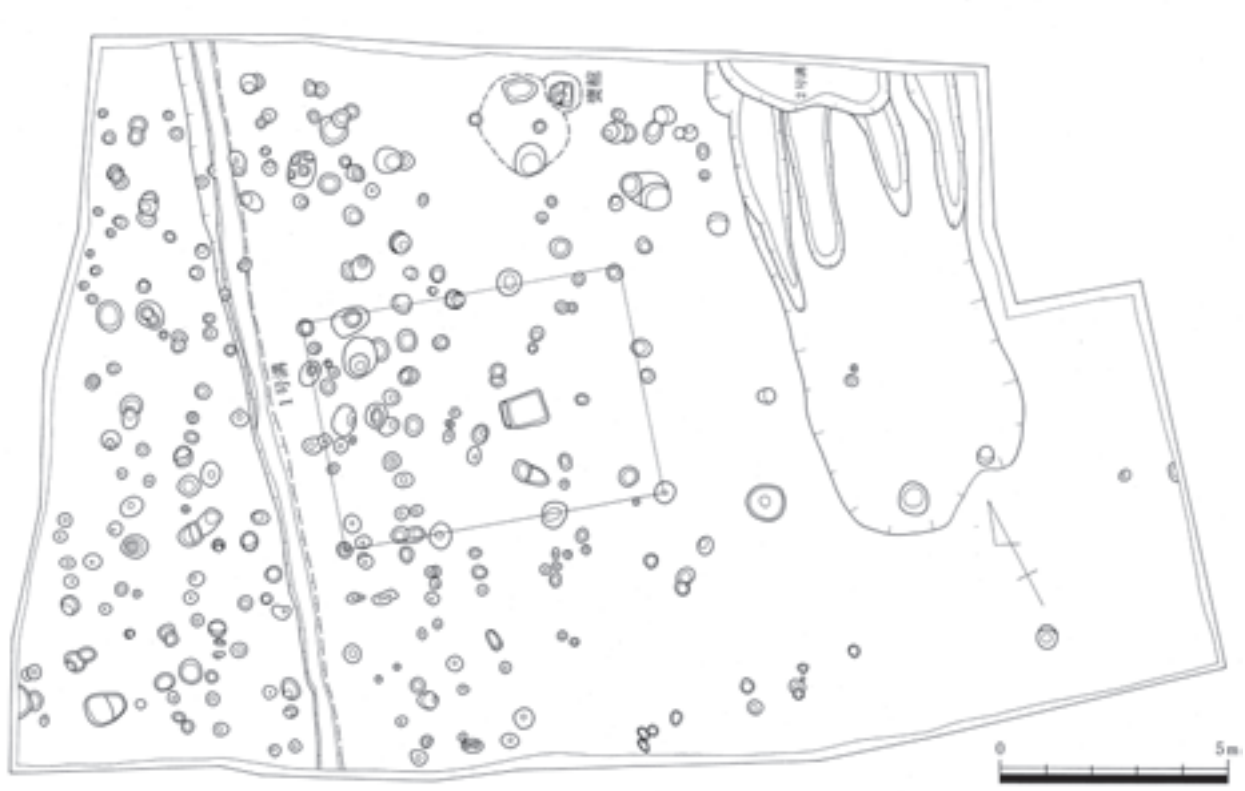
| 筑前 R38 | 蔵持境遺跡（くらもちさかいいせき） | 郡名　怡土郡<br>種別　平地城館 | 図幅名　前原（東）<br>所在　糸島市蔵持 |
|---|---|---|---|

【位置】雷山川西岸、雷山から北へ派生する丘陵の東麓、蔵持と有田の集落の境付近の標高 36m の平地上に位置する。

【概要】東西約 25m、南北約 15m の範囲の発掘調査が行われ、南北に走る溝 1 本を検出した。幅 0.5m、深さ 0.7m と小規模で、さらに調査区内では屈曲しないが、調査区の南側をトレンチ調査したところ、東側に直角に屈曲していることが判明している（糸島市教育委員会の教示による）。

他の調査区との位置関係から、想定される区画は一辺約 25m とみられ、区画内部にあたる溝の東側からは掘立柱建物 1 棟が検出されている。出土遺物は土師器や土師質土器の火鉢などの他、完形に近い白磁管耳花生などの希少な陶磁器も出土しており、14 ～ 15 世紀代に収まる。屋敷地の活動時期を示している。

【参考文献】154




第 373 図　蔵持境遺跡遺構平面図（文献 154）

| 筑前 R39 | 蔵持古屋敷遺跡（くらもちふるやしきいせき） | 郡名　怡土郡<br>種別　平地城館 | 図幅名　前原（東）<br>所在　糸島市蔵持 |
|---|---|---|---|

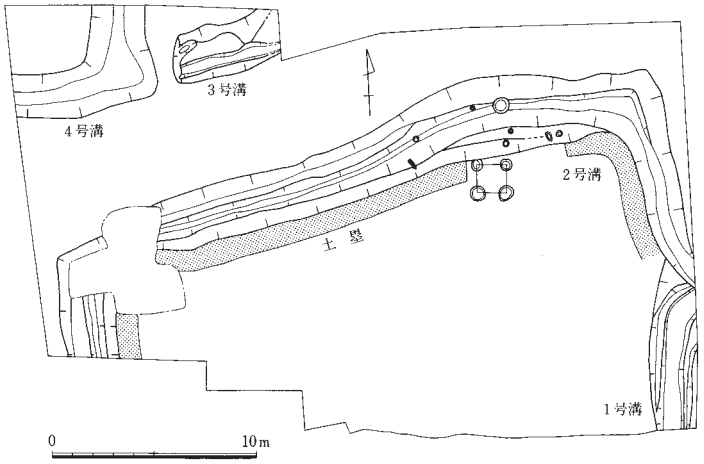
【位置】蔵持集落の北側、標高 40m の低台地上に位置する。

【概要】東西約 25m、南北約 20m の範囲の発掘調査が行われ、東西約 20m、南北 15m 以上の溝に囲まれた方形区画を検出した。溝の一部は切り合い関係があり、方形に巡るか否かは不明である。

溝の幅は２～３m、深さは 1.1m で、断面Ｖ字形を呈している。区画の内部からは多数の柱穴群は見つかったものの、同時期の明確な建物などの遺構は確認できなかった（２間×２間の掘立柱建物は奈良時代）が、想定図では溝に面した４つの柱穴が櫓ではないかという見解もある（溝に沿った土塁の根拠は不明。）。

また、区画の北側は約５m の間隔を置いて、同規模の溝が東西方向に走り、一部は直角に屈曲している。通路を挟んで他の屋敷地の区画が存在している可能性が高いものと見受けられる。

なお、出土遺物は、区画する溝の下層からは 14 ～ 15 世紀の遺物が出土しているが、中層は 18 世紀、上層は 19 世紀に至る遺物が出土しており、近世のかなりの期間を要して自然埋没していったものとみられる。区画内部の遺構が明確ではないために断定できないが、近世以降も屋敷地は存続している可能性も考えられる。




第 374 図　蔵持古屋敷遺跡復元想定図（文献 154）

【参考文献】149



第 375 図　蔵持古屋敷遺跡遺構配置図（文献 149）

| 筑前 R40 | 東五反田遺跡（ひがしごたたいせき） | 郡名　怡土郡<br>種別　平地城館 | 図幅名　前原（西）<br>所在　糸島市東 |
|---|---|---|---|

【位置】長野川中流域、東集落の東で、長野川東岸の標高 10m 前後の平地に位置する。東八幡宮の東約 500m の地点にあたる。

【概要】昭和 62 年（1987）度の調査では、東西 55m、南北 40m の溝で囲まれた方形区画が検出され、内部からはおびただしい数の掘立柱建物群を構成する柱穴群が検出された。

【参考文献】147

| 筑前 R41 | 東下田遺跡（ひがししもだいせき） | 郡名　怡土郡<br>種別　平地城館 | 図幅名　前原（西）<br>所在　糸島市東 |
|---|---|---|---|

【位置】長野集落の南、長野川西岸の標高 10m 前後の平地に位置する。

【概要】東下田遺跡では、４地点の調査が行われており、中世の居館遺構が検出されたのは３地点である。調査区からは東西約 30m の区画溝が複数本並走し、南西隅で北側に屈曲する状況が確認されている。方形区画をなすものとみられ、区画の内外からは多くの柱穴群が検出された。

【参考文献】147



第 376 図　東五反田遺跡全景（糸島市教育委員会提供）



第 377 図　東下田遺跡（糸島市教育委員会提供）

| 筑前 R42 | 東高田遺跡（ひがしたこうだいせき） | 郡名　怡土郡<br>種別　平地城館 | 図幅名　前原（西）<br>所在　糸島市東 |
|---|---|---|---|

【位置】長野集落の南約 500m、長野川中流域西岸の標高 11m の微高地上に位置する。

【概要】高田遺跡は４地点の調査が行われ、その内の第３地点で中世居館とみられる遺跡が検出された。第３地点では南北約 50m、東西約 10 ～ 15m の範囲で調査が行われ、東西方向に並行して走る溝２本（４・５号溝）が検出され、その北側に４棟の掘立柱建物が検出された。

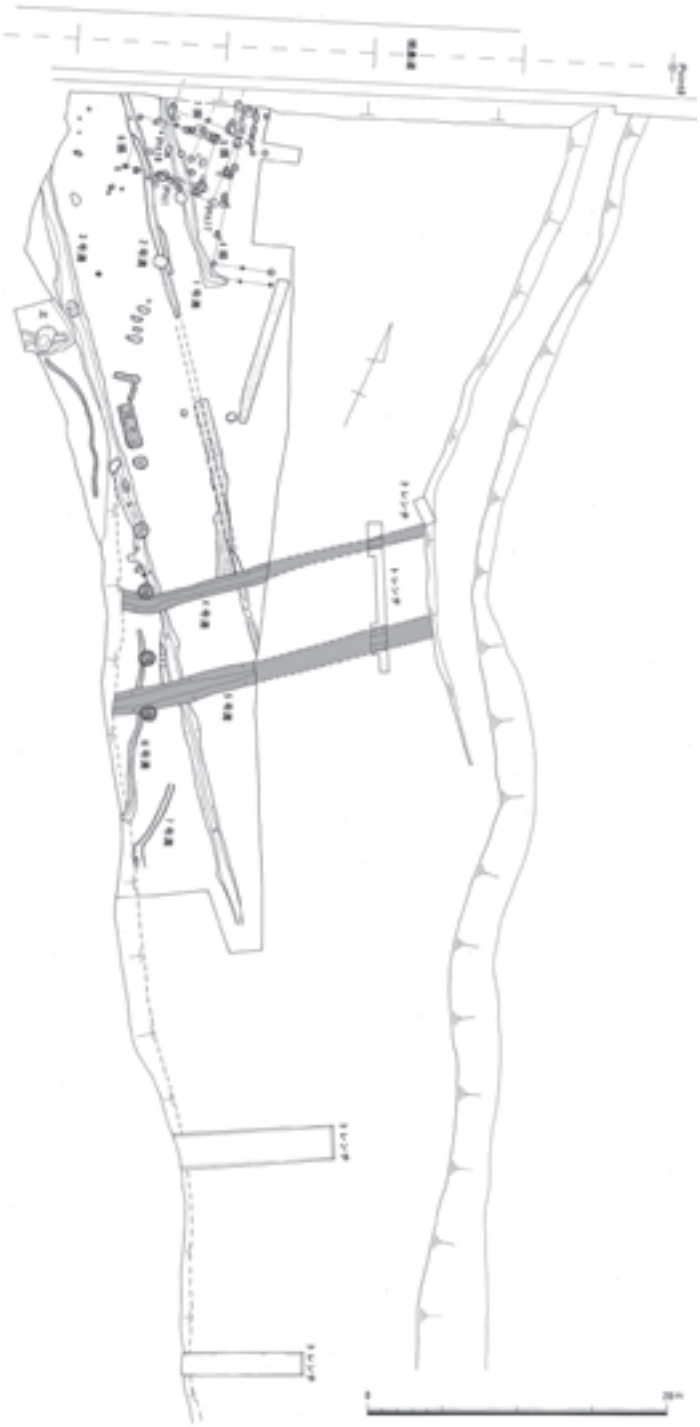
５号溝は現在の地割と一致しており、地籍図や部分的なトレンチ調査等による検討から、一辺約100m の方形区画が想定されている。また、第２地点においても掘立柱建物が２棟検出されており、推定される方形区画の内部にあたる。溝や柱穴から出土した遺物の年代から、13 世紀前半頃とみられている。

なお、調査地の小字は「屋敷田」で、地元では波多江兵庫守屋敷跡あるいは古屋敷と呼ばれていたといい、この遺跡と関連があるものとみられる。

【参考文献】148



第 378 図　東高田遺跡第３地点全景
（糸島市教育委員会提供）



第 379 図　東高田遺跡第３地点遺構配置図（文献 148）

| 筑前 R43 | 熊野神社東遺跡（くまのじんじゃひがしいせき） | 郡名　怡土郡<br>種別　平地城館 | 図幅名　前原（西）<br>所在　糸島市二丈田中 |
|---|---|---|---|

【位置】羅漢川の東岸、丘陵裾部の標高 12m の低台地上に位置する。田中の集落の中にあたり、西隣には熊野神社が鎮座する。

【概要】約 30m 四方を対象として発掘調査が行われ、南北 20m 以上、東西 20m 以上の溝で囲まれた方形区画が検出された。区画近辺からは 2 棟の掘立柱建物が検出され、うち 1 棟は方形に区画する溝に切られていたが、もう 1 棟は溝と同時期の可能性がある。溝の幅は 2 ～ 3 m、深さは約 1 m である。区画の外からも小型の柱穴が多数検出されており、明確ではないが、小型の掘立柱建物が存在する可能性が高い。出土遺物は、溝出土の遺物は 12 世紀後半までを主体とするが、区画外の柱穴からは 13 世紀前半代の龍泉窯系青磁が多く出土しており、溝の埋没後も屋敷地が存続した可能性が高いとみられる。

【参考文献】157




第 380 図　熊野神社東遺跡遺構配置図（文献 157）

| 筑前 R44 | 石崎曲り田遺跡（いしざきまがりたいせき） | 郡名　怡土郡 | 図幅名　前原（西） |
|---|---|---|---|
| | | 種別　平地城館 | 所在　糸島市二丈石崎 |

【位置】一貴山川と荒巻川に挟まれた石崎の標高８ｍの低丘陵上に位置する。縄文時代から弥生時代にかけての集落遺跡として名高い遺跡であるが、中世遺構が検出された３次調査区は、縄文～弥生時代の遺構が検出された１次調査区の北側にあたる。

【概要】３次調査Ⅳ区は、丘陵の西側裾部にあたる箇所で、南北約 60m、東西約 30m の範囲の発掘調査を行い、併せて３層の遺構面が確認された。その内、最上層において関連遺構が検出された。調査区の南側において、東西に道路状遺構が検出され、それに並行するように東西 15m 以上、南北約 10m の直角に折れる区画溝が検出された。溝は幅 0.6m と狭いものの、深さは約 1.2m もある。区画の内部からは掘立柱建物１棟の他、多数の柱穴群が検出された。

また、区画外からも多数の柱穴群と共に、部分的に区画溝なども検出された。これらは溝の出土遺物から 12 世紀後半頃のものとみられる。

なお、下層では、古墳時代の竪穴住居の他、８～９世紀代の掘立柱建物、鍛冶遺構、井戸などが検出され、邢窯系白磁、越州窯系青磁、製塩土器、墨書土器、刻書土器などが出土した。調査区内で検出された道路状遺構が古代「西海道」の官道とみられており、「深江駅家」などの古代交通関連の遺跡とみられている。

【参考文献】153



第 381 図　石崎曲り田遺跡３次調査Ⅳ区上層遺構平面図（文献 153）

| 筑前 R43 | 木舟（きぶね）・三本松遺跡（さんぼんまついせき） | 郡名　怡土郡<br>種別　平地城館 | 図幅名　前原（西）<br>所在　糸島市二丈深江 |
|---|---|---|---|

【位置】一貴山川の西岸、標高２m の沖積地上に位置する。北東約 500m には木舟の森遺跡が所在する微高地がある。

【概要】木舟・三本松遺跡では３次にわたる調査が行われており、中世城館関連遺跡は３次調査区で検出されている。調査区南側において東西 36m、南北 40m の方形区画が検出され、北側と西側に溝が巡っていた。

溝は幅 3.5 ～ 4.5m と広いが､深さは 0.5m 程度と浅い。区画の東側と南側には溝は見られないが、一段下がっており、明確に方形区画の意識があったものとみられる。

区画内部からは小さな柱穴群が見つかり、明確ではないが、小規模な掘立柱建物があったものとみられる。溝などからの出土遺物は白磁、高麗産無釉陶器など、11 世紀後半～ 12 世紀初頭に位置づけられ、遺跡の活動時期を示している。

区画の北側も明確な溝は見られないが､微高地となっており、柱穴群や完形の白磁碗を副葬した木棺墓なども見つかっている。

【参考文献】151,152




第 382 図　木舟・三本松遺跡３次調査遺構配置図（文献 152）

| 筑前 R46　木舟の森遺跡（きぶねもりいせき） | 郡名　怡土郡 | 図幅名　前原（西） |
|---|---|---|
| | 種別　平地城館 | 所在　糸島市二丈深江 |

【位置】二丈岳から流れる一貴山川による標高１～２m の沖積地に位置する。周囲は一面の水田地帯であるが、遺跡の場所は古くより「木舟の森」と呼ばれ、鬱蒼とした木立の中に小さな祠が建てられ、神聖視されていた場所である。

【概要】東西約 80m、南北約 80m の範囲が調査され、調査区内からは直線的な溝や、直角に屈曲する溝など合わせて６本が検出された。溝の方向軸が調査区の東側と西側で異なっているため、全体的な平面プランを推測することは困難で、調査区の東側に本体部分があるのではないかとみられている。溝の幅は１～３m、深さは１m 前後で、溝の中からは多くの土師器丸底杯・小皿や瓦器椀、玉縁を持つ白磁碗、同安窯系青磁皿・碗、龍泉窯系劃花文青磁碗が出土した。そして区画の内側と思われる箇所からは掘立柱建物２棟が検出され、屋敷地であると想定される。

出土遺物から 12 世紀初頭～後半と考えられる。糸島半島の西側の付け根にあたり、かつて入り江になっていた海岸近くに所在することから、平氏政権がかかわった交易施設に関わる居館ではないかと類推されている。

【参考文献】150




第 383 図　木舟の森遺跡遺構平面図（文献 150）

| 筑前 R47 | 大塚遺跡（おおつかいせき） | 郡名　志摩郡 | 図幅名　福岡西南部（西） |
|---|---|---|---|
| | | 種別　平地城館 | 所在　福岡市西区今宿町 |

【位置】早良郡と怡土・志摩郡とを分かつ長垂丘陵の西、高祖山から北へ延びる標高 10mの丘陵先端部に位置する。

【概要】国史跡今宿大塚古墳の北側を中心に広がる大塚遺跡は過去に 20 次近くの調査が行われ、弥生・古墳・古代の遺跡と共に、戦国時代の居館群の遺構が検出されている。

特に古墳の北側を調査した 17 次調査では、南北約 30m、東西約 15m の溝に囲まれた長方形区画が少なくとも 5 面、東西に並列して検出されている。さらに周囲にも方形区画があり、併せて 10 区画程度が想定されている。取り囲む溝は、隣り合う区画で共有するのではなく、各々溝を有しており、溝と溝の間は通路のような役割を果たしていたものとみられる。

これらの区画の中で中心的なものは区画 F で、大型建物や唯一の石組井戸の他、東南隅に陸橋部と 1 間×1 間の門遺構が構えられている。これらの遺構群は南北 260m、東西 130m の範囲にわたる。概ね 16 世紀代だが、主体は 16 世紀前半である。鉄砲玉であろう鉛玉も出土しており、武家の屋敷群とみられ、高祖城の原田氏との関連が指摘されている。




第 384 図　大塚遺跡遺構配置図（文献 164）

【参考文献】160,163,164

| 筑前 R48 | 青木遺跡（あおきいせき） | 郡名　志摩郡 | 図幅名　福岡西南部（西） |
|---|---|---|---|
| | | 種別　平地城館 | 所在　福岡市西区今宿青木 |

【位置】高祖山東麓から流れ出る七寺川の西岸、標高８m の平地に位置する。

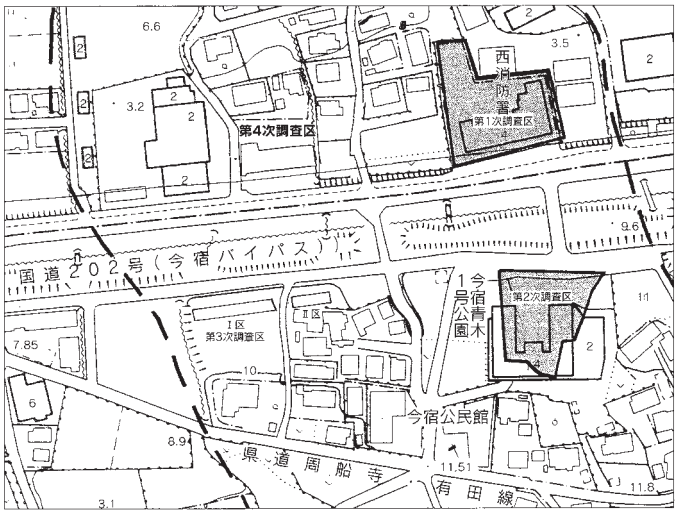
【概要】青木遺跡は過去４次の調査が行われ、２次調査と４次調査において明確に関連遺構が検出されている。

今宿バイパスの南側にあたる２次調査区では、約 40m 四方の範囲の発掘調査が行われ、南北約 40m、東西 30m 以上の溝に囲まれた方形区画が検出された。区画の中からは１間×１～３間の小型の掘立柱建物群が見つかっている。区画する溝は幅４m で、東側は検出されていないが、地形上、そのまま谷へ流れ込んでいたものと思われる。また、調査区西側の南北溝は、断面がＶ字形で幅約１m、深さは約１m である。溝の西側からも掘立柱建物が検出されており、西側にも方形区画が存在する可能性が考えられる。時期は概ね 12 世紀である。

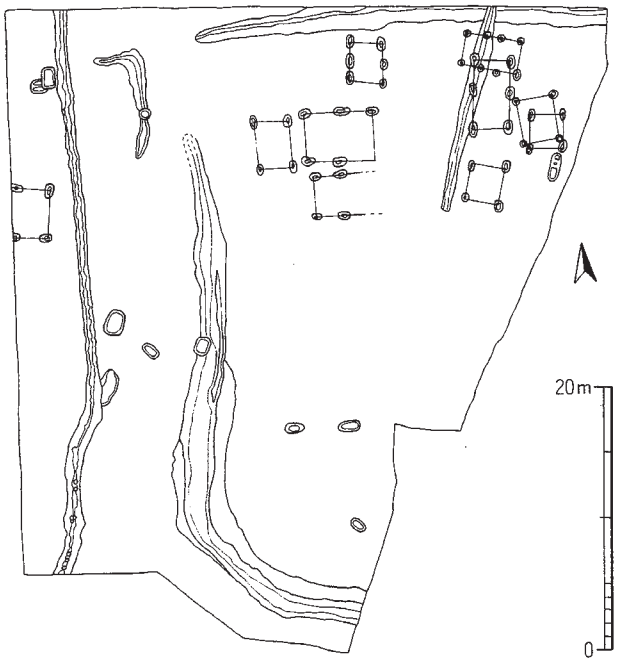
なお、２次調査区の北側にあたる１次調査区においても概ね 13 世紀頃と想定される掘立柱建物群が多く検出されている。それと併せて区画溝とも想定できるＬ字形の溝も複数検出されているが、掘立柱建物群と併存するか否かは不明である。

１次調査の西側の４次調査区では、東西約 30m、南北 10m の範囲を調査し、掘立柱建物８棟と東西方向、南北方向の区画溝が検出された。時期は 16 世紀後半～ 18 世紀までで、溝は概ね 18 世紀代までに埋没するが、調査区西側の南北溝だけは 18 世紀以降に掘り直されている。中世末から近世にかけての集落の変遷を示しているものと思われる。

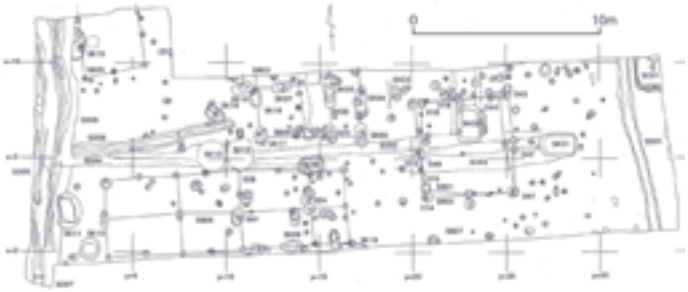
【参考文献】159,161,162




第 385 図　青木遺跡調査地位置図（文献 162）




第 386 図　青木遺跡２次調査区中世遺構配置図（文献 161）



第 387 図　青木遺跡４次調査遺構配置図（文献 162）

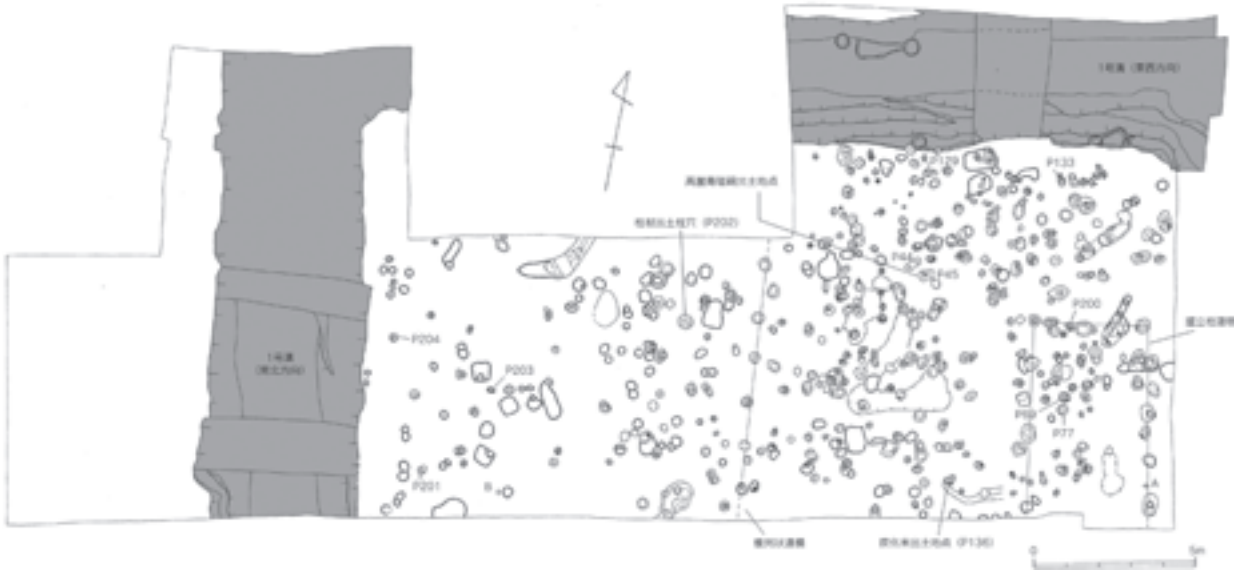
| 筑前 R49 | 池田井田遺跡（いけだいだいせき） | 郡名　志摩郡 | 図幅名　前原（東） |
|---|---|---|---|
| | | 種別　平地城館 | 所在　糸島市波多江駅南1丁目 |

【位置】瑞梅寺川と雷山川に挟まれた標高８m の低地に位置する。

【概要】東西約 20m、南北約 10m の範囲を調査したところ、L 字形の溝を検出した。溝の幅 4.5m、深さは約２m と大きい。北西隅部と共に南北方向 14.5m、東西方向 13.8m 分を検出した。溝の内側からは多数の掘立柱建物や柵が検出された。出土遺物は 14 ～ 15 世紀の土師器と共に、高麗産の象嵌青磁碗なども出土していて、館が営まれた時期も概ねその頃に位置づけられる。

地誌類には当該遺跡の館の記載は見られないが、波多江一族の池田氏の居館ではないかとも考えられている。また、この調査では北西隅しか検出されていないが、南東側の産宮神社には土塁状遺構が残存するとも言われており、それを区画の東限とした場合、一辺約 100m の規模を有することとなるが、明確には今後の調査次第である。

【参考文献】166



第 388 図　池田井田遺跡遺構配置図（文献 166）

| 筑前 R50 | 潤古屋敷遺跡（うるうふるやしきいせき） | 郡名　志摩郡 | 図幅名　前原（東） |
|---|---|---|---|
| | | 種別　平地城館 | 所在　糸島市潤 |

【位置】雷山川西岸、標高４m の低地に位置する。

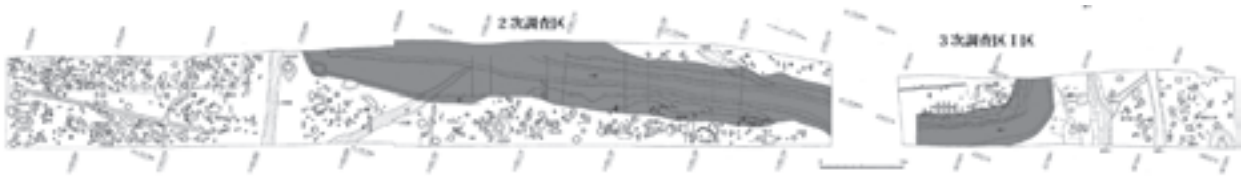
【概要】潤古屋敷遺跡は過去、３回の調査が行われており、２次調査と３次調査１区において、方形区画を囲むと想定される大溝が検出されている。方形区画は一辺約 90 ～ 100m の規模を有し、発掘調査では、東辺部分にあたる箇所の調査が行われ、大溝遺構の東辺部がほぼ調査がなされる形となった。大溝は幅７m、深さ 1.2m を有し、断面は緩やかな V 字形を呈している。溝の下層からは 14 世紀を下限とする遺物が出土しており、溝の機能した時期を示しているものと思われる。上層からは 17 世紀を下限とする遺物が出土しており、15 世紀代に屋敷地が廃絶後、近世初頭に最終的に溝が埋没したものとみられる。

区画の内部はほとんど調査区に入っていないため、明確な遺構は確認できていないが、溝に沿っ

た小面積の中にも多数の柱穴群があり、屋敷地が展開しているものとみられる。

また、潤古屋敷遺跡の南側の潤番田遺跡でも調査区が細いために明確なプランは不明であるが、方形区画を画するような多数の溝やそれに付随する井戸や建物、さらには高麗青磁の陶枕など、希少な陶磁器も出土している。東隣の潤地頭給遺跡は、古墳時代の大規模玉作工房が検出された遺跡として有名だが、ここでも敷地を囲うと目される東西溝が検出されているが、全体的なプランは不明なままである。今後の調査の進展により、潤地区においてさらに城館関連遺跡が明確になっていくものと思われる。

【参考文献】**167,168**



第 389 図　潤古屋敷遺跡遺構配置図（文献 167・168 掲載図を一部改変して事務局作成）

**筑前 R51　波多江遺跡（はたえいせき）**

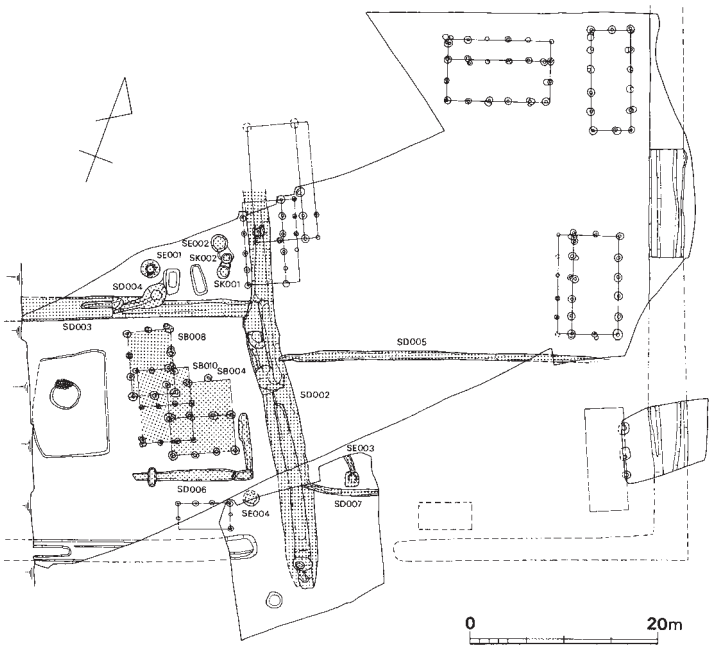
**郡名　志摩郡**　　**図幅名　前原（東）**

**種別　平地城館**　　**所在　糸島市波多江**

【位置】波多江の本村の集落の南、丹波屋敷の南に隣接する標高 13m の沖積地上に位置する。

【概要】発掘調査では 9 世紀の遺構と 16 ～ 17 世紀の遺構に二分された。

9 世紀代には、一辺 60m 以上の方形区画が想定され、その周囲を幅 3.5 ～ 4 m、深さ 0.6m の溝に囲まれており、区画の方向に並行して掘立柱建物が検出された。その他、竪穴住居、井戸なども見つかっており、公的な官衙か豪族居館が想定できるのではないだろうか。




第 390 図　波多江遺跡遺構配置図（アミカケ部は中世後半期・文献 158）

一方、戦国期の遺構としては、現状の地割（条里地割の中の小地割）の境と同一の場所に、南北、東西方向に溝が検出され、溝に囲まれた区画内部に掘立柱建物や井戸が検出された。短辺 20m ほどの小さな区画が複数並列すると想定される。北側に隣接する丹波屋敷に付随する武家屋敷あるいは町家などが想定されるのではなかろうか。溝からは 16 世紀の明の染付から 17 世紀の唐津焼・肥前陶磁なども出土しており、その頃の時期が屋敷の活動時期を示していると思われる。

【参考文献】**158**

| 筑前 R52 | 木藤丸遺跡（きふじまるいせき） | 郡名　志摩郡 | 図幅名　前原（西）/ 宮浦（西） |
|---|---|---|---|
| | | 種別　平地城館 | 所在　糸島市志摩稲留 |

【位置】志摩半島の可也山と火山に挟まれた初川北側、標高 14m の低台地上に位置する。

【概要】東西約 25m、南北約 30m の範囲の発掘調査が行われ、調査区内を取り囲むように、直角に折れる区画溝が検出され、区画内部からは掘立柱建物を構成すると思われる柱穴群が検出された。屈曲する溝（SD03）は幅約 1 m、深さは 0.6 ～ 1 m で、溝の埋土は概ね単層であることから、人為的に埋め戻した可能性が指摘されている。しかし一部では明らかに別の埋土で部分的に溝を埋めていることから､北側に陸橋部があった可能性も考えられている。方形区画の大きさは南北 30m 以上、東西 20m 以上で、西側と南側は検出されていないため、全体の様相は不明である。出土遺物は洪武通宝の他、15 世紀代の土師器が溝から出土しており、概ね活動時期を示している。

【参考文献】165



第 391 図　木藤丸遺跡遺構配置図（文献 165）

# Ⅵ　城館関連文献史料一覧

・本章では、本書報告対象の城館が登場する文献史料を集成した一覧表を示す。
・掲載にあたっては、城館別に採集した関係史料を「一次史料」と「参考史料」に類別し、編年配列した上で、各「一次史料」には枝番号を付した。ここでの「一次史料」とは、その城館が存続した同時代成立の史料である古文書・記録・日記類であり、その写しも含む。「参考史料」は、城館に関する記述内容の時期よりも後世の成立となる記録や編纂物である。
・本来ならば、原文書からの翻刻を掲載すべきだが、作業期間・紙幅等の事情により、その多くを良質な刊本から、一部を原本・謄写本等から収集し、内容については要旨、または当該城館に係る記述からの情報を示した。
・児玉韞採集文書の刊本未収録の史料は東京大学史料編纂所謄写本を使用した。また青柳種信筆写「飯田文書」「満盛院文書」の刊本未収録の史料は青柳種信関係資料のマイクロフィルム紙焼き版（福岡市博物館提供）を使用した。

＜中世城館＞

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 154 | 宮永城 | 参考 | 天正9年11月17日 | | 宗像軍記／『福岡県宗像郡誌　中』P715 | | | 大友氏との小金原合戦において、宗像勢が「宮永ノ城主」吉田杢之助の館に打寄り評定す。 |
| 182 | 龍ヶ岳 | 参考 | 天正15年4月 | 生駒雅楽頭宛覚書 | 『物語秋月史　上』P378 | | | 生駒雅楽頭に渡す秋月抱城のうちに「竜ヶ岳　坂田蔵人／深見駿河」。 |
| 191 | 鷹取城 | 参考 | 永禄4年4月上旬 | | 宗像軍記／『福岡県宗像郡誌　中』P709 | | | 「鷹取ノ城主」毛利鎮光、大友勢の許斐岳城攻めを案内する。 |
| | | 参考 | 天正9年11月17日 | | 宗像軍記／『福岡県宗像郡誌　中』P713 | | | 戸次道雪、「鷹取ノ城主」毛利鎮実のために兵糧を送らんとする。 |
| | | (1) | (天正10年)4月26日 | 宗像氏貞書状写 | 無尽集／『宗像市史　史料編2　中世2』631 | (宗像)氏貞 | (小早川)隆景 | 前年11月12日「毛利鎮真要害高鳥広」に戸次道雪兵糧を送る。 |
| | | 参考 | 慶長6年 | | 黒田家譜14／『新訂黒田家譜1』P464 | | | 鞍手郡高取城を築き、母里太兵衛を置く。 |
| | | (2) | 慶長7年7月9日 | 黒田長政書状 | 鳥野神社文書(近津神社所蔵)／『直方市史　資料編　上』P69 | (黒田)長政 | 手塚孫太夫との | 「高取開城」について、手塚孫太夫に母里太兵衛を補佐せしめ、地鎮については母里・井上周防と相談の上、福地社に申しつける。 |
| | | (3) | (慶長中頃)5月11日 | 黒田長政書状写 | 竹森家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P385 | | 竹森清左衛門とのへ | 「高鳥井」への大鋸・大工の派遣を許可する。 |
| | | (4) | (慶長11年ヵ)7月1日 | 黒田長政書状写 | 竹森家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P387 | | 竹森清左衛門尉とのへ | 「高鳥居作事」について報告を受ける。 |
| | | (5) | (慶長11年ヵ)8月15日 | 黒田長政書状写 | 竹森家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P392 | | 竹森清左衛門とのへ | 「高鳥居城作事」について、寒くなる前に急ぐべきことを指示する。 |
| | | 参考 | 慶長11年 | | 黒田家譜14／『新訂黒田家譜1』P464 | | | 大隈城主後藤又兵衛が出奔し、母里太兵衛を大隈城に、手塚水雪を高取城に置く。 |
| | | 参考 | 元和1年 | | 久野家譜 | | | 黒田長政、大坂夏の陣後の京都滞在中「御国中御本城の外、端城は破壊候様」徳川氏より内達される。 |
| | | (6) | 元和1年閏6月13日 | 江戸幕府老中連署奉書 | 黒田家文書／『黒田家文書2』P69、黒田家譜14／『新訂黒田家譜1』P489 | 安藤対馬守重次、土井大炊助利勝、酒井雅楽 | 黒田筑前守(長政)殿 | 一国一城令により、六端城を破却する。 |
| | | (7) | 元和9年11月6日 | 黒田高政書状 | 吉田家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(下)』P341 | 黒(黒田)官兵衛高政 | 吉田七左衛門殿 | 「高鳥居方切」に仰付けられる。 |
| 197 | 剣岳城 | (1) | (天正14年)10月16日 | 豊臣秀吉朱印状 | 麻生文書51／『筑前麻生文書』P60、『福岡市史　資料編　中世1』P561 | (豊臣秀吉) | 麻生次郎左衛門尉とのへ | 10月4日、「秋月半城」の「剱岳・浅川・古賀三ヶ所」が落城、軍忠を賞す。 |
| | | (2) | | 豊臣秀吉書状 | 黒田家文書68／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P519、『黒田家文書1　本編』P161、『福岡市史　資料編　中世1』P699 | | 小早川左衛門佐(隆景)とのへ、安国寺(恵瓊)、黒田勘解由(孝高)とのへ | 毛利・黒田らの豊臣勢、去10月4日「小倉表」を攻略し、麻生・宗像勢を「秋月半城」へ向かわせ、「剣岳・浅川・古賀」を攻め落とす。「帆柱城」についても明け渡すべき由云々。 |
| | | 参考 | 天正15年4月 | 生駒雅楽頭宛覚書 | 『物語秋月史　上』P378 | | | 生駒雅楽頭に渡す秋月抱城のうちに「剣山　重松駿河」。 |
| 207 | 浅川城 | (1) | (天正14年)10月16日 | 豊臣秀吉朱印状 | 麻生文書51／『筑前麻生文書』P60、『福岡市史　資料編　中世1』P561 | (豊臣秀吉) | 麻生次郎左衛門尉とのへ | 10月4日、「秋月半城」の「剱岳・浅川・古賀三ヶ所」が落城、軍忠を賞す。 |
| | | (2) | | 豊臣秀吉書状 | 黒田家文書68／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P519、『黒田家文書1　本編』P161、『福岡市史　資料編　中世1』P699 | | 小早川左衛門佐(隆景)とのへ、安国寺(恵瓊)、黒田勘解由(孝高)とのへ | 毛利・黒田らの豊臣勢、去10月4日「小倉表」を攻略し、麻生・宗像勢を「秋月半城」へ向かわせ、「剣岳・浅川・古賀」を攻め落とす。「帆柱城」についても明け渡すべき由云々。 |
| 208 | 畑城 | (1) | 康永元年8月 | 志賀頼房軍忠状 | 志賀文書／『福岡市史　資料編　中世2』P447 | (一色道猷・範氏) | 源(志賀)頼房 | 建武5年10月の畑城での合戦での軍忠を賞す。 |
| 213 | 帆柱山城 | 参考 | 建武1年1月 | | 歴代鎮西志／『大日本史料　6編1』P424 | | | 北条一族の規矩高政、「帆柱城」に拠り、5千の兵で乱を起こす。宗像氏長、討伐に発するも敗退する。 |
| | | (1) | 文明10年10月9日 | | 正任記／『山口県史　中世1』P339 | | | 内藤弘矩、「麻生帆柱山」に着陣、「花尾水手」を止める旨注進する。 |
| | | (2) | | | | | | 麻生家延、「帆柱城」は「麻生家城」と主張する。 |
| | | (3) | (永禄5年)7月16日 | 毛利元就・同隆元連署条書 | 寄組山田家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P942 | (毛利元就)、(毛利隆元) | 市式(市川経好)、財満(財満忠久)、坂新(元祐) | 高橋鑑種が大友家から毛利家に寝返った事により、「橘(立花)」を始め、「宗像」「麻生」「門司城」まで毛利方の手に入った事を伝える。 |
| | | 参考 | 永禄12年春 | | 吉川家祖先勲功覚書上『大日本史料　10編2』P578 | | | 吉川元春、「帆柱」に陣替えする。 |
| | | 参考 | 永禄12年3月中旬 | | 吉川家旧記・陰徳記『大日本史料　10編2』P583・604 | | | 吉川元春・小早川隆景、「帆柱」に陣替えする。 |
| | | (4) | (永禄12年)11月18日 | 小早川隆景書状 | 稲田文書／『福岡市史　資料編　中世2』P47 | (小早川)隆景 | 隆重 | 「立花表」は要害堅固である事を述べる。また、九州については「宝満」、「岩屋」、「麻生」、「宗像」は堅固であり、「立花」には桂元重、坂元祐、乃美宗勝が籠もり、団結して守っているので安心であると述べる。 |
| | | (5) | (天正14年)10月4日 | 黒田孝高等連署状写 | 麻生文書92／『筑前麻生文書』P109、『福岡市史　資料編　中世1』P550 | 小左衛(小早川)隆景、安国寺恵瓊、黒官兵(黒田)孝高 | 麻生上総介殿、渡辺対馬守殿 | 麻生氏、豊臣秀吉の先手として下向した黒田孝高らにより、「帆柱」攻撃を命ぜらる。 |
| | | (6) | (天正14年)10月16日 | 豊臣秀吉書状 | 黒田家文書68／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P519、『黒田家文書1　本編』P161、『福岡市史　資料編　中世1』P699 | (豊臣秀吉) | 小早川左衛門佐(隆景)とのへ、安国寺(恵瓊)、黒田勘解由(孝高)とのへ | 毛利・黒田らの豊臣勢、去10月4日「小倉表」を攻略し、麻生・宗像勢を「秋月半城」へ向かわせ、「剣岳・浅川・古賀」を攻め落とす。「帆柱城」についても明け渡すべき由云々。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 214 | 鷹見岳城 | (1) | 貞治4年4月日 | 門司親尚軍忠状 | 門司文書18／『南北朝遺文　九州編4』4571、『門司文書』P29 | (門司親尚) | | 去年10月17日「鎮西麻生山」攻め・「鷹見山警固」等の軍忠を注進する。 |
| | | (2) | 応安5年3月1日 | 細川頼之感状写 | 萩藩閥閲録121-1周布吉兵衛／『大宰府・太宰府天満宮史料12』P207、『萩藩閥閲 | 相模守(細川頼之) | 周布因幡入道(兼氏)殿 | 去2月10日「筑前国多良倉・鷹見嶽両城合戦」における軍忠を賞す。 |
| | | (3) | 応安5年3月4日 | | 花営三代記／『大宰府・太宰府天満宮史料12』P206 | | | 去2月10日「筑前国山城両所没落」等の注進到来する。 |
| | | (4) | 応安5年6月日 | 吉河経見軍忠状 | 吉川家文書33／『大日本古文書9-1』P20、『大宰府・太宰府天満宮史料12』P207 | (吉川経見) | (今川貞世) | 去2月10日「筑前多良倉・鷹見嶽両城合戦」等における軍忠を注進する。 |
| | | (5) | 応安5年9月日 | 周布兼氏軍忠状 | 萩藩閥閲録121-1周布吉兵衛／『大宰府・太宰府天満宮史料12』P209、『萩藩閥閲 | (周布兼氏) | | 今年2月10日「筑前国麻生山多良倉・鷹見嶽両城被攻落時」等の軍忠・手負を注進する。 |
| | | (6) | 応安7年7月日 | 毛利元春軍忠状 | 毛利家文書13／『大日本古文書8-1』P11、『大宰府・太宰府天満宮史料12』P209 | (毛利元春) | | 応安5年2月10日「麻生山高見城合戦」における軍忠を注進する。 |
| 215 | 花尾城 | (1) | 文明10年10月3日 | | 正任記／『山口県史　中世1』P332 | | | 大内政弘、内藤弘矩等の軍勢を、麻生家延が籠もる「花尾城詰口」に派遣する。 |
| | | (2) | 文明10年10月5日 | | 正任記／『山口県史　中世1』P334 | | | 「花尾城陣」より瀧蔵寺寛智が戻り、「当城」のことにつて麻生家延の言い分を伝える。 |
| | | (3) | 文明10年10月9日 | | 正任記／『山口県史　中世1』P339 | | | 内藤弘矩、「麻生帆柱山」に着陣、「花尾水手」を止める旨注進する。 |
| | | (4) | | | | | | 「花尾城」のことについて、安富行房より使者あり。 |
| | | (5) | 文明10年10月14日 | | 正任記／『山口県史　中世1』P342 | | | 仲八屋藤左衛門尉武信、「麻生花尾陣」より大内氏のもとへ参じる。 |
| | | (6) | (年未詳)8月15日 | 宗像正氏感状 | 吉田公一文書／『宗像市史　史料編2　中世2』259 | (宗像)正氏 | 吉田形(刑)部少輔殿、紙屋帯刀左衛門 | 「麻生花尾出陣」における軍忠を賞す。 |
| | | (7) | 天文7年10月6日 | 大内氏奉行人連署状写 | 到津家譜／『北九州市史　古代・中世』P1230、『増補訂正　編年大友史料17』 | (貫)武助、(杉)興重 | 前大宮司到津殿 | 規矩郡到津庄の「御城誘御愁訴」について、「花尾御城督高石兵庫助」に奉書を出す。 |
| | | (8) | 永禄2年9月2日 | 大友義鎮書状 | 佐田文書205／『熊本県史料　中世編2』P286、『大分県先哲叢書　大友宗麟2』P228 | (大友)義鎮 | 安心院中務大輔(興生)殿、佐田弾正忠(隆居)殿 | 「門司・花尾之残党」追討のために田原親宏・親賢を派遣する。 |
| | | (9) | (永禄4年カ)12月8日 | 小早川隆景書状写 | 麻生文書93／『筑前麻生文書』P109、『福岡市史　資料編　中世1』P550 | (小早川)隆景 | (小笠原)長雄 | 毛利氏、「苅田松山一城」を取り付けた上、「花尾城」に軍勢を差し籠め、豊筑両州の拠点を固める。 |
| | | (10) | 天正3年4月3日 | 堀立直正書状写 | 堀立氏証文写／『大宰府・太宰府天満宮史料15』P376 | 堀立壱岐守直正 | 国司右京亮殿、児玉三郎右衛門尉殿 | 「豊州衆門司敗軍」の際「花尾」攻略等の軍忠について、毛利輝元への披露を依頼する。 |
| 216 | 多良倉岳城(含「麻生山」) | (1) | 延文1年11月28日 | 麻生宗光軍忠状 | 麻生文書15／『筑前麻生文書』P15、『南北朝遺文』3930 | (麻生直氏) | (一色直氏) | 去10月13日「山鹿山」にて一色氏に属し、「麻生山」・「長谷山」等における合戦の軍忠を注進する。 |
| | | (2) | 延文1年12月29日 | 末松因幡守軍忠状写 | 麻生文書103／『筑前麻生文書』P113、『南北朝遺文』3936 | (末松因幡守) | 瀧　祢馬 | 今月22日「麻生山」の合戦における軍忠を注進する。 |
| | | (3) | 貞治4年4月日 | 門司親尚軍忠状 | 門司文書18／『南北朝遺文　九州編4』4571、『門司文書』P29 | (門司親尚) | | 去年10月17日「鎮西麻生山」攻め・「鷹見山警固」等の軍忠を注進する。 |
| | | (4) | 応安5年3月1日 | 細川頼之感状写 | 萩藩閥閲録121-1周布吉兵衛30／『大宰府・太宰府天満宮史料12』P207、『萩藩閥閲録3』P548 | 相模守(細川頼之) | 周布因幡入道(兼氏)殿 | 去2月10日「筑前国多良倉・鷹見嶽両城合戦」における軍忠を賞す。 |
| | | (5) | 応安5年3月4日 | | 花営三代記／『大宰府・太宰府天満宮史料12』P206 | | | 去2月10日「筑前国山城両所没落」等の注進到来する。 |
| | | (6) | 応安5年6月日 | 吉河経見軍忠状 | 吉川家文書33／『大日本古文書9-1』P20、『大宰府・太宰府天満宮史料12』P207 | (吉川経見) | (今川貞世) | 去2月10日「筑前多良倉・鷹見嶽両城合戦」等における軍忠を注進する。 |
| | | (7) | 応安5年7月日 | 山内通忠軍忠状 | 山内首藤家文書54／『大日本古文書15』P56、『大宰府・太宰府天満宮史料12』P208 | (山内通忠) | | 今年2月10日「麻生山両度合戦」等における軍忠を注進する。 |
| | | (8) | | 薤田盛忠軍忠状 | 雙栢文庫／『大宰府・太宰府天満宮史料12』P208 | (薤田盛忠) | | 「筑前国麻生山御合戦」等の軍忠を注進する。 |
| | | (9) | 応安5年9月日 | 周布兼氏軍忠状 | 萩藩閥閲録121-1周布吉兵衛32／『大宰府・太宰府天満宮史料12』P209、『萩藩閥閲録3』P549 | (周布兼氏) | | 今年2月10日「筑前国麻生山多良倉・鷹見嶽両城被攻落時」等の軍忠・手負を注進する。 |
| | | (10) | 応安7年7月日 | 毛利元春軍忠状 | 毛利家文書13／『大日本古文書8-1』P11、『大宰府・太宰府天満宮史料12』P209 | (毛利元春) | | 応安5年2月10日「麻生山高見城合戦」における軍忠を注進する。 |
| | | (11) | 応安8年1月日 | 山内通忠軍忠状 | 山内首藤家文書59／『大日本古文書15』 | (山内通忠) | (今川了俊) | 応安5年2月10日「麻尾山」合戦等における軍忠を注進する。 |
| | | (12) | | | 山内首藤家文書60／『大日本古文書15』 | | (今川頼泰) | |
| | | (13) | 応安8年8月日 | 長井貞広軍忠状写 | 福原家文書／『大宰府・太宰府天満宮史料12』P211、萩藩閥閲録8-2福原対馬38／『萩藩閥閲録1』P153 | (長井貞広) | (今川了俊) | 応安5年2月10日「麻生山合戦」等における軍忠を注進する。 |
| | | (14) | (永和2年)3月11日 | 今川了俊書状 | 毛利家文書9／『大日本古文書8-1』P5 | (沙弥) | 毛利右馬頭(元春)殿 | 「麻生山合戦」の事についての知らせを受ける。 |
| 228 | 古賀城 | (1) | (天正14年)10月16日 | 豊臣秀吉朱印状 | 麻生文書51／『筑前麻生文書』P60、『福岡市史　資料編　中世1』P561 | (豊臣秀吉) | 麻生次郎左衛門尉とのへ | 10月4日、「秋月半城」の「剱岳・浅川・古賀三ヶ所」が落城、軍忠を賞す。 |
| | | (2) | | 豊臣秀吉書状 | 黒田家文書68／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P519、『黒田家文書1　本編』P161、『福岡市史　資料編　中世1』P699 | | 小早川左衛門佐(隆景)とのへ、安国寺(恵瓊)、黒田勘解由(孝高)とのへ | 毛利・黒田らの豊臣勢、去10月4日「小倉表」を攻略し、麻生・宗像勢を「秋月半城」へ向かわせ、「剣岳・浅川・古賀」を攻め落とす。「帆柱城」についても明け渡すべき由云々。 |
| 233 | 山鹿城 | (1) | 延文1年11月28日 | 麻生宗光軍忠状 | 麻生文書15／『筑前麻生文書』P15、『南北朝遺文』3930 | (麻生直氏) | (一色直氏) | 去10月13日「山鹿山」にて一色氏に属し、「麻生山」・「長谷山」等における合戦の軍忠を注進する。 |
| | | (2) | 正平12年2月 | 於保胤宗軍忠状 | 多久文書／『南北朝遺文』3950 | (於保胤宗) | (五條良氏) | 去年10月「山鹿」に馳せ参じ味方する等の軍忠を注進する。 |
| | | (3) | (永禄5年)11月12日 | 宗像氏貞書状 | 寄組山田家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P945 | (宗像)氏貞 | 有田加賀守(経道)殿、山田民部丞(満重)殿 | 市川経好が「山鹿」に到着したので、氏貞自身も「山鹿」に向かう。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 243 | 白山城（宗像城　永禄年間まで） | (1) | 観応2年8月12日 | 足利直冬軍勢催促状 | 綾部文書／『南北朝遺文　九州編3』3148、『宗像市史　史料編1　古代中世1』367-1 | （足利直冬） | 綾部新次郎（幸依）殿 | 足利直冬、少弐頼貞に「宗像城」を攻めさせ、綾部幸依・龍造寺家政の参陣を促す。 |
| | | (2) | | | 龍造寺文書／『南北朝遺文　九州編3』3149、『宗像市史　史料編1　古代中世1』 | | 龍造寺又七（家政）殿 | |
| | | (3) | 観応2年8月24日 | 足利直冬感状 | 龍造寺文書／『南北朝遺文　九州編3』3168、『宗像市史　史料編1　古代中世1』 | | 龍造寺又七（家政）殿 | 「宗像城」における軍忠を賞す。 |
| | | (4) | | | 綾部文書／『南北朝遺文　九州編3』3169、『宗像市史　史料編1　古代中世1』368-2 | | 綾部新次郎（幸依）殿 | |
| | | (5) | 観応2年12月日 | 龍造寺家政申状案 | 龍造寺文書／『南北朝遺文　九州編3』3304、『宗像市史　史料編1　古代中世1』 | （龍造寺家政） | | 龍造寺家政、8月12日に御教書を預かり「筑前国宗像城」へ参陣する。 |
| | | (6) | 観応3年3月23日 | 宗像資村軍忠状写 | 萩藩閥閲録71小野貞右衛門20／『南北朝遺文　九州編3』3379、『宗像市史　史料編1　古代中世1』366、『萩藩閥閲録2』P649 | （宗像資村） | （一色範氏） | 観応2年8月3日、宗像資村が「宗像城」に馳せ参じ、一色氏に属す。 |
| | | 参考 | 永禄3年8月16日 | | 宗像記　宗像記追考／『福岡県宗像郡誌　中』P575 | | | 戸次鑑連ら、宗像氏貞の白山城・許斐岳城・「吉原の里城」を攻める。 |
| | | (7) | （永禄5年）7月16日 | 毛利元就・同隆元連署条書 | 寄組山田家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P942 | （毛利元就）、（毛利隆元） | 市式（市川経好）、財満（財満忠久）、坂新（元祐） | 高橋鑑種が大友家から毛利家に寝返った事により、「橘（立花）」を始め、「宗像」「麻生」「門司城」まで毛利方の手に入った事を伝える。 |
| | | 参考 | 永禄5年12月3日 | | 宗像軍記／『福岡県宗像郡誌　中』P710 | | | 宗像氏貞、蔦岳城を築き、居城を白山城より移す。 |
| | | (8) | （永禄12年）11月18日 | 小早川隆景書状 | 秋田文書／『福岡市史　資料集　中世2』P47 | （小早川）隆景 | 隆重 | 「立花表」は要害堅固である事を述べる。また、九州については「宝満」、「岩屋」、「麻生」、「宗像」は堅固であり、「立花」には桂元重、坂元祐、乃美宗勝が籠もり、団結して守っているので安心であると述べる。 |
| 251 | 蔦岳城（岳山城　宗像城　天正年間から） | 参考 | 建武1年1月 | | 歴代鎮西志／『大日本史料　6編1』P424 | | | 北条一族の規矩高政、帆柱城に拠り乱を起こす。宗像氏長、討伐に発するも敗退し「蔦嶽」に戻る。 |
| | | (1) | 永禄3年 | 第一宮御宝殿置札（天正6年6月1日） | 宗像大社蔵／『宗像市史　史料編2　中世2』583-1 | | | 「時節弥為社家安全、執付蘿山、三箇年之後、号岳山」 |
| | | (2) | （永禄5年）7月16日 | 毛利元就・同隆元連署条書 | 寄組山田家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P942 | （毛利元就）、（毛利隆元） | 市式（市川経好）、財満（財満忠久）、坂新（元祐） | 高橋鑑種が大友家から毛利家に寝返った事により、「橘（立花）」を始め、「宗像」「麻生」「門司城」まで毛利方の手に入った事を伝える。 |
| | | (3) | （永禄5年ヵ）8月10日 | 宗像氏貞書状写 | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』450 | （宗像）氏貞 | 寺内豊前守（秀郷）殿 | 「岳山」への「登城」・普請のことを申し付ける。 |
| | | 参考 | 永禄5年12月3日 | | 宗像軍記／『宗像市史　史料編2　中世2』453-4、『福岡県宗像郡誌　中』P710 | | | 宗像氏貞、蔦岳城を築き、居城を白山城より移す。 |
| | | (4) | （永禄12年）10月23日 | 立花親続書状写 | 無尽集79浦備前覚書3／『宗像市史　史料編2　中世2』520-2、『大日本史料10編3』 | 立花弥十郎親続 | 御在城各中御陣所 | 毛利勢の立花撤退に伴い、特に「蘿岳」は「急度一著之繰共候」。 |
| | | (5) | （永禄12年）11月3日 | 吉弘鑑理書状 | 無尽集79浦備前覚書3／『大宰府・太宰府天満宮史料15』P303、『大日本史料10編3』P600 | 吉弘左近太夫鑑理 | 浦兵部少輔殿、坂新五左衛門殿、桂美濃守殿 | 吉弘鑑理、立花籠城の毛利勢に「蘿岳」の破却を伝える。 |
| | | (6) | （永禄12年）11月18日 | 小早川隆景書状 | 稲田文書／『福岡市史　資料編　中世2』P47 | （小早川）隆景 | 隆重 | 「立花表」は要害堅固である事を述べる。また、九州については「宝満」、「岩屋」、「麻生」、「宗像」は堅固であり、「立花」には桂元重、坂元祐、乃美宗勝が籠もり、団結して守っているので安心であると述べる。 |
| | | (7) | 天正14年8月12日 | 小早川隆景書状 | 萩藩閥閲録102−1冷泉五郎26／『萩藩閥閲録』P212、『福岡市史　資料編　中世2』P724 | 小早川隆景 | 冷泉民部少輔（元満）殿 | 島津軍が宝満城近辺に陣を構えているが、こちらは「門司」の事に携わりながらその上で「宗像」・「立花」を堅固にしておくようにとの事。 |
| | | 参考 | | | 宗像記追考／『宗像市史　史料編2　中世2』453-3、『福岡県宗像郡誌　中』P526 | | | 蔦岳城の由来を記す。 |
| 259 | 大障子城（津瀬城） | (1) | （観応2年）9月21日 | 少弐直資挙状 | 由比文書7／『南北朝遺文　九州編3』3187、『九州中世史研究3』P397、『宗像市史　史料編2　中世2』370、『西国武士団関係史料14』P21 | 大宰少弐直資 | 進上　御奉行所 | 少弐直資、由比重富正雄の「宗像津瀬城」攻略における軍忠を吹挙する。 |
| 261 | 勝浦岳城 | (1) | （永禄5年）11月12日 | 宗像氏貞書状 | 寄組山田家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P945 | （宗像）氏貞 | 有田加賀守（経道）殿、山田民部丞（満重）殿 | 龍宮寺からの折紙、9日夜丑の刻に「勝浦陣」に到着する。 |
| | | (2) | （年未詳）2月28日 | 立花統虎・戸次道雪連署預ケ状写 | 児玉韞採集文書4-66（小金丸家蔵書并系図）／『大日本史料11-20』P238 | （立花）統虎、（戸次）道雪 | 唐傍新四郎殿 | 立花統虎・戸次道雪、唐傍新四郎・岡松勘解由允の鍋島長門守に従っての「勝村（浦ヵ岳」における在番等の軍忠を賞し、所領を預け置く。 |
| | | (3) | | | 児玉韞採集文書6-111（岡松氏蔵書）／『大日本史料11-20』P238 | （立花）統虎、（戸次）道雪 | 岡松勘解由允殿 | |
| 263 | 許斐岳城 | (1) | （享禄2年ヵ）10月2日 | 大内義隆書状写 | 占部文書／『宗像市史　史料編2　中世2』266-1、児玉韞採集文書3-45（上八占部氏蔵古文書） | （大内）義隆 | 占部壱岐守（重安）殿 | 大内義隆、占部重安に許斐岳城を与える。 |
| | | 参考 | | | 宗像記／『宗像市史　史料編2　中世2』266-2 | | | |
| | | 参考 | 天文23年 | | 宗像記　宗像記追考／『福岡県宗像郡誌　中』P554 | | | 立花鑑載・怒留湯融泉、許斐の城を攻め、麻生隆実・占部尚安は大島へ逃れる。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 263 | 許斐岳城 | (2) | (弘治2年)1月19日 | 宗像氏家臣連署奉書写 | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』364-1 | 寺内備後守尚秀、占部越後守賢安、許斐三河守氏任 | 占部右馬助(尚持)殿 | 天文24(弘治元)年、占部尚持が「許斐岳」を落とす |
| | | 参考 | 弘治1年9月 | 占部家計伝 | 占部文書／『宗像市史　史料編2　中世2』 | | | 占部尚安、鞍手郡古賀城から許斐岳に移る。 |
| | | 参考 | 弘治2年3月27日 | | 宗像記　宗像記追考／『福岡県宗像郡誌　中』P556 | | | 占部尚持、許斐城を夜襲し、奪還する。 |
| | | 参考 | 弘治3年4月18・19日 | | 宗像記　宗像記追考／『福岡県宗像郡誌　中』P557 | | | 占部尚安、許斐城に攻め来る大友勢を迎え撃つ。 |
| | | (3) | (弘治3年)5月29日 | 毛利隆元・元就連署感状 | 宗像記　宗像記追考／『福岡県宗像郡誌　中』P558 | (毛利)隆元、元就 | 占部甲斐殿 | 4月18・19日「許斐山」防戦の軍忠を賞す。 |
| | | 参考 | 弘治3年10月10日 | | 宗像記　宗像記追考／『福岡県宗像郡誌　中』P562 | | | 許斐氏任、宗像氏に叛し、占部尚持を許斐城に攻めて敗北する。 |
| | | (4) | (永禄1年)6月28日 | 大友義鎮書状写 | 大友文書録／『宗像市史　史料編2　中世2』385、『大分県先哲叢書　大友宗麟2』 | (大友)義鎮 | 麦生五郎三郎(鑑光)殿 | 「許斐城」に籠もる宗像氏貞を攻めるよう命じる。 |
| | | (5) | 永禄3年3月27日 | 第一宮御宝殿置札(天正6年6月1日) | 宗像大社蔵／『宗像市史　史料編2　中世2』414-6 | | | 宗像氏貞、大友勢が拠る「許斐要害」に夜襲をかけ奪還する。 |
| | | (6) | (永禄3年3～6月) | 宗像大宮司氏貞手負注文 | 宗像大社文書／『宗像大社文書1』166、『宗像市史　史料編2　中世2』414-1 | (宗像氏貞) | (毛利隆元) | 3月28日「許斐要害」攻めにおける軍忠を注進する。 |
| | | (7) | 永禄3年4月1日 | 宗像氏貞感状写 | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』414-3 | (宗像)氏貞 | 吉田和泉守(秀時)殿 | 3月28日「許斐要害」攻めの軍忠を賞す。 |
| | | (8) | | | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』414-2 | | 占部右馬助(尚持)殿 | 3月28日「許斐岳」攻めの軍忠を賞す。 |
| | | (9) | (永禄3年)6月28日 | 毛利隆元・元就連署感状写 | 占部文書／『宗像市史　史料編2　中世2』414-4 | (毛利)隆元、元就 | 占部右馬助(尚持)殿 | |
| | | (10) | | | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』414-5 | | 吉田和泉守(秀時)殿 | |
| | | 参考 | 永禄3年8月16日 | | 宗像記　宗像記追考／『福岡県宗像郡誌　中』P575 | | | 戸次鑑連ら、宗像氏貞の白山城・許斐岳城・「吉原の里城」を攻める。 |
| | | (11) | (永禄4年ヵ)8月23日 | 大友氏年寄連署状写 | 薦野文書／『福岡市史　資料編　中世1』P264 | (吉弘)鑑理、(田北)鑑生 | 薦野河内守殿 | 大友氏、去春、光明寺を以て宗像氏貞を討たせしむ。「許斐城」今に「相支候」。 |
| | | (12) | 永禄12年 | 第一宮御宝殿置札(天正6年6月1日) | 宗像大社蔵／『宗像市史　史料編2　中世2』513 | | | 毛利勢、筑前に陣替えし、許斐岳には家臣小笠原兵部大輔が在城する。 |
| | | (13) | (天正10年)4月26日 | 宗像氏貞書状写 | 無尽集／『宗像市史　史料編2　中世2』631 | (宗像)氏貞 | (小早川)隆景 | 天正9年11月14日、戸次道雪との合戦の翌日に「許斐岳取付、人数差籠候」。 |
| | | 参考 | 天正11年4月23日 | | 筑後柳河立花家譜、薦野家譜ほか／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P11 | | | 戸次道雪・立花統虎、「筑前許斐城」を攻め落とす。宗像氏貞は香春城へ逃れ、杉連並は降る。 |
| 264 | 吉原里城(許斐里城) | 参考 | 永禄3年8月16日 | | 宗像記　宗像記追考／『福岡県宗像郡誌　中』P575 | | | 戸次鑑連ら、宗像氏貞の白山城・許斐岳城・「吉原の里城」を攻める。 |
| | | (1) | (永禄3年)8月19日 | 宗像氏貞感状写 | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』427-5 | (宗像)氏貞 | 占部越後守殿 | 8月17日の大友勢による「里城」攻撃における防戦の軍忠を賞す。 |
| | | (2) | | | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』427-6 | | 占部甲斐守殿 | |
| | | (3) | 永禄3年8月20日 | | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』427-8 | | 占部宮若丸殿 | 8月17日の大友勢による「許斐要害里城」攻撃に対する防戦の軍忠を賞す。 |
| | | (4) | 永禄3年8月23日 | | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』427-10 | | 許斐安芸守殿 | |
| | | (5) | (永禄4年)3月20日 | | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』434-1 | | 占部甲斐守殿 | 立花・奴留湯勢の「吉原里城」攻撃における防戦の軍忠を賞す。 |
| | | (6) | | | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』434-2 | | 占部越後守殿 | |
| | | (7) | (永禄4年)閏3月1日 | 大友義鎮感状写 | 薦野文書、薦野家譜／『福岡市史　資料編　中世1』P265、『宗像市史　史料編2　中世2』435、『大分県先哲叢書　大友宗麟』 | (大友)義鎮 | 薦野弥十郎殿 | 3月14日の「許斐之里城」攻めにおける軍忠を賞す。 |
| | | (8) | (永禄12年)10月20日 | 宗像氏貞感状写 | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』518-1 | (宗像)氏貞 | 占部八郎殿 | 9月16日の大友勢による「吉原里城」攻撃における防戦の軍忠を賞す。 |
| | | (9) | (天正10・11年)3月18日 | 立花統虎・戸次道雪連署状 | 薦野文書7／『福岡市史　資料編　中世1』P250、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P227、『宗像市史　史料編2　中世2』 | (立花)統虎、(戸次)道雪 | 薦野三河守殿 | 3月16日の「吉原口防戦」の軍忠、および「四、五年以来」の忠節を賞す。 |
| | | (10) | | 立花統虎・戸次道雪連署状写 | 薦野文書50、薦野家譜／『福岡市史　資料編　中世1』P266、『宗像市史　史料編2　中世2』643-2 | | 薦野勘解由丞殿 | 3月16日の「吉原口防戦」の軍忠を賞す。 |
| 270 | 宮地岳城 | 参考 | 天正9年 | | 豊前覚書／『筑前博多史料豊前覚書』P30 | | | 立花勢が「宮司嶽」・「つくみ嶽」を落城させ、「番代」に鍋嶋飛騨守・大津留宗秀を置く。 |
| | | (1) | (天正10年)4月26日 | 宗像氏貞書状写 | 無尽集／『宗像市史　史料編2　中世2』631 | (宗像)氏貞 | (小早川)隆景 | 天正9年11月、宗像氏貞領分の「宮地岳」を立花勢が攻める。 |
| 273 | 飯盛城 | (1) | (永禄10年)9月13日 | 宗像氏貞感状 | 吉田ツヤ文書／『宗像市史　史料編2　中世2』485-1・2・3 | (宗像)氏貞 | 吉田和泉守殿 | 9月10日「飯盛山下」における、立花・怒留湯勢に対する防戦の軍忠を賞す。 |
| | | (2) | | | 米多比善治文書16／『宗像市史　史料編2　中世2』485-4、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P737、『福岡市史　資料編　中世1』P214 | | 米多比修理進殿 | |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 273 | 飯盛城 | (3) | (永禄10年)9月13日 | 宗像氏貞感状写 | 新撰宗像記考証／『宗像市史　史料編2　中世2』485-6 | | 吉田弾正忠殿 | 9月10日「飯盛山下」における、立花・怒留湯勢に対する防戦の軍忠を賞す。 |
| | | (4) | | | 児玉龝採集文書／『宗像市史　史料編2　中世2』485-8 | | 牧余三殿 | |
| | | (5) | 永禄10年9月13日 | | 児玉龝採集文書3-166(石松新五兵衛所持)／『宗像市史　史料編2　中世2』485-10 | | 石松但馬守殿 | |
| | | (6) | | | 児玉龝採集文書3-167(石松新五兵衛所 | | 石松玄蕃允殿 | |
| 283 | 高鳥居城 | 参考 | 永仁1年3月 | | 河津伝記／『福岡県宗像郡誌　上』P54 | | | 河津貞重、北条兼時に従い筑前に入り、高鳥居城を築いて「探題附庸ノ城」として守衛する。 |
| | | (1) | 文安元年6月13日 | 大内氏奉行人連署奉書 | 井原文書／『福岡市史　資料編　中世2』P49・52 | (杉)重伝(内藤)有貞(陶)盛政 | 井原次郎左衛門入道(道頼) | 筑前国糟屋郡篠栗2町を「高鳥居定城衆」の領地として宛う。 |
| | | (2) | 宝徳2年8月21日 | 大内氏奉行人連署奉書 | 井原文書1／『九州史学17』P54、『宗像市史　史料編2　中世2』110-1 | (吉田)秀澄、(内藤)道行 | 井原弥七殿 | 那珂郡幡差3町を、「高鳥居城料所」として宛う。 |
| | | (3) | 宝徳2年8月21日 | 仁保盛安施行状 | 井原文書2／『九州史学17』P54、『宗像市史　史料編2　中世2』110-2 | (仁保)盛安 | | |
| | | (4) | (長禄1年ヵ)3月3日 | 大内教弘感状 | 井原文書5／『九州史学17』P55、『宗像市史　史料編2　中世2』126 | (大内)教弘 | 井原安芸入道(宗全)殿 | 井原宗全の高鳥居「城誘」における奔走を賞す。 |
| | | (5) | (長禄1年ヵ)7月23日 | | 井原文書6／『九州史学17』P55、『宗像市史　史料編2　中世2』128 | | | |
| | | (6) | (長禄1年ヵ)8月28日 | | 井原文書7／『九州史学17』P55、『宗像市史　史料編2　中世2』129 | | | |
| | | (7) | 長禄2年11月25日 | 大内教弘安堵状 | 井原文書9／『九州史学17』P56、『宗像市史　史料編2　中世2』130 | (大内教弘) | 井原太郎(殿) | 「高鳥居城料所」の糟屋郡篠栗2町等を安堵する。 |
| | | (8) | (年未詳)3月12日 | 大内教弘書状 | 井原文書10／『九州史学17』P56、『宗像市史　史料編2　中世2』127 | (大内)教弘 | 高鳥居城衆中 | 「高鳥居城衆中」の上洛留守中の奔走を賞する。 |
| | | (9) | 文明10年10月4日 | | 正任記／『山口県史　中世編1』P333 | | | 大内政弘、「高鳥居城」の「披見」のため、久芳三川守吉清等5名を派遣する。 |
| | | (10) | 文明10年10月7日 | | 正任記／『山口県史　中世編1』P335 | | | 大内政弘、「高鳥居城」の「屏矢倉」を修築せんとする。 |
| | | (11) | 文明10年10月19日 | | 正任記／『山口県史　中世編1』P350 | | | 河津掃部允弘業、「高鳥居城誘」について、大内政弘を訪れる。 |
| | | (12) | 明応6年6月21日 | 大内義興下文 | 江口文書／『宗像市史　史料編2　中世2』 | (大内義興) | 河津掃部允弘業 | 河津弘業の子、与三光種・六郎、明応5年11月以来の「高鳥居城」在城を賞さる。 |
| | | (13) | 明応9年8月9日 | 大内氏奉行人連署奉書写 | 児玉龝採集文書1-148(岡部氏古文書) | 兵部丞、沙弥、木工助 | 岡部彦左衛門尉殿 | 明応7年11月～8年11月21日までの岡部彦左衛門尉の「高鳥居」在城を、神代貞綱が注進する。 |
| | | (14) | 永正5年1月5日 | 大村重成書状 | 大村家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P279 | 重成(大村) | 大村新四郎(家頼)殿 | 大内義興が筑前国に来た際は、家頼が「高鳥居城」に在城し奉公する事。 |
| | | (15) | (享禄2年)8月16日 | 杉興長家臣連署状 | 満盛院文書／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P299 | (鬼村)長直、(脇)長清、(沓屋)連祐 | 満盛院御同宿御中 | 守護代杉興長、「高鳥居」において天満宮領正覚寺の相論について沙汰する。 |
| | | (16) | (享禄2年)9月11日 | | 満盛院文書／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P300 | (鬼村)長直、(杉)長所、(沓屋)連祐 | | 守護代杉興長、「当御城」「守護所」において天満宮領正覚寺の相論について沙汰する。 |
| | | (17) | 天文20年11月4日 | 毛利房広吹挙状 | 石清水文書532／『大日本古文書4-2』 | (毛利)房広 | 毛利掃部丞(房継)殿 | 隅田藤次郎が「高鳥居御城番」を懇望する旨を吹挙する。 |
| | | (18) | 天文22年10月25日 | 大内氏奉行人連署状 | 米多比善治文書11／『福岡市史　資料編　中世1』P213、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P736 | (橋爪)鑑実、(青景)隆著、(陶)隆満 | 米多比修理進殿 | 米多比正兼を「高鳥居城衆」として「城番」させる。 |
| | | (19) | 天文23年1月28日 | 大内義長安堵状 | 井原文書27／『九州史学17』P58、『宗像市史　史料編2　中世2』359 | (大内義長) | (井原隠岐守) | 長禄2年11月25日安堵の旨(「高鳥居城料所」等)を安堵する。 |
| | | (20) | (年未詳)5月27日 | 大内氏奉行人連署状 | 井原文書15／『九州史学17』P56、『宗像市史　史料編2　中世2』309 | (杉)興国、(杉)興道、(杉)興重 | 杉豊後守(興運)殿 | 「当御城衆」井原彦太郎の継目について、御心得、珍重。 |
| | | 参考 | 弘治3年7月13日 | | 北肥戦誌／『北肥』P309 | | | 大友勢、「岩屋・若杉」を攻め落とす。 |
| | | (21) | (永禄5年)7月16日 | 毛利隆元・元就連署状 | 寄組山田家文書／『山口県史　史料編　中世3』P628、『大宰府・太宰府天満宮史料15』P146 | (毛利隆元、元就) | 市式(市川経好)・財新(財満忠久)・坂新(坂元祐) | 高橋鑑種の恩賞地と、「若杉・高鳥居」に在城する杉連緒の給地について指示する。 |
| | | (22) | (年未詳)9月3日 | 戸次道雪書状写 | 「士民ノ事蹟」柳立102-48／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P565 | (戸次)道雪 | 後藤市弥太殿 | 後藤市弥太、戸次道雪の「高鳥居」攻め合力のため当地に赴き、陣所などについて薦野増時の指南を得るよう指示を受ける。 |
| | | (23) | (年未詳)9月24日 | 大友宗麟感状 | 小田原文書／『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P87 | (大友)宗麟 | 田尻弾正忠殿 | 前2日の「高鳥居」における「敵取懸候刻」の軍忠を賞す。 |
| | | 参考 | 天正12年冬 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P743 | | | 筑後妙見城主星野親忠の息・星野鎮種・親種、島津氏に属し、高鳥居城を守衛する。 |
| | | 参考 | 天正14年8月24日 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P742 | | | 島津勢、星野鎮種・親種を若杉・高鳥居城に置き、筑前より撤退する。 |
| | | 参考 | 天正14年8月25日 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P744 | | | 立花統虎および中国勢、星野兄弟が守る高鳥居城を攻め落とす。 |
| | | (24) | (天正14年)8月27日 | 立花統虎感状 | 薦野文書9／『福岡市史　資料編　中世1』P251、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P227 | (立花)統虎 | 三河入道(立花賢貞)殿 | 8月25日の「高鳥居」攻めにおける軍忠を賞す。 |
| | | (25) | | | 薦野文書21／『福岡市史　資料編　中世1』P256、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P231 | | 薦野弥介(成家) | |
| | | (26) | | | 薦野文書22／『福岡市史　資料編　中世1』P256、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P231 | | | |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 283 | 高鳥居城 | (27) | (天正14年)8月27日 | 立花統虎感状 | 横山武雄資料／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P439、『福岡市史　資料編　中世1』P1113、『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P388 | (立花)統虎 | 横山弥三殿 | 8月25日の「高鳥居城」攻めにおける軍忠を賞す。 |
| | | (28) | | | 中牟田文書／『福岡市史　史料編　中世1』、『大宰府・太宰府天満宮史料16』P440、『柳川市史　史料編5　近世文書 | | 中牟田摂津守殿 | 8月25日の「高鳥居城」攻めにおける軍忠を賞す。 |
| | | (29) | | | 由布功家文書B46／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P377 | | 由布大炊助殿 | |
| | | (30) | | 立花統虎感状写 | 児玉韞採集文書3-177(中牟田与一所持)／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P441 | (立花)統虎 | 中牟田与兵衛殿 | 8月25日の「高鳥居」攻めにおける軍忠を賞す。 |
| | | (31) | | | 十時(正)文書／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P440、『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P656 | | 十時刑部少輔殿 | |
| | | (32) | | | 児玉韞採集文書3-177(中牟田与一所持)／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P442 | | 畑江掃部丞殿 | |
| | | (33) | | | 薦野文書67、児玉韞採集文書3-130(丹助大夫所持)／『福岡市史　資料編　中世1』P273、『大宰府・太宰府天満宮史料16』 | | 薦野勘解由丞殿 | |
| | | (34) | | | 児玉韞採集文書4-29(湯原村浦ノ谷甚作四郎助所持)／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P442 | | 小田三河守殿 | |
| | | (35) | | | 橋爪文書(檜垣文庫)／『福岡市史　資料編　中世1』P145、『大宰府・太宰府天満宮史料16』P443 | | 橋爪式部丞殿 | |
| | | (36) | | | 橋爪文書(檜垣文庫)／『福岡市史　資料編　中世1』P146、『大宰府・太宰府天満宮史料16』P443 | | | |
| | | (37) | | | 立花文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P321 | | 但馬守 | |
| | | (38) | | | 「士民ノ事蹟」柳立102-6／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P556 | | 次郎兵衛尉殿 | |
| | | (39) | | | 「士民ノ事蹟」柳立102-30／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P557 | | 立花進士丞殿 | |
| | | (40) | | | 大友家文書録／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P444 | | 松尾七郎殿 | |
| | | (41) | | | 大友家文書録／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P444 | | 但馬守殿 | |
| | | (42) | | 立花統虎知行宛行状 | 大友家文書録／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P444 | (立花)統虎 | 立花次郎兵衛尉殿 | 8月25日の「高鳥居之城」攻めにおける軍忠を賞す。 |
| | | (43) | | 立花統虎感状写 | 筑前町村書上帳所収文書／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P636 | | 安河内参介殿 | 8月25日の「高鳥居城」攻めにおける軍忠を賞す。 |
| | | (44) | | | 安東家史料15-35／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P441、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P18 | | 安東紀伊入道殿 | |
| | | (45) | | | 中牟田文書(黄薇古簡集)／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P445 | | 中牟田三河入道殿 | |
| | | (46) | | | 中牟田文書(黄薇古簡集)／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P445 | | 中牟田孫市郎殿 | 8月25日の「高鳥居」攻めにおける軍忠を賞す。 |
| | | (47) | | 立花統虎感状 | 備後吉皷家文書／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P445 | | 皷右京亮殿 | |
| | | (48) | (年不詳)8月27日 | | 『筑前町村書上帳』P662 | | 黒瀬連祐 | |
| | | (49) | (天正14年)8月28日 | 立花統虎感状写 | 隈部文書104／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P195 | | 宇野勘解由兵衛殿 | 8月25日の「高鳥居城」攻めにおける軍忠を賞す。 |
| | | (50) | | | 「士民ノ事蹟」柳立102-5／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P556 | | 次郎兵衛尉殿 | |
| | | (51) | (天正14年)9月1日 | 神田元忠書状 | 備後吉皷家文書／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P445 | 神惣四(神田)元忠 | 皷右京亮殿 | 立花衆の「高鳥居」攻めにおける軍忠を賞し、「御本陣」への注進を約す。 |
| | | (52) | (天正14年)9月2日 | 田原紹忍(親賢)書状 | 仲間文書／『福岡市史　資料編　中世2』 | (田原)紹忍 | | 島津方の高鳥居城を立花城から出撃して攻めた事を賞す。 |
| | | (53) | (天正14年)9月10日 | 豊臣秀吉書状 | 立花文書46／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P447、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P363 | (豊臣秀吉) | 立花左近将監(統虎)とのへ | 立花統虎、8月24日に退却する島津勢を追撃し、さらに「高鳥居」を攻め落とし、星野鎮胤・親胤を打ち取る。 |
| | | (54) | | | 立花文書40／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P448、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P360 | | 安国寺(恵瓊)、黒田勘解由(孝高)とのへ、宮木入道(堅甫)とのへ | 秀吉、立花統虎が「高鳥居城」を攻め落とし、「城主」星野鎮胤・親胤を打ち取ったこと等の軍忠に対し、「九州之一物」と賞す |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 283 | 高鳥居城 | (55) | | 豊臣秀吉書状写 | 薦野文書68／『福岡市史　資料編　中世1』P274 | | | 秀吉、立花統虎が「高鳥居城」を攻め落とし、「城主」星野鎮胤・親胤を打ち取ったこと等の軍忠に対し、「九州之一物」と賞す |
| | | (56) | (天正14年)9月15日 | 島津義弘書状 | 星野家文書／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P448 | 義珍(島津義弘) | 星野長虎殿 | 「若杉城」における星野鎮胤ほか一族の戦死を弔し、扶助を約す。 |
| | | (57) | | 新納忠元書状 | 星野家文書／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P449 | (新納)忠元 | 星野熊虎殿 | 8月25日の「若杉表」における星野鎮胤ほか一族の戦死を弔す。 |
| | | (58) | 天正14年9月21日 | 島津義久感状 | 星野家文書／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P450 | (島津)義久 | 星野(長虎丸)殿 | 「筑州若杉」における星野鎮胤兄弟戦死の軍忠を賞す。 |
| | | (59) | | 島津義久感状写 | 島津家文書／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P450 | (島津義久) | | |
| | | (60) | (天正14年)10月3日 | 豊臣秀吉書状写 | 立花文書117／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P386 | (豊臣秀吉) | 安国寺(恵瓊)、黒田勘解由(孝高)とのへ、宮木入道(堅甫)とのへ | 立花統虎の「星野もち候城」攻略、星野鎮胤・親胤討取り等の軍忠を賞す。 |
| | | (61) | | 豊臣秀吉書状写 | 立花文書118／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P451、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P387 | | 黒田勘解由(孝高)とのへ、宮木入道(堅甫)とのへ、安国寺(恵瓊) | **立花統虎の「高鳥居城」攻略、星野鎮胤・親胤討取り等の軍忠に対し、「九州之一物」と賞す。** |
| | | (62) | (天正14年)10月11日 | 豊臣秀吉書状 | 立花文書48／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P363 | | 立花左近将監とのへ | 立花統虎の「立花城」籠城・「高鳥居城」攻略等の軍忠を賞す。 |
| | | (63) | 天正14年9月21日 | 島津義久感状 | 小城藩士佐嘉差出古文書写／『福岡市史資料編　中世2』P284 | (島津)義久 | 星野殿 | 星野鎮胤兄弟が若杉城で戦死した事についてその忠勤を賞す。 |
| | | (64) | (年不明)9月15日 | 島津義珍(義弘)書状 | 小城藩士佐嘉差出古文書写／『福岡市史資料編　中世2』P284 | 義珍(島津義弘) | 星野長衛殿 | 星野鎮胤兄弟及びその一族が「若杉城」で戦死した事に感じ入り、今後は長衛を扶助する事を伝える。 |
| | | 参考 | (年月日未詳) | 道雪様御代戦死之人数 | 十時(吉)文書B8／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P659 | | | 「高鳥井城ニ而」。 |
| 285 | 飯盛山城(金出) | (1) | (嘉吉2年)8月19日 | 大内教弘書状写 | 萩藩閥閲録121-2周布吉兵衛123／『萩藩閥閲録3』P565 | (大内)教弘 | 山名(教清)殿 | 周布和兼の7月14日「筑前国金井出山」に着陣、17日「春日岳合戦」の軍忠を報じる。 |
| 291 | 下山田城 | (1) | (永禄12年)2月19日 | 小早川隆景・吉川元春連署状写 | 萩藩閥閲録108赤川勘兵衛34／『萩藩閥閲録3』P330 | (小早川)隆景、(吉川)元春 | 佐藤又右衛門尉(元実)殿 | 小早川隆景・吉川元春、「山田新城」に兵粮を差し籠める。 |
| 292 | 立花山城 | (1) | 康安2年11月日 | 門司親尚軍忠状 | 門司文書14／『南北朝遺文　九州編4』4435、『門司文書』P24 | (門司親尚) | (少弐冬資) | 「香椎・立花寺并宗像御在陣」等の軍忠を注進する。 |
| | | (2) | **貞治3年3月日** | | **門司文書17／『南北朝遺文　九州編4』**4530、『門司文書』P27 | | | 去々年の「橘・香椎両陣加納(金生)」に退いての合戦における軍忠を注進する。 |
| | | (3) | 貞治4年4月日 | | 門司文書18／『南北朝遺文　九州編4』4571、『門司文書』P29 | | (少弐冬資) | 「香椎・立花・金生合戦」における軍忠を注進する。 |
| | | (4) | 永享3年5月20日 | | 満済准后日記／『続群書類徒　補遺1　満済准后日記下』P246 | | | 4月29日、大内盛見、大友氏の「立花新城」を攻め落とす。 |
| | | (5) | 永享3年6月8日 | | 満済准后日記／『続群書類徒　補遺1　満済准后日記下』P252 | | | 室町幕府による大内・大友和睦の申し入れに対し、大内盛見、この度「筑前国立花城以下、大友知行所々要害悉追落了」、和睦しがたいことを述べる。 |
| | | (6) | (永享3年)7月8日 | 細川持之感状写 | 小早川家文書　小早川家証文321／『大日本古文書11-2』P183 | (細川)持之 | (小早川)竹原安芸入道殿 | 去月16日「立花城」における兵部少輔の軍忠を賞す。 |
| | | (7) | (永享3年)7月16日 | 細川持賢感状写 | 小早川家文書　小早川家証文322／『大日本古文書11-2』P184 | (細川)持賢 | | 「立花合戦」における兵部少輔の軍忠を賞す。 |
| | | (8) | 永享3年7月14日 | | 看聞御記／『続群書類従　補遺2　看聞御記上』P604 | | | 大内盛見が6月28日に自害の由伝わる。16日条「名将犬死」。 |
| | | 参考 | 文安1年 | | 歴代鎮西要略／『増補歴代鎮西要略　上』P310 | | | 大友親繁、大内氏より立花城を掠取する。 |
| | | 参考 | 文安2年8月 | | 歴代鎮西要略／『増補歴代鎮西要略　上』P311 | | | 大内教弘、立花城を攻め落とす。 |
| | | (9) | **永正16年12月1日** | **田原親述知行預ヶ状** | **入江文書／『福岡市史　資料編　中世2』**P64 | **(田原)親述** | **如法寺六郎(長永)殿** | **「立花」在城時にすぐに駆けつけて苦境に耐えた事を賞し、筑後国下三瀦郡内で公領20町を預ける。** |
| | | (10) | 永正17年2月12日 | 田原親述知行宛行状 | 足立悦雄文書／『福岡市史　資料編　中世2』P27 | (田原親述) | 足立藤次郎殿 | 「立花」在城時の戦功により豊後国安岐郷の内、田代弥二郎跡三貫文を与えられる。 |
| | | (11) | 永正17年2月14日 | 田原親述安堵状 | 足立悦雄文書／『福岡市史　資料編　中世2』P27 | (田原親述) | 足立勘解由尉殿 | 息子藤次郎が「立花城」で戦功を立てたので、豊後国安岐郷の本貫地を還付される。 |
| | | (12) | 永正17年2月22日 | 田原親述知行宛行状 | 足立悦雄文書／『福岡市史　資料編　中世2』P27 | (田原親述) | 足立藤次郎殿 | 長期間にわたる「立花」在城を賞す。 |
| | | (13) | (年未詳)5月21日 | 田原親董知行宛行状 | 足立悦雄文書／『福岡市史　資料編　中世2』P28 | (田原)親董 | 足立清兵衛尉殿 | 父佐渡入道が「立花城」にて親述と一緒に自害した事が評価され、清兵衛に豊後国等で領地が与えられる。 |
| | | (14) | (年未詳)3月20日 | 大友義長書状 | 岐部逸翁所蔵文書／『福岡市史　資料編中世2』P365 | (大友)義長 | 岐部〔五郎ヵ〕左衛門尉殿 | 立花城番を岐部五郎左衛門の親に依頼したところ、一人遣わすと約束したが、「筑後之儀」があってはたされなかった。重ねて岐部五郎左衛門に立花城番の派遣を催促する。 |
| | | (15) | 享禄5年9月19日 | 大内義隆感状写 | 麻生文書86／『筑前麻生文書』P106、『福岡市史　資料編　中世1』P548 | (大内義隆) | (麻生家重代ヵ) | 去15日の「立花里城」発向・合戦における軍忠を賞す。 |
| | | 参考 | 天文1年 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P200 | | | 少弐資元、岩屋城を攻めるも陶興房に敗れ立花城に逃れる。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 292 | 立花山城 | (16) | (天文2年ヵ)3月26日 | 黒川隆尚感状写 | 児玉韞採集文書3-163(石松新五兵衛所持)、『宗像市史　史料編2　中世2』280-3 | (黒川)隆尚(宗像正氏) | 石松修理進殿 | 去22日「立花要害」大手における軍忠を賞す。 |
| | | (17) | 天文2年4月5日 | 大内義隆感状写 | 防長風土記注進案／『宗像市史　史料編2　中世2』280-2 | (大内義隆) | 埴生雅楽丞殿 | 去月22日の「立花要(害)」攻口における軍忠を賞す。 |
| | | (18) | (天文2年ヵ)4月5日 | 大内義隆感状 | 宗像文書／『宗像市史　史料編2　中世2』281 | (大内)義隆 | 黒川刑部少輔(隆尚)殿 | 「立花之儀、連々調法之次第」の軍忠を賞す。 |
| | | (19) | (天文2年)4月5日 | 大内氏奉行人連署状 | 竹井文書／『宗像市史　史料編2　中世2』280-1、児玉韞採集文書3-6(遠賀郡手野村長所蔵文書) | (貫)武助、(杉)興重 | 温科弥左衛門尉殿 | 温科盛長、去月22日の「立花要害攻口」における軍忠を注進する。 |
| | | (20) | (天文2年)4月11日 | 宗盛賢書状 | 大永享禄之比御状幷書状之跡付／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P348 | (宗)盛賢 | 陶尾張入道(興房)殿 | 宗盛賢・盛廉、大内氏に「立花落城」を祝す。 |
| | | (21) | | | 大永享禄之比御状幷書状之跡付／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P349 | | 飯田石見守(興秀)殿 | |
| | | (22) | | 宗盛廉書状 | 大永享禄之比御状幷書状之跡付／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P349 | (宗)盛廉 | 陶(興房)殿 | |
| | | (23) | | | | | 杉三川守(興重)殿 | |
| | | (24) | | | | | 杉豊後守(興長)殿 | |
| | | (25) | 天文4年6月7日 | 大内氏奉行人連署奉書写 | 三苫重義資料／『福岡市史　資料編　中世1』P1097 | 丹後権守(吉見頼郷)、大蔵丞(宮川興綱)、三河前司(杉興重) | (欠) | 三苫房宣と三苫清宣、香椎宮三苫・公事両職について相論する。田原親述「立花要害忍取」の記述有り。 |
| | | (26) | (天文19年2月12日) | 大友義鑑条々置文 | 大友松野文書／『福岡市史　資料編　中世2』P275 | (大友義鑑) | | 「立花城」を取るかどうか、よくよく考える事。 |
| | | (27) | (年不明)3月5日 | 大友義鑒感状 | 古後文書／『福岡市史　資料編　中世2』 | (大友)義鑒 | 古後神四郎(清秀)殿 | 長期にわたる「立花城番」の辛労を労い、各自堅く守る事が肝要である事を伝える。 |
| | | (28) | (年不明)4月21日 | 大友義鑒感状 | 古後文書／『福岡市史　資料編　中世2』 | (田北)親員 | 古後神四郎(清秀)殿 | 「立花長々登城」についての辛労を労う。 |
| | | (29) | (永禄4年ヵ)7月29日 | 大友義鎮感状写 | 薦野文書／『福岡市史　資料編　中世1』P265、『大分県先哲叢書　大友宗麟2』 | (大友)義鎮 | 薦野弥十郎殿 | 去年「立花城難儀」における「籠城」・「勤番」の軍忠を賞す。 |
| | | (30) | (永禄4年ヵ)9月29日 | | 薦野文書／『福岡市史　資料編　中世1』P264、『大分県先哲叢書　大友宗麟2』 | | 薦野河内守殿 | 薦野河内守、「立花城」兵粮等に尽力し、その息弥十郎を「籠城」せしむ。大友義鎮、その軍忠を賞す。 |
| | | (31) | (永禄5年)7月16日 | 毛利元就・同隆元連署条書 | 寄組山田家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P942 | (毛利)元就、(毛利)隆元 | 市式(市川経好)、財新(財満忠久)、坂新(元祐) | 高橋鑑種が大友家から毛利家に寝返った事により、「橘(立花)」を始め、「宗像」「麻生」「門司城」まで毛利方の手に入った事を伝える。 |
| | | (32) | (永禄5年)11月12日 | 高橋鑑種書状 | 寄組山田家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P946 | (高橋)鑑種 | 有加(有田経道)、山民(山田満重) | 毛利氏に寝返った高橋鑑種は、大友宗麟に従う立花鑑載が「立花之儀」について申すことがあったが、早々に手切れを致すように申し遣わしたことを述べる。 |
| | | (33) | (永禄5年)11月13日 | 高橋鑑種書状 | 寄組山田家文書／『山口県史　史料編　中世3』P617 | (高橋)鑑種 | 有田加賀守(経道)殿、山田民部丞(満重)殿 | 「立花・安楽平・鷲岳」の事、「指儀」有るまじく候。 |
| | | (34) | | 高橋鑑種書状写 | 萩藩閥閲録31山田吉兵衛96／『萩藩閥閲録1』P755、『大宰府・太宰府天満宮史料15』P153 | | | |
| | | (35) | (永禄5年ヵ)11月18日 | 高橋鑑種書状 | 寄組山田家文書／『山口県史　史料編　中世3』P615 | | 有加(有田経道)、山民(山田満重) | 「赤司之城」の奪取と、「立花・安楽平」を攻略せんことを伝える。 |
| | | (36) | | 高橋鑑種書状写 | 萩藩閥閲録31山田吉兵衛91／『萩藩閥閲録1』P753、『大宰府・太宰府天満宮史料15』P155 | | | |
| | | (37) | 永禄6年10月29日 | 怒留湯融泉書状 | 三苫文書／『福岡市史　資料編　中世1』P1077、『香椎B遺跡　本文編』P366(349) | (怒留湯)融泉 | 三苫善次殿 | 三苫一族内の所領相論の裁決を「当城(立花城)」において申し渡す。 |
| | | 参考 | 永禄8(11ヵ)年春 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P398 | | | 立花勢楼山城主立花鑑載、高橋鑑種と同意して毛利氏に通じ、大友氏より離反する。7月立花城落城し、奴留湯主水允が城番となる。 |
| | | (38) | (永禄11ヵ)6月15日 | 戸次鑑連書状 | 今村家資料31／『柳川藩今村家寄贈品目録』、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P50 | (戸次)鑑連 | 庄崎備前入道殿 | |
| | | (39) | (永禄11ヵ)6月16日 | 吉弘鑑理書状 | 今村家資料30／『柳川藩今村家寄贈品目録』、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P50 | (吉弘)鑑理 | | 「立花御城」・「立花」における大和三介戦死の軍忠と、子息について取り計らいを依頼する。 |
| | | (40) | | 佐藤鎮辰書状 | 今村家資料32／『柳川藩今村家寄贈品目録』、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P51 | (佐藤)鎮辰 | | |
| | | (41) | | 吉弘鑑次書状 | 今村家資料33／『柳川藩今村家寄贈品目録』、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P51 | (吉弘)鑑次 | 昌林(庄崎備前入道) | |
| | | (42) | 永禄11年7月4日 | 大友宗麟軍忠披見状写 | 大友家文書録／『大分県先哲叢書　大友宗麟3』P211、『増補訂正編年大友史料22』225号 | (大友宗麟) | (麦生民部大輔) | 永禄11年7月4日の「立花城打崩」における、麦生民部大輔配下の手負注文に対する披見状。 |
| | | (43) | | 大友宗麟軍忠披見状 | 尊経閣文庫所蔵文書／『大分県先哲叢書　大友宗麟3』P212 | | 蒲池勘解由使(鑑広)殿 | 永禄11年7月4日の「立花城落去」における、蒲池鑑広配下の手負注文に対する披見状。 |
| | | (44) | | | 由布功家文書A25-1／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P354 | | (戸次鑑連) | 永禄11年7月4日の立花鑑載討伐における、「彼城(立花城)」落城時の、戸次鑑連配下の手負注文に対する披見状。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 292 | 立花山城 | (45) | | 某軍忠披見状写 | 小野文書(中世)51／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)P89、『大分県先哲叢書　大友宗麟3』P213 | (大友宗麟ヵ) | (戸次鑑連) | 同上。由布功家文書A25-1の写ヵ。 |
| | | (46) | (永禄11)7月9日 | 大友宗麟書状 | 立花文書22／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)P344、『大分県先哲叢書　大友宗麟3』P217 | (大友)宗麟 | 吉弘左近大夫(鑑理)殿、戸次伯耆守(鑑連)殿 | 前4日の「立花城落去」について軍忠を賞し、速やかなる「彼城普請等」を命じる。「彼山之事、於其堺者第一之儀候間、則時人数差籠、堅固可申付覚悟候」。 |
| | | (47) | (永禄11)7月16日 | 大友宗麟感状 | 今村家資料47／『柳川藩今村家寄贈品目録』、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P46、『大分県先哲叢書　大友宗麟3』P221 | | 大和孫次郎殿 | この度の「立花鑑載逆心」の際、「西城」における父左介戦死の軍忠を賞す。 |
| | | (48) | | | 怒留湯文書／『大分県先哲叢書　大友宗麟3』P221 | | 怒留湯主計允殿 | この度の「立花鑑載逆心」の際、「西城」防戦における軍忠を賞す。 |
| | | (49) | (永禄11年)7月23日 | 大友宗麟書状 | 立花文書11／『柳川市史　史料編　近世文書(前)』P340、『大分県先哲叢書　大友宗麟3』P222 | | 吉弘左近大夫(鑑理)殿、戸次伯耆守(鑑連)殿 | 吉弘鑑理・戸次鑑連による「立花」攻略、立花鑑載の討伐・「頸到来」を賞す。「彼山嶮難」。 |
| | | (50) | (永禄11年)7月28日 | | 立花文書12／『柳川市史　史料編　近世文書(前)』P341 | | | 吉弘鑑理・戸次鑑連に「立花城誘」を調わしめ、勤番に怒留湯融泉を派遣する。 |
| | | (51) | (永禄11年)8月7日 | 大友宗麟感状 | 立花文書14／『柳川市史　史料編　近世文書(前)』P341、『大分県先哲叢書　大友宗麟3』P232 | | 戸次伯耆守(鑑連)殿 | 戸次鑑連の「立花城」における立花鑑載等の討伐、「彼城」奪取の軍忠を賞す。 |
| | | (52) | | 大友宗麟感状写 | 井手家文書A1／『柳川市史　史料編　近世文書(前)』P30 | | | 同上。立花文書14の写。 |
| | | (53) | (永禄11年)9月15日 | 福原貞俊書状写 | 萩藩閥閲録92波多野源兵衛16／『萩藩閥閲録3』P28 | (福原)貞俊 | (岡就栄ヵ、財満忠久ヵ) | 毛利氏、安芸吉田より「立花表」へ鉄砲衆を派遣する。 |
| | | (54) | (永禄11年ヵ)9月16日 | 吉弘鑑理・戸次鑑連連署状 | 江藤文書／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P62 | (吉弘)鑑理、(戸次)鑑連 | 吉岡越前入道殿 | 「立花御城」に毛利勢が攻め寄せると4・5日以来風聞あり、日田在陣衆に秋月の「手当」の上、「立花」に加勢するよう要望する。 |
| | | (55) | 永禄11年9月21日 | 吉川元春感状写 | 萩藩閥閲録132飯田七郎右衛門14／『萩藩閥閲録3』P803 | (吉川)治部元春 | 飯田七郎右衛門尉(義武)殿 | 飯田義武の「立花表」における軍忠を賞す。 |
| | | (56) | (永禄11年)9月22日 | 毛利輝元書状 | 佐藤保介氏文書／『大日本史料10編1』P269・557 | (毛利)輝元 | (小早川)隆景、(福原)貞俊、(吉川)元春 | 「立花表」にて勝利すべきことを命ず。 |
| | | (57) | (永禄11年)9月23日 | 大友宗麟書状 | 立花文書20／『柳川市史　史料編　近世文書(前)』P343 | (大友)宗麟 | 吉弘左近大夫(鑑理)殿、戸次伯耆守(鑑連)殿 | 「城番」については筑後・筑前衆のうち「在城」する者へ「立花城督」の儀を申付けることを指示する。 |
| | | (58) | (永禄11年)10月6日 | 毛利輝元書状写 | 萩藩閥閲録37-1中川与右衛門16／『大日本史料10編1』P558、『萩藩閥閲録2』P18 | (毛利)輝元 | 赤穴右京亮(久清)殿 | 「立花表」における尽力を求める。「閥閲録」では永禄12年。 |
| | | (59) | (永禄11年)11月11日 | 毛利輝元感状写 | 毛利氏四代実録考証論断／『大日本史料10編1』P559 | | 江良愛童殿 | 「立花表」における軍忠を賞す。 |
| | | (60) | 永禄11年11月13日 | 毛利輝元感状写 | 萩藩閥閲録128吉井源左衛門3／『萩藩閥閲録3』P725、『大日本史料10編1』P559 | | 吉井平右衛門(元武)とのへ | 「立花表」における「警固舟」等の軍忠を賞す。 |
| | | (61) | | | 萩藩閥閲録132飯田七郎右衛門15／『萩藩閥閲録3』P803、『大日本史料10編1』 | | 飯田七郎右衛門尉(義武)とのへ | |
| | | 参考 | 永禄11年 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P404 | | | 大友氏、立花城番奴留湯以下の代として、田北民部少輔・田北刑部少輔・鶴原兵部少輔を入れ置く。 |
| | | (62) | (永禄12年)4月10日 | 毛利輝元書状写 | 萩藩閥閲録37-1中川与右衛門8／『萩藩閥閲録2』P16、『大日本史料10編2』P547 | (毛利)輝元 | 赤穴右京進(久清)殿 | 赤穴久清、毛利勢として「宗像表」から「立花」へ陣替えする。 |
| | | (63) | (永禄12年)4月17日 | 大友宗麟書状 | 一万田文書1／『福岡市史　資料編　中世2』P46 | (大友)宗麟 | 鷺原兵部少輔<br>宗像左馬進<br>一万田民部少輔 | 立花城の「番替」で登城する際は油断なく行う事を命じる。 |
| | | (64) | 永禄12年4月20日 | 小早川隆景・吉川元春連署状写 | 萩藩閥閲録108赤川勘兵衛30／『萩藩閥閲録3』P329 | (小早川)隆景、(吉川)元春 | 佐藤又右衛門尉(元実)殿 | 立花「城中」について「見懸」が多く、落城程ないことを伝える。 |
| | | (65) | (永禄12年)4月28日 | 毛利輝元書状写 | 萩藩閥閲録37-1中川与右衛門12／『萩藩閥閲録2』P17、『大日本史料10編2』P550 | (毛利)少輔太郎輝元 | 赤穴右京亮(久清)殿 | 赤穴久清、毛利勢として「立花表」近くに陣する。毛利輝元、4月27日に防府を発し、元就と共に立花城に向かう。 |
| | | (66) | (永禄12年)4月29日 | | 萩藩閥閲録36市川与三1／『萩藩閥閲録2』P11、『大日本史料10編2』P550 | (毛利)輝元 | 市川孫五郎殿　ほか11名 | 「立花近陣」における軍労を賞し、特に鉄砲について心懸肝要を説く。 |
| | | (67) | 永禄12年5月18日 | 大友宗麟軍忠披見状 | 立花文書32／『大日本史料10編2』P561、『柳川市史　史料編　近世文書(前)』P346 | (大友宗麟) | (戸次鑑連) | 戸次鑑連、5月18日の「立花表」「長尾岸涯」における防戦の軍忠を注進し、大友宗麟披見す。 |
| | | (68) | | | 問註所文書／『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P33、『西国武士団関係史料集32　問註所文書1』P19、大友家文書録／『大日本史料10編2』P568 | | (問註所善聴) | 問註所善聴ら、5月18日の「立花表」・「長尾切岸」における軍忠を注進し、大友宗麟披見す。 |
| | | (69) | | | 三池文書／『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P44 | | (三池鎮実) | |
| | | (70) | | | 田尻文書／『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P43 | | (田尻鑑種) | |
| | | (71) | | 大友宗麟軍忠披見状写 | 大友家文書録／『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P34、『大日本史料10編2』P568 | | (田北鑑忠) | |
| | | (72) | | 大友宗麟軍忠披見状写 | 五條文書／『五條家文書』P108、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P36、『大日本史料10編2』P565 | | (五條鎮定) | |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 292 | 立花山城 | (73) | 永禄12年5月18日 | 大友宗麟軍忠披見状写 | 大友家文書録／『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P35、『大日本史料10編2』P569 | (大友宗麟) | (麦生鑑光) | 「立花表」の「敵陣切岸」において戦死・負傷した問注所家の親類・被官を記載したもの。 |
| | (74) | | | 大友宗麟袖判問注所刑部入道合戦戦死手負注文 | 問注所文書／『福岡市史　資料編　中世2』P870 | | 問註所刑部入道殿 | |
| | (75) | (永禄12年)5月22日 | 大友宗麟感状 | 原田文書／『大日本史料10編2』P564、『大蔵姓原田氏編年史料』P228、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P45 | (大友)宗麟 | 原田新五郎殿 | 5月18日「立花表」における軍忠を賞す。 |
| | (76) | (永禄12年)5月23日 | | 大友興廃記／『大日本史料10編2』P565、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P46 | | 田北三郎兵衛殿 | |
| | (77) | | 大友宗麟感状写 | 大友家文書録／『大日本史料10編2』P569、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P46 | | 一万田民部少輔殿 | |
| | (78) | 永禄12年5月23日 | 深川隆道書状写 | 青柳種信関係資料、群書抄録／『宗像市史　史料編2　中世2』512-1、512-2 | 深川讃岐守隆道 | 深川三郎殿 | このたび小早川・吉川殿、「立花要害」に攻め寄せる。 |
| | (79) | 永禄12年5月30日 | 小早川隆景・吉川元春連署状 | 佐藤保介氏文書／『大日本史料10編2』P639、萩藩閥閲録108赤川勘兵衛26／『萩藩閥閲録3』P329 | (小早川)左隆景、(吉川)駿元春 | 佐藤又右衛門尉(元実)殿 | 吉川元春・小早川隆景、立花城を攻め落とす。立花「城衆」を助け置き、「要害」を受け取る。 |
| | 参考 | 永禄12年閏5月3日 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P431 | | | 毛利勢、立花城を攻め落とす。 |
| | (80) | (永禄12年)閏5月5日 | 毛利元秋書状写 | 萩藩閥閲録47南方九左衛門20／『大日本史料10編2』P658、『萩藩閥閲録2』P236 | (毛利)少輔十郎元秋 | 南方宮内少輔殿 | 毛利勢、「立花」を一昨日3日に攻め落とす。 |
| | (81) | | 大友宗麟書状 | 大坪文書／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P64、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P48 | (大友)宗麟 | 小田民部少輔殿 | 一昨日3日の「立花要害」における籠城衆の軍忠を賞す。 |
| | (82) | (永禄12年)閏5月21日 | 大友宗麟感状写 | 五條文書／『五條家文書』P109、『大日本史料10編2』P565、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P49 | | 五條(鎮定)殿 | 5月18日「立花表」における軍忠を賞す。 |
| | (83) | (永禄12年)閏5月22日 | | 大友家文書録／『大日本史料10編2』P567、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P50 | | 問註所刑部大輔(善聴)殿 | |
| | (84) | | | 大友家文書録／『大日本史料10編2』P570、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P51 | | 麦生民部大輔(鑑光)殿 | |
| | (85) | | | 大友家文書録／『大日本史料10編2』P570、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P52 | | 神山兵部少輔殿 | |
| | (86) | (永禄12年)閏5月28日 | 吉川元春鉄砲戦功注文 | 吉川家文書／『大日本史料10編2』P571 | (吉川)元春 | (毛利輝元、毛利元 | 5月18日「立花松尾表」・「立花水手」等における鉄砲射撃人数を注進する。 |
| | (87) | (永禄12年)6月5日 | 小早川隆景・吉川元春連署状 | 相良家文書／『大日本史料10編2』P661 | (小早川)隆景、(吉川)元春 | 相良殿 | 毛利勢、去4月16日に「立花」攻城を開始し、去閏5月3日に「立花要害」を攻め落とす。 |
| | (88) | (永禄12年)6月7日 | 小早川隆景書状写 | 萩藩閥閲録115-1湯原文左衛門28／『大日本史料10編2』P660、『萩藩閥閲録3』 | (小早川)隆景 | 湯原平次(元綱)殿 | 「立花」について去閏5月3日に「落城」したことを伝える。 |
| | (89) | (永禄12年)6月23日 | 大友宗麟(義鎮)書状 | 橋本文書／『福岡市史　資料編　中世2』 | 宗麟(大友義鎮) | (神主)宮大夫殿 | 5月18日に「立花表」の「敵陣切岸」において小物1人が奮戦して疵を負った事を賞す。 |
| | (90) | (永禄12年)7月2日 | 吉川元春・小早川隆景連署状 | 萩藩閥閲録39桂善左衛門14／『大日本史料10編2』P664、『萩藩閥閲録2』P69 | (吉川)元春、(小早川)隆景 | 藤右衛門尉(平佐就之)殿、内蔵丞(栗屋元種)殿 | 桂元将の「立花」における「搦検使」としての軍忠を賞す。 |
| | (91) | (永禄12年ヵ)8月9日 | 毛利輝元書状写 | 萩藩閥閲録85新山十郎左衛門16／『大日本史料10編2』P668、『萩藩閥閲録2』P880 | (毛利)てる元 | 三与三兵(三輪元徳)、山田兵右衛門(重棟)殿、新屋右衛門(実満)殿 | 「立花」へ兵粮船を出すことを命じる。 |
| | (92) | (永禄12年)8月13日 | 大友宗麟感状写 | 田原(精)文書3／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P629、『西国武士団関係史料集11　田原文書』P9、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P76 | (大友)宗麟 | 田原伝助殿 | 前5月18日「立花表」における軍忠を賞す。 |
| | (93) | (永禄12年)8月16日 | 大友宗麟感状 | 五條文書／『五條家文書』P111、『大日本史料10編2』P665、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P78 | | 五條(鎮定)殿 | 8月7日「立花表遠矢原」における軍忠を賞す。 |
| | (94) | (永禄12年)9月7日 | 毛利氏奉行人連署状写 | 萩藩閥閲録149多賀谷久兵衛6／『萩藩閥閲録4』P174、『大日本史料10編2』P388 | 栗屋掃部助元真、栗屋内蔵丞元種、国司右京亮元武 | 多賀谷孫太郎殿 | 毛利輝元、多賀谷春定に、坂元祐と共に「立花」在番を命じる。 |
| | (95) | (永禄12年)9月17日 | 毛利氏奉行人連署状写 | 萩藩閥閲録159河村文右衛門組9／『萩藩閥閲録4』P273、『大日本史料10編2』P388 | 国司右京亮元武、栗屋内蔵丞元種、栗屋掃部助元真 | 船越主計允殿　ほか8名 | 毛利輝元、坂元祐に「立花」を守らせ、船越主計允らを援軍に派遣する。 |
| | (96) | (永禄12年)10月9日 | 田北鑑益書状写 | 無尽集79浦備前覚書3／『大日本史料10編3』P597 | 田北民部少輔鑑益 | 立花各御中 | 田北鑑益、乃美宗勝ら立花城籠城の毛利勢に開城を勧める。 |
| | (97) | (永禄12年)10月17日 | 大友宗麟書状 | 梅野文書／『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P90 | (大友)宗麟 | 千手尾張守殿 | 大友宗麟、去15日「立花表」の毛利勢降参と、「笠木城於連緒城」その他所々放火の報を聞く。 |
| | (98) | (永禄12年)10月19日 | 小早川隆景書状写 | 毛利氏四代実録考証論断／『大日本史料10編2』P393 | (小早川)隆景 | 堀立壱岐守(直正)殿 | 「立花・宝満」の状況を尋ねる。 |
| | (99) | (永禄12年)10月23日 | 立花親続書状写 | 無尽集79浦備前覚書3／『大日本史料10編3』P598、『宗像市史　史料編2　中世2』 | 立花弥十郎親続 | 御在城各中 | 立花親続、乃美宗勝ら立花城籠城の毛利勢に「城内」を去渡すべきを勧める。 |
| | (100) | 永禄12年10月25日 | 毛利輝元書状写 | 萩藩閥閲録159河村文右衛門組4／『萩藩閥閲録4』P272 | (毛利)輝元 | 舟越淡路守殿 | 「立花之儀堅固之由」等を報じる。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 292 | 立花山城 | (101) | (永禄12年)10月25日 | 小早川隆景書状 | 船越家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P780 | 小早川(左衛門佐)隆景殿 | 舟越淡路守(通吉)殿<br>坂新五左衛門尉(元祐)殿代 | 坂元祐が立花城を堅固にして在城しているので安心である。 |
| | | (102) | (永禄12年)10月25日 | 大友宗麟書状 | 木下文書、児玉韞採集文書6-108(香椎木下氏蔵書)／『大宰府・太宰府天満宮史料15』P300、『福岡市史　資料編　中世1』P1、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P166、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P93 | (大友)宗麟 | 吉弘左近大夫(鑑理)殿・戸次伯耆守(鑑連)殿 | 大友宗麟、筑・肥への出陣を前に、吉弘鑑理・戸次鑑連より情勢を伺い、指示を出す。先日の「立花表不慮之儀」に対し、「遺恨旁」「立花城討捕」をはじめ平定が成れば、筑前国は支配下に入ること、毛利勢が「松尾・白岳即時取誘」、「向城」として「差籠」様子であることなど。 |
| | | (103) | (永禄12年)10月28日 | 吉弘鑑理書状写 | 無尽集79浦備前覚書3／『大日本史料10編3』P599、『宗像市史　史料編2　中世2』 | 吉弘左近太夫鑑理 | 立花勤番各御中 | 乃美宗勝ら立花城籠城の毛利勢に「御城」「指渡」を勧める。 |
| | | (104) | (永禄12年)11月3日 | | 無尽集79浦備前覚書3／『大日本史料10編3』P600、『宗像市史　史料編2　中世2』 | 吉弘左近太夫鑑理 | 浦兵部少輔殿、坂新五左衛門殿、桂美濃 | 立花城の毛利勢に、既に「中国豊筑」悉く大友氏に属し、徒に「御在城」有るべからず、として開城を勧める。 |
| | | (105) | (永禄12年)11月6日 | 田北鑑益書状写 | 無尽集79浦備前覚書3／『大日本史料10編3』P601 | 田北民部少輔鑑益 | 立花御在陣衆中 | 立花在城の毛利勢に対し、去夏頃大友勢が立花在城、毛利勢攻城の際、吉見正頼の計らいにより無事「下城」したことに応え、去15日毛利勢撤退後の「御在城」の貞心を賞し、助命等の取り計らいを申し入れる。 |
| | | (106) | | 毛利氏家臣連署状写 | 無尽集79浦備前覚書3／『大日本史料10編3』P602 | 桂美濃守・坂新五左衛門・浦兵 | 田北民部少輔殿 | 毛利勢、去夏「御下城」時の吉見正頼取り計らいについて忘却なきこと「尤」ながら、開城については拒否する。 |
| | | (107) | (永禄12年)11月13日 | 大友氏年寄連署状写 | 無尽集79浦備前覚書3／『大日本史料10編3』P603 | 吉弘左近太夫鑑理、臼杵越中守鑑速、戸次伯耆守鑑連 | 田北民部少輔殿 | 「立花」籠城の毛利勢について、下城した者については無事に送還することを誓う。 |
| | | (108) | | 田北鑑益書状写 | 無尽集79浦備前覚書3／『大日本史料10編3』P604 | 田北民部少輔鑑益 | 浦兵部丞殿、坂新五左衛門殿 | 毛利勢、開城の勧告に「御同心」する。 |
| | | (109) | (永禄12年)11月14日 | | 無尽集79浦備前覚書3／『大日本史料10編3』P604 | | 中屋市允殿、林平左衛門殿 | 毛利勢の「御下城」について調整する。 |
| | | (110) | (永禄12年)11月18日 | | 無尽集79浦備前覚書3／『大日本史料10編3』P605 | | 浦兵部丞殿、坂新五左衛門殿 | 毛利勢に明後日11月21日に「御下城」すべきを伝える。 |
| | | (111) | (永禄12年)11月18日 | 小早川隆景書状 | 稲田文書／『福岡市史　資料編　中世2』P47 | (小早川)隆景 | (天野)隆重 | 「立花表」は要害堅固である事を述べる。また、九州については「宝満」、「岩屋」、「麻生」、「宗像」は堅固であり、「立花」には桂元重、坂元祐、乃美宗勝が籠もり、団結して守っているので安心であると述べる。 |
| | | (112) | (永禄12年)11月21日 | 田北鑑益書状写 | 無尽集79浦備前覚書3／『大日本史料10編3』P606 | 田北民部少輔鑑益 | 秋月殿、毛利兵部少輔殿 | 「立花登城之芸州衆」、今日21日下城する。 |
| | | (113) | (永禄12年)11月23日 | 毛利氏奉行人連署状 | 萩藩閥閲録159河村文右衛門組8／『萩藩閥閲録4』P273、『大日本史料10編3』P608 | 乃美兵部丞宗勝、桂左衛門尉 | 船越主計允殿 | 立花御籠城」における軍忠を賞す。 |
| | | (114) | (永禄12年)12月15日 | 小早川隆景書状 | 麻生文書39／『筑前麻生文書』P44、『大日本史料10編3』P608、『福岡市史　資料編　中世1』P556 | (小早川)隆景 | 麻生摂津守殿 | この度の「立花城衆」撤退にあたっての麻生隆実の支援に謝意を述べる。 |
| | | (115) | (永禄12年12月ヵ) | 某(吉川元春ヵ)書状 | 麻生文書40／『筑前麻生文書』P45、『大日本史料10編3』P607、『福岡市史　資料編　中世1』P557 | (吉川元春ヵ) | (麻生隆実ヵ) | この度の「立花衆下城」における毛利氏への支援について。 |
| | | (116) | 永禄13年10月1日 | 毛利輝元書状 | 萩藩閥閲録165山代裁判神田六左衛門7／『萩藩閥閲録』P378、『福岡市史　資料編　中世2』P723 | (毛利)輝元 | 神田豊前守 | 息子の次郎三郎が去年「立花」において戦死した事の代償として周防国玖珂郡で25町2段半を与える。 |
| | | (117) | (元亀1年)5月22日 | 毛利元就感状 | 小早川家文書537／『大日本史料10編2』P393、『大日本古文書11-1』P529 | (毛利)元就 | 乃美兵部丞殿 | この度の「立花表諸国衆取退之時」において、坂元祐と共に籠城の軍忠を賞す。 |
| | | (118) | (元亀1年)9月19日 | 毛利輝元感状写 | 萩藩閥閲録80岡吉左衛門14／『萩藩閥閲録2』P790、『大日本史料10編2』P675 | (毛利)輝元 | 岡又十郎(元良)殿 | 去年以来の在陣と「立花」における軍忠を賞す。 |
| | | (119) | (元亀1年)9月23日 | 大友宗麟感状写 | 薦野文書／『福岡市史　資料編　中世1』P265、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P87 | (大友)宗麟 | 薦野弥十郎殿 | 去年以来の「立花」在城の軍忠を賞す。 |
| | | (120) | 永禄13(元亀1)年10月11日 | 毛利氏奉行人連署状写 | 毛利氏四代実録考証論断／『大日本史料10編2』P394 | 白井弥四郎長胤ほか5名 | 中山宗左衛門(宣直)殿 | 毛利輝元、中山宣直の「立花表御執退」時に「立花御城」籠城の軍忠を賞す |
| | | (121) | **元亀元年12月18日** | **毛利輝元書状** | **萩藩閥閲録145飯田友之助4**『萩藩閥閲録4』P97、『福岡市史　資料編　中世2』P723、724 | **(毛利)輝元** | **菅田所** | 菅田三郎左衛門が去年「立花」で用立った(討死)ことについて申し遣わす。 |
| | | (122) | (元亀2年)7月13日 | 大友宗麟書状 | 吉弘文書／『大日本史料10編6』P640、『柳川市史　史料編　近世文書(後)』P400、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P225 | (大友)宗麟 | 吉弘新介入道(宗鳳)殿 | 戸次鑑連を「立花西城督」とし、吉弘宗鳳に城の引き渡しを命じる |
| | | (123) | (年不詳)9月30日 | 大友宗麟(義鎮)書状 | 宗家御判物写／『福岡市史　資料編　中世2』P534 | (大友)宗麟 | | 「立花城」に敵が攻めてきた際に高橋方の清藤尾張を討ち取り、負傷した事を忠義であるとして、これを賞す。 |
| | | (124) | (元亀2年)7月29日 | 戸次鑑連書状 | 三苫文書／『大日本史料10編6』P640、『福岡市史　資料編　中世1』P1080、『香椎B遺跡　本編』P369(346) | (戸次)鑑連 | 三苫式部少輔殿、勧進坊、大宮司殿 | 戸次鑑連、「立花西御城督」として立花城に入り、香椎宮社家衆より祝儀を受ける。 |
| | | (125) | 元亀(2・3)年1月8日 | 毛利輝元感状写 | 萩藩閥閲録132飯田七郎右衛門16／『萩藩閥閲録3』P803 | (毛利)輝元 | 飯田弥七郎(元著)殿 | 「立花麓浦」における軍忠を賞す。 |
| | | (126) | (年不詳)9月8日 | 毛利輝元書状 | 毛利家文庫譜録所収文書／『福岡市史　資料編　中世2』P858 | (毛利)輝元 | 林藤右衛門尉殿 | 坂新五左衛門、「立花加番」として籠城する。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 292 | 立花山城 | (127) | (年不詳)2月3日 | 大友宗麟書状 | 田原文書／『福岡市史　資料編　中世2』P611 | (大友)宗麟 | 田原彦五郎殿 | 大友宗麟が田原彦五郎に、怒留湯長門入道を同心させ、立花城に在城して世話をし、その軍労にも感じ入っていることを伝える。 |
| | | (128) | 元亀4年10月2日 | 小早川隆景感状写 | 萩藩閥閲録11-2浦図書89／『萩藩閥閲録1』P285、『大日本史料10-2』P395、『福岡市史　資料編　中世1』P323 | (小早川)隆景 | 井上又右衛門尉(春忠)殿 | 永禄12年10月15日夜の「立花陣」撤退時における軍忠を賞す。 |
| | | (129) | (年未詳)4月27日 | 戸次鑑連感状写 | 高野文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P313 | (戸次)鑑連 | 高野大膳允殿 | この度の「立花表合戦」における軍忠を賞す。 |
| | | (130) | (年未詳)9月1日 | | 今村家文書(文化史57)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P56 | | 大和鸞寿丸殿 | 「立花御城子」について、前々の如く申し談ずべきとし、所領について保証する。 |
| | | (131) | (天正1年ヵ)8月1日 | 戸次道雪書状写 | 太田文書／『大日本史料10編21』P278 | (戸次)道雪 | 安東(舎人允) | 戸次鑑連、大友宗麟より「石火矢」2挺を授かり、運搬について調整する。 |
| | | (132) | (天正1年ヵ)8月4日 | 戸次道雪書状 | 太田文書／『大日本史料10編21』P279、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』 | | 安東舎人允殿 | |
| | | (133) | 天正2年3月 | | 豊前覚書／『大日本史料10編21』P277 | | | 「大石火矢」2挺、立花城に入る。 |
| | | (134) | 天正3年4月3日 | 堀立直正書状写 | 堀立氏証文写／『大宰府・太宰府天満宮史料15』P376 | 堀立壱岐守直正 | 国司右京亮殿、児玉三郎右衛門尉殿 | 「立花」撤退時の「若松」における軍忠について、毛利輝元への軍忠披露を依頼する。 |
| | | (135) | (天正3年)5月10日 | 大友義統・宗麟連署状 | 立花文書15／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P342、『大分県先哲叢書　大友宗麟5』P12 | (大友)義統、宗麟 | 戸次伯耆守入道(道雪)殿 | 「立花城家督」について、戸次鎮連の子息より人選し、成人するまでは鎮連も「在城勤番」すべき事を伝える。「当城之事…倍堅固之格護不及申」。 |
| | | (136) | | | 立花文書28／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P345、『大分県先哲叢書　大友宗麟5』P13 | | 戸次左近大夫(鎮連)殿 | 「立花城家督」について、戸次鎮連の子息より人選し、成人するまでは鎮連も「在城」すべき事を伝える。 |
| | | (137) | 天正3年5月28日 | 戸次道雪譲状写 | 立花文書35／『大宰府・太宰府天満宮史料15』P192、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P358 | 戸次伯耆守入道道雪 | きんちよ女 | 「立花東西松尾白岳御城督并御城領」等を譲り渡す。 |
| | | (138) | (天正3年)6月18日 | 大友義統・宗麟連署状 | 立花文書16／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P342、『大分県先哲叢書　大友宗麟5』P15 | (大友)義統、宗麟 | 麟白軒(戸次道雪) | 戸次道雪の「閏千代譲状」を承認する。「殊当城置物等警固被申与」。 |
| | | (139) | 天正4年8月18日 | 小田部統房知行宛行状写 | 児玉轡採集文書3-178(木原佐次右衛門所持) | (小田部)統房 | 善知 | 「白岳籠城」の軍忠を賞し、早良郡に知行を与える。 |
| | | (140) | (天正7年ヵ)5月1日 | 大友義統感状 | 米多比善治文書18／『福岡市史　資料編　中世1』P215、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P737 | (大友)義統 | 米多比弾介殿 | 「立花」在城の軍忠を賞す。 |
| | | (141) | | | 小野文書(中世)48、檜垣文庫資料(写)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)P89、『福岡市史　資料編　中世1』P100 | | 小野和泉守(鎮幸)殿 | |
| | | (142) | | | 今村家資料41／『柳川藩今村家寄贈品目録』、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P49 | | 大和孫次郎(統安)殿 | |
| | | (143) | | 大友義統感状写 | 中村文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P305 | | 実相院 | |
| | | (144) | | | 桜井文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P303 | | 桜井中務少輔殿 | |
| | | (145) | (天正8年ヵ)2月2日 | | 田原(精)文書9／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P629 | | 田原亀寿殿 | |
| | | (146) | | 大友義統感状 | 今村家資料42／『柳川藩今村家寄贈品目録』、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P49 | (大友)義統 | 大和孫次郎(統安)殿 | |
| | | (147) | | | 米多比家文書7-7／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P744 | | 米多比五郎次郎殿 | 「立花」在城・「生松原合戦」等の軍忠を賞す。 |
| | | (148) | | | 米多比善治文書19／『福岡市史　資料編　中世1』P215、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P738 | | 米多比弾介殿 | |
| | | (149) | | 大友義統感状写 | 薦野文書／『福岡市史　資料編　中世1』P266 | | 薦野勘解由丞(親次ヵ)殿 | |
| | | (150) | (天正8年ヵ)2月3日 | 大友義統感状 | 薦野文書17／『福岡市史　資料編　中世1』P254、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』229 | | 薦野弥介(成家)殿 | |
| | | (151) | (天正8年ヵ)7月25日 | 大友義統書状写 | 児玉轡採集文書1-61(小田部家古文書) | (大友)義統 | 小田部源次郎(統房)殿 | 小田部統房、「安楽平」を「下城」して「立花表」に滞在し、戸次道雪の指揮下に属す。 |
| | | (152) | (天正8年)11月27日 | 大友義統感状写 | 児玉轡採集文書7-97・129(是松氏所蔵) | | 是松中務尉殿 | 去々年よりの「好士岳」籠城、去冬以来「立花」在城等の軍忠を賞す。 |
| | | (153) | (天正8年)11月28日 | 大友義統感状 | 田原(精)文書13／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P629 | | 田原亀寿殿 | |
| | | (154) | | | 三苫重義資料43／『福岡市史　資料編　中世1』P1090、『香椎B遺跡　本編』P376 | | 三苫宮内少輔殿 | |
| | | (155) | | | 今村家資料40／『柳川藩今村家寄贈品目録』、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P49 | | 大和孫次郎(統安)殿 | |
| | | (156) | (天正9年)2月2日 | 大友義統感状 | 今村家資料／『福岡市史　資料編　中世2』P56 | (大友)義統 | 大和孫次郎(統安)殿 | 「立花」在城に関わる軍労を賞し、急きょ豊後国日田へ進軍するので忠勤に励む事を伝える。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 292 | 立花山城 | (157) | (天正9年)4月12日 | 大友円斎書状 | 問註所文書／『大宰府・太宰府天満宮史料15』P490、『大分県先哲叢書　大友宗麟5』P147 | 円斎(大友宗麟) | 問註所刑部少輔(統景)殿 | 「立花・宝満」について申し談ず。 |
| | | (158) | (天正9年ヵ)5月19日 | 戸次道雪預ケ状 | 薦野文書19／『大日本史料11-20』P226、『福岡市史　資料編　中世1』P255、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P230 | (戸次)道雪 | 薦野弥介殿 | 「愚老登城」以来の忠義を賞し、土地を預ける。 |
| | | (159) | (天正9年)9月9日 | 大友円斎書状 | 問註所文書／『大宰府・太宰府天満宮史料15』P504、『西国武士団関係史料集32　問註所文書1』P41、『大分県先哲叢書　大友宗麟5』P151 | 円斎(大友宗麟) | 問註所刑部少輔(統景)殿 | 「立花・宝満」より大友義統の陣替え要請があること等を伝える。 |
| | | (160) | (年不詳)10月7日 | 大友円斎(義鎮)書状 | 問注所文書／『福岡市史　資料編　中世2』P871 | 円斎(大友宗麟) | 問註所刑部少輔殿 | 「立花・宝満」について申し談ず。 |
| | | (161) | (年不詳)5月1日 | 大友義統感状 | 今村家資料／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P49／『福岡市史　資料編　中世2』P56 | (大友)義統 | 大和孫次郎(統信)殿 | 「立花」在城を賞す。 |
| | | (162) | (天正11年)6月24日 | 大友義統感状 | 青木益治文書／『福岡市史　資料編　中世2』P7 | (大友)義統 | 青木対馬守(鑑学)殿 | 「松尾南表」に在城している青木対馬守を賞し、出陣に際しては道雪の下知に任せる事と伝える。 |
| | | (163) | (天正11年)12月9日 | 大友義統感状 | 青木益治文書／『福岡市史　資料編　中世2』P7 | (大友)義統 | 青木対馬守(鑑学)殿 | 「松尾南表」に在城している青木対馬守を賞す。 |
| | | (164) | 天正11年12月18日 | ルイス・フロイス書翰写 | イエズス会日本年報／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P24 | (ルイス・フロイス) | (アレッサンドロ・バリニヤノ) | 大友氏の領する「Fima(宝満ヵ)」・「Tachibana(立花)」の城の守将、秋月種実に対し謀略を図る |
| | | (165) | (天正12年ヵ)6月4日 | 大友義統知行預ケ状写 | 桜井文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P303 | (大友)義統 | 桜井中務丞殿 | 近年の「立花」在城等の軍忠を賞し、志摩郡に知行を預け置く。 |
| | | (166) | (天正12年)6月4日 | 大友義統感状 | 佐田家文書C5／『大日本史料11編7』P347、『柳川市史　史料編5　近世文書 | | 新田掃部助(鎮実)殿 | 近年の「立花」在城等の軍忠を賞す。 |
| | | (167) | (年未詳)2月3日 | | 佐田家文書C7／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P249 | | 新田掃部助(鎮実)殿 | 近年の戸次道雪に従っての軍忠を賞し、「立花城統虎連続」について忠勤の肝要を説く。 |
| | | (168) | | | 吉田家文書11-7-1／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P394 | | 吉田右京亮殿 | |
| | | (169) | | 大友義統感状写 | 隈部文書105-3／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P196 | | 宇野但馬入道殿 | 近年の軍忠を賞し、「立花城」の「統虎連続」について忠勤の肝要を説く。 |
| | | (170) | | | 木付文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P317 | | 是久中務少輔殿 | 近年の軍忠を賞し、「立花城」の「統虎連続」について忠勤の肝要を説く。 |
| | | (171) | (天正12年)6月24日 | 大友義統書状 | 某氏所蔵文書／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P42 | | 立花弾正忠殿　ほか30名 | 立花城衆に対し、「岩屋城火事」以来「宝満表」を始め、戸次道雪に従っての軍忠を賞す |
| | | (172) | | 大友義統書状写 | 立花文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P319 | | 立花弾正忠ヨリ立花右衛門大夫ニ至ル卅一名宛 | 同上。6月24日付某氏所蔵文書の写。 |
| | | (173) | (天正12年6月24日) | つほね消息 | 某氏所蔵文書／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P44 | つほね | たち花しんるい衆 | 大友義統つほね、立花親類衆に対し、「いハやの城火事」以来「ほうまん表」における軍忠を賞し、「むね虎」の事、「道せつけいやく」の上は、「ほうまん」へ心を添えるべきを伝える。 |
| | | (174) | | つほね消息写 | 立花文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P320 | | | 同上。(6月24日)付某氏所蔵文書の写。 |
| | | (175) | (天正12年)6月24日 | 大友義統書状 | 薦野文書13・薦野家譜／『福岡市史　資料編　中世1』P252、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P228、『大宰府・太宰府天満宮史料16』P49 | (大友)義統 | 薦野三河守(増時)殿 | 近年「立花」滞在を賞し、来18日の出勢を伝える。 |
| | | (176) | | | 米多比家文書7-3／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P46、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P743 | | 米多比新蔵人(鎮久)殿 | |
| | | (177) | (天正12年)6月28日 | 大友義統書状写 | 児玉龝採集文書1-62(小田部家古文書)／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P46 | | 小田部源次郎(統房)殿 | |
| | | (178) | (天正12年)6月晦日 | 戸次道雪書状写 | 薦野文書54、薦野家譜／『福岡市史　資料編　中世1』P267、『大宰府・太宰府天満宮史料16』P47 | 麟白軒(戸次)道雪 | (薦野)増時 | 「宝満」にも一昨日指し遣わす由云々。我らも「白岳」普請のため明日朔日は「白岳」に在城の覚悟 |
| | | (179) | (天正12年)9月14日 | 大友義統感状写 | 薦野文書58／『福岡市史　資料編　中世1』P270 | (大友)義統 | 薦野三河守(増時)殿 | 戸次道雪・高橋紹運の黒木表出陣に際し、薦野増時、「立花城番」として立花統虎に添え置かれる。 |
| | | (180) | (年未詳)1月16日 | 大友義統知行預ケ状写 | 松村家文書21／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P240 | | 板井左右介殿 | 先年「立花・岩屋難儀之刻」、使者として渡海等の働きを賞し、知行を預け置く。 |
| | | (181) | (年未詳)9月11日 | 戸次道雪書状写 | 木付文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P318、『大日本史料11-20』P246 | (道)雪 | (木付鑑)実 | 木付鑑実、9月13日に立花城に「登城」する。 |
| | | (182) | (年未詳)9月12日 | | 木付文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P319、『大日本史料11-20』P247 | | | |
| | | (183) | (年未詳)12月8日 | 大友義統感状写 | 中村文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P304 | (大友)義統 | 実相院 | 「立花」在城以来の軍忠を賞す。 |
| | | (184) | | | 由布文書／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P350 | | | |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 292 | 立花山城 | (185) | (年未詳)12月8日 | 大友義統感状写 | 木付文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史 史料編5 近世文書(前)』P317 | (大友)義統 | 是久上総介殿 | 「立花」在城以来の軍忠を賞す。 |
| | | (186) | (年未詳)4月29日 | 大友義統感状写 | 河北文書／『福岡市史 資料編 中世2』P345 | | 財津讃岐入道(龍閑)殿・坂本備中入道(道列)殿 | 立花城と宝満城が「成行」ことを伝える(天正13年、高橋紹運の長男統虎が戸次道雪の養子として立花城主となり、次男の統増が宝満城に入城したことと関わるか)。 |
| | | (187) | (年未詳)11月28日 | 大友義統書状 | 宗家御判物写／『福岡市史 資料編 中世2』P534 | | 福有備後守殿 | 去年の冬より「立花」に在城し、その戦い振りを賞す。 |
| | | (188) | (天正13年)2月16日 | 大友義統感状 | 青木益治文書／『福岡市史 資料編 中世2』P8 | | 青木掃部助殿 | 去年筑後国黒木に戸次道雪が進軍した際に立花城に在番していた青木掃部助に対し今後も油断無く在番を勤めるよう伝える。 |
| | | (189) | (天正14年)2月3日 | 大友義統書状 | 木下文書／『福岡市史 資料編 中世1』P2、『柳川市史 史料編5 近世文書(前)』 | | 木下民部丞殿 | 去年「道雪死去」のため「立花城督」の立花統虎相続を伝え、貞心を励むべきを命ず。 |
| | | (190) | | | 御田文書／『福岡市史 資料編 中世1』P504 | | 香椎宮大宮司殿 | |
| | | (191) | | | 香椎宮社家古文書写／『福岡市史 資料編 中世2』P291 | | 香椎宮大宮司殿(竹内氏永) | |
| | | (192) | (天正14年)8月12日 | 小早川隆景書状 | 萩藩閥閲録102−1冷泉五郎26／『萩藩閥閲録』P212、『福岡市史 資料編 中世2』P724 | 小早川隆景 | 冷泉民部少輔(元満)殿 | 島津軍が宝満城近辺に陣を構えているが、こちらは「門司」の事に携わりながらその上で「宗像」・「立花」を堅固にしておくようにとの事。 |
| | | (193) | (天正14年)8月14日 | 豊臣秀吉書状 | 黒田家文書61／『黒田家文書1 本編』P142、『福岡市史 資料編 中世1』P694 | (豊臣秀吉) | 安国寺(恵瓊)、黒田勘解由(孝高)とのへ、宮木入道(堅甫) | 「立花」よりの書状披見、小早川隆景に兵粮・玉薬の補給を命じる。安国寺恵瓊・黒田孝高・宮木堅甫に対し、急ぎ「立花」への援軍を命じる。 |
| | | (194) | 天正14年9月2日 | 毛利輝元感状写 | 横山武雄資料／『福岡市史 資料編 中世1』P1114 | (毛利)輝元 | 横山弥三とのへ | 毛利輝元、「立花籠城」の加勢として横山弥三を派遣し、その軍忠を賞し備中に所領を与える。 |
| | | (195) | (天正14年)9月4日 | 豊臣秀吉朱印状 | 黒田家文書192／『黒田家文書1 本編』P406、『福岡市史 資料編 中世1』P695 | (豊臣秀吉) | 安国寺(恵瓊)、黒田勘解由(孝高)とのへ | 島津勢撤退の報を受け、「立花其外城々」の普請や軍勢・兵粮・玉薬等の補給を命じる。 |
| | | (196) | (天正14年)9月10日 | 豊臣秀吉書状 | 立花文書46／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P447、『柳川市史 史料編5 近世文書(前)』P363 | | 立花左近将監とのへ | 立花統虎の「立花城」籠城・「高鳥居」攻略等の軍忠を賞す。 |
| | | (197) | (天正14年)10月3日 | 豊臣秀吉書状写 | 立花文書117／『柳川市史 史料編5 近世文書(前)』P386 | | 安国寺(恵瓊)、黒田勘解由(孝高)とのへ、宮木入道(堅甫)とのへ | 立花統虎の「立花」を打ち出でて高鳥居城を攻略、星野鎮胤・親胤討取り等の軍忠を賞す。 |
| | | (198) | (天正14年)10月11日 | 豊臣秀吉書状 | 立花文書48／『柳川市史 史料編5 近世文書(前)』P363 | | 立花左近将監とのへ | 立花統虎の「立花城」籠城・「高鳥居城」攻略等の軍忠を賞す。 |
| | | (199) | (天正15年)7月24日 | 小早川隆景書状 | 寄組村上家文書／『萩藩閥閲録』巻22ノ2、第1巻P585／『福岡市史 資料編 中世2』P939 | (小早川)左衛門佐隆景 | (村上)武吉・元吉 | 「立花普請取乱」の状況にある事を察してもらいたい。 |
| | | (200) | (天正15年)9月8日 | 豊臣秀吉書状 | 小早川家文書494／『大日本古文書11-1』P466、『福岡市史 資料編 中世2』P422 | 豊臣秀吉) | 小早川左衛門佐とのへ | 肥後国一揆に際し、毛利輝元を「立花城」まで出馬させる意向を伝える。 |
| | | (201) | | | 鍋島家文書7／『佐賀県史料集成 古文書編3』P270 | | 鍋嶋飛騨守とのへ | |
| | | (202) | | 豊臣秀吉朱印状写 | 萩藩閥閲録32口羽衛士27／『萩藩閥閲録1』P764 | | 安国寺(恵瓊) | |
| | | (203) | | | 筑紫古文書／史料綜覧11編912冊179頁 | | 立花左近将監とのへ、筑紫左馬頭とのへ | |
| | | (204) | 天正16(ママ)年1月15日 | 亀松知行預ケ状写 | 由布文書1-1-11／『柳川市史 史料編5 近世文書(後)』P339 | (戸次)亀松 | 由布孫六殿 | この度の「立花逗留」を賞し、知行を預け置く。 |
| 297 | 白水城(天浦城) | 参考 | | 筑紫氏所領城数覚 | 筑紫文書／『九州史料落穂集7』P58、『福岡市史 資料編 中世1』P992 | | | 筑紫広門代の城(那賀郡之内)に「白水ノ城 筑紫良甫」。 |
| 299 | 新城山城(隈本ノ城) | 参考 | | 筑紫氏所領城数覚 | 筑紫文書／『九州史料落穂集7』P58、『福岡市史 資料編 中世1』P992 | | | 筑紫広門代の城(那賀郡之内)に「隈本ノ城 同(番城)」。 |
| 301 | 龍神山城(岩門城) | (1) | (弘安7年11月～8年11月) | 関東評定事書 | 近衛家本追加／『鎌倉遺文 古文書編20』15365、『福岡市史 資料編 中世2』P419・P420 | | | 鎌倉幕府、「岩門幷宰府構城塁」には「九州官軍」として城郭を構えるよう命じる。 |
| | | 参考 | 弘安8年 | | 歴代鎮西志／『太宰府市史 中世資料編』P304 | | | 少弐景資、「岩門城」にて挙兵し、敗死する(「岩門合戦」)。 |
| | | (2) | 弘安9年10月29日 | 関東下知状写 | 有浦文書／『太宰府市史 中世資料編』P305 | 相模守平朝臣(北条貞時)、陸奥守朝臣(北条業時) | (斑鳩右衛門三郎) | 「石門合戦之忠」により、斑鳩右衛門三郎締に那珂東郷岩門の所領を与える。 |
| | | (3) | 弘安9年閏12月28日 | 関東事書・蒙古合戦岩門合戦恩賞注文案 | 比志島文書／『太宰府市史 中世資料編』P307 | | | 鎌倉幕府、蒙古合戦・「岩門合戦」に参戦した勲功人に恩賞地を与える。 |
| | | 参考 | 文和4年 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P54 | | | 少弐頼尚、岩門城に籠もり、一色直氏・原田種貞らに攻められるも、これを防ぐ。 |
| | | 参考 | 延文6年7月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P72 | | | 宮方の太宰府攻めに対し、少弐氏「一の瀬・岩門・飯盛・細峯・荒平」5城に軍勢を籠め置く。 |
| | | (4) | 応安5年6月日 | 吉川経見軍忠状 | 吉川家文書／『南北朝遺文 九州編5』 | (吉川経見) | (今川了俊) | 去2月10日以来、「岩戸」等所々の合戦における軍忠を注進する。 |
| | | (5) | 永和5年4月日 | 熊谷宗直代同直忍軍忠状 | 熊谷家文書／『南北朝遺文 九州編5』5534 | (熊谷宗直代同直忍) | | 永和4年5月15日「筑前国岩門城」籠城、5年2月28日「岩門城堪忍仕」転戦等の軍忠を注進する。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 301 | 龍神山城（岩門城） | (6) | 康暦1年9月日 | 関東評定事書 | 熊谷家文書／『南北朝遺文　九州編5』5565 | | | 永和4年5月～同5年2月「筑前国岩門城」の「城衆」としての警固、およびその他の軍忠を注進する。 |
| | | (7) | (文明1年)5月11日 | 野辺盛仁申状 | 野辺文書／『宮崎県史　史料編　中世1』P150、『太宰府市史　中世資料編』P692 | (野辺)盛仁 | 真鍋太郎左衛門尉殿 | 少弐氏の国人・内野石見守、4月13日「岩竈」に発向する。 |
| | | (8) | (文明1年)6月28日 | | 野辺文書／『宮崎県史　史料編　中世1』P150、『太宰府市史　中世資料編』P694 | | | 肥前国三根郡・神埼東八郷・「筑前国岩門庄内(井)浜」、「探題御住城」落去により欠所となる。 |
| | | 参考 | 明応6年1月 | | 歴代鎮西志、北肥戦誌ほか／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P56、『歴代鎮西要略上』P335、『北肥戦誌』P165 | | | 少弐政資、大内義興に攻められ太宰府を落ち、岩門城へ退却し立て籠もる。 |
| | | 参考 | 明応6年3月 | | 歴代鎮西要略、北肥戦誌ほか／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P64 | | | 大内義興、少弐政資と筑紫村・城山で合戦し、ついで岩門城・肥前勝尾城を攻め落とす。 |
| | | (9) | 明応6年9月23日 | 大内氏奉行人連署奉書写 | 萩藩閥閲録163吉田裁判3／『萩藩閥閲録4』P346 | 民部丞、兵庫助(杉弘隆) | 長岡助八(盛実)殿 | 5月13日以来、「城督」遠田兼相と共に「岩門」に在城を賞さる。 |
| | | (10) | 永正10年8月2日 | 大内義興感状写 | 大内氏実録土代／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P198 | (大内義興) | 武藤次郎殿 | 武藤次郎の数年の「岩戸在城」を賞し、弾正忠に吹挙する。 |
| | | 参考 | | 筑紫氏所領城数覚 | 筑紫文書／『九州史料落穂集7』P58、『福岡市史　資料編　中世1』P992 | | | 筑紫広門代の城(那賀郡之内)に「山田ノ城　同(番城)」。 |
| 303 | 猫嶺城 | 参考 | | 筑紫氏所領城数覚 | 筑紫文書／『九州史料落穂集7』P58、『福 | | | 筑紫広門代の城(那賀郡之内)に「猫尾ノ城　同(番城)」。 |
| 305 | 鷲ヶ岳城（滑城） | (1) | (永禄5年)11月13日 | 高橋鑑種書状 | 寄組山田家文書／『山口県史　史料編　中世3』P617 | (高橋)鑑種 | 有田加賀守(経道)殿、山田民部丞(満重)殿 | 「立花・安楽平・鷲岳」の事、「指儀」有るまじく候。 |
| | | (2) | | 高橋鑑種書状写 | 萩藩閥閲録31山田吉兵衛96／『萩藩閥閲録1』P755、『大宰府・太宰府天満宮史料15』P153 | | | |
| | | 参考 | (永禄8年頃) | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P391 | | | 肥前の神代長良、龍造寺隆信に攻められ、岩門鷲岳城主大鶴入道宗周を頼る。この近年、大鶴氏、豊後より筑前に至り、鷲岳に在城する。 |
| | | (3) | (天正8年)4月15日 | 大友円斎(義鎮)感状 | 大津留文書／『福岡市史　資料編　中世2』P268 | 円斎(大友宗麟) | 大津留右京入道殿 | 名明利城不慮の事態につき今は安楽平城に籠っている事を承知し、その働きを賞す。 |
| | | (4) | (天正8年ヵ)4月15日 | 大友義統感状 | 大津留文書／『福岡市史　資料編　中世2』P268 | (大友)義統 | 大津留右京入道殿 | 名明利城不慮の事態につき今は安楽平城に籠っている事を承知し、その働きを賞す。 |
| | | 参考 | 天正8年9月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P580 | | | 戸次道雪、小田部紹叱・大鶴宗周の守る荒平城・鷲嶽両城に兵糧を輸送する。龍造寺隆信の将修行越前守等、これを奪わんとし戦闘となる。 |
| | | 参考 | (天正11年4月頃) | | 薦野家譜2／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P8 | | | この頃まで龍造寺氏配下の原田親秀が「安楽平・鷲岳」両城を維持する。 |
| 307 | 一ノ岳城 | 参考 | 弘治3年7月13日 | | 北肥戦誌／『北肥』P309 | | | 大友勢、「岩屋・若杉」を攻め落とし、筑紫惟門は五箇山に入る。 |
| | | (1) | **永禄2年4月2日** | | 北肥戦誌、歴代鎮西要略ほか／『大宰府・太宰府天満宮史料15』P78 | | | **筑前五箇山の筑紫惟門、居城武蔵を復して大友義鎮に抗し、侍島にて合戦するも破れ、「一嶽」に立て籠もる。** |
| | | (2) | (永禄3年)7月9日 | 高橋鑑種書状 | 満盛院文書／『福岡市史　資料編　中世2』P823 | (高橋)鑑種 | 天満宮満盛院 | 筑紫下野守惟門が「五ヶ山」に入った事について心配する事はないと伝える。 |
| | | (3) | 永禄10年6月 | 大友家文書録 | 大友家文書録／『大宰府・太宰府天満宮史料15』P190 | | | 6月、高橋鑑種、毛利元就に通じて「岩屋城」に拠り、大友氏に叛す。筑紫広門、「五箇山城」に拠り、鑑種に応ず。 |
| | | 参考 | 天正12年 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P701 | | | 龍造寺隆信の戦死を受けて、安房守信周、筑前一の岳より佐嘉に駆けつける。 |
| | | 参考 | 天正14年7月6日 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P734 | | | 島津勢、高良山の陣を発し、筑紫氏の端城朝日山・一の岳・一の瀬・鷹取等を攻略する。 |
| | | (4) | 天正14年8月29日 | 上井覚兼日記 | 『大日本古記録　上井覚兼日記　下』P176 | | | 筑紫広門、8月27日に島津氏の下より脱走し「五ヶ山」に入る。「一嶽」に拠り、次いで勝尾 |
| | | (5) | 天正14年9月1日 | | 『大日本古記録　上井覚兼日記　下』P179 | | | 城を奪還する。 |
| | | 参考 | (天正14年8月) | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P746 | | | 筑紫広門、島津氏の下より脱走して五ヶ山に入り、島津勢が守る一の岳城を奪還する。 |
| | | 参考 | | 筑紫氏所領城数覚 | 筑紫文書／『九州史料落穂集7』P58、『福岡市史　資料編　中世1』P992 | | | 筑紫広門代の城(那賀郡之内)に「一ノ嶽ノ城　同(番城)」。 |
| 308 | 亀ノ尾城 | 参考 | (長享1年) | | 歴代鎮西要略・北肥戦死／『歴代鎮西要略　上』P330、『大宰府・太宰府天満宮史料14』P6、『北肥戦誌』P159 | | | 九州探題渋川万寿丸、「岩門亀尾城」において家臣により殺害される。 |
| | | (1) | (長享1年)4月28日 | 少弐政資書状写 | 馬廻御判物帳／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P7 | (少弐)政資 | 宗中務少輔殿 | 少弐政資、「岩門亀尾敵城」を取り詰め、去22日には落城間もないことを報じる。 |
| | | (2) | (長享1年)7月21日 | | 杠家文書／『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』P1635、『大宰府・太宰府天満宮史料14』P6 | | 杠日向守殿 | 少弐政資、去17日に「亀尾城」を攻め落とし、「城主」森戸修理亮等を討捕える。 |
| | | (3) | (長享1年)10月20日 | | 馬廻御判物帳／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P8 | | 宗中務少輔殿 | 少弐政資、「岩門亀尾敵城」を既に攻め落とし、肥前に転戦する。 |
| | | 参考 | 明応6年1月 | | 歴代鎮西志、歴代鎮西要略ほか／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P56、『歴代鎮西要略　上』P335 | | | 少弐政資、大内義興に攻められ太宰府を落ち、「岩門」へ退却。 |
| | | (4) | 明応6年9月23日 | 大内氏奉行人連署奉書写 | 萩藩閥閲録163長岡五兵衛3／『萩藩閥閲録4』P346 | 民部丞・兵庫助(杉弘隆) | 長岡助八(盛実)殿 | 5月13日以来、「城督」遠田兼相と共に「岩門」に在城を賞さる。 |
| | | (5) | 永正10年8月2日 | 大内義興感状写 | 大内氏実録土代／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P198 | (大内義興) | 武藤次郎殿 | 武藤次郎の数年の「岩戸在城」を賞し、弾正忠に吹挙する。 |
| | | (6) | (天文1年)3月8日 | 沼間敦定書状写 | 長岡家文書、萩藩閥閲録163吉田裁判5／『岩門城跡』P35、『萩藩閥閲録4』P346 | (沼間)敦定 | 長岡大炊允 | 長岡氏、遠田弘常に従い去享禄4年まで「亀尾御城」・妙見岳城・障子岳城の城衆を勤める。 |
| 311 | 鳥飼城 | 参考 | 正長1年 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P116 | | | 渋川満直、九州探題に補任され、鳥飼城に居城する。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 311 | 鳥飼城 | 参考 | (天正8・9年) | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P612 | | | 龍造寺隆信、筑前9郡・豊前3郡を切り従え、内野・荒平・柑子岳・飯盛・鳥飼等の城に諸将を置く。 |
| 315 | 安楽平城 | 参考 | 延文6年7月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P72 | | | 宮方の太宰府攻めに対し、少弐氏「一の瀬・岩門・飯盛・細峯・荒平」5城に軍勢を籠め置く。 |
| | | (1) | 寛正6年12月19日 | 大内氏奉行人連署奉書写 | 児玉韞採集文書1-90(勝山村飯田伊八所蔵文書) | 右京亮・加賀守 | 飯田幸松丸殿 | 「安楽平城衆」として在城を命じ、山門庄「当城料所」のうち10町を「城料所」として知行させる。 |
| | | (2) | (年未詳)3月1日 | 大内氏奉行人連署状 | 青柳種信筆写「飯田文書」3 | 武助・奥主 | 飯田大膳進 | 当城において数年御番付を兼ね、年を越しては当普請等を兼ねる |
| | | (3) | 文明10年10月26日 | | 正任記／『山口県史　中世1』P354 | | | 「安楽平城奉行」遠田石見守兼常・飯田中務丞秀長、早良郡辺における落人の出張を大内政弘に言上する。 |
| | | (4) | 文明10年11月27日 | 大内政弘袖判下文写 | 児玉韞採集文書1-92(勝山村飯田伊八所蔵文書) | (大内政弘) | 飯田新蔵人重頼 | 早良郡野介庄10町を給し、「早安楽平令在城」を命じる。 |
| | | (5) | (文明年間ヵ)10月29日 | 相良正任書状 | 毛利家文庫譜録所収文書／『福岡市史資料編　中世2』P856「」4 | (相良)正任 | 人々御中 | 防長衆の豊筑在城の料所が本給だけでまかなっているのに対し、安楽平御城衆の料所に早良郡の知行分をあてた前例のようにすべきだと定めたことを伝える。 |
| | | (6) | 永正6年8月23日 | 大内氏奉行人連署状写 | 右田毛利家文書「永田秘録」87／『岩門城跡』P38 | 龍崎中務丞道輔、弘中兵部丞武長 | 安楽平御城衆中 | 大内氏、「安楽平御城衆中」に少弐氏の蜂起と、「当城堅固」の肝要等を伝える。 |
| | | (7) | (永正15年ヵ)7月25日 | 満盛院快竹申状 | 満盛院文書／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P233 | 権律師快竹 | 弘中越後守(武長)殿、神代与三兵衛尉(武総)殿 | 早良郡戸栗・重富の半済地につき、諸役等は免許を訴えるも「安楽平御城方」については以前の通り負担とする。 |
| | | (8) | 文亀2年11月13日 | 大内義興書状写 | 満盛院文書／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P145 | (大内)義興 | 杉十郎(武連ヵ)殿 | 早良郡のうち大宰府天満宮領のこと、「安楽平城方」として下知するも、社家以下の訴訟を承認する。 |
| | | (9) | | 大内氏奉行人連署状 | 満盛院文書／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P145 | (龍崎)道輔・(弘中)武長・(杉)弘依 | 満盛院社家御中 | 早良郡内の大宰府天満宮領のこと、「安楽平御城方」の半済ながらも造営中のため免許す。 |
| | | (10) | | 大内氏奉行人連署状 | 満盛院文書／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P146 | (龍崎)道輔・(弘中)武長・(杉)弘依 | 神代与三兵衛尉殿 | 安楽平城「御用」により早良郡中の寺社領に半済を実施する。 |
| | | (11) | 文亀3年9月6日 | 大内氏奉公人連署状(杉十郎宛) | 青柳種信筆写「満盛院文書」19／佐伯弘次「大内氏の筑前守護代」 | | 杉十郎 | 安楽平新御城衆20人差下され、去年以来在国 |
| | | (12) | 永正6年8月23日 | 大内氏奉行人連署状 | 毛利家文庫譜録所収文書／『福岡市史資料編　中世2』P856 | (龍崎中務丞)道輔・(弘中兵部丞)武中 | 安楽平城衆中 | 少弐氏が筑前国で蜂起したが、すぐに鎮圧するよう厳重な下知が出された。よって安楽平城を堅固にしておく事が重要である。 |
| | | (13) | (享禄2年)9月11日 | 杉興長家臣連署状 | 満盛院文書／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P300 | (鬼村)長直・(杉)長所・(沓 | 満盛院御同宿御中 | 「安楽平御城衆」野上伊豆守へ、天満宮領正覚寺の相論について子細を尋ねるべき云々。 |
| | | (14) | (享禄3年)7月19日 | 大村重継書状案 | 明法寺榊文書／『福岡市史　資料編中世1』P602 | (大村)重継 | (安楽平)御城衆各中 | 安楽平城衆に対し徳政の下知を伝える。 |
| | | (15) | 天文6年6月1日 | 重満・永任・護則連署定書 | 明法寺榊文書／『福岡市史　資料編中世1』P596 | 重満・永任・護則 | 榊村地下中 | 「早良郡新城」造営の負担について、安楽平「御城督」大村興景が杉興運に相談する。 |
| | | (16) | 天文7年6月10日 | 大内氏奉行人連署状写 | 児玉韞採集文書2-88(梅月氏古文書) | (貫)武助・(杉)興重 | 梅月新三殿 | 「柑子岳長々在城」の梅月新三を、「安良平城御城番」に移す。 |
| | | (17) | 天文10年4月11日 | 満盛院快聞言上云々 | 満盛院文書／『福岡市史　資料編　中世2』P819 | 快聞 | 吉見源右衛門尉(興滋)殿・貫越中守(武助)殿 | 安楽平御城の城役を満盛院領の戸栗・重冨郷が勤めてきたが、神代武総在城の時、新御城の城役も召し付けられた上、近年は屏役も郡代から申し付けられたので、迷惑であることを述べ、屏役の免除を訴える。 |
| | | (18) | 天文22年3月5日 | 大内氏奉行人連署奉書 | 大村家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P280 | (豊田鑑実)美濃守・(仁保隆尉)右衛門大夫・(陶晴賢) | 大村左馬助(隆成)殿 | 早良郡原村10町を「安楽平城衆」の飯田万三郎に与える。 |
| | | (19) | 天文24年4月 | 小井手平左衛門手日記写 | 青木文書(青柳種信関係資料「古文書写」／『福岡市史　資料編　中世1』P1144、児玉韞採集文書1-140(青木氏古文書) | 小井手平左衛門 | | 「御屋形様安楽平御登城之事」・「安楽平城衆存分之事」等あり。 |
| | | (20) | (弘治2年)10月13日 | 大内氏家臣連署書状 | 大村家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P280 | (小原)隆言・(内藤)隆世 | 大村左馬助(隆成)殿 | 筑前国早良郡内原村の内10町の地は、安楽平城衆の飯田万三郎が城督の大村興景と敵対する大村春沢軒に随って逐電したため、興景次男の隆成に与えて、御城番を勤めさせることとした。 |
| | | (21) | 弘治2年12月13日 | 大内氏奉行人連署奉書 | 大村家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P281 | (小原隆言)安芸守・(杉隆行ヵ)修理進・(内藤隆世)弾正忠 | 大村左馬助(隆成)殿 | 大村隆成は前年の筑前国内での戦乱中、安楽平城御城番を務めなかったとの疑いにより、一時所領を没収されていたが、嫌疑が晴れ、元の通りに旧領が返還された。 |
| | | (22) | (永禄5年)11月13日 | 高橋鑑種書状 | 寄組山田家文書／『山口県史　史料編　中世3』P617 | (高橋)鑑種 | 有田加賀守(経道)殿、山田民部丞(満重)殿 | 「立花・安楽平・鷲岳」の事、「指儀」有るまじく候。 |
| | | (23) | | 高橋鑑種書状写 | 萩藩閥閲録31山田吉兵衛96／『萩藩閥閲録1』P755、『大宰府・太宰府天満宮史料15』P153 | | | |
| | | (24) | (永禄5年ヵ)11月18日 | 高橋鑑種書状 | 寄組山田家文書／『山口県史　史料編　中世3』P615 | (高橋)鑑種 | 有加(有田経道)、山民(山田満重) | 「赤司之城」の奪取と、「立花・安楽平」を攻略せんことを伝える。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 315 | 安楽平城 | (25) | (永禄5年ヵ)11月18日 | 高橋鑑種書状写 | 萩藩閥閲録31山田吉兵衛91／『萩藩閥閲録1』P753、『大宰府・太宰府天満宮史料15』P155 | (高橋)鑑種 | 有加(有田経道)、山民(山田満重) | 「赤司之城」の奪取と、「立花・安楽平」を攻略せんことを伝える。 |
| | | (26) | (天正7年)9月28日 | 大友円斎書状写 | 児玉韜採集文書1-64(小田部家古文書)、『大分県先哲叢書　大友宗麟5』P95 | 円斎(大友宗麟) | 小田部上総入道殿 | 去9月8日、龍造寺氏が安楽平城を攻めるも、小田部氏率いる大友勢防御する。小田部紹叱・九郎紹逸戦死する。 |
| | | 参考 | 天正8年9月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P580 | | | 戸次道雪、小田部紹叱・大鶴宗周の守る荒平城・鷲嶽両城に兵糧を輸送する。龍造寺隆信の将修行越前守等、これを奪わんとし戦闘となる。 |
| | | (27) | (天正8年)6月9日 | 大友義統感状 | 中牟田文書／『福岡市史　資料編　中世1』P1011 | (大友)義統 | 中牟田右京進殿 | 大友義統、去々年以来の「安楽平」籠城の軍忠を賞す。 |
| | | (28) | | 大友義統感状写 | 小金丸文書／『福岡市史　資料編　中世1』P812 | | 庄崎但馬入道殿 | |
| | | (29) | | | 児玉韜採集文書3-179(木原佐次右衛門所持) | | 木原兵部丞殿 | |
| | | (30) | | | 児玉韜採集文書3-181(浦田佐左衛門所 | | 前川中務丞殿 | |
| | | 参考 | 天正8年7月7日 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P606 | | | 龍造寺隆信、小田部道叱および大友氏の将臼井鎮富・小佐井鑑直等が守る荒平城を攻め落とす。 |
| | | **(31)** | **(天正8年ヵ)7月25日** | **大友義統書状写** | **児玉韜採集文書1-61(小田部家古文書)** | **(大友)義統** | **小田部源次郎(統房)殿** | **「安楽平」について、春以来の防戦にも拘らず、兵糧払底による「下城」を是非に及ばずとし、戸次道雪と相談の上「帰城」の才覚を指示する。** |
| | | (32) | (天正8年ヵ)12月8日 | 大友義統感状写 | 児玉韜採集文書1-60(小田部家古文書) | | | 戸次道雪に「同城(立花城)」以来の軍忠を賞す。 |
| | | (33) | (天正8年ヵ)12月13日 | 大友義統書状写 | 児玉韜採集文書1-61(小田部家古文書) | | | 小田部統房の「安楽平退城」と戸次道雪に入魂の旨を承知、義統の正月中旬発向と「帰城」の才覚肝要を伝える |
| | | (34) | (天正8年ヵ)12月28日 | | 児玉韜採集文書1-59(小田部家古文書) | | | 「安楽平不慮」・戸次道雪に「同城(立花城)」以来の軍忠を賞し、「訴訟」について了承する |
| | | (35) | (天正9年ヵ)1月11日 | 大友円斎書状写 | 児玉韜採集文書1-57(小田部家古文書)、『大分県先哲叢書　大友宗麟5』P145 | 円斎(大友宗麟) | | 「安楽平」を多年にわたり保持しながらも、落城を是非もなしとし、戸次道雪の指示を受けること、および大友義統の発向を伝える |
| | | 参考 | (天正8・9年) | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P612 | | | 龍造寺隆信、筑前9郡・豊前3郡を切り従え、内野・荒平・柑子岳・飯盛・鳥飼等の城に諸将を置く。 |
| | | 参考 | (天正11年4月頃) | | 薦野家譜／『大宰府・太宰府天満宮史料16』P8 | | | この頃まで龍造寺氏配下の原田親秀が「安楽平・鷲岳」両城を維持する。 |
| | | (36) | 天正8年4月～11年 | 荒平籠城家中諸侍家名着到注文写 | 牛尾文書／『福岡市史　資料編　中世1』P1169 | (小田部鎮元、小田部紹逸ヵ) | | 天正8年4月～11年、小田部紹叱(鎮元)・子息九郎(紹逸)共に「荒平籠城」家中諸侍の着到。 |
| | | 参考 | 天正14年8月20日 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P742 | | | 龍造寺政家、島津勢として諸将を筑前に派遣する。このうち高良山座主麟圭・西牟田家親・田尻鑑種は荒平に番する。 |
| | | (37) | 天正14年8月24日 | | 上井覚兼日記／『大日本古記録　上井覚兼日記　下』P174 | | | 島津氏が立花統虎に、立花城を下城したならば「早良之郡ニ荒平と申名城」を与えると申し入れる。 |
| | | **(38)** | 天正14年9月1日 | | 上井覚兼日記『大日本古記録　上井覚兼日記　下』P176 | | | **西牟田氏より「安楽平之御番」について注進がある。** |
| | | (39) | (年不詳)8月7日 | | 『筑前町村書上帳』P296 | 入部大宮司助五郎丞光重 | 住吉神主宮崎助左衛門丞殿 | 「荒平」籠城中に加勢して貢献した事を十時氏から立花道雪へ伝えられ、小田部家より書状をもらう。 |
| | | (40) | (年不詳)8月27日 | 陶興房書状 | 松浦文書／『福岡市史　資料編　中世2』P806 | (陶)興房 | 松浦殿 | 敵方の「高祖」・「安楽平城」を攻め落とす。 |
| | | (41) | (年不詳)4月23日 | 大内氏奉行人連署状 | 毛利家文庫譜録所収文書／『福岡市史　資料編　中世2』P858 | 鑑実・(仁保)隆尉 | 陶晴賢殿 | 山形小五郎賢乗は「安楽平城衆」といえども、山形が所有している山については沙汰する必要はない。 |
| | | (42) | (年不詳)6月9日 | 大友義統感状 | 埴生文書／『福岡市史　資料編　中世2』P733 | (大友)義統 | 埴生甚介入道殿 | 去々年以来、安楽平城に籠城しているが、特に最近敵が攻めてきて戦っている事についてその軍労を賞す。 |
| | | 参考 | | 筑紫氏所領城数覚 | 筑紫文書／『九州史料落穂集7』P58、『福岡市史　資料編　中世1』P992 | | | 筑紫広門代の城(早良郡)に「荒平ノ城　筑紫大炊助」。 |
| 317 | 内野城 | 参考 | 天正6年3月下旬 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P579 | | | 龍造寺隆信、大友方への抑えとして、「脇山の内野の砦」に修行越前守以下軍勢を置く。 |
| | | 参考 | (天正8・9年) | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P612 | | | 龍造寺隆信、筑前9郡・豊前3郡を切り従え、内野・荒平・柑子岳・飯盛・鳥飼等の城に諸将を置く。 |
| 318 | 曲渕城<br>(飯場城) | 参考 | (永禄8年頃) | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P391 | | | 肥前の神代長良、龍造寺隆信に攻められ、飯場城主曲淵河内守房助を頼る。 |
| | | 参考 | 天正8年9月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P584 | | | 龍造寺隆信、飯場城主曲淵河内守に、小田部道叱を討つよう命じる。 |
| | | 参考 | 天正13年 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P720 | | | 立花城番衆、曲淵房助の飯場城・副島長門入道放牛在番の飯盛城を攻める。 |
| | | (1) | (年未詳)8月3日 | 少弐政資書状 | 杠家文書／『福岡市史　資料編　中世2』 | (少弐)政資 | 杠平右衛門尉殿 | 「早良曲淵」における合戦での働きを賞す。 |
| 322 | 飯盛城 | 参考 | 文和2年3月3日 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P52 | | | 一色範氏、筑前に発向して博多に陣し、飯盛城を構える。宮方これを攻める。 |
| | | (1) | 文和2年4月2日 | 一色直氏寄進状 | 青柳文書／『南北朝遺文(九州編)3』3541 | (一色直氏ヵ) | 寄進　筑前国飯盛権現上宮 | 飯盛山に陣した勝利を謝し、地頭職を寄進す。 |
| | | (2) | 文和2年11月 日 | 綾部幸依軍忠状写 | 綾部文書／『南北朝遺文(九州編)3』3627 | (綾部幸依) | 進上　御奉行所 | 3月11日、綾部幸依が「飯盛城御構」にが供する。7月2日、一色範氏「飯盛城後攻」発向の際、綾部幸依が「祭両山」を警固する。 |
| | | (3) | 文和2年11月18日 | 一色範光書状写 | 薩藩旧記24／『南北朝遺文(九州編)3』3626 | 右馬権頭(一色)範光 | 謹上　嶋津上総入道殿 | 「飯盛城難儀」において凶徒追払、喜悦。 |
| | | (4) | 正平8年10月 | 志岐隆弘軍忠状 | 志岐文書／『福岡市史　資料編　中世2』P449 | (志岐隆弘) | 進上　御奉行所(菊池武光) | 正平8年5月20日の飯盛城攻めにおける軍忠を注進する。 |
| | | (5) | 正平11年6月 | 宇治惟澄申状 | 阿蘇文書／『大日本史料6-18』P192 | (宇治惟澄) | (懐良親王) | 正平8(文和2)年、宇治惟時が一色直氏を「飯盛城」に攻める。 |
| | | 参考 | 延文6年7月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P72 | | | 宮方の太宰府攻めに対し、少弐氏「一の瀬・岩門・飯盛・細峯・荒平」5城に軍勢を籠め置く。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 322 | 飯盛城 | (6) | 正平16年9月日 | 深堀時勝軍忠状 | 深堀文書／『南北朝遺文(九州編)4』4303 | (深堀時勝) | 進上　御奉行所(菊池武光) | 7月17日、菊池武光と少弐頼国の合戦時、「飯盛・細峯城」・「油山」における軍忠を注進する。 |
| | | (7) | 延文6年9月日 | 龍造寺家平軍忠状 | 龍造寺文書／『南北朝遺文(九州編)4』4305 | (龍造寺家平) | 進上　御奉行所(少弐頼国) | 7月5日より菊池武光と少弐頼国の合戦時、「飯盛・油山之御陣」等における軍忠を注進する。 |
| | | 参考 | (永禄8年頃) | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P391 | | | 肥前の神代長良、龍造寺隆信に攻められ、飯盛城主小田部庄紹叱入道を頼る。 |
| | | 参考 | 天正8年3月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P593 | | | 龍造寺隆信、副島光家・空閑可清・小田増光に筑前国内に知行を与え、飯盛城に在城させる。 |
| | | 参考 | (天正8・9年) | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P612 | | | 龍造寺隆信、筑前9郡・豊前3郡を切り従え、内野・荒平・柑子岳・飯盛・鳥飼等の城に諸将を置く。 |
| | | 参考 | 天正13年 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P720 | | | 立花城番衆、曲淵房助の飯場城・副島長門入道放牛在番の飯盛城を攻める。 |
| 323 | 生松原城 | (1) | (元亀3年)8月3日 | 原田親種書状写 | 波多江文書、児玉韜採集文書3-150(波多江弥右衛門所持)／『大蔵姓原田氏編年史料』P235 | (原田)親種 | 波多江上総守殿、同長門守殿 | 昨日の「生松原」における波多江親秀入道の合力を賞す。 |
| | | (2) | 天正6年7月5日 | 原田了栄知行宛行状写 | 児玉韜採集文書3-149(波多江弥右衛門所持) | (原田)了栄 | 波多江丹波守殿 | 「池田下河原合戦」「鉢窪・生松原・姪浜所々」における軍忠を賞し、志摩郡閏村に知行を与える。 |
| | | (3) | 天正7年8月16日 | | 児玉韜採集文書／『大蔵姓原田氏編年史料』P248 | | 馬場藤介殿 | 一昨日14日の立花勢との「生松原」における合戦の軍忠を賞し、志摩郡桜井村に5町を遣わし置く。 |
| | | (4) | 天正7年8月25日 | | 児玉韜採集文書／『大蔵姓原田氏編年史料』P248 | | 吉富兵庫助殿 | 去る22日の立花勢との「生松原」における合戦の軍忠を賞し、有田村に6町を遣わし置く。 |
| | | (5) | (天正7年)8月25日 | 原田了栄知行宛行状 | 波多江文書／『大蔵姓原田氏編年史料』P247 | | 波多江甚助殿 | 去る8月14日の立花衆との「生松原」合戦における軍忠を賞し、20町を加増す。 |
| | | (6) | (天正7年)8月21日 | 戸次道雪知行預ケ状写 | 小野文書(中世)56／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P93 | (戸次)道雪 | かめ女 | 前8月14日の「いきの松はら」合戦における父仙右衛門戦死の軍忠を賞し、知行を預け置く。 |
| | | (7) | (天正7年)8月23日 | 戸次道雪感状写 | 竹迫文書／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P294 | | 竹迫彦五郎 | 前8月14日の「生松原合戦」における軍忠を賞す。 |
| | | (8) | (天正7年)8月26日 | 戸次道雪感状 | 米多比善治文書15／『福岡市史　資料編　中世1』P215、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P737 | | 米多比弾介殿 | |
| | | (9) | | | 米多比家文書18-2／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P748 | | 米多比五郎次郎殿 | |
| | | (10) | | | 田尻惟敏家文書B5-16／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P300 | | 安東主税介殿 | |
| | | (11) | | | 檜垣文庫307-118／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P14 | | 小野和泉守殿 | |
| | | (12) | | 戸次道雪感状写 | 小野文書(中世)322-13／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P135 | | | |
| | | (13) | | | 檜垣文庫175-13-17／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P11 | | | |
| | | (14) | | | 安東家史料15-32／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P18 | (戸次)鑑連 | 安東常陸介殿 | |
| | | (15) | | 戸次道雪知行預ケ状 | 「士民ノ事蹟」柳立102-44／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P564 | (戸次)道雪 | 後藤市弥太殿 | 前8月14日の「生松原合戦」における軍忠を賞し、知行3町を預け置く。 |
| | | (16) | | | 由布功家文書B45／『柳川市史　史料編5　近世文書(後)』P376 | | 由布大炊助殿 | 前8月13日の「いきの松はら」合戦における軍忠を賞し、知行1町を預け置く。 |
| | | (17) | (天正7年)8月28日 | 戸次道雪知行預ケ状写 | 小野文書(中世)55／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P93 | | かる女かたへ | 前8月14日の「いきの松はら」合戦における父佐助戦死の軍忠を賞し、知行2町を預け置く。 |
| | | (18) | (天正8年ヵ)2月2日 | 大友義統書状 | 米多比家文書7-7／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P744 | (大友)義統 | 米多比五郎次郎殿 | 米多比五郎次郎の「立花」在城・「生松原合戦」等の軍忠を賞し、新蔵人に任ず。 |
| | | (19) | | 大友義統感状 | 米多比善治文書19／『福岡市史　資料編　中世1』P215、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P738 | | 米多比弾介殿 | 米多比弾介・薦野勘解由丞・同成家の「立花」在城・「生松原合戦」等の軍忠を賞す。 |
| | | (20) | | 大友義統感状写 | 薦野文書48／『福岡市史　資料編　中世1』P266 | | 薦野勘解由丞(親次ヵ)殿 | |
| | | (21) | (天正8年ヵ)2月3日 | 大友義統感状 | 薦野文書17／『福岡市史　資料編　中世1』P254、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』229 | | 薦野弥介(成家)殿 | |
| | | 参考 | (年月日未詳) | 道雪様御代戦死之人数 | 十時(吉)文書B8／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P659 | | | 「筑前国生ノ松原ニ而」。 |
| 324 | 長鳥城 | 参考 | 延文6年7月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P72 | | | 宮方の菊池武光・名和長生、筑前国長鳥山に陣取り、少弐頼国らと戦う。8月16日、征西将軍宮、長鳥山に陣する。 |
| | | (1) | 正平16年9月日 | 深堀時勝軍忠状 | 深堀文書／『南北朝遺文(九州編)4』4303 | (深堀時勝) | 進上　御奉行所(菊池武光) | 7月17日、菊池武光と少弐頼国の合戦時、「筑前国長鳥山」等における軍忠を注進する。 |
| 325 | 探題北条氏城(姪浜城) | 参考 | 元弘3年5月25日 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P12 | | | 大友具簡、鎮西探題北条英時の「博多姪浜城」へ押し寄せ、英時自刃する。 |
| | | 参考 | 建武3年 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P30 | | | 足利尊氏、一色範氏らを姪浜の城に遺し置き東上する。 |
| | | 参考 | 建武5年1月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P36 | | | 一色範氏、筑後石垣山鷹取城に籠もる菊池武重を討つため、姪浜城を発つ。 |
| | | (1) | 正平8年10月 | 志岐隆弘軍忠状 | 志岐文書／『福岡市史　資料編　中世2』P449 | (菊池武光) | | 5月20日の筑前国「浦山用害構」での軍忠を注進する。 |
| 326 | 探題渋川氏城 | (1) | 正平8年10月 | 志岐隆弘軍忠状 | 志岐文書／『福岡市史　資料編　中世2』P449 | (菊池武光) | | 5月20日の筑前国「浦山用害構」での軍忠を注進する。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 329 | 高祖城 | (1) | (文和2年)2月3日 | 少弐頼尚感状写 | 由比文書11／『南北朝遺文(九州編)3』3514、『九州中世史研究3』P399、『西国武士団関係史料集14　由比文書』P14 | (少弐)頼尚 | 重富次郎四郎(正雄)殿 | 前年7月30日、足利尊氏方が「原田城」を攻撃した際の、防戦の忠節を賞す。 |
| | | (2) | (文明1年)6月28日 | 野辺盛仁申状 | 野辺文書／『宮崎県史　史料編　中世2』 | (野辺)盛仁 | 真鍋太郎左衛門尉殿 | 千葉介が軍勢を筑前国に指遣し、大友勢と合流して6月3日「原田城」を攻落す。 |
| | | (3) | 文明10年10月5日 | | 正任記／『山口県史　中世Ⅰ』P332、『大日本史料　8編10』P767 | | | 高祖「城督」烏田通忠、大内政弘と対面し、「高祖城衆」が10余年間、大内方として働いた軍忠を言上する。 |
| | | (4) | 文明10年10月13日 | 大内政弘下文 | 正任記／『山口県史　中世Ⅰ』P344 | (大内政弘) | 烏田肥後守通忠 | 高祖城督烏田通忠に恩賞を下す。 |
| | | 参考 | 明応3年1月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P164 | | | 少弐政資、高祖城の原田興種を攻める。 |
| | | 参考 | 明応5年1月 | | 歴代鎮西要略／『増補歴代鎮西要略　上』P335 | | | 少弐政資、高祖城に拠り、長鳥・飯守・小田部・荒平城等を攻め取る。 |
| | | (5) | 明応6年6月21日 | 大内義興官途吹挙状 | 児玉韞採集文書3-96(王丸氏文書)／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P88、『福岡市史　資料編　中世1』P653 | 大内義興 | 王丸九郎次郎殿 | 「高祖在城」の勲功を賞し、中務允に推挙す。 |
| | | (6) | | 大内氏奉行人連署奉書 | 児玉韞採集文書3-95(王丸氏文書)／『大宰府・太宰府天満宮史料14』P90、『福岡市史　資料編　中世1』P653 | 兵部丞(弘中武長)・沙弥(相良正任)・左衛門尉(杉武明) | 王丸中務丞殿 | 前年12月22日～3月16日の、少弐政資方による「高祖城」攻撃に対する防戦を賞し、便宜の地を約す。 |
| | | (7) | (永正8年)9月27日 | 大内氏奉行人連署状写 | 児玉韞採集文書3-98(王丸氏古文書)／『福岡市史　資料編　中世1』P665 | (龍崎)道輔・(弘中)武長 | 王丸神五郎 | 「御上洛以来」の「高祖在城」の馳走・忠義を賞す。 |
| | | (8) | (享禄4年)10月19日 | 杉興長書状 | 王丸文書／『福岡市史　資料編　中世1』 | (杉)興長 | 王丸兵庫助殿 | 「御城衆」の一層の馳走を促す。 |
| | | (9) | (享禄4年)11月20日 | 杉興長書状案 | 児玉韞採集文書3-103(王丸氏古文書)／『大蔵姓原田氏編年史料』P190、『福岡市史　資料編　中世1』P660 | | 王丸兵庫允 | 10月14日、水崎氏らの「高祖表」攻撃に対する防戦を賞す。 |
| | | (10) | (天文7年)8月22日 | 杉興長書状 | 児玉韞採集文書4-2(山部村庄屋所蔵) | | 尾仲新左衛門尉殿 | 「高祖」において烏田源太郎通勝死去のため、尾仲新左衛門尉に滞留と、早良郡衆の登城等を命ずる。 |
| | | (11) | 天文22年4月17日 | 王丸隆手負注文 | 児玉韞採集文書3-109(王丸氏古文書)／『大蔵姓原田氏編年史料』P202、『福岡市史　資料編　中世1』P660 | (王丸)隆 | 毛利河内守(房広)殿 | 原田隆種「里城」落去時の軍忠を注進する。 |
| | | (12) | (天文22年)4月18日 | 毛利房広書状写 | 児玉韞採集文書2-67(西氏文書)／『大蔵姓原田氏編年史料』P203、『福岡市史　資料編　中世1』P83 | (毛利)房広 | 西与三兵衛尉(重道)殿 | 一昨16日「原田里城」防戦の高名を賞し、注進を約す。 |
| | | (13) | 天文22年4月24日 | 宗像氏家臣連署状 | 石松文書／『宗像市史　史料編2　中世2』353-2 | (寺内)尚秀・(吉田)良喜・(国分)直頼 | 石松兵部丞殿 | 4月16日「高祖要害里城」出陣時の軍忠を賞す。 |
| | | (14) | (天文22年)7月6日 | 陶晴賢感状写 | 児玉韞採集文書2-69(西氏文書)／『大蔵姓原田氏編年史料』P204、『福岡市史　資料編　中世1』P83 | (陶)晴賢 | 西与三兵衛尉(重道)殿 | 「高祖表」調略における軍忠を賞す。 |
| | | 参考 | (天文22年)7月17日 | | 『筑前町村書上帳』P917 | (大内義長) | 大村丹後守殿 | 4月16日「高祖里城」切崩における軍忠を賞す。 |
| | | (15) | 天文22年7月27日 | 大内義長感状 | 井原文書26／『九州史学17』P58、『大蔵姓原田氏編年史料』P205／『宗像市史　史料編2　中世2』353-3 | | 井原隠岐守殿 | |
| | | (16) | | 大内氏奉行人連署奉書写 | 児玉韞採集文書2-70(西文書)／『大蔵姓原田氏編年史料』P204、『福岡市史　資料編　中世1』P83 | 美濃守(豊田鑑実)・右衛門大夫(仁保隆慰) | 西与三兵衛尉(重道)殿 | 4月16日、原田隆種「里城」切崩における軍忠を賞し、便宜の地を約す。 |
| | | (17) | (天文22年7月ヵ) | 大内氏奉行人連署奉書写 | 小金丸文書／『福岡市史　資料編　中世1』P813 | (欠) | (欠) | 同上。※後欠。児玉2-70と本文同じ。 |
| | | (18) | (天文22年)11月4日 | 弘中隆兼書状 | 宗像神社文書／『宗像市史　史料編2　中世2』353-1、『大蔵姓原田氏編年史料』 | (弘中)隆兼 | 宗像鍋寿丸(氏貞)殿 | 4月16日「高祖里城」切崩における軍忠状について。 |
| | | (19) | (天文23年ヵ)4月10日 | 大内氏奉行人連署状写 | 児玉韞採集文書1-133(大穂氏)／『大蔵姓原田氏編年史料』P208 | (飯田)興秀　ほか6名 | 大穂新次郎(延利)殿 | 天文22年「原田隆種退治」時の「高祖表」における軍忠を賞し、怡土郡庄内に知行を与える。 |
| | | (20) | (天文23年ヵ)4月15日 | 矢野英固書状写 | 児玉韞採集文書2-73(西文書)／『大蔵姓原田氏編年史料』P211、『福岡市史　資料編　中世1』P85 | (矢野英固) | (西重道) | 「高祖表」における馳走を命じ、知行宛行を伝える。 |
| | | 参考 | 永禄8(11ヵ)年 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P400 | | | 原田了栄・親種、大友氏を離反するも攻められ、高祖城を落ちる。 |
| | | (21) | (永禄12年)3月5日 | 原田隆種書状 | 萩藩閥閲録／『萩藩閥閲録6』毛利伊勢、『大日本史料　11編2』P29 | (原田)了栄 | (吉見)広頼 | 原田了栄、龍造寺隆信と議して毛利元就のために尽力を告げる。 |
| | | 参考 | 天正2年1月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P493 | | | 肥前松浦の鏡城主草野鎮永、龍造寺隆信に攻められ、原田了栄の高祖城に逃れる。 |
| | | 参考 | 天正7年9月15日 | | 筑後柳河立花系譜附録／史料綜覧10編911冊225頁 | | | 戸次道雪ら、原田了栄を高祖城に攻める。 |
| | | (22) | (年未詳)4月19日 | 大友宗麟感状 | 青木文書／『福岡市史　資料編　中世1』P1141、『下山門遺跡』P18、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』P242 | (大友)宗麟 | 青木対馬守殿 | 前4月8日、「高祖表」の龍造寺・神代勢との合戦における軍忠を賞す。 |
| | | (23) | 天正14年10月20日 | 毛利輝元安堵状 | 原田文書／『大蔵姓原田氏編年史料』P277 | (毛利)輝元 | 原田弾正少弼(信種)殿 | 毛利輝元、原田信種の知行を安堵す。 |
| | | (24) | 天正14年12月20日 | 豊臣秀吉感状 | 児玉韞採集文書／『大蔵姓原田氏編年史料』P278 | (豊臣秀吉) | 毛利右馬頭(輝元)殿、吉川監物(元春) | 黒田孝高家来久野四兵衛の「高祖原田居城」一番乗りを賞す。 |
| | | 参考 | (天正14年12月) | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P762 | | | 小早川隆景、原田信種の高祖城を攻め落とす。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 329 | 高祖城 | (25) | 天正16年8月12日 | 豊臣秀吉朱印状 | 小早川家文書179／『大日本古文書11-1』P181 | (豊臣秀吉) | 羽柴筑前侍従(小早川隆景)とのへ | 原田信種らを肥後に、城十郎太郎・伯耆左兵衛尉を筑前に移す。 |
| | | (26) | (年不詳)8月27日 | 陶興房書状 | 松浦文書／『福岡市史　資料編　中世2』P806 | (陶)興房 | 松浦殿 | 敵方の「高祖」・「安楽平城」を攻め落とす。 |
| | | (27) | (天正16年) 9月8日 | | 大願寺文書／『福岡市史　資料編　近世1』P18 | 三吉式部太輔廣高 | 大願寺御同宿中 | 筑前「高祖在番」に任命されたので、いよいよ現地へ向かう。 |
| | | (28) | | | 大願寺文書／『福岡市史　資料編　近世1』P18 | 山陰惣右衛門高智、祝勘左衛門亮継 | 大願寺御同宿御中 | 三吉廣高が筑前「高祖在番」に任命されたので、急いで現地へ向かうとの事。 |
| 334 | 松尾城 | (1) | (天正1年ヵ)6月4日 | 戸次鑑連書状 | 米多比家文書／『大日本史料10編16』P178、『柳川市史　史料編5　近世文書 | 鑑連 | 米多比五郎次郎殿 | 「原上村之儀、松尾城下之儀候之條」、米多比鎮久の所領志摩郡の地を5年間(臼杵)紹册に預けさせる。 |
| 336 | 加布里城 | (1) | 文和2年11月 日 | 綾部幸依軍忠状写 | 綾部文書／『南北朝遺文(九州編)3』3627 | (綾部幸依) | 進上　御奉行所 | 3月3日、綾部幸依が「院貴山・同加布利城」にて宿直警固にあたる。 |
| | | (2) | 延文6年9月 日 | 龍造寺家平軍忠状 | 龍造寺文書／『南北朝遺文(九州編)4』4305 | (龍造寺家平) | 進上　御奉行所(少弐頼国) | 7月5日、菊池武光と少弐頼国の合戦において、菊池方の「加布利城」落城する。 |
| 342 | 二丈岳城 | (2) | (年未詳)9月5日 | 龍造寺政家知行宛行状 | 横岳家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P932 | (龍造寺)政家 | 横岳兵庫頭(家実ヵ)殿 | 3月3日、綾部幸依が「院貴山・同加布利城」にて宿直警固にあたる。「深江城」に敵が攻めてきた際の働きを賞し、恩賞として筑後国内で領地を与える。 |
| 344 | 星山城 | (1) | (年未詳)1月18日 | 大内持世書状 | 王丸文書／『福岡市史　資料編　中世1』 | 大内持世 | 王丸六郎殿 | 大内持世、王丸六郎を「星山」に「在城」させる。 |
| | | (2) | (年未詳)10月22日 | 少弐貞頼書状写 | 由比文書15／『九州中世史研究3』P401、『西国武士団関係史料集14　由比文書』 | 少弐貞頼 | 重冨次郎四郎殿 | 少弐貞頼、重富次郎四郎の「星山城」宿直を賞す。 |
| | | (3) | (年未詳)12月27日 | 少弐貞頼書状 | 明法寺榊文書／『福岡市史　資料編　中世1』P596 | | 榊掃部入道殿、進藤弥三郎殿 | 榊掃部入道・進藤弥三郎両人に、「星山城」での奔走と、不審ある時の注進を命じる。 |
| 348 | 柑子岳城 | (1) | (天文2年)3月19日 | 臼杵親連知行預ケ状 | 児玉韞採集文書7-117(是松氏所蔵) | 親連 | 是松太郎殿 | 「当御城」難儀(陶興房らによる柑子岳攻城)における軍忠を賞し、天満領2町を預け置く。 |
| | | (2) | | | 由比文書34／『九州中世史研究3』P413、『西国武士団関係史料集14　由比文書』P34 | | 重冨五郎次郎殿 | 「当御城」難儀(陶興房らによる柑子岳攻城)における軍忠を賞し、清水分3町を預け置く。 |
| | | (3) | 天文2年7月1日 | | 児玉韞採集文書7-119(是松氏所蔵) | | 是松兵庫助殿 | 「好士岳」難儀などにおける軍忠を賞し、稲留名の内3町預け置く。 |
| | | (4) | 天文2年7月28日 | 三河守以下三名連署奉書 | 小城藩士佐嘉差出古文書写／『福岡市史　資料編　中世2』P284 | 丹後守・下野守・三河守 | 香月八郎左衛門殿 | 柑子岳城籠城を賞し、筑前国志摩郡河下村30町の内13町を与える。 |
| | | (5) | 天文4年6月24日 | 梅月頼致譲状 | 児玉韞採集文書2-87(梅月氏古文書) | 頼致 | 梅月新三殿 | 「御城番・公役等」を梅月新三に譲渡する。 |
| | | (6) | (天文4年)7月10日 | 大内氏奉行人連署状 | 児玉韞採集文書2-86(梅月氏古文書) | (杉)興重・興勝 | 梅月八郎左衛門尉殿 | 「当御城普請」について、天文3年1月3日より同4年2月4日までの間に21度の不勤を糾じる。 |
| | | (7) | 天文7年6月10日 | 大内氏奉行人連署状 | 児玉韞採集文書2-88(梅月氏古文書) | (貫)武助・(杉)興重 | 梅月新三殿 | 「柑子岳長々在城」の梅月新三を、「安良平城御城番」に移す。 |
| | | (8) | (元亀2年)12月26日 | 大友宗麟書状写 | 改正原田記附録／『大分県先哲叢書　大友宗麟4』1447、『大日本史料　10編8』 | (大友)宗麟 | 元岡因幡入道殿　ほか4名 | 志摩郡衆中に対し「好士岳城番」の「緩」を戒め、堅固に勤番すべきを命じる。 |
| | | (9) | 元亀3年1月29日 | 原田了栄知行宛行状写 | 改正原田記附録／『大日本史料　10編8』P208 | (原田)了栄 | 国友六兵衛殿 | 昨28日、池田川原において「柑子岳衆」臼杵鎮賡と合戦、戦功を賞し、志摩・桜井の内7町加増す。 |
| | | (10) | (元亀3年ヵ)5月28日 | 大友宗麟書状 | 浜地文書4／『福岡市史　資料編　中世1』P1185、『大分県先哲叢書　大友宗麟4』 | (大友)宗麟 | 泊又五郎殿　ほか3名、其外郡衆中 | 「好士岳勤番」について、群衆無人数は余儀なし、城督は派遣することを報じる。 |
| | | (11) | | 大友宗麟書状写 | 古文書雑纂1(木村常治所蔵)／『大日本史料　10編8』P222 | | 泊又五郎殿　ほか4名、其外郡衆中 | |
| | | (12) | | | 児玉韞採集文書3-160(泊源七所持) | | | |
| | | 参考 | 天正7年8月13日 | | 豊前覚書／『筑前博多史料豊前覚書』P26 | | | 戸次道雪、木付鑑実が籠もる「麹子か嶽」に兵粮を入れる。 |
| | | (13) | (天正8年)11月27日 | 大友義統感状 | 児玉韞採集文書7-97・129(是松氏所蔵) | (大友)義統 | 是松中務丞殿 | 去々年よりの「好士岳」籠城、去冬以来「立花」在城等の軍忠を賞す。 |
| | | (14) | (天正8年)11月28日 | | 田原(精)文書13／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P629、『西国武士団関係史料集11　田原文書』P17 | | 田原亀寿殿 | |
| | | (15) | | | 三苫重義資料43／『福岡市史　資料編　中世1』P1090、『香椎B遺跡　本編』P376 | | 三苫宮内少輔殿 | |
| | | (16) | | | 今村家資料40／『柳川藩今村家寄贈品目録』、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P49 | | 大和孫次郎(統安)殿 | |
| | | 参考 | (天正8・9年) | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P612 | | | 龍造寺隆信、筑前9郡・豊前3郡を切り従え、内野・荒平・柑子岳・飯盛・鳥飼等の城に諸将を置く。 |
| | | (17) | (年未詳)4月16日 | 戸次道雪知行預ケ状写 | 桜井文書(立花家旧臣文書)／『大日本史料11-20』P229、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P304 | (戸次)道雪 | 桜井中務少輔殿 | 桜井中務少輔の「好士岳」入城を賞し、知行を預ける。 |
| | | (18) | (年未詳)9月11日 | 戸次道雪書状写 | 木付文書(立花家旧臣文書)／『大日本史料11-20』P246、『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P318 | (戸次道)雪 | (木付鑑)実 | 木付鑑実の「好士岳」に差し置いた者どもへの懇意に対し、謝意を述べる。 |
| | | (19) | (年未詳)7月6日 | 大友義統感状写 | 木付文書(立花家旧臣文書)／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P316 | (大友)義統 | 是久上総助殿 | 去年の「好士岳敵取懸」における軍忠を賞す。 |
| | | (20) | (年未詳)10月6日 | | 隈部文書105-1／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P196 | | 宇野但馬入道殿 | |
| | | (21) | (年月日未詳) | 某事書 | 松隈文書／『福岡市史　資料編　中世2』P799 | | | 佐波興連が柑子岳城を下城する際に、書状の差出である某が博多津で奔走したことを言上したかと尋ねる。 |
| | | 参考 | (年月日未詳) | 道雪様御代戦死之人数 | 十時(吉)文書B8／『柳川市史　史料編5　近世文書(前)』P659 | | | 「筑前国好士獄ニ而」。 |
| 349 | 水崎城 | (1) | (永享7～長禄3年)11月29日 | 大友親綱書状 | 児玉韞採集文書6-41(重富氏所蔵散帙文書)、由比文書」17／『九州中世史研究3』P401、『西国武士団関係史料集14　由比文書』P66 | (大友)親綱 | 水崎城衆中 | 「水崎城」における軍忠を賞す。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 349 | 水崎城 | (2) | 永正4年2月2日 | 臼杵親連知書状写 | 麻那古村大光寺文書写5／『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』P1631 | (臼杵)親述 | 松隈七郎殿 | 「水崎古城麓合戦」における親父討死の軍忠を賞し、本地の返給を約す。 |
| | | (3) | (永正4年)2月11日 | 大友親治感状 | 児玉韞採集文書7-106(是松氏所蔵) | (大友)親治 | 是松新兵衛尉殿 | 1月25日の「水崎合戦」における軍忠を賞す。 |
| | | (4) | 永正4年2月23日 | 大聖院宗心預ケ状写 | 児玉韞採集文書2-56(西氏所蔵旧簡)／『福岡市史　資料編　中世1』P79・811 | (大聖院)宗心 | 西徳王(重道)殿 | 「水崎防戦」における軍忠を賞し、郡内に20町預け遣わす。 |
| | | (5) | | 田原親述預ケ状写 | 児玉韞採集文書2-56(西氏所蔵旧簡)／『福岡市史　資料編　中世1』P79 | (田原)親述 | 西徳王丸(重道)殿 | 「水崎」における軍忠を賞し、郡内に20町預け遣わす。 |
| | | (6) | (永正4年8月ヵ)19日 | 大聖院宗心知行宛行写 | 麻那古村大光寺文書写14／『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』P1633 | (大聖院)宗心 | 松隈七郎殿 | 「水崎」における父の忠節により、その跡地と愁訴の地を知行させる。 |
| | | (7) | (享禄4年)11月12日 | 大内氏奉行人連署状 | 児玉韞採集文書3-102(王丸氏古文書)／『福岡市史　資料編　中世1』P654、『大蔵姓原田氏編年史料』P190 | (杉)興道・(杉)興重 | 王丸兵庫允殿 | 「水崎人数」が10月14日に「原田領分」を攻撃する。 |
| | | (8) | 天文8年11月13日 | 大内義隆感状写 | 王丸文書／『福岡市史　資料編　中世1』 | (大内義隆) | 王丸丹後守(助)殿 | 去享禄4年10月14日夜、「水崎人数」による原田「領分」攻撃の軍忠を賞す。 |
| 354 | 西田城<br>(井田原城) | (1) | 応安6年9月29日 | 今川了俊書下 | 斑島文書／『大宰府・太宰府天満宮史料12』P285、『南北朝遺文　九州編5』5058 | 沙弥(今川了俊) | 松浦有浦(祝)殿 | 有浦祝の「筑前国怡土志摩庄内井田原」への乱入と「城郭」の構築を咎め、その破却と参陣を命じる。 |
| | | (2) | (応安6年)閏10月22日 | 今川了俊書状写 | 有浦文書／『大宰府・太宰府天満宮史料12』P285、『南北朝遺文　九州編5』5069 | (今川)了俊 | 有浦(祝)殿 | 有浦祝、今川了俊に「伊田原」の「地下城」について破却の意を伝える。了俊、「地下」については認め、まず乱入を止めるべきことを命じる。 |

＜近世城館＞

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K6 | 犬鳴別館 | (1) | 元治1年5月2日 | 犬鳴御別館築城由来記 | 藤島利平文書／『犬鳴3』P17 | | | 「御別館御城築」のため見分始まる。 |
| | | (2) | 元治1年7月14日 | | 藤島利平文書／『犬鳴3』P19 | | | 「御別館」の普請始まる。 |
| | | (3) | 文久4(元治元)年 | | 見聞略記／『見聞略記』P170 | | | 鞍手郡犬鳴山に「御屋形」建築、「右ハ異船事立候節、御前様方之隠家なるべし」。 |
| | | (4) | 慶応1年11月13日 | | 綱領13(黒田家文書)／『新訂黒田家譜7上』P377 | | | 「犬鳴谷別館成就」。 |
| | | (5) | 慶応1年 | | 見聞略記／『見聞略記』P260 | | | 「犬啼山之御館」竣工、遠国には「要害堅固之地ニ名城御築」との風聞あるか。 |
| | | (6) | 慶応2年2月 | 犬鳴御別館築城由来記 | 藤島利平文書／『犬鳴3』P29 | | | 「御茶屋」と改称する。 |
| | | (7) | 明治2年3月31日 | | 藤島利平文書／『犬鳴3』P32 | | | 黒田長知、「犬鳴御茶屋」に宿泊する。 |
| | | (8) | 明治4年7月 | | 藤島利平文書／『犬鳴3』P35 | | | 黒田長知上京に伴い、「犬鳴御茶屋」を武部小四郎に預ける。 |
| K8 | 直方陣屋 | (1) | 元和9年7月27日 | 黒田長政書状写 | 吉田家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(下)』P320、『直方市史　資料編　上』P70 | (黒田)長政 | 右衛門佐(黒田忠之)殿 | 黒田長政、4男高政に「高鳥」において4万石を分知することを命じる。 |
| | | 参考 | 寛永1年 | | 吉田家伝録6／『直方市史　資料編　上』P71 | | | 井上周防・吉田壱岐、鞍手郡にて黒田高政の居所地を選定し、新入村の境内地に館を建造する(「直方旧考(庄野文書)」では寛永2年)。付近に残る「東蓮寺」名より、その号名とする。 |
| | | 参考 | 寛永3年 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P73 | | | 黒田高政、東蓮寺に入部する。 |
| | | 参考 | | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P75 | | | 「東蓮寺御旧館」の地は、杉連並の臣尾仲加賀の居住地で、その子利左衛門が住したが、東蓮寺館の築造により山部村に移る。 |
| | | 参考 | 延宝3年12月7日 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P92 | | | 府名を「東蓮寺」から「直方」に改める。 |
| | | 参考 | 延宝4年1月29日 | | | | | 「直方新御殿」の地形鍬初あり、その地形は「多賀宮よりはるか南ニ、東の御茶屋跡といふ所の北に、わすか其跡有」 |
| | | 参考 | 延宝5年2月28日 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P93 | | | 直方藩、福岡本藩に統合となる。直方4万石は家老明石助九郎支配となり「御館」において家中へ申渡しあり。 |
| | | 参考 | 貞享4年10月28日 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P100 | | | 黒田光之・長清、「直方御館」一覧のため直方に向かう。 |
| | | 参考 | 元禄1年12月9日 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P101 | | | 黒田長清、5万石を分知する。 |
| | | 参考 | 元禄2年10月3日 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P102 | | | 「直方新御館」の地所見分のため関係者が会す。 |
| | | 参考 | 元禄3年1月25日 | | | | | 黒田長清、「直方御館所」の拝領を仰付けらる。 |
| | | 参考 | 元禄5年1月 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P103 | | | 妙見山に「新館」の普請始まり、年中に成就する。 |
| | | 参考 | 元禄12年 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P104 | | | 永満寺村の大興山双林院を、東蓮寺の「御旧館」の地に移す。 |
| | | 参考 | 享保5年5月1日 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P109 | | | 直方藩、福岡本藩に再び統合となる。 |
| | | (2) | (享保5年ヵ)6月19日 | 覚 | 黒田家文書／『直方市史　資料編　上』P144 | | | 「直方御館」・両御茶屋・番所・役所等は当面今までの通りに維持し、「御館御番」等を4人宛置くこと等を定める。 |
| | | (3) | 享保5年6月24日 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P110 | | | 「直方空館」惣詰御番を定める。 |
| | | 参考 | 享保5年10月 | | 『黒田家譜早鑑』P97 | | | 「直方御館御門」、福岡へ移築し「長倉御門」とする。 |
| | | (4) | 享保9年5月25日 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P113 | | | 田中源五右衛門、「直方在番」に罷り越すも、「御番宅」未だ出来せず、古町桜田屋伝兵衛所に入る。 |
| | | (5) | 享保10年2月 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P112 | | | 「直方空館」御番を廃す。 |
| | | (6) | 享保14年7月16日 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P114 | | | 直方代官を設け、直方および近郷を支配させる。 |
| | | (7) | 寛延3年9月 | | | | | 直方代官を廃す。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K8 | 直方陣屋 | (8) | 天明8年9月 | | 直方旧考(庄野文書)／『直方市史　資料編　上』P74 | | | 舌間宗益「直方旧考(庄野文書)」自序に「御殿山ハ竹木を伐荒し、むかしの向背たしかならす」。 |
| | | (9) | (年月日未詳) | 直方藩御曲輪内諸口間数記 | 阿部文書168／『直方市史　資料編　上』P116 | | | 直方館内の「御館」以下諸施設の間数を書きあげる。 |
| K10 | 黒崎城 | 参考 | 慶長6年 | | 黒田家譜14／『新訂黒田家譜1』P464 | | | 遠賀郡黒崎城を築き、井上周防を置く。 |
| | | (1) | 慶長9年 | 井上家始末覚(慶安3年7月5日) | 波多野文書／『豊山八幡神社　春日神社　波多野家文書2』 | | (香月村庄屋清左衛門) | 大野休也、井上之房の与力として「黒崎之御城」に召し置かれる。 |
| | | (2) | (慶長10年頃ヵ)9月1日 | 黒田長政書状写 | 竹森家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P395 | (黒田)長政 | 井上周防守(之房)殿ほか26名 | 「黒崎角石」について、「鍛冶不足」のため、鍛冶は雇い貸しにするよう指示する。来る21日には「角石」の見分に参ることを伝える。 |
| | | (3) | (慶長10年頃ヵ)10月25日 | 黒田長政書状 | 吉田家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(下)』P306 | (黒田)長政 | 吉田壱岐守(長利)とのへ | 「黒崎角石出し百性」86人の差出を命じる。 |
| | | 参考 | 元和1年 | | 久野家譜 | | | 黒田長政、大坂夏の陣後の京都滞在中「御国中御本城の外、端城は破壊候様」徳川氏より内達される。 |
| | | (4) | 元和1年閏6月13日 | 江戸幕府老中連署奉書 | 黒田家文書／『黒田家文書2』P69、黒田家譜14／『新訂黒田家譜1』P489 | 安藤対馬守重次、土井大炊助利勝、酒井雅楽守忠世 | 黒田筑前守(長政)殿 | 一国一城令により、六端城を破却する。 |
| | | (5) | (元和1年ヵ)11月22日 | 井上之房家臣連署状 | 波多野文書／『豊山八幡神社　春日神社　波多野家文書2』 | 大野左馬右衛門、大村六郎左衛門 | 波多野神太夫殿 | 一国一城令による「当城破還」のため、櫓守護の「広嶺宮」を「町内」へ戻すことについて。 |
| K11 | 若松城(中島城) | (1) | (永禄12年)3月20日 | 小早川隆景・吉川元春連署状 | 萩藩閥閲録38井上彦左衛門31／『萩藩閥閲録2』P55 | 吉川元春、小早川隆景 | 井上源右衛門尉殿 | 井上源右衛門尉、小田備前守と申談じ、「都波田(戸畑)中島」に居留する。 |
| | | 参考 | 慶長6年 | | 黒田家譜14／『新訂黒田家譜1』P464 | | | 遠賀郡若松城を築き、三宅若狭を置く。 |
| | | 参考 | 元和1年 | | 久野家譜 | | | 黒田長政、大坂夏の陣後の京都滞在中「御国中御本城の外、端城は破壊候様」徳川氏より内達される。 |
| | | (2) | 元和1年閏6月13日 | 江戸幕府老中連署奉書 | 黒田家文書／『黒田家文書2』P69、黒田家譜14／『新訂黒田家譜1』P489 | 安藤対馬守重次、土井大炊助利勝、酒井雅楽守忠世 | 黒田筑前守(長政)殿 | 一国一城令により、六端城を破却する。 |
| K13 | 名島城 | (1) | (天正16年ヵ)3月11日 | 麻生瓊鉄書状 | 麻生文書50／『筑前麻生文書』P57、『福岡市史　資料編　中世1』P564 | (麻生)瓊鉄 | (麻生)家氏 | 幡生土佐守、この度の「なしま御普請」に名代として15・6の「しほかしら」を差し出す。 |
| | | (2) | 天正16年2月25日 | | 宗湛日記／『福岡県史資料5』P198、『宗湛茶湯日記』P93 | | | 「名島御城取之事　…御普請始也」 |
| | | (3) | 天正16年3月6日 | | | | | 神屋宗湛、城普請見舞いに小早川隆景を名島に訪れる。 |
| | | (4) | 天正16年11月10日 | | | | | 小早川隆景・秀包およびその家臣ら、「名島」にて茶会を催す。 |
| | | (5) | 天正17年1月2・5・8・10～12日、2月15日、7月19日、8月27日、9月5日 | | 宗湛日記／『福岡県史資料5』P199、『宗湛茶湯日記』P95～98 | | | |
| | | (6) | 天正18年1月2・4・6・10・15・20・21・23・25・28日、2月10日 | | 宗湛日記／『福岡県史資料5』P201、『宗湛茶湯日記』P98～99 | | | |
| | | (7) | 天正19年1月2・4・5・8・10・15・25日、2月1・16・20日、3月7・8日、4月3・10・16・25日 | | 宗湛日記／『福岡県史資料5』P202、『宗湛茶湯日記』P105～108 | | | |
| | | (8) | (天正17年)11月22日 | 小早川隆景書状 | 神屋文書／『福岡県史資料5』P183、『名島城跡1』P28 | (小早川)隆景 | (神屋)宗湛寿才 | 「名嶋・博多両町屋」等の出来に心遣専一と伝える。 |
| | | (9) | (天正19年)閏1月7日 | 小早川隆景書状写 | 萩藩閥閲録5毛利宇右衛門25／『名島城跡1』P28、『萩藩閥閲録1』P57 | (小早川)左衛隆景 | 元氏 | 「名嶋之町は家一つも無御座上、普請衆彼是入ましり候」 |
| | | (10) | (天正19年)閏1月18日 | 小早川隆景条々 | 筑前国続風土記附録11二日市村／『名島城跡1』P27、『筑前国続風土記附録　上』 | 左衛門佐(小早川隆景) | | 「名嶋・三原」所用について奉書については沙汰をし、また黒田・毛利・加藤・小西よりの京都御用の紙面については堅固に送るべきことを定む。 |
| | | (11) | (天正19年)12月8日 | 小早川隆景書状写 | 萩藩閥閲録50飯田与一左衛門13／『萩藩閥閲録2』P288、『名島城跡1』P27 | (小早川)左衛門佐隆景 | 伊賀与三郎殿 | 来正月20日までに「名嶋」に到着・在宅すべきこと、「名嶋」の普請は年明けに申し付けることを伝える。 |
| | | (12) | (天正20年)1月24日 | 豊臣秀吉朱印状 | 小早川家文書289／『大日本古文書11-1』P266、『名島城跡1』P27、『福岡市史　資料編　中世2』P295 | (豊臣秀吉) | 羽柴筑前侍従(小早川隆景)とのへ | 「御本陣より次飛脚」について、「名嶋」より宗像まで速やかに遣わすべきことを令す。 |
| | | (13) | (天正20年)2月日 | 豊臣秀次朱印状 | 小早川家文書303／『大日本古文書11-1』P279、『名島城跡1』P27 | (豊臣秀次) | 筑前宗像にて　小早川代官 | 「御陣へ御用」の継飛脚について、宗像より「名嶋」まで速やかに遣わすべきことを令す。 |
| | | (14) | 天正20年4月5日 | | 宗湛日記／『福岡県史資料5』P204、『宗湛茶湯日記』P109 | | | 手島市助、「名島」にて茶会を催す。 |
| | | (15) | (天正20年または文禄2年) | 豊臣秀吉上洛諸泊次第写 | 小早川家文書　小早川家御什書写9-4／『大日本古文書11-2』P382、『名島城跡1』 | | | 深江より兵庫まで休泊場所の書き上げ。「なしま同(とまり)」とあり。 |
| | | (16) | (文禄2年)5月19日 | 長束正家書状 | 小早川家文書416／『大日本古文書11-1』P364、『名島城跡1』P26、『福岡市史　資料編　中世2』P424 | 長束大蔵大輔正家 | (小早川)隆景様 | 「名嶋御留守居衆」について報じる。 |
| | | (17) | 文禄3年9月25日 | | 宗湛日記／『福岡県史資料5』P207、『宗湛茶湯日記』P141 | | | 小早川隆景、「名島」にて茶会を催す。 |
| | | (18) | 文禄4年2月8・10日 | | 宗湛日記／『福岡県史資料5』P208、『宗湛茶湯日記』P143 | | | 鵜新右・山口玄蕃宗永、「名島」にて茶会を催す。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K13 | 名島城 | (19) | (文禄4年)8月5日 | 小早川隆景書状 | 神屋文書／『福岡県史資料5』P182、『名島城跡1』P25、『福岡市史　資料編　中世2』P294 | (小早川)隆景 | (神屋)宗湛 | 小早川秀俊の初下向のため、三原まで「御迎船」を博多津より馳走すること、御供衆の宿所の用意、「名島町屋」の取り繕いについて油断なきよう伝える。 |
| | | (20) | 文禄4年8月17日 | | 宗湛日記／『福岡県史資料5』P208、『宗湛茶湯日記』P144 | | | 小早川隆景、備後三原より名島に戻り、毛利秀包・神屋宗湛らと茶会を催す。 |
| | | (21) | 文禄4年9月20日 | | 宗湛日記／『福岡県史資料5』P209、『宗湛茶湯日記』P144～146 | | | 小早川秀俊、初めて筑前に入り、名島城「御茶屋」にて歓待を受ける。 |
| | | (22) | 文禄4年9月25日、10月2・14・18・29日 | | | | | 小早川隆景・秀秋・神屋宗湛ら、「名島」「御茶屋」にて茶会を催す。 |
| | | (23) | 文禄4年9月27日 | | | | | 金十郎、お礼のため「名島」の小早川秀俊を訪ねる。 |
| | | (24) | 文禄4年10月29日 | | 宗湛日記／『福岡県史資料5』P210、『宗湛茶湯日記』P146 | | | 博多の町衆、福神・えびす等松はやしを仕立て、「御城」にて小早川秀俊の覧に供す。 |
| | | (25) | 文禄4年11月6・17日 | | | | | 山口玄蕃宗永、「名島」にて茶会を催す。 |
| | | (26) | 文禄5年閏7月13日 | 山口宗永条々 | 檜垣文庫資料／『福岡市史資料編　中世1』P131、『名島城跡1』P25 | 山口玄蕃頭(宗永) | 早良郡 | 郡内に条々を令し、違犯の輩これあらば「名嶋」に注進するよう命じる。 |
| | | (27) | | | 臼井正氏所蔵文書／『嘉穂地方史　古代中世編』P414 | | 嘉麻郡 | |
| | | (28) | **(年未詳)10月1日** | **小早川隆景書状** | **神屋文書／『名島城跡1』P25、『福岡市史資料編　中世2』P295** | **(小早川)隆景** | **桂宮(景種)** | **小早川秀俊の「名嶋御下向」は年内は延期のため、神屋宗湛・嶋井宗室らに三原に上るよう命じる。** |
| | | (29) | (年未詳)12月25日 | 豊臣秀吉朱印状 | 小早川家文書377／『大日本古文書11-1』P329、『名島城跡1』P25 | (豊臣秀吉) | 名嶋留守居中 | 「名嶋留守居中」、近浦で捕獲した鯨を秀吉に献上する。 |
| | | (30) | (年未詳)11月4日 | | 毛利家文書979／『大日本古文集8-3』P265／『福岡市史　資料編　中世2』P861 | | 安芸中納言(毛利輝元)殿 | 疱瘡にかかった小早川秀秋の見舞いで輝元が「名嶋」に向かった事を快く思う。 |
| | | (31) | 慶長3年4月20日 | 西生浦在番人数帳 | 村上水軍文書／『名島城1』P24 | 山口玄蕃頭(宗永) | 村上三郎兵衛殿 | 西生浦在番の当番について定め、次の当番衆は交替月の朔日に「なしま」・「名嶋」を出船させることとする。 |
| | | (32) | | 西生浦在番人数帳写 | 萩藩閥閲録25清水宮内13／『萩藩閥閲録1』P613 | | 清水五郎左衛門殿 | |
| | | (33) | 慶長3年7月5日 | 石田三成禁制写 | 筑前国続風土記附録34箱崎村／『名島城跡1』P23、『筑前国続風土記附録　中』 | 治部少輔(石田三成) | | 箱崎松原における伐採を禁じ、違反者にがあれば「なしま」へ注進するよう命じる。 |
| | | (34) | 慶長3年11月25・27日 | | 宗湛日記／『福岡県史資料5』P212、『宗湛茶湯日記』P160～161 | | | 浅野長政、「名島御城」にて茶会を催す。 |
| | | (35) | (慶長5年)9月24日 | 森則慶書状 | 黒田家文書220／『黒田家文書1　本編』P476、『福岡市史　資料編　中世1』P770 | (森)則慶 | 鍋(鍋島)生三様、石(石井)生札様 | 豊後日隈城主毛利友重の留守居森則慶、鍋島直茂側近に豊後における黒田如水の進撃に際し、直茂に援軍を求め、「名嶋」よりは伊藤重家が援軍を申し出たことを伝える。 |
| | | (36) | (慶長5年)12月23日 | 黒田長政書状写 | 在官庫文書／史料綜覧11編913冊283頁 | (黒田長政) | (島津義弘) | 黒田長政、12月上旬に筑前入国する。 |
| | | 参考 | 慶長5年12月8日 | | 黒田家譜13／『新訂黒田家譜1』P460 | | | 黒田長政、家臣を派遣して名島城を受け取らせる。 |
| | | 参考 | 慶長5年12月11日 | | 黒田家譜13／『新訂黒田家譜1』P460 | | | 黒田長政、名島城に入城する。 |
| | | **参考** | **慶長6年1月1日** | | **黒田家譜14／『新訂黒田家譜1』P462** | | | **黒田長政、名島城にて家中諸士の礼を受ける。** |
| | | 参考 | 慶長6年 | | 黒田家譜14／『新訂黒田家譜1』P463 | | | 黒田長政、福岡城を築いて居城とし、名島城を破却する。 |
| | | (37) | (年未詳)6月1日 | 黒田如水書状写 | 高橋家文書(「黒田御用記」高橋忠左衛門分)／『名島城跡1』P23 | (黒田)如水 | 高橋彦二郎殿 | 黒田如水、「名嶋」より福岡へ遣わす「道具」と人夫雇いについて指示する。 |
| K14 | 福岡城 | (1) | 慶長6年 | | 黒田家譜14／『新訂黒田家譜1』P463 | | | 黒田如水・長政、福崎を城地として城を築き、福岡城と名付け居城とする |
| | | (2) | (慶長6年)5月28日 | 黒田長政書状 | 野口家文書／『黒田家文書2』P220 | 黒田(長政) | 野口左介(一成)殿、益田与介(宗清)殿、菅六介(正利)殿 | 普請手伝いの者に「五郎太」を割らせおくこと、「大石之衆」に寄せ石を申し付けることを命じる。 |
| | | (3) | (慶長6年)7月24日 | 黒田如水書状 | 野口家文書／『黒田家文書2』P218 | (黒田)如水 | 野口左介(一成)殿、益田与介(宗清)殿 | 「石垣之儀」について来月12日よりの築造を命じる。 |
| | | (4) | (慶長6年)8月1日 | | | | 野口左介(一成)とのへ　ほか3名 | 「地形之普請割」の決定を尋ね、明日よりの普請の油断なきことを命じる。来月5日の「帰城」を伝える。 |
| | | (5) | (慶長6年)8月12日 | | 三奈木黒田家文書6-4／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(下)』P171 | | 栗四郎右衛門(栗山利安)殿　ほか5名 | 「天守之石垣」の築造開始を確認し、油断なきことを命じる。 |
| | | (6) | (慶長6年)8月23日 | 黒田長政書状 | 三奈木黒田家文書6-9／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(下)』P184 | (黒田)長政 | 黒田惣右衛門(直之)殿　ほか5名 | 「天守南之つきさしの石垣」の急ぎ築造を命じる。 |
| | | (7) | (慶長6年)9月1日 | | 野口家文書／『黒田家文書2』P219 | 黒(黒田)甲長政 | 益田与介(宗清)殿、野口左介(一成)殿 | 黒田長政、石垣の築造と「天守之衛」となる30間の「居矢倉」について指示を出し、自らの帰国前に「天守どだい」の完成を命じる。 |
| | | (8) | **(慶長6年)9月15日** | **黒田如水書状** | 妙行寺文書／『福岡県地域史研究9』P75 | **(黒田)如水軒円** | 下宰相(下間宰相法印)様 | **本願寺坊官下間氏に甲斐守(長政)の「居城取替」のために家臣が多忙であることを伝える。** |
| | | (9) | (慶長7年)2月15日 | 黒田長政書状 | 三奈木黒田家文書6-12／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(下)』P182 | (黒田)長政 | 黒田三左衛門(一成)殿 | 「天守」の「柱立」を今月中に執り行うよう命じる。 |
| | | (10) | (慶長10年頃カ)6月15日 | | 竹森家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P415 | | 竹森新右衛門(次貞)殿 | 黒田長政、自らの帰国前に、後藤又兵衛屋敷地下の石垣(三の丸東部)の早急な築造を命じ、縄張りのため久野元次を遣わす。 |
| | | (11) | (慶長11年頃カ)5月3日 | 黒田長政書状写 | 竹森家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P383 | | | 「其地(福岡)石垣」について、8月までの竣工予定を伝え、百姓の徴用について配慮を命じる。 |
| | | (12) | | | 竹森家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P384 | | 竹森清左衛門(貞幸)とのへ | 「其地(福岡)」の普請状況報告を受け、唐泊から廻漕の石について指示する。「城廻り」の植木・竹の繁茂について祝着の意を伝える。 |
| | | (13) | (慶長11年頃カ)5月28日 | | 竹森家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P385 | | | 7月中旬までに「大石・栗石・根石」を寄せ、8月1日よりの石垣普請開始に同意する。 |
| | | (14) | (慶長11年)6月晦日 | | 竹森家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P387 | | | 「城がんぎ石」完成の報に、自らの帰国後に"据える"べく、福岡に取り寄せを命じる。「城之井土石」の横浜よりの取り寄せを了承し、「よき石」の選定を指示する。 |
| | | (15) | (慶長11年)7月1日 | | | | 竹森清左衛門尉(貞幸)とのへ | 唐泊より廻漕の割石を「其元」にて割ることを了承する。風害による石垣崩壊・損傷箇所について修繕不必要、「城廻り塀」などの損傷は修繕を命じる。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K14 | 福岡城 | (16) | (慶長11年)8月15日 | 黒田長政書状写 | 竹森家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P392 | (黒田)長政 | 竹森清左衛門(貞幸)とのへ | 「城中刷普請」の「大方出来」の報を受け、「天守・宗雪丸」などの修繕を了承する。 |
| | | (17) | (慶長11年)8月23日 | | 竹森家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P394 | | | 「其地(福岡)石垣」について、東方の「枡形」(上之橋ヵ)の完成と、西方の「枡形」(下之橋ヵ)の4・5日中の完成予定の報を受ける。「橋より北方の石垣」は「伊勢丸のきわ」「入角」までの築造を指示する。 |
| | | 参考 | 慶長11年 | | 黒田家譜14／『新訂黒田家譜1』P464 | | | 慶長6年より当年までに福岡城と6端城すべて完成する。 |
| | | (18) | (元和6年)3月15日 | 細川忠利書状案 | 細川家史料／『大日本近世史料　細川家史料8』P128 | (細川忠利) | 長船十右衛門殿(細川忠興) | 黒田長政が「主居城」の大方を破却して江戸に参府し、何れ「天主」なども崩すとの噂を伝える。 |
| | | (19) | (元和6年)3月16日 | | 細川家史料／『大日本近世史料　細川家史料8』P130 | | | 黒田長政が「ふく岡の天主」・「家」を破却との情報を伝える。 |
| | | (20) | (元和6年)3月29日 | 細川忠興書状 | 細川家史料／『大日本近世史料　細川家史料1』P284 | 細越中忠(細川忠興) | 曽又左様・内記殿 | 黒田長政が「城を割」(天守破却ヵ)とのことを伝える |
| | | (21) | 元和6年 | | 松井文庫9-4-9-2／『松井文庫所蔵古文書調査報告書1』P92 | (細川忠興) | (欠) | 黒田長政が「ふくおかの城をくつし」、「石垣も天主も」用材を大坂城普請に転用するとの情報を聞く。 |
| | | (22) | 元和9年7月27日 | 金銀道具之帳控 | 黒田家文書／『黒田家文書2』P111 | (黒田)長政 | 右衛門佐殿(黒田忠之) | 黒田高政への形見分けのうち「高麗ニて我等着候具足・一谷ノ甲遣候、福岡天守ニ有之」。 |
| | | (23) | (寛永前半期)8月4日 | 黒田忠之書状写 | 郡家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P302 | (黒田)忠之 | 野村隼人(祐直)殿、郡正太夫(慶成)殿 | 銀子200貫目程を「天守」より取出し、伊藤二郎兵に渡すよう指示する。 |
| | | (24) | (寛永前半期)12月15日 | | 郡家文書／『福岡県史　近世史料編　福岡藩初期(上)』P305 | | 郡正太夫(慶成)殿 | 「天守」にある道具や家内の諸道具を改め、「大帳」を調えるよう指示する。 |
| | | 参考 | 寛永10年頃 | | 『福岡市史　特別編　福岡城』P148 | | | 黒田忠之、三の丸西部に御殿、およびその西に大身家臣の屋敷を造営する。 |
| | | 参考 | 正保3年 | (正保期)福博惣絵図 | 黒田家資料 | | | この年までに城内の櫓5か所・城下の櫓3か所が撤去される。 |
| | | 参考 | 寛文11年6月11日 | | 黒田新続家譜3／『新訂黒田家譜2』P348 | | | 黒田光之、三の丸北西部に新たな御殿を造営する。 |
| | | 参考 | 寛文11～延宝7年 | | 黒田新続家譜5／『新訂黒田家譜2』P432 | | | 大堀の西～南岸に大土手を築く。 |
| | | 参考 | 宝暦13年9月7日 | | 黒田新続家譜30／『新訂黒田家譜4』P406 | | | 三の丸御殿焼失。翌年再建される。 |
| | | 参考 | 明和5年 | | 黒田新続家譜32／『新訂黒田家譜4』P466 | | | 天守台下東に聖照宮が造営される。 |
| | | 参考 | 安永2年 | | 黒田新続家譜34／『新訂黒田家譜5』P41 | | | 聖照宮の左殿に水鏡宮を勧請する。 |
| | | 参考 | 天明期 | | 『福岡市史　特別編　福岡城』P156 | | | この頃までに三の丸南西部の大身屋敷が撤去され、「御用屋敷」と「南馬場」となる。 |
| | | 参考 | 寛政9年 | 御要害御作事ヶ所附 | 櫓垣文庫5-6 | | | 二の丸御殿が解体される。 |
| | | (25) | (明治3年)3月15日 | 福岡藩達写 | 維新雑誌／『福岡市史　資料編　近現代1』P475 | (福岡)藩政庁 | | 17日より藩政庁・司計局・監察局を本丸に移すことを達す。 |
| | | (26) | 明治4年7月 | | 維新雑誌／『福岡市史　資料編　近現代1』P591 | | | 14日廃藩置県。三の丸御殿が県庁となる。 |
| | | (27) | 明治6年頃 | | 福岡県地理全誌1／『福岡県史　近代史料編　福岡県地理全誌1』P40 | | | 本丸・二の丸が陸軍省所轄、三の丸は内務省所轄。 |
| | | 参考 | | | 維新雑誌／『福岡市史　資料編　近現代1』P650 | | | 本丸・二の丸は従前と変わらないが、「櫓・矢間」を始め瓦落ち、壁破れた状況。三の丸は御殿をはじめとする西部は県庁となり、東部の大身屋敷は解体されて桑・麦・茶・菜の畑となる。 |
| | | (28) | 明治6年6月22日 | | 横田徐翁日記(横田文書70)／『福岡市史特別編　福岡城』P193 | | | 筑前竹槍一揆の一揆勢が県庁を打ち壊す。 |
| | | (29) | 明治9年4月 | | 『福岡市史　特別編　福岡城』P175・300 | | | 歩兵14連隊第3大隊が福岡城に設置される。 |
| | | (30) | 明治9年7月5日 | | 『福岡市史　特別編　福岡城』P193・300 | | | 県庁が天神町に移転。城全域が陸軍省所轄となる。 |

＜城館等伝承地＞

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D66 | 鉢窪 | (1) | 天正6年7月5日 | 原田了栄知行宛行状写 | 児玉蠧採集文書3-149(波多江弥右衛門所持) | (原田)了栄 | 波多江丹波守殿 | 「池田下河原合戦」「鉢窪・生松原・姪浜所々」における軍忠を賞し、志摩郡閏村に知行を与える。 |

＜城館関連遺跡＞

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R37 | 元寇防塁 | (1) | 建治2年3月10日 | 少弐経資石築地役催促状 | 深江文書／『鎌倉遺文　古文書編16』12260、『佐賀県史料集成4』P250、『福岡県史資料9』P207、『注解　元寇防塁編年史料』P147 | 少弐(経資) | 深江村地頭殿 | 肥前守護少弐経資、「要害石築地」の築造のため、3月20日までに人夫を伴って博多津に向かうよう命じる。 |
| | | 参考 | 建治2年3月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P6 | | | 鎌倉幕府、異国警固のため、九州の武士に課役して、博多の津に石築地を構えさせる。 |
| | | (2) | 建治2年8月日 | 石築地役配符案 | 調所氏譜祐恒伝(薩藩旧記雑録前編)／『注解　元寇防塁編年史料』P164、『福岡県史資料9』P214 | 調所藤原・書生藤原・惣官大蔵・大介兼税所藤原・守護代兵衛尉藤原 | | 大隅国衙・守護代、同国内に「石築地役」を平均に課す。 |
| | | (3) | 建治3年1月27日 | 島津久時石築地役覆勘状 | 比志島文書／『注解　元寇防塁編年史料』P177、『福岡県史資料9』P216 | (島津)久時 | 比志島太郎(佐範)殿 | 薩摩守護島津久時(久経)、比志島佐範の「筥崎役所築地」の勤役完了を証す。 |
| | | (4) | 弘安4年2月18日 | 少弐経資書下 | 武雄神社文書／『注解　元寇防塁編年史料』P186、『佐賀県史料集成2』P61、『福岡県史資料10』P19 | 少弐(経資) | 武尾(雄)大宮司(頼門)殿 | 肥前守護少弐経資、武雄大宮司頼門に楯ならびに「石築地上垣楯」の用意を命じる。 |
| | | (5) | 弘安4年9月16日 | 六波羅御教書 | 野上文書／『注解　元寇防塁編年史料』P198、『福岡県史資料10』P45 | 左近将監(北条時国) | 野上太郎 | 六波羅探題北条時国、九州諸士の上洛を禁じ、異国人の取り扱い等を定め、「要害修固幷番役」を懈怠なく勤むべきを令す。 |
| | | (6) | 弘安7年閏4月21日 | 宗忠石築地役覆勘状 | 比志島文書／『注解　元寇防塁編年史料』P207 | 宗忠 | 比志島太郎(佐範)殿 | 薩摩守護代宗忠、比志島佐範の「筥崎役所築地」の勤役完了を証す。 |
| | | (7) | 弘安9年8月27日 | 少弐経資書下 | 青方文書／『注解　元寇防塁編年史料』 | 大宰少弐(経資) | 友清又次郎入道殿 | 筑後守護少弐経資、友清又次郎入道に「博多庄浜石築地」勤役を命じる。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R37 | 元寇防塁 | (8) | 弘安9年10月日 | 新田八幡宮石築地用途支配注文案 | 「薩藩旧記雑録6」／『注解　元寇防塁編年史料』P228 | 執行貫首紀、6名略ス、執印散位惟宗 | | 新田八幡宮政所、「筥崎小松洲崎石築地」の費用割り当てを注進する。 |
| | | (9) | 弘安10年7月25日 | 唯道施行状 | 台明寺文書／『注解　元寇防塁編年史料』P235、『福岡県史資料10』P73 | 守護代僧唯道 | 台明寺衆徒中 | 大隅守護代唯道、台明寺料田の「石築地役」免除を施行する。 |
| | | (10) | 正応2年4月5日 | 島津忠宗石築地役覆勘状 | 川田家文書／『注解　元寇防塁編年史料』P242、『福岡市史　資料編　中世2』P347 | (島津)忠宗 | 比志島孫太郎(忠範)殿 | 薩摩守護島津忠宗、比志島忠範の「筥崎石築地」の勤役完了を証す。 |
| | | (11) | 正応6年4月12日 | 筥崎石築地破損検見注文 | 比志島文書／『注解　元寇防塁編年史料』P268 | (北条兼時) | (島津忠宗) | 北条兼時、薩摩守護島津忠宗に「筥崎石築地」の破損個所を通知する。 |
| | | (12) | 正応6年4月21日 | 北条兼時書下 | 比志島文書／『注解　元寇防塁編年史料』P269 | 越後守(北条兼時) | 下野三郎左衛門尉(島津忠宗)殿 | 薩摩守護島津忠宗に対し、「石築地以下要害」の普請を薩摩国中に催促すべきを達す。 |
| | | (13) | 正応6年4月23日 | 島津忠宗書下(施行状ヵ) | 比志島文書／『注解　元寇防塁編年史料』P269 | 左衛門尉(島津忠宗) | 薩摩国地頭御家人御中 | 薩摩守護島津忠宗、薩摩国中の地頭・御家人に対し、「筥崎石築地以下要害」破損修繕について、5月20日までの竣工を命じる。 |
| | | (14) | 永仁6年5月26日 | 鎮西下知状 | 松浦山代文書／『注解　元寇防塁編年史料』P306 | 前上総介平朝臣(北条実政) | | 鎮西探題北条実政の裁許状中に「石築地覆勘状」の記載あり。 |
| | | (15) | 永仁6年7月20日 | 石築地配分状案 | 入来院文書／『注解　元寇防塁編年史料』P310 | (島津忠宗) | | 薩摩守護島津忠宗、入来院分の「筥崎要害所石築地」役を割り当てる。 |
| | | (16) | 永仁6年8月1日 | 某書下案 | 青方文書／『注解　元寇防塁編年史料』 | (不明) | | 「肥前国要害構石築地」の急ぎ修固について、9月10日までの竣工を命じる。 |
| | | (17) | 永仁6年8月30日 | 平岡為尚石築地役覆勘状 | 青方家譜引載文書／『注解　元寇防塁編年史料』P312 | (平岡)為尚 | 白魚九郎(時高9殿 | 肥前守護代平岡為尚、白魚時高の「肥前国要害所姪浜石築地」の勤役完了を証す。 |
| | | (18) | 正安2年6月21日 | 藤原範政書状 | 「薩藩旧記雑録前編8」／『注解　元寇防塁編年史料』P321 | 守護代藤原範政 | 加治木郡司殿 | 大隅守護代藤原範政、加治木郡司に「石築地」破損修繕および楯等の沙汰を催促する。 |
| | | (19) | 正安2年閏7月1日 | 直兼書下案 | 末久文書／『鎌倉遺文　古文書編27』20508、『注解　元寇防塁編年史料』P323、『福岡県史資料9』P104 | 直兼 | 成恒太郎右衛門入道殿代 | 「豊前国役所青木横浜石築地」修繕のため「参府」し、今月15日までの竣功を命じる。 |
| | | (20) | 正安2年閏7月12日 | もりさね石築地用途請取状案 | 末久文書／『鎌倉遺文　古文書編27』20522、『注解　元寇防塁編年史料』P324、『福岡県史資料9』P104 | もりさね | | もりさね、山田太郎右衛門入道(成恒道円)の石築地6尺分の費用800文を受け取る。 |
| | | (21) | 正安4年8月28日 | 酒匂本性覆勘状 | 延時氏文書／『注解　元寇防塁編年史料』P330 | (酒匂)本性 | 延時三郎入道(種忠)殿 | 薩摩守護代酒匂本性、延時成仏(種忠)の「石築地修理」の勤務完了を証す。 |
| | | (22) | 正安4年10月8日 | 左兵衛允某書下案 | 青方家譜引載文書／『注解　元寇防塁編年史料』P331 | 左兵衛允 | 白魚九郎(時高)殿 | 左兵衛允某、白魚時高の「肥前国異賊要害構石築地」および楯等の沙汰を催促する。 |
| | | (23) | 正安4年10月15日 | 平岡為政覆勘状 | 青方家譜引載文書／『注解　元寇防塁編年史料』P332 | (平岡)為政 | 白魚九郎入道(時高)殿 | 肥前守護代平岡為政、白魚行覚(時高)の「肥前国要害構石築地」破損修繕の勤務完了を証す。 |
| | | (24) | 乾元2年閏4月17日 | 少弐崇恵施行状 | 中村文書／『注解　元寇防塁編年史料』P335、『福岡県史資料10』P110 | 崇恵(少弐盛経) | 末弘名中村弥二郎(続)殿 | 筑前守護少弐崇恵(盛経)、中村続に「博多前浜石築地」修繕を催促する。 |
| | | (25) | 乾元2年9月17日 | 舜種石築地役覆勘状 | 末久文書／『注解　元寇防塁編年史料』P336、『福岡県史資料10』P111 | 舜種 | 山田太郎右衛門入道(成恒道円)殿 | 舜種、山田太郎衛門入道(成恒道円)の「青木石築地」修繕の完了を証す。 |
| | | (26) | (年月日未詳) | 大友頼泰書下断簡 | 生桑寺大般若経裏打紙文書／『注解　元寇防塁編年史料』P341、『大分県史料(25)』P132 | | | 豊後守護大友頼泰、八坂氏に「石築地」の修繕を催促する。 |
| | | (27) | 嘉元4年1月28日 | 薩摩守護代連署書下 | 比志島文書／『注解　元寇防塁編年史料』P350 | 阿忍、本性 | 比志島殿 | 薩摩守護代阿忍・酒匂本性、比志島氏に「石築地」修繕を命じる。 |
| | | (28) | 徳治2年7月27日 | 盛秋和与状 | 市来崎氏文書／『注解　元寇防塁編年史料』P355 | 山門院地頭兼惣郡司代盛秋 | | 「石築地・楯・簇」費用等を含む山門院内の年貢等について和与状を作成する。 |
| | | (29) | 正和2年12月2□日 | 西俣久盛和与状 | 比志島文書／『注解　元寇防塁編年史料』P380 | 源(西俣)久盛 | | 比志島忠範との薩摩国満家院西俣名の公事・警固・「石築地」等に関する相論を和与する。 |
| | | (30) | 正和5年2月12日 | 少弐貞経施行状 | 明法寺榊文書／『注解　元寇防塁編年史料』P384、『福岡市史　資料編　中世1』 | (少弐)貞経 | 榊定禅地頭殿 | 筑前守護少弐貞経、榊定禅地頭に「筑前国役所博多前浜石築地」の破損修繕を命じる。 |
| | | (31) | 元亨1年7月日 | 薩摩国天満宮国分寺所司神官等申状 | 国分寺文書／『注解　元寇防塁編年史料』P389 | 執行貫主大蔵ほか10名 | | 薩摩国天満宮国分寺所司神官等、同寺社領が「於博多津石築地幷警固役」を免除されていることを述べる |
| | | (32) | 元亨2年5月8日 | 少弐貞経書下 | 森本延枝所蔵文書／『注解　元寇防塁編年史料』P397、『熊本県史料　中世篇4』 | 大宰少弐(貞経) | (志賀貞泰) | 三奈木庄地頭志賀貞泰に「異国警固構筑前国石築地」修繕を催促する。 |
| | | (33) | 元亨3年10月20日 | 建部高清譲状 | 池端スミ所蔵文書／『注解　元寇防塁編年史料』P407 | 建部高清 | | 大隅国禰寝南俣山本村内の田地を甥弥次郎に譲り、「石築地勤仕」について反別銭10文を勤むべきことを書き記す。 |
| | | (34) | 元亨4年8月21日 | 薩摩国伊作庄幷日置北郷領家地頭和与状 | 島津家文書550／『注解　元寇防塁編年史料』P409、『大日本古文書16-1』P558 | 地頭代沙弥道慶、雑掌左衛門尉憲俊 | | 伊作庄・日置北郷下地・検断所務についての、領家一条院雑掌憲俊と地頭島津宗久代官道慶和与状に、「異国警固幷筥崎石築地用途事」あり。 |
| | | (35) | 元亨4年12月2日 | 薩摩国伊作庄幷日置北郷領家雑掌地頭代和与状 | 島津家文書551／『注解　元寇防塁編年史料』P416、『大日本古文書16-1』P563 | 地頭代沙弥道慶、雑掌法橋承 | | 日置新御領検断所務についての、領家一条院雑掌承信と地頭島津宗久代官道慶和与状に、「異国警固幷筥崎石築地用途事」あり。 |
| | | (36) | 正中2年10月7日 | 関東下知状 | 島津家文書552／『注解　元寇防塁編年史料』P427、『大日本古文書16-1』P566 | 相模守平朝臣(北条高時)、修理権大夫朝臣(北条貞顕) | | 鎌倉幕府、伊作庄・日置北郷の領家一条院雑掌憲俊と地頭島津宗久代官道慶の所務相論を裁決す。「異国警固幷筥崎石築地用途事」あり。 |
| | | (37) | 正中2年10月27日 | 関東下知状 | 島津家文書553／『注解　元寇防塁編年史料』P430、『大日本古文書16-1』P570 | 相模守平朝臣(北条高時)、修理権大夫朝臣(北条貞顕) | | 鎌倉幕府、日置新御領の領家一条院雑掌承信と地頭島津宗久代官道慶の所務相論を裁決す「異国警固幷筥崎石築地用途事」あり。 |
| | | (38) | 元徳4年2月1日 | 少弐妙恵施行状 | 中村文書／『注解　元寇防塁編年史料』P462、『福岡県史資料10』P261 | 妙恵(少弐貞経) | 中村弥次郎殿 | 筑前守護少弐貞経、同国人に「異賊用心石築地」修理を命じる。 |

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| R37 | 元寇防塁 | (39) | 建武2年4月27日 | 肥前守護使石築地用途請取状 | 青方文書／『注解　元寇防塁編年史料』P468 | すごの御つかい五郎三郎、やく人もちまろの代むまの太郎 | | 肥前守護使、五島西浦目青方の分の「いしついぢ」費用60文を受け取る。 |
| | | (40) | 建武5年閏7月1日 | 足利直義御判御教書案 | 大友文書／『注解　元寇防塁編年史料』P474、『大日本史料6-4』P903 | 頭殿（足利直義） | 大友式部丞（氏泰）殿 | 足利直義、大友氏泰に少弐頼尚と共に「鎮西警固石築地」修理を命じる。 |
| | | (41) | 康永1年5月3日 | 足利尊氏御判御教書案 | 大友文書／『注解　元寇防塁編年史料』P485、『大日本史料6-7』P153 | （足利尊氏） | | 足利尊氏、大友氏泰に少弐頼尚と共に「鎮西要害石築地」修理を催促する。 |
| | | (42) | 応永11年11月6日 | 渋川満頼預ケ状写 | 阿蘇文書2／『注解　元寇防塁編年史料』P497、『大日本史料7-6』P843 | 右兵衛佐（渋川満頼） | 阿蘇大宮司（惟村） | 九州探題渋川満頼、阿蘇大宮司惟村に「肥後国石築地料所」の筑前国山門庄を預け置く。 |

＜所在地が不明なもの＞

| No. | 名称 | 枝番 | 年月日 | 表題 | 史料群名・採録・出典 | 差出 | 宛先 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| F13 | 蟻塚ノ城 | 参考 | | 筑紫氏所領城数覚 | 筑紫文書／『九州史料落穂集7』P58、『福岡市史　資料編　中世1』P992 | | | 筑紫広門代の城（那賀郡之内）に「蟻塚ノ城　同（番城）」。 |
| F14 | 一の瀬城 | 参考 | 延文6年7月 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P72 | | | 宮方の太宰府攻めに対し、少弐氏「一の瀬・岩門・飯盛・細峯・荒平」5城に軍勢を籠め置く。 |
| | | 参考 | 天正14年7月6日 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P734 | | | 島津勢、高良山の陣を発し、筑紫氏の端城朝日山・一の岳・一の瀬・鷹取等を攻略する。 |
| F15 | 徳永城（細峯城） | (1) | 文和2年4月29日 | 一色直氏預ケ状 | 徳永文書／『南北朝遺文（九州編）3』3548、児玉韞採集文書7-88（板持村農家得永平蔵所蔵）、『福岡市史　資料編　中世1』 | 右京権大夫（一色直氏） | 細峯城衆得永助五郎（実種）同一族中 | 怡土庄田尻四郎丸名等を「兵粮料所」として「細峯城衆」に預け置く。 |
| | | (2) | 延文6年9月日 | 龍造寺家平軍忠状 | 龍造寺文書／『南北朝遺文（九州編）4』4305 | （龍造寺家平） | 進上　御奉行所（少弐頼国） | 7月5日より菊池武光と少弐頼国の合戦時の、「加布利城没落」・「細峯之御陣」・「飯盛・油山之御陣」における軍忠を注進する。 |
| | | 参考 | 延文6年 | | 北肥戦誌／『北肥戦誌』P72 | | | 宮方の太宰府攻めに対し、少弐氏「一の瀬・岩門・飯盛・細峯・荒平」5城に軍勢を籠め置く。 |
| | | (3) | 正平16年9月日 | 深堀時勝軍忠状 | 深堀文書／『南北朝遺文（九州編）4』4303 | （深堀時勝） | 進上　御奉行所（菊池武光） | 7月17日、菊池武光と少弐頼国の合戦時の、「飯盛・細峯城」・「油山」における軍忠を注進する。 |
| | | (4) | 正平17年11月27日 | 征西将軍宮令旨 | 来島文書／『南北朝遺文（九州編）4』4431 | 右中将（坊門資世） | 松浦中嶋五郎殿 | 「得永合戦」における忠節を賞する。 |
| F16 | 一貴寺 | (1) | 暦応3年3月19日 | 一色道猷（範氏）感状 | 中村令三郎氏所蔵文書／『福岡市史　資料編　中世2』P684 | 沙弥（一色道猷・範氏） | 松浦中村弥（勇）五郎殿 | 新田禅師と称する人物と原田孫次郎以下の凶徒が「筑前国一貫寺」に立て籠もる。 |
| | | (2) | 暦応3年3月 | 重冨正高軍忠状 | 由比重冨文書／『福岡市史　資料編　中世2』P915 | 太宰少弐（頼尚） | | 深江孫次郎種長、深江・片山村を焼き払い、「一貫寺山」に立て籠もるが、重冨正高が12日にこれを攻め落とす。 |
| F17 | 一貴寺高嶽 | (1) | 正平17年11月25日 | 安富泰重軍忠状 | 深江文書／『福岡市史　資料編　中世2』P755 | 安冨民部大夫泰重 | 菊池武光 | 在国司筑前守が同心して「一貫寺高嶽」において敵（松浦氏）を討つ。 |
| F18 | 本岡城郭 | (1) | 観応元年9月11日 | 某下文 | 有浦文書／『福岡市史　資料編　中世2』 | | | 松浦佐志源蔵人に対し筑前国「本岡城郭」と志登社領家の地頭職を勲功により与える。 |
| F19 | 荻浦居屋敷 | (1) | （永正9年）6月23日 | 重冨正秀条々申状 | 由比重冨文書／『福岡市史　資料編　中世2』P917 | （重冨）正秀 | 野北殿 | 西五郎兵衛尉の「荻浦居屋敷」において定夫1人を召し抱えるようにとの事。そうでなければ屋敷は検地を行う事。 |
| F20 | 北崎城 | (1) | （天文2年）4月28日 | 興金書状 | 渡辺家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P977 | 興金 | 渡辺隼人助殿 | 遠国での辛労を労い、「北崎」において首18を分捕った事について賞す。 |
| | | (2) | （天文2年）6月14日 | 宇野（ヵ）興久書状 | 渡辺家文書／『福岡市史　資料編　中世2』P977 | （宇野ヵ）興久 | 渡辺隼人佐殿 | 「北崎城」での合戦において首2つを討ち捕った事について賞す。 |
| F21 | 青浦城 | (1) | 観応4年1月25日 | 左馬助某書下 | 由比重冨文書／『福岡市史　資料編　中世2』P916 | 左馬助 | 由比重冨次郎四郎（正雄）殿 | 「青浦城」攻めの際に当軍に属し馳せ参じた事を賞す。 |
| F22 | 春日嶽城 | (1) | （嘉吉2年）8月17日 | | 萩藩閥閲録121−2周布吉兵衛121／『閥閲録3』P565 | 常勝（山名教清） | 周布次郎殿 | 「春日嶽」での合戦で勝利し、周布やその被官が活躍した事を自ら大内方に注進したのは大いに喜ぶ事である。 |
| | | (2) | （嘉吉2年）8月19日 | | 萩藩閥閲録121−2周布吉兵衛122／『閥閲録3』P565 | （大内）教弘 | 山名（教清）殿 | 8月14日に「金井手山」に周布次郎が着陣し、17日の「春日岳」合戦で戦功を立てた事を賞す。 |

# Ⅶ　城館関連地名一覧

＜凡例＞

1　本章では、報告対象地域における城館に関連する地名を一覧にしたものである。

2　城館に関連する地名とは、城（シロ・ジョウ）・館（タチ・タテ）・屋敷・門・矢倉・園・垣内・土居（ドイ）・府・丸・蔵（クラ）・城戸（キド）・鍛冶・射場・的場・堀切のほか、武器あるいは合戦に関連すると思われる地名、あるいはその他城館に関連すると思われる地名を指す。

3　地名の抽出は、「明治十五年字小名調」（『福岡縣史資料第七輯』1937年福岡県編集・発行）に搭載された地名を基本とし、これらに搭載されていない現在残る小字を補完的に追加したものである。地名の抽出に当たっては、服部英雄氏（福岡県中近世城館跡詳細分布調査指導委員・九州大学大学院教授）が作成したデータを利用した。

4　現在、城館と判明しているものと直接つながりがある地名については、別の欄を設けて、他の地名と区別した。なお、今回あげられた大半の地名には、中近世城館とは無関係のものが多数含まれていると考えられるが、それらの峻別は困難であり、また今後の調査研究の備えとして、あえてその全てを掲載することとした。

| 地域名 | 旧郡名 | 市町村名 | 旧村名(大字) | 関連城館 | 関連地名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 直方町 | K9.直方陣屋 | 西殿町・東殿町・御館山・殿町・鉄砲町 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 感田 | K8.感田城 | 城尾・尾城・城の腰・大手門・御所坂・櫓下 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 知古 | | 新屋敷・古屋敷・鹿ノ尾丸 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 磯光 | | 薬師丸・龜ノ丸 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 鶴田 | | 古屋敷・門田 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 上大隈 | | 前田・上ノ屋敷 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 小竹町 | 奈良津 | | 古屋敷 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 小竹町 | 新山崎 | | 堀越 |
| | | | | 188.山崎城 | 城尾 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 小竹町 | 勝野 | | 堀川口・馬場田・倉谷・古賀ノ園・作リ倉・土井ノ下 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 宮田 | | 太藏・門田・堀田・柳ノ丸 |
| | | | | 102.笠木山城 | 笠城 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 長井鶴 | | 打園・殿ヶ坂・門田・村屋敷・内屋敷 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 金生 | | 門田・中小路 |
| | | | | 179.金生城 | 城の内・古城 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 原田 | | 屋鋪田・新堀・中園・西ノ屋鋪・奥園・先園 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 下 | | 小倉・乙丸・力丸・勝負ノ谷・城ノ尾（現地に遺構なし。笠木山城関連の可能性あり）・上木屋 |
| | | | | 142.下村城 | 堀ノ内 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 稲光 | | 杉園・園田 |
| | | | | 149.稲光城 | 古城 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 黒丸 | | 中園・尾園・南ヶ園・角正園・奥園・井手屋敷・横小路・門田・問所・平園・御地頭・下小路 |
| | | | | 151.黒丸城 | 城ノ脇 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 宮永 | 154.宮永城 | 城山・陣屋谷 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 脇田 | | 園田・矢床 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 小伏 | | 金丸田・射場ヶ元 |
| | | | | 149.稲光城 | 古城原 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 湯原 | 141.地蔵山城 | 大城ノ前・大城 |
| | | | | | 綿丸 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 三ヶ畑 | | 古屋敷・城ノ尾 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 龍徳 | 182.龍ヶ岳城 | 町屋敷・小路・辻屋敷・門ノ内・小路・表口・裏口 |
| | | | | 185.稲築城 | 稲築 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 本城 | | 金丸・和田屋敷・徳城・小星丸・徳丸 |
| | | | | 183.祇園岳城 | 城・城上 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 倉久 | | 小倉・大門 |
| | | | | 175.内山城 | 古殿・古殿の前 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 上有木 | | 井堀 |
| | | | | 170.六郎丸城 | 六郎丸 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 四郎丸 | 174.四郎丸城 | 四郎丸 |

| 地域名 | 旧郡名 | 市町村名 | 旧村名(大字) | 関連城館 | 関連地名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 四郎丸 | 171.城崎砦 | 城先 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 芹田 | | 勝負尻 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 下有木 | | 五郎丸・下五郎丸・丸ノ内・上ノ園・小路口・名ゴヤデン |
| | | | | 172.下有木城 | 城崎 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 山口 | | 遠園・陣屋谷・川關・馬口 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 沼口 | | 上小路・古ノ園 |
| | | | | 166.堀谷城 | 堀ノ内 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 竹原 | | 中小路 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 平 | | 門田 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 高野 | | 屋敷田・切立・仲園・サヤノ下・前田 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 福丸 | | 樓門田・柿添 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 金丸 | | 金丸屋敷・臺ノ上・屋敷田・向府州・府州 |
| | | | | 176.金丸城 | 金丸 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 宮若市 | 水原 | | 霍丸・矢代・弓手・堀切 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 下新入 | | 倉谷・勝負坂 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 上新入 | | 馬場・石丸・鬻屋敷・王子丸 |
| | | | | 182.龍ヶ岳城 | 城ヶ谷 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 植木 | | 柵・町屋敷・古屋敷・破魔射場・堂屋敷 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 鞍手町 | 中山 | | 土與丸・五郎丸・鍛冶屋ノ辻・殿原 |
| | | | | D29.吉田壱岐守宅 | 中ノ屋敷・辻屋敷 |
| | | | | 197.剣岳城 | 城ヶ崎 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 鞍手町 | 新北 | | 音丸・太郎丸・板垣・大門 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 鞍手町 | 八尋 | | 中園・山ノ殿・倉田・太郎丸・丸ノ内・土井ノ浦・安城・立仙・新立 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 鞍手町 | 室木 | | 鍋倉 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 鞍手町 | 古門 | D25.遠藤大膳宅 | 城尾 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 鞍手町 | 長谷 | | 榎園・屋敷ノ内・五郎丸 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 鞍手町 | 新延 | | 園田・犬王丸・冠者ヶ崎 |
| | | | | 198.城腰山城 | 城ヶ谷 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 鞍手町 | 上木月 | | 殿田・下屋敷・上屋敷 |
| | | | | 200.今許斐城 | 門前 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 鞍手町 | 小牧 | | 五郎丸 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 中間市 | 下大隈 | | 殿牟田 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 北九州市 | 木屋ノ瀬 | | 太郎丸・丸堀 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 北九州市 | 野面 | | 金丸・四郎丸・城ヶ崎 |
| | | | | 201.金剛城 | 馬場尻 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 北九州市 | 金剛 | | 辻畠・門田・前田 |
| | | | | 201.金剛城 | 門前 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 北九州市 | 笹田 | | 荒堀 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 頓野 | | 馬場・小路・龜倉・堀江 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 上頓野 | | 御立處・的場・徳丸・古屋敷・内屋敷・大城原・古家園・後的場・藤田丸・屋敷田 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 永滿寺 | | 善喜屋敷・櫻ノ馬場・町屋敷・鐵鉋町・倉床 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 上境 | | 上ノ堀・丸ノ内・堀新田・谷屋敷・中堀・久保・前屋敷 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 下境 | | 城ノ越・屋敷・堀ノ内・和倉・長堀 |
| 筑前 | 鞍手郡 | 直方市 | 中泉 | | 藏崎・土手外 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 波津 | | 大道 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 原 | | 金倉・堀地 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 手野 | | 小塀・中園・垣ノ内・裏門 |
| | | | | 241.雨乞山城 | 城ヶ原 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 内浦 | | 茶屋ノ前 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 三吉 | | 安丸 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 吉木 | | 倉丸・狭間・堀毛・門田・矢口・古小路・正矢口・出口 |
| | | | | D45.古宅 | 横田屋敷・上股屋敷・堀・堂楽屋敷・城山 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 高倉 | | 門司口・井堀・相園・關前・馬場・鍋倉 |

| 地域名 | 旧郡名 | 市町村名 | 旧村名(大字) | 関連城館 | 関連地名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 上畑 | | 門司口・堀田・泉水 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 山田 | | 登立 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 海老津 | | 廣丸 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 戸切 | | 上丸 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 糠塚 | | 高丸・松木園・藏ノ上・堀切 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 岡垣町 | 黒山 | | 藏ノ下 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 遠賀町 | 尾崎 | | 馬場ノ久保・金丸 |
| | | | | 230.城之越城 | 上ノ越（城之越） |
| 筑前 | 遠賀郡 | 遠賀町 | 鬼津 | | 老門・堀川・唐戸口・矢倉・丸ノ内・大城道 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 遠賀町 | 島津 | | 丸ノ内・郷右衛門田・宮園・居場ノ元 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 遠賀町 | 別府 | | 尾倉下・尾倉・花園・城ノ越・千代丸・千代丸下・門前 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 遠賀町 | 虫生津 | | 打越・新屋敷・倉谷 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 中間市 | 中底井野 | | 小路・木屋ノ瀬田・土居・堀口・砂堀・御所園・瀬地丸・水門・堀川 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 遠賀町 | 木守 | | 津丸・狭間・土手ノ外・土手ノ内・丸ノ内 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 中間市 | 下底井野 | | 葉城・切戸 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 中間市 | 垣生 | | 城丸・番城田 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 中間市 | 上底井野 | | 梅園・小屋根・柿添 |
| | | | | 229.猫城 | 城ノ下・猫城山 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 遠賀町 | 廣渡 | | 安丸・大久保・唐戸口 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 水巻町 | 古賀 | | 左馬殿・城ノ元・石城・塔ノ城・藏ノ下・京殿 |
| | | | | 228.古賀城 | 古城・立屋敷・内屋敷・城ノ腰・堀ノ上・古屋敷・城山 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 水巻町 | 杁 | | 藏納・垣添 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 水巻町 | 猪熊 | | 丸ノ内 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 水巻町 | 立屋敷 | | 的場・丸ノ内・土手端 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 水巻町 | 下二 | | 四反丸 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 水巻町 | 頃末 | | 丸ノ沖・丸・丸ノ西・先ノ園・丸ノ東・小路・外屋敷 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 水巻町 | 二 | | 古屋敷・門田・新屋敷 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 中間市 | 岩瀬 | | 御舘・宮園 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 水巻町 | 吉田 | | 前田・車返・垣添・柳土手 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 中間市 | 中間 | | 古屋敷・歸倉・門前・治郎丸・鉾崎・車屋・御舘・室園 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 楠橋 | | 一丁丸・童子ヶ門・新屋敷・殿屋敷 |
| | | | | 202.楠橋城 | 城ノ辻・大門・堀 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 香月 | | 鳩屋敷南・鳩屋敷北・本城前・石園・大垣・西小路・城ノ前・城下・鬼城 |
| | | | | 203.茶臼山城 | 殿屋敷・則末屋敷・末兼屋敷 |
| | | | | 204.香月館 | 上殿・殿屋敷 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 馬場山 | | 紅梅園・金丸 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 畑 | | 堀子・城戸・屋敷田・丸ノ内 |
| | | | | D33.隠館 | 隠舘 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 上上津役 | | 陳ヶ原・馬場・古陳田・垣内・松屋敷・穴倉・陳出原 |
| | | | | 209.馬乗城 | 城ノ腰 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 小嶺 | | 城戸・畑ヶ堀・猪堀 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 下上津役 | | 門田 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 永犬丸 | | 殿問・切塞・五郎丸 |
| | | | | 205.園田浦城 | 園田・馬責場 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 市ノ瀬 | | 切詰・下堀田・山木屋 |
| | | | | D34.陣屋谷 | 陳屋 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 引野 | | 的場・大門・馬場園・大屋敷・内屋敷・鉾ノ元 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 穴生 | | 古屋敷・三郎丸 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 陣ノ原 | | 切貫・木屋ヶ谷 |
| | | | | D41.井上氏宅 | 下屋敷・東屋敷・西屋敷・町屋敷・本町・袋町・福岡路 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 折尾 | | 大膳堀・木屋ヶ谷・紺屋倉・倉谷 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 則松 | | 堀池・御所ノ尾・殿屋敷・現道藏・堀ノ辻・堀・馬洗場・丸ノ内 |

| 地域名 | 旧郡名 | 市町村名 | 旧村名(大字) | 関連城館 | 関連地名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 黒崎 | K10.黒崎城 | 城山・屋敷 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 熊手 | | 茶屋ノ原・城石・京良城 |
| | | | | D39.藤村氏宅 | 上ノ屋敷・御屋敷 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 鳴水 | | 古屋敷・武者田 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 藤田 | | 東城石水溜・城石際・西城石・西城石水溜・城石 |
| | | | | D38.井上家臣宅 | 屋敷・殿町・御屋敷・土居屋敷・源入屋敷・石坪・玄界屋敷 |
| | | | | 215.花尾城 | 城ノ尾・北城ノ腰・東城ノ腰・城山・西城ノ腰・南城ノ腰 |
| | | | | D36.内藤陣山 | 陳山 |
| | | | | D.37麻生氏家臣宅 | 古館 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 前田 | D40.源経基陣 | 陳山 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 尾倉 | | 門田・大門・西尾倉 |
| | | | | 217.尾倉城 | 城山 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 戸畑 | 220.戸畑城 | 蔵屋敷・殿小路・蔵藪・堀 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 大藏 | | 猪ノ倉・園田・傾城ヶ谷 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 中原 | | 今屋敷・堀損 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 小石 | | 弓田 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 須多羅 | | 濱ノ土井・中丸・辻ヶ谷・溝白 |
| | | | | D42.麻生氏宅 | 堀・殿屋敷 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 藤木 | | 辻ヶ谷・矢倉ノ下・入道丸・溝土井・中園・宮丸・小路・童子丸 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 小竹 | | 園田・堀田・西ノ門・丸ノ内・狭間・中屋敷 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 二島 | | 下小倉畑・上小倉畑・角力場・垣添・宮ノ馬場・的場・古屋敷 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 畠田 | | 城ノ前・狩屋山・狩屋・城山・下ノ堀・關所・矢掛 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 頓田 | | 樫ノ丸・垣ノ外・矢戸・今丸・三郎丸・屋敷田 |
| | | | | 225.城ノ崎砦 | 城ノ崎 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 竹並 | | 丸ノ内・戀ノ丸 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 有毛 | | 大園・古屋園・大門・八光丸 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 安屋 | | 堀田・下ノ木戸・古城戸・鍛冶屋園・倉谷・丸ノ内・堀川・遊屋丸・牛丸・樂丸・菰倉 |
| | | | | 226.楽丸城 | 城ヶ山 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 鹽屋 | | 猪堀・矢戸 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 蜑住 | | 的場・五郎城戸・堀・城ノ腰・堀ノ下・丸ノ内 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 本城 | | 矢戸・鞍谷・向堀・力丸・堀切・奥治郎丸・的場・的場前・土井添・次郎丸・西屋敷附・東屋敷附 |
| | | | | 206.本城城 | 城山 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 淺川 | | 丸ノ内 |
| | | | | 207.浅川城 | 陳山 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 小敷 | 227.小敷城 | 城ノ下 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 大鳥居 | | 丸ノ内 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 芦屋町 | 山鹿 | | 城ヶ浦・倉谷・丸ノ内・築廻・城山・雁木 |
| | | | | 233.山鹿城 | 城ヶ浦・城山 |
| 筑前 | 遠賀郡 | 北九州市 | 鹽屋 | | 中小路・柳ノ丸 |
| | | | | 234.大城城 | 大城前・大城 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 河東→田島 | | 保蓮・菖蒲ヶ池・井堀 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 多禮 | | コギソノ・寺屋敷 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 池ノ浦 | | 井堀 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 田島 | | 上殿・大門 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 吉田 | | 倉田 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 大井 | | 三倉・地蔵丸・金丸・大屋敷・舛丸・中屋敷 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 用山 | | 前田 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 牟田尻 | | 土手外・堀ノ尻・内ヤシキ・木戸ノ内・屋敷・大丸・外ノ丸・母倉・新屋敷 |

| 地域名 | 旧郡名 | 市町村名 | 旧村名(大字) | 関連城館 | 関連地名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 江口 | | 猪堀 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 名殘 | | 伊豆丸 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 陵厳寺 | 251.蔦岳城 | 一ノ丸・二ノ丸・三ノ丸・芦屋堀・新堀・馬立場・馬責場・廣丸・城道・陣尾・先陣楠・屋形口・大門口・赤城・城腰・城ヶ谷・城山・大門・馬場 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 奴山 | | 花園・大門・屋敷・正園・堀・馬場・丸・勝負 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 大石 | | 垣内 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 池田 | | 堀田・大古野・小路ヶ谷・堀坊・馬場 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 田野 | | 荒堀 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 吉留 | | 松丸・安ノ倉・倉ツバ・堀・下丸山・上丸山・松丸・京殿・安ノ倉・陣尾・安ノ倉前 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 田久 | | 内園・倉谷・中園 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 舎利蔵 | | 鍋倉・大門田 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 津屋崎 | | 新屋敷・古小路町 |
| | | | | D48.黒田養心宅 | 殿屋敷 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 下西郷 | | 勝負坂・六郎丸・四郎丸・大門・太郎丸 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 勝浦 | | 高堀・鍛冶屋ヶ浦・大溝・石丸・蔵ノ元・前田・堀切・古屋敷・丸ノ内 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 光岡 | | 辻ノ園・屋敷田 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 久原 | | 古屋敷 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 名残 | 258.城ヶ浦堡 | 堀田 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 朝町 | | 荒堀・屋敷田 |
| | | | | 258.城ヶ浦堡 | 城ヶ浦 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 曲 | | 荒堀・城鎭・新屋敷 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 神湊 | | 堀田 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 稲元 | | 門田 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 土穴 | | 土井ノ内 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 東郷 | | 尾園・土井ノ内・古屋敷 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 田熊 | | 堀・堀前 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 畦町 | | 前田・古屋敷 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 久末 | | 久城 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 渡 | | 御園 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 三郎丸 | 251.蔦岳城 | 城 |
| | | | | 252.茶臼山城 | 一ノ搆口・二ノ搆口 |
| | | | | 253.今井城 | 今井城 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 上八 | | 丸ノ内・鉾ノ尾・門口・番場 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 上西郷 | | 門田・大矢・新屋敷・馬場ノ谷 |
| | | | | 272.上西郷城 | 城山・城 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 八並 | | 蔵ノ前・堀田・上屋敷・前田 |
| | | | | 264.吉原里城 | 侍部殿谷（十殿谷）・右近屋敷 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 津丸 | | 五郎丸・四郎丸・松ノ木戸・馬場・鬼丸・屋敷ノ浦・宮城 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 村山田 | | 泉園・原屋敷 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 在自 | | 劍塚・下ノ園 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 須多田 | | 前田・堀田・伊王丸 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 本木 | | 萬歳丸・小路口・門田 |
| | | | | 266.城の浦城 | 下城ノ裏・城ノ裏 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 大島 | | 舟倉・長者倉・家門田 |
| | | | | 248.大島城 | 城山 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 地島 | | 小路山・政所・矢倉瀬・倉瀬 |
| | | | | 245.城ノ腰城 | 城腰 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 大穂町 | | 園田 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 大穂 | 262.大穂城 | 湯園 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 王丸 | | 湯園・徳丸 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 山田 | | 大屋敷・堀田・丸・下丸・原ノ辻 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 須恵 | | 的埜 |
| | | | | D46.武藤氏宅 | 堀之内・城 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 平等寺 | | 馬場口・畑屋敷 |
| | | | | 249.草場城 | 城の口 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 野坂 | | 館原・城田・丸ノ内・土井ノ内・水倉・扇園・武丸・藤倉 |

| 地域名 | 旧郡名 | 市町村名 | 旧村名(大字) | 関連城館 | 関連地名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 内殿 | | 土井丸・古内殿・坂丸 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 武丸 | | 犬ノ馬場・的場 |
| 筑前 | 宗像郡 | 宗像市 | 石丸 | 254.城腰城 | 城ノ越 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 手光 | | 馬場 |
| 筑前 | 宗像郡 | 福津市 | 宮司 | | 的岡 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 箱崎 | | 勝負田・七小路・馬場・蔵本・後小路・中小路・竪小路裏・竪小路・浜小路 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 志免町 | 御手洗 | | 屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 志免町 | 別府 | | 五郎丸・小路・太郎丸・古屋敷・升角・五斗蔵 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 志免町 | 南里 | | 門田・大府・クラエ・イヤシキ |
| 筑前 | 糟屋郡 | 志免町 | 志免 | | 古屋敷・〆城戸・頭ノ園・園ノ木・大的・浦園 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 志免町 | 吉原 | | 屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 須恵町 | 旅石 | | 芋堀・篠堀・屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 粕屋町 | 坂殿 | | 矢ノ坪・古賀ソノ・奥小路 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 須恵町 | 植木 | | 貝蔵・山城戸 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 宇美町 | 炭焼 | | 鎧田 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 宇美町 | 井野 | | 勝負ヶ坂・本城古城 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 須恵町 | 田富 | | 庄屋園・高園・牛丸 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 須恵町 | 佐谷 | | 花園・馬立 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 須恵町 | 須恵 | | 土樋ノ本・中園・下ノ屋敷 |
| | | | | 283.高鳥居城 | 城山・城山・岳城 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 須恵町 | 上須恵 | | 中園・下ノ屋敷 |
| | | | | 283.高鳥居城 | 城山 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 粕屋町 | 内橋 | | 下屋敷・上屋敷・徳王丸 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 青柳町 | | 古屋敷・屋敷・屋敷田 |
| | | | | 279.新城山城 | 新城 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 川原 | | 屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 今在家 | | 屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 粕屋町 | 戸原 | | 古屋敷・外屋敷・堀之内 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 蒲田 | | 五郎丸・屋敷田・武節ヶ浦 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 名子 | | 垣ノ内 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 土井 | | 土井ノ前・土井 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 八田 | | 土居ヶ浦・奥ソノ・イボリ・東園・中木戸 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 粕屋町 | 仲原 | | 上御所陣・中御所陣・下御所陣・川園・峯屋敷・土井ノ内 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 粕屋町 | 原町 | | 土井ノ内 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 久山町 | 久原 | | 堀田・出シ丸・薬丸 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 粕屋町 | 新長者原 | | 内園・屋敷ノ前 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 粕屋町 | 阿恵 | | 古屋敷・溝挟 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 篠栗町 | 若杉 | | 横居場・切通 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 篠栗町 | 尾中 | | 北園・溝ハサマ・垣ノ内・奥小路・築出 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 篠栗町 | 乙犬 | | 上小路・中園・扇園・馬轉・馬場ノ谷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 篠栗町 | 篠栗 | | 城戸・茶屋・下ノ屋敷・茅ノ倉・勝負谷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 篠栗町 | 金出 | | 屋敷 |
| | | | | 285.飯盛山城 | 陣ヶ田尾（陣が嶺） |
| 筑前 | 糟屋郡 | 篠栗町 | 萩ノ尾 | | 屋形葉山・切通シ |
| 筑前 | 糟屋郡 | 篠栗町 | 高田 | | 大倉・下ノ屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 篠栗町 | 田中 | | 古屋園・屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 篠栗町 | 和田 | | 園田・今屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 津屋 | | 蔵ノ元 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 松崎 | | 引陣・古屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 名島 | | 七兵衛屋敷・内堀 |
| | | | | K13.名島城 | 城山 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 香椎 | | 堂園・門田・杭園・中小路・奥小路・馬場・蔵谷・横射場 |
| | | | | 292.立花山城 | 城ノ越・陣山 |
| | | | | 293.御飯ノ山城 | 里城 |

| 地域名 | 旧郡名 | 市町村名 | 旧村名(大字) | 関連城館 | 関連地名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 濱男 | | 遠矢ヶ原・蔵ノ本・古園・屋敷・鎧坂 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 新宮町 | 原上 | | 大蔵 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 谷山 | | 古ノ屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 小山田 | | 井堀 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 薬王寺 | | 堂園・ヤシキ |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 古賀 | | 古賀屋敷・下屋敷・上屋敷・屋敷・新屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 鹿部 | | 庵ノ園 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 庄 | | 屋敷・堀ノ内 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 新宮町 | 新宮 | | 屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 新宮町 | 湊 | | 古屋敷・屋敷・石生丸 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 新宮町 | 相ノ島 | | 日ノ丸 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 新宮町 | 下ノ府 | | 元屋敷・馬場崎・上ノ屋敷・町屋敷・大蔵 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 新宮町 | 上ノ府 | | 土井ノ浦・前田・馬場山・道その・太郎丸 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 薀内 | | 木屋ノ脇・小路・蔵園・中小路・三郎丸・田倉・大門・陣ノ屋敷 |
| | | | | 277.鷺城 | 城ノ裏・城ノ谷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 久保 | | 太郎丸・屋敷田・小倉・堀田 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 上和白 | | 大蔵・屋敷・古賀ノ堀 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 下和白 | | 裏ノ屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 鹽濱 | | 古土手 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 三苫 | | 門田・ヤシキ |
| 筑前 | 糟屋郡 | 福岡市 | 志賀島 | | 馬場・小路・イバ・首切レ・ゲンカ小路 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 粕屋町 | 江辻 | | 千蔵屋敷・蔵ヶ元・中小路・古屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 粕屋町 | 大隈 | 286.丸山城 | 大城戸・辻畑・城山 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 久山町 | 猪野 | | 小城戸・岩木屋・神屋敷・今屋敷・藤蔵園・中ノ丸・屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 久山町 | 山田 | | 馬場・外園・瓜生園・小路ノ後・園田・古門・堀内・尾園・小路・古屋敷・倉谷・大城戸・垣ノ内・前城谷・舟ヶ倉 |
| | | | | 290.上山田城 | 古城 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 宇美町 | 宇美 | | 石垣・屋敷ノ下・辻ノ園・上角・太郎丸・後小路・今屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 新宮町 | 立花 | | 鹿堀・左屋ノ下・前城・太刀洗・大屋敷・屋敷・奥屋敷・中屋敷・園田・三城岳・園田・三城岳・大門・丸ノ内 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 新宮町 | 的野 | | 木戸ヶ谷・屋敷・園田 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 小竹 | | 犬ノ馬場・向屋敷・コゾノ・屋敷・宮日屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 青柳 | | 忠蔵ソノ・小路・九郎丸 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 米多比 | | 杉その・門田 |
| | | | | 278.米多比城 | 先城倉・源蔵屋敷 |
| 筑前 | 糟屋郡 | 古賀市 | 薦野 | | 矢落・うら門口 |
| | | | | 275.小松岡砦 | 古屋敷 |
| 筑前 | 席田郡 | 福岡市 | 金隈 | | ヤクラ・門戸口・大府・上ノ園・上屋敷 |
| 筑前 | 席田郡 | 福岡市 | 立花寺 | | 屋敷・上ノ園 |
| 筑前 | 席田郡 | 福岡市 | 上月隈 | | 蔵ノ後 |
| 筑前 | 席田郡 | 福岡市 | 下月隈 | | 居屋敷・天神丸・須丸・米丸 |
| 筑前 | 席田郡 | 福岡市 | 上臼井 | | 蓑丸・居屋敷 |
| 筑前 | 席田郡 | 福岡市 | 下臼井 | | 向小路 |
| 筑前 | 席田郡 | 福岡市 | 雀井 | | ミヤシキ・居屋敷 |
| 筑前 | 席田郡 | 福岡市 | 平尾 | | 今屋敷・ヤシキ・奥小路・クボゾノ |
| 筑前 | 席田郡 | 福岡市 | 青木 | | カゲ丸・城ノ尾・クヱ丸・城岡・前田 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 屋形原 | | 中園 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 若久 | | 新開・溝添・大屋敷・堀田・住屋敷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 春日市 | 須玖 | | 杉園・柿木屋敷・浦屋敷・奥小路・中小路・屋形町 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 下曰佐 | | 屋敷ノ前・的場 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 上曰佐 | | 次郎丸・ホリノウチ |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 彌永 | | 中門・ソノタグチ・クラカケ |

| 地域名 | 旧郡名 | 市町村名 | 旧村名(大字) | 関連城館 | 関連地名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 鹽原 | | イバ・立石・堀川 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 片縄 | | 小丸 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 老司 | | 打門・中園 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 野多目 | | 古屋敷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 五十川 | | 上屋敷・下屋敷・弓田・溝ノ内 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 竹下 | | 前田・奥屋敷・堀ノ内・古屋敷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 那珂 | | 警固町・田中園・堀ノ内・屋形町・門田・垣添 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 東光寺 | | 番小路・麥ノ木園・高丸・古藤園・射場ノ口 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 馬出 | | 御所ノ内 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 松木 | | 前田・太郎丸田・堀ノ前 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 中原 | | 前田・金丸 |
| | | | | 298.中原城 | 城・城ノ山 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 五郎丸 | | 前田・サヤノ元・扇ノ前・屋敷ノ内 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 上梶原 | D58.平三屋敷<br>R25.平蔵遺跡 | 平藏 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 東隈 | | 屋敷ノ下・古屋敷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 山田 | | 木戸浦・馬場・門田・倉掛・ |
| | | | | 301.龍神山城 | 城ノ下・山城・城山 |
| | | | | 302.城ノ腰城 | 城ノ越 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 藥院 | | 御所ノ谷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 南面里 | 305.鷲ヶ岳城 | 城の谷 |
| | | | | 306.大丸城 | 大丸 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 別所 | | 角田・次郎丸 |
| | | | | 300.老林城 | 城山・城林谷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 五ヶ山 | | 倉谷・竹ノ屋敷 |
| | | | | D60.一ノ岳城里城 | 御所・御屋敷 |
| | | | | D61.陣尾 | 陣ノ尾 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 不入道 | | 中木戸 |
| | | | | 303.猫嶺城 | 猫城 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 市ノ瀬 | | 城ノ内・堀切 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 成竹 | | 熊ノ狩倉・寺倉・屋形ヶ谷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 埋金 | | 中園 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 横手 | | 岩丸・溝ハサマ・大溝・門田 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 井尻 | | 屋敷・向屋敷・古木戸・古屋敷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 下警固 | | 道和小路 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 松園 | | 松園 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 西隈 | | 城林谷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 後野 | | 屋敷下 |
| 筑前 | 那珂郡 | 那珂川町 | 道善 | | 石倉・古屋敷・ホリ田 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 麥野 | | 内屋敷・堀ヶ尻・榎園・奥園 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 井相田 | | 向園 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 住吉 | | 外園・南小路・垣ノ内・花園 |
| 筑前 | 那珂郡 | 春日市 | 春日 | | 徳府・上ノ居屋敷・下ノ居屋敷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 春日市 | 小倉 | | 遠園・寺ヤシキ |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 三宅 | | 小路・堀川・矢臺 |
| | | | | 296.古野城 | 城ヶ尾 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 春吉 | | 花園・溝間・馬場添・馬場・新屋敷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 西堅粕 | | 御馬所・西門口 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 犬飼 | | 觀音丸・下堀田・堀田・綿丸・堀 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 比惠 | | 屋敷町・門ノ内 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 野間 | | 門ノ浦 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 高宮 | | 堀川・土居ノ内 |
| 筑前 | 那珂郡 | 福岡市 | 堅粕 | | 大溝・舊門前・門・御馬所・大門・カキソへ・古小路 |
| 筑前 | 那珂郡 | 春日市 | 上白水 | | 馬場・門田・新屋敷 |
| 筑前 | 那珂郡 | 春日市 | 下白水 | 297.天浦城 | 城のヤネ |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 鳥飼 | | 別府・升木屋濱・馬場頭・浪人谷・馬屋谷・弓射場・御馬屋後・新屋敷 |
| | | | | 311.鳥飼城 | 土手ノ内・茶屋の内 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 姪浜 | | 北小路・彌丸・屋方町・寶臺 |
| | | | | 326.探題北条氏館 | 城ノ辻 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 殘嶋 | 327.城ヶ崎城 | 城・浦ノ城 |
| | | | | 328.東ノ城 | 東ノ城 |

| 地域名 | 旧郡名 | 市町村名 | 旧村名(大字) | 関連城館 | 関連地名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 田島 | | 垣添・屋敷・別府ノ前・ヤサソノ・辻畑・犬ノ馬場・小屋敷 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 下長尾 | | 戸井 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 上長尾 | R28.樋井川A遺跡 | 下屋敷・向屋敷・中城戸 |
| | | | | | 堀田 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 檜原 | | 古屋敷・堀田 |
| | | | | D62.古城 | 城尾・堀添・屋形町・武士町 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 柏原 | | 政所・中ソノ |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 西新 | | 石丸 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 麁原 | | 石丸 |
| | | | | D65.殿屋敷 | 殿屋敷 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 原 | | 田中園・金丸・下掘 |
| | | | | R34.原遺跡 | 小園・南屋敷 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 荒江 | | 井場 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 飯倉 | | 鎧田・前田・中城戸 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 干隈 | | 屋敷ノ内 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 野芥 | | 崩ソノ・土井・中城土・土井 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 梅林 | | 弓掛・クエソノ・堀田 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 七隈 | | 上野屋敷 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 西油山 | | 居屋敷 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 庄 | | 小路・奥屋敷・西園・金丸 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 小田部 | | 宮城・烏帽子・源蔵門・中園 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 有田 | | 常丸・馬場・天神屋敷 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 次郎丸 | D63.立屋敷 | 建屋敷 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 西脇 | | 土井ノ内 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 下山門 | | 南小路・北小路・今屋敷・舟倉・石堂丸 |
| | | | | 323.生の松原城 | 城ノ原・堀 |
| | | | | 324.長鳥城 | 城ノ内・相馬陣・本城・城ノ辻 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 拾六町 | | 倉道 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 福重 | | 水丸・垣ノ内 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 橋本 | | 園田・川原屋敷・馬場ノ前・向園・矢筈 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 野方 | | 柿ノ内 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 羽根戸 | | 屋敷ノ内・小路・門ノ前・山屋敷・關屋原 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 吉武 | | 大門・牛丸 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 飯盛 | | 古園・馬場 |
| | | | | 322.飯盛城 | 城ノ尾 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 金武 | | 丸・城田・矢倉ノ下 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 四ケ | | 弓田・高屋敷・園田・恋園・小路・小園・大ノ園・八郎丸・龜丸・奥蔵・溝狭間 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 田 | | 城角・居屋敵・宮園・泉屋敷・鬻園 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 重留 | | 滿所 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 内野 | 317.内野城 | 本城 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 脇山 | | 門戸口 |
| | | | | 315.安楽平城 | 城ノ原 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 小笠木 | | 小府 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 東入部 | | 立屋敷・掘切・ケサ丸・三郎丸・馬場田・九郎丸・大門・クラソノ・加増園・政留・角・政所 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 西入部 | | 杉園・龜丸 |
| | | | | 316.陣ノ原城 | 山城陸・陣ノ尾・陣原 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 曲淵 | 318.曲渕城 | 門ノ内・城山・大門・中門 |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 椎原 | | 屋敷ノ谷・矢ハズ |
| 筑前 | 早良郡 | 福岡市 | 板谷 | | 藤五郎屋敷 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 鹿家 | | 小賀倉 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 吉井 | | 上ノ園・大門・水門 |
| | | | | 343.吉井岳城 | 館・御屋敷・城 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 福井 | | 馬場・陣ノ尾・倉谷・隠屋形・丸園 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 深江 | | コイノ丸・垣内・宮小路 |
| | | | | 339.城崎山城 | 城崎 |
| | | | | 340.古城 | 古城 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 濱窪 | | 中園 |

| 地域名 | 旧郡名 | 市町村名 | 旧村名(大字) | 関連城館 | 関連地名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 田中 | | 蔵床 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 松主 | | 屋敷内・下屋敷ノ内 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 波呂 | | 壽命園・矢房 |
| | | | | 337.波呂城 | 城 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 長石 | | 中園・吉木園・森園 |
| | | | | 338.宝珠岳城 | 城山 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 上深江 | | 森園・サヤノ元 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 一貴山 | | 高徳園 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 石崎 | | 矢風 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 松國 | | 陣ノ尾 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 本 | | マタテ・犬丸・富園・富園前・ササドイ・ホリノ前・堀・瀬ツ丸・大園 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 瀬戸 | | ササドイ・土井ノ中 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 東 | | 奥ヶ浦・川園・堀池ノ前 |
| | | | | R40.東高田遺跡 | 屋敷田 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 神在 | | 照園・小路・濱ノ園 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 加布里 | | 宮園・馬場西・馬場東・中ノ小路・後小路 |
| | | | | 336.加布里城 | 城山・南城・荒城 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 長野 | | 三郎丸・久保園・花園 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 小蔵 | | 上屋敷 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 八島 | | 森園・蔵ノ前 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 蔵持 | | 貝園・地屋敷・森小路・立花園 |
| | | | | 蔵持古屋敷遺跡 | 古屋敷 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 香力 | | 城園 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 有田 | | 高田屋敷・宮蔵 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 三坂 | | 堀ヶ田 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 高上 | | 屋敷 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 山北 | | ホリ |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 雷山 | | 内園・門田 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 多久 | | 築地 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 井原 | | 尾花ヤシキ・徳丸・小路・中ヤシキ・寺園・御所・茶ヤシキ・久保園・東園・大園 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 高祖 | | 福丸・屋敷 |
| | | | | 329.高祖城 | 城 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 大門 | | 木戸・中小路・町ヤシキ・中園・シモソノ |
| 筑前 | 怡土郡 | 福岡市 | 飯氏 | | 馬場・大園・屋形町・大屋敷 |
| 筑前 | 怡土郡 | 福岡市 | 宇田川原 | | 中小路 |
| 筑前 | 怡土郡 | 福岡市 | 周船寺 | | 乙丸・家敷ノ坪 |
| 筑前 | 怡土郡 | 福岡市 | 千里 | | 小金丸・垣ノ内・屋片町 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 三雲 | | 楠木ヤシキ・上カク・中川ヤシキ・ヤシキ・三ソノ・杉ソノ・福丸・新村ヤシキ |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 王丸 | | 堀切・荻園 |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 川原 | | 奥園・フスボリ |
| 筑前 | 怡土郡 | 糸島市 | 末永 | | 古屋敷 |
| 筑前 | 怡土郡 | 福岡市 | 徳永 | | 石倉 |
| 筑前 | 怡土郡 | 福岡市 | 上原 | | 堀ノ内・外園・ナカヤシキ・クラノモト・城戸口・イヤソノ |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 女原 | | 古屋敷・烏帽子尾 |
| | | | | 329.高祖城 | 草野陣 |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 青木 | | 大園・井手屋敷・川原園・行園・福井園・城外園 |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 今津 | | 馬場・毘沙門・クヌキ原・口戸・門口・寺小路・立浦・中園・倉ツクシ |
| | | | | 346.臼杵氏端城 | 城カク・城山・城 |
| | | | | 347.鷺城 | 館屋敷 |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 元岡 | | 六郎丸・馬場・馬場ノ下・弓細工・馬場ノ前 |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 桑原 | | 潮見殿 |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 田尻 | | 蔵前・中園・九郎丸 |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 太郎丸 | | 道園・横小路・金丸 |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 今出 | | 土手ノ内 |

| 地域名 | 旧郡名 | 市町村名 | 旧村名(大字) | 関連城館 | 関連地名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 板持 | | 倉ノ元・門田・四郎丸 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 高田 | | 堀ノ元 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 池田 | | 垣内・宮園・溝添 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 潤 | R46.潤古屋敷遺跡 | 古屋敷 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 波多江 | | 立屋敷・堂薗 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 前原 | 357.舞岳城 | 城ノ尾 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 荻ノ浦 | | 前田・市園 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 新田 | | 前田 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 浦志 | | 門田・大城・五郎丸 |
| | | | | D73.浦志孫右衛門宅 | 射場 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 泊 | | 上土井 |
| | | | | 355.泊城 | 城崎・タチ・堀廻 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 馬場 | | 馬場添・森ノ園 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 松隈 | | 前田・松隈小路 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 由比 | | 大門 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 師吉 | | 大城 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 初 | | 古屋敷・府着 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 吉田 | | 丸・大丸・蔵ノ前 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 井田原 | | 大園・大屋敷 |
| | | | | 354.西田城 | 城の辻・城の前 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 稲留 | | 殿ノ山・屋敷 |
| | | | | R52.木藤丸 | 木藤丸 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 小金丸 | | 西屋敷・高薗・恋野薗・小路 |
| | | | | 358.親山城 | 立 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 野北 | | 立屋敷・上堀田・堀田・北園・井ノ園・濱屋敷・花園・大園 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 櫻井 | | 古屋敷・門ノ前・門ノ上・門・蔵ノ下・堀上 |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 小田 | | 勝負坂・小賦倉前・小園・西園・小賦倉・鎧田 |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 宮浦 | | 見付園・稲園 |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 玄界島 | | 屋敷附・射場 |
| 筑前 | 志摩郡 | 福岡市 | 西ノ浦 | | 麦園・前田・堀町 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 芥屋 | | 寺倉・堀切 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 岐志 | | 堀田・麦ノ土井・殿山 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 新町 | | 府中・土手ノ内 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 御床 | | 堀一作ホリ・殿ノ山 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 久家 | | ホリクボ・北ソノ・日門田 |
| 筑前 | 志摩郡 | 糸島市 | 船越 | | 大園 |
| | | | | D74.小金丸氏館 | 殿畠 |

# 索　引


| 城館名 | よみがな | 旧郡名 | 所在地 | 番号 | 一覧頁 | 詳説頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **あ** | | | | | | |
| 青浦城 | あおうらじょう | 不明 | 不明 | F21 | 42 | － |
| 青木城 | あおきじょう | 志摩郡 | 福岡市西区今宿町 | 345 | 30 | 213 |
| 青木遺跡 | あおきいせき | 志摩郡 | 福岡市西区今宿青木 | R48 | 40 | 270 |
| 青柳新城 | あおやぎしんじょう | →新城山城（しんじょうやまじょう（古賀市）） | | | | |
| 赤間山城 | あかまやまじょう | →蔦岳城（つただけじょう） | | | | |
| 赤馬山城 | あかまやまじょう | →蔦岳城（つただけじょう） | | | | |
| 秋葉山城 | あきばやまじょう | →片脇城（かたわきじょう） | | | | |
| 朝城 | あさじょう | →城浦堡（じょうがうらほう） | | | | |
| 浅川城 | あさかわじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区浅川 | 207 | 16 | 128 |
| 朝町城 | あさまちじょう | →城浦堡（じょうがうらほう） | | | | |
| 麻生氏家臣宅 | あそうしかしんたく | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区紅梅４丁目 | D37 | 34 | － |
| 麻生城 | あそうじょう | →畑城（はたじょう） | | | | |
| 麻生氏宅 | あそうしたく | 遠賀郡 | 北九州市若松区修多羅 | D43 | 34 | － |
| 阿部鑑宗宅 | あべあきむねたく | →野北殿館（のぎたどのやかた） | | | | |
| 天浦城 | あまうらじょう | 那珂郡 | 春日市下白水６丁目・泉１・２丁目 | 297 | 26 | － |
| 天裏城 | あまうらじょう | →天浦城（あまうらじょう） | | | | |
| 天賀城 | あまがじょう | 遠賀郡 | 北九州市戸畑区菅原１～４丁目 | 221 | 18 | － |
| 雨乞山城 | あまごいやまじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町手野・三吉 | 241 | 20 | 145 |
| 天満城 | あまじょう | →天浦城（あまうらじょう） | | | | |
| 安楽平城 | あらひらじょう | 早良郡 | 福岡市早良区東入部 | 315 | 26 | 196 |
| 荒平城 | あらひらじょう | →安楽平城（あらひらじょう） | | | | |
| 有田城 | ありたじょう | 怡土郡 | 糸島市有田 | 332 | 28 | 208 |
| 有田・小田部遺跡群 | ありたこたべいせき | 早良郡 | 福岡市早良区有田・小田部 | R32 | 40 | 255 |
| 蟻塚ノ城 | ありづかのしろ | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町 | F13 | 40 | － |
| 安徳城 | あんとくじょう | →龍神山城（たつかみやまじょう） | | | | |
| 安徳台遺跡 | あんとくだいいせき | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町安徳 | R24 | 40 | 250 |
| 安屋城 | あんやじょう | →楽丸城（らくまるじょう） | | | | |
| 飯場城 | いいばじょう | →曲淵城（まがりぶちじょう） | | | | |
| 飯盛城 | いいもりじょう | 宗像郡 | 福津市内殿 | 273 | 24 | 162 |
| 飯盛城 | いいもりじょう | 早良郡 | 福岡市西区飯盛 | 322 | 28 | 203 |
| 飯盛山城 | いいもりやまじょう | 糟屋郡 | 糟屋郡篠栗町金出 | 285 | 24 | 170 |
| 飯盛山城 | いいもりやまじょう | →飯盛城（いいもりじょう（福津市）） | | | | |
| 飯盛（森）山城 | いいもりやまじょう | →飯盛城（いいもりじょう（福岡市西区）） | | | | |
| 一貴寺 | いぎじ | 怡土郡 | 糸島市二丈一貴山 | F16 | 42 | |
| 一貴寺高嶽 | いぎじたかだけ | 怡土郡 | 糸島市二丈一貴山か | F17 | 42 | |
| 生松原城 | いきのまつばらじょう | 早良郡 | 福岡市西区城の原団地・上山門１丁目 | 323 | 28 | － |
| 池田井田遺跡 | いけだいだいせき | 志摩郡 | 糸島市波多江駅南１丁目 | R49 | 40 | 271 |
| 池田城 | いけだじょう | 早良郡 | 福岡市早良区脇山 | 320 | 28 | 201 |
| 石崎城 | いしざきじょう | 怡土郡 | 糸島市二丈石崎 | K15 | 32 | 235 |
| 石崎曲り田遺跡 | いしざきまがりたいせき | 怡土郡 | 糸島市二丈石崎 | R44 | 40 | 266 |
| 石築地 | いしついじ | →元寇防塁（げんこうぼうるい） | | | | |
| 石丸城 | いしまるじょう | →城腰城（じょうのこしじょう（宗像市石丸）） | | | | |
| 井田原城 | いだわらじょう | →西田城（にしだじょう） | | | | |
| 市瀬城 | いちのせじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区市瀬 | 211 | 16 | 130 |
| 一瀬城 | いちのせじょう | →市瀬城（いちのせじょう） | | | | |
| 一の瀬城 | いちのせじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町市瀬 | F14 | 40 | － |
| 一ノ岳城 | いちのたけじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山・市ノ瀬 | 308 | 26 | 190 |
| 一ノ岳里城 | いちのたけさとじろ | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山 | D60 | 36 | － |
| 一町屋敷跡 | いっちょうやしき | 早良郡 | 福岡市西区拾六町 | R35 | 40 | － |
| 井出ノ原遺跡 | いでのはるいせき | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町中原東２丁目 | R22 | 38 | 248 |
| 稲居塚城・金居塚城 | いないづかじょう・かねいづかじょう | 席田郡 | 福岡市博多区月隈１丁目 | 295 | 24 | 182 |
| 稲付城 | いなつきじょう | 鞍手郡 | 宮若市龍徳 | 185 | 14 | － |
| 稲築城 | いなつきじょう | →稲付城（いなつきじょう） | | | | |
| 稲次城 | いなつぎじょう | →稲光城（いなみつじょう） | | | | |

| 城館名 | よみがな | 旧郡名 | 所在地 | 番号 | 一覧頁 | 詳説頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 稲光城 | いなみつじょう | 鞍手郡 | 宮若市稲光・小伏 | 149 | 12 | 101 |
| 稲村城 | いなむらじょう | →稲付城（いなつきじょう） | | | | |
| 犬鳴城 | いぬなきじょう | →犬鳴別館（いぬなきべっかん） | | | | |
| 犬鳴別館 | いぬなきべっかん | 鞍手郡 | 宮若市犬鳴 | K6 | 32 | 220 |
| 井上家臣宅 | いのうえかしんたく | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区（旧藤田村） | D38 | 34 | － |
| 井上氏宅 | いのうえしたく | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区陣原４丁目 | D42 | 34 | － |
| 今井城 | いまいじょう | 宗像郡 | 宗像市三郎丸２丁目 | 253 | 22 | － |
| 今許斐城 | いまこのみじょう | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町上木月 | 200 | 16 | － |
| 今許斐砦 | いまこのみとりで | →今許斐城（いまこのみじょう） | | | | |
| 岩門城 | いわとじょう | →龍神山城（たつかみやまじょう） | | | | |
| 岩戸館 | いわとやかた | →原田種直館（はらだたねなおやかた） | | | | |
| 岩永左衛門城 | いわながざえもんじょう | →城崎砦（じょうざきとりで（宮若市）） | | | | |
| 岩松城 | いわまつじょう | 志摩郡 | 糸島市志摩浦 | 352 | 30 | 217 |
| 上原館 | うえばるやかた | 怡土郡 | 糸島市高祖 | D67 | 38 | － |
| 菟道岳城 | うじだけじょう | 早良郡 | 福岡市早良区東入部 | 314 | 26 | 196 |
| 臼ヶ岳城 | うすがたけじょう | 糟屋郡 | 古賀市薦野 | 276 | 24 | 164 |
| 臼杵氏端城 | うすきしはじょう | 志摩郡 | 福岡市西区今津 | 346 | 30 | 213 |
| 内野城 | うちのじょう | 早良郡 | 福岡市早良区早良６丁目 | 317 | 28 | － |
| 内山城 | うちやまじょう | 鞍手郡 | 宮若市倉久 | 175 | 14 | － |
| 鵜ノ木城 | うのきじょう | →鵜岳城（つぐみがたけじょう） | | | | |
| 馬乗城 | うまのりじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区上上津役３丁目 | 209 | 16 | － |
| 浦江遺跡 | うらえいせき | 早良郡 | 福岡市西区金武 | R34 | 40 | 257 |
| 浦城 | うらじょう | →岩松城（いわまつじょう） | | | | |
| 浦志館 | うらしやかた | →浦志孫右衛門宅（うらしまごえもんたく） | | | | |
| 浦志孫右衛門宅 | うらしまごえもんたく | 志摩郡 | 糸島市浦志２丁目 | D73 | 38 | － |
| 浦山城 | うらやまじょう | 鞍手郡 | 宮若市平 | 165 | 12 | － |
| 浦山城 | うらやまじょう | →探題北条氏城（たんだいほうじょうしじょう） | | | | |
| 潤古屋敷遺跡 | うるうふるやしきいせき | 志摩郡 | 糸島市潤 | R50 | 40 | 271 |
| 永犬丸城 | えいのまるじょう | →園田浦城（そのだうらじょう） | | | | |
| 会下城 | えげじょう | →藤原城（ふじわらじょう） | | | | |
| 榎城 | えのきじょう | →六郎丸城（ろくろうまるじょう） | | | | |
| 蛭子谷城 | えびすだにじょう | →本城城（ほんじょうじょう） | | | | |
| 縁城 | えんのしろ | →名残城（なごりじょう） | | | | |
| 遠藤大膳宅 | えんどうたいぜんたく | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町古門 | D26 | 32 | － |
| 御飯ノ山城 | おいのやまじょう | 糟屋郡 | 福岡市東区香椎３丁目 | 293 | 24 | 180 |
| 老ノ山城 | おいのやまじょう | →御飯ノ山城（おいのやまじょう） | | | | |
| 大神城 | おおがみじょう | 志摩郡 | 福岡市西区桑原 | 350 | 30 | 216 |
| 大神出雲守宅 | おおがみいずものかみ | →大神城（おおがみじょう） | | | | |
| 大蔵城 | おおくらじょう | →茶臼山城（ちゃうすやま（北九州市八幡東区）） | | | | |
| 大島城 | おおしまじょう | 宗像郡 | 宗像市大島 | 248 | 20 | 149 |
| 大谷城 | おおたにじょう | →高丸城（たかまるじょう） | | | | |
| 大谷高丸城 | おおたにたかまるじょう | →高丸城（たかまるじょう） | | | | |
| 大塚遺跡 | おおつかいせき | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町安徳 | R23 | 38 | 249 |
| 大塚遺跡 | おおつかいせき | 志摩郡 | 福岡市西区今宿町 | R47 | 40 | 269 |
| 大音屋敷 | おおとやしき | 鞍手郡 | 宮若市山口 | K7 | 32 | 223 |
| 大橋Ｅ遺跡 | おおはしＥいせき | 那珂郡 | 福岡市南区大橋４丁目 | R20 | 38 | 246 |
| 大穂城 | おおぶじょう | 宗像郡 | 宗像市大穂 | 262 | 22 | 157 |
| 大丸城 | おおまるじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町南面里 | 306 | 26 | － |
| 大村氏宅 | おおむらしたく | →地蔵山城（じぞうやまじょう） | | | | |
| 岡田城 | おかだじょう | 鞍手郡 | 宮若市山口 | 157 | 12 | 109 |
| 岡ノ城 | おかのじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町吉木西１丁目 | 237 | 20 | 143 |
| 荻浦居屋敷 | おぎうらいやしき | 志摩郡 | 糸島市志摩荻浦 | F19 | 42 | － |
| 尾倉城 | おぐらじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡東区春の町３丁目 | 217 | 18 | － |
| 小倉陣 | おぐらじょう | →尾倉城（おぐらじょう） | | | | |
| 小蔵城 | おぐらじょう | →小倉山城（おぐらやまじょう） | | | | |
| 小倉城 | おぐらじょう | →小倉山城（おぐらやまじょう） | | | | |
| 小倉山城 | おぐらやまじょう | 怡土郡 | 糸島市白糸 | 341 | 30 | 210 |
| 尾園城 | おぞのじょう | →尾園本城（おぞのほんじょう） | | | | |

| 城館名 | よみがな | 旧郡名 | 所在地 | 番号 | 一覧頁 | 詳説頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 尾園本城 | おぞのほんじょう | 鞍手郡 | 宮若市山口 | 158 | 12 | 110 |
| 老林城 | おとなばやし（ろうりん）じょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町別所 | 300 | 26 | 185 |
| 乙野草場城 | おとのくさばじょう | →草場城（くさばじょう（宮若市乙野）） | | | | |
| 音丸城 | おとまるじょう | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町新北 | 196 | 16 | 122 |
| 音丸山城 | おとまるやまじょう | →音丸城（おとまるじょう） | | | | |
| 御屋敷 | おやしき | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区祇園２丁目 | D41 | 34 | － |
| 尾山城 | おやまじょう | →剣岳城（つるぎだけじょう） | | | | |
| 親山城 | おやまじょう | 志摩郡 | 糸島市志摩小金丸 | 358 | 30 | 218 |
| 小山城 | おやまじょう | →親山城（おやまじょう） | | | | |

## か

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 海蔵寺城 | かいぞうじじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町内浦 | 242 | 20 | － |
| 海蔵寺戦城 | かいぞうじせんじょう | →海蔵寺城（かいぞうじじょう） | | | | |
| 隠館 | かくれやかた | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区畑 | D33 | 34 | － |
| 香椎Ａ遺跡 | かしいＡいせき | 糟屋郡 | 福岡市東区香椎２丁目 | R14 | 38 | 240 |
| 香椎Ｂ遺跡 | かしいＢいせき | 糟屋郡 | 福岡市東区香椎・香椎台４～５丁目 | R15 | 38 | 242 |
| 柏原Ｋ遺跡 | かしはらＫいせき | 早良郡 | 福岡市南区柏原６丁目 | R27 | 40 | 252 |
| 春日城 | かすがじょう | →古野城（ふるのじょう） | | | | |
| 春日嶽城 | かすがだけじょう | 不明 | 不明 | F22 | 42 | － |
| 香雫城 | かすくじょう | →香雫井原屋敷（かすくいはらやしき） | | | | |
| 香雫井原屋敷 | かすくいはらやしき | 宗像郡 | 福津市福間南１丁目 | D49 | 36 | 236 |
| 葛ヶ岳城 | かずらがたけじょう | 宗像郡 | 宗像市陵厳寺 | － | 42 | － |
| 片山砦 | かたやまとりで | 鞍手郡 | 宮若市山口 | 163 | 12 | － |
| 片脇城 | かたわきじょう | 宗像郡 | 宗像市田島 | 260 | 22 | 155 |
| 香月館 | かつきやかた | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区上香月・白岩町 | 204 | 16 | － |
| 香月城 | かつきじょう | →香月館（かつきやかた） | | | | |
| 香月氏宅 | かつきしたく | →香月館（かつきやかた） | | | | |
| 香月氏宅 | かつきしたく | →茶臼山城（ちゃうすやまじょう（北九州市八幡西区）） | | | | |
| 香月七郎則宗宅 | かつきしちろうのりむねたく | →香月館（かつきやかた） | | | | |
| 勝島城 | かつしまじょう | 宗像郡 | 宗像市神湊 | 246 | 20 | 147 |
| 勝野山城 | かつのやまじょう | →草場城（くさばじょう（鞍手郡小竹町）） | | | | |
| 勝山城 | かつやまじょう | →鬢鏡山城（びんかがみやまじょう） | | | | |
| 葛城 | （かつらぎ） | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町久原字葛城 | － | 42 | － |
| 勝浦岳城 | かつらだけじょう | 宗像郡 | 福津市勝浦・宗像市田島 | 261 | 22 | 156 |
| 桂岳城 | かつらだけじょう | →勝浦岳城（かつらだけじょう） | | | | |
| 金丸城 | かなまるじょう | 鞍手郡 | 宮若市金丸 | 176 | 14 | － |
| 金山城 | かなやまじょう | 早良郡／肥前国 | 福岡市早良区石釜・佐賀県佐賀市三瀬村三瀬 | 319 | 28 | 200 |
| 金生城 | かのうじょう | 鞍手郡 | 宮若市金生 | 179 | 14 | 113 |
| 香葉城 | かばじょう | →香葉深川屋敷（かばふかがわやしき） | | | | |
| 香葉深川屋敷 | かばふかがわやしき | 宗像郡 | 福津市福間南２丁目 | D50 | 36 | － |
| 加布里城 | かふりじょう | 怡土郡 | 糸島市加布里・二丈浜窪 | 336 | 28 | 209 |
| 鎌倉城 | かまくらじょう | →臼杵氏端城（うすきしはじょう） | | | | |
| 上有木城 | かみあるきじょう | 鞍手郡 | 宮若市上有木 | 169 | 14 | － |
| 上西郷城 | かみさいごうじょう | 宗像郡 | 福津市上西郷 | 272 | 22 | － |
| 上西郷タナカ遺跡 | かみさいごうたなかいせき | 宗像郡 | 福津市上西郷 | R12 | 38 | 240 |
| 上西郷ニホンスギ遺跡 | かみさいごうにほんすぎいせき | 宗像郡 | 福津市上西郷 | R11 | 38 | 239 |
| 上月隈城 | かみつきぐまじょう | →稲居塚城・金居塚城（いないづかじょう・かねいづかじょう） | | | | |
| 上頓野宮ノ前遺跡 | かみとんのみやのまえいせき | 鞍手郡 | 直方市上頓野 | R9 | 38 | 237 |
| 上ノ山城 | かみのやまじょう | →尾倉城（おぐらじょう） | | | | |
| 上山堡 | かみやまほう | 宗像郡 | 宗像市山田・遠賀郡岡垣町高倉 | 250 | 20 | 150 |
| 上山田城 | かみやまだじょう | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町山田・久原 | 290 | 24 | － |
| 亀ノ尾城 | かめのおじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山・市ノ瀬 | 308 | 26 | 192 |
| 亀山城 | かめやまじょう | 宗像郡 | 福津市福間駅東３丁目 | 271 | 22 | 162 |
| 鴨か浦城 | かもがうらじょう | →古賀城（こがじょう） | | | | |
| 可也山城 | かやさんじょう | 志摩郡 | 糸島市志摩小金丸・志摩師吉・志摩小富士・志摩御床 | 359 | 30 | － |
| 加也山城 | かやさんじょう | →可也山城（かやさんじょう） | | | | |
| 粥田城 | かゆたじょう | →龍ヶ岳城（りゅう（たつ）がたけじょう） | | | | |
| 雁城山城 | がんぎやまじょう | →宮永城（みやながじょう） | | | | |
| 感田城 | がんだじょう | 鞍手郡 | 直方市感田 | K9 | 32 | － |

| 城館名 | よみがな | 旧郡名 | 所在地 | 番号 | 一覧頁 | 詳説頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 観音山城 | かんのんやまじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町大字中原 | － | 42 | － |
| 冠城 | かんむりじょう | →冠山城（かんむりやまじょう） | | | | |
| 冠山城 | かんむりやまじょう | 宗像郡 | 福津市手光 | 269 | 22 | 160 |
| 祇園岳城 | ぎおんだけじょう | 鞍手郡 | 宮若市本城 | 183 | 14 | 115 |
| 岸本五郎兵衛宅 | きしもとごろうべえたく | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町小牧 | D30 | 34 | － |
| 北浦城 | きたうらじょう | →城ヶ崎城（じょうがさきじょう） | | | | |
| 北崎城 | きたざきじょう | 志摩郡 | 福岡市西区北崎 | F20 | 42 | － |
| 北殿館 | きたどのやかた | →野北殿館（のぎたどの） | | | | |
| 木藤丸遺跡 | きふじまるいせき | 志摩郡 | 糸島市志摩稲留 | R52 | 40 | 273 |
| 木舟・三本松遺跡 | きぶねさんぼんまついせき | 怡土郡 | 糸島市二丈深江 | R45 | 40 | 267 |
| 木舟の森遺跡 | きぶねのもりいせき | 怡土郡 | 糸島市二丈深江 | R46 | 40 | 268 |
| 九州探題城 | きゅうしゅうたんだいじょう | →探題北条氏城（たんだいほうじょうしじょう） | | | | |
| 清末遺跡 | きよすえいせき | 早良郡 | 福岡市早良区東入部４・５丁目 | R31 | 40 | 255 |
| 草崎城 | くさざきじょう | 宗像郡 | 宗像市神湊 | 247 | 20 | 148 |
| 草崎山城 | くさざきやま | →草崎城（くさざきじょう） | | | | |
| 草場城 | くさばじょう | 鞍手郡 | 宮若市乙野 | 145 | 12 | 99 |
| 草場城 | くさばじょう | 鞍手郡 | 宮若市湯原 | 140 | 12 | 97 |
| 草場城 | くさばじょう | 鞍手郡 | 鞍手郡小竹町勝野・新多 | 187 | 14 | － |
| 草場城 | くさばじょう | 宗像郡 | 宗像市平等寺 | 249 | 20 | 150 |
| 草場城 | くさばじょう | →草葉城（くさばじょう） | | | | |
| 草場城 | くさばじょう | →柑子岳城（こうじだけじょう） | | | | |
| 草葉城 | くさばじょう | 糟屋郡 | 糟屋郡篠栗町篠栗 | 284 | 24 | 169 |
| 草場山城 | くさばやまじょう | →草場城（くさばじょう（宗像市）） | | | | |
| 楠橋城 | くすばしじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区楠橋 | 202 | 16 | － |
| 熊ヶ城 | くまがじょう | →熊ヶ峯城（くまがみねじょう） | | | | |
| 熊ヶ峯城 | くまがみねじょう | 鞍手郡 | 宮若市犬鳴 | 137 | 12 | 96 |
| 神代氏城 | くましろしじょう | →金山城（かなやまじょう） | | | | |
| 熊の城 | くまのじょう | →金山城（かなやまじょう） | | | | |
| 熊野神社東遺跡 | くまのじんじゃひがしいせき | 怡土郡 | 糸島市二丈田中 | R43 | 40 | 265 |
| 隈本ノ城 | くまもとのしろ | →新城山城（しんじょうやまじょう（那珂川町）） | | | | |
| 熊山城 | くまやまじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町三吉 | 239 | 20 | 144 |
| 熊鰐宅 | くまわにたく | →熊山城（くまやまじょう） | | | | |
| 雲取城 | くもとりじょう | →雲取山城（くもとりやまじょう） | | | | |
| 雲取山城 | くもとりやまじょう | 鞍手郡 | 直方市上頓野・頓野 | 192 | 16 | 119 |
| 蔵持境遺跡 | くらもちさかいいせき | 怡土郡 | 糸島市蔵持 | R38 | 40 | 261 |
| 蔵持古屋敷遺跡 | くらもちふるやしきいせき | 怡土郡 | 糸島市蔵持 | R39 | 40 | 261 |
| 黒烏城 | くろうじょう | →黒巣城（くろすじょう） | | | | |
| 黒崎城 | くろさきじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区屋敷１丁目・船町 | K10 | 32 | 227 |
| 黒巣城 | くろすじょう | 鞍手郡 | 宮若市山口 | 155 | 12 | 108 |
| 黒田監物利良宅 | くろだけんもつとしよしたく | 鞍手郡 | 宮若市金丸 | D23 | 32 | － |
| 黒田長清居館 | くろだながきよきょかん | →直方陣屋（のおがたじんや） | | | | |
| 黒田養心宅 | くろだようしんたく | 宗像郡 | 福津市津屋崎４丁目 | D48 | 34 | － |
| 黒田養心館 | くろだようしんやかた | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町市瀬 | D59 | 36 | － |
| 黒丸城 | くろまるじょう | 鞍手郡 | 宮若市黒丸 | 151 | 12 | 102 |
| 黒丸丸尾城 | くろまるまるおじょう | →丸尾城（まるおじょう） | | | | |
| 蠑蛞羽子城 | けらはごじょう | 宗像郡 | 福津市本木 | 267 | 22 | － |
| 元寇防塁 | げんこうぼうるい | 志摩・早良・那珂・糟屋郡 | 福岡市東区・博多区・早良区・西区 | R37 | 40 | 258 |
| 碁石山城 | ごいしやま | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町吉木 | 235 | 20 | － |
| 光運寺山城 | こううんじやまじょう | →探題渋川氏城（たんだいしぶかわしじょう） | | | | |
| 柑子岳城 | こうじだけじょう | 志摩郡 | 福岡市西区今津・草場 | 348 | 30 | 214 |
| 好士岳城 | こうじだけじょう | →柑子岳城（こうじだけじょう） | | | | |
| 香地岳城 | こうじだけじょう | →柑子岳城（こうじだけじょう） | | | | |
| 上津役城 | こうじゃくじょう | →竹尾城（たけのおじょう） | | | | |
| 高祖崎城 | こうそざき | →石崎城（いしざきじょう） | | | | |
| 強洞陣 | ごうとうじん | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区藤田 | － | 42 | － |
| 河頭山陣 | ごうとうやまじん | →強洞陣（ごうとうじん） | | | | |
| 光福寺城館跡 | こうふくじじょうかんあと | 鞍手郡 | 直方市下境 | R8 | 38 | 237 |
| 古賀城 | こがじょう | 鞍手郡 | 宮若市脇田 | 139 | 12 | － |
| 古賀城 | こがじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡水巻町古賀 | 228 | 18 | 138 |

| 城館名 | よみがな | 旧郡名 | 所在地 | 番号 | 一覧頁 | 詳説頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 古賀宗城 | こがむねじょう | →黒丸城（くろまるじょう） | | | | |
| 小金丸城 | こがねまるじょう | →親山城（おやまじょう） | | | | |
| 小金丸氏館 | こがねまるしやかた | 志摩郡 | 糸島市志摩船越 | D74 | 38 | － |
| 五箇山城 | ごかやまじょう | →一ノ岳城（いちのたけじょう） | | | | |
| 五ヶ山網取遺跡 | ごかやまあみとりいせき | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山 | R26 | 40 | 252 |
| 古砦趾 | こさいあと | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区市瀬 | D35 | 34 | － |
| 小敷城 | こしきじょう | 遠賀郡 | 北九州市若松区小敷 | 227 | 18 | 137 |
| 腰山城 | こしやまじょう | →岡ノ城（おかのじょう） | | | | |
| 腰（越）山城 | こしやまじょう | →城腰山城（じょうのこしやまじょう） | | | | |
| 古城 | こじょう | 怡土郡 | 糸島市二丈深江 | 340 | 30 | － |
| 古城 | こじょう | 早良郡 | 福岡市早良区桧原 | D62 | 36 | － |
| 古城 | こじょう | →泊城（とまりじょう） | | | | |
| 古宅 | こたく | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町吉木 | D45 | 34 | － |
| 古宅址 | こたくあと | →戸畑城（とばたじょう） | | | | |
| 小田部氏宅 | こたべしたく | 小田部城（こたべじょう） | | | | |
| 小田部城 | こたべじょう | 早良郡 | 福岡市早良区有田２～３丁目 | 312 | 26 | 195 |
| 許斐里城 | このみさとじろ | →吉原里城（よしわらのさとじろ） | | | | |
| 許斐氏宅 | このみしたく | 宗像郡 | 宗像市王丸 | D47 | 34 | － |
| 許斐岳城 | このみだけじょう | 宗像郡 | 宗像市王丸・福津市八並 | 263 | 22 | 157 |
| 許斐山城 | このみやまじょう | →許斐岳城（このみたけじょう） | | | | |
| 小伏城 | こぶしじょう | →稲光城（いなみつじょう） | | | | |
| 御別館 | ごべっかん | →犬鳴別館（いぬなきべっかん） | | | | |
| 小松岡砦 | こまつがおかとりで | 糟屋郡 | 古賀市薦野 | 275 | 24 | 163 |
| 薦野臼岳城 | こものうすがたけじょう | →臼ヶ岳城（うすがたけじょう） | | | | |
| 薦野氏邑城 | こものしゆうじょう | →小松岡砦（こまつがおかとりで） | | | | |
| 五郎城 | ごろうじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町島津 | 232 | 20 | － |
| 権現堂城 | ごんげんどうじょう | →権現山城（ごんげんやまじょう（鞍手郡小竹町）） | | | | |
| 権現山城 | ごんげんやまじょう | 鞍手郡 | 鞍手郡小竹町御徳 | 189 | 14 | － |
| 権現山城 | ごんげんやまじょう | →鷹見岳城（たかみだけじょう） | | | | |
| 金剛城 | こんごうじょう | 鞍手郡 | 北九州市八幡西区金剛 | 201 | 16 | － |

## さ

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 西国探題城 | さいごくたんだいじょう | →探題北条氏城（たんだいほうじょうしじょう） | | | | |
| 坂元城 | さかもとじょう | →下有木城（しもあるきじょう） | | | | |
| 坂本城 | さかもとじょう | →下有木城（しもあるきじょう） | | | | |
| 鷺城 | さぎじょう | 糟屋郡 | 古賀市薬内 | 277 | 24 | － |
| 鷺城 | さぎじょう | 志摩郡 | 福岡市西区今津 | 347 | 30 | － |
| 鷺白城 | さぎしろじょう | →鷺城（さぎじょう（古賀市）） | | | | |
| 鷺代城 | さぎしろじょう | →鷺城（さぎじょう（古賀市）） | | | | |
| 左近屋敷 | さこんやしき | 鞍手郡 | 宮若市乙野 | D21 | 32 | － |
| 笹城 | ささじょう | →亀ノ尾城（かめのおじょう） | | | | |
| 篠谷城 | （ささたにじょう） | 遠賀郡 | 北九州市八幡東区大蔵１丁目・高見１丁目 | 219 | 18 | － |
| 篠山城 | （ささやまじょう） | →篠谷城（ささたにじょう） | | | | |
| 笹原城 | ささはらじょう | →篠谷城（ささたにじょう） | | | | |
| 佐谷城 | さたにじょう | 糟屋郡 | 糟屋郡須恵町佐谷 | 282 | 24 | 167 |
| 重松若狭守宅 | しげまつわかさのかみたく | 早良郡 | 福岡市早良区内野 | D63 | 36 | － |
| 地蔵山城 | じぞうやまじょう | 鞍手郡 | 宮若市湯原 | 141 | 12 | 98 |
| 篠崎城 | しのざきじょう | →篠城（しのんじょう） | | | | |
| 地島城 | じのしまじょう | →城ノ腰城（じょうのこしじょう（宗像市地島）） | | | | |
| 篠原城 | しのわらじょう | 怡土郡 | 糸島市前原南２丁目 | 331 | 28 | － |
| 篠城 | しのんじょう | 鞍手郡 | 宮若市乙野 | 144 | 12 | 99 |
| 四方城 | （しほうじょう） | →四万城（しまんじょう） | | | | |
| 志摩城 | しまじょう | 志摩郡 | 糸島市志摩馬場・福岡市西区桑原 | 351 | 30 | － |
| 島内館 | （しまうちやかた） | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町古門 | D28 | 32 | － |
| 志摩野城 | しまのじょう | →志摩城（しまじょう） | | | | |
| 四万城 | しまんじょう | 糟屋郡 | 古賀市青柳町 | 280 | 24 | 166 |
| 志水Ａ遺跡 | しみずＡいせき | 早良郡 | 福岡市早良区小笠木 | R30 | 40 | 254 |
| 清水城 | しみずがじょう | 鞍手郡 | 宮若市乙野 | 147 | 12 | － |
| 下有木城 | しもあるきじょう | 鞍手郡 | 宮若市下有木・上有木 | 172 | 14 | － |

| 城館名 | よみがな | 旧郡名 | 所在地 | 番号 | 一覧頁 | 詳説頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 下村城 | しもむらじょう | 鞍手郡 | 宮若市下 | 142 | 12 | － |
| 下山田城 | しもやまだじょう | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町山田・新宮町立花口 | 291 | 24 | 171 |
| 下山門乙女田遺跡 | しもやまとおとめだいせき | 早良郡 | 福岡市西区下山門３丁目 | R36 | 40 | 257 |
| 十郎ヶ城 | じゅうろうがじょう | →吉田城（よしだじょう） | | | | |
| 目尾崎城 | しゃがのおじょう | →草場城（くさばじょう（鞍手郡小竹町）） | | | | |
| 守護所址 | しゅごしょあと | →陶弘詮館址（すえひろのりやかたあと） | | | | |
| 城浦堡 | じょうがうらほう | 宗像郡 | 宗像市朝町・名残 | 258 | 22 | － |
| 城角城 | じょうかくじょう | 志摩郡 | 福岡市西区今津 | － | 42 | － |
| 城ヶ崎城 | じょうがさきじょう | 早良郡 | 福岡市西区能古 | 327 | 28 | 204 |
| 城崎砦 | じょうがさきとりで | →城ヶ崎城（じょうがさきじょう） | | | | |
| 城棒城 | じょうがぼうじょう | 宗像郡 | 宗像市田久 | 255 | 22 | － |
| 城崎砦 | じょうざきとりで | 鞍手郡 | 宮若市上有木・四郎丸 | 171 | 14 | － |
| 城崎山城 | じょうざきやまじょう | 怡土郡 | 糸島市二丈上深江 | 339 | 30 | － |
| 城の浦城 | じょうのうらじょう | 宗像郡 | 福津市本木 | 266 | 22 | － |
| 城之腰城 | じょうのこしじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町尾崎 | 230 | 18 | 140 |
| 城ノ腰城 | じょうのこしじょう | 宗像郡 | 宗像市地島 | 245 | 20 | 147 |
| 城ノ腰城 | じょうのこしじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町上梶原・山田 | 302 | 26 | － |
| 城腰城 | じょうのこしじょう | 宗像郡 | 宗像市石丸４丁目 | 254 | 22 | － |
| 城越城 | じょうのこしじょう | →岡ノ城（おかのじょう） | | | | |
| 城腰 | じょうのこし | 宗像郡 | 宗像市大島 | － | 42 | － |
| 城腰山城 | じょうのこしやまじょう | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町新延 | 198 | 16 | 124 |
| 城ノ崎砦 | じょうのさきとりで | 遠賀郡 | 北九州市若松区頓田 | 225 | 18 | － |
| 城ノ辻砦 | じょうのつじとりで | →楠橋城（くすばしじょう） | | | | |
| 城辻城 | じょうのつじじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町別府 | K12 | 32 | － |
| 城ノ原城 | じょうのはるじょう | →生松原城（いきのまつばらじょう） | | | | |
| 城の山城 | じょうのやまじょう | →三瀬城（みつせじょう） | | | | |
| 城山城 | じょうやまじょう | 志摩郡 | 糸島市板持 | － | 42 | － |
| 城山城 | じょうやまじょう | →加布里城（かふりじょう） | | | | |
| 城山城 | じょうやまじょう | →稲光城（いなみつじょう） | | | | |
| 城山城 | じょうやまじょう | →蔦岳城（つただけじょう） | | | | |
| 城山城 | じょうやまじょう | →丸山城（まるやまじょう） | | | | |
| 白木城 | しらきじょう | →畑城（はたじょう） | | | | |
| 白山城 | （しらさんじょう） | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町猪野・久原 | 289 | 24 | － |
| 白土城 | しらつちがじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山 | 309 | 26 | － |
| 白水城 | しろうずじょう | →天浦城（あまうらじょう） | | | | |
| 四郎丸城 | しろうまるじょう | 鞍手郡 | 宮若市四郎丸 | 174 | 14 | － |
| 白旗城 | しろはたじょう | →金生城（かのうじょう） | | | | |
| 新城山城 | しんじょうやまじょう | 糟屋郡 | 古賀市青柳町・谷山 | 279 | 24 | － |
| 新城山城 | しんじょうやまじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町西隈 | 299 | 26 | 184 |
| 新城山城 | しんじょうやまじょう | 志摩郡 | 糸島市志摩新町 | 360 | 30 | － |
| 陣尾 | じんのお | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山 | D61 | 36 | － |
| 陣腰 | じんのこし | 糟屋郡 | 福岡市東区松崎１丁目 | D54 | 36 | － |
| 陣ノ坂 | じんのさか | 鞍手郡 | 宮若市山口 | D22 | 32 | － |
| 陣ノ原城 | じんのはる | 早良郡 | 福岡市早良区西入部・西区室見が丘2・3丁目 | 316 | 28 | － |
| 新町城 | しんまちじょう | →城腰山城（じょうのこしやまじょう） | | | | |
| 陣屋谷 | じんやだに | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区市瀬 | D34 | 34 | － |
| 新山崎城 | しんやまさきじょう | →山崎城（やまさきじょう（鞍手郡小竹町）） | | | | |
| 陣山城 | じんやまじょう | →浅川城（あさかわじょう） | | | | |
| 須恵城 | すえじょう | →武藤氏宅（むとうしたく） | | | | |
| 須恵左近屋敷 | すえさこんやしき | →左近屋敷（さこんやしき） | | | | |
| 陶弘詮館址 | すえひろのりやかたあと | 鞍手郡 | 北九州市八幡西区木屋瀬 | D31 | 34 | － |
| 杉山城 | すぎやまじょう | 糟屋郡 | 福岡市東区香椎・水谷 | 294 | 24 | － |
| 須藤駿河守行重宅 | すどうするがのかみゆきしげたく | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町手野 | D44 | 34 | － |
| 仙城城 | せんじょうじょう | →杣城城（そましろじょう） | | | | |
| 園田城 | そのだじょう | →園田浦城（そのだうらじょう） | | | | |
| 園田浦城 | そのだうらじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区北筑２丁目 | 205 | 16 | 125 |
| 杣島館 | そましまやかた | 鞍手郡 | 直方市中泉 | D24 | 32 | － |
| 杣城城 | （そましろじょう） | 鞍手郡 | 直方市下境 | 190 | 16 | － |

| 城館名 | よみがな | 旧郡名 | 所在地 | 番号 | 一覧頁 | 詳説頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| た | | | | | | |
| 代官屋敷 | だいかんやしき | 怡土郡 | 糸島市二丈武 | K16 | 32 | － |
| 大城城 | だいじょうじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡芦屋町大城 | 234 | 20 | － |
| 大障子城 | だいしょうじじょう | 宗像郡 | 宗像市多礼 | 259 | 22 | 154 |
| 大門城 | だいもんじょう | →尾倉城（おぐらじょう） | | | | |
| 高祖城 | たかすじょう | 怡土郡/志摩郡 | 糸島市高祖・高来寺、福岡市西区今宿上ノ原・女原・千里 | 329 | 28 | 205 |
| 高岳城 | たかだけじょう | →加布里城（かふりじょう） | | | | |
| 高塔峰砦 | たかとうみねとりで | 遠賀郡 | 北九州市若松区修多羅 | 223 | 18 | － |
| 高塔山城 | たかとうやま | →高塔峰砦（たかとうみねとりで） | | | | |
| 高取城 | たかとりじょう | 鞍手郡 | 宮若市龍徳・鶴田 | 186 | 14 | － |
| 鷹取城 | たかとりじょう | 鞍手郡 | 直方市永満寺・頓野・田川郡福智町上野 | 191 | 16 | 116 |
| 鷹取城 | たかとりじょう | →高鳥居城（たかとりいじょう（糟屋郡須恵町・篠栗町）） | | | | |
| 高鳥居城 | たかとりいじょう | 糟屋郡 | 糟屋郡須恵町須恵・上須恵篠栗町若杉 | 283 | 24 | 168 |
| 高鳥居城 | たかとりいじょう | →鷹取城（たかとりじょう（直方市・田川郡福智町）） | | | | |
| 高取（山）城 | たかとり（やま）じょう | →鷹取城（たかとりじょう（直方市・田川郡福智町）） | | | | |
| 鷹取山城 | たかとりやまじょう | →鷹取城（たかとりじょう（直方市・田川郡福智町）） | | | | |
| 高丸城 | たかまるじょう | 鞍手郡 | 宮若市山口 | 156 | 12 | 108 |
| 鷹丸城 | たかまるじょう | →高丸城（たかまるじょう） | | | | |
| 高見城 | たかみじょう | →鷹見岳城（たかみだけじょう） | | | | |
| 鷹見岳城 | たかみだけじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区市瀬・八幡東区前田 | 214 | 18 | － |
| 高宮城 | たかみやじょう | 宗像郡 | 福津市畦町 | 268 | 22 | 160 |
| 高宮山城 | たかみややまじょう | →高宮城（たかみやじょう） | | | | |
| 隆守城 | たかもりじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町吉木 | 236 | 20 | － |
| 瀧口城 | たきぐちじょう | →大障子城（だいしょうじじょう） | | | | |
| 田久城 | たくじょう | →城棒城（じょうがぼうじょう） | | | | |
| 竹垣城 | たけがきじょう | 鞍手郡 | 宮若市竹原 | 168 | 14 | － |
| 竹尾城 | たけのおじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区上上津役・市瀬 | 210 | 16 | 130 |
| 竹尾山城 | たけのおやまじょう | →竹尾城（たけのおじょう） | | | | |
| 竹原竹垣城 | たけはらたけがきじょう | →竹垣城（たけがきじょう） | | | | |
| 岳宮城 | たけみやじょう | 鞍手郡 | 宮若市乙野 | 146 | 12 | － |
| 岳山城 | たけやまじょう | →蔦岳城（つただけじょう） | | | | |
| 田代城 | たしろじょう | →上山田城（かみやまだじょう） | | | | |
| 立花城 | たちばなじょう | →立花山城（たちばなやまじょう） | | | | |
| 立花山城 | たちばなやまじょう | 糟屋郡 | 糟屋郡新宮町立花口・原上、久山町山田、福岡市東区下原・浜男・香椎 | 292 | 24 | 172 |
| 龍神山城 | たつかみやまじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町安徳・山田・上梶原 | 301 | 26 | 186 |
| 立ノ口城 | たつのくちじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町大字中原字立ノ口・春日市上白水 | － | 42 | － |
| 立林城 | たてばやしじょう | 鞍手郡 | 宮若市黒丸 | 148 | 12 | 101 |
| 立屋敷 | たてやしき | 早良郡 | 福岡市早良区次郎丸１丁目 | D64 | 36 | － |
| 多良倉岳城 | たらくらだけじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡東区尾倉 | 216 | 18 | － |
| 多礼城 | たれじょう | →大障子城（だいしょうじじょう） | | | | |
| 探題城 | たんだいじょう | →探題北条氏城（たんだいほうじょうしじょう） | | | | |
| 探題渋川氏城 | たんだいしぶかわしじょう | 早良郡 | 福岡市西区姪の浜２丁目 | 326 | 28 | － |
| 探題北条氏城 | たんだいほうじょうしじょう | 早良郡 | 福岡市西区愛宕２丁目 | 325 | 28 | － |
| 團原館 | だんのばるやかた | 糟屋郡/宗像郡 | 古賀市筵内、福津市内殿・上西郷 | D51 | 36 | － |
| 丹波屋敷 | たんばやしき | →波多江館（はたえやかた（糸島市波多江）） | | | | |
| 團宗時宅 | だんむねときたく | →團原館（だんのばるやかた） | | | | |
| 千葉探題宅 | ちばたんだいたく | 那珂郡 | 福岡市南区屋形原 | D56 | 36 | － |
| 茶臼城 | ちゃうすじょう | 早良郡 | 福岡市早良区重留 | 313 | 26 | － |
| 茶臼城 | ちゃうすじょう | →茶臼山城（ちゃうすやまじょう（宮若市）） | | | | |
| 茶臼岳城 | ちゃうすだけじょう | →茶臼山城（ちゃうすやまじょう（宮若市）） | | | | |
| 茶臼山城 | ちゃうすやまじょう | →臼ヶ岳城（うすがたけじょう） | | | | |
| 茶臼山城 | ちゃうすやまじょう | 鞍手郡 | 宮若市山口 | 160 | 12 | 111 |
| 茶臼山城 | ちゃうすやまじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区楠橋 | 203 | 16 | － |
| 茶臼山城 | ちゃうすやまじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡東区尾倉 | 218 | 18 | 135 |
| 茶臼山城 | ちゃうすやまじょう | 宗像郡 | 宗像市三郎丸 | 252 | 22 | 153 |
| 千代丸城 | ちよまるじょう | →城辻城（じょうのつじじょう） | | | | |
| 月城 | つきじょう | →小田部城（こたべじょう） | | | | |
| 月瀬城 | つきせじょう | →猫城（ねこじょう（中間市）） | | | | |
| 津久美ヶ城 | つくみがじょう | →鵜岳城（つぐみがだけじょう） | | | | |

| 城館名 | よみがな | 旧郡名 | 所在地 | 番号 | 一覧頁 | 詳説頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 鵜岳城 | つぐみがだけじょう | 宗像郡 / 糟屋郡 | 福津市本木・舎利蔵古賀市薦野 | 274 | 24 | 163 |
| 津瀬城 | つせじょう | →大障子城（だいしょうじじょう） | | | | |
| 繋城 | つなぎじょう | →篠原城（しのわらじょう） | | | | |
| 蔦岳城 | つただけじょう | 宗像郡 | 宗像市陵厳寺・遠賀郡岡垣町上畑 | 251 | 20 | 151 |
| 筒城 | つつじょう | 怡土郡 | 糸島市雷山・飯原 | 333 | 28 | － |
| 筒山城 | つつやまじょう | →筒城（つつじょう） | | | | |
| 鶴岳城 | つるだけじょう | →龍ヶ岳城（りゅう（たつ）がだけじょう） | | | | |
| 剣（山）城 | つるぎ（やま）じょう | →剣岳城（つるぎだけじょう） | | | | |
| 剣岳城 | つるぎだけじょう | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町中山・新北 | 197 | 16 | 123 |
| 亭鋒山城 | （ていほうざんじょう） | 鞍手郡 | 宮若市稲光 | 150 | 12 | － |
| 手野城 | てのじょう | →雨乞山城（あまごいやまじょう） | | | | |
| 手光城 | てびかじょう | →冠山城（かんむりやまじょう） | | | | |
| 寺山城 | てらやまじょう | 鞍手郡 | 宮若市山口 | 162 | 12 | － |
| 天神山城 | てんじんやまじょう | 鞍手郡 | 宮若市下 | 143 | 12 | － |
| 天ノ坊城 | てんのぼうじょう | 鞍手郡 | 宮若市山口・稲光・平 | 164 | 12 | － |
| 塔ノ峯城 | とうのみねじょう | 鞍手郡 | 宮若市龍徳・鶴田 | 184 | 14 | － |
| 道伯山城 | どうはくさんじょう | →黒崎城（くろさきじょう） | | | | |
| 東蓮寺陣屋 | とうれんじじんや | →直方陣屋（のおがたじんや） | | | | |
| 東蓮寺城 | とうれんじじょう | →直方陣屋（のおがたじんや） | | | | |
| 遠見岳望楼 | とおみがだけぼうろう | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町猪野 | D52 | 36 | － |
| 戸切城 | とぎりじょう | →城之腰城（じょうのこしじょう（遠賀郡遠賀町）） | | | | |
| 徳重城 | とくしげじょう | →名残城（なごりじょう） | | | | |
| 徳永城 | とくながじょう | 怡土郡 | 福岡市西区徳永か | F15 | 42 | － |
| 都地城 | とじじょう | 早良郡 | 福岡市西区金武 | 321 | 28 | 202 |
| 都地若狭守宅 | とじわかさのかみたく | →都地城（とじじょう） | | | | |
| 都市原城 | とちばるじょう | 鞍手郡 | 宮若市沼口 | 167 | 14 | － |
| 殿屋敷 | とのやしき | 早良郡 | 福岡市早良区祖原 | D65 | 36 | － |
| 戸畑城 | とばたじょう | 遠賀郡 | 北九州市戸畑区（旧戸畑村） | 220 | 18 | － |
| 飛尾城 | とびおじょう | →佐谷城（さたにじょう） | | | | |
| 泊城 | とまりじょう | 志摩郡 | 糸島市泊 | 355 | 30 | － |
| 友池城 | ともいけじょう | 鞍手郡 | 宮若市原田 | 177 | 14 | － |
| 戸山城 | とやまじょう | →大神城（おおがみじょう） | | | | |
| 虎ヶ岳城 | とらがたけじょう | →亀ノ尾城（かめのおじょう） | | | | |
| 鳥飼城 | とりかいじょう | 早良郡 | 福岡市中央区鳥飼２丁目 | 311 | 26 | － |
| 十坊山城 | とんぼやまじょう | 怡土郡 | 糸島市二丈吉井 | － | 42 | － |
| 十防山城 | とんぼやまじょう | →十坊山城（とんぼやまじょう） | | | | |

## な

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 内藤陣山 | ないとうじんやま | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区鳴水 | D36 | 34 | － |
| 直鳥城 | なおとりじょう | →長鳥城（ながとりじょう） | | | | |
| 長井鶴城 | ながいづるじょう | 鞍手郡 | 宮若市長井鶴 | 180 | 14 | － |
| 中尾城 | なかおじょう | 鞍手郡 | 宮若市山口 | 161 | 12 | － |
| 中島城 | なかしまじょう | →若松城（わかまつじょう） | | | | |
| 中白水遺跡 | なかしろうずいせき | 那珂郡 | 春日市上白水５～６丁目 | R21 | 38 | 247 |
| 長垂城 | ながたれじょう | →長鳥城（ながとりじょう） | | | | |
| 長鳥城 | ながとりじょう | 早良郡 / 怡土郡 | 福岡市西区下山門・今宿青木 | 324 | 28 | － |
| 長鳥島城 | ながとりしまじょう | →長鳥城（ながとりじょう） | | | | |
| 中原城 | なかばるじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町中原 | 298 | 26 | － |
| 中山城 | なかやまじょう | →剣岳城（つるぎだけじょう） | | | | |
| 中山城 | なかやまじょう | →席田青木遺跡・中山遺跡（むしろだあおきいせき・なかやまいせき） | | | | |
| 名残城 | なごりじょう | 宗像郡 | 宗像市名残 | 256 | 22 | 154 |
| 名島城 | なじまじょう | 糟屋郡 | 福岡市東区名島１～３丁目 | K13 | 32 | 229 |
| 七曲城 | ななまがりじょう | 那珂郡 / 肥前国 | 筑紫郡那珂川町五ヶ山・佐賀県三養基郡みやき町原古賀 | 310 | 26 | 194 |
| 鍋倉城 | なべくらじょう | →龍昌寺山城（りゅうしょうじやまじょう） | | | | |
| 滑城 | なめりじょう | →鷲ヶ岳城（わしがたけじょう） | | | | |
| 西田城 | にしだじょう | 志摩郡 | 糸島市志摩井田原 | 354 | 30 | － |
| 二重城 | にじゅうじょう | →二丈岳城（にじょうだけじょう） | | | | |
| 二丈岳城 | にじょうだけじょう | 怡土郡 | 糸島市二丈深江・二丈一貴山・二丈福井 | 342 | 30 | 210 |
| 二城岳城 | にじょうだけじょう | →二丈岳城（にじょうだけじょう） | | | | |

| 城館名 | よみがな | 旧郡名 | 所在地 | 番号 | 一覧頁 | 詳説頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 沼口堀谷城 | ぬまぐちほりたにじょう | →堀谷城（ほりたにじょう） | | | | |
| 猫城 | ねこじょう | →白土城（しらつちがじょう） | | | | |
| 猫城 | ねこじょう | 遠賀郡 | 中間市上底井野 | 229 | 18 | 139 |
| 猫城 | ねこじょう | →猫嶺城（ねことうげじょう） | | | | |
| 猫尾ノ城 | ねこおのしろ | →猫嶺城（ねことうげじょう） | | | | |
| 猫嶺城 | ねことうげじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町不入道 | 303 | 26 | 188 |
| 米多比城 | ねたびじょう | 糟屋郡 | 古賀市米多比 | 278 | 24 | 164 |
| 直方陣屋 | のおがたじんや | 鞍手郡 | 直方市直方 | K8 | 32 | 224 |
| 直方館 | のおがたやかた | →直方陣屋（のおがたじんや） | | | | |
| 野北殿館 | のぎたどのやかた | 志摩郡 | 糸島市志摩野北 | D71 | 38 | － |
| 野中屋敷 | のなかやしき | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町新延 | D25 | 32 | － |

## は

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 博多古塁 | はかたこるい | →元寇防塁（げんこうぼうるい） | | | | |
| 白山城 | はくさんじょう | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町八尋・宮若市倉久・四郎丸 | 195 | 16 | － |
| 白山城 | はくさんじょう | 宗像郡 | 宗像市山田 | 243 | 20 | 146 |
| 畑城 | はたじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区畑 | 208 | 16 | 129 |
| 畑山城 | はたじょう | →畑城（はたじょう） | | | | |
| 波多江遺跡 | はたえいせき | 志摩郡 | 糸島市波多江 | R51 | 40 | 272 |
| 波多江城 | はたえじょう | →波多江館（はたえやかた（糸島市波多江）） | | | | |
| 波多江氏宅 | はたえしたく | →波多江館（はたえやかた（糸島市篠原）） | | | | |
| 波多江館 | はたえやかた | 怡土郡 | 糸島市篠原 | 330 | 28 | － |
| 波多江館 | はたえやかた | 志摩郡 | 糸島市波多江 | 356 | 30 | 218 |
| 畑黒巣城 | はたくろすじょう | →黒巣城（くろすじょう） | | | | |
| 旗振嶺城 | はたふりみねじょう | 怡土郡 | 糸島市飯原 | 335 | 28 | 208 |
| 旗振山城 | はたふりやまじょう | →旗振嶺城（はたふりみねじょう） | | | | |
| 旗山城 | はたやまじょう | →金生城（かのうじょう） | | | | |
| 畑山城 | はたやまじょう | →畑城（はたじょう） | | | | |
| 鉢窪 | はちのくぼ | 早良郡 | 福岡市西区生の松原 | D66 | 38 | － |
| 八竜城 | はちりゅうじょう | →龍王山城（りゅうおうやまじょう） | | | | |
| 花尾城 | はなおじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区鳴水・熊手・八幡東区前田 | 215 | 18 | 132 |
| 花尾山城 | はなおやまじょう | →花尾城（はなおじょう） | | | | |
| 花房城 | はなぶさじょう | →花房山城（はなぶさじょう） | | | | |
| 花房山城 | はなぶさやまじょう | 遠賀郡 | 北九州市若松区畠田・二島 | 224 | 18 | 136 |
| 馬場城 | ばばじょう | →志摩城（しまじょう） | | | | |
| 浜窪城 | はまくぼじょう | →加布里城（かふりじょう） | | | | |
| 浜田城 | はまだじょう | 遠賀郡 | 北九州市若松区白山１丁目 | 222 | 18 | － |
| 原遺跡 | はらいせき | 早良郡 | 福岡市早良区原７・８丁目 | R33 | 40 | 256 |
| 原田種直館 | はらだたねなおやかた | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町安徳 | D57 | 36 | － |
| 波呂城 | はろじょう | 怡土郡 | 糸島市二丈波呂 | 337 | 30 | － |
| 渡呂城 | はろじょう | →波呂城（はろじょう） | | | | |
| 繁木城 | はんぎじょう | →宮永城（みやながじょう） | | | | |
| 樋井川Ａ遺跡 | ひいがわＡいせき | 早良郡 | 福岡市城南区樋井川３丁目 | R28 | 40 | 253 |
| 東入部城 | ひがしいりべじょう | 菟道岳城（うじだけじょう） | | | | |
| 東五反田遺跡 | ひがしごたんだいせき | 怡土郡 | 糸島市東 | R40 | 40 | 263 |
| 東下田遺跡 | ひがししもだいせき | 怡土郡 | 糸島市東 | R41 | 40 | 263 |
| 東高田遺跡 | ひがしたこうだいせき | 怡土郡 | 糸島市東 | R42 | 40 | 263 |
| 東ノ城 | （ひがしのじょう） | 早良郡 | 福岡市西区能古 | 328 | 28 | － |
| 毘沙門岳砦 | びしゃもんだけとりで | 志摩郡 | 福岡市西区今津 | D68 | 38 | － |
| 比津城 | ひつじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区上津役 | － | 42 | － |
| 姫島城 | ひめしまじょう | 志摩郡 | 糸島市志摩姫島 | 362 | 32 | － |
| 平等寺城 | びょうどうじじょう | →草場城（くさばじょう（宗像市）） | | | | |
| 平浦山城 | ひらうらやまじょう | →浦山城（うらやまじょう（宮若市）） | | | | |
| 平山城 | ひらやまじょう | 鞍手郡 | 宮若市黒丸 | 152 | 12 | 104 |
| 広瀬遺跡 | ひろせいせき | 早良郡 | 福岡市早良区西・内野８丁目 | R29 | 40 | 254 |
| 鬢鏡山城 | びんかがみやまじょう | 鞍手郡 | 宮若市金生 | 178 | 14 | 112 |
| 深江岳城 | ふかえだけじょう | →二丈岳城（にじょうだけじょう） | | | | |
| 深江淀川城 | ふかえよどがわじょう | →古城（こじょう（糸島市）） | | | | |
| 福岡城 | ふくおかじょう | 早良郡 / 那珂郡 | 福岡市中央区城内・大濠公園 | K14 | 32 | 232 |

| 城館名 | よみがな | 旧郡名 | 所在地 | 番号 | 一覧頁 | 詳説頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 福地山城 | ふくちやまじょう | 鞍手郡 | 直方市頓野 | － | 42 | － |
| 福山城 | ふくやまじょう | →草場城（くさばじょう（宮若市湯原）） | | | | |
| 藤村氏宅 | ふじむらしたく | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区（旧熊手村） | D39 | 34 | － |
| 冨地原城 | ふじわらじょう | 宗像郡 | 宗像市冨地原 | 257 | 22 | － |
| 藤原城 | ふじわらじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町南面里 | 304 | 26 | － |
| 古川館 | ふるかわやかた | →茶臼山城（ちゃうすやまじょう（北九州市八幡西区）） | | | | |
| 古川氏宅 | ふるかわしたく | →茶臼山城（ちゃうすやまじょう（北九州市八幡西区）） | | | | |
| 古子城 | ふるこじょう | 糟屋郡 | 古賀市青柳 | 281 | 24 | 167 |
| 古子山城 | ふるこやまじょう | →古子城（ふるこじょう） | | | | |
| 古庄氏館 | ふるしょうしやかた | →古荘能登守宅（ふるしょうのとのかみたく） | | | | |
| 古荘能登守宅 | ふるしょうのとのかみたく | 志摩郡 | 糸島市志摩吉田 | D70 | 38 | － |
| 古野城 | ふるのじょう | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町木月 | 199 | 16 | － |
| 古野城 | ふるのじょう | 那珂郡 | 福岡市南区南大橋１丁目 | 296 | 24 | 183 |
| 古野城 | ふるのじょう | →内山城（うちやまじょう） | | | | |
| 古野山館 | ふるのやまやかた | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町古門 | D27 | 32 | － |
| 平蔵遺跡 | へいぞういせき | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町上梶原１丁目 | R25 | 40 | 251 |
| 平三屋敷 | へいぞうやしき | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町上梶原 | D58 | 36 | － |
| 平蔵屋敷 | へいぞうやしき | →平三屋敷（へいぞうやしき） | | | | |
| 邊田砦 | へたとりで | 志摩郡 | 糸島市志摩小富士 | 361 | 32 | － |
| 別当山城 | べっとうやまじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区別当町 | 212 | 16 | 131 |
| 椽城 | へりじょう | →名残城（なごりじょう） | | | | |
| 房州濠・矢倉門 | ぼうしゅうぼり・やぐらもん | 博多 | 福岡市博多区（祇園町） | D55 | 36 | － |
| 宝珠岳城 | ほうじゅだけじょう | 怡土郡 | 糸島市二丈長石 | 338 | 30 | 209 |
| 宝林城 | ほうりんじょう | 宗像郡 | 福津市本木 | 265 | 22 | － |
| 星山城 | ほしやまじょう | 志摩郡 | 福岡市西区今宿青木・今宿東３丁目 | 344 | 30 | － |
| 細峯城 | ほそみねじょう | →徳永城（とくながじょう） | | | | |
| 帆柱山城 | ほばしらやまじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区市瀬・熊手 | 213 | 16 | 131 |
| 堀谷城 | ほりたにじょう | 鞍手郡 | 宮若市沼口 | 166 | 14 | － |
| 堀ノ内遺跡 | ほりのうちいせき | 糟屋郡 | 古賀市庄 | R13 | 38 | － |
| 堀ノ内城 | ほりのうちじょう | →小田部城（こたべじょう） | | | | |
| 本城 | ほんじょう | →内野城（うちのじょう） | | | | |
| 本城城 | ほんじょうじょう | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区本城蛭ヶ谷 | 206 | 16 | － |
| 本城南遺跡 | ほんじょうみなみいせき | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区本城東６丁目 | R10 | 38 | 238 |
| 本城山城 | ほんじょうやまじょう | 鞍手郡 | 宮若市本城 | － | 42 | － |
| 本城山城 | ほんじょうやまじょう | →内野城（うちのじょう） | | | | |

## ま

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 舞岳城 | まいたけじょう | 志摩郡 | 糸島市前原 | 357 | 30 | － |
| 舞鶴城 | まいづるじょう | →福岡城（ふくおかじょう） | | | | |
| 曲渕城 | まがりぶちじょう | 早良郡 | 福岡市早良区曲渕 | 318 | 28 | 200 |
| 松尾城 | まつおじょう | 怡土郡 | 糸島市飯原 | 334 | 28 | － |
| 松隈城 | まつぐまじょう | 志摩郡 | 糸島市志摩松隈 | 353 | 30 | 217 |
| 松隈伊賀守宅 | まつぐまいがのかみたく | →松隈城（まつぐまじょう） | | | | |
| 丸尾城 | まるおじょう | 鞍手郡 | 宮若市黒丸・山口 | 153 | 12 | 106 |
| 丸隈山城 | まるくまやまじょう | →探題渋川氏城（たんだいしぶかわしじょう） | | | | |
| マルビ砦 | まるびとりで | 遠賀郡 | 遠賀郡遠賀町若松 | 231 | 20 | － |
| 丸山城 | まるやまじょう | 糟屋郡 | 糟屋郡粕屋町大隈 | 286 | 24 | 170 |
| 丸山城 | まるやまじょう | 糟屋郡 | 糟屋郡久山町久原 | 288 | 24 | － |
| 水崎城 | みずさきじょう | 志摩郡 | 福岡市西区元岡 | 349 | 30 | 215 |
| 三瀬城 | みつせじょう | 早良郡 / 肥前国 | 福岡市早良区曲渕・佐賀市三瀬 | － | 42 | － |
| 南ヶ浦砦 | みなみがうらとりで | →上山田城（かみやまだじょう） | | | | |
| 源経基陣 | みなもとのつねもとじん | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区陣山 | D40 | 34 | － |
| 嶺野真玄宅 | みねのしんげんたく | 遠賀郡 | 北九州市八幡西区香月 | D32 | 34 | － |
| 三野城 | みのじょう | 那珂郡 | 福岡市博多区美濃島 | － | 42 | － |
| 宮地岳城 | みやじだけじょう | 宗像郡 | 福津市宮司 | 270 | 22 | 161 |
| 宮田城 | みやたじょう | 鞍手郡 | 宮若市宮田 | 181 | 14 | － |
| 宮永城 | みやながじょう | 鞍手郡 | 宮若市宮永・山口 | 154 | 12 | 107 |
| 宮山城 | みややまじょう | →尾園本城（おぞのほんじょう） | | | | |
| 明専寺城 | みょうせんじじょう | →大音屋敷（おおとやしき） | | | | |

| 城館名 | よみがな | 旧郡名 | 所在地 | 番号 | 一覧頁 | 詳説頁 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 三吉城 | みよしじょう | →雨乞山城（あまごいやまじょう） | | | | |
| 麦野Ａ遺跡 | むぎのＡいせき | 那珂郡 | 福岡市博多区麦野３丁目 | R17 | 38 | 244 |
| 席田青木遺跡・中山遺跡 | むしろだあおきいせき・なかやまいせき | 糟屋郡 / 席田郡 | 福岡市博多区空港前５丁目・糟屋郡志免町別府西 | R16 | 38 | 243 |
| 席田青木城 | むしろだあおきじょう | →席田青木遺跡・中山遺跡（むしろだあおきいせき・なかやまいせき） | | | | |
| 武藤氏宅 | むとうしたく | 宗像郡 | 宗像市須恵２丁目 | D46 | 34 | － |
| （名称記載なし） | | 宗像郡 | 福津市舎利蔵 | － | 42 | － |
| 姪浜城 | めいのはまじょう | →探題渋川氏城（たんだいしぶかわしじょう） | | | | |
| 元岡村古墨 | もとおかむらこるい | 志摩郡 | 福岡市西区元岡 | D69 | 38 | － |
| 本岡城郭 | もとおかじょうかく | 志摩郡 | 福岡市西区元岡 | F18 | 42 | |
| 髻砦 | もとどりとりで | 鞍手郡 | 直方市上頓野 | 194 | 16 | 121 |
| 元取城 | もとどりじょう | →髻砦（もとどりとりで） | | | | |
| 諸岡館跡 | もろおかやかたあと | 那珂郡 | 福岡市博多区諸岡１丁目 | R19 | 38 | 245 |
| 諸岡Ｂ遺跡 | もろおかＢいせき | 那珂郡 | 福岡市博多区諸岡６丁目 | R18 | 38 | 244 |

## や

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 焼地山城 | やきじやまじょう | 糟屋郡 | 糟屋郡粕屋町大隈 | 287 | 24 | － |
| 安口判官城 | やすくちほうがんじょう | →基石山城（ごいしやまじょう） | | | | |
| 安河内城 | やすこうちじょう | 鞍手郡 | 宮若市脇田 | 138 | 12 | － |
| 山鹿城 | やまがじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡芦屋町山鹿 | 233 | 20 | 141 |
| 山崎城 | やまさきじょう | 鞍手郡 | 鞍手郡小竹町新山崎 | 188 | 14 | － |
| 山崎城 | やまざきじょう | 鞍手郡 | 宮若市倉久 | 173 | 14 | － |
| 山下城 | やまじたじょう | 鞍手郡 | 宮若市山口 | 159 | 12 | 110 |
| 山下中尾城 | やましたなかおじょう | →中尾城（なかおじょう） | | | | |
| 山田ノ城 | やまだのしろ | →龍神山城（たつかみやまじょう） | | | | |
| 山ノ田城 | やまのたじょう | 鞍手郡 | 直方市上頓野 | 193 | 16 | 120 |
| 湯原草場城 | ゆばるくさば | →草場城（くさばじょう（宮若市湯原）） | | | | |
| 油比城 | ゆびじょう | 油比氏宅（ゆびしたく） | | | | |
| 油比氏宅 | ゆびしたく | 志摩郡 | 糸島市油比 | D72 | 38 | － |
| 吉井岳城 | よしいだけじょう | 怡土郡 | 糸島市二丈吉井 | 343 | 30 | 212 |
| 吉川下城 | よしかわしもじょう | →下村城（しもむらじょう） | | | | |
| 吉田壱岐宅 | よしだいきのかみたく | 鞍手郡 | 鞍手郡鞍手町中山 | D29 | 32 | － |
| 吉田城 | よしだじょう | 宗像郡 | 宗像市吉田・江口 | 244 | 20 | － |
| 吉野城 | よしのじょう | →権現山城（ごんげんやまじょう） | | | | |
| 四塚城 | よつづかじょう | →草崎城（くさざきじょう） | | | | |
| 吉原里城 | よしわらのさとじろ | 宗像郡 | 福津市八並 | 264 | 22 | － |

## ら

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 楽丸城 | らくまるじょう | 遠賀郡 | 北九州市若松区安屋 | 226 | 18 | 136 |
| 龍王山城 | りゅうおうやまじょう | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町三吉・手野 | 240 | 20 | － |
| 竜王城 | りゅうおうじょう | →龍王山城（りゅうおうやまじょう） | | | | |
| 龍ヶ岳城 | りゅう (たつ) がだけじょう | 鞍手郡 | 宮若市龍徳 | 182 | 14 | 114 |
| 龍ヶ岳砦 | りゅう (たつ) がたけとりで | →稲付城（いなつきじょう） | | | | |
| 龍昌寺山城 | りゅうしょうじやま | 遠賀郡 | 遠賀郡岡垣町高倉 | 238 | 20 | 144 |
| 龍徳城 | りゅうとくじょう | →龍ヶ岳城（りゅう（たつ）がたけじょう） | | | | |
| 六社八幡城 | ろくしゃはちまんじょう | →平山城（ひらやまじょう） | | | | |
| 六郎丸城 | ろくろうまるじょう | 鞍手郡 | 宮若市上有木 | 170 | 14 | － |

## わ

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 若松城 | わかまつじょう | 遠賀郡 | 北九州市戸畑区中島 | K11 | 32 | 229 |
| 脇田安河内城 | わきたやすこうちじょう | →安河内城（やすこうちじょう） | | | | |
| 鷲尾山城 | わしおやまじょう | →探題北条氏城（たんだいほうじょうしじょう） | | | | |
| 鷲ヶ岳城 | わしがたけじょう | 那珂郡 | 筑紫郡那珂川町南面里 | 305 | 26 | 188 |
| 和白村陣所 | わじろむらじんしょ | 糟屋郡 | 福岡市東区上和白 | D53 | 36 | － |

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ふくおかけんのちゅうきんせいじょうかんあとに |
| 書　　名 | 福岡県の中近世城館跡Ⅱ |
| 副 書 名 | 筑前地域編２ |
| 巻　　次 | 福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査報告書　第２集 |
| シリーズ名 | 福岡県文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第250集 |
| 編著者名 | 一瀬　智・伊津見孝明・今井涼子・酒井芳司・岡寺　良（編集） |
| 編集機関 | 福岡県教育委員会 |
| 所在地 | 〒812-8575　福岡県福岡市博多公園７番７号　℡ 092-651-1111 |
| 発行年月日 | 2015年３月31日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード 市町村 | コード 遺跡番号 | 北緯 °′″ | 東経 °′″ | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 福岡県筑前地域の一部（旧鞍手郡・遠賀郡・宗像郡・糟屋郡・席田郡・那珂郡・早良郡・怡土郡・志摩郡）に所在する中近世城館遺跡等約350箇所 | 福岡市東区 | 40131 | | | | 121201 ～ 150331 | | 福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査 |
| | 博多区 | 40132 | | | | | | |
| | 中央区 | 40133 | | | | | | |
| | 南区 | 40134 | | | | | | |
| | 西区 | 40135 | | | | | | |
| | 城南区 | 40136 | | | | | | |
| | 早良区 | 40137 | | | | | | |
| | 糸島市 | 40230 | | | | | | |
| | 春日市 | 40218 | | | | | | |
| | 那珂川町 | 40305 | | | | | | |
| | 古賀市 | 40223 | | | | | | |
| | 新宮町 | 40345 | | | | | | |
| | 久山町 | 40348 | | | | | | |
| | 志免町 | 40343 | | | | | | |
| | 粕屋町 | 40349 | | | | | | |
| | 篠栗町 | 40342 | | | | | | |
| | 須恵町 | 40344 | | | | | | |
| | 宇美町 | 40341 | | | | | | |
| | 福津市 | 40224 | | | | | | |
| | 宗像市 | 40220 | | | | | | |
| | 北九州市若松区 | 40103 | | | | | | |
| | 戸畑区 | 40105 | | | | | | |
| | 八幡東区 | 40108 | | | | | | |
| | 八幡西区 | 40109 | | | | | | |
| | 中間市 | 40215 | | | | | | |
| | 水巻町 | 40382 | | | | | | |
| | 岡垣町 | 40383 | | | | | | |
| | 遠賀町 | 40384 | | | | | | |
| | 芦屋町 | 40381 | | | | | | |
| | 直方市 | 40204 | | | | | | |
| | 宮若市 | 40226 | | | | | | |
| | 鞍手町 | 40402 | | | | | | |
| | 小竹町 | 40401 | | | | | | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 福岡県筑前地域の一部（旧鞍手郡・遠賀郡・宗像郡・糟屋郡・席田郡・那珂郡・早良郡・怡土郡・志摩郡）に所在する中近世城館遺跡等約350箇所 | 城館及び城館関連遺跡 | 鎌倉～江戸時代 | 城館遺構（曲輪・土塁・堀など） | なし | |


| 要　約 | 本報告における中近世城館遺跡等詳細分布調査では、筑前地域の一部（旧鞍手郡・遠賀郡・宗像郡・糟屋郡・席田郡・那珂郡・早良郡・怡土郡・志摩郡）に所在する約350箇所の中近世城館、城館伝承地、城館関連遺跡等を対象とし、一部の対象については現地調査を行い、縄張り図等の作成を行い、その結果を報告している。また、文献史料、絵画資料等についても総合的な調査を実施した結果も併せて報告している。 |
|---|---|

| 福岡県行政資料 | |
|---|---|
| 分類番号<br>ＪＨ | 所属コード<br>2133051 |
| 登録年度<br>26 | 登録番号<br>1 |

福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査報告書２

# 福岡県の中近世城館跡Ⅱ

－筑前地域編２－

福岡県文化財調査報告書第250集

平成27年３月31日

発　　行　　福岡県教育委員会
〒812-8575
福岡県福岡市博多区東公園７番７号

印　　刷　　株式会社　四ヶ所
〒838-8512
福岡県朝倉市馬田336